『取扱説明書』、『メンテナンスノート』は、いつも愛車へ！
いざというとき、お役に立ちます。

- 販売店で取り付けられた装備品の取り扱いについては、添付されている取扱説明書を必ずお読みください。
- ご不明な点がございましたら、《日産販売会社》におたずねください。
- お車をゆずられるときは、次に所有されるかたのために本書とメンテナンスノートを必ずつけておいてください。

本書をお読みになるにあたって

- 本文中『必読！安全快適な運転をするために』と本文中で使用されている 危険 警告 注意 アドバイス 知識 の箇所は、本文とあわせて良くお読みください。

  特に 危険 警告 注意 のマークの箇所は、取り扱いを誤ったり、守らなかったりすると思わぬケガや事故にいたる可能性があります。本文とあわせて必ずお読みください。
- 本文中の★印の装置は、お車の仕様により装着されない場合もあります。
- 仕様変更などにより、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。
- 車の仕様違いにより、説明に使用しているイラストが、お客様のお車と一致しない場合があります。

本書の中で使用されているマーク

危 険

記載事項を守らないと、生命の危険や重大な傷害につながります。

警 告

記載事項を守らないと、生命の危険や重大な傷害・車両火災につながるおそれがあります。

注 意

記載事項を守らないと、傷害や事故につながるおそれがあります。

アドバイス

記載事項を守らないと、車両故障・破損につながるおそれがあります。

知 識

車両をご使用いただくために知っておいていただきたいこと。
車両をご使用いただくために知っておくと便利なこと。

アトラス車型一覧

駆動方式	ホイールベース	車両型式	エンジン型式
4WD (4 輪駆動車)	標準	AHS88A	4JZ1 型
		AHS88AN	
		AJS88A	
		AJS88AN	
		AKS88A	
		AKS88AN	
		AKS88AD	
		ALS88AN	
		AMS88AN	
	セミロング	ALS88AN	
		AMS88AN	
		AMS88AR	
	ロング	ALS88AR	
		ALS88AN	
		AMS88AN	
		AMS88AR	
		ANS88AN	
		APS88AR	
		APS88AN	
	超ロング	APS88AR	
		APS88AN	

本書の使い方と検索方法 0

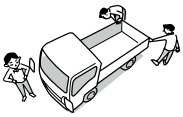
- 本書の読み方 0-2
- 本書の上手な使い方 0-3
- 総目次 0-5
- イラスト目次 0-6
- 警告灯 / 表示灯目次 0-18
- 警告ラベル 0-26

タイトル
階層ごとにタイトルを区別してあります。

ページインデックス
各章のタイトルを案内しています。

運転をするときは

エンジン始動前に車の周囲を確認



車の周囲に子供がいないこと、また、障害物がないことなど、安全確認を十分に行ってから発進してください。

⚠ 警 告

・エンジン始動時、車両の下や周辺に燃えやすいものがないか確認してください。万一のとき、火災を招くおそれがあります。とくに、木材などがあるときは、50cm 以上間をあけてください。変形、変色、着火のおそれがあり大変危険です。

必読！安全快適な運転をするために

エンジンの始動方法 → 4-4 ページ参照

排出ガスには十分に気をつけて

⚠ 警 告

・排出ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれています。排出ガスを吸い込むと一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
・換気の悪いところではエンジンをかけたままにしないでください。特に車庫内や屋内などの排出ガスが充満しやすい場所では、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
・排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷など排気管の異常に気がついたときは、お近くの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。そのまま使用すると排出ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。
・車内に排出ガスが侵入してきたときは、すべての窓を全開にし、ヒーター/エアコンの内外気切り替えを外気導入にするなどして、新鮮な外気を車内に取り入れ換気を行ってください。また、ただちに《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。そのまま使用すると排出ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

参照ページ
各項目の関連ページを記載しています。
参照ページと合わせてお読みください。

⚠ 危険
⚠ 警告　⚠ 注意
アドバイス　知識

マーク
前ページ参照

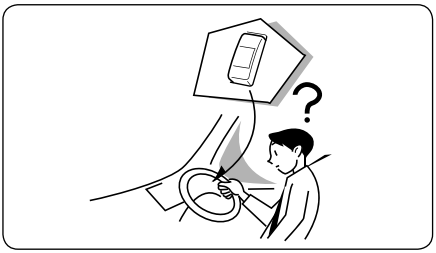
本書では新計量法の施行に伴い国際単位系（略称：SI単位）を基本に記載し、従来単位を｛ ｝内に記載してあります。
＊このページはサンプルですので記載内容は実際のお車とは異なります。



タイトルから探す

➡ 0-5 ページ

「総目次」「ページインデックス」「各章のはじめの目次」から目的のページを検索できます。

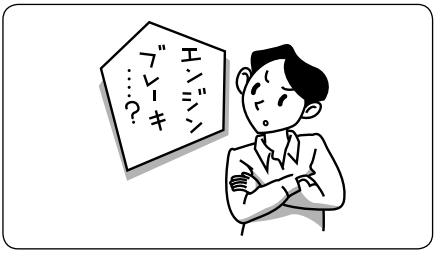


イラスト目次から探す

➡ 0-6 ～ 0-17 ページ

イラスト目次

スイッチ類などの名称がわからないときにイラストから目的のページを検索できます。

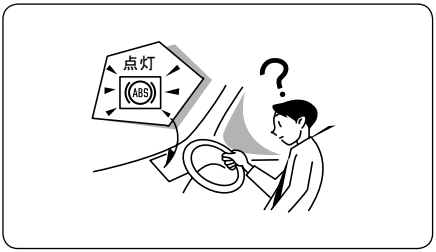


名称から探す

➡ 9-1 ～ 9-5 ページ

さくいん

巻末のさくいんから検索できます。

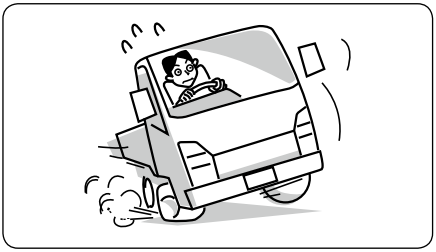


警告灯、表示灯から探す

➡ 0-18 ～ 0-25 ページ

警告灯 / 表示灯目次

メーター内などのランプ（警告灯、表示灯）が点灯したときに目的のページを検索できます。



故障かな?と思ったときは

➡ 8-2 ～ 8-54 ページ

万一のとき

イラスト目次 …… 0-6

はじめに …… 1

必読！安全快適な運転をするために …… 2
これだけは知っておいていただきたいことがら

各部の開閉と調整について …… 3
ドアの開閉やシートの調整方法などについて

運転装置の取扱い …… 4
エンジンの始動方法、AMT、ヒルスタートアシスト、各スイッチなどについて

室内装置の取扱い …… 5
オーディオ、エアコンなどについて

安全快適な運転のために …… 6
走行時の注意、季節に応じた運転などについて

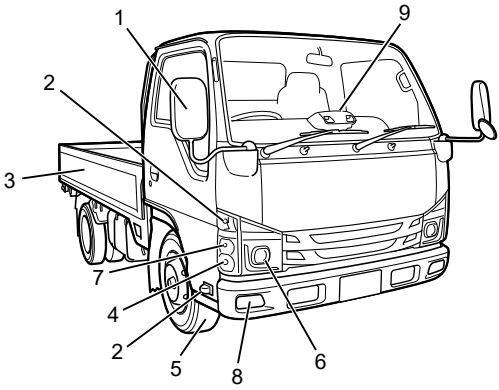
車の点検と手入れ …… 7
日常点検、定期点検の方法などについて

万一のとき …… 8
お車が故障したときの緊急時の対応について

さくいん …… 9

標準キャブ車

外　観

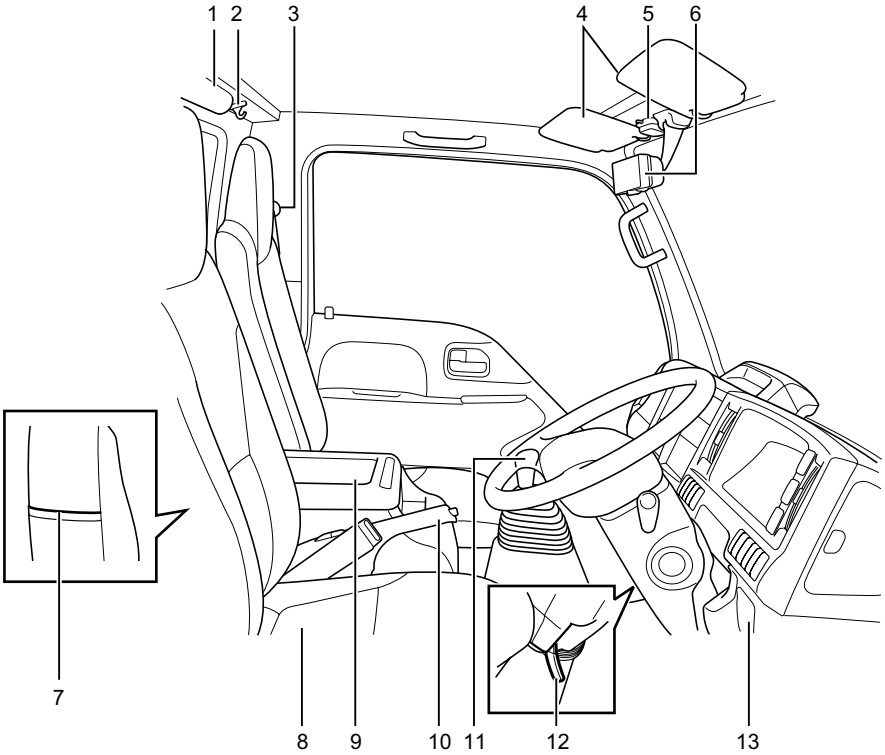


No.	装　置　名	参照ページ
1	アウトサイドミラー	3-55
	ワイドビューミラー★	3-56
2	ターンシグナルランプ（方向指示器）	8-16
3	荷台★	3-36
4	コーナリングランプ(側方照射灯)	8-16
5	タイヤ	7-87
6	ヘッドランプ（前照灯）	8-16
7	クリアランスランプ（車幅灯）	8-16

No.	装　置　名	参照ページ
8	フォグランプ（前部霧灯）★	8-16
9	LDW（車線逸脱警報）	4-150
	インテリジェント エマージェンシーブレーキ	4-159
	車間距離警報	4-169
	踏み間違い衝突防止アシスト★	4-176
	先行車発進お知らせ	4-185

★は［車型別装備］、［注文装備］ を示します

室　内

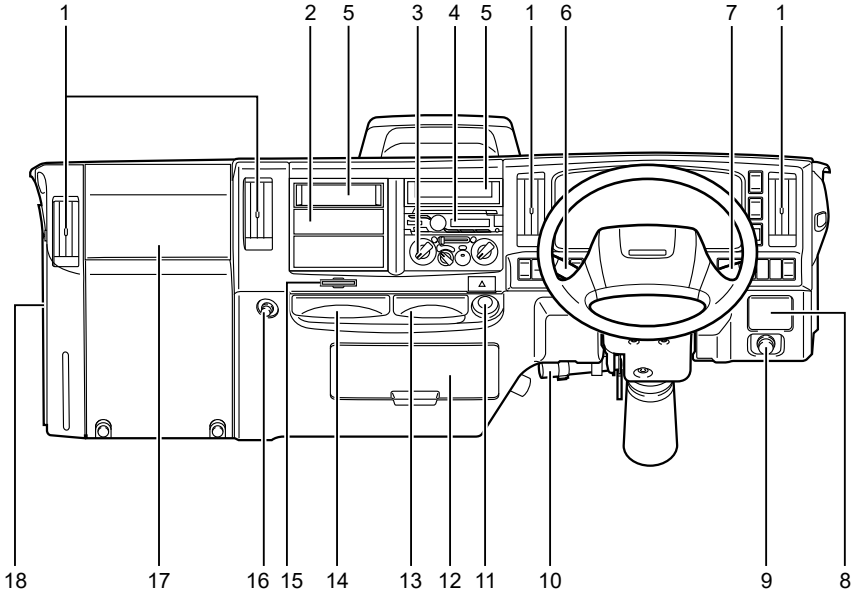


No.	装　置　名	参照ページ
1	蛍光灯★	5-19
2	ハンガーフック★	5-32
3	シートベルト	3-57
4	サンバイザー（日よけ）★	5-22
5	ルームランプ	5-20
6	電子インナーミラー★	3-46
	バックアイモニター★	3-55
7	シートバックポケット	5-29

No.	装　置　名	参照ページ
8	シート	3-40
9	センターコンソールボックス（小物入れ）★	5-29
10	パーキングブレーキレバー	4-97
11	シフトレバー	4-102
12	チルト＆テレスコピックステアリング（上下、前後調整式ハンドル）	3-45
13	灰皿	5-25

★は［車型別装備］、［注文装備］を示します

インストルメントパネル

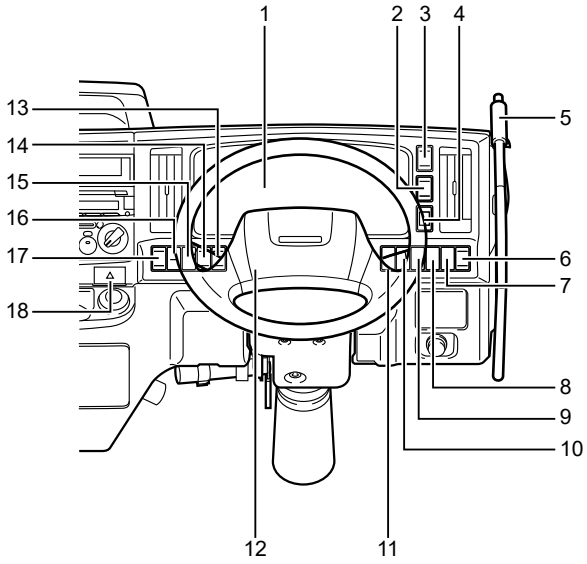


No.	装　置　名	参照ページ
1	風向き調整レバー	5-2
2	アナログタコグラフ★	4-74
3	ヒーター / マニュアルエアコン★	5-3
	フルオートエアコン★	5-9
4	オーディオ（Bluetooth® 付）★	5-37
5	ポケット（小物入れ）★	5-27
6	排気ブレーキスイッチ	4-86
	ワイパー・ウォッシャースイッチ	4-88
7	コンビネーションスイッチ	4-81
8	灰皿	5-25
9	アイドルアップノブ★	4-79

No.	装　置　名	参照ページ
10	発炎筒（緊急保安炎筒）	8-2
11	シガレットライター★	5-23
12	リレーボックス	8-38
13	灰皿	5-25
14	カップホルダー	5-31
15	カードホルダー	5-27
16	コンビニフック	5-33
17	助手席用 SRS エアバッグ★	4-217
	グローブボックス（小物入れ）★	5-28
18	ウインドーウォッシャー液タンク	7-120

★は［車型別装備］、［注文装備］を示します

AMT 車

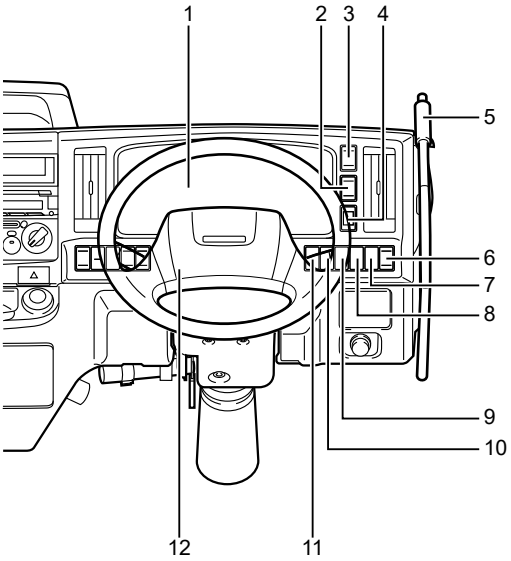


No.	装　置　名	参照ページ
1	メーター、警告灯、表示灯	4-10 4-37
2	蛍光灯スイッチ★	5-19
	VDC OFF スイッチ	4-147
3	フォグランプスイッチ★	4-85
4	ヘッドランプレベリングスイッチ	4-85
5	PTO コントロールレバー★	4-203
6	バックブザー OFF スイッチ★	4-92
	左折&バック音声警報 ON/OFF スイッチ★	4-93
	踏み間違い衝突防止アシストキャンセルスイッチ	4-182
7	PTO スイッチ★	4-206
8	インテリジェント エマージェンシーブレーキ OFF スイッチ	4-166

No.	装　置　名	参照ページ
9	AMT アジャストスイッチ	4-117
10	AMT 非常用スイッチ	4-118
11	LDW（車線逸脱警報）スイッチ	4-155
	オートライト OFF スイッチ	4-84
12	ホーンボタン	4-89
	運転席用 SRS エアバッグ	4-217
13	ヒーテッドミラースイッチ★	4-92
14	電動格納ミラースイッチ★	4-91
15	DPF スイッチ	4-228
16	暖機スイッチ	4-80
	アイドリングストップキャンセルスイッチ★	4-136
17	4WD スイッチ★	4-201
18	ハザードスイッチ	4-86

★は［車型別装備］、［注文装備］を示します

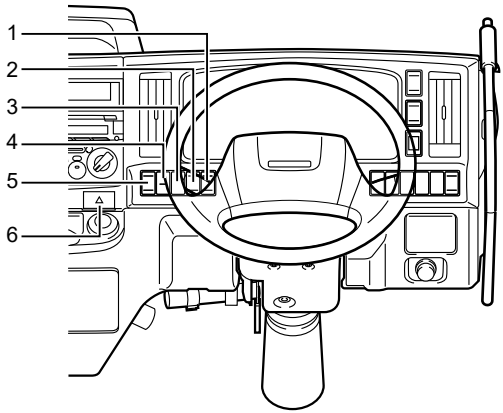
マニュアルトランスミッション車



No.	装　置　名	参照ページ
1	メーター、警告灯、表示灯	4-10 4-37
2	蛍光灯スイッチ★	5-19
	VDC OFF スイッチ	4-147
3	フォグランプスイッチ★	4-85
4	ヘッドランプレベリングスイッチ	4-85
5	PTO コントロールレバー★	4-203
6	バックブザー OFF スイッチ★	4-92
	左折&バック音声警報 ON/OFF スイッチ★	4-93
7	PTO スイッチ★	4-206

No.	装　置　名	参照ページ
8	ECONO モードスイッチ	4-90
	インテリジェント エマージェンシーブレーキ OFF スイッチ	4-166
9	ヒルスタートアシスト アジャストスイッチ★	4-126
10	ヒルスタートアシスト リセットスイッチ★	4-127
11	LDW（車線逸脱警報）スイッチ	4-155
	オートライト OFF スイッチ	4-84
12	ホーンボタン	4-89
	運転席用 SRS エアバッグ	4-217

★は［車型別装備］、［注文装備］ を示します



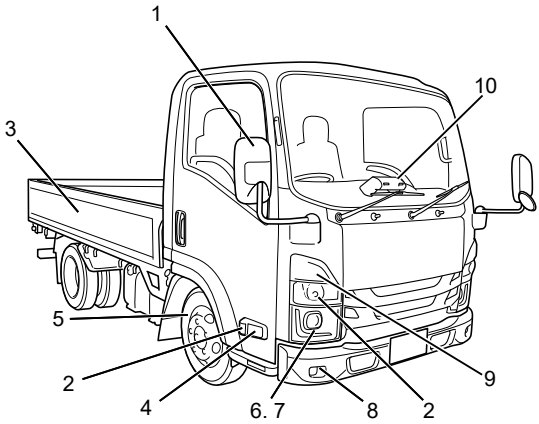
No.	装　置　名	参照ページ
1	ヒーテッドミラースイッチ★	4-92
2	電動格納ミラースイッチ★	4-91
3	ヒルスタートアシスト OFF スイッチ★	4-123
	DPF スイッチ	4-228

No.	装　置　名	参照ページ
4	暖機スイッチ	4-80
	アイドリングストップ キャンセルスイッチ★	4-136
5	4WD スイッチ★	4-201
6	ハザードスイッチ	4-86

★は［車型別装備］、［注文装備］ を示します

ハイキャブ・ワイドキャブ車

外　観

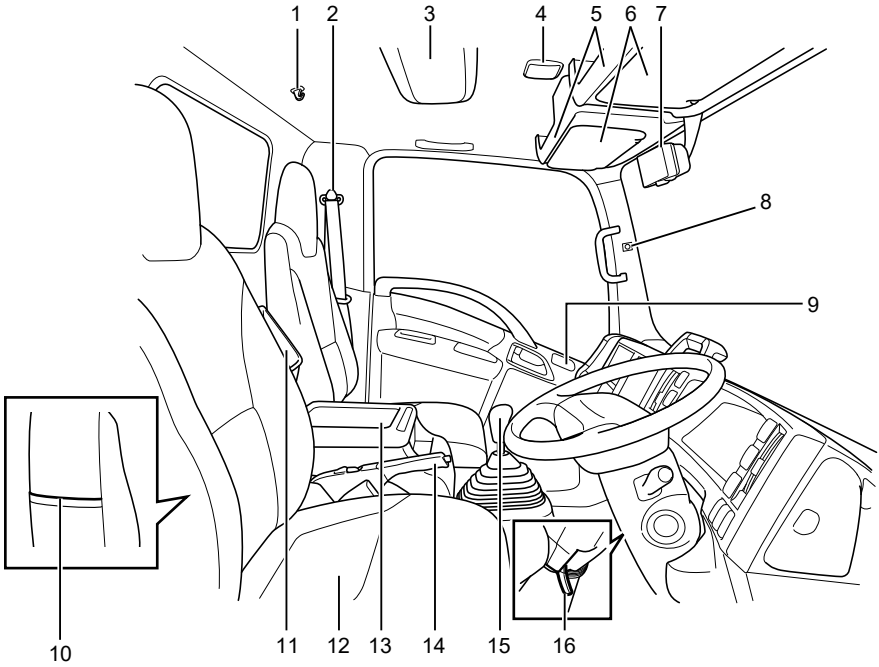


No.	装　置　名	参照ページ
1	アウトサイドミラー	3-55
	ワイドビューミラー★	3-56
2	ターンシグナルランプ（方向指示器）	8-16
3	荷台★	3-36
4	コーナリングランプ(側方照射灯)	8-16
5	タイヤ	7-87
6	ヘッドランプ（前照灯）	8-16
7	クリアランスランプ（車幅灯）	8-16

No.	装　置　名	参照ページ
8	フォグランプ（前部霧灯）★	8-16
9	交差点警報★	4-191
10	LDW（車線逸脱警報）	4-150
	インテリジェント エマージェンシーブレーキ	4-159
	車間距離警報	4-169
	踏み間違い衝突防止アシスト★	4-176
	先行車発進お知らせ	4-185

★は［車型別装備］、［注文装備］ を示します

室　内

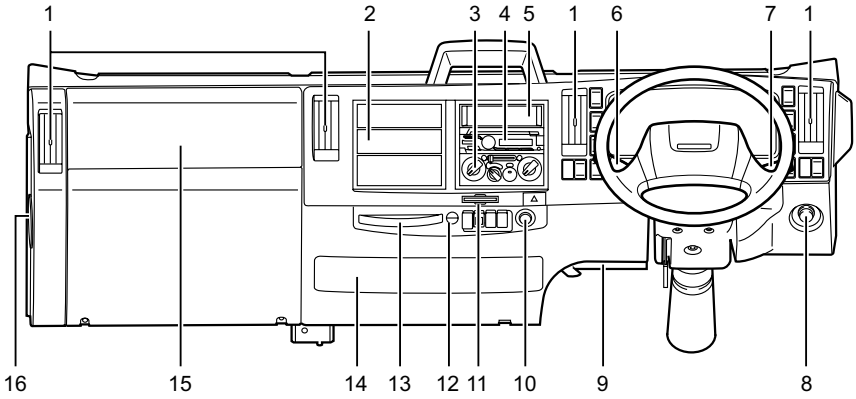


No.	装　置　名	参照ページ
1	ハンガーフック★	5-32
2	シートベルト	3-57
3	蛍光灯★	5-19
4	ルームランプ	5-20
5	ヘッダートレイ★	5-30
6	サンバイザー（日よけ）★	5-22
7	電子インナーミラー★	3-46
	バックアイモニター★	3-55
8	交差点警報ランプ★	4-195
9	灰皿★	5-25

No.	装　置　名	参照ページ
10	シートバックポケット	5-29
11	バックパネルトレイ（小物入れ）★	5-32
12	シート	3-40
13	センターコンソールボックス（小物入れ）★	5-29
14	パーキングブレーキレバー	4-97
15	シフトレバー	4-102
16	チルト＆テレスコピックステアリング（上下、前後調整式ハンドル）	3-45

★は［車型別装備］、［注文装備］を示します

インストルメントパネル

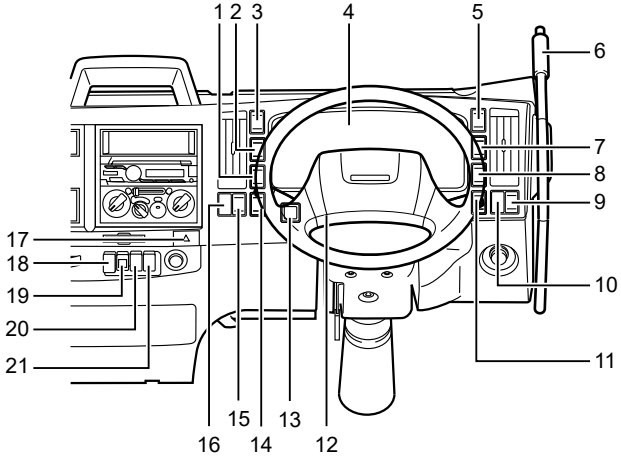


No.	装　置　名	参照ページ
1	風向き調整レバー	5-2
2	アナログタコグラフ★	4-74
3	ヒーター / マニュアルエアコン★	5-3
	フルオートエアコン★	5-9
4	オーディオ（Bluetooth® 付）★	5-37
5	ポケット（小物入れ）★	5-27
6	排気ブレーキスイッチ	4-86
	ワイパー・ウォッシャースイッチ	4-88
7	コンビネーションスイッチ	4-81
8	アイドルアップノブ★	4-79
9	発炎筒（緊急保安炎筒）	8-2

No.	装　置　名	参照ページ
10	シガレットライター★	5-23
	アクセサリーソケット（24V）★	5-24
11	カードホルダー	5-27
12	コンビニフック	5-33
13	カップホルダー	5-31
14	リレーボックス	8-38
15	助手席用 SRS エアバッグ★	4-217
	グローブボックス（小物入れ）★	5-28
16	ウインドーウォッシャー液タンク	7-120

★は［車型別装備］、［注文装備］を示します

AMT 車

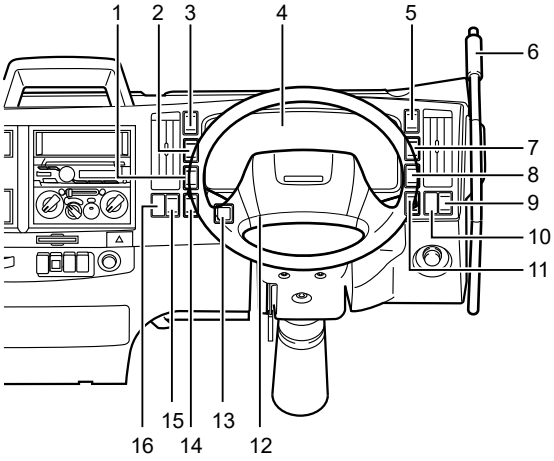


No.	装　置　名	参照ページ
1	暖機スイッチ	4-80
	アイドリングストップ キャンセルスイッチ★	4-136
2	ECONO モードスイッチ（消防車）★	4-90
3	4WD スイッチ★	4-201
4	メーター、警告灯、表示灯	4-10 4-37
5	蛍光灯スイッチ★	5-19
	VDC OFF スイッチ	4-147
6	PTO コントロールレバー★	4-203
7	後席パワーウインドーロックスイッチ★	3-28
	インテリジェント エマージェンシーブレーキ OFF スイッチ	4-166
8	フォグランプスイッチ★	4-85
9	LDW（車線逸脱警報）スイッチ	4-155
	オートライト OFF スイッチ	4-84

No.	装　置　名	参照ページ
10	バックブザー OFF スイッチ★	4-92
	左折&バック音声警報 ON/OFF スイッチ★	4-93
	踏み間違い衝突防止アシスト キャンセルスイッチ	4-182
11	ヘッドランプレベリングスイッチ	4-85
12	ホーンボタン	4-89
	運転席用 SRS エアバッグ	4-217
13	後席パワーウインドースイッチ★	3-28
14	DPF スイッチ	4-228
15	ヒーテッドミラースイッチ★	4-92
16	電動格納ミラースイッチ★	4-91
17	ハザードスイッチ	4-86
18	AMT 非常用スイッチ	4-118
19	AMT アジャストスイッチ	4-117
20	PTO 非常用スイッチ（消防車）★	4-209
21	PTO スイッチ★	4-206

★は［車型別装備］、［注文装備］を示します

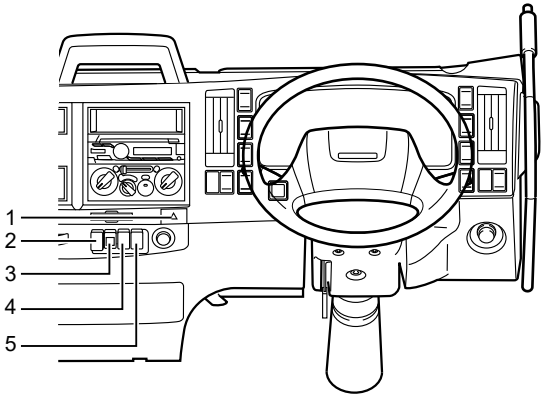
マニュアルトランスミッション車



No.	装　置　名	参照ページ
1	暖機スイッチ	4-80
	アイドリングストップ キャンセルスイッチ★	4-136
2	ECONO モードスイッチ（消防車）★	4-90
3	4WD スイッチ★	4-201
4	メーター、警告灯、表示灯	4-10 4-37
5	蛍光灯スイッチ★	5-19
	VDC OFF スイッチ	4-147
6	PTO コントロールレバー★	4-203
7	後席パワーウインドーロック スイッチ★	3-28
	インテリジェント エマージェンシーブレーキ OFF スイッチ	4-166
8	フォグランプスイッチ★	4-85

No.	装　置　名	参照ページ
9	LDW（車線逸脱警報）スイッチ	4-155
	オートライト OFF スイッチ	4-84
10	バックブザー OFF スイッチ★	4-92
	左折&バック音声警報 ON/OFF スイッチ★	4-93
11	ヘッドランプレベリングスイッチ	4-85
12	ホーンボタン	4-89
	運転席用 SRS エアバッグ	4-217
13	後席パワーウインドースイッチ★	3-28
14	ヒルスタートアシスト OFF スイッチ★	4-123
	DPF スイッチ	4-228
15	ヒーテッドミラースイッチ★	4-92
16	電動格納ミラースイッチ★	4-91

★は［車型別装備］、［注文装備］ を示します



No.	装　置　名	参照ページ
1	ハザードスイッチ	4-86
2	ヒルスタートアシスト リセットスイッチ★	4-127
3	ヒルスタートアシスト アジャストスイッチ★	4-126

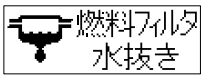
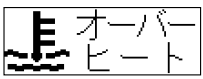
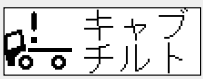
No.	装　置　名	参照ページ
4	ECONO モードスイッチ（除く消防車）★	4-90
	PTO 非常用スイッチ（消防車）★	4-209
5	PTO スイッチ★	4-206

★は［車型別装備］、［注文装備］ を示します

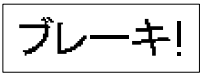
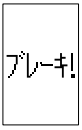
警告灯 / 表示灯目次

マルチディスプレイ

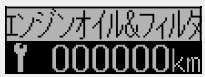
警告・作動表示

表示名	表示エリア 1	表示エリア 3	表示色	参照ページ
燃料補給			橙	4-53
燃料フィルター（水抜き）			赤	4-50
再始動禁止中（尿素品質異常）			赤	4-69
再始動禁止中（尿素水補給）			赤	4-68
尿素品質異常			赤	4-69
尿素水補給			橙	4-67
尿素噴射異常			橙	4-70
オーバーヒート			赤	4-46
電圧異常		—	赤	4-25
AMT 油温上昇			橙 / 赤	4-51
チルトキャブ			赤	4-52
アイドリングストップシステム バッテリー注意			橙	4-135

表示名	表示エリア 1	表示エリア 3	表示色	参照ページ
通信システム異常			赤	4-70
DPF 自動再生中			緑	4-64 4-231
任意再生確認中			橙	4-64 4-233
DPF 手動再生中			橙	4-64 4-229
DPF スイッチを押して下さい			橙	4-64 4-228
PTO（作動中）			赤	4-61
エンジンオイルレベル（点検）			橙	4-48
エアクリーナーエレメント（点検）			橙	4-48
走行支援システム故障カメラ			橙	4-65
カメラー時停止			橙	4-66

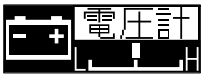
表示名	表示エリア 1	表示エリア 3	表示色	参照ページ
走行支援システム故障 レーダー			橙	4-66
レーダー一時停止			橙	4-67
注意喚起 (インテリジェント エマージェンシーブレーキ)			赤	4-167
ブレーキ作動警報 (インテリジェント エマージェンシーブレーキ)			赤	4-167
車間注意 (車間距離警報)			橙	4-174
前方注意 (踏み間違い衝突防止アシスト)			赤	4-183
先行車発進 (先行車発進お知らせ)			橙	4-189

メンテナンス表示

表示名	表示エリア 1	表示エリア 3	表示色	参照ページ
エンジンオイル&フィルター		—	緑	4-47
トランスミッションオイル&デフオイル		—	緑	4-52

表示名	表示エリア 1	表示エリア 3	表示色	参照ページ
AMT クラッチオイル（AMT 車）		—	緑	4-54
燃料フィルター		—	緑	4-54
パワーステアリングフルード		—	緑	4-55
タイヤ交換（ローテーション）		—	緑	4-55
スターター		—	緑	4-56

インフォメーション表示

表示名	表示エリア 1	表示エリア 3	表示色	参照ページ
省燃費運転状態（ECONO）		—	緑	4-24
総合燃費		—	緑	4-24
区間燃費		—	緑	4-24
DPF PM 堆積量		—	緑	4-29
DPF 再生進捗		—	橙	4-29
電圧計		—	緑	4-25
カレンダー			緑	4-26

表示名	表示エリア 1	表示エリア 3	表示色	参照ページ
時計	AM 00:00	—	緑	4-27
アワーメーター	アワメータ 000000.0H	—	緑	4-31
照明輝度	照明輝度	—	緑	4-28
車間距離警報	車間警報	—	緑	4-173
踏み間違い衝突防止アシスト	誤発進抑制 ON	—	緑	4-181
先行車発進お知らせ	発進お知らせ ON	—	緑	4-188
交差点警報	交差点警報 ON	—	緑	4-197

メーターパネル

警告灯目次

名　称	警告灯	点灯色	参照ページ
インテリジェントキー警告灯		赤	4-62
エンジン制御警告灯		橙	4-49
SVS 警告灯		橙	4-50
リモコンキー（インテリジェントキー）電池残量警告灯		橙	4-63
油圧警告灯		赤	4-46

名　称	警告灯	点灯色	参照ページ
VDC 警告灯		橙	4-45
ABS 警告灯		橙	4-44
ヒルスタートアシスト警告灯		橙	4-58
SRS エアバッグ警告灯		赤	4-39
充電警告灯		赤	4-49
AMT 警告灯		橙 / 赤	4-51
バキューム警告灯		赤	4-43
ブレーキ警告灯		赤	4-40
パーキングブレーキ警告灯		赤	4-40
電動パーキングブレーキ警告灯		橙	4-42
フロントデフ油温警告灯 [ビスカス式トルクスプリット 4WD 車]		赤	4-53
シートベルト未装着警告灯		赤	4-39
LDW（車線逸脱警報）警告灯		橙	4-45

表示灯目次

名　称	表示灯	点灯色	参照ページ
アイドリングストップ表示灯		緑	4-61
アイドリングストップ OFF 表示灯		橙	4-61
ヒルスタートアシスト表示灯		緑	4-57
暖機システム作動表示灯		橙	4-60
グロー（予熱）表示灯		橙	4-60
ハイビーム表示灯		青	4-56
トラクションコントロール OFF 表示灯		橙	4-58
VDC OFF 表示灯		橙	4-59
インテリジェント エマージェンシーブレーキ OFF 表示灯		橙	4-59
排気ブレーキ表示灯		緑	4-57
4WD 表示灯		緑	4-61
ECONO モード表示灯		緑	4-60
1 速発進モード表示灯		緑	4-60
ターンシグナル表示灯＆ハザード表示灯（左）		緑	4-56

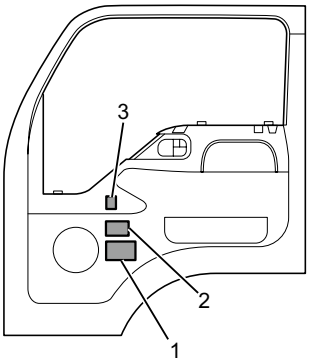
名　称	表示灯	点灯色	参照ページ
ターンシグナル表示灯＆ハザード表示灯 (右)		緑	4-56

警告ラベルについて

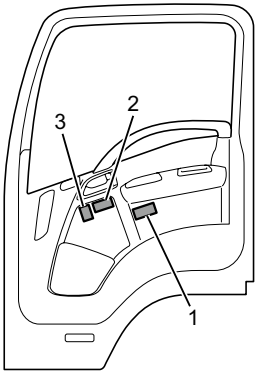
・注意、警告ラベルにはお車を使用する上で、重要な内容が記載されています。お車を使用する前に必ずお読みください。
・各ラベルの記載事項がかすれていたり、損傷があるもの、はがれているものがあるときは、《日産販売会社》にお問い合わせください。
・注意、警告ラベルは車両本体についてのみ記載してあります。架装物の注意、警告ラベルについては、架装メーカーの取扱説明書をご覧ください。
・次に示すラベルは一例です。ラベルの記載内容は車種により異なる場合があります。
・警告ラベルの貼り付け位置は変更される場合があります。

注意・警告ラベル（キャブ内貼り付け位置）

標準キャブ車

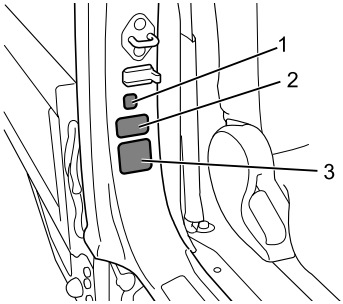


ハイキャブ・ワイドキャブ車

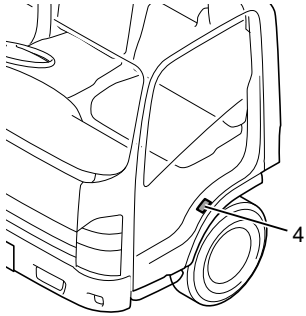


1	尿素 SCR
2	油圧ポンプ直結用ダンプ（AMT 車）、電気式 PTO（AMT 車）、ケーブル式 PTO
3	ダンプ、電気式 PTO（除く AMT 車）

運転席側ドア部

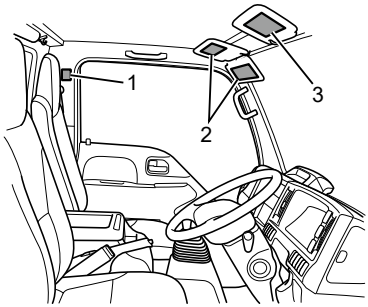


助手席側ドア部

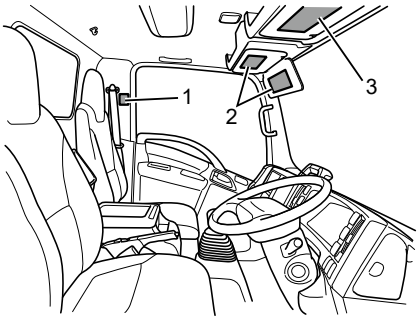


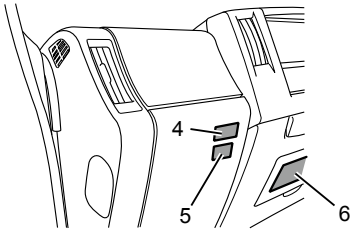
1	SRS
2	タイヤ空気圧
3	タイヤ混合禁止（ビスカス式トルクスプリットパートタイム 4WD 車）
4	エンジンカバー（助手席点検口付車）

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車





1	エンジン（定期点検）
2	助手席用 SRS エアバッグ＊1
3	運転席用 SRS エアバッグ、後部架装物、ヒルスタートアシスト、AMT、DPF、アイドリングストップ、インテリジェント エマージェンシーブレーキ、踏み間違い衝突防止アシスト
4	可倒式パーキングブレーキ（可倒式パーキングブレーキ付車）
5	4 輪駆動切り替え（ビスカス式トルクスプリットパートタイム 4WD 車）
6	ヒューズ、リレー



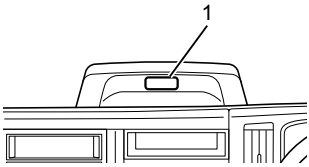
＊1：助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、絶対にチャイルドシートをうしろ向きに装着しないでください。事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだときの衝撃により、お子様が重大な傷害をうけたり、最悪の場合は死亡につながるおそれがあります。

お子様にもシートベルトを
→ 2-15 ページ参照

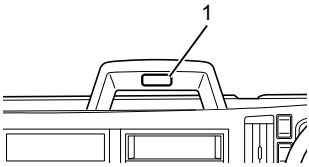
プリテンショナー付シートベルト &
SRS エアバッグシステムについて
→ 2-55 ページ参照

お子様を乗せるときは → 2-15 ページ参照

標準キャブ車



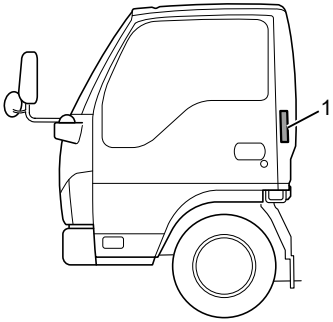
ハイキャブ・ワイドキャブ車



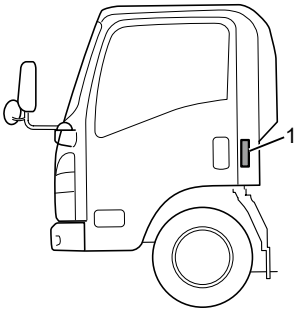
1	カメラ

注意・警告ラベル（キャブ外貼り付け位置）

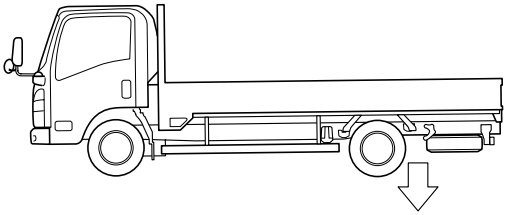
標準キャブ車

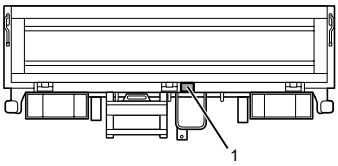


ハイキャブ・ワイドキャブ車

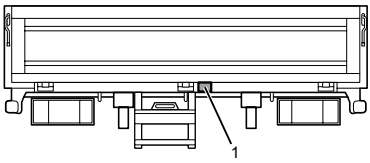


1	チルトキャブ操作方法（チルトキャブ車）

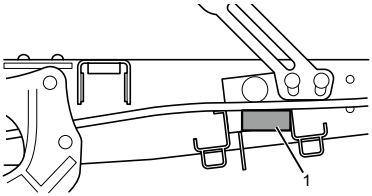




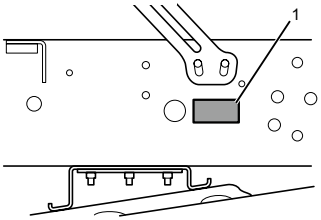
標準キャブ車
Eホイールベース リヤシングルタイヤ



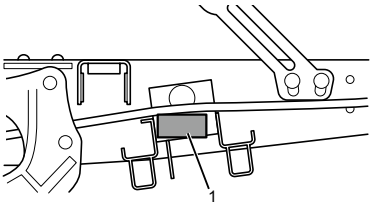
標準キャブ車
Eホイールベース フラットロー



ハイキャブ車
Fホイールベース フルフラットロー
Hホイールベース全車

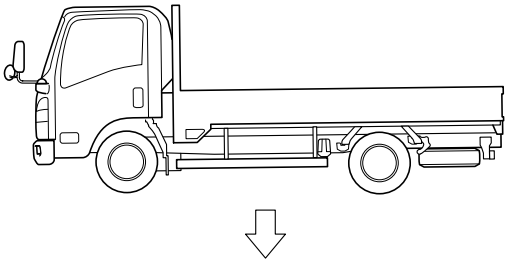


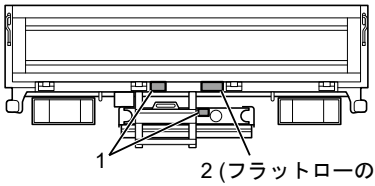
ワイドキャブ車
Hホイールベース フラットローを除く全車
Kホイールベース全車



ハイキャブ車
Fホイールベース高床

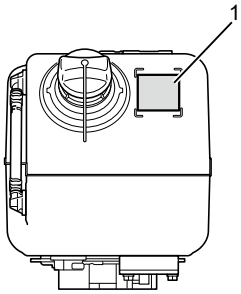
1	スペアタイヤ（巻き上げ / 脱着）





ワイドキャブ車
Hホイールベース フラットロー

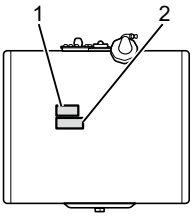
1	スペアタイヤ（巻き上げ / 脱着）
2	スペアタイヤ（前輪用）



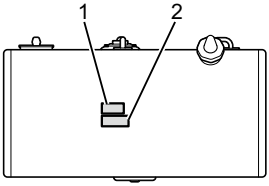
尿素水タンク
14Lタイプ

1	尿素水タンク（燃料、水注入の禁止）

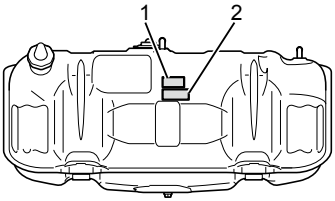
注意・警告ラベル（燃料タンク部貼り付け位置）



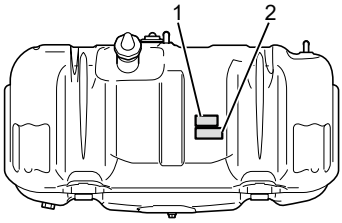
AHS・AJS・AKS型車
(平ボデー、リヤシングルタイヤ フラットローおよびその他一部仕様の
シングルキャブ車)
AMS型車
(Fホイールベース)
50Lタンク



AHS・AJS・AKS型車
(平ボデー、リヤシングルタイヤ フラットローおよびその他一部仕様を除く
シングルキャブ車・クルーキャブ車)
ALS型車
AMS型車
(除くFホイールベース)
50Lタンク

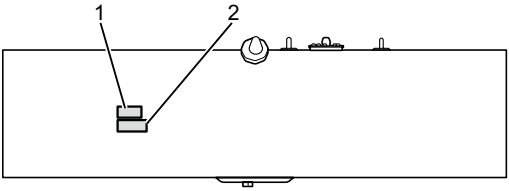


ハイキャブ車63Lタンク

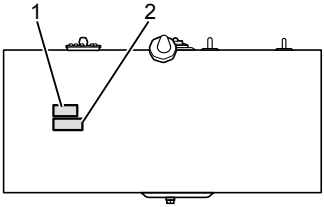


ハイキャブ車71Lタンク

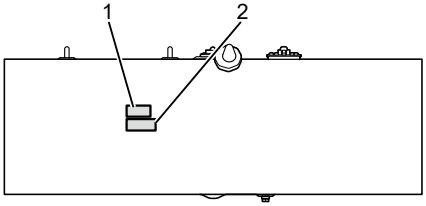
1	ディーゼル＆軽油
2	燃料タンク（添加剤、水抜き剤等の注入禁止）



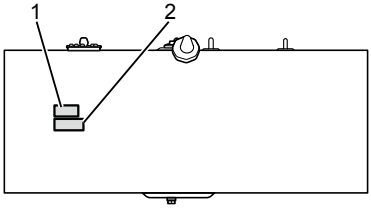
ハイキャブ車 98Lタンク



ワイドキャブ車 87Lタンク



ハイキャブ車 100Lタンク

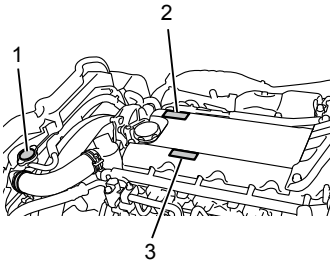


ワイドキャブ車 100Lタンク

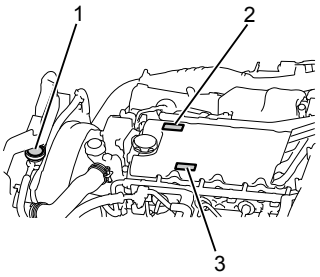
1	ディーゼル＆軽油
2	燃料タンク（添加剤、水抜き剤等の注入禁止）

注意・警告ラベル（エンジンルーム内貼り付け位置）

ワイドキャブ車



標準キャブ・ハイキャブ車



1	ラジエーターキャップ
2	エンジンオイル
3	フューエルフィルターエレメント

はじめに 1

● 保証について 1-2
● 点検・整備について 1-2
● 全国サービス網 1-2
● 日産純正部品について 1-3
● 車台番号・エンジン番号 1-3

別冊の「メンテナンスノート」に、保証の内容及び点検・整備について記載してあります。ご使用前に必ずお読みください。

保証について

保証書には、車が故障したときの無料修理の条件や範囲を記載しています。
一度お読みになり確認しておいてください。

点検・整備について

- 車を最良の状態でお使いいただくため、点検・整備は必ず実施してください。メンテナンスノートに点検・整備のしかたや時期などを記載しています。
- 点検・整備は実施することが法律で義務づけられています。
- 点検・整備を実施したときは、必ずその結果をメンテナンスノートに記入してください。
- 購入後 1 か月（又は 1,000km 走行時）は無料で点検が受けられます。

全国サービス網

「メンテナンスノート巻末」に、全国の日産販売会社の所在地が記載されています。
定期点検整備や一般整備は最寄りの《日産販売会社》をご利用ください。

日産純正部品について

NISSAN

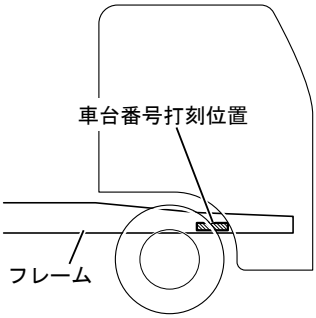
《日産純正部品》は新車に取り付けられている部品と同じ規格で作られており、その品質、性能については日産自動車が保証しています。保守整備に必要な部品、油脂類などは《日産純正部品》をご使用ください。
《日産純正部品》以外の使用によって生じた故障および事故については保証できません。
《日産純正部品》は《日産販売会社》で販売しております。

車台番号・エンジン番号

車台番号・エンジン番号は車両の登録・検査のとき必要です。また、修理や部品注文のときも《日産販売会社》へこれらの番号をご連絡いただければより適切な処理ができます。

車台番号

車台番号



フレーム右側面前方に打刻してあります。

ID プレート



車両型式、車台番号等が記されたプレートが助手席側のドア開口部に取り付けてあります。

車台番号（VIN）

ID プレートには車台番号（VIN）が記載されています。
車台番号からお車の車型、エンジン等を知ることができます。

A H S 8 8 ー 7 0 0 0 0 0 4

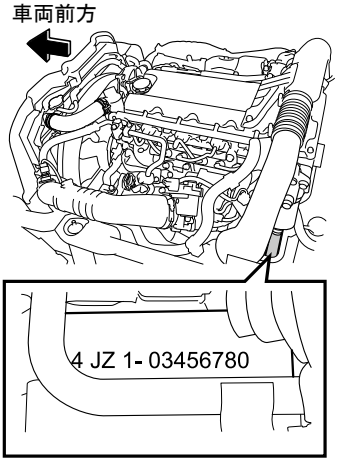
1 2 3

No.	内容
1	車型記号 AHS: 4 × 4 トラック AJS: 4 × 4 トラック AKS: 4 × 4 トラック ALS: 4 × 4 トラック AMS: 4 × 4 トラック ANS: 4 × 4 トラック APS: 4 × 4 トラック
2	エンジン記号 88: 4JZ1 エンジン
3	一連番号

オプションコード

ID プレートにはお車に装着されている装置のオプションコードが記載されています。
オプションコードは 3 桁のアルファベットおよび数字で表されています。
メンテナンスの時など、お車のエンジン、トランスミッションおよびその他装備を知る必要がある場合は、《日産販売会社》へお問い合わせください。

エンジン番号



エンジン番号打刻箇所

シリンダーブロック左側面後方に打刻してあります。

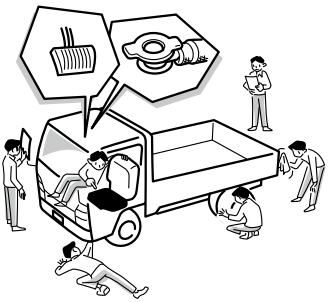
必読！安全快適な運転をするために 2

● 運転をする前に	2-2
● お子様を乗せるときは	2-15
● 運転をするときは	2-17
● AMT 車について★	2-29
● 4WD 車の走行について	2-32
● 駐・停車するとき	2-34
● こんなときは気をつけて	2-39
● お車の故障を防ぐために	2-43
● こんなときには《日産販売会社》へ	2-45
● DPF について	2-48
● 尿素 SCR システムについて	2-51
● プリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグシステムについて	2-55
● EDR 機能について	2-58
● 走行支援システムについて	2-59

お車を安全・快適にご使用していただくために知っておいていただきたいこと、およびお守りいただきたいことを記載してありますのでご使用前に必ずお読みください。

運転をする前に

お出かけ前には“日常（運行前）点検”を



日常点検は、道路運送車両法により運転者に義務づけられています。1日1回、お車を運転する前に日常点検を行い、異常がないことを確認してください。安全で快適な運転のため、お車の走行距離、運行時の状態などを把握し、適切な点検時期および、点検に応じた整備を行ってください。点検の結果、異常がある場合、あるいは、前日または前回の運転で異常のあった箇所は、《日産販売会社》で修理を受けてから運転するようにしてください。

点検箇所	点検項目	参照ページ
ブレーキ	ペダルの踏みしろ（遊び）	7-80
	ブレーキの効き	7-81
	パーキングブレーキレバーの引きしろ	7-83
	ブレーキの液量	7-83
タイヤ	空気圧	7-87
	亀裂、損傷	7-89
	異常な摩耗	7-90
	溝の深さ＊1	
クラッチ	作用＊2＊3	7-101
バッテリー	液量＊1	7-129
エンジン	かかり具合、異音＊1	7-42
	低速および加速の状態＊1	7-42
	オイルの量＊1	7-43
	冷却水の量＊1	7-53
	ファンベルトの張り具合、損傷＊1	7-64
灯火装置、方向指示器	点灯・点滅具合、汚れ、損傷	7-123
ワイパー、ウインドーウォッシャー	液量、噴射状態＊1	7-120
	払拭状態＊1	7-121
運行において異常が認められた箇所	当該箇所に異常がないこと	7-39

＊1：走行距離や運行時の状況等から判断した適切な時期に行う点検項目を示します。
＊2：日産自動車が推奨する点検項目を示します。
＊3：事業用のみの点検項目を示します。

指定された燃料を入れていますか

注 意

・超低硫黄軽油または低硫黄軽油以外の燃料を使用するとエンジンや排気ガス浄化装置（DPF、尿素 SCR）に悪影響をおよぼし、故障の原因となるおそれがあります。万一誤った燃料を入れたときは、完全に抜き取ってください。誤った燃料を入れたままエンジンを始動すると火災やエンジン損傷の原因になり危険です。

・超低硫黄軽油または低硫黄軽油以外の軽油を使用した場合、道路運送車両法の保安基準に適合しなくなるおそれがあります。

・フューエルキャップはゆっくりと開けてください。急に開けると燃料が噴き出るおそれがあります。

アドバイス

・燃料は必ず超低硫黄軽油または低硫黄軽油をご使用ください。
粗悪な燃料、水抜き剤、その他の燃料添加剤、ガソリン、灯油、アルコール系燃料を補給したり混合して使用するとフューエルフィルターおよびインジェクター内の燃料潤滑部分の摺動不良になるほか、エンジン各部に悪影響を与え、故障の原因になるおそれがあります。



知 識

・軽油は季節および地域によって仕様が異なります。

燃料給油口 → 3-31 ページ参照
燃料について → 6-16 ページ参照

セルフ式ガソリンスタンドを利用するときは

⚠ 警 告

【燃料補給時に必ず守ること】

・エンジンを必ず止め、車のドアや窓は閉めてください。

・タバコを吸うなど火気を近づけないでください。

・フューエルキャップを開ける前に、金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、やけどをするおそれがあります。

・給油中にノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず燃料がこぼれる場合があり危険です。給油はノズルを確実に挿入してください。

・フューエルキャップを開ける操作から給油が完了しフューエルキャップを閉めるまでの作業は、必ずひとりで行ってください。

給油作業中の人以外は、帯電しているおそれがあるため、給油口に近づけないでください。

また、給油の作業を行う人は、給油中に再び車内のシートに戻らないでください。再帯電するおそれがあります。

・フューエルキャップは純正品以外使用しないでください。

・ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項は必ず守ってください。

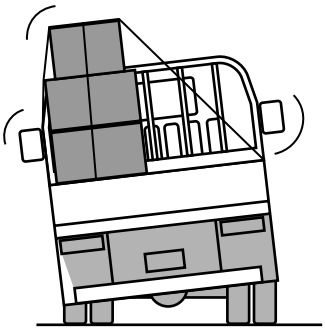
⚠ 注 意

【燃料給油時の注意】

・給油時に気化した燃料を吸わないようにしてください。

燃料給油口 → 3-31 ページ参照

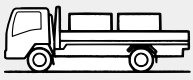
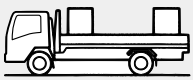
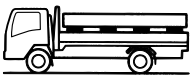
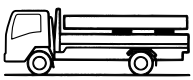
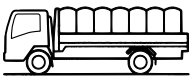
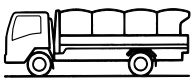
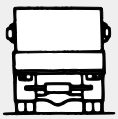
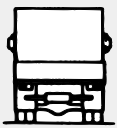
荷物は正しく積みましょう



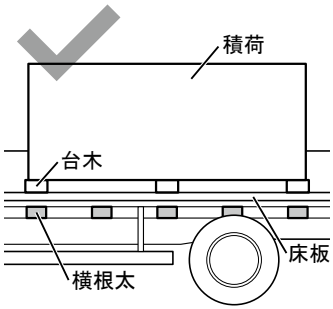
⚠ 注 意

- 積み過ぎや、片寄った積みかたは大変危険です。決められた最大積載量を守り、正しい積みかたをしてください。
- 誤った積みかたは、積荷が不安定となるばかりでなく、集中的に荷重がかかり、荷台やフレームを傷めるおそれがあります。
- 過積載は法律で禁じられているだけでなく車の各部に無理な力がかかり、車の寿命を縮めたり事故の原因になります。

積載の仕方

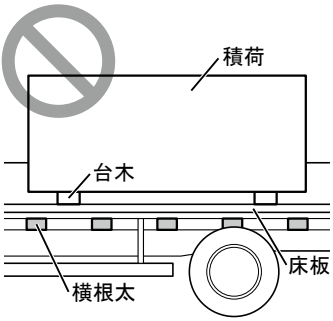
積荷の注意	良い例	悪い例
積荷は、前後へ片寄らせないで均等に積んでください。		
積荷の下にウマを用いるときは、ウマの位置を均等に配置してください。		
長尺物は極力荷台後端より出さず、ウマを利用してください。また鳥居と荷台後端部の2点支持するのは避けてください。		
荷物が落ちないようにロープがけ、シートや幌がけを確実にし、風でシートや幌がばたつかないようゴムなどでしっかり取り付けてください。また､エアインテークダクト（空気取り入れ口）を塞がないように固定してください。		
高荷をすると、横風を受けたときや旋回時などに車両横転のおそれがあるので避けてください。		

荷台★ → 3-36 ページ参照

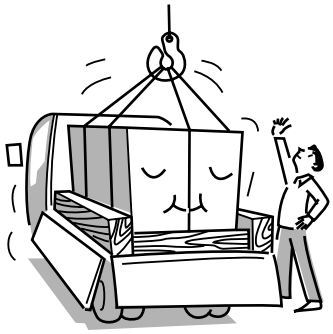


アドバイス

・積荷の下に台木を用いるときは、横根太の上にくるよう台木を置いてください。横根太の無いところに台木を置くと、床板が破損するおそれがあります。



重量物を積むときは



⚠ 注 意

・積荷が重量物の場合、荷動きのないように滑り止めをし、ワイヤーなどで確実に固定してください。

農耕機などを積み込むときは



⚠ 注 意

・荷台の後方から農耕機などを積み込むとフレームが変形するおそれがあります。また、積み込もうとする農耕機の重さが最大積載量以下の場合でも、フレームが変形するおそれがあります。

知 識

・農耕機などの積み込みには、荷台を固定する装置が必要になります。ローダー車等の車載専用車をご使用いただくか、後部スタンドを追加装着してください。不明な点は《日産販売会社》にお問い合わせください。

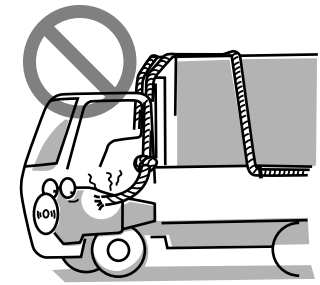
必要以上の力で荷物を固定しないで



アドバイス

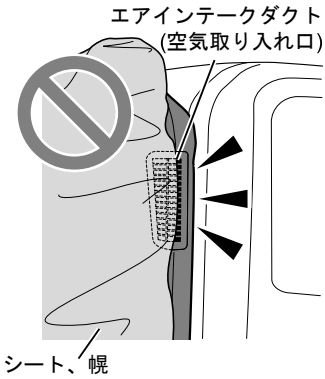
・荷物を落とさないために、幌やロープをしっかりと、確実にかけてください。しかし、必要以上に固定することは、荷台のアオリや、鳥居立ての損傷、破損を招きます。

シートや幌は正しく固定していますか



⚠ 警 告

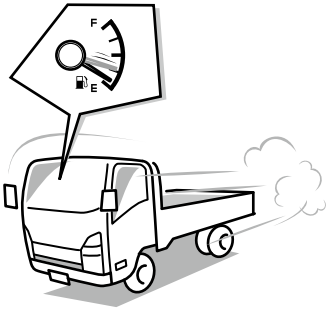
・シートや幌、ロープやゴムの端が、エンジン、尿素 SCR、DPF や排気管にかからないように注意してください。走行中エンジンの熱により、火災を起こすおそれがあります。シートや幌、ロープやゴムの末端の処理をしっかりと行ってください。



アドバイス

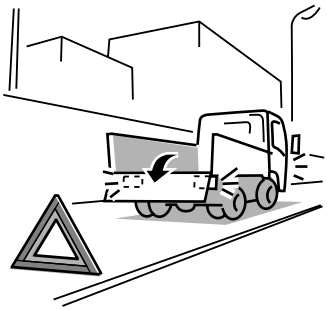
・シートや幌は、エアインテークダクト（空気取り入れ口）を塞がないようゴムなどでしっかり固定してください。
エアインテークダクト（空気取り入れ口）が塞がれると、空気を取り入れられなかったり、雨天時にシートや幌をつたって多量の雨水が入ることにより、出力不足などのエンジン不調の原因になります。

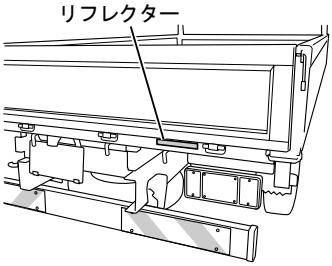
経済的な運転



スピードの出し過ぎや、ノッキングが起きるほどの低速走行、排気ブレーキのスイッチの入れっぱなしや、速度調整のために頻繁に排気ブレーキを使用すると燃費を悪くします。できるだけ一定速度を保つようにします。
加速時は静かにゆっくり、変速は早め早めにします。必要以上の暖機運転や空ぶかしは燃料のムダです。過積載は法律で禁じられているだけでなく燃料のムダです。
タイヤの空気圧はこまめに点検し適正空気圧を保つようにします。

荷物の積み下ろしをするときは





⚠ 注 意

- 公道上で荷役作業を行うときに架装物（荷台アオリ等）でテールランプ、ストップランプ、ハザードランプ、ターンシグナルランプが隠れてしまう場合は、必ず停止表示器材等を周囲から見やすい位置に設置して他の運転者や通行者に注意を促してください。
- 公道上で荷役作業を行うときは、荷物や幌、シートなどでリフレクターを覆わないようにしてください。他の車などからの視認性が悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 公道上で荷役作業を行うときは、駐停車が許されている場所で、かつほかの運転者や通行者に迷惑をかけない安全な場所を選んでください。

燃料の入った容器や、スプレー缶類を車内に持ち込まないで



⚠ 警 告

- 燃料の入った容器やスプレー缶類を車の中に持ち込むと、万一容器などが発火したり、容器が破損したとき火災や爆発を起こす可能性があり大変危険です。

運転席足元付近の整理整頓

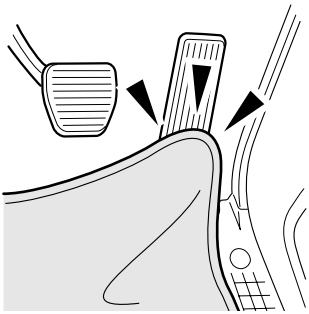


⚠ 警 告

・空缶や空びんなど、足元に物がころがっていると、ブレーキペダルの下にはさまったときにブレーキ操作ができなくなり大変危険です。

・トレイやダッシュボードにころがりやすい物は、置かないでください。運転の妨げになり危険です。

フロアマットを正しく敷いていますか



⚠ 警 告

・フロアマットは車に合ったものを正しく敷いてください。各ペダルを覆ったり重ねて敷くと、各ペダルに引っ掛かるなど確実な操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

正しい運転姿勢をとるために

⚠ 警 告

・必ず、走行前にシート（座席）、ハンドルおよびミラー類の位置を調節し、正しい運転姿勢をとり、シートを前後方向にゆさぶり確実に固定されていることを確認して、シートベルトを着用し運転してください。また、シートベルトは運転する人はもちろん同乗者にも正しく着用させるようにしてください。

シート → 3-40 ページ参照
シートベルト → 3-57 ページ参照
ミラー → 3-46 ページ参照

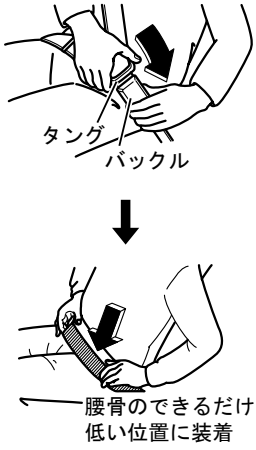
シートの調整

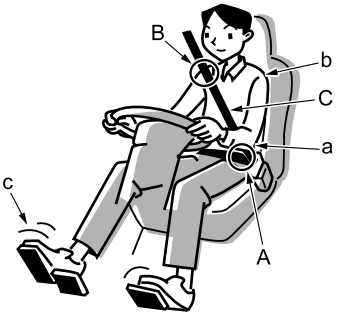
正しい運転姿勢に合わせたシート調整は安全運転の基本です。



シートベルトの装着

シートベルトは必ず装着してください。上体を起こし、シートに深く腰掛け、腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に固定してください。





	シート調整時のアドバイス
a	ひじを軽く曲げた状態でハンドル操作が楽にできるように調整
b	背もたれから肩を離さない
c	各ペダルが十分に踏み込める

	シートベルト装着時の注意	なぜ？
A	腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にくるように装着	万一のとき、各部に強い圧迫を受け危険
B	肩部ベルトは首、あご、顔に触れないよう肩に十分にかかるように装着	
C	シートベルトにねじれの無いことを確認して装着	最大の効果を発揮

同乗者へのシートベルトを着用するときの注意

1 本のシートベルトを 2 人以上で使用しないでください。

⚠ 警 告

- 必ず走行前にシート（座席）の位置を調整してください。正しい運転姿勢をとりシートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認して、シートベルトを着用し運転してください。また、シートベルトは運転する人はもちろんのこと同乗者にも正しく着用させるようにしてください。
- 首、あごや顔にシートベルトが当たったり、腰骨にシートベルトがかからないお子様の場合は、万一のとき危険ですからシートベルトは装着せず市販の保護具（チャイルドシートなど）の使用をお奨めします。

お子様を乗せるときは →2-15 ページ参照



ハンドルの位置調整

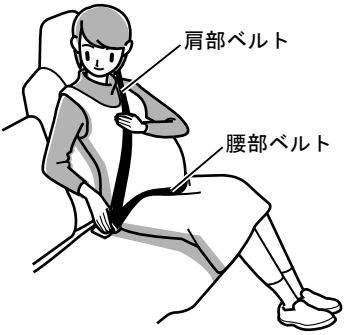
上下および前後の位置調整をすることができます。調整後はハンドルおよびロックレバーが確実にロックされていることを確認してください。

⚠ 警 告

- 調整後は、ハンドルを上下に動かして確実に固定されていることを確認してから走行してください。
- ハンドルの位置調整は、運転前に行ってください。運転中のハンドルの位置調整は、ハンドルが上下にガタつき正確な操作ができず大変危険です。

チルト＆テレスコピックステアリング
（上下、前後調整式ハンドル）
→ 3-45 ページ参照

妊娠中のかたや疾患のあるかたを乗せるときは



⚠ 警 告

・妊娠中のかたや疾患のあるかたもシートベルトを着用してください。
ただし、万一のとき腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがありますので、シートベルトを使うときは、医師に注意事項を確認してください。

- 妊娠中のかたは、三点式シートベルトを使用してください。
- 妊娠中のかたは、シートベルトを着用するときに腰部のベルトがかかる場所を腹部からさけて腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして身体に密着させてください。また、肩部のベルトは腹部からさけて胸部にかかるようにしてください。
- シートベルトを正しく着用していないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどにシートベルトがお腹のふくらみに食い込むなどして、母体だけでなく胎児まで、生命の危険や重大な傷害につながるおそれがあります。

シートベルト → 3-57 ページ参照

お子様を乗せるときは

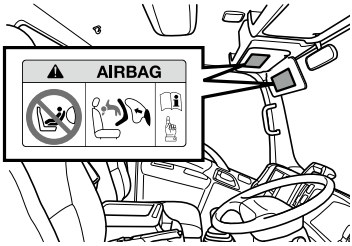
お子様にもシートベルトを

⚠ 警 告

・この車に装備されているシートベルトは大人用です。シートベルトが首やあごにあたる場合や腰骨にかからないお子様や 6 才未満の幼児の場合は、ベビーシート、チャイルドシートやジュニアシートを使用してください。シートベルトをそのまま使うと、衝突のときに腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。また、ひとりで座ることのできない小さなお子様はチャイルドシートを使用してください。

・ベビーシート、チャイルドシートやジュニアシートをセンターシートに装着しないでください。運転操作に支障をきたすおそれがあります。

・助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、絶対にチャイルドシートをうしろ向きに装着しないでください。事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだときの衝撃により、お子様が重大な傷害をうけたり、最悪の場合は死亡につながるおそれがあります。助手席のサンバイザー（日よけ）に警告ラベルが貼りつけてありますので、確認してください。

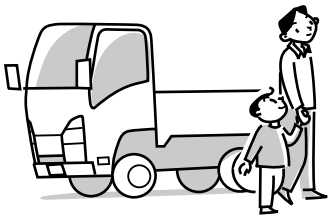


知 識

・ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートは、お子様の体重や身長によりお使いになれるタイプや取り付け方法が異なります。
チャイルドシートは、シート形状などにより、チャイルドシートを正しく取り付けできない場合があります。車に合ったチャイルドシートを使用してください。
※詳しくはベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

シートベルト → 3-57 ページ参照

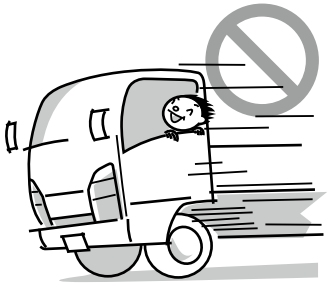
車から離れるときはお子様もご一緒に



⚠ 警 告

・必ず、お子様を一緒に連れて出てください。お子様のいたずらによる発進、火災など思わぬ事故を起こすこともあります。また、炎天下での車内は大変高温となり危険です。

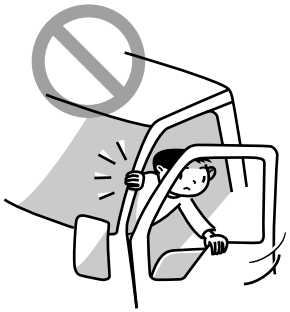
窓から顔や手などを出させないで



⚠ 警 告

・走行中、停車中を問わず、車の窓から顔や手、体の乗り出しは思いがけない障害物に当たるなど危険がありますので、させないでください。

ドアの開閉やロックは必ず大人が行ってください



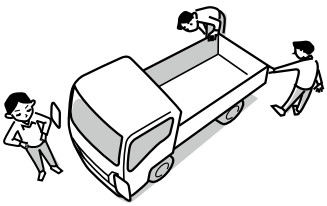
⚠ 警 告

・お子様が手や首をはさむことがあり危険です。ドアの開閉および、ドアロックは必ず大人が行ってください。また、お子様がパワーウインドースイッチをいたずらして、手や首をはさむと危険ですので注意してください。お子様を乗せるときはパワーウインドーの開閉操作は必ず運転席側のスイッチで行ってください。

ドアの開閉 → 3-20 ページ参照
パワーウインドー★ → 3-27 ページ参照

運転をするときは

エンジン始動前に車の周囲を確認



車の周囲に子供がいないこと、また、障害物がないことなど、安全確認を十分に行ってから発進してください。

⚠ 警 告

・エンジン始動時、車両の下や周辺に燃えやすいものがないか確認してください。万一のとき、火災を招くおそれがあります。とくに、木材などがあるときは、50cm 以上間をあけてください。変形、変色、着火のおそれがあり大変危険です。

エンジンの始動方法 → 4-4 ページ参照

排出ガスには十分に気をつけて

⚠ 警 告

・排出ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれています。排出ガスを吸い込むと一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

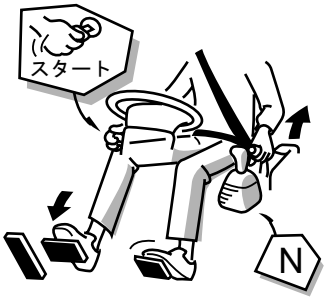
・換気の悪いところではエンジンをかけたままにしないでください。特に車庫内や屋内などの排出ガスが充満しやすい場所では、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

・排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷など排気管の異常に気がついたときは、お近くの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。そのまま使用すると排出ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

・車内に排出ガスが侵入してきたときは、すべての窓を全開にし、ヒーター / エアコンの内外気切り替えを外気導入にするなどして、新鮮な外気を車内に取り入れ換気を行ってください。また、ただちに《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。そのまま使用すると排出ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

エンジンを始動するときは

マニュアルトランスミッション車



AMT 車



⚠ 注 意

【マニュアルトランスミッション車】

・パーキングブレーキレバーが確実に引いてあることを確認してください。シフトレバーが“N”位置にあることを確認し、クラッチペダルをいっぱいに踏んでからエンジンを始動してください。

・エンジンの始動は必ず運転席に座って行ってください。窓越し、またはドアを開けて運転席に座っていない状態では“N”位置を確認できないため、万一“N”位置以外でエンジンを始動すると、車が動くので注意してください。

【AMT 車】

・パーキングブレーキレバーが確実に引いてあることを確認してください。
ブレーキペダルをしっかりと踏んでシフトレバーを“N”位置にし、シフトインジケーターが「N」表示になっていることを確認してからエンジンを始動してください。

・エンジンの始動は必ず運転席に座って行ってください。

エンジンの始動方法 → 4-4 ページ参照

長期間使用していない車両について

アドバイス

・車両を長期間保管する場合はバッテリー上がりを防ぐため、⊖端子側のケーブルを外してください。

・1 年以上使用していない車両は、車両を使用する前に尿素水（AdBlue® 相当）を交換してください。交換せずに使用すると尿素 SCR システムの故障の原因になります。

・最低月に 1 回以上、および車両の使用前に、以下の点検を行ってください。点検を行わずに車両を移動した場合、焼き付きなどを起こすおそれがあります。

・エンジンやトランスミッション、トランスファーなどにオイル漏れがないことを点検し、オイルが規定の位置まで入っていることを確認してください。オイル量が不足しているとオイルが十分にいきわたらず、故障の原因になります。

・エンジンを始動し、5 分間以上、水温計が安定するまでアイドリング運転を行ってください。また、異音が出ないこと、油圧警告灯が点灯していないことを確認してください。4WD 車はエンジンを停止し、トランスファーにオイル漏れがないこと、オイルが規定の位置まで入っていることを確認してください。4WD 車は前進走行することでトランスファー内にオイルが潤滑します。オイルが規定の位置まで入っていることを確認してから、空車状態で約 50m を約 15km/h で前進走行してください。

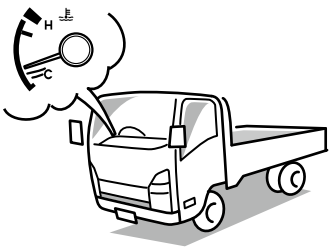
・暖機運転については 4-4 ページの“**エンジンの始動方法**”を参照してください。

知 識

【AdBlue® とは】

・AdBlue® はドイツ自動車工業会（VDA）の登録商標です。

暖機運転のすすめ



暖機は水温計の針が動きだす程度で十分です。

アドバイス

・暖機不足のとき（エンジンが冷えているとき）は空吹かし、急加速をしないでください。
エンジンやトランスミッションなどにオイルが十分にいきわたらず、故障の原因になります。

・アイドリング中の排気管は高温になりますので草木や枯れ草、紙くず、油、古タイヤなど燃えやすいものがないことを確認してから暖機運転してください。

車庫内でエンジンをかけたままにしないで



⚠ 警 告

・換気の悪い場所では、一酸化炭素中毒を招くおそれがあります。エンジンを始動および暖機運転させるときは、換気の良いところで行ってください。また、DPF の再生時には、PM の燃焼にともない白煙が一時的に発生する場合がありますので換気の悪い屋内での手動再生は行わないでください。

DPF の手動再生手順 → 4-229 ページ参照

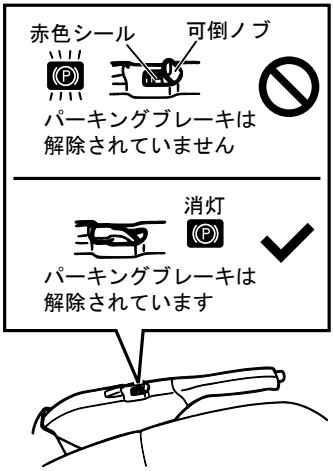
パーキングブレーキは解除しましたか

⚠ 注 意

・パーキングブレーキをそのままにして発進するとブレーキ装置の故障や火災の原因となります。

【電動パーキングブレーキ付車】

・スタータースイッチが“ACC”または“LOCK”位置のときは、パーキングブレーキレバーを戻してもパーキングブレーキは解除されません。パーキングブレーキを解除するときは、スタータースイッチを“ON”位置にしてください。



アドバイス

・パーキングブレーキをそのままにして発進するとブレーキ装置を破損するおそれがあります。

・パーキングブレーキを解除し、パーキングブレーキ警告灯が点灯していないことを確認してから発進してください。

【可倒式パーキングブレーキレバー付車】

・パーキングブレーキを効かせた状態で可倒ノブを引くと、パーキングブレーキレバーが下方へ倒れます。

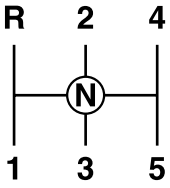
・パーキングブレーキレバー上の可倒ノブの下に赤色シールが表示されていないことを確認してください。

【電動パーキングブレーキ付車】

・電動パーキングブレーキ付車は、パーキングブレーキ警告灯の消灯を確認してから発進してください。パーキングブレーキレバーを下げてからパーキングブレーキが解除されるまで 1 秒程度かかるため、パーキングブレーキレバーを下げてからすぐに発進すると、パーキングブレーキを効かせたまま走行することになり、パーキングブレーキ破損の原因になります。

パーキングブレーキ警告灯
→ 4-40 ページ参照
パーキングブレーキレバー
→ 4-97 ページ参照

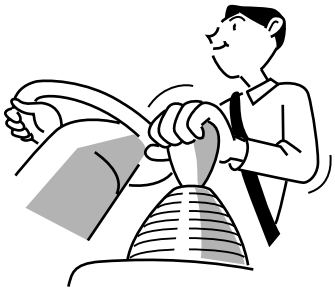
マニュアルトランスミッション車の発進時の注意

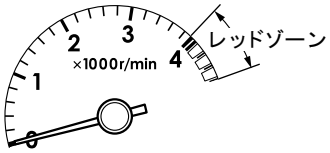


アドバイス

・2速以下（坂道発進は1速）で静かに発進を行ってください。3速以上での発進や急発進、半クラッチを長く使用すると、クラッチを損傷する原因になります。

適切なシフトチェンジについて





アドバイス

・シフトダウンには２つの大きな目的があります。
- 急勾配、長い坂道の降坂時におけるエンジンブレーキ。
- 登坂時における俊敏性および経済性。

【シフトダウン時の注意】

・エンジンをオーバーランさせるとエンジンの破損につながります。シフトダウンは必ずオーバーランさせないようにしてください。

▽登坂時

エンジンに負担をかけないように早めにシフトダウンしてください。

▽降坂時

登り坂で使ったギヤを下り坂でも使うのが原則ですが、タコメーター（エンジン回転計）の針がレッドゾーン（赤色）に入りオーバーラン（限界回転数超過）させないように適正速度で走行してください。

タコメーター(エンジン回転計)の針がレッドゾーン（赤色）に入らないように適正速度で走行してください。

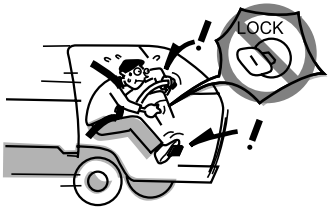
タコメーター（エンジン回転計）
→ 4-12 ページ参照
シフトレバー → 4-102 ページ参照

知 識

【エンジンブレーキとは】

・走行中アクセルペダルを戻したときにかかるブレーキ力です。低速ギヤになるほど、エンジンブレーキが良く効きます。

走行中はエンジンを切らないで

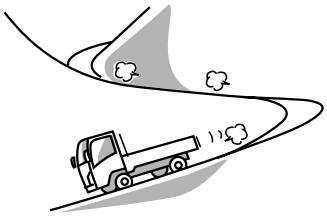


⚠ 危 険

- 走行中にスタータースイッチを“ON”位置以外にしないでください。
  走行中にエンジンが停止するとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルやクラッチが重くなり操作が困難になります。また、エンジンを破損するおそれがあります。
- 走行中、エンジンを切るとパワーステアリング装置が作用しなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなります。
- 走行中、エンジンを切ると各警告灯、表示灯などの電気回路が全て作動しなくなりますので危険です。
- 走行中、スタータースイッチを“LOCK”位置にするとキーが抜けることがあり、キーが抜けるとハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり危険です。

スタータースイッチ → 4-76 ページ参照

長い坂道を下るときは



長い坂道を下るときは排気ブレーキとエンジンブレーキを併用してください。排気ブレーキや、低速ギヤでのエンジンブレーキは、フットブレーキの負担を軽くし、制動力も強く得られ、より効果的です。ただし、エンジンのオーバーランには気をつけてください。

排気ブレーキスイッチ → 4-86 ページ参照

⚠ 注 意

・フットブレーキをひんぱんに使用すると、フェード現象を起こしたり、ベーパーロック現象を起こしブレーキの効きが悪くなります。
・排気ブレーキバルブの調整はしないでください。

知 識

【エンジンブレーキとは】
・走行中、アクセルペダルを戻したときにかかるブレーキ力です。低速ギヤになるほどエンジンブレーキがよく効きます。

【排気ブレーキとは】
・排気管を閉じ、排気ガスの力を利用してエンジンブレーキの効果を高める装置です。

【ベーパーロック現象とは】
・フットブレーキをひんぱんに使用するとブレーキが過熱し、その熱によりブレーキフルードが沸騰し、ブレーキホース内に気泡が発生します。
いくらブレーキペダルを踏んでも気泡を圧縮するだけでホイールシリンダー内に圧力が伝わらずブレーキの効きが急激に低下する現象です。

【フェード現象とは】
・フットブレーキをひんぱんに使用するとブレーキが過熱し、その熱によりブレーキの摩擦面の摩擦力が減り、通常よりもブレーキの効きが低下する現象です。

【オーバーランとは】
・タコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーン（赤色）まで回転数が上がってしまうことです。

悪天候時（雨、凍結、積雪路など）の走行について

⚠ 注 意

・悪天候時は、視界が悪くなったり路面が滑りやすくなるため停止距離も長くなります。晴天時よりも速度をひかえて走行してください。また急ハンドルや急ブレーキをさけエンジンブレーキを併用して減速してください。滑りやすい路面で排気ブレーキを作動させるとタイヤがスリップすることがあるので注意してください。

・大雨などでやむを得ず冠水路などに入ってしまったときは、必ず深さを確認しながら、ゆっくりと一定速度で走行し、ただちに冠水路から脱出してください。また、他の車両の走行などによって水面に波が立っている場合は、さらに速度を落とし慎重に走行してください。

・エアインテークダクト（空気取り入れ口）や排気管からエンジン内部に水が入るとエンジンを破損するおそれがあります（ウォーターハンマー現象）。

アドバイス

・特に、水のたまりやすい場所では、ハイドロプレーニング現象が起こるおそれがあります、無理のない速度で運転しましょう。

知 識

【ハイドロプレーニング現象とは】

・路面が水でおおわれているところを高速で走行したとき、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤのグリップ力が失われタイヤが浮いた状態になり、ハンドル操作、ブレーキが効かなくなる危険な状態です。

冠水路走行後および洗車後の注意について



⚠ 注 意

・やむを得ず冠水路を走行したり、駐車した場所が冠水してしまった場合、ただちに《日産販売会社》で以下の項目の点検を受けてください。
- 水を吸い込んでのエンジン破損
- 電装部品のショート
- ブレーキの効き
- ドラムブレーキ、ディスクブレーキの損傷
- クラッチ部品の浸水や損傷
- エンジン、トランスミッション、デファレンシャル、トランスファーのオイル量や変質（白濁など）
- 各部のグリースアップ（給油脂）

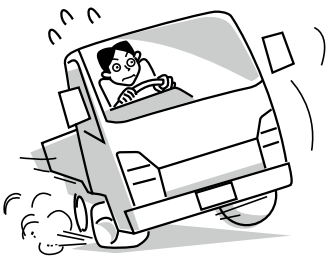
・やむを得ず冠水路を走行したり、駐車した場所が冠水してしまった場合や、洗車後はブレーキの中に水が浸入して効きが悪くなることがあります。効きが悪い場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、効きが回復するまで数回ブレーキを軽く踏んでブレーキの湿りを乾かしてください。

横風に注意

アドバイス

・横風を受け、車が横に流されるときは、ハンドルをしっかりと握り、無理の無い速度に落として、車の進路を立て直してください。
以下の場合に、大きな横風が発生することがありますので注意してください。
- トンネルの出口、橋、土手の上、切り通しを通過したとき。
- 大型のトラックやバスが横を通過したとき。
- 大型のトラックやバスの横を通過したとき。

走行中パンクやバースト（破裂）したときはこんな対処を



アドバイス

・あわてずに、ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ（急ブレーキはハンドルを取られることがあり危険です。）、スピードを落とし、安全な場所に停車し、タイヤ交換をしてください。

スペアタイヤ → 7-99 ページ参照
ジャッキの取り扱い → 7-12 ページ参照
タイヤの交換 → 7-93 ページ参照

床下に強い衝撃を受けたときは

アドバイス

・すぐに、安全で交通の妨げにならない場所に停車し、ブレーキフルード、燃料の漏れ、各部に損傷が無いかを確認してください。万一、損傷、故障箇所があるときは、ただちに《日産販売会社》で点検、修理を受けてください。

警告灯、表示灯が点灯（点滅）したときは





アドバイス

・警告灯の点灯（点滅）を無視して運転を続けないでください。必ず、メーター、警告灯、表示灯の見かたを参照して点灯、点滅時の処置を行ってください。

メーターの見かた（メーター配置）
→ 4-10 ページ参照
警告灯 / 表示灯配置 → 4-37 ページ参照

AMT 車について★

AMT（Automated Manual Transmission）車はクラッチペダル操作を必要とせずに、シフトレバー操作、アクセル操作、ブレーキ操作のみで発進、変速、停車ができます。AMT 車の特性をよく理解し、正しく操作する習慣をつけてください。停車中はブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてシフトレバーを“N”位置にしてパーキングブレーキも効かせるように心がけてください。
エンジン始動直後やエアコン作動時、DPF 再生時などは自動的にエンジン回転が上がりクリープ現象が通常時に比べ強くなります。シフトレバーを“D”、“M”または“R”位置へ操作するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

AMT 車★ → 4-105 ページ参照



知 識

【クリープ現象】

・エンジン回転中にシフトレバーが“D”、“M”または“R”位置にあるとアクセルペダルを踏まなくても動力がつながった状態になり車が動きだそうとする現象をいいます。また、クリープ現象はエンジン回転数が高くなるほど強くなり車が動こうとする力が強くなります。

ブレーキ操作は右足で

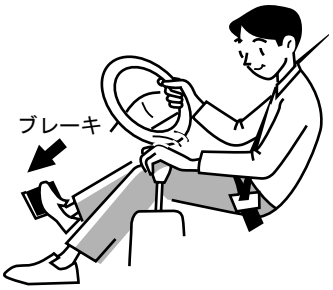


アドバイス

・正しい運転姿勢をとって、ブレーキ、アクセル各ペダルの操作を右足で行い、各ペダルの踏み間違いを防ぐため、各ペダルの位置を確認し、足に覚えさせてください。

・確実なブレーキ操作を行うために、必ず右足でブレーキペダルを踏んでください。

発進するときは



① 正しい運転姿勢で、ブレーキペダルを右足でしっかりと踏み込みシフトレバーを前進は“D”または“M”、後退は“R”位置に操作します。
② 周囲の安全、シフトレバーの位置および、シフトインジケーターの表示を目で確認し、パーキングブレーキを解除します。
③ ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくりと踏み込んで発進してください。

⚠ 警 告

- シフトレバーを“D”、“M”または“R”位置にすると、クリープ現象により車が動き出します。発進時は、必ずブレーキペダルを踏み込んだままシフトレバーを操作してください。
- アクセルペダルを踏み込んだままシフトレバーを操作しないでください。急発進となり、思わぬ事故の原因になります。
- エンジン始動直後やエアコン作動時、DPF 再生時などは自動的にエンジン回転が上がり、クリープ現象が通常時と比べ強くなります。ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

アドバイス

【安全のために、もう一度確認！】

・車を少しだけ移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルをしっかりと踏めるようにしてください。

・後退するときは、体をひねった姿勢になり、ペダル操作がしづらくなります。ブレーキペダルは確実に踏み込んでください。また、後退したあとは、すぐにシフトレバーを“N”位置に戻す習慣をつけてください。発進時にはシフトレバーの位置および、シフトインジケーターの表示を目で確認してください。

・切り返し時、前進から後退、後退から前進に繰り返しシフトレバーを操作するときは、その都度ブレーキペダルをしっかりと踏み、車が完全に停車したことを確認してから次のシフトレバー操作を行ってください。

・AMT 車の場合、ブレーキペダルを踏んでいないとシフトレバーを“N”位置から操作することができません。ブレーキペダルを踏み込んでから、再度シフトレバーを操作してください。

・AMT 車の場合、通常２速発進となります。
積荷がある場合などで強い駆動を必要とするときは、ブレーキペダルを踏み込んだまま１速発進スイッチを“ON”にするか、シフトレバーを“M”位置にして“－（シフトダウン）”に操作することで、１速発進への切り替えができます。（シフトレバー操作で切り替えたときは、マニュアルモードでの変速となります。）

AMT 車★ → 4-105 ページ参照

こんな操作が AMT の故障を招きます！

故障を招く運転操作	故障の症状
・上り坂でシフトレバーを“D”または“M”位置に入れたままアクセルを吹かしながらブレーキ代わりにして停車する。 ・アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏み込む。 ・不適切なギヤ段で走行を続けたとき。 ・過度な発進、停止を繰り返したとき。	・クラッチオイルが過熱する。
・アクセルを吹かしエンジンの回転を上げた状態で、シフトレバーを操作する。	・トランスミッションのギヤまたは、クラッチに無理な力がかかる。
・走行中スタータースイッチを切る。 ・長い下り坂を“N”位置のまま走行する。 （エンジンブレーキが効かなくなり危険です。）	・トランスミッションの潤滑不良を起こす。

4WD 車の走行について

4WD 車といえども、どんな所でも走れる万能車ではありません。アクセルペダル、ハンドル、ブレーキペダルの操作は慎重に行ってください。また、路面の状況や傾斜の角度に注意して安全運転を心がけてください。

4WD 車 → 4-199 ページ参照

積雪路や凍結路での走行



一定速度で走行し、特にカーブや下り坂では十分余裕をもって走行してください。
また、ブレーキペダル操作は軽く踏み、数回に分けて操作をしてください。一度に強く踏むとスリップを起こし、ハンドル操作が不能になることがあり大変危険です。

アドバイス

・積雪路および凍結路では、タイヤチェーンおよび冬用タイヤを装着してください。

冬用タイヤについて → 6-18 ページ参照
タイヤチェーンの取り扱い
→ 6-20 ページ参照

砂地やぬかるみの走行



走行中の急ブレーキ、急加速および急ハンドルを避けて、できるだけ低速で走行してください。
砂地やぬかるみでは路面状態がわかりにくいため、深みにはまる場合がありますので、必要なら車から降りて路面状態を確認してください。

知 識

・やむを得ずひどいぬかるみを走行するときは、タイヤチェーンを装着すると有効です。

水の中の走行

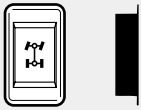
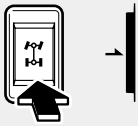


水に対して万全ではありません。水の中の走行は避けてください。

⚠ 注 意

- やむを得ず水の中を走行するときは、必ず深さを確認しながら、ゆっくりと一定速度で走行してください。また、他の車両の走行などによって水面に波が立っている場合は、さらに速度を落とし慎重に走行してください。
- エアインテークダクト（空気取り入れ口）や排気管からエンジン内部に水が入るとエンジンを破損するおそれがあります（ウォーターハンマー現象）。
- やむを得ず水の中を走行した場合、ただちに《日産販売会社》で以下の項目の点検を受けてください。
  - 水を吸い込んでのエンジン破損
  - 電装部品のショート
  - ブレーキの効き
  - ドラムブレーキ、ディスクブレーキの損傷
  - クラッチ部品の浸水や損傷
  - エンジン、トランスミッション、デファレンシャル、トランスファーのオイル量や変質（白濁など）
  - 各部のグリースアップ（給油脂）

2WD（後輪駆動）⇔4WD（4 輪駆動）切り替えのめやす

駆動方式	2WD	4WD
4WD スイッチ		
4WD 表示灯	消　灯	点　灯
使用条件	一般道路および高速道路などの通常走行。	積雪路、凍結路および急坂道など、路面の状態が 2WD では困難な場合の走行。

駐・停車するとき

アドバイス

- 駐・停車が許可されている平らで他の交通の妨げにならない場所を選んでください。このとき、パーキングブレーキを確実に効かせ、車が動かないことを確認してください。
- 荷物を積んでの長時間駐車は避けてください。
- 車の各ランプのレンズや反射器の汚れは良くふき取り、他の車などからの視認性があがるようにしてください。

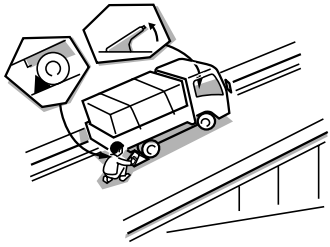
パーキングブレーキをかけるときは

アドバイス

- 緊急時を除き、パーキングブレーキは車が完全に停止してからかけてください。停止する前にパーキングブレーキをかけるとタイヤがロックしたり、車両姿勢が不安定な状態（横滑りなど）になり、思わぬ事故を招くおそれがあります。また、車が故障する原因となります。

パーキングブレーキレバー
→ 4-97 ページ参照

坂道駐車は確実に



⚠ 注 意

・坂道での駐車はできるだけ避け、平らな場所を選んでください。やむを得ず坂道で駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせ車が動かないことを確認し、安全のためタイヤに輪止めをかける等の駐車措置をしてください。

・万一、車が動き出した場合のことを考え、障害物（縁石など）側へハンドルを回してください。

ギヤイン駐車するには
→ 4-111 ページ参照

ヒルスタートアシスト装置（坂道発進補助装置）を使って駐車しないで



⚠ 注 意

・ヒルスタートアシストは車を一時的に停止させるための装置で、パーキングブレーキではありません。駐車の際には、必ずパーキングブレーキをしっかり効かせてください。

ヒルスタートアシスト
（坂道発進補助装置）★
→ 4-122 ページ参照

車内で仮眠するときは



⚠ 警 告

仮眠するときは、必ずスタータースイッチを“LOCK”位置にしてエンジンを停止してください。無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりすると車が動き出し、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

- 無意識にアクセルペダルを踏み続けるとオーバーヒートなどを起こしたり、エンジンや排気管などの異常過熱による火災事故が起こるおそれがありますので注意してください。
- 風通しの悪い所などや、周囲の状況によっては排気ガスが車内に入り一酸化炭素中毒になるおそれがありますので注意してください。

燃えやすいものはないですか



⚠ 注 意

- エンジンがかかっているときや DPF 再生中、および走行直後の排気管は高温になっています。草木や枯れ草、紙くず、油、古タイヤなど燃えやすいものがないことを確認してから駐車してください。特に、車庫内に駐車する場合は注意してください。
- アイドリング中、特に PTO 使用時または DPF 再生中は排気ガスの熱に注意してください。

DPF の手動再生手順 → 4-229 ページ参照

エンジンをかけたまま駐停車するときは

⚠ 警 告

・エンジンをかけたまま駐停車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせて以下の操作、確認を行ってください。無意識にアクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故を起こすおそれがあります。

- マニュアルトランスミッション車は、シフトレバーを“N”位置に操作してギヤをニュートラルにしてください。
- AMT 車は、シフトレバーを“N”位置に操作してシフトインジケーターの「N」表示を確認してください。

⚠ 注 意

・エンジンをかけたまま駐停車するときは、DPF が自動的に再生を行う場合があります。火災防止のため、マフラー、DPF、尿素 SCR および排気管の周辺に燃えやすいものがないことを確認してください。また、高温の排気ガスによりやけどをするおそれがあります。

停車中はシフトレバーを動かさないで

⚠ 警 告

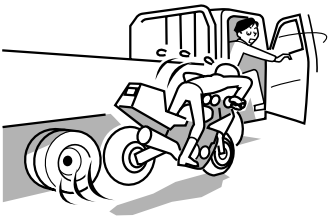
・アイドリングで停車しているときにシフトレバーを動かさないでください。レバーを動かすとギヤが入りパーキングブレーキを使用していても車が動き出すことがあります。特に席を移動するときなどにシフトレバーにぶつかって車が動き出し思わぬ事故を起こすおそれがあります。

車の移動は必ずエンジンを始動して

⚠ 注 意

・エンジンを始動していないときは、パワーステアリング装置が働かないためハンドル操作が重くなります。また、ブレーキ装置も働かず通常に比べ効きが悪くなります。また、下り坂を利用しての車の移動は確実に車を操作できず、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

ドアを開けるときは周囲の確認



⚠ 注 意

・ドアを開けるときは前後・左右の安全を十分確かめてください。いきなり開けると後続車や歩行者にぶつかるおそれがあり危険です。

車から離れるときは

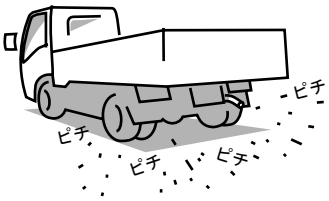
⚠ 警 告

・必ずパーキングブレーキを効かせエンジンを停止し、ドアを施錠してください。また、車外から見えるところに貴重品を置かないでください。

・お子様が同乗しているときは、車内にお子様を残さないでください。運転装置や装備品を触って車が発進したり、火災など思わぬ事故を起こすおそれがあります。また、炎天下の車内は高温となり非常に危険です。

・メガネやライターを車内に放置しないでください。放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・フレームの変形やひび割れを起こすことがあります。

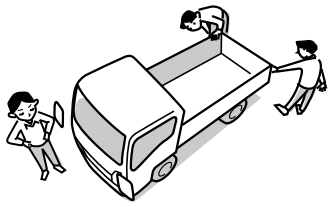
マフラーのピチピチ音について



知 識

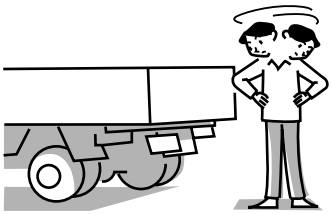
・走行後、エンジンを止めると、マフラーからピチピチという音がすることがありますが、これはマフラーが冷えて収縮するときの音で車の異常や故障ではありません。

駐車後に発進するときは



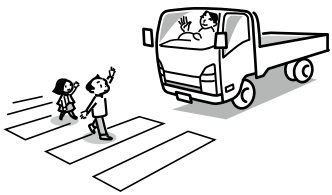
車の周囲に子供がいないこと、また、障害物がないことなど、安全確認を十分に行ってから発進してください。

後退するときは



十分な後方の視界が得られず安全を確認できない場合は、車から降りて後方を確認してから後退してください。

停車後に発進するときは

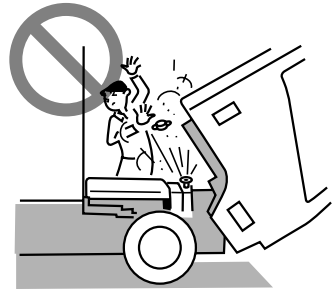


⚠ 注 意

・信号待ちなどで停止したときは、周囲の状況に目を配り、安全確認を十分に行ってから発進する習慣を身につけてください。

こんなときは気をつけて

エンジン冷却水が熱いときは



⚠ 警 告

・ラジエーターやリザーブタンクのキャップをゆるめたり、外したりしないでください。いきなり開けると蒸気や熱気が吹き出し危険です。

冷却水 → 7-50 ページ参照

サイレンサーや排気管が熱いときは

⚠ 注 意

・エンジンがかかっているときや DPF 再生中、および走行直後の DPF、尿素 SCR、サイレンサー、排気管は高温になっています。チルトキャブ操作、架装物の操作などのため、近くで作業する場合は誤って触れないよう十分に注意してください。やけどをするおそれがあります。

ガスライターにも注意

⚠ 警 告

・操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたままにしないでください。荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して、火災につながるおそれがあります。

灰皿を使用した後は

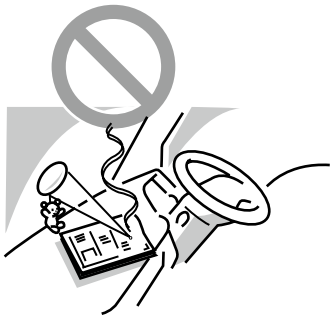


⚠ 警 告

・灰皿は必ず閉めてください。吸いがらの火が消えていなかったとき、他の吸いがらに燃え広がり火災を招くおそれがあります。
・灰皿の中に吸いがらをため過ぎたり、燃えやすいものを入れたりしないでください。
・火のついたタバコや吸い殻は、車外へ投げ捨てないでください。道路やその周辺を汚すばかりでなく、捨てたタバコや吸い殻から火災が発生するおそれがあります。

灰皿★ → 5-25 ページ参照

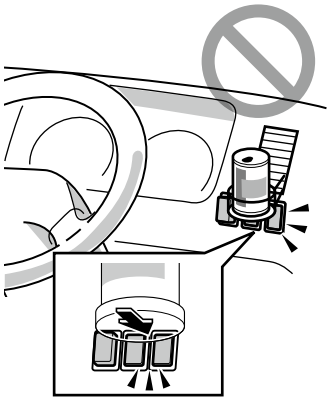
ウインドーガラスなどにアクセサリーを取り付けないで



⚠ 警 告

・安全運転の妨げになりますので装飾板やフィルムなどを取り付けないでください。また、アクセサリーの吸盤がレンズの働きをして、火災など思わぬ事故の原因になります。

スイッチを必要以上に押し続けないで



⚠ 注 意

・異常な状態であるとシステムが判断して警告灯が点灯したり、システムが ON/OFF されるなど意図しない操作が行われる場合があります。

運転中の携帯電話の使用はやめて



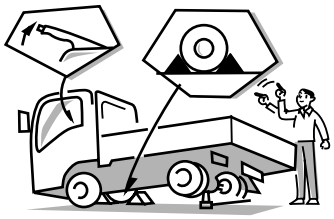
⚠ 注 意

・運転中に運転者がハンズフリー以外の携帯電話や自動車電話を使用することは法律で禁止されています。
・運転者が使用するときは、安全な場所に車を停車し、使用してください。
・運転中の使用は、周囲の状況に対する注意が不足し、思わぬ事故を招くおそれがあります。

ジャッキを使用するときは

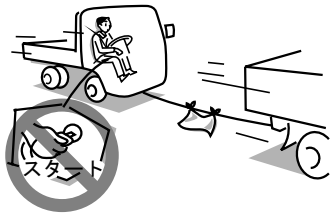
⚠ 警 告

- 傾斜地や、やわらかな地面でのジャッキアップは大変危険です。必ず、平坦で、かたい場所で行ってください。
- ジャッキを正しい位置にセットしてください。また、パーキングブレーキ、輪止めを忘れずに必ずしてください。
- 後輪をジャッキアップする場合、パーキングブレーキは効きません。正しい位置に輪止めをしないと車が動き危険です。
- ジャッキアップ中は、危険ですから、車の下をのぞき込んだり、もぐり込んだりしないでください。



車載工具 → 7-7 ページ参照
ジャッキの取り扱い → 7-12 ページ参照

バッテリーがあがったときは



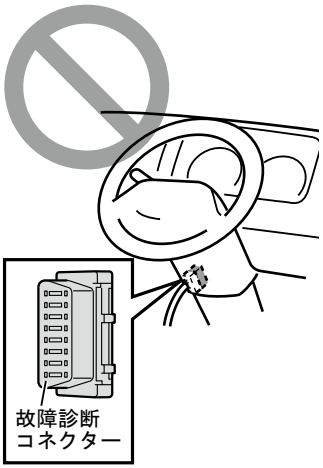
⚠ 注 意

- 車を押したり、けん引したりしてエンジンを始動しないでください。エンジンを破損するおそれがあります。

バッテリーがあがったとき
→ 8-6 ページ参照

お車の故障を防ぐために

故障診断コネクターに故障診断用装置以外を接続しないで



アドバイス

・故障診断コネクターは点検整備のための故障診断用装置を接続するためのものです。それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーが上がるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

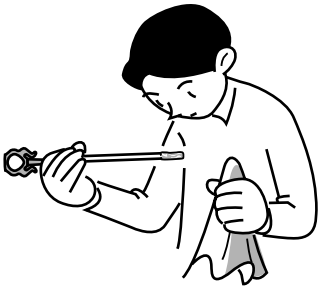
クラッチペダルの足乗せ運転はしないで（マニュアルトランスミッション車）



アドバイス

・知らない間に半クラッチの状態になり、クラッチ板が摩滅してクラッチすべりの原因になります。また、上り坂などの一時停止のとき半クラッチ状態にしてブレーキ代わりにしないでください。

エンジンオイルは汚れていませんか



アドバイス

・エンジンオイルには次の大切な働きがあります。
- エンジン各部の摩耗を防ぎます。
- エンジン各部の冷却を行います。
- エンジン各部をクリーニングします。
- 燃焼室の気密性を保ち、さびの発生を防ぎます。

エンジンオイルの交換は定期的に行ってください。

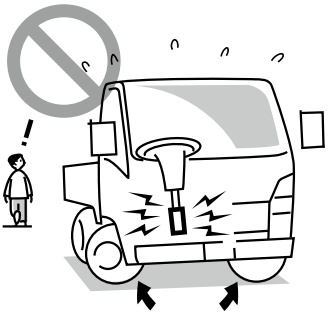
日常（運行前）点検 → 7-38 ページ参照
エンジンオイル → 7-43 ページ参照
メンテナンスデーター一覧 → 7-24 ページ参照

エンジンの上に乗らないで

アドバイス

・エンジンルームはお車の心臓部です。エンジンに足をかけたり、乗ったりしないでください。ヘッドカバー、各種コネクターの破損など故障につながるおそれがあります。

ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないで



⚠ 警 告

・パワーステアリングオイルポンプのオイルが高温になり潤滑不良を起こしたり、オイルタンクの損傷やシールの劣化を招き、パワーステアリングオイルポンプやパワーステアリングユニット、パワーステアリングホース等を損傷するおそれがあり、ハンドルが急に重くなったり、火災など思わぬ事故の原因になります。

定期点検整備を必ず行ってください



アドバイス

・点検整備を実施していただくことにより、安心してご使用いただけます。また、お車の寿命を延ばすことにもなります。

日常（運行前）点検 → 7-38 ページ参照
エンジンオイル → 7-43 ページ参照
メンテナンスデーター覧
→ 7-24 ページ参照

こんなときには《日産販売会社》へ

改造はしないで

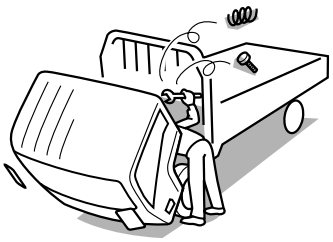
⚠ 注 意

・車の性能や機能に適さない部品を取り付けると、思わぬ故障や事故を招くおそれがあります。エンジンなどの調整や、部品の取り付けについては、《日産販売会社》にご相談ください。
・日産自動車が国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると違反になることがあります。アクセサリーなどを取り付けるときは《日産販売会社》にご相談ください。





エンジン調整は《日産販売会社》で



⚠ 注 意

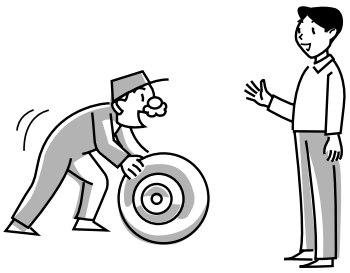
・自己流のエンジン調整はしないでください。
必ず、最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。

電気溶接をするときは

アドバイス

・不用意に車両各部に電気溶接を行うと溶接電流が車両のアース回路を逆流し、各種電装品、電子部品を破損させ正常な機能を果たせなくなるおそれがあります。電気溶接をするときは、最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。

タイヤ、ホイールを交換するときは

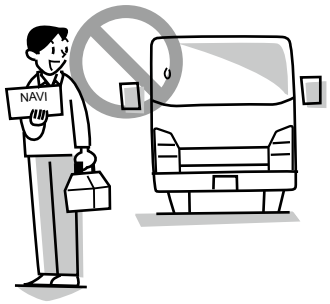


⚠ 警 告

・《日産販売会社》にご相談ください。専用以外のホイールの使用、種類の違うタイヤを混ぜての使用、指定サイズ以外のタイヤの使用、または交換する際にタイヤ、ディスクホイールの点検を怠ると思わぬ事故や車の安全走行に悪影響をおよぼします。
・タイヤの交換作業は必ず“**タイヤの交換**”を参照して行ってください。

タイヤ → 7-87 ページ参照
タイヤの交換 → 7-93 ページ参照

電装品を取り付けるときは



警 告

・カーナビゲーションシステムや無線機、その他市販のオーディオなど電装品の電気配線は、サービスコネクターより指定の方法で行ってください。不適切な配線を行うと、他の電装品に悪影響を与え故障の原因になるおそれや、電線の過熱により火災を招く危険があります。また、SRS エアバッグが思いがけずにふくらんだりして危険です。電装品の取り付け、取り外しは必ず《日産販売会社》で行ってください。

サービスコネクターについて
→ 7-35 ページ参照

アドバイス

【無線機を取り付けるときは】

・認可されていない無線機、または規格外の無線機やアンテナは取り付けないでください。無線機から出るノイズは、車両の電子部品等のシステムに電波障害を与えるため、車両故障や各電子部品の誤作動の原因となるおそれがあります。無線機の取り付けについては、最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。

DPF について

DPF（ディーゼルパティキュレートフィルター）は排気ガス中の PM（粒子状物質）を浄化するものです。DPF フィルターに PM を捕集し、一定量堆積すると自動的にフィルターを再生（PM を燃焼）させます。DPF の故障を防ぐため、必ず次の点をお守りください。

⚠ 警 告

- エンジンがかかっているときやフィルターの再生（PM を燃焼）中、および走行直後の DPF、尿素 SCR、マフラー、排気管や排気ガスは高温になっています。誤って触れないよう十分注意してください。やけどをするおそれがあります。
- 草木や枯れ草、紙くずなど燃えやすいものが近くにあると火災の原因になります。
- 車両の整備作業時はやけどのおそれがありますので、エンジンを停止してエンジンが十分に冷えたことを確認してください。

⚠ 注 意

- DPF 装着車に超低硫黄軽油または低硫黄軽油以外の軽油を使用した場合、道路運送車両法の保安基準に適合しなくなるおそれがあります。

アドバイス

- エンジンオイルは日産純正ディーゼルエンジンオイル DL-1 を使用してください。日産純正ディーゼルエンジンオイル DL-1 以外を使用すると DPF フィルターの清掃までの期間が短くなり燃費が悪化するなどのおそれがあります。
- 燃料は必ず超低硫黄軽油または低硫黄軽油をご使用ください。粗悪な燃料、水抜き剤、その他の燃料添加剤、ガソリン、灯油、アルコール系燃料を補給したり混合して使用するとフューエルフィルターおよびインジェクター内の燃料潤滑部分の摺動不良になるほか、エンジン各部に悪影響を与え、故障の原因になるおそれがあります。
- DPF、尿素 SCR、マフラー、排気管の改造はしないでください。
  排気管の向きや長さ、径を変更すると、排気ガス浄化機能に悪影響をおよぼしますので、改造は行わないでください。架装上やむを得ず改造が必要な場合は《日産販売会社》へご相談ください。

知 識

・DPF はフィルター内に PM（粒子状物質）が一定量堆積すると自動的にフィルターの再生（PM の燃焼）を行いますが、走行条件によっては再生が完了しない場合があります。このときに「DPD スイッチ押して下さい」表示（橙）が点滅し、同時に音声警報が鳴ります。手順に従って手動再生を行ってください。なお、これは DPF の機能を回復するものであり、故障ではありません。

・DPF 再生中でのアイドル停車中は、排気ブレーキまたは排気スロットルが作動します。排気ブレーキまたは排気スロットル作動中および解除時に作動音が発生しますが、故障ではありません。

・DPF 再生中には PM（粒子状物質）の燃焼にともない、白煙が一時的にテールパイプから発生する場合がありますが、故障ではありません。また、換気の悪い屋内での手動再生は、行わないでください。

・アイドリングストップ付車は、DPF 再生中および再生後 10 ～ 15 分程度はアイドリングストップしませんが故障ではありません。

・新車から一定距離を走行すると DPF 再生中に白煙が発生する場合がありますが、故障ではありません。なお、ご購入直後は白煙が出ないことがあります。

・テールパイプから排気ガスのにおいがする場合がありますが、浄化機能によるものであり故障ではありません。故意に吸い込んだり、においをかいだりしないでください。

・長時間の連続アイドリング時に一定時間放置されると、白煙発生防止のため排気ブレーキまたは排気スロットルが作動することがあります。

DPF → 4-227 ページ参照
エンジンオイル → 7-43 ページ参照
排出ガスには十分に気をつけて
→ 2-17 ページ参照

点検と整備

DPF の故障を未然に防ぐため、必ず定期的に排気圧力と配管の点検を行ってください。点検結果によってはフィルターや配管の清掃が必要となります。点検、整備が行われない場合、DPF およびエンジンの故障や燃費悪化の原因になります。点検、整備については最寄りの《日産販売会社》へお申し付けください。
もし、次のような現象が発生したときは、表に従って点検、処置をします。ご自分で修理できないときや、本表の処置で直らないとき、故障箇所がわからないときは、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

現　象	原　因	処　置	参照ページ
排気煙が白い	暖機運転不足	暖機運転を行う	4-79 4-80
	エンジンオイルの入れすぎ	適正なオイル量にする	7-43
	エンジンコントロール系が故障している	◎	—
	燃料系統が故障している	◎	—
	長時間アイドリング状態が連続した（約 2 時間以上）	停車したまま他の交通の障害とならないようアクセルペダルを踏み込み白煙が排出しないことを確認する	—
排気煙が黒い	エンジンコントロール系が故障している	◎	—
	エアクリーナーが詰まっている	エレメントを清掃するか交換する	7-65
	燃料系統が故障している	◎	—
	排気系統が詰まっている	◎	—
	DPF が故障している	◎	—

アドバイス

処置欄の◎は修理、調整が必要ですので、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

尿素 SCR システムについて

尿素 SCR システムは、排気ガス中の窒素酸化物（NOx）を浄化するシステムです。尿素水（AdBlue® 相当）を排気ガスの熱で加水分解し、アンモニア（NH_3）を生成します。生成したアンモニアを還元剤として窒素酸化物を還元し、窒素と水に分解して浄化するシステムです。

⚠ 注 意

・マフラーから出てきた水には触れないでください。皮膚に付着したときは、水で十分に洗い流してください。

アドバイス

・排気ガス浄化性能に影響をあたえるおそれがあるため、排気管、マフラーの改造や尿素水タンクなどの移設は行わないでください。改造や移設が必要な場合は、最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。

知 識

・テールパイプから排気ガスのにおいがする場合がありますが、浄化機能によるものであり故障ではありません。故意に吸い込んだり、においをかいだりしないでください。

【AdBlue® とは】

・AdBlue® はドイツ自動車工業会（VDA）の登録商標です。

排出ガスには十分に気をつけて
→ 2-17 ページ参照

尿素水（AdBlue® 相当）の取り扱い

尿素水（AdBlue® 相当）は、無色透明、無害の水溶液です。状況によってはにおいがする場合がありますが異常ではありません。

⚠ 注 意

・尿素水（AdBlue® 相当）は、身体に触れても問題はありませんが、体質によってはまれに炎症を起こすおそれがありますので、以下の処置を行ってください。
- 皮膚に付着したときは、水で洗い流してください。皮膚の弱いかたなどは、まれに皮膚を刺激する場合があります。
- 誤って飲んでしまったときは、コップ 1 ～ 2 杯の水または牛乳を飲み、ただちに医師の診断を受けてください。
- 目に入ったときは、すぐに大量の水で 15 分以上洗い流し、医師の診断を受けてください。

指定された尿素水（AdBlue® 相当）を入れていますか

・日産指定の尿素水（AdBlue® 相当）を使用してください。
- 尿素水（AdBlue® 相当）は、JIS（日本工業規格）AUS 32 JIS K2247、または ISO（国際標準化機構）AUS 32 ISO 22241 の規格に適合した尿素水（AdBlue® 相当）を使用してください。

尿素水（AdBlue® 相当）を保管するとき

・尿素水（AdBlue® 相当）は水分が蒸発しないように容器を密封し、直射日光があたらない風通しの良い屋内などで保管してください。
・尿素水（AdBlue® 相当）を保管する場合、保管場所の室温によって使用できる期間が変わります。くわしくは、購入元にお問い合わせください。

知 識

・尿素水（AdBlue® 相当）は凍結しても、溶ければ品質に変化はありません。そのまま使用できます。
・尿素水（AdBlue® 相当）を保管、携帯する場合は尿素水（AdBlue® 相当）購入時の容器を使用してください。また他の容器を使用する場合は、専用容器を準備し、水やゴミなどの異物が付着していないきれいなポリエチレン樹脂タンク（PE）またはステンレス鋼の容器をご使用ください。

尿素水（AdBlue® 相当）を補給するとき

⚠ 警 告

・尿素水タンクには､尿素水（AdBlue® 相当）以外のものを入れないでください。
・尿素水（AdBlue® 相当）を補給するときは、次のことを行うと火災や尿素 SCR システムの故障になるおそれがあります。
  - 水などで希釈する。
  - ガソリンや軽油などを入れる。
・誤って指定の尿素水（AdBlue® 相当）以外のものを補給したときは、尿素 SCR システムの点検が必要です。ただちに《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。

⚠ 注 意

・まれに尿素水タンクキャップを開けたときに、においがする場合があります。補給口などからにおいをかがないでください。

アドバイス

・尿素水（AdBlue® 相当）の補給は、常に満水になるように早めの補給を心がけてください。尿素水（AdBlue® 相当）が空になるとエンジンが再始動できなくなります。
・尿素水タンクキャップを開けるときは、尿素水タンク内に泥などが混入しないようにしてください。泥などが混入するとサプライモジュールが詰まったり尿素水（AdBlue® 相当）が品質異常になり、尿素 SCR システムの故障の原因になります。
・尿素水（AdBlue® 相当）をレベルゲージの“F”線以上補給しないでください。走行中にブリーザーホースから尿素水（AdBlue® 相当）が漏れるおそれがあります。また、尿素水（AdBlue® 相当）が凍結したときにセンサー類が破損するおそれがあります。
・尿素水タンクに足を掛けたり、上に乗らないでください。尿素水タンク、パイプやセンサー類が破損します。
・尿素 SCR システムは、スタータースイッチを“LOCK”位置にした後も約 2 分間は作動し続けます。点検や修理のためにバッテリーや電気系統のコネクターを取り外す場合には、3 分間以上待ってから作業してください。

知 識

・尿素水タンク正面のレベルゲージは、尿素水（AdBlue® 相当）の入れ過ぎやあふれを防ぐために取り付けられていますので、尿素水残量を量るものではありません。また、尿素水（AdBlue® 相当）の液面がレベルゲージの下端に達しても、メーターパネル内の尿素水量表示では、4 段階もしくは 5 段階を示します。尿素水残量は、レベルゲージではなく尿素水量表示で確認してください。

・エンジン停止後、尿素水タンクから作動音が聞こえることがありますが、これは配管内の尿素水（AdBlue® 相当）を尿素水タンクに戻している音で異常ではありません。

尿素水タンク → 3-33 ページ参照

尿素水（AdBlue® 相当）を廃棄するとき

尿素水（AdBlue® 相当）および空容器を湖沼、海域、河川等へ廃棄しないでください。廃棄する場合は、都道府県知事に許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託し、適切に処理してください。

プリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグシステムについて



プリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグシステムは、一定以上の衝撃が加わる前面衝突時に、プリテンショナー付シートベルトとSRS エアバッグを作動させ、運転者や助手席乗員（助手席用 SRS エアバッグ装着車）の身体をシートに確実に拘束しつつ、頭部への衝撃を緩和させる装置です。プリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグの衝撃により、命にかかわる重大なケガをしないよう以下のことを必ずお守りください。

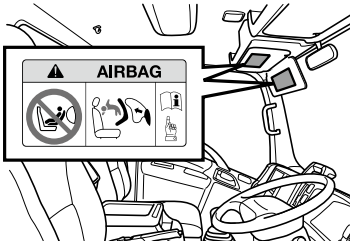
⚠ 警 告

・運転をする前に、正しい運転姿勢になるようにシートの位置を調整し、シートベルトを正しく着用してください。必要以上にハンドルに近すぎたり、もたれかかったりしないでください。また、助手席用 SRS エアバッグ付車はインストルメントパネルに手や足を乗せたり、顔や胸を近づけた姿勢で座らないでください。
エアバッグが作動したときの衝撃により、腕や顔面などにやけどや、重大なケガをするおそれがあります。

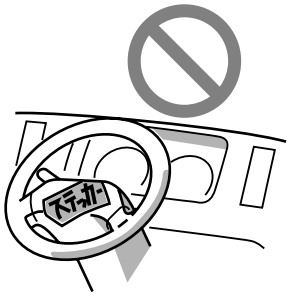
・ひざの上にものをかかえるなど乗員と SRS エアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。SRS エアバッグがふくらんだときに、ものが飛ばされ顔に当たったり、SRS エアバッグの正常な作動がさまたげられ危険です。

・お子様を同乗させるときは、必ず次のことをお守りください。SRS エアバッグがふくらんだときの衝撃により、お子様の生命にかかわる重大な傷害をうけるおそれがあります。

- お子様を助手席用 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態で走行しないでください。助手席用 SRS エアバッグがふくらんだときに強い衝撃をうけ危険です。
- 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、絶対にチャイルドシートをうしろ向きに装着しないでください。事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだときの衝撃により、お子様が重大な傷害をうけたり、最悪の場合は死亡につながるおそれがあります。助手席のサンバイザー（日よけ）に警告ラベルが貼りつけてありますので、確認してください。



シート → 3-40 ページ参照
シートベルト → 3-57 ページ参照
プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグシステム → 4-217 ページ参照





⚠ 警 告

- 不正な改造や用品を取り付けるとプリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグが正常に作動しない場合があります。
- 正規以外のハンドルに交換したり、パッド部にステッカーなどを貼ると作動不良やステッカーが飛ぶおそれがあり危険です。またインストルメントパネル上面にステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤など物を置かないでください。正常に機能しなくなったり、作動時にこれらの物が飛ぶことがあり危険です。
- 下記の事項を行う場合は特別な処置が必要になる場合がありますので、《日産販売会社》にご相談ください。プリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグが不意に作動し、シートベルトが巻き込んだり、SRS エアバッグがふくらみケガをするおそれがあります。またシステムに悪影響を与え作動不良や故障の原因になります。
  - ハンドル、インストルメントパネル、センターコンソール、クラッチペダル、ブレーキペダル周辺の修理・交換する場合。
  - プリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグの修理・交換・廃棄、またプリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグ装着車を廃棄する場合。
  - オーディオ機器や用品の取り付け、また架装などを行う場合。
  - 車両前部、およびキャブの板金塗装を行う場合。

EDR 機能について

この車両は、SRS エアバッグシステム（SRS エアバッグシステム装着車）、インテリジェント エマージェンシーブレーキおよび踏み間違い衝突防止アシスト（AMT 車）を制御するコンピュータを搭載しています。
このコンピュータは、SRS エアバッグシステム、インテリジェント エマージェンシーブレーキおよび踏み間違い衝突防止アシストが正常に作動しているかどうかを常に診断しています。SRS エアバッグシステムについては車両が衝突したときや衝突に近い状態のときの車両データを、インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムおよび踏み間違い衝突防止アシストについては作動時の車両データを記録・蓄積する EDR（イベントデータレコーダ）機能を備えています。

EDR の記録

SRS エアバッグシステム
EDR は、衝突したときや衝突に近い状態のときに、次の情報を記録します。
- 運転席のシートベルト装着の有無
- エアバッグシステムの作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報
- 運転状態

インテリジェント エマージェンシーブレーキ / 踏み間違い衝突防止アシスト★
EDR は、インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムおよび踏み間違い衝突防止アシストが作動したときに次の情報を記録します。
- 車両前方のセンシング情報
- 車速
- ハンドル、アクセルペダル、ブレーキペダル等の操作状況
- その他の車両状態

知 識

- EDR は、一般的なデータレコーダとは異なり、会話等の音声や映像は記録しません。

記録されたデータについて

弊社および弊社が委託した第三者は、EDR に記録されたデータを弊社の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得・利用することがあります。
なお、弊社および弊社が委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。
- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合

走行支援システムについて

走行支援システムとは走行の安全性や運転性能を高め、次の装置によって運転者の判断を助け、安全・快適な運転を可能にする運転支援システムです。

⚠ 警 告

・走行支援システムは自動運転 / 自動衝突回避システムではありません。運転するときは常に周囲の状況に注意し、安全運転を行ってください。

LDW（車線逸脱警報）

LDW（車線逸脱警報）は車内搭載のカメラにより、車線に対する車両位置を検出し、車線を逸脱した場合に警報音とマルチディスプレイ表示、LDW（車線逸脱警報）警告灯の点滅による警告を促し、わき見運転や居眠り運転による事故の抑制に貢献します。

LDW（車線逸脱警報）
→ 4-150 ページ参照

インテリジェント エマージェンシーブレーキ

インテリジェント エマージェンシーブレーキは、カメラにより先行車や渋滞末尾等の停止車両を検知し、運転者に危険回避を促します。接近に対し、警報音とマルチディスプレイ表示による警告を発し、さらに追突が避けられない場合は、自動的に緊急ブレーキを作動させて衝突速度を低減し、被害の軽減を図ります。

インテリジェント エマージェンシーブレーキ → 4-159 ページ参照

車間距離警報

車間距離警報は、カメラにより先行車との車間距離を検知し、車両が安全な範囲を超えて接近した場合に警報音とマルチディスプレイ表示で運転者に注意を喚起し、危険回避を促します。

車間距離警報 → 4-169 ページ参照

踏み間違い衝突防止アシスト★

踏み間違い衝突防止アシストは、停車中にカメラが車両の前方に障害物を認識している状態で、ペダルの踏み間違いなどによりアクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断したときに、エンジン出力を制限し発進を緩やかにすることで、衝突時の被害の軽減を図ります。また警報音とマルチディスプレイ表示で運転者に注意を喚起し、危険回避を促します。

踏み間違い衝突防止アシスト★
→ 4-176 ページ参照

先行車発進お知らせ

先行車発進お知らせは、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、警報音とマルチディスプレイ表示で運転者にお知らせします。

先行車発進お知らせ →4-185 ページ参照

交差点警報★

交差点進入時および右左折時に、接近する移動物の認識を支援するシステムです。レーダーセンサーを使用して移動物を検知し、接近状態に応じてピラー部の交差点警報ランプやブザーでドライバーに注意を促します。

交差点警報★ →4-191 ページ参照

各部の開閉と調整について 3

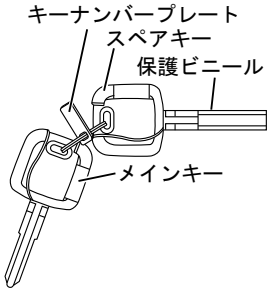
● キー	3-2
● リモートコントロールエントリーシステム★	3-5
● インテリジェントキー★	3-11
● ドアの開閉	3-20
● 乗降について	3-26
● パワーウインドー★	3-27
● 手動式ウインドー★	3-29
● OK ウインドー★	3-30
● 燃料給油口	3-31
● 尿素水タンク	3-33
● 荷台★	3-36
● 車外ツールボックス★	3-39
● シート	3-40
● チルト&テレスコピックステアリング（上下、前後調整式ハンドル）	3-45
● ミラー	3-46
● シートベルト	3-57

キー

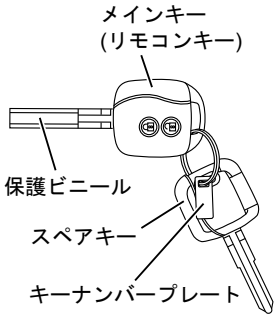
キーの種類

キーは溝が左右対称になっていますので、裏表を問わず差し込むことができます。お客様以外にキーナンバーがわからないように、キーナンバープレートにキーナンバーが打刻してあります。

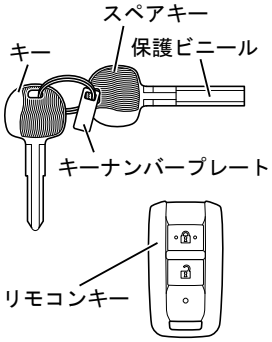
イモビライザーキー

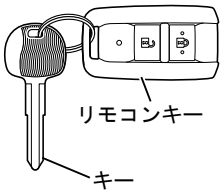


リモートコントロールエントリーシステム



インテリジェントキー





知 識

【インテリジェントキー付車】

・リモコンキーの電池切れや故障などを考慮し、キーとリモコンキーは一緒に携帯してください。

使用箇所

使用箇所	目　的
スタータースイッチ	エンジン始動・停止
フロントドア	施錠・解錠
燃料給油口	

アドバイス

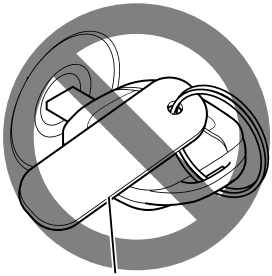
・キーを使用する際は、汚れやゴミなどをふき取ってからご使用ください。

知 識

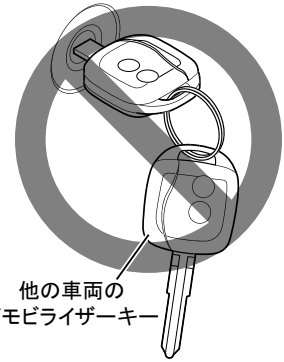
・盗難防止のため、キーナンバープレートは車両以外の場所に大切に保管してください。
・万一キーを紛失したときは、キーナンバーを《日産販売会社》へご連絡いただければ、同じものを作ることができます。
・車両をゆずられるときは、次に所有されるかたのために、キーナンバープレートを必ずつけておいてください。

イモビライザー機能

キーにはイモビライザー機能（車両盗難防止装置）が付いています。
イモビライザー機能とは、キーに信号を発信する部品を組み込みあらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができないようにした機能です。



金属製のキーホルダーなど



他の車両の
イモビライザーキー

エンジンが始動できないとき

次のような場合、車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンの始動ができないことがあります。金属製のキーホルダーなどが原因でエンジンが始動できない場合は、キーを正常な状態に戻した後、もう一度スタータースイッチを“ACC”または“LOCK”位置にしてから、再度スターターを回してエンジンを始動してください。

- 近くに強い電波を発する設備があるとき。
- キーの本体部分が金属に触れていたり、覆われているとき。
- 他の車両のイモビライザー機能付のキーが近くにあるとき。

⚠ 警 告

- スターターを約 10 秒以上連続して回し続けないでください。バッテリー、スターターの故障の原因や過熱など火災の原因になるおそれがあります。

アドバイス

- イモビライザー機能付キーを紛失したときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。
- リモコンキーの電池交換以外でイモビライザー機能付キーを分解しないでください。
- イモビライザー機能付キーをダッシュボードの上など高温（60℃以上）になる場所へ放置しないでください。
- イモビライザー機能付キーを磁気を帯びたものに近づけないでください。

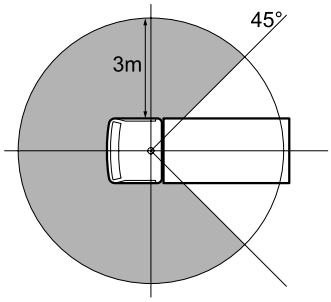
リモートコントロールエントリーシステム★

リモートコントロールエントリーシステムとは、リモコン操作によりキーを差し込まずにドアの施錠、解錠ができるシステムです。

⚠ 注 意

・リモコンキーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。
- 電池交換時以外は、分解しないでください（分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています）
- 必ず日本国内で使用してください

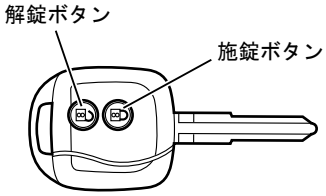
リモコンキーの作動範囲



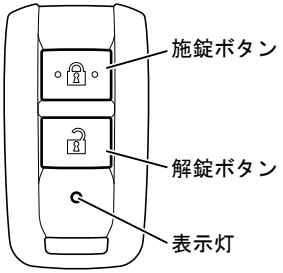
リモコンキーは、キャブから 3m 以内で作動します。

リモコンキーによる施錠と解錠

リモコンキー（リモートコントロールエントリーシステムキー）



リモコンキー（インテリジェントキー）



ドアの解錠

リモコンキーの解錠ボタンを 1 秒以上押し続けてから離します。車両がリモコンキーの信号を受け取ると左右のターンシグナルランプ（方向指示器）が同時に 2 回点滅します。またルームランプスイッチの位置が“DOOR”のとき、ルームランプが約 20 秒間点灯します。

ドアの施錠

リモコンキーの施錠ボタンを 1 秒以上押し続けてから離します。車両がリモコンキーの信号を受け取ると左右のターンシグナルランプ（方向指示器）が同時に 1 回点滅します。

アドバイス

- リモコンキーを紛失したときは《日産販売会社》へご連絡ください。
- リモコンキーのボタン操作で施錠したときは、必ずドアハンドルを引いて、施錠していることを確認してください。
- リモコンキーを水にぬらしたり、落としたり、ぶつけたり、踏んだりすると故障の原因になります。
- リモコンキーをダッシュボードの上など高温（60℃以上）になる場所に置かないでください。電池寿命の低下や故障の原因になります。
- 施錠、解錠の繰り返し動作を連続して 10 回以上行うと保護回路が作動し、動かなくなることがありますが、少し時間をおくと再び施錠、解錠ができるようになります。
- 万一、装置に異常が生じた場合は、キーによる施錠、解錠を行い、《日産販売会社》で点検を受けてください。

知 識

・解錠ボタン、施錠ボタンは 1 秒以上確実に押し続けてください。
・インテリジェントキー付車は、施錠ボタンまたは解錠ボタンを押すと、リモコンキーの表示灯が点灯します。
・解錠ボタンを押してドアが解錠しても、約 30 秒以内にドアを開けない場合は、盗難防止のためオートロック機構が作動して、自動的にドアは施錠されます。
・ルームランプスイッチの位置が“DOOR”の場合、ルームランプが点灯しているときに施錠を行うと、ランプが消灯します。
・TV 塔や発電所、放送局など電波の強い地域や、車両の周囲の状況、電波ノイズなどにより作動範囲が変わったり、作動しない場合があります。

【インテリジェントキー無車】
・次の場合、リモートコントロールエントリーシステムは作動しません。
  - スタータースイッチが“ON”位置のとき
  - スタータースイッチにキーが差し込まれているとき
  - ドアが開いているとき

【インテリジェントキー付車】
・次の場合、リモートコントロールエントリーシステムは作動しません。
  - スタータースイッチが“ACC”または“ON”位置のとき
  - ドアが開いているときに施錠ボタンを押したとき

リモコンキー（リモートコントロールエントリーシステムキー）の電池交換

ボタンを操作しても、作動が不安定になったり、作動しなくなったときは、電池の消耗が考えられます。新しい電池に交換してください。

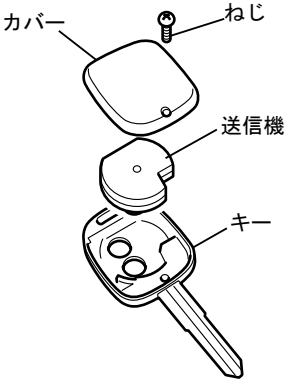
使用電池	
リチウム電池 CR1620	1 個

アドバイス

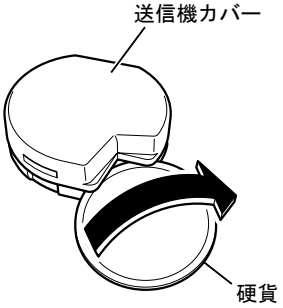
・交換後の電池の処理はお子様のいたずら、環境保護などに配慮されたうえ、地方自治体の条例または規則に従って適切に処置してください。
・液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。

知 識

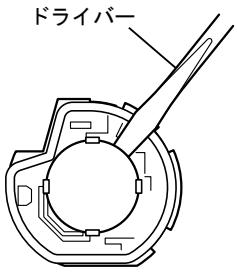
・電池の寿命は使用条件により異なります。



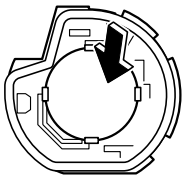
① 精密ドライバーでねじをゆるめて、カバーを外します。
② 送信機本体を取り出します。



③ 硬貨などで送信機のカバーを外します。



④ 送信機の凹部にマイナスドライバーなどを差し込み、古い電池を取り外します。



⑤ 新品の電池を取り付けます。電池は⊕側を上にして取り付けてください。

⑥ 送信機カバーを閉じます。

アドバイス

・送信機カバーを閉じるときに、ゴミや髪の毛等をはさみ込まないでください。防水性能が低下してリモコンが破損する原因になります。

⑦ 送信機をキーにはめ込み、カバーをねじで取り付けます。

リモコンキー（インテリジェントキー）の電池交換

作動が不安定なときや作動しないとき、リモコンキー（インテリジェントキー）電池残量警告灯が点灯したときやリモコンキーの表示灯が点灯しないときは、電池の消耗が考えられます。新しい電池に交換してください。

使用電池	
リチウム電池 CR2032	1 個

アドバイス

・液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。
・交換後の電池の処理はお子様のいたずら、環境保護などに配慮されたうえ、地方自治体の条例または規則に従って適切に処置してください。

知 識

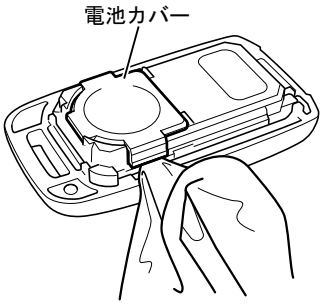
・リモコンキーは車両と通信を行うため、常に電池を消耗しています。電池の寿命は使用状況により異なりますが、1 ～ 2 年程度です。



① カバーの切り欠き部をマイナスドライバーなどでこじってカバーを開けます。

知 識

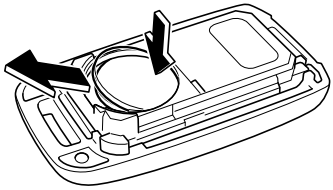
・カバーに傷が付かないようにマイナスドライバーの先端に布またはテープを巻いておきます。



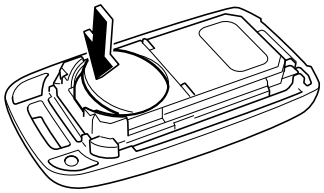
② 電池カバーの左右をマイナスドライバーなどでこじってカバーを外します。

知 識

・カバーに傷が付かないようにマイナスドライバーの先端に布またはテープを巻いておきます。



③ 古い電池を取り出します。電池を上から押し、少し持ち上げてから引き出します。



④ 新品の電池を取り付けます。電池は⊕側を上にして取り付けてください。

アドバイス

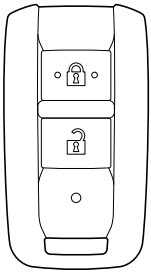
・新しい電池を取り付けるときは、電極を曲げないように注意してください。

⑤ カバーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

アドバイス

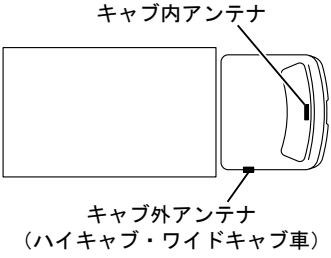
・カバーを閉じるときに、ゴミや髪の毛等をはさみ込まないでください。防水性能が低下してリモコンキーが破損する原因になります。

インテリジェントキー★



インテリジェントキーのシステムは、リモコンキーを携帯することでキーを取り出すことなくドアの施錠・解錠やエンジンの始動を行うことができるシステムです。また、リモートコントロールエントリーシステムのリモコンキーとしても機能します。フューエルキャップの施錠・解錠およびリモコンキーの電池切れの際にドアの施錠・解錠を行うためのキーが付いています。

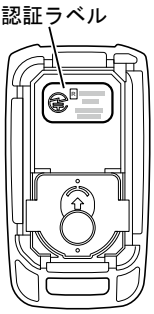
リモートコントロールエントリーシステム★ → 3-5 ページ参照
エンジンの始動 → 4-4 ページ参照



⚠ 警 告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を使用している方は、車両に搭載されているアンテナから 22㎝以内に近づかないでください。インテリジェントキーで発信されている電波が機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用している方は、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。なお、カスタマイズ機能によりインテリジェントキーを非作動にすることができます。
- 航空機にリモコンキーを持ち込む場合は、航空機機内でリモコンキーのボタンを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも簡単にボタンが押されないように保管してください。ボタンが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

カスタマイズ機能について
→ 3-16 ページ参照



⚠ 注 意

・インテリジェントキーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。
  - 電池交換時以外はリモコンキーを分解しないでください（分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています）
  - 認証ラベルをはがさないでください。認証ラベルの無いリモコンキーの使用は禁止されています
  - 必ず日本国内で使用してください
・車両を使用しないときは盗難防止のため、リモコンキーは車両から 2m 以上離しておいてください。

アドバイス

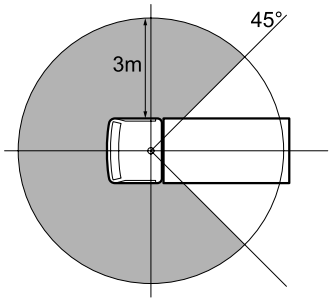
・リモコンキーを紛失したときは《日産販売会社》へご連絡ください。
・リモコンキーを水にぬらしたり、落としたり、ぶつけたり、踏んだりすると故障の原因になります。
・リモコンキーをダッシュボードの上など高温（60℃以上）になる場所に置かないでください。電池寿命の低下や故障の原因になります。
・施錠、解錠の繰り返し動作を連続して 10 回以上行うと保護回路が作動し、動かなくなることがありますが、少し時間をおくと再び施錠、解錠ができるようになります。
・万一、装置に異常が生じた場合は、キーによる施錠、解錠を行い、《日産販売会社》で点検を受けてください。
・リモコンキーをテレビやパソコンなどの電気製品の近くに置かないでください。電池を著しく消耗することがあります。

知 識

・リモコンキーが作動範囲内にあれば、リモコンキーを携帯している人以外でも以下のことができます。
  - ドアの施錠・解錠
  - エンジンの始動
・リモコンキーは運転者が携帯し、車内に残したまま車から離れないでください。
・リモコンキーの電池切れや故障などを考慮し、キーはリモコンキーと一緒に携帯してください。

リモコンキー（インテリジェントキー）の電池交換 → 3-9 ページ参照

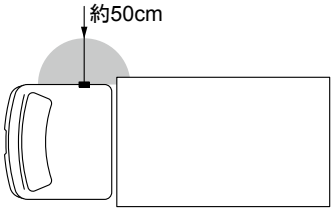
作動範囲



リモコンキーの操作によるドアの施錠・解錠

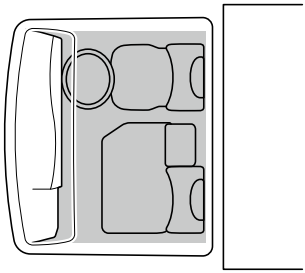
“リモートコントロールエントリーシステム★”を参照してください。

リモートコントロールエントリーシステム★ → 3-5 ページ参照



リクエストスイッチでのドアの施錠・解錠（ハイキャブ・ワイドキャブ車）

運転席側ドアハンドルの周囲約 50cm 以内にリモコンキーがあるときに作動します。



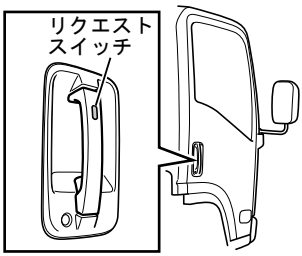
エンジンの始動
作動範囲内にリモコンキーがあるとき、エンジンを始動することができます。

知 識

・作動範囲は、インストルメントパネル上やグローブボックス、フロア、シート後ろ（運転席・助手席）およびドアポケットなどの各種小物入れを除く、車内です。
・作動範囲内にリモコンキーがあるときは、リモコンキーの表示灯が点滅します。

リクエストスイッチによる施錠・解錠★

リモコンキーの作動範囲内で、リモコンキーを携帯しているときに操作できます（ハイキャブ・ワイドキャブ車）。



ドアの解錠
ドアが施錠されているとき、ドアハンドルのリクエストスイッチを押すと解錠します。同時にアンサーバックブザー“ピピッ”が鳴り、左右のターンシグナルランプ（方向指示器）が同時に 2 回点滅します。またルームランプスイッチの位置が“DOOR”のとき、ルームランプが約 20 秒間点灯します。

ドアの施錠
ドアが解錠されているとき、ドアハンドルのリクエストスイッチを押すと施錠します。同時にアンサーバックブザー“ピッ”が鳴り、左右のターンシグナルランプ（方向指示器）が同時に 1 回点滅します。

アドバイス

・施錠したときは、必ずドアハンドルを引いて施錠していることを確認してください。

知識

・作動範囲にリモコンキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもリクエストスイッチで施錠・解錠ができます。
・施錠後、約３秒間はリクエストスイッチを押しても解錠は行われません。
・解錠後、約２秒間はリクエストスイッチを押しても施錠は行われません。
・ドアを開けるときは、リクエストスイッチを押し、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。リクエストスイッチを押しながらドアハンドルを引くと解錠されないことがあります。解錠されない場合は、ドアハンドルを戻してから再度リクエストスイッチを押し、解錠されたことを確認してからドアを開けてください。
・ドアハンドルより約 50cm 以内の距離でもリモコンキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
・リモコンキーがドアやガラスに近づきすぎた状態では作動しないことがあります。
・リモコンキーで解錠操作をした場合、30 秒以内にドアを開けないと再び自動的に施錠されます。
・ルームランプスイッチの位置が“DOOR”の場合、ルームランプが点灯しているときに施錠を行うと、ランプが消灯します。
・リモコンキーの電池が切れたときや車両のバッテリーがあがったときは、キーを使用してください。
・リモコンキーを使用してドアの施錠・解錠をするときやエンジンを始動するときは、システムがキーの確認を行うため車両から電波が発信されます。そのため次のような場合、インテリジェントキーが正常に動作しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。
  - 近くに強い電波を発信する設備があるとき
  - 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒にリモコンキーを携帯しているとき
  - リモコンキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき
・次のような場合、リクエストスイッチを押しても施錠はされません。
  - スタータースイッチが“LOCK”位置以外のとき
  - リモコンキーが車内にあるとき
  - ドアを開けているとき

カスタマイズ機能について

インテリジェントキーの以下の機能は、設定を変更することができます。設定の変更については《日産販売会社》にご相談ください。

機　能	初期設定	設定範囲
インテリジェントキー	ON	ON/OFF
アンサーバックブザー	ON	ON/OFF
アンサーバックブザー音量	大	小 / 中 / 大
自動ドアロック	OFF	ON/OFF

自動ドアロックを“ON”にしたときの機能

機　能	初期設定	設定範囲
自動ドアロックが作動するまでの時間	10 秒	1/3/5/10 秒
自動ドアロックのアンサーバックブザー	OFF	ON/OFF

アドバイス

・自動ドアロックを“ON”に設定したときは、必ずリモコンキーを携帯してから車を離れてください。周囲の電波状況やリモコンキーの電池残量、リモコンキーの位置によってはキー閉じ込み防止機能が働かず、リモコンキーを車内に閉じ込める場合があります。

知 識

・インテリジェントキーを“OFF”に設定しているときのドアの施錠・解錠、およびエンジンの始動は“インテリジェントキーが正常に作動しないとき”を参照してください。

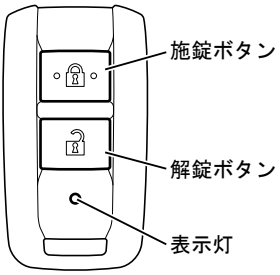
【自動ドアロックとは】

・スタータースイッチが“LOCK”位置のとき、全てのドアを閉めてから設定時間が経過すると、自動でドアの施錠を行う機能です。

インテリジェントキーが正常に作動しないとき　→ 8-51 ページ参照

節電モード

長期間車両を使用しないときは、節電モードにすることでリモコンキーの機能を停止し、リモコンキーの電池の消耗を抑えることができます。



節電モードにするとき

リモコンキーの施錠ボタンを押しながら、解錠ボタンを２回押します。リモコンキーの表示灯が４回点滅すれば設定は完了です。表示灯が点滅しない場合は、再度操作してください。

知 識

・節電モード中はリモコンキーの機能が停止するため、インテリジェントキーを使用することができません。インテリジェントキーを使用するときは、節電モードを解除してください。

節電モードを解除するとき

リモコンキーの施錠ボタンまたは解錠ボタンを押せば節電モードが解除されます。

警報音について

次の場合、警報システムが作動してブザーが鳴り注意を呼びかけます。

リモコンキーを車内に置いたままにしてませんか

ブザー音（キャブ外）	対処方法	状　況
“ピーーー”（連続）	車内からリモコンキーを取り出し、再度施錠してください	▽キー閉じ込み防止警報（リクエストスイッチ操作時） リモコンキーを車内に置いたまま、リクエストスイッチを押してドアを施錠しようとした（施錠は行われません）
		▽キー閉じ込み防止警報（手動施錠時） リモコンキーを車内に置いたまま、運転席または助手席のドアのロックボタンを押し、ドアハンドルを引き上げたまま閉めて施錠しようとした（ドアハンドルを離すと自動的に解錠され、左右のターンシグナルランプが 2 回点滅します。施錠は行われません）

車外からキーを使わずに施錠するには
→ 3-22 ページ参照

スタータースイッチが“ACC”、または“ON”位置になってませんか

ブザー音（キャブ外）	対処方法	状　況
“ピーーー”（連続）	スタータースイッチを“LOCK”位置にしてから、再度施錠してください	▽スタータースイッチ切り忘れ警報（リクエストスイッチ操作時） スタータースイッチが“ACC”、または“ON”位置のまま、リクエストスイッチを押してドアを施錠しようとした（施錠は行われません）
“ピピッ”		▽スタータースイッチ切り忘れ警報（手動施錠時） スタータースイッチが“ACC”、または“ON”位置のまま、運転席のドアのロックボタンを押した（自動的に解錠され、左右のターンシグナルランプが 2 回点滅します）
“ピッピッピッ”	リモコンキーを車内に戻すか、スタータースイッチを“LOCK”位置にしてください	▽リモコンキー持ち出し警報 スタータースイッチが“ACC”、または“ON”位置のまま、リモコンキーを車外に持ち出しドアを閉めた

半ドアになってませんか

ブザー音（キャブ外）	対処方法	状　況
“ピーーー”（連続）	ドアを確実に閉めてから、再度施錠してください	▽半ドア警報 運転席、または助手席のドアが半ドアのまま、リクエストスイッチを押してドアを施錠しようとした

アドバイス

【キー閉じ込み防止警報について】

・周囲の電波状況によっては、ブザーが鳴らない場合があります。

・リモコンキーの電池残量が少ない場合は、ブザーが鳴らない場合があります。

・リモコンキーを次のような場所に置いているときは、ブザーが鳴らない場合があります。

- インストルメントパネルの上
- グローブボックス
- ドアポケットなどの各種小物入れ
- シート後ろ（運転席・助手席）
- フロア
- 金属物に触れていたり覆われているとき

【リモコンキー持ち出し警報について】

・周囲の環境や電波状態によっては、リモコンキーが作動範囲内にあってもブザーが鳴る場合があります。そのようなときは、リモコンキーの携帯位置を変えてから再度操作してください。

・窓を開けてリモコンキーを車外に持ち出した場合、警告は作動しません。

・リモコンキーをインストルメントパネル上やグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れに置いた場合、電波状態により警告が作動することがあります。

・リモコンキーを持ち出した状態でスタータースイッチを“LOCK”位置にすると、スタータースイッチの操作ができなくなります。スタータースイッチを操作するときは、リモコンキーを携帯していることを確認してください。

ドアの開閉

⚠ 注 意

- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキレバーを確実に引いてエンジンを停止し、ドアを施錠してください。
- 乗車し、ドアを閉めたときは、確実に閉まっていることを必ず確認してください。半ドアは走行中に開くおそれがあり危険です。
- 乗降時ドアを開けるときは、必ず周囲、特に後方の安全を確認してから操作を行ってください。いきなり開けると後続車などがぶつかるおそれがあります。
- キーは室内に忘れないよう十分注意してください。
- チルトキャブするときは必ずドアを閉めてください。

フロントドアの施錠・解錠

リモコンキーを使った施錠と解錠
“リモートコントロールエントリーシステム★”を参照してください。

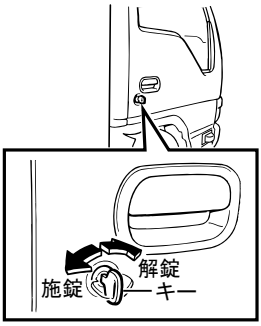
リモートコントロールエントリーシステム★ → 3-5 ページ参照

リクエストスイッチを使った施錠と解錠
“インテリジェントキー★”を参照してください。

インテリジェントキー★ → 3-11 ページ参照

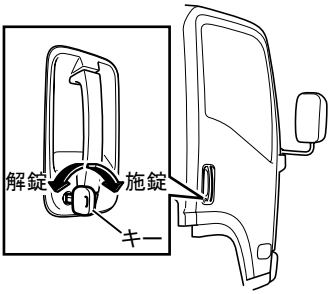
車外からキーを使った施錠と解錠
キーを確実に差し込みます。

標準キャブ車



標準キャブ車は、キーを車両前方に回すと“解錠”、後方に回すと“施錠”します。

ハイキャブ・ワイドキャブ車

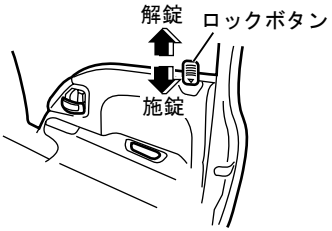


ハイキャブ・ワイドキャブ車は、キーを車両後方に回すと“解錠”、前方に回すと“施錠”します。

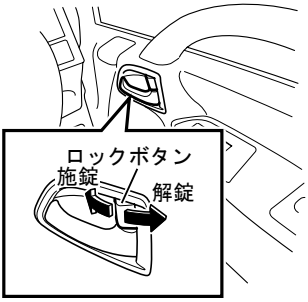
車内からの施錠と解錠

ロックボタンを押すと“施錠”し、ロックボタンを引くと“解錠”します。

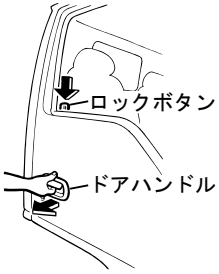
標準キャブ車



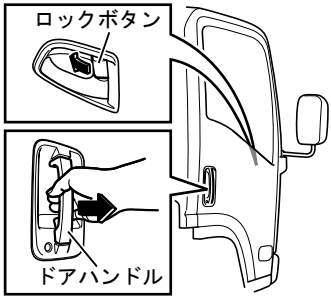
ハイキャブ・ワイドキャブ車



標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



車外からキーを使わずに施錠するには

ロックボタンを押し、ドアハンドルを引き上げたままドアを閉めます。

アドバイス

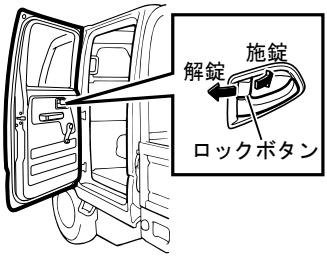
・キーを持っていることを確認してから施錠してください。

リヤドアの施錠・解錠（ダブルキャブ車）

標準キャブ車



ハイキャブ車



車内からの施錠と解錠

ロックボタンを押すと“**施錠**”し、ロックボタンを引くと“**解錠**”します。

車外からの施錠

ロックボタンを押し、ドアを閉めると“**施錠**”できます。

キー抜き忘れ警告ブザー★

スタータースイッチが“ACC”、“LOCK”位置にあるとき、キーを差し込んだまま運転席ドアを開けると警報音“ピーピー”が鳴りキーの抜き忘れを警告します。キーを抜けば警報音は鳴りやみます。

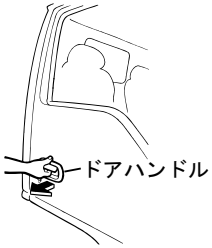
パワードアロック（集中ドアロック）★

操作のしかた

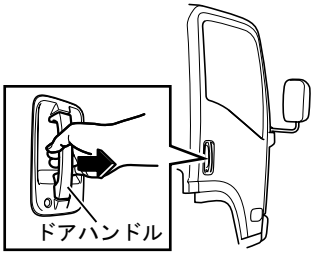
運転席ドアをキーまたはロックボタンで操作することにより、すべてのドアが連動して“施錠”または、“解錠”することができます。

フロントドアの開閉

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車

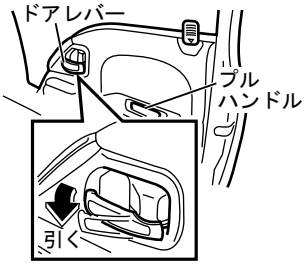


車外からのドアの開閉

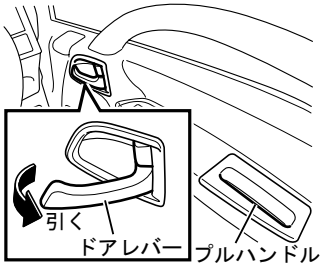
開けるときは、ドアハンドルを引いてドアを開きます。

閉めるときは、ドアハンドルを押してドアを閉じます。

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



車内からのドアの開閉

開けるときは、ドアレバーを引いてドアを開きます。

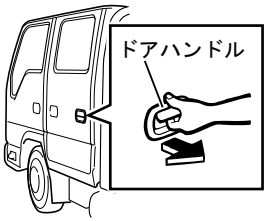
閉めるときは、プルハンドルを引いてドアを閉じます。

アドバイス

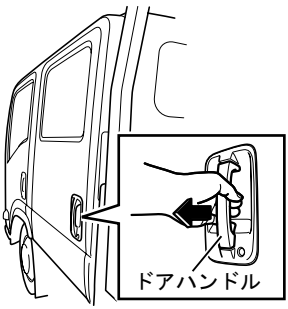
・車から離れるときは、必ずエンジンを止めて、ドアを施錠してください。法令で義務づけられています。キーを室内に忘れないよう十分注意してください。

リヤドアの開閉（ダブルキャブ車）

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車

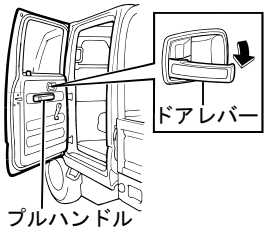


車外からのドアの開閉

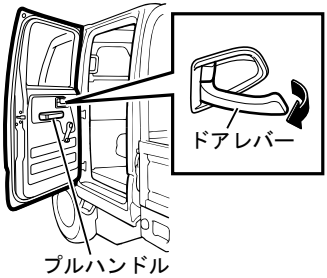
開けるときは、ドアハンドルを引いてドアを開きます。

閉めるときは、ドアハンドルを押してドアを閉じます。

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



車内からのドアの開閉

開けるときは、ドアレバーを引いてドアを開きます。

閉めるときは、プルハンドルを引いてドアを閉じます。

乗降について



周囲の安全を十分確認して、グリップを握り、ステップに足を乗せて乗降します。

⚠ 注 意

- 車に乗降するときは、必ずステップやグリップを使用して常に３箇所以上で身体を保持してください。タイヤやホイールに足をかけての乗降は滑りやすく危険です。
  また、飛び乗ったり飛び降りたりすると、転倒など思わぬケガをするおそれがあります。
- 油やグリースが付着した靴や手で乗降すると滑ったりすることがあります。グリースなど油分をよく落としてください。
- 雨や雪のときはステップが滑りやすくなりますので乗降する場合は、雪などをよく落として滑らないよう十分注意してください。
- 風の強いときや坂道では、急にドアが開閉することがありますので十分注意してください。

アドバイス

- グリップ以外の部品をつかんで乗降しないでください。破損や故障の原因になります。

パワーウインドー★

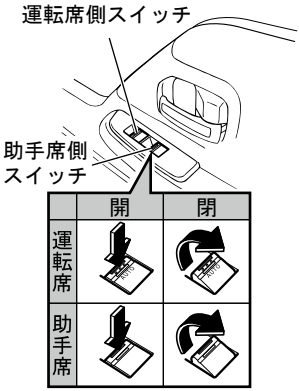
スタータースイッチが“ON”位置のときに、スイッチ操作（押す：開ける、引く：閉じる）でウインドーガラスの開閉を行うことができます。

⚠ 警 告

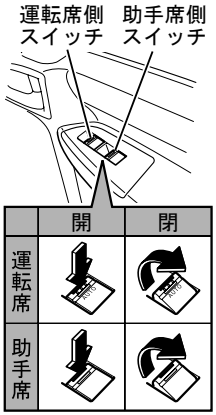
・ウインドーガラスを閉めるときは、手や首などをはさみ込まないように注意してください。万一、ウインドーガラスにはさまれると重大な傷害につながるおそれがあります。特に、お子様には注意してください。

運転席側ウインドースイッチ

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



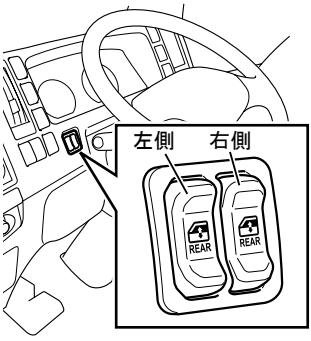
運転席ウインドーガラスを開けるとき
スイッチを軽く押すと、押している間ウインドーガラスが下降します（マニュアルモード）。強く押すと、指を離しても自動的に全開の位置までウインドーガラスが下降します（オートモード）。途中で止めたいときには、スイッチを軽く引き上げてください。

運転席ウインドーガラスを閉めるとき
スイッチを軽く引くと、引いている間ウインドーガラスが上昇します（マニュアルモード）。強く引くと、指を離しても自動的に全閉の位置までウインドーガラスが上昇します（オートモード）。途中で止めたいときには、スイッチを軽く押します。

助手席ウインドーガラスを開けるとき
スイッチを押している間ウインドーガラスが開きます。

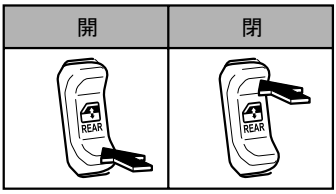
助手席ウインドーガラスを閉めるとき
スイッチを引いている間ウインドーガラスが閉まります。

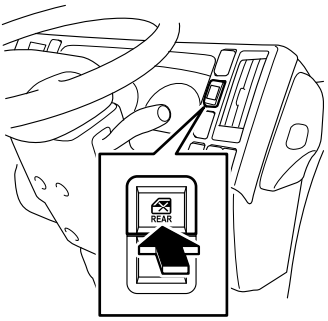
ダブルキャブ車



後席ウインドーガラスを開けるとき
スイッチの下側を押している間ウインドーガラスが開きます。

後席ウインドーガラスを閉めるとき
スイッチの上側を押している間ウインドーガラスが閉まります。

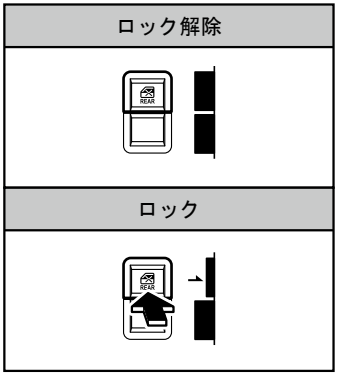




後席パワーウインドーをロックするとき
後席パワーウインドーロックスイッチを押すと、後席側ウインドースイッチの開閉操作ができなくなります。もう一度押すと解除されます。

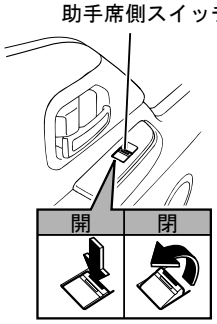
⚠ 注 意

・お子様が、同乗するときは後席パワーウインドーロックスイッチをロック位置にしてください。お子様の誤操作による事故を未然に防ぐことができます。



助手席側ウインドースイッチ

標準キャブ車（助手席側）

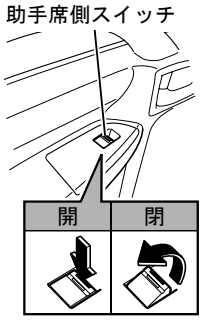


注 意

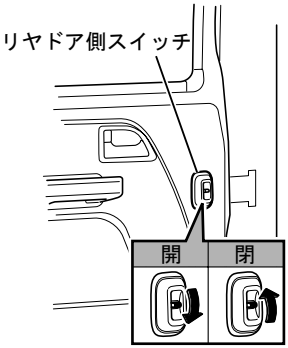
・ウインドーガラスを開閉するときは、お子様などの身体をはさみ込んだり、巻き込まないよう十分注意してください。

スイッチを押している間ウインドーガラスが下降し、スイッチを引いている間ウインドーガラスが上昇します。また､途中で止めたいときは､スイッチから指を離してください。

ハイキャブ・ワイドキャブ車（助手席側）



ダブルキャブ車（後席側）

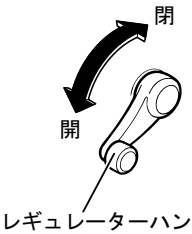


手動式ウインドー★

注 意

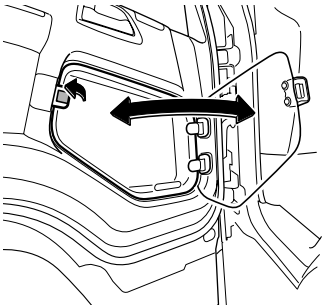
・ウインドーガラス開閉時には、お子様などの身体をはさまないよう十分注意してください。

レギュレーターハンドル



レギュレーターハンドルの操作でウインドーガラスの開閉が行えます。

OK ウインドー★



OK ウインドーの内側が曇ったり汚れたとき、レバーを引いて開けて清掃することができます。
閉めるときは“**カチッ**”と音がするまで確実に閉めます。

⚠ 注 意

- OK ウインドーを開けたままで助手席側ウインドーを開閉しないでください。万一、窓ガラスに手や足などをはさまれるとケガをします。
- OK ウインドーに視界を妨げるようなフィルムや紙を貼ったり、ウインドー内や付近に物を置かないようにしてください。安全確認ができなくなり危険です。
- OK ウインドーに手を掛けて乗降しないでください。OK ウインドーが破損した場合ケガをするおそれがあります。

アドバイス

- OK ウインドーを開けたままドアの開閉をしないでください。破損するおそれがあります。

知 識

- 構造上 OK ウインドー内に水が入る場合があります。

燃料給油口

⚠ 警 告

・エンジン回転中の燃料給油は火災の原因になるおそれがありますので、必ずスタータースイッチを“ACC”または“LOCK”位置にし、エンジンを停止させて行ってください。
・燃料給油中は火気厳禁です。火災の原因となるタバコの火などを近づけないでください。
・給油後、フューエルキャップがしっかりと閉められていることを確認してください。
・フューエルキャップは純正品以外使用しないでください。

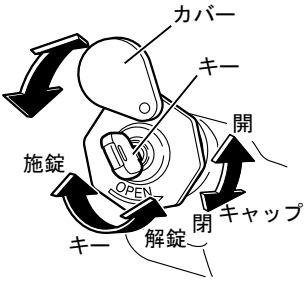
⚠ 注 意

・超低硫黄軽油または低硫黄軽油以外の燃料を使用するとエンジンや排気ガス浄化装置（DPF、尿素 SCR）に悪影響をおよぼし、故障の原因となるおそれがあります。万一誤った燃料を入れたときは、完全に抜き取ってください。誤った燃料を入れたままエンジンを始動すると火災やエンジン損傷の原因になり危険です。
・DPF 装着車に超低硫黄軽油または低硫黄軽油以外の軽油を使用した場合、道路運送車両法の保安基準に適合しなくなるおそれがあります。
・フューエルキャップはゆっくりと開けてください。急に開けると燃料が噴き出るおそれがあります。

アドバイス

・燃料は必ず超低硫黄軽油または低硫黄軽油をご使用ください。
粗悪な燃料、水抜き剤、その他の燃料添加剤、ガソリン、灯油、アルコール系燃料を補給したり混合して使用するとフューエルフィルターおよびインジェクター内の燃料潤滑部分の摺動不良になるほか、エンジン各部に悪影響を与え、故障の原因になるおそれがあります。

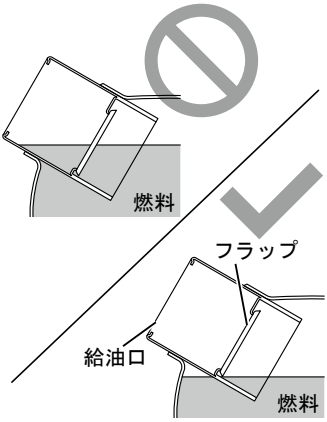
セルフ式ガソリンスタンドを
利用するときは → 2-4 ページ参照



フューエルキャップの開閉

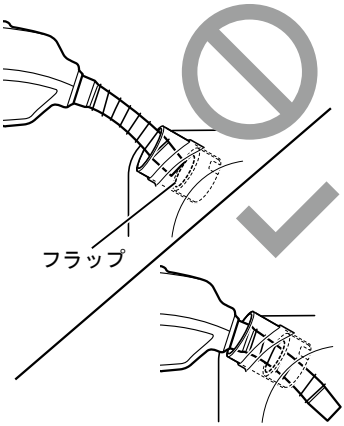
① フューエルキャップを開ける前に身体の静電気を除去します。
② カバーを開け、キーを確実に差し込んで回し解錠します。
③ フューエルキャップをゆっくり回して開けます。

④ 燃料を補給します。



⚠ 警 告

・予期せぬ燃料漏れを防ぐため、フラップを超えた給油は行わないでください。オートストップ作動後の継ぎ足し給油は、燃料がフラップを超える原因になります。



知 識

・給油口にはフラップが付いています。給油時は、フラップにノズルを押し込んで、確実に挿入してください。

⑤ フューエルキャップを回し確実に燃料タンクに取り付けてください。
⑥ キーを回し、フューエルキャップを施錠します。
⑦ キーを抜いてカバーをし、フューエルキャップが確実に閉まっていることを確認してください。

警 告

・フューエルキャップが確実に閉まっていないと走行中に燃料が漏れ火災になるおそれがあります。

アドバイス

・フューエルキャップを開閉するときは、必ずフューエルキャップ本体を持って回してください。キーを持ってフューエルキャップを回すとキーを破損するおそれがあります。
・キーを抜いた後、キーに付いている汚れやゴミなどをふき取ってください。

尿素水タンク

警 告

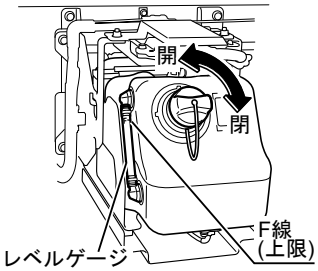
・尿素水タンクには、尿素水（AdBlue® 相当）以外のものを入れないでください。尿素水タンクには、日産指定の尿素水（AdBlue® 相当）を補給してください。
・尿素水（AdBlue® 相当）以外のものを入れると、尿素 SCR システムの故障の原因になります。

アドバイス

- 尿素水（AdBlue® 相当）の補給は、常に満水になるように早めの補給に心がけてください。尿素水（AdBlue® 相当）が空になるとエンジンが再始動できなくなります。
- 尿素水タンクキャップを開けるときは、尿素水タンク内に泥などが混入しないようにしてください。泥などが混入するとサプライモジュールが詰まったり尿素水（AdBlue® 相当）が品質異常になり、尿素 SCR システムの故障の原因になります。
- 尿素水（AdBlue® 相当）をレベルゲージの“F”線以上補給しないでください。走行中にブリーザーホースから尿素水（AdBlue® 相当）が漏れるおそれがあります。また、尿素水（AdBlue® 相当）が凍結したときにセンサー類が破損するおそれがあります。
- 尿素水（AdBlue® 相当）が、車体やフレームなどにこぼれた場合は、さびの原因になりますので、ふき取ってから水で洗い流してください。
- 尿素水タンクに足を掛けたり、上に乗らないでください。尿素水タンク、パイプやセンサー類が破損します。
- 排気ガス浄化性能に影響をあたえるおそれがあるため、排気管、マフラーの改造や尿素水タンクなどの移設は行わないでください。改造や移設が必要な場合は、最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。

知 識

- 尿素水（AdBlue® 相当）は、無色透明、無害の水溶液です。状況によってはにおいがする場合がありますが異常ではありません。
- 補給口などに付着した尿素水（AdBlue® 相当）が乾燥したときに白い粉が析出する場合がありますが異常ではありません。尿素水タンクに入らないようにふき取ってください。
- 尿素水タンク正面のレベルゲージは、尿素水（AdBlue® 相当）の入れ過ぎやあふれを防ぐために取り付けられていますので、尿素水残量を量るものではありません。また、尿素水（AdBlue® 相当）の液面がレベルゲージの下端に達しても、メーターパネル内の尿素水量表示では、4 段階もしくは 5 段階を示します。尿素水残量は、レベルゲージではなく尿素水量表示で確認してください。
- エンジン停止後、尿素水タンクから作動音が聞こえることがありますが、これは配管内の尿素水（AdBlue® 相当）を尿素水タンクに戻している音で異常ではありません。
- エンジンがかかっている状態や、スタータースイッチが“ON”位置のときに尿素水（AdBlue® 相当）を補給すると、尿素水量表示が正しい表示になるまで時間がかかります。



尿素水（AdBlue® 相当）の補給のしかた

① スタータースイッチを“LOCK”位置にし、エンジンを停止します。
② 尿素水タンクのタンクキャップを少しゆるめ、キャップや補給口周囲に付着したゴミや泥などをふき取ります。
③ タンクキャップをゆっくり回して開けます。
④ 尿素水タンク正面のレベルゲージを見ながら“F”線まで補給します。

アドバイス

・補給時に尿素水の入りが悪い場合、尿素水タンク内の尿素水補給口フィルターが詰まりを起こしている可能性があります。尿素水の入りが悪くなったと感じたら、尿素水補給口フィルターの点検を《日産販売会社》で行ってください。

知 識

・尿素水補給口フィルターは、尿素水タンク内に混入するゴミを取り除く役割をしています。

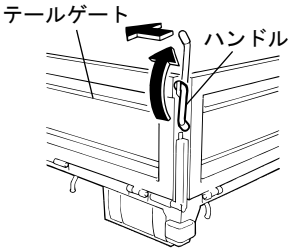
⑤ タンクキャップを回し確実に尿素水タンクに取り付けます。
⑥ タンクキャップが確実に閉まっていることを確認します。

尿素水タンク容量［参考値］	
尿素水タンク 14L タイプ	13L

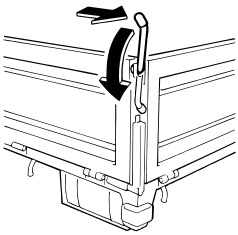
尿素水（AdBlue® 相当）の取り扱い
→ 2-52 ページ参照
指定された尿素水（AdBlue® 相当）を入れていますか → 2-52 ページ参照
尿素水（AdBlue® 相当）を補給するとき
→ 2-53 ページ参照

荷　台 ★

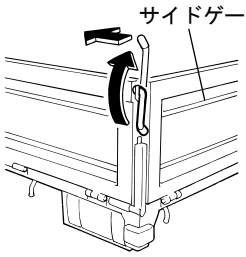
木製平荷台



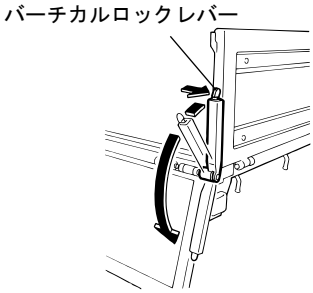
後部アオリ（テールゲート）の開けかた
左右のハンドルを上に回してから内側へ押すとロックが解除され、アオリは開きます。



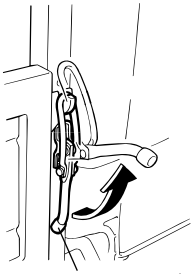
後部アオリ（テールゲート）の閉じかた
アオリを閉じ、ハンドルを外側に引き下へまわしてロックします。



左右アオリ（サイドゲート）の開けかた
① 後部アオリを開きます。

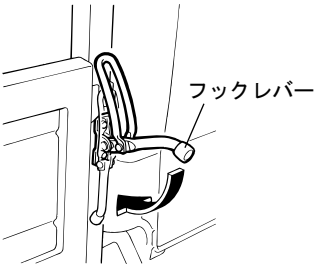


② バーチカルロックレバーを外側へ押してバーチカルロックを解除し、下に倒します。

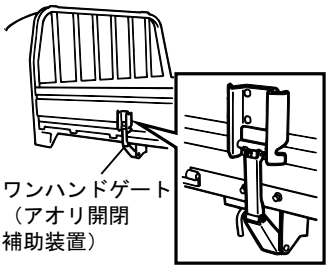


③ 左右アオリにあるキャブ側のフックレバーのロックを解除します。

左右アオリ（サイドゲート）の閉じかた
開くときと逆の手順で行います。



ワンハンドゲート（アオリ開閉補助装置）

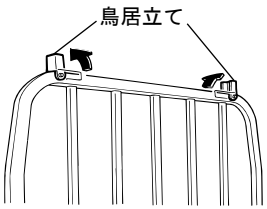


左右アオリの開閉操作力を軽減させる装置です。

⚠ 警 告

・ワンハンドゲート（アオリ開閉補助装置）はアオリを一時的に固定させるための装置ではありません。途中位置で停止したアオリに手をつくことは危険ですのでやめてください。

鳥居立て



鳥居の上に荷物を固定するときに荷物の横ズレを起こさないために使用します。

⚠ 注 意

・鳥居に荷物を固定するときに必要以上の力をかけないでください。

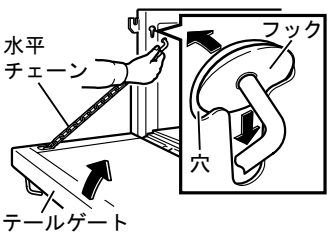
鳥居立てを引き起こしてください。

水平チェーン

長尺荷物を後ろに突き出して走行する場合に使用します。

⚠ 注 意

・後部アオリを水平にしての荷物の積み降ろしはしないでください。
・積荷は移動の無いように確実に固定してください。
・後部アオリに荷物を載せて走行しないでください。
・車両全長の１割を超えて突き出して輸送する場合には、道路交通法に基づき、必要な手続きと表示を行ってください。
・後部アオリを閉めるときは、水平チェーンをはさみ込まないよう注意してください。
・水平チェーンを使用するときは必ず両側のチェーンを確実に取り付けて使用してください。



木製平荷台

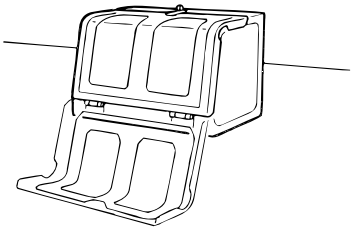
水平チェーン先端のフックを左右アオリの穴にかけます。

車外ツールボックス★

⚠ 注 意

・走行中、ふたが開かないように確実に閉めてください。

車両外側のシャシ中央または後方付近にあります。工具などを入れて使用してください。



シ ー ト



シートに深く腰掛けます。背もたれから背を離さずにペダルを十分に踏み込むことができ、ハンドルを楽に操作できるようゆとりある位置に調整します。また、調整後はシートが確実に固定されていることを確認します。
正しい運転姿勢に合わせたシート調整は安全運転の基本です。

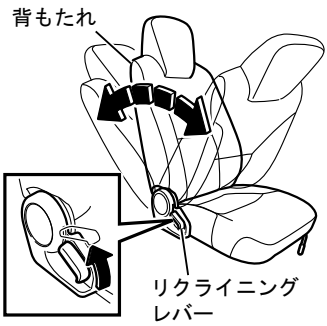
⚠ 警 告

- シート調整は、必ず走行前に行ってください。走行中の調整は、シートが前後に動き不安定な状態になります。特に運転者は、正しい姿勢をとることができず思わぬ事故を招くおそれがあります。
- シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。指や手がはさまり思わぬケガをするおそれがあります。
- お子様を乗せるときのシート調整は、必ず大人が行ってください。お子様が操作すると思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- 調整後、シートをゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと、運転中にシートが動いて思わぬ事故を招くおそれがあります。また、シートおよびシートベルトが本来の機能を発揮することができなくなります。
- 背もたれを起こし、シートに深く腰掛けた状態でシートベルトを正しく装着してください。シートを大きくリクライニングさせた状態で運転すると、急ブレーキをかけたときや衝突したときに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。運転姿勢が不安定になるだけではなく、万一のとき、シートおよびシートベルトが本来の機能を発揮することができなくなります。
- シートの下には物を置かないでください。物が挟まってシートが確実に固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- シートレールに物がはさまっていないことを確認してから調整を行ってください。シートが確実に固定されないおそれがあります。また、手や足をはさむとケガをするおそれがあります。
- シートを調整するときは、シートが同乗者や荷物に当たらないよう注意してシート調整を行ってください。思わぬケガや、荷物の損傷につながるおそれがあります。

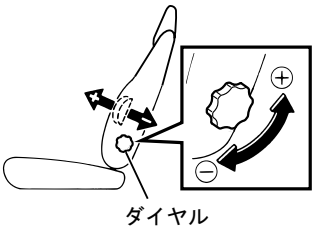
ドライバーシート



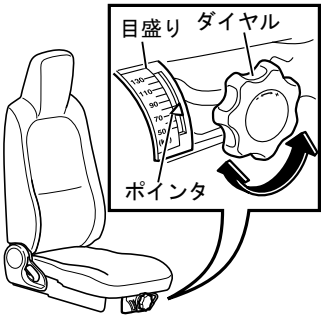
シートスライド（前後調整）
レバーを起こし、シートを前後させます。位置が決まったらレバーから手を離してください。調整後、シートを前後にゆさぶり固定されていることを確認してください。



リクライニング（背もたれの角度調整）
倒すときは、背中を軽く押しあてながらリクライニングレバーを引き上げ背もたれを倒します。
起こすときは、背中を背もたれから少し浮かしてレバーを引き上げます。
調整後は、背もたれが確実に固定されたことを確認してください。

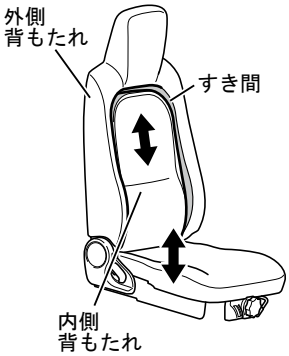


ランバーサポートの調整★
運転席左側にあるダイヤルで、背骨の形に合わせるように背もたれ腰部のカーブ（湾曲）形状を調整できます。
ダイヤルを前方へ回すとカーブは“⊕”側にふくらみ、また、ダイヤルを後方へ回すとカーブは“⊖”側にゆるくなります。



シートサスペンション★

シートに座る前に、ダイヤルを回してご自身の体重に目盛りを合わせます。座ったとき、適正な位置になります。



アドバイス

- 目盛り上のポインタに足を乗せたり、ぶつけたりしないでください。破損や故障の原因になります。
- 内側背もたれと外側背もたれのすき間に指や物を入れないでください。シートサスペンションが正常に動作しなくなることがあります。

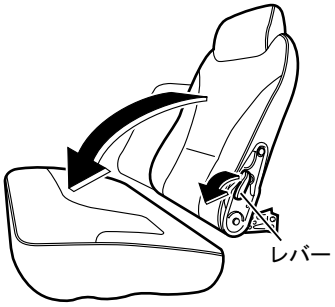
知 識

- シートサスペンションの調整範囲は、50～130kg です。体重が調整範囲外の場合、サスペンションの機能が十分に発揮できない場合がありますが、正しい運転姿勢で座ることができます。

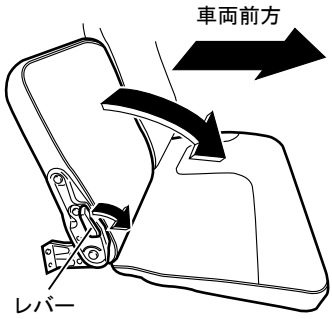
パッセンジャーシート / センターシート★

背もたれを手前に倒すことができます。
背もたれ横にあるレバーを倒すと背もたれを倒すことができます。通常は起こした状態にしてください。

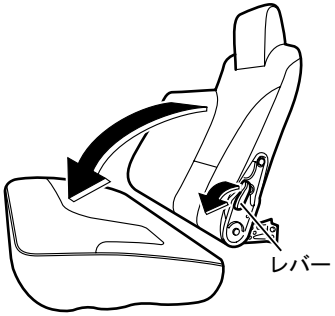
パッセンジャーシート（分割式）



センターシート



パッセンジャーシート（一体式）



⚠ 注 意

・シートの上に荷物を乗せないでください。ブレーキをかけたときに荷物が落下し、各ペダルの操作ができなくなるおそれがあります。

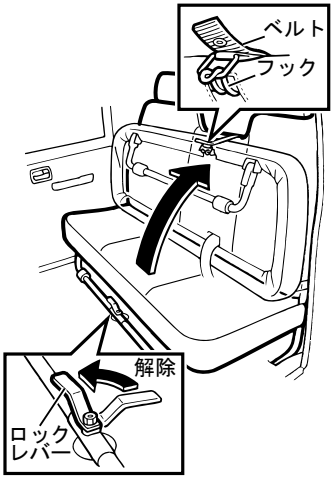
リヤシート★

知 識

・ヘッドレストに調整機能はありません。
・ヘッドレストを外して走行しないでください。

車載工具の取り出し、収納をする際は、リヤシートの折りたたみ(消防車以外)、または取り外し(消防車) を行います。

リヤシートの折りたたみかた（消防車を除く）



注 意

・シート座面を元の位置に戻したときは、シートの足を確実にロックしてください。ロックが確実にされていないと走行中、座席が不安定な状態になり思わぬ事故の原因になります。
・シート座面を折りたたんだままで走行しないでください。座席が不安定な状態になり思わぬ事故の原因になります。

① シートの足元センターにあるロックレバーを左へ回して解除します。
② シート座面を起こし、背もたれ後方から出ているベルトを座面裏側のフックに掛けシート座面を固定します。
③ 戻すときは、シートを起こしたときと逆の手順で行います。



リヤシートの取り外しかた（消防車）

⚠ 注 意

・シート座面を取り付けたときは、シート座面下側のクリップ（3箇所）が確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと走行中、座席が不安定な状態になり思わぬ事故の原因になります。

① シート座面の手前側を引き上げ、シート座面を外します。
② 取り付けは、取り外したときと逆の手順で行います。

チルト&テレスコピックステアリング（上下、前後調整式ハンドル）

ハンドルの上下、前後位置を調整することができます。

⚠ 警 告

・調整後は、ハンドルを上下に動かして確実に固定されていることを確認してから走行してください。
・ハンドルの位置調整は、運転前に行ってください。運転中のハンドルの位置調整は、ハンドルが上下にガタつき正確な操作ができず大変危険です。



調整のしかた

① ロックレバーを手前に引き、ロックを解除します。
② シート（座席）に正しく腰かけ、ハンドルを上下および前後に動かして最も運転しやすい位置に調整します。
③ 位置を決めロックレバーをロック方向に押し下げて確実にロックします。

ミ ラ ー

正しい運転姿勢を取り、後方や側面および直前、直左の状況が十分に確認できるように各ミラー類が調整されているか点検・調整をします。また各ミラー類が汚れていないかも点検します。

電子インナーミラー★

車両後方の視覚情報をキャブ内の電子インナーミラーに映し出し、ドライバーが見づらい部分の視界を提供することにより、運転操作の補助を行います。
表示には近接表示と遠方表示があります。

電子インナーミラーの視覚情報

- **近接表示**
  近接表示に設定すると、車両後方の足元から上方まで広い範囲がミラーに表示されます。車両後方の状況を全体的に把握する時に使います。
- **遠方表示**
  遠方表示に設定すると、近接表示の映像の中央部分がミラーに表示されます。車両後方の状況を部分的に把握する時に使います。

電子インナーミラーの使用上のご注意

・確認事項

- エンジンを止めている状態で長時間使用する場合は、バッテリーが過放電される場合がありますので、必ずエンジンをかけたまま使用してください。
- 運転者による走行中の操作や画面の注視は、前方不注意による事故やけがの原因となります。必ず安全な場所に車を停車させてから操作してください。
- 磁性のあるものを電子インナーミラーの周囲に設置しないでください。誤動作の原因となります。
- 障害物の距離が実際の距離と比べて詰まって映りますのでご注意ください。
- 雨、霧、雪などの悪天候時は、電子インナーミラーでの視界情報を確認できないことがあります。
- 夜間や暗い場所では電子インナーミラーの映像がまぶしいときがあります。モニターに設置されたスイッチで映像を調整してご使用ください。

輝度調整 → 3-51 ページ参照

⚠ 警 告

・運行前には、必ずミラーモードで正しい位置に設定してください。

・画面だけを見ながら運転しないでください。本装置は、障害物などの確認のための補助装置であり、映し出す範囲には限界があります。必ず目視による安全確認をしながら運転してください。カメラの死角になっている人や物にぶつかるおそれがあり、事故の原因となります。

・安全のため、運転中はメニュー操作を行わないでください。

・ゆっくりした速度で運転してください。本装置の映像は広角レンズを使用しています。実際の距離と感覚が異なるので、速度を上げての運転は人や物にぶつかるおそれがあり、事故の原因となります。

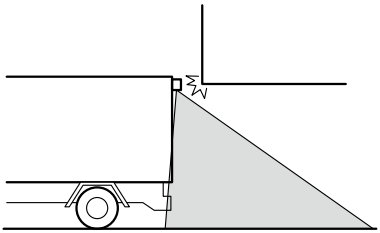
・本機を分解したり、改造しないでください。また、煙草等の火の元となるようなものを、電子インナーミラー、カメラおよびハーネスの傍に置いたり近づけたりしないでください。事故や火災、感電の原因となります。

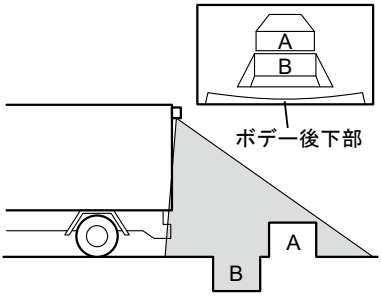
・画面背面にある照度センサの前に障害物を置かないでください。画面の明るさに異常をきたす場合があります。

・画面部が映らないなどの故障状態で使用しないでください。事故や火災、感電の原因となります。速やかにミラーモードにして、最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。

⚠ 注 意

・電子インナーミラーに映し出される映像の範囲は限られていますので、死角に注意してください。バックアイカメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。
・電子インナーミラーでは、立体感が得られないので、凹凸のある部分への接近時は、注意してください。
・急に明るさが変化する場所に移動すると、数秒間何も映らなくなる場合があるので注意してください。





知 識

・太陽光や強い光が直接、電子インナーミラーやカメラにあたり、映像が視認しづらい場合はミラーモードでお使いください。

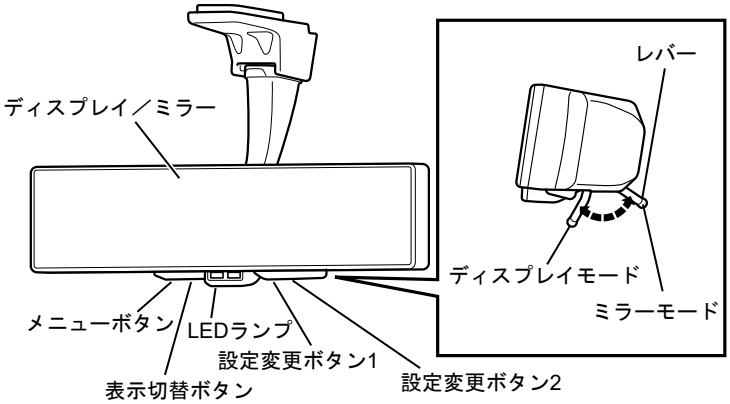
電子インナーミラーの取扱い上のご注意

・液晶画面について

- 非常に寒いとき、画面の動きが遅くなったり画面が暗くなったりすることがありますが、故障ではありません。常温に戻れば回復します。
- 非常に熱いとき、高温保護機能が働き画面が暗くなることがありますが、故障ではありません。常温に戻れば回復します。
- 液晶パネルの中には、小さな黒点や輝点が出ることがありますが、液晶特有の現象で、故障ではありません。
- 液晶パネル部の表面は傷つきやすいので、硬い物でこすったり、たたいたりしないでください。
- 液晶パネル部に水滴などをつけた状態で放置しないでください。変色、シミの原因となります。また、水分が内部に浸入すると故障の原因となります。水滴などがついてしまった場合は、すぐ脱脂綿や柔らかい布などでふき取ってください。
- 夏期は車内温度が高くなることがありますので、車内の温度を下げてからお使いください。

・カメラについて
- カメラ部に強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。
- カメラのレンズを強くこすったり、硬いブラシや研磨剤などでみがいたりするとレンズが傷つき、映像に悪影響を及ぼすおそれがあります。
- 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
- 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラの周辺に直接水を当てないで下さい。強い水圧により衝撃が加わり、カメラの位置ずれや故障のおそれがあります。
- スチーム洗車機は、高温の蒸気が噴出するタイプがあるため、絶対に使用しないでください。

電子インナーミラーの各部の名称とはたらき



・メニューボタン
設定画面を選択できます。
- 輝度調整
- 言語設定
- ボタン照明
- ガイド線表示
- ガイド線上下調整
- ガイド線左右調整
- ガイド線回転調整

・設定変更ボタン 1・2
設定画面で設定を切り替えることができます。

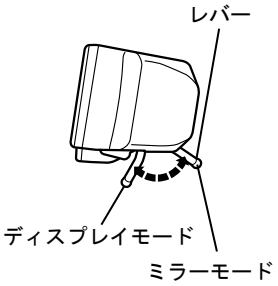
・表示切替ボタン
ディスプレイモードのとき、遠方表示と近接表示を切り替えることができます。

・レバー
ミラーモードとディスプレイモード（遠方表示・近接表示）を切り替えることができます。

電子インナーミラーの作動
電子インナーミラーは、スタータースイッチを“ON”位置にすると作動します。

電子インナーミラーの角度調整について
電子インナーミラー本体を持ち、運転姿勢に合わせてミラーを調整します。

電子インナーミラーのモードの切り替え



スタータースイッチが“ON”位置のとき、レバーを操作すると、ミラーモードとディスプレイモードを切り替えられます。

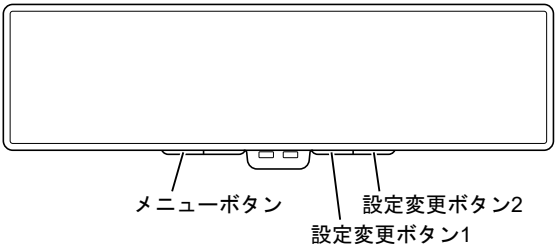
・ミラーモード
ミラーモードに設定すると通常のルームミラーと同じように映ります。
・ディスプレイモード
スタータースイッチが“ON”位置のとき、シフトレバーを“R”位置に操作するとディスプレイモードの近接表示に切り替わり、ガイド線とメッセージを表示します。
表示切り替えボタンで遠方表示と近接表示を切り替えることができます。

知 識

・ガイド線が表示設定されていない場合は表示されません。
・シフトレバーが“R”位置以外のとき、ガイド線は表示されません。

・ガイド線
ガイド線は車幅等を目安として設定します。駐車時のガイドとして利用できます。

電子インナーミラーの設定



メニューボタンを押すと設定画面になり、ボタンを押すごとに画面が切り替わります。設定画面を一巡すると、元の画面に戻ります。

- **輝度調整**
  画面の明るさを調整します。
- **言語設定**
  表示されるメッセージの言語を設定します。
- **ボタン照明**
  ボタンの照明の ON/OFF を設定します。
- **ガイド線表示**
  ガイド線表示の ON/OFF を設定します。
- **ガイド線上下調整**
  ガイド線の上下位置を調整します。
- **ガイド線左右調整**
  ガイド線の左右位置を調整します。
- **ガイド線回転調整**
  ガイド線の位置を回転調整します。

メニューボタン	設定変更ボタン 1	設定変更ボタン 2
輝度調整	画面が暗くなります。	画面が明るくなります。
言語設定	言語を選びます。	
ボタン照明	“OFF”になります。	“ON”になります。
ガイド線表示	“OFF”になります。	“ON”になります。
ガイド線上下調整	位置が下がります。	位置が上がります。
ガイド線左右調整	位置が左寄りになります。	位置が右寄りになります。
ガイド線回転調整	位置が左回転します。	位置が右回転します。

知 識

- 遠方表示のとき、ガイドの設定はできません。ミラーモード、近接表示にしてください。
- シフトレバーが“R”の位置にあるとき、ガイド線の設定はできません。
- 各設定を“± 0”にすると初期値となります。

電子インナーミラーのお手入れ

・**キャビネットの手入れ**
柔らかい乾いた布で軽くふいてください。汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤を柔らかい布につけて軽くふきとり、乾いた布で仕上げてください。

⚠ 注 意

・自動車用クリーナーなどは、変質したり、塗料がはげる原因となりますので使わないでください。また、ゴムやビニール製品を長時間接触させておくと、シミがつくことがあります。

・**液晶表示部の手入れ**
ホコリがつきやすいので、ときどき、柔らかい布でふいてください。

⚠ 注 意

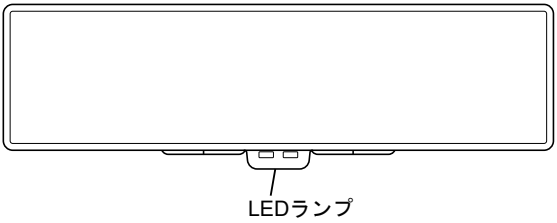
・ベンジンやシンナーなどの溶剤で液晶パネル部を清掃しないでください。

・**カメラの手入れ**
カメラのレンズに水滴、雪、泥などが付着したときは、水を含ませた柔らかい布などで軽くふいてください。

⚠ 注 意

・乾いた布で強くこすると傷の原因になります。
・ベンジンやシンナーなどの溶剤やアルコール類、磨き粉が配合された洗剤などで清掃しないでください。

電子インナーミラーの異常時



LED ランプが点灯した場合、カメラに異常があります。最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。
また、異常の種類によっては、異常時に LED ランプが点灯しないこともあります。LED ランプが点灯しない場合でも、異常があると感じたときは最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

知 識

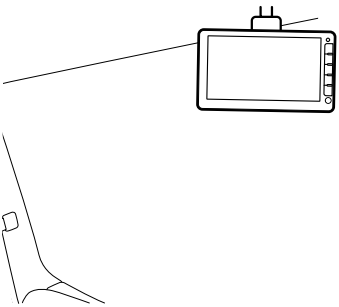
・モードの切り替え時などに一時的に LED ランプが点灯することがありますが、異常ではありません。

現 象	原 因	処 置
LED ランプが点灯	カメラに異常がある	最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。
	電子インナーミラーの温度が高い、またはシステム異常が発生している	車室内の温度を下げてください。
		ミラーの温度が下がっても警告 LED が消えない場合はミラーモードに切り替え、日産販売会社にご連絡ください。
ディスプレイモードに設定できない	システム異常が発生している	最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。
ユーザー設定が反映されない		
輝度・表示調整ができない	ボタンが故障している	最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。
	ボタンが意図せず常時押された状態にある	
モード切替ができない	レバー操作ができない	最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。
表示画面の応答速度が遅い	電子インナーミラーの温度が低い	車室内の温度を上げてください。

・故障かな？と思ったら
故障かな？と思ったら、修理を依頼する前に、もう一度次の点をお調べください。

現　象	原　因	処　置
表示される映像が見にくい	ミラーの表面が汚れている	柔らかい布でふき取ってください。
	強い光が電子インナーミラーまたはカメラに当たっている	ミラーモードに切り替えて、周辺環境が改善されてから、ディスプレイモードをご使用ください。
	夜間など暗いところにいる	
	強い電波やノイズが発生しているところにいる	
	カメラ付近の温度が高すぎる、または低すぎる	
	外気温が低すぎる	
	排気ガスが映り込んでいる	
	カメラのレンズが汚れている	ミラーモードに切り替えてください。
		カメラレンズを柔らかい布でふき取ってください。
表示される映像が見えない	荷台のアオリが下がっている	荷台のアオリを閉めてください。
表示される映像がずれている	カメラ位置が強い衝撃などによりずれている	ミラーモードに切り替えて、最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。
映像が表示されない	カメラの配線が正しく接続されていない	メインの配線、カメラ中継テーブルの配線を確認してください。
	カメラの受信方式が正しく設定されていない	接続されているカメラの受信方式（NTSC）が正しく設定されているか確認してください。
電源が入らない	電源の配線が正しく接続されていない	電源ケーブルの配線を確認してください。
	ヒューズが切れている	同じ容量のヒューズ（250V／5A）と交換してください。

バックアイモニター★



バックアイモニターは視界補助装置です。
車両後方の視覚情報をキャブ内のモニターに映し出し、ドライバーが見づらい視界を提供することにより、運転操作の補助を行います。

知 識

・取扱いの詳細については、お車の仕様に応じて別添の「**バックアイモニター取扱説明書**」をご覧ください。

アウトサイドミラー / アンダーミラー

正しい運転姿勢がとれるようにシートを調整し、車両の後方や側面および直前、直左の状況が十分に確認できるようミラー本体を調整します。



アウトサイドミラー
左右方向を鏡の約 1/3 に車体側面が映るようにし、上下方向は左ドアの窓の後部下側のかどが鏡の 1/2 の高さに映るようにします。

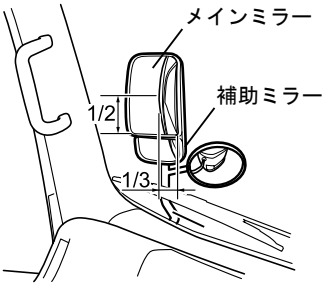
アンダーミラー
【標準キャブ車】
バンパー左側かどが中央部に映り、上縁にフロントガラス右下かどが映るようにします。

【ハイキャブ・ワイドキャブ車】
バンパー左側かどが中央部よりやや下に映るようにします。

注 意

・ミラーの位置調整は必ず走行する前に行ってください。
・ミラーで後方を確認するときには、前方不注意にならないよう十分に注意してください。
・後続車との距離に対する感覚がなれるまでは、十分に注意してください。
・狭い道でのすれちがいや、車庫入れ時、あるいは歩行者などに対して十分気を配りながら運転してください。
・ミラーを倒したまま、走行しないでください。

ワイドビューミラー★



ワイドビューミラーの調整はメインミラーで行います。メインミラーの左右方向を鏡の約 1/3 に車体側面が映るようにし、上下方向は左ドアの窓の後部下側のかどが鏡の 1/2 の高さに映るようにします。

⚠ 注 意

- ミラーの位置調整は必ず走行する前に行ってください。
- ミラーで後方を確認するときには、前方不注意にならないよう十分に注意してください。
- 後続車との距離に対する感覚がなれるまでは、十分に注意してください。
- 狭い道でのすれちがいや、車庫入れ時、あるいは歩行者などに対して十分気を配りながら運転してください。
- ミラーを倒したまま、走行しないでください。

知 識

- ワイドビューミラーは、助手席側の視界を拡大したアウトサイドミラーです。メインミラー上側では、よりななめ上側の位置まで、補助ミラーでは助手席下方および車両側方を広範囲に確認できます。
- 通常のアウトサイドミラーとは物の映り方が異なります。メインミラー上側および補助ミラーでは、物が実際よりも遠くあるように映り、メインミラー下側では物が大きく映ります。
- 同じ物がメインミラーと補助ミラーの両方に同時に映ることがあります。

シートベルト



シートベルトは正しく装着しないと、効果が半減するだけでなく危険な場合があります。
走行前に運転者は必ず装着し、同乗者にも必ず装着させてください。
シートベルトの使用方法および注意事項を十分に理解し、正しい取り扱いかたを身につけてください。

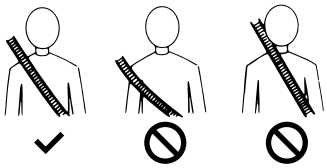
⚠ 警 告

- シートベルトは必ず走行前に装着してください。
- シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰掛けて装着しないと正常に機能しません。
- 走行中、シートを大きくリクライニングさせた状態でシートベルトを装着すると万一のとき、非常に危険です。背もたれを起こし、シートに深く腰掛けた状態でシートベルトを正しく装着してください。
- “カチッ”と音がするまでタングをバックルに確実に差し込みます。正しく差し込まれていないと万一のときケガをするおそれがあります。
- シートベルトは顔、あご、首にあたらないように装着してください。
- ベルトの装着は腹部をさけ、腰骨のできるだけ低い位置にかかるように装着してください。腹部に着用すると万一のとき強い圧力を受けて腹部にケガをすることがあります。
- シートベルトが首やあごにあたる場合や、腰骨にしっかりとかからない小さいお子様の場合は、万一のとき危険ですからシートベルトは装着せず市販のベビーシートやチャイルドシート、ジュニアシートを使用してください。詳しくは《日産販売会社》にご相談ください。
- ベビーシートやチャイルドシート、ジュニアシートはお子様の体格に合ったものを使用してください。取り付けはベビーシートやチャイルドシート、ジュニアシートの取扱説明書に従って確実に取り付けてください。
- シートベルトはねじれた状態で使用しないでください。万一事故が起きたとき衝撃が分散せず、本来の働きをしないおそれがあります。
- 妊娠中の女性や疾患（胸部、腹部）のあるかたは、医師に注意事項を確認したうえで、使用してください。
- シートベルトは１人用です。２人以上で１本のベルトを使用しないでください。万一のときシートベルトが正常に作動しないおそれがあります。
- シートベルトにほつれ、すり切れができたり、バックル部などが正常に作動しないときはベルトを《日産販売会社》で交換してください。
- シートベルトを装着した状態で万一、事故などにあいシートベルトに衝撃を受けたときは、シートベルトの外観上に異常がなくてもベルトの特性が失われ弱くなっていることがありますので《日産販売会社》で点検・交換をしてください。
- バックルやベルトの巻き取り装置部の中に異物などが入らないように注意してください。
- シートベルトの装着は法律により義務づけられています。また運転者は同乗者にもシートベルトを装着させる義務があります。ただし、疾病のためや妊婦などシートベルトを装着することが適当でないときがありますので医師にご相談ください。緊急自動車、その他特例で認められている車両は装着義務が免除されますが、できるかぎりシートベルトを装着することをお奨めします。

シート → 3-40 ページ参照
シートベルト未装着警告灯
→ 4-39 ページ参照
シートベルトの手入れ
→ 7-139 ページ参照

3 点式シートベルト

センターシートを除き装備されています。身体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃で身体が前に倒れそうなときにはシートベルトが自動的にロックされ、身体を拘束します。運転席はショルダーアンカーを使って正しい位置に調整してください。



⚠ 警 告

・肩部ベルトは首や顔に触れないように、また、肩に十分かかるようにしてください。衝突や、急ブレーキをかけたとき、ケガをするおそれがあります。



装着のしかた

① 正しい姿勢でシートに座ります。
② タングを持って引き出し、シートベルトにねじれが無いことを確かめタングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。

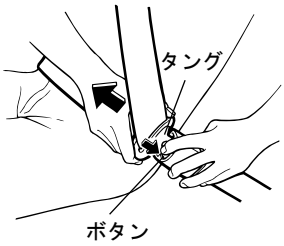
アドバイス

【シートベルトがロックしたときは】

・シートベルトをゆるめてから、再度ゆっくりと引き出してください。
それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくりと引き出してください。



③ 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着するように装着してください。



外しかた

バックルのボタンを押すと外れます。ベルトは自動的に巻き取られますのでタングを持ってゆっくり戻すようにします。

アドバイス

- シートベルトは自動的に巻き取られます。巻き込む勢いでボデーやウインドーガラスなどを傷つけないようタングを手で持ってゆっくり戻すようにしてください。
- シートベルトをドアやシートレールにはさまないように注意してピンと張った状態で収納してください。
- 助手席シートベルトが格納された後（または未使用時）、ストッパーの位置はベルトが完全に張っている状態で保持していることを確認してください。

⚠ 注 意

- ハンドル周辺、インパネ周辺、センターコンソール周辺、ブレーキ・クラッチペダル周辺、運転席シートベルトの修理や用品・オーディオ機器の取り付けはプリテンショナー付シートベルトや SRS エアバッグシステムに悪影響を与え不意にシートベルトが巻き込んだり SRS エアバッグがふくらみケガをするおそれがあります。必ず最寄りの《日産販売会社》で行ってください。

知 識

・運転席シートと助手席シート（助手席 SRS エアバッグ装着車）にはプリテンショナー機能が付いています。

・3 点式シートベルトには ELR 機能がついています。
運転席用シートベルトと助手席シートベルト（助手席 SRS エアバッグ装着車）には併せてロードリミッター機能も付いています。

【ELR 機能】

・通常は身体の動きに合わせて自由に伸縮しますが衝突や急ブレーキで身体が前に倒れるようなときはベルトがロックされ身体を拘束します。

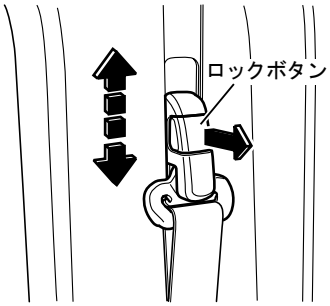
・ベルトを勢い良く引き出そうとすると ELR により、ベルトが固定されます。このようなときは一旦ベルトを戻し再度ゆっくり引き出してください。

【ロードリミッター機能】

・ベルトにかかる荷重を一定に保ちながらシートベルトが伸びだすことで乗員の胸部にかかる衝撃を緩和します。

プリテンショナー付シートベルト &
SRS エアバッグシステム
→ 4-217 ページ参照

ショルダーアンカー（フロントシートベルト）



調整のしかた

座高にあわせて、運転席側のショルダーアンカーの高さを 4 段階に調整できます。
ロックボタンを手前に引いたままショルダーアンカーを上下に動かします。高さが決まったらロックボタンから手を離し固定します。

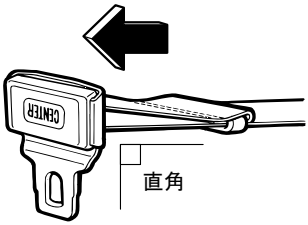
警 告

・危険ですから、走行中は調整しないでください。

・シートベルトは正しく装着されていないと、効果が低下してしまうおそれがあります。ショルダーアンカーの位置調整は、肩に十分かかるようにまた、肩にあるベルトが首や顔に触れないようにできるだけ高い位置に調整してください。

・調整後は、ショルダーアンカーが確実に固定されていることを確認してください。

2点式シートベルト（センターシート）★



装着のしかた

① 正しい姿勢でシートに座ります。

② タング側のシートベルトをあらかじめ少し長めにのばしておきます。（タングとシートベルトを直角にして行うと容易です。）



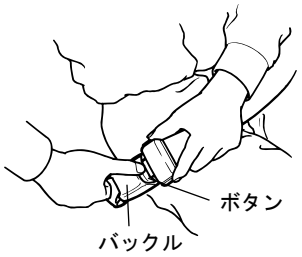
③ シートベルトにねじれの無いことを確かめてタングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。

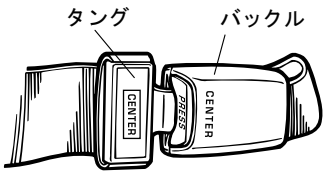


④ シートベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにし、ベルトの折り返し部（上側）を引っぱり長さを調整し、腰部に密着させます。

外しかた

バックルのボタンを押すと、外れます。





知 識

【センターシートの着用について】

・窓側用（ELR 3点式）と、センターシート用（長さ調整式2点式）との相互着用はできない構造となっています。
また、誤装着を防止するため、センターシート用シートベルトのタングおよびバックルには“CENTER”のマークをつけて区別してあります。

運転装置の取扱い 4

エンジンの始動・停止について 4-3

メーター、警告灯 / 表示灯について 4-9

スイッチについて 4-75

走行装置について 4-95

エンジンの始動・停止について

● エンジンの始動方法 4-4
● エンジンの停止方法 4-8

エンジンの始動方法

ワイパーやライティングおよびエアコンなどの各スイッチが“OFF”になっていることを確認します。
スタータースイッチを“ON”位置にして各警告灯、表示灯の点灯、および燃料の量を確認してください。

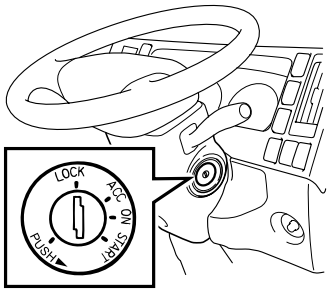
アドバイス

【インテリジェントキー無車】

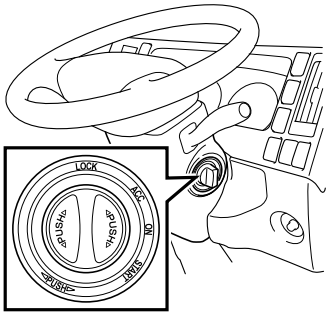
・キーに汚れやゴミなどが付いたまま使用すると、スタータースイッチが破損するおそれがあります。汚れやゴミなどをふき取ってから、キーを差し込んでください。

エンジンの始動

インテリジェントキー無車



インテリジェントキー付車



警 告

・スターターを約 10 秒以上連続して回し続けないでください。バッテリー、スターターの故障の原因や過熱など火災の原因になるおそれがあります。

スタータースイッチ → 4-76 ページ参照

⚠ 注 意

・マニュアルトランスミッション車はエンジンを始動する際、運転席に座り、パーキングブレーキレバーが確実に引かれていることを確認してください。また、クラッチペダルを踏み込みながらシフトレバーが“N”位置にあることも確認し、エンジンを始動してください。

・AMT 車はエンジンを始動する際、運転席に座り、パーキングブレーキレバーが確実に引かれていてシフトレバーが“N”位置にあり、シフトインジケーターに「N」が表示されていることを確認しブレーキペダルをしっかり踏んでエンジンを始動してください。また、エンジン始動時には下記の点に注意してください。

- シフトレバーを“N”から“D”、“R”位置に操作するときは、必ずエンジンが始動していることを確認してください。エンジンの始動を確認せずにシフトレバーを操作すると、スターターモーターが ON/OFF し、リングギヤなどスターター関連部品を破損するおそれがあります。

・エンジンの始動は必ず運転席に座って行ってください。窓越し、またはドアを開けて運転席に座っていない状態ではシフトレバーの“N”位置を確認できないため、マニュアルトランスミッション車では、万一シフトレバーが“N”位置以外でエンジンを始動すると、車が動くので注意してください。

・エンジンが始動せず、再度エンジンの始動を行う場合は、2 秒以上間隔をあけてからエンジンの始動を行ってください。

・マルチディスプレイに「再始動禁止中」が表示され、警報音“ピーーー”が鳴り続けているとエンジンが始動できません。マルチディスプレイの表示を確認し、適切な処置を行ってください。

再始動禁止中（尿素水補給）
→ 4-68 ページ参照
再始動禁止中（尿素品質異常）
→ 4-69 ページ参照

アドバイス

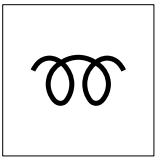
・寒冷時でエンジンが冷えているときは、排気煙（白煙）が多くなる場合があります。

・暖機スイッチを“ON”にすることで、暖機の促進と排気煙の低減を図ることができます。

・スタータースイッチを“ON”位置にしたときや、アイドリング時にブレーキペダルを数回踏んだときに、一時的にバキュームが不足してブザーが鳴る場合があります。

暖機スイッチ → 4-80 ページ参照
バキューム警告灯 → 4-43 ページ参照

グロー表示灯



インテリジェントキー無車

① マニュアルトランスミッション車では、シフトレバーを“N”位置にし、クラッチペダルをいっぱいに踏み込みます。
AMT 車では、シフトレバーが“N”位置にあることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏み込みます。

② スタータースイッチを“ON”位置にするとグロー（予熱）表示灯が点灯し、約 0.5 秒（エンジンが暖まっているとき）から約 4 秒（冷えているとき）後に消灯します。

③ グロー表示灯が消灯したことを確認し、スタータースイッチを“START”位置まで回し、始動します。
また、エンジン回転が不安定なときは、暖機スイッチに関係なしに、アイドルアップノブを回して安定するように調整し、暖機運転をします。暖機運転後は、アイドルアップノブを左にいっぱいに回しアイドリング状態にします。

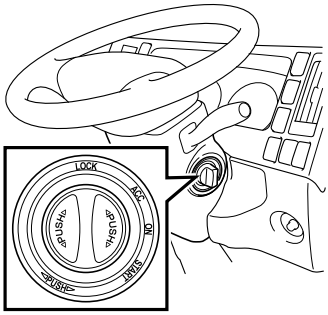
知 識

【グロー（予熱）とは】

・ディーゼルエンジンは圧縮着火方式のため、冷間時では十分な着火温度が得られず、始動が困難になる場合があります。この場合、燃焼室内の圧縮空気を暖め、エンジンの始動を容易にすることをグロー（予熱）と言います。エンジンを始動するときはグロー（予熱）表示灯が消灯してから行ってください。

インテリジェントキー付車

① マニュアルトランスミッション車では、シフトレバーを“N”位置にし、クラッチペダルをいっぱいに踏み込みます。
AMT 車では、シフトレバーが“N”位置にあることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏み込みます。



インテリジェントキー警告灯



② スタータースイッチを押しながら“ON”位置にするとグロー（予熱）表示灯が点灯し、約0.5秒（エンジンが暖まっているとき）から約4秒（冷えているとき）後に消灯します。

知 識

【スタータースイッチが回らないときは】

- リモコンキーが作動範囲外にあるときや電池が切れている場合など、インテリジェントキーのシステムがキーを認識できなかった場合は、スタータースイッチを“LOCK”位置から回すことはできません。
- スタータースイッチを押したときにインテリジェントキーのシステムがキーを認識できなかった場合、インテリジェントキー警告灯が遅い点滅（約2秒間隔）から点滅（約1秒間隔）に変わります。点滅が変わったときは、リモコンキーを携帯していることを確認してください。
- リモコンキーを携帯しているにもかかわらずインテリジェントキー警告灯が点滅（約1秒間隔）に変わったときは、キーの携帯位置を変え、再度スタータースイッチを操作してください。
- リモコンキーでのエンジン始動ができない場合は、“**インテリジェントキーが正常に作動しないとき**”を参照しエンジンを始動してください。

インテリジェントキーが正常に
作動しないとき　→8-51 ページ参照

③ グロー表示灯が消灯したことを確認し、スタータースイッチを“START”位置まで回し、始動します。また、エンジン回転が不安定なときは、暖機スイッチに関係なしに、アイドルアップノブを回して安定するように調整し、暖機運転をします。暖機運転後は、アイドルアップノブを左にいっぱいに回しアイドリング状態にします。

知 識

【グロー（予熱）とは】

・ディーゼルエンジンは圧縮着火方式のため、冷間時では十分な着火温度が得られず、始動が困難になる場合があります。この場合、燃焼室内の圧縮空気を暖め、エンジンの始動を容易にすることをグロー（予熱）と言います。エンジンを始動するときはグロー（予熱）表示灯が消灯してから行ってください。

エンジンの停止方法



パーキングブレーキを確実に効かせます。
アクセルペダルから足を離してスタータースイッチを“ACC”または“LOCK”位置にします。

アドバイス

・運転後、すぐにエンジンを停止すると焼き付きなど故障の原因になることがあります。パーキングブレーキを確実に効かせて以下の操作、確認を行い３分間程度アイドリング回転させてエンジンの温度を下げてから停止させてください。

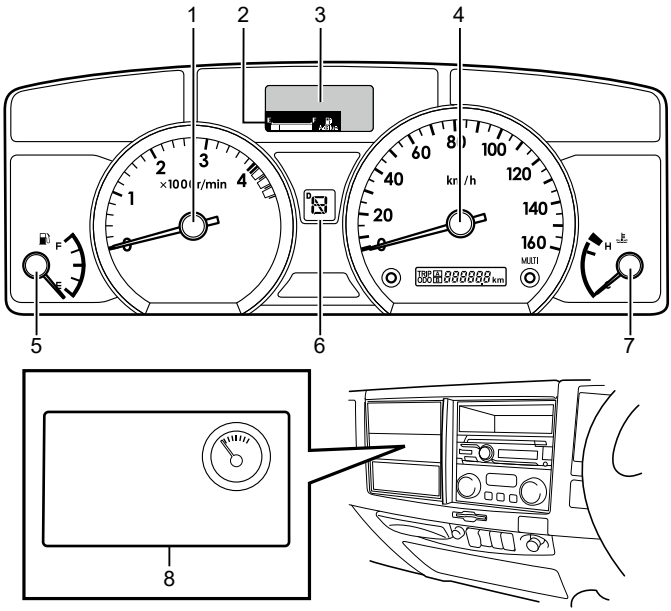
- マニュアルトランスミッション車は、シフトレバーを“N”位置に操作してギヤをニュートラルにしてください。
- AMT 車は、シフトレバーを“N”位置に操作してシフトインジケーターの「N」表示を確認してください。

・バッテリー上がりの原因となりますのでエンジン停止後は必ずスタータースイッチを“ACC”または“LOCK”位置にしてください。長時間放置する場合は、キーを抜いてください。

メーター、警告灯 / 表示灯について

● メーターの見かた（メーター配置）	4-10
● スピードメーター（速度計）	4-11
● タコメーター（エンジン回転計）	4-12
● 水温計（テンプメーター）	4-13
● フューエルメーター（燃料計）	4-14
● 油温計★	4-14
● 尿素水量計	4-15
● マルチディスプレイ	4-16
● 警告灯 / 表示灯配置	4-37
● 警告灯 / 表示灯	4-39
● 警報音★	4-71
● 音声警報★	4-73
● アナログタコグラフ★	4-74

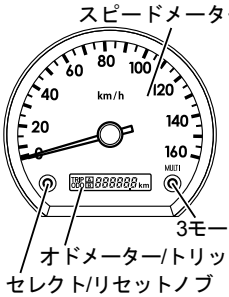
メーターの見かた（メーター配置）



No.	名　称	参照ページ
1	タコメーター（エンジン回転計）	4-12
2	尿素水量計	4-15
3	マルチディスプレイ	4-16
4	スピードメーター（速度計）	4-11

No.	名　称	参照ページ
5	フューエルメーター（燃料計）	4-14
6	シフトインジケーター★	4-104
7	水温計（テンプメーター）	4-13
8	油温計★	4-14

スピードメーター（速度計）



走行速度を km/h で示します。スタースイッチが“ON”位置のとき、「ODO」、「TRIP A」、「TRIP B」が液晶表示部に表示され、セレクト / リセットノブを軽く押すごとに表示が切り替わります。

オドメーター（積算距離計）

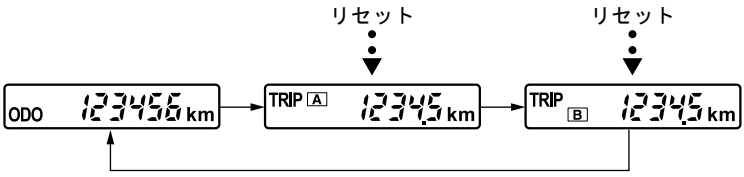
走行した総距離を km の単位で示します。999999km を超えると、B が表示されます。

トリップメーター（区間距離計）

ある区間の距離や、ある一定期間内の走行距離を知りたいときに使用します。

小数点の左側が km、小数点の右側が 100m 単位です。「TRIP A」と「TRIP B」で 2 種類の区間距離を測定できます。目的に応じて切り替えてください。

リセットするときは、セレクト / リセットノブでリセットしたいトリップメーターを選び表示させ、1 秒以上押し続けてください。また、9999.9km を超えると自動で 0 にリセットされます。



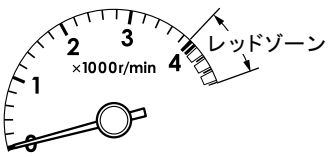
⟶:セレクト/リセットノブを短押し

••▶:セレクト/リセットノブを長押し（1秒以上）

知 識

- スタースイッチを“ON”位置にしたとき、液晶表示部には前回スタースイッチを“LOCK”位置にしたときに表示していたものを表示します。
- オドメーター表示中にスタースイッチを“LOCK”位置にし、セレクト / リセットノブを押しながらスタースイッチを“ON”位置にして 3 秒以内に再度スタースイッチを“LOCK”位置にすると、次回スタースイッチ“ON”位置にしたときオドメーター表示にすることができます。元に戻すときは同様の操作を行ってください。

タコメーター（エンジン回転計）



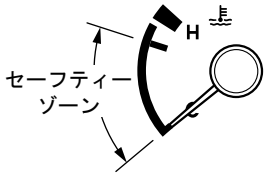
エンジンの毎分回転数を示します。（目盛りが 1 のところで 1,000 回転を示します。）赤色表示部（レッドゾーン）はエンジンの許容回転数を超えた危険回転域を示します。
指針が赤色表示部に入らないように運転してください。

アドバイス

・急な坂道を下るときのシフトダウンは、特に注意してください。オーバーラン（限界回転数超過）は、エンジンを破損するおそれがあります。

適切なシフトチェンジについて
→ 2-23 ページ参照
シフトレバー → 4-102 ページ参照

水温計（テンプメーター）





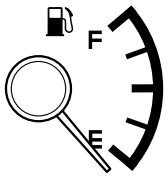
スタータースイッチが“ON”位置のとき、エンジン冷却水の温度を示します。“C”は低温、“H”は高温を示し、エンジンがオーバーヒートするとマルチディスプレイに「オーバーヒート」が表示され、警報音“ピーーー”が鳴ります。運転中はセーフティーゾーンの範囲内を示すのが正常です。

アドバイス

- 運転中に指針がセーフティーゾーンを越え、“H”側にきたときはオーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全で交通の妨げにならない場所に車を寄せてオーバーヒートの処置をとってください。
- 指針が“H”側に近づいてもセーフティーゾーンにあれば支障はありませんが、冷却水量をリザーブタンク部で確認してください。不足している場合は冷却水を補充してください。
  エンジンをすぐ止めると焼き付きの原因となります。オーバーヒートの処置をしてください。

オーバーヒートしたときは
→ 8-11 ページ参照

フューエルメーター（燃料計）





スタータースイッチが“ON”位置のとき燃料タンク内の燃料残量を示します。“F”は満量、“E”は空量を示します。
燃料の残量が少なくなったとき、マルチディスプレイに「燃料補給」が表示されます。

アドバイス

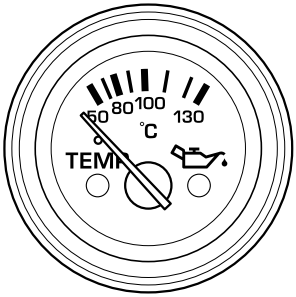
・燃料切れをおこしたときは燃料系統のエア抜きが必要です。

知 識

・燃料補給は余裕をもって早めに行ってください。
・燃料補給後、スタータースイッチを“ON”位置にしてから指示が安定するまで少し時間がかかります。
・スタータースイッチが“ON”位置でエンジンが停止しているときに給油を行った場合、フューエルメーター（燃料計）が正しい指示になるまで時間がかかる場合があります。この場合、いったんスタータースイッチを“LOCK”位置にし、再度スタータースイッチを“ON”位置にしてください。

燃料補給 → 4-53 ページ参照
燃料切れしたとき → 8-8 ページ参照

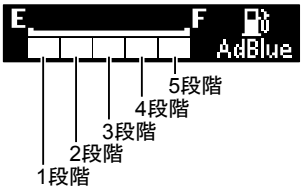
油温計★



消防車
オイルパン内のエンジンオイルの温度を℃で示します。指針が 120℃以上を示すときはエンジンがオーバーヒートしているおそれがあります。状況に応じてオーバーヒートの処置をとってください。

オーバーヒートしたときは
→ 8-11 ページ参照

尿素水量計



尿素水タンク内の残量を示します。「F」は満水、「E」は空を示します。
尿素水（AdBlue® 相当）の残水量は、5 段階で表示します。

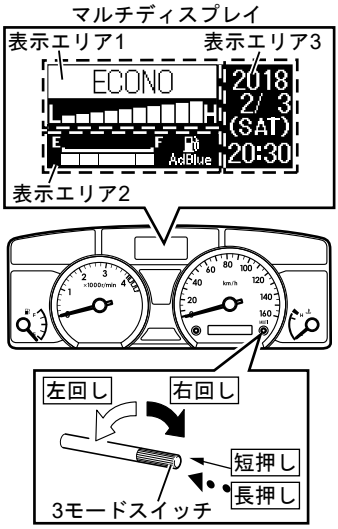
アドバイス

・尿素水（AdBlue® 相当）切れを起こしたときは、エンジンの再始動ができなくなりますので、早めの補給を心がけてください。

尿素水タンク容量［参考値］	
尿素水タンク 14L タイプ	13L

尿素水（AdBlue® 相当）の取り扱い
→ 2-52 ページ参照
指定された尿素水（AdBlue® 相当）を入れていますか → 2-52 ページ参照
尿素水（AdBlue® 相当）を補給するとき
→ 2-53 ページ参照
尿素水タンク → 3-33 ページ参照

マルチディスプレイ



メーターパネル内のマルチディスプレイは、表示画面を３分割にして以下の内容を表示します。

通常表示（表示エリア 1）
通常は電圧、燃費、時計、カレンダー、DPF PM 堆積量、DPF 再生進捗の作動状況などの運行管理情報を表示します。
表示画面の切り替えや、機能の選択などは３モードスイッチによって行います。

警告・作動表示（表示エリア 1）
通常画面表示中に各システムの異常、作動確認などの警告・作動表示を行います。

尿素水量表示（表示エリア 2）
尿素水量を表示します。

カレンダー・時計表示、LDW（車線逸脱警報）表示、先行車発進お知らせ表示（表示エリア 3）
時計、カレンダーや LDW（車線逸脱警報）、先行車発進お知らせ（先行車検知状態）を表示します。

⚠ 注 意

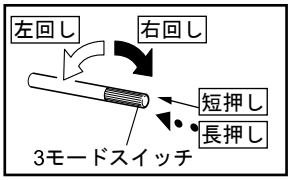
・マルチディスプレイの表示エリア１に表示された警告灯 / 表示灯は、３モードスイッチを短押しすると一時的（60 秒間のみ）に表示エリア３に移すことができますが、オーバーヒート等の警告灯表示を移した場合、適切な処置をせずに走行を続けないでください。適切な処置をせずに走行した場合、故障や事故の原因になり大変危険です。ただちに《日産販売会社》にご連絡ください。

知 識

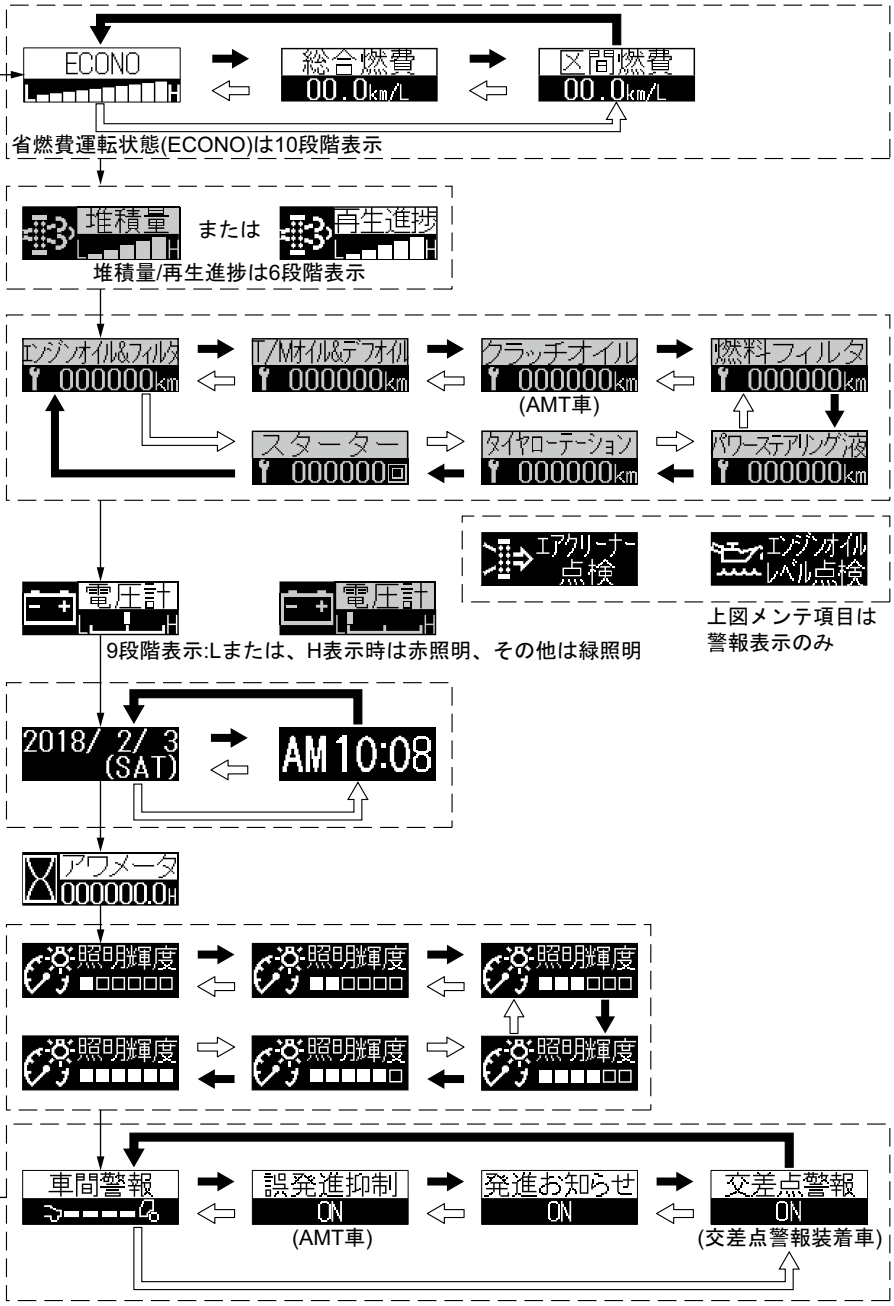
・LDW（車線逸脱警報）および先行車発進お知らせの表示が表示エリア３に表示されているときに３モードスイッチを短押しすると、表示エリア１に表示された警告灯 / 表示灯は表示エリア３に移動せず、一時的に消灯します。

メインルーチン

マルチディスプレイ表示の基本的な操作と表示画面を示しています。
表示画面の切り替えや、機能の選択などは３モードスイッチによって行います。

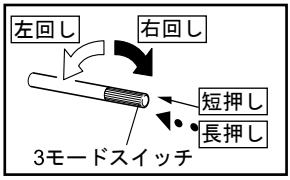


→:3モードスイッチを短押し
•••▶:3モードスイッチを長押し
➡:3モードスイッチを右回し
⇨:3モードスイッチを左回し

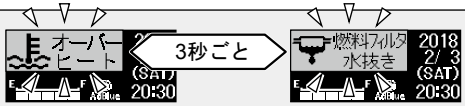
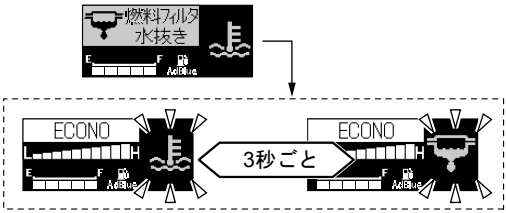

ECONO
総合燃費
00.0km/L
区間燃費
00.0km/L
省燃費運転状態(ECONO)は10段階表示
堆積量
または
再生進捗
堆積量/再生進捗は6段階表示
エンジンオイル&フィルタ
000000km
T/Mオイル&デフオイル
000000km
クラッチオイル
000000km
(AMT車)
燃料フィルタ
000000km
スターター
000000回
タイヤローテーション
000000km
パワーステアリング液
000000km
エアクリーナー点検
エンジンオイルレベル点検
上図メンテ項目は警報表示のみ
電圧計
電圧計
9段階表示:Lまたは、H表示時は赤照明、その他は緑照明
2018/ 2/ 3
(SAT)
AM10:08
アワメータ
000000.0H
照明輝度
車間警報
誤発進抑制
ON
(AMT車)
発進お知らせ
ON
交差点警報
ON
(交差点警報装着車)

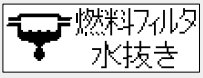
警告灯 / 表示灯表示

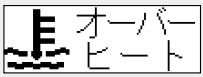
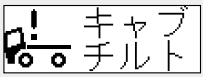
インフォメーション画面表示中に各システムの異常、作動確認などの表示を行います。
画面表示の切り替えや、機能の選択などは 3 モードスイッチによって行います。

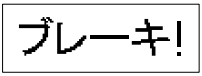
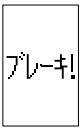


:3モードスイッチを短押し
:3モードスイッチを長押し
:3モードスイッチを右回し
:3モードスイッチを左回し

No.	マルチディスプレイの表示	操作方法
①		通常表示
②		警告がある場合、表示エリア1に表示します。
③		複数の警告がある場合、3秒ごとに表示が切り替わります。
④		表示エリア1に警告が表示されているとき、3モードスイッチを短押しすると表示エリア3に警告が移動します。
⑤		複数の警告があるとき、3モードスイッチを短押しすると表示エリア3に警告が移動します。
⑥		表示エリア1および3に警告表示があるとき、3モードスイッチを短押しすると表示エリア1の警告表示が表示エリア3に移動し、3秒ごとに表示が切り替わります。 60秒後に表示が③に戻ります。

警告灯 / 表示灯名称	表示エリア 1	表示エリア 3	表示色	表示条件	参照ページ
DPF 自動再生中			緑	DPF が自動再生を行っているとき	4-64 4-231
任意再生確認中			橙	DPF の任意手動再生が可能か確認しているとき	4-64 4-233
DPF 手動再生中			橙	DPF の手動再生を行っているとき	4-64 4-229
DPF スイッチを押して下さい			橙	DPF の手動再生を行う必要があるとき	4-64 4-228
再始動禁止中（尿素品質異常）			赤	尿素水（AdBlue® 相当）の品質に異常があり再始動を禁止しているとき	4-69
再始動禁止中（尿素水補給）			赤	尿素水（AdBlue® 相当）が空になり再始動を禁止しているとき	4-68
尿素品質異常			赤	尿素水（AdBlue® 相当）の品質に異常があるとき	4-69
尿素水補給			橙	尿素水（AdBlue® 相当）が少なく補給の必要があるとき	4-67
尿素噴射異常			橙	尿素 SCR システムに異常があるとき	4-70
燃料補給			橙	燃料残量が少なく補給が必要なとき	4-53
燃料フィルター（水抜き）			赤	プレフューエルフィルターの水抜きが必要なとき	4-50

警告灯 / 表示灯名称	表示エリア 1	表示エリア 3	表示色	表示条件	参照ページ
オーバーヒート			赤	エンジンオーバーヒート時	4-46
PTO（作動中）			赤	PTO 作動時	4-61
チルトキャブ			赤	チルトキャブロックが車両にロックされていないとき	4-52
アイドリングストップシステムバッテリー注意			橙	アイドリングストップによるエンジン停止時間が長いとき、エンジン自動停止中にドアを開けたときやバッテリーの状態が十分でなくなったとき	4-135
通信システム異常			赤	メーターと周辺システムの通信異常時	4-70
エンジンオイルレベル（点検）			橙	エンジンオイル量が低下、または“点検用 MAX”位置を超えたとき	4-48
エアクリーナーエレメント（点検）			橙	清掃時期が近づいたとき	4-48
AMT 油温上昇			橙	AMT クラッチオイルの温度が上昇するおそれのある運転状態のとき	4-51
			赤	AMT クラッチオイルの温度が異常に高いとき	
電圧異常（電圧低下）		—	赤	バッテリー電圧が低いとき	4-25
電圧異常（過電圧）		—	赤	バッテリー電圧が高いとき	4-25

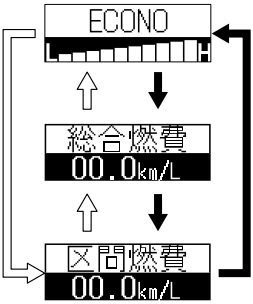
警告灯 / 表示灯名称	表示エリア 1	表示エリア 3	表示色	表示条件	参照ページ
走行支援システム故障カメラ			橙	カメラに異常があるとき	4-65
カメラ一時停止			橙	カメラが一時的に停止したとき	4-66
走行支援システム故障レーダー			橙	レーダーに異常があるとき	4-66
レーダー一時停止			橙	レーダーが一時的に停止したとき	4-67
注意喚起（インテリジェントエマージェンシーブレーキ）			赤	前方に障害物を検知し、運転者にブレーキ操作を促すとき	4-167
ブレーキ作動警報（インテリジェントエマージェンシーブレーキ）			赤	前方に障害物を検知し、衝突回避が困難でインテリジェント エマージェンシーブレーキが自動的に緊急ブレーキを作動させるとき	4-167
LDW（車線逸脱警報）“ON”	—		緑	警報タイミング“標準”を選択したとき	4-156
	—		緑	警報タイミング“遅い”を選択したとき	

警告灯 / 表示灯名称	表示エリア 1	表示エリア 3	表示色	表示条件	参照ページ
左側 LDW（車線逸脱警報）	—		橙	走行中、左側の車線を越えたとき（警報タイミング“標準”選択時）	4-157
	—		橙	走行中、左側の車線を越えたとき（警報タイミング“遅い”選択時）	
右側 LDW（車線逸脱警報）	—		橙	走行中、右側の車線を越えたとき（警報タイミング“標準”選択時）	4-157
	—		橙	走行中、右側の車線を越えたとき（警報タイミング“遅い”選択時）	
車間注意（車間距離警報）	車間注意	車間注意	橙	先行車との車間距離が縮まりすぎているとき	4-174
前方注意（踏み間違い衝突防止アシスト）	前方注意	前方注意	赤	発進時、前方に障害物があるが必要以上に急加速したとき	4-183
先行車発進お知らせ（先行車検知状態）※	—		緑	停止時、先行車を検知していないとき	4-189
	—		緑	停止時、先行車を検知したとき	
先行車発進（先行車発進お知らせ）	先行車発進	先行車発進	橙	停止時、先行車の発進後に自車が停止し続けたとき	4-189

※：LDW（車線逸脱警報）が“ON”の場合のみ表示されます。

インフォメーション表示

電圧、燃費、時計、カレンダーなどの作動状況などの運行管理情報を表示します。

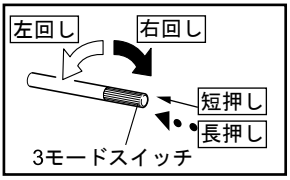


省燃費運転状態・燃費表示

走行中の省燃費運転状態や燃費を表示することで、運転者に対して省燃費運転を促します。
3 モードスイッチを短押しして表示を選択してください。

知 識

・区間燃費は、トリップ B の距離をもとに表示しています。



:3モードスイッチを短押し
:3モードスイッチを長押し
:3モードスイッチを右回し
:3モードスイッチを左回し

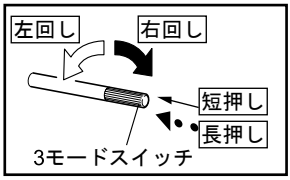
表示名称	表示エリア 1	表示色	表示条件
省燃費運転状態（ECONO）	ECONO L H	緑	走行中の省燃費運転状態をバーグラフで表示します H 側に近づくほど省燃費運転（環境に配慮した運転）であることを示します
総合燃費	総合燃費 00.0km/L	緑	トータルの平均燃費を表示します
区間燃費	区間燃費 00.0km/L	緑	ある特定区間での燃費です

区間燃費のリセット方法

区間燃費はトリップ B をリセットすると区間燃費もリセットされます。

電圧計表示

電圧計表示では、現在のバッテリー状態を９段階で表示します。
３モードスイッチを短押しして電圧計表示を選択してください。
電圧計表示を選択していなくても､バッテリー電圧が「L」または「H」端になると「電圧異常」（赤）を表示します。電圧計表示が（赤）のときはただちに最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。



→:3モードスイッチを短押し
•••▶:3モードスイッチを長押し
➡:3モードスイッチを右回し
⇨:3モードスイッチを左回し



表示名称	表示エリア１	表示色	表示条件
電圧計		緑	通常（正常）表示のとき
電圧異常（電圧低下）		赤	バッテリー電圧が低いとき
電圧異常（過電圧）		赤	バッテリー電圧が高いとき

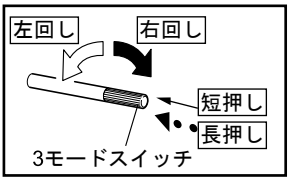
知 識

・エンジン始動中および始動直後に「L」端を示しマルチディスプレイに「電圧異常」（赤）を表示する場合がありますが、始動完了後正常に戻れば異常ではありません。
・発電を制御して燃費の向上を図っているため、加減速時など走行中に電圧計の指示が大きく変動する場合がありますが異常ではありません。

カレンダー・時計表示

⚠ 注 意

・カレンダー、時計の設定は車両が駐停車中のみ設定できます。
車両を駐停車するときは、駐停車が許されている場所で、かつほかの交通に迷惑をかけない安全な場所を選んでください。



→:3モードスイッチを短押し
•••▶:3モードスイッチを長押し
➡:3モードスイッチを右回し
⇨:3モードスイッチを左回し

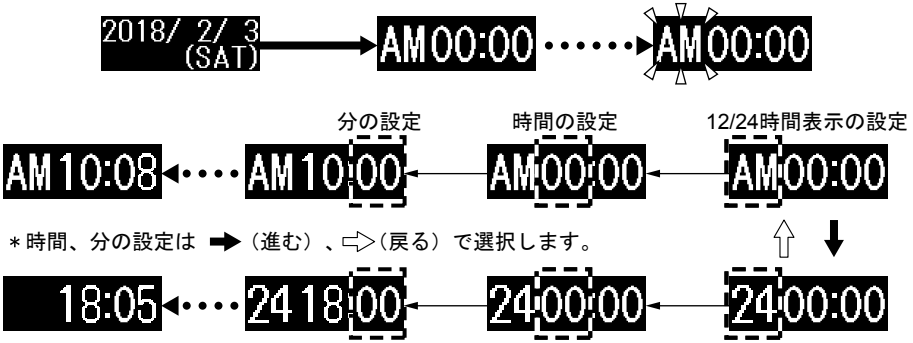


＊年、月、日の設定は ➡（進む）、⇨（戻る）で選択します。

【カレンダーの設定】

① 3モードスイッチを短押ししてカレンダー表示を選択してください。
② 3モードスイッチを長押ししてカレンダー設定表示にしてください。
このとき、年数の位置が点滅します。
③ 年数を設定します。3モードスイッチを右回しにすると年数が進み、左回しにすると年数が戻ります。
このとき、3モードスイッチを右回しして保持、左回しして保持すると保持している間だけ年数を進めたり、戻すことができます。
④ 月数を設定します。年数設定表示から3モードスイッチを短押しし、月数表示に切り替えます。このとき、月数表示が点滅します。
⑤ 3モードスイッチを右回しにすると月数が進み、左回しにすると月数が戻ります。このとき、3モードスイッチを右回しして保持、左回しして保持すると保持している間だけ月数を進めたり、戻すことができます。
⑥ 日付を設定します。月数設定表示から3モードスイッチを短押しし、日付表示に切り替えます。このとき、日付表示が点滅します。
⑦ 3モードスイッチを右回しにすると日付が進み、左回しにすると日付が戻ります。このとき、3モードスイッチを右回しして保持、左回しして保持すると保持している間だけ日付を進めたり、戻すことができます。
⑧ 3モードスイッチを長押ししてカレンダー設定を決定してください。
設定が完了するとカレンダー表示に戻ります。

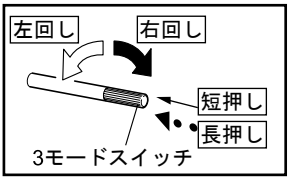
【時計の設定】



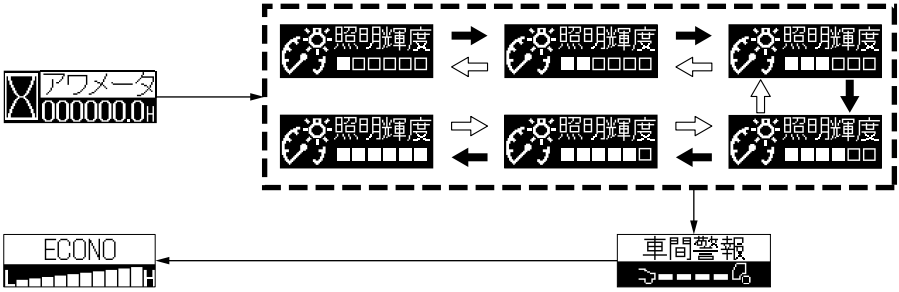
① 3 モードスイッチを短押ししてカレンダー表示を選択してください。
② 3 モードスイッチを右回しして時計表示にしてください。
③ 3 モードスイッチを長押しして時計設定表示にしてください。
このとき、AM/PM または 24 の位置が点滅します。
④ 12/24 時間表示の設定をします。3 モードスイッチを回し表示を切り替えます。
・12 時間表示→ AM または PM が表示されます。
・24 時間表示→ 24 が表示されます（時計設定を決定すると消灯します）
⑤ 時間を設定します。12/24 時間表示設定から 3 モードスイッチを短押しして時間表示に切り替えます。このとき、時間表示が点灯します。
⑥ 3 モードスイッチを右回しにすると時間が進み、左回しにすると時間が戻ります。
このとき、3 モードスイッチを右回しして保持、左回しして保持すると保持している間だけ時間を進めたり、戻すことができます。
⑦ 分数を設定します。時間設定表示から 3 モードスイッチを短押しして分数表示に切り替えます。このとき、分数表示が点滅します。
⑧ 3 モードスイッチを右回しにすると分数が進み、左回しにすると戻ります。
このとき、3 モードスイッチを右回しして保持、左回しして保持すると保持している間だけ分数を進めたり、戻すことができます。
⑨ 3 モードスイッチを長押しして時計設定を決定してください。
設定が完了すると時計表示に戻ります。

照明輝度表示

マルチディスプレイの明るさを調整するときに選択、設定します。3モードスイッチを短押しして6段階の照明輝度表示から選択してください。メーター照明消灯時・点灯時のそれぞれの明るさを設定できます。

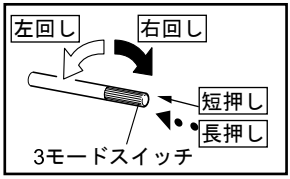


→:3モードスイッチを短押し
•▶:3モードスイッチを長押し
➡:3モードスイッチを右回し
⇨:3モードスイッチを左回し

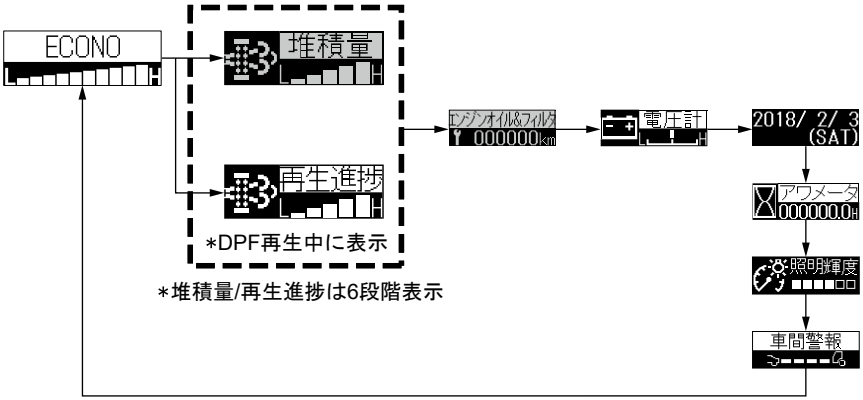


DPF 表示

DPF フィルターに捕集された PM（粒子状物質）の堆積状況を表示します。DPF 再生中は、再生進捗を表示します。



:3モードスイッチを短押し
:3モードスイッチを長押し
:3モードスイッチを右回し
:3モードスイッチを左回し



*堆積量/再生進捗は6段階表示

表示名称	表示エリア 1	表示色	表示条件
DPF PM 堆積量		緑	現在の PM 堆積状況を表示します
DPF 再生進捗		橙	DPF の再生が終了するまでの進捗状況を表示します

ERROR が表示されたとき
→ 4-36 ページ参照

DPF の PM 堆積量表示

DPF の PM（粒子状物質）堆積量をマルチディスプレイに６段階に表示します。
堆積量が増加するとマルチディスプレイ内の表示も増加します。

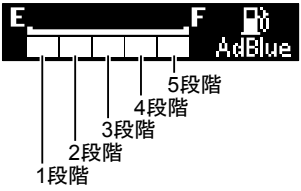
項　目	表示エリア 1	項　目	表示エリア 1
堆積量 0 段階		堆積量 3 段階	
堆積量 1 段階		堆積量 4 段階	
堆積量 2 段階		堆積量 5 段階	

DPF の再生進捗表示

DPF 再生時は DPF 再生進捗状況をマルチディスプレイに 6 段階に表示し、一番右側を点滅表示します。
再生が進むにつれてマルチディスプレイ内の表示が減少します。

項　目	表示エリア 1	項　目	表示エリア 1
再生進捗 5 段階		再生進捗 2 段階	
再生進捗 4 段階		再生進捗 1 段階	
再生進捗 3 段階		再生進捗 0 段階 （再生終了）	

尿素水量表示



尿素水タンク内の残量を表示エリア 2 に表示します。残水量が減少すると表示も減少します。

尿素水量計 → 4-15 ページ参照

アワーメーター



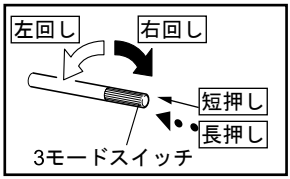
エンジンの使用時間をマルチディスプレイ内に表示します。
3 モードスイッチ短押しでアワーメーター表示を選択します。小数点から左が時間、右が 1/10 時間を示します。

アドバイス

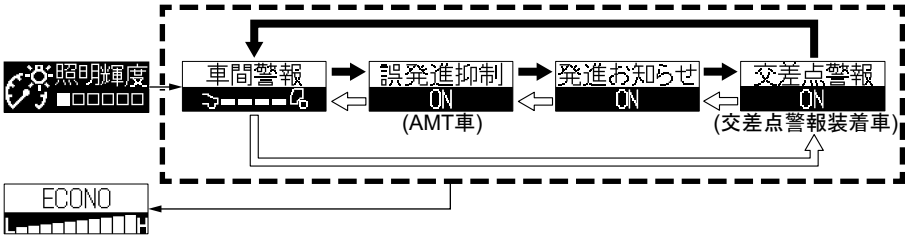
・アワーメーターはリセットできません。

安全関連機能

安全関連機能（車間距離警報、踏み間違い衝突防止アシスト★、先行車発進お知らせ、交差点警報★）の ON/OFF を切り替えるときに設定、選択します。



→:3モードスイッチを短押し
•••▶:3モードスイッチを長押し
➡:3モードスイッチを右回し
⇨:3モードスイッチを左回し



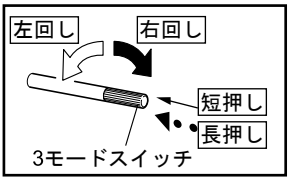
車間距離警報 → 4-169 ページ参照
踏み間違い衝突防止アシスト★ → 4-176 ページ参照
先行車発進お知らせ → 4-185 ページ参照
交差点警報★ → 4-191 ページ参照

メンテナンス表示

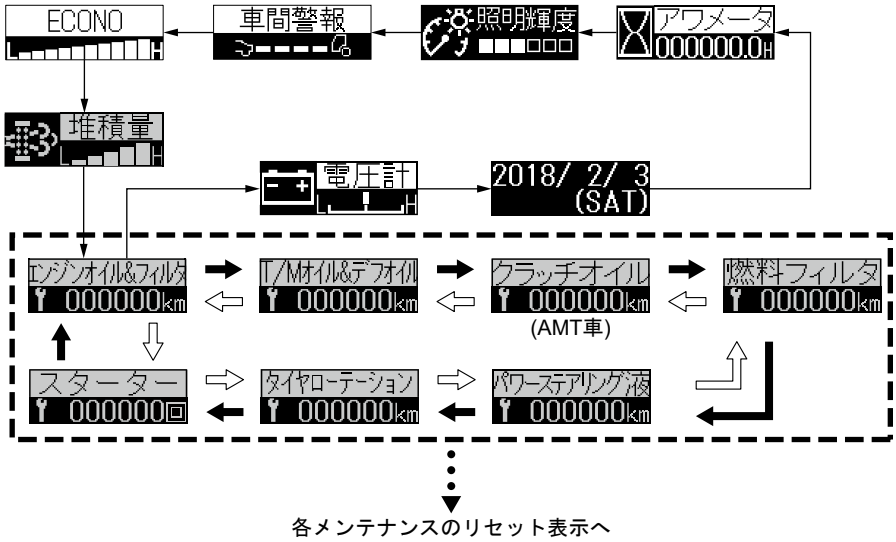
メンテナンス表示では、各メンテナンス項目のメンテナンス時期を表示します。
メンテナンス表示が緑→橙に変わったらメンテナンス時期です。ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。

アドバイス

・各項目の交換を行った後は、交換時期の設定（リセット）を必ず行ってください。設定（リセット）を行わない場合、メンテナンス時期が正しく表示されない原因となります。



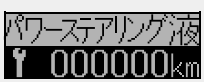
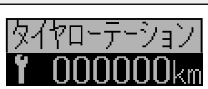
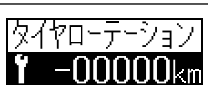
:3モードスイッチを短押し
:3モードスイッチを長押し
:3モードスイッチを右回し
:3モードスイッチを左回し



各メンテナンスのリセット表示へ

アドバイス

・各メンテナンス項目の表示はメンテナンス時期までの残距離または超過距離を表示します。メンテナンス時期が近くなると背景色が緑から橙に変わり、メンテナンス時期が近づいたことをお知らせします。
・メンテナンス時期が近づいたときは、スタータースイッチを“ON”位置にしたとき点灯し、３モードスイッチを短押しするか、走行を開始するまで表示します。
・スターターモーターのメンテナンス表示は交換時期までの残始動回数または超過始動回数を表示します。表示回数が交換時期に達すると背景色が緑から橙に変わり、スターターモーターの交換をお知らせします。

メンテナンス表示名称	表示エリア 1	表示色	表示条件	参照ページ
エンジンオイル＆フィルター		緑	交換時期までの残りの目安を距離で表示しています	4-47
		橙	エンジンオイル＆フィルターの交換時期が近づいたとき	
トランスミッションオイル＆デフオイル		緑	交換時期までの残りの距離を表示しています	4-52
		橙	トランスミッションオイル＆デフオイルの交換時期が近づいたとき	
AMT クラッチオイル★		緑	交換時期までの残りの距離を表示しています	4-54
		橙	クラッチオイルの交換時期が近づいたとき	
燃料フィルター		緑	交換時期までの残りの距離を表示しています	4-54
		橙	フューエルフィルターの交換時期が近づいたとき	
パワーステアリングフルード		緑	交換時期までの残りの距離を表示しています	4-55
		橙	パワーステアリングフルードの交換時期が近づいたとき	
タイヤ交換（ローテーション）		緑	交換時期までの残りの距離を表示しています	4-55
		橙	タイヤローテーションの時期が近づいたとき	
スターター		緑	交換時期までの残りの始動回数を表示しています	4-56
		橙	スターターモーターの交換時期が近づいたとき	

エンジンオイル＆フィルター交換時期（積算距離）の設定



① マルチディスプレイに「エンジンオイル＆フィルタ」を表示させます。
② 3モードスイッチを長押しして、リセット画面を表示させます。

知 識

・中止するときは、3モードスイッチを短押ししてください。リセット画面の前の表示に戻ります。

③ 選択後、3モードスイッチを長押しすると交換時期はリセットされます。

トランスミッションオイル＆デフオイル、AMT クラッチオイル、フューエルフィルター、パワーステアリングフルード交換時期（積算距離）の設定



① マルチディスプレイにリセットしたい項目を表示させます。
② 3モードスイッチを長押しして、リセット画面を表示させます。
③ 3モードスイッチを回し、交換時期を設定します。
・右回し→距離の増加
・左回し→距離の減少



（AMT）





知 識

・中止するときは、3モードスイッチを短押ししてください。リセット画面の前の表示に戻ります。

④ 距離を決定したら、3モードスイッチを長押しし、交換時期を設定します。



タイヤローテーション時期（積算距離）の設定

① マルチディスプレイに「タイヤローテーション」を表示させます。
② 3モードスイッチを長押しして、リセット画面を表示させます。

知 識

・出荷時、タイヤローテーションは設定されていないため、「設定なし」が表示されます。
・中止するときは、3モードスイッチを短押ししてください。リセット画面の前の表示に戻ります。

③ 3モードスイッチを回し、タイヤローテーション時期を設定します。
・右回し→距離の増加
・左回し→距離の減少
④ 距離を決定したら、3モードスイッチを長押しし、距離を設定します。



スターター交換時期（始動回数）の設定

エンジンの始動回数を知らせ、始動回数が交換時期に達したときに、背景色が緑から橙に変わり、スターターモーターの交換をお知らせします。最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。

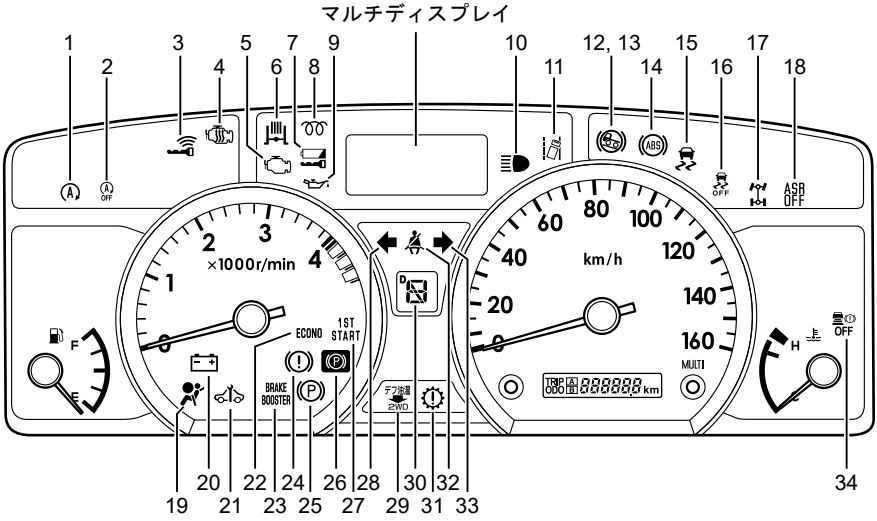
ERROR が表示されたとき

ERROR 表示例



各メンテナンスデータを取得できない場合、マルチディスプレイに「ERROR」を表示します。「ERROR」表示から各メンテナンス表示や各種表示に自動的に変わらないときは最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。

警告灯 / 表示灯配置


マルチディスプレイ
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12, 13
14
15
16
17
18
×1000r/min
km/h
ECONO
1ST START
BRAKE BOOSTER
MULTI
ASR OFF
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34

No.	名　　称	参照ページ
1	アイドリングストップ表示灯★	4-61
2	アイドリングストップ OFF 表示灯★	4-61
3	インテリジェントキー警告灯★	4-62
4	暖機システム作動表示灯	4-60
5	エンジン制御警告灯	4-49
6	排気ブレーキ表示灯	4-57
7	リモコンキー（インテリジェントキー）電池残量警告灯★	4-63
8	グロー（予熱）表示灯	4-60
9	油圧警告灯	4-46
10	ハイビーム表示灯	4-56
11	LDW（車線逸脱警報）警告灯	4-45
12	ヒルスタートアシスト表示灯★	4-57
13	ヒルスタートアシスト警告灯★	4-58
14	ABS 警告灯	4-44
15	VDC 警告灯	4-45
16	VDC OFF 表示灯	4-59
17	4WD 表示灯★	4-61
18	トラクションコントロール OFF 表示灯	4-58

No.	名　　称	参照ページ
19	SRS エアバッグ警告灯	4-39
20	充電警告灯	4-49
21	SVS 警告灯	4-50
22	ECONO モード表示灯	4-60
23	バキューム警告灯	4-43
24	ブレーキ警告灯	4-40
25	電動パーキングブレーキ警告灯★	4-42
26	パーキングブレーキ警告灯	4-40
27	1 速発進モード表示灯★	4-60
28	ターンシグナル表示灯＆ハザード表示灯（左）	4-56
29	フロントデフ油温警告灯★	4-53
30	シフトインジケーター★	4-104
31	AMT 警告灯★	4-51
32	シートベルト未装着警告灯	4-39
33	ターンシグナル表示灯＆ハザード表示灯（右）	4-56
34	インテリジェントエマージェンシーブレーキ OFF 表示灯	4-59

警告灯 / 表示灯

シートベルト未装着警告灯



スタータースイッチが“ON”位置のときに運転者がシートベルト未装着の場合に点灯します。

知 識

・この警告灯は運転者がシートベルトを装着すれば消灯します。

SRS エアバッグ警告灯



スタータースイッチを“ON”位置にすると７回点滅し、消灯すれば正常です。
SRS エアバッグ警告灯が点灯すると、万一のとき、プリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグが作動しないおそれがあります。

注 意

・初期の７回点滅がないとき、あるいは消灯しないときや、たびたび点灯するときは、ただちに《日産販売会社》で点検、修理を受けてください。

ブレーキ警告灯



スタータースイッチを“ON”位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯すれば正常です。
エンジン回転中（始動後）、次のような場合に点灯します。

- ブレーキフルードの減少（ブレーキの摩耗、液漏れなど）
- 充電系統に異常が生じたとき（ジェネレーター本体の故障および、ファンベルトの緩みや切れなど）
- 制動力アシスト機能に異常が生じたとき（制動力アシスト機能付車）
- ABS、EBD の機能に異常が生じたとき（ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯します）

ABS 警告灯 → 4-44 ページ参照

⚠ 注 意

- ブレーキ警告灯が点灯したときは、ただちに走行を中止して安全で交通の妨げにならない場所に停車し、《日産販売会社》で点検を受けてください。
- ブレーキ警告灯が点灯したときは、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。効きが悪いときはブレーキペダルを強く踏み込んでください。

パーキングブレーキ警告灯

除く電動パーキングブレーキ付車
パーキングブレーキレバーを引くと点灯します。



⚠ 注 意

- ランプの点灯は、ブレーキの効きとは関係ありません。パーキングブレーキレバーはしっかりと引き上げてロックしてください。
- パーキングブレーキレバーを引いたまま走行しないよう注意してください。

アドバイス

・警告灯が点灯したまま走行すると、警報音“ピーーー”が鳴り続け、パーキングブレーキの戻し忘れを知らせます。いったん停車し、レバーを戻してから走行してください。



電動パーキングブレーキ付車

スタータースイッチが“ON”位置のときは、パーキングブレーキレバーを引くと点灯します。“ACC”または“LOCK”位置のときは、パーキングブレーキレバーを引く、または戻すと約35秒間点灯します。また、電動パーキングブレーキシステムに異常がある場合は点滅します。

警 告

・スタータースイッチを“ON”位置にしたとき点灯し、約３秒後に消灯したときはパーキングブレーキが解除されています。パーキングブレーキを効かせるか、フットブレーキを踏み込んでください。
・パーキングブレーキレバーを操作してもパーキングブレーキ警告灯が点灯または消灯しないときは、電動パーキングブレーキシステムに異常があります。ただちに最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。
・パーキングブレーキ警告灯が点滅したときは電動パーキングブレーキシステムに異常があります。ただちに安全な場所に停車し、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

注 意

・パーキングブレーキレバーを引いたまま走行しないよう注意してください。

アドバイス

・警告灯が点灯したまま走行すると、警報音“ピーーー”が鳴り続け、パーキングブレーキの戻し忘れを知らせます。いったん停車し、レバーを戻してから走行してください。

知 識

・パーキングブレーキを効かせた状態で、スタータースイッチを“ACC”または“LOCK”位置にすると、警告灯が約 35 秒点灯し続けますが異常ではありません。
・スタータースイッチが“ACC”または“LOCK”位置のときは、パーキングレバーを戻してもパーキングブレーキは解除されません。このとき、パーキングブレーキ警告灯が点灯し、パーキングブレーキレバーが解除位置にあることをお知らせします。パーキングブレーキ警告灯は約 35 秒後に消灯します。

電動パーキングブレーキ警告灯★



スタータースイッチを“ON”位置にすると点灯し、約 3 秒後に消灯すれば正常です。また、次のような場合に点灯します。点灯したときは、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

・パーキングブレーキのブレーキドラムとライニングのすき間が大きくなり、調整が必要になったとき
・電動パーキングブレーキのモーターの交換時期が近づいたとき
・電動パーキングブレーキシステムに異常があるとき

知 識

・パーキングブレーキの上げ下げを連続して 20 秒以上操作したことにより、保護回路が作動してパーキングブレーキが効いたときは点滅しますが、少し時間をおくと消灯します。

バキューム警告灯



次の状況の場合に点灯し、同時に警報音“ピーーー”が鳴ります（パーキングブレーキレバーを引いている間、ブザーは鳴りやみます）。

- 運転中、またはスタータースイッチを“ON”位置にしたときにブレーキ倍力装置のバキュームが不足したとき
- 充電系統に異常が生じたとき（ジェネレーター本体の故障および、ファンベルトの緩みや切れなど）
- 排気ブレーキ使用中に排気ブレーキに異常があるとき

⚠ 注 意

- 排気ブレーキを使用中に警告灯が点灯し、ブザーが鳴ったときは、ただちに安全で交通の妨げにならない場所に車を寄せ、次の処置をしてください。
  - エンジンをかけたまま、排気ブレーキスイッチを切り、数秒後に警告灯が消灯した場合は、排気ブレーキ系統の異常です。
  - 警告灯が消灯しない場合は、フットブレーキ（主ブレーキ）のブレーキ倍力装置が異常です。
    ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

排気ブレーキスイッチ → 4-86 ページ参照

ABS 警告灯



スタータースイッチを“ON”位置にすると点灯し、約３秒後に消灯すれば正常です。
アンチロックブレーキ装置に異常があるときにブレーキ警告灯と同時に点灯します。このとき、アンチロックブレーキ装置の作動は停止しますが、通常のブレーキとして作動します。

⚠ 注 意

・運転中に点灯したときは、ただちに安全で交通の妨げにならない場所に停車し、次の処置をしてください。
  - エンジンを停止します。
  - エンジンを再始動させます。このとき、警告灯の点灯、消灯の状態を確認してください。正しく点灯後消灯すれば異常はありません。アンチロックブレーキ装置は正常に作動します。
  - 上記の処置で消灯しない場合、発進・走行し、車速が約 15km/h に達するまでに警告灯が消灯すれば異常ではありません。
・点灯または消灯しないとき、たびたび点灯するときは、ただちに《日産販売会社》で点検、修理を受けてください。
・ABS に異常が発生しても通常のブレーキとしての性能は確保されています。このとき ABS は作動しません。

ABS → 4-138 ページ参照

VDC 警告灯



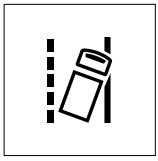
スタータースイッチを“ON”位置にすると点灯し、約 3 秒後に消灯すれば正常です。
VDC 作動時に点滅し、VDC に異常があるときや、バキュームが低下したときは点灯します。
また、TCS（トラクションコントロールシステム）だけが VDC システム内で動作しているときは、VDC 警告灯も点滅します。
消灯しないときやたびたび点灯するとき、スタータースイッチを“ON”位置にしても点灯しないときは最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

知 識

- VDC に異常が発生しても通常のブレーキとしての性能は確保されています。このとき VDC は作動しません。
- バキュームが低下すると、VDC 警告灯が点灯することがあります。この場合、VDC 警告灯が速やかに消灯し、エンジンが再始動すれば問題ありません。警告灯が消灯しないときや、たびたび点灯するときは、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。
- バッテリーケーブルが接続されていないか、バッテリー電圧が低い場合、VDC 警告灯が点灯することがあります。VDC 警告灯が点灯している間 VDC は停止しますが、しばらくの間通常通り走行すると VDC 警告灯が消灯し、VDC が再開します。しばらく走行しても VDC 警告灯が点灯したままになっているときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

VDC → 4-145 ページ参照
VDC OFF スイッチ → 4-147 ページ参照

LDW（車線逸脱警報）警告灯



スタータースイッチを“ON”位置にすると点灯し、エンジンを始動して約 10 秒後に消灯すれば正常です。
LDW（車線逸脱警報）の機能を停止させたときや、LDW（車線逸脱警報）に異常があるときに点灯し、LDW（車線逸脱警報）が作動したときに点滅します。
消灯しないときや、LDW（車線逸脱警報）の機能を停止させていなくても点灯するとき、スタータースイッチを“ON”位置にしても点灯しないときは最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

LDW（車線逸脱警報）
→ 4-150 ページ参照

知 識

・エンストしたとき、エンジンを再始動するとLDW（車線逸脱警報）警告灯が一瞬点灯することがありますが故障ではありません。

【マニュアルトランスミッション車】

・エンジン回転が極端に下がると､LDW（車線逸脱警報）警告灯が一瞬点灯して、LDW（車線逸脱警報）の機能が一時的に停止することがあります。これは誤作動を防ぐための保護機能によるもので、異常ではありません。停止後数秒経過すると機能が復帰します。

油圧警告灯



スタータースイッチを“ON”位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯すれば正常です。
エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力に異常があると点灯します。
また、アイドリングストップによるエンジン停止中に点灯する場合がありますが、エンジンが再始動すると消灯します。

アドバイス

・エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全で交通の妨げにならない場所に車を寄せてください。

・潤滑系統の故障のおそれがありますのでただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

エンジンオイル → 7-43 ページ参照

オーバーヒート



エンジンオーバーヒート時に表示されます。オーバーヒート時には水温計（テンプメーター）が赤色ゾーンを示し、「オーバーヒート」が表示され、同時に警報音“ピーーー”が鳴ります。ただちに安全な場所に停車して、点検・処理を行います。

警 告

・冷却水が高温のときラジエーターやリザーブタンクのキャップを外さないでください。むやみに外すと蒸気が吹き出し、やけどをします。補給は冷却水温度が下がっているときに行ってください。

冷却水の補給 → 7-55 ページ参照

注 意

・「オーバーヒート」が表示されたまま運転を行うと、オーバーヒートを招きエンジン焼き付きの原因となります。

アドバイス

・エンジンをすぐに止めると焼き付きの原因になります。オーバーヒートの処置をしてください。

オーバーヒートしたときは
→ 8-11 ページ参照

エンジンオイル＆フィルター



エンジンオイル＆フィルターのメンテナンス表示を選択したとき、またはエンジンオイル＆フィルターのメンテナンス時期が近づいたときに表示し、エンジンオイル＆フィルター交換までの残距離または、超過距離が表示されます。
メンテナンス時期が近づいたときは、スタータースイッチを“ON”位置にしたときに橙色で表示され、3 モードスイッチを短押しするか、走行を開始するまで表示されます。
「エンジンオイル＆フィルタ」（橙）が表示されたときは、最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。

知 識

・エンジンオイル＆フィルター交換までの残距離は、お車の使用状況に合わせて変わります。使用状況によっては、実際の走行距離と残距離の減少が合わない場合もありますが異常ではありません。

メンテナンスデーター覧
→ 7-24 ページ参照
エンジンオイル → 7-43 ページ参照
エンジンオイルフィルターの交換
→ 7-48 ページ参照

エンジンオイルレベル（点検）



エンジンオイル量が低下または“点検用 MAX”位置を超えたときにマルチディスプレイに表示されます。「エンジンオイルレベル点検」が表示されたときは、レベルゲージを使用してエンジンオイルの油量を点検してください。

エンジンオイル　→ 7-43 ページ参照
エンジンオイルフィルターの交換
→ 7-48 ページ参照

アドバイス

・次の場合、エンジンオイルの油量が正常でも「エンジンオイルレベル点検」が表示される場合があります。
- 車両が傾いているとき（車両の傾きが戻ったときに消えれば正常です）
- エンジンオイル交換直後（表示されたときは、水温計の針が中央付近になるまで暖機運転を行ってからエンジンを停止し、20 ～ 30 分後に消えれば正常です）

消灯しないときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

エアクリーナーエレメント（点検）



エアクリーナーエレメントの清掃時期が近づいたとき、マルチディスプレイに表示されます。
エレメントの清掃をしてください。

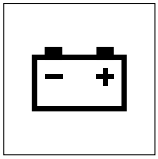
エアクリーナーの清掃・交換
→ 7-65 ページ参照

知 識

・シートや幌は、エアインテークダクト（空気取り入れ口）を塞がないようゴムなどでしっかり固定してください。
エアインテークダクト（空気取り入れ口）が塞がれると、空気を取り入れられなかったり、雨天時にシートや幌をつたって多量の雨水が入ることにより、「エアクリーナー点検」が表示されることがあります。

シートや幌は正しく固定していますか
→ 2-7 ページ参照

充電警告灯



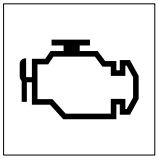
スタースイッチを“ON”位置にすると点灯し、エンジン始動後に消灯すれば正常です。
エンジン回転中、充電系統に異常（ファンベルトの緩みや切れなど）があると点灯します。

アドバイス

・エンジン回転中に点灯したときは、ただちに安全で交通の妨げにならない場所に車を寄せ、《日産販売会社》で点検を受けてください。

バッテリーがあがったとき
→ 8-6 ページ参照
ファンベルト → 7-64 ページ参照
バッテリー → 7-125 ページ参照

エンジン制御警告灯



排気ガス関連装置に異常があるときに点灯します。
スタースイッチを“ON”位置にすると点灯し、約５秒後に消灯します。消灯後にエンジンをかけないままでいると、再度、点灯または点滅します。エンジンがかかると消灯します。
また以下のときにも点灯します。点灯したときは最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

- エンジン電子制御システムに異常がありエンジン回転中に点灯したとき（異常の種類によっては、エンジン始動後に約 15 秒間点灯し、消灯する場合もあります）
- DPF の再生操作を行わずにそのまま走行し続けたとき
- 尿素 SCR システムまたは尿素水（AdBlue® 相当）の品質に異常があるとき

⚠ 注 意

・エンジン制御警告灯が点灯してエンジンが停止した場合は、エンジンが保護モードに入った可能性があります。スタースイッチを“LOCK”位置に切り替え、60 秒以上待ってからエンジンを再始動してください。走行可能な車両であっても、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。

SVS 警告灯



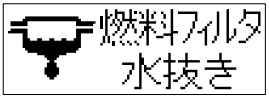
排気ガス関連以外の装置に異常があるときに点灯します。
スタースイッチを“ON”位置にすると点灯し、エンジンがかかると消灯します。
また以下のときにも点灯します。点灯したときは最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

・システムに異常がありエンジン回転中に点灯したとき

知 識

・SVS は Service Vehicle Soon（サービスビークルスーン）の略です。

燃料フィルター（水抜き）



プレフューエルフィルター内に水がたまるとマルチディスプレイに表示されます。
“**水抜きのしかた**”を参照し水抜きを行い、表示が消えていることを確認してください。

注 意

・エンジン回転中に表示された場合は、ただちにプレフューエルフィルターの水抜きを行ってください。表示された状態で走行を続けると、燃料噴射ポンプなど燃料噴射システムを破損するおそれがあります。

水抜きのしかた → 7-70 ページ参照

AMT 警告灯★



スタースイッチを“ON”位置にしたとき橙色で約２秒間点灯し、消灯すれば正常です。
AMT 非常用スイッチを“ON”にすると橙色で点滅し、“OFF”にすると消灯します。
消灯後に橙色または赤色で点灯したり、走行中に橙色または赤色で点灯したときは AMT の異常です。ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。

⚠ 注 意

・AMT 警告灯が点灯した場合、下記の状態になることがあります。
ごく低速での速度調整や、プラットフォーム着けができないなど、正常時の車両の動きと異なることがあります。周囲の状況に十分注意して運転を行い、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。
- クリープ現象が発生しない
- シフトアップ、シフトダウンが行われない
- クラッチのつながるタイミングが正常時と比べ早い、または遅い

AMT 油温上昇★



AMT クラッチオイルの温度が上昇するおそれがある運転状態のときは、マルチディスプレイに橙色で表示され、警告ブザーが鳴ります。
AMT クラッチオイルの温度が上昇し、異常に高くなるとマルチディスプレイに赤色で表示されます。赤色で表示されたときは安全な場所に停車し、シフトレバーを“N”位置にして「スムーサー油温上昇」（赤）が消えるまで冷機運転を行ってください。

アドバイス

・「スムーサー油温上昇」（赤）が表示され、音声警報「安全な場所に停車して、警告灯が消灯するまでお待ちください」が鳴ったときは、AMT オイルの温度が異常に高くなっています。ただちに安全で交通の妨げにならない場所に車を寄せ、警告灯の消灯を確認してから運転を再開してください。

AMT の警告灯、警告音
→ 4-115 ページ参照

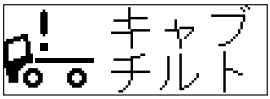
トランスミッションオイル＆デフオイル



トランスミッションオイル＆デフオイルのメンテナンス表示を選択したとき、またはトランスミッションオイル＆デフオイルのメンテナンス時期が近づいたときに表示し、トランスミッションオイルとデフオイルの交換までの残距離または、超過距離を表示します。
メンテナンス時期が近づいたときは、スタースイッチを“ON”位置にしたときに橙色で表示され、３モードスイッチを短押しするか、走行を開始するまで表示されます。
「T/M オイル＆デフオイル」（橙）が表示されたときは、最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。

メンテナンスデーター覧
→ 7-24 ページ参照
トランスミッションオイル
→ 7-103 ページ参照
デファレンシャルオイル
→ 7-109 ページ参照

チルトキャブ★



スタースイッチを“ON”位置にしたとき、キャブが確実にロックされていないとマルチディスプレイに表示され、同時に警報音“ピーーー”が鳴ります。

アドバイス

・「キャブチルト」が表示されたままの状態で走行すると、振動などによりキャブがチルトしたりするおそれがあり大変危険です。再度キャブが確実にロックされていることを確認してください。

チルトキャブ★ → 7-20 ページ参照

フロントデフ油温警告灯★



4WD 走行中にフロントデフに異常が発生し、デフオイルが高温になると点灯します。

アドバイス

・点灯したときは、ただちに 2WD 走行に切り替え、各タイヤのサイズ、銘柄、タイヤの摩耗状態を確認してください。
・異なったサイズや、摩耗差の大きいタイヤを使用すると、フロントデフに過大な負荷がかかるため、必ず 4 輪共、同一サイズ、同一銘柄のタイヤを装着してください。また、同一サイズのタイヤでも摩耗差の大きいタイヤを装着しないでください。
なお、乾燥舗装道路を 4WD 状態で走行すると駆動系の故障の原因やタイヤの早期摩耗を招くため、必ず 2WD 状態で走行してください。

燃料補給



エンジン回転中、燃料タンク内の残量が少なくなるとマルチディスプレイに表示されます。

アドバイス

・「燃料補給」がマルチディスプレイに表示された場合は、早めに燃料を補給してください。
・燃料切れを起こすとエア抜き作業が必要になります。

フューエルメーター（燃料計）
→ 4-14 ページ参照
燃料切れしたとき → 8-8 ページ参照

AMT クラッチオイル（AMT 車）★



クラッチオイルのメンテナンス表示を選択したとき、または、クラッチオイルのメンテナンス時期が近づいたときに表示し、クラッチオイル交換時期までの残距離または、超過距離を表示します。
メンテナンス時期が近づいたときは、スタータースイッチを“ON”位置にしたときに橙色で表示され、3 モードスイッチを短押しするか、走行を開始するまで表示されます。
「クラッチオイル」（橙）が表示されたときは、最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。

メンテナンスデーター覧
→ 7-24 ページ参照
AMT クラッチオイル★
→ 7-106 ページ参照

燃料フィルター



フューエルフィルターのメンテナンス表示を選択したとき、または、フューエルフィルターの点検時期が近づいたときに表示し、フューエルフィルター交換までの残距離または、超過距離が表示されます。
メンテナンス時期が近づいたときは、スタータースイッチを“ON”位置にしたときに橙色で表示され、3 モードスイッチを短押しするか、走行を開始するまで表示されます。
「燃料フィルタ」（橙）が表示されたときは、最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。

メンテナンスデーター覧
→ 7-24 ページ参照
フューエルフィルター
→ 7-69 ページ参照

パワーステアリングフルード



パワーステアリングフルードのメンテナンス表示を選択したとき、または、パワーステアリングフルードのメンテナンス時期が近づいたときに表示し、パワーステアリングフルード交換時期までの残距離または、超過距離を表示します。
メンテナンス時期が近づいたときは、スタースイッチを“ON”位置にしたときに橙色で表示され、3 モードスイッチを短押しするか、走行を開始するまで表示されます。
「パワーステアリング液」（橙）が表示されたときは、最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。

メンテナンスデーター覧
→ 7-24 ページ参照
パワーステアリングフルード
→ 7-114 ページ参照

タイヤ交換（ローテーション）



タイヤローテーションのメンテナンス表示を選択したとき、または、タイヤローテーション時期が近づいたときに表示し、タイヤ交換・ローテーション時期までの残距離または、超過距離を表示します。
メンテナンス時期が近づいたときは、スタースイッチを“ON”位置にしたときに橙色で表示され、3 モードスイッチを短押しするか、走行を開始するまで表示されます。
「タイヤローテーション」（橙）が表示されたときは、タイヤ交換またはローテーションを行ってください。

タイヤのローテーション
→ 7-91 ページ参照

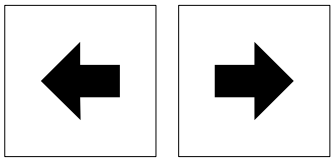
スターター



スターターのメンテナンス表示を選択したとき、または、スターターモーターのメンテナンス時期が近づいたときに表示し、スターターの残始動回数または、超過始動回数を表示します。
メンテナンス時期が近づいたときは、スタースイッチを“ON”位置にしたときに橙色で表示され、3モードスイッチを短押しするか、走行を開始するまで表示されます。
「スターター」（橙）が表示されたときは、最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。

メンテナンスデーター一覧
→ 7-24 ページ参照

ターンシグナル表示灯＆ハザード表示灯



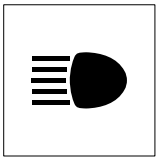
ターンシグナルスイッチを操作すると点滅します。
ハザードスイッチを作動させると両方のターンシグナル表示灯が同時に点滅します。

ターンシグナルスイッチ（方向指示器）
→ 4-83 ページ参照

アドバイス

・ランプの球切れや、指定外のワット数の電球を使用したときは点滅が異常になったり、点滅しなくなることがあります。

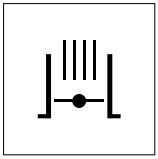
ハイビーム表示灯



ヘッドランプ（前照灯）を上向きにしたとき、およびパッシング（追越し合図）したときに点灯します。

ライティングスイッチ → 4-81 ページ参照

排気ブレーキ表示灯



排気ブレーキのスイッチを入れると点灯します。
また、次の場合に点滅します。

・排気ブレーキシステムに異常があるとき
・排気スロットルシステムに異常があるとき

アドバイス

・排気ブレーキ表示灯が点滅したときは、ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

排気ブレーキスイッチ → 4-86 ページ参照

ヒルスタートアシスト表示灯（緑）★



スタータースイッチを“ON”位置にするとヒルスタートアシスト警告灯（橙）→ヒルスタートアシスト表示灯（緑）の順に点灯し、約３秒後に消灯すれば正常です。
ヒルスタートアシストが作動すると表示灯（緑）が点灯します。

ヒルスタートアシスト
（坂道発進補助装置）★
→ 4-122 ページ参照

ヒルスタートアシスト警告灯（橙）★



スタータースイッチを“ON”位置にするとヒルスタートアシスト警告灯（橙）→ヒルスタートアシスト表示灯（緑）の順に点灯し、約３秒後に消灯すれば正常です。
ヒルスタートアシスト作動時に離席、長時間使用、動き出しやヒルスタートアシストの故障がある場合は警告灯（橙）が点灯します。

アドバイス

・ヒルスタートアシストに異常がある場合は、ヒルスタートアシストを解除して、ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

ヒルスタートアシスト
（坂道発進補助装置）★
→ 4-122 ページ参照
ヒルスタートアシストの警報
→4-129 ページ参照

トラクションコントロール OFF 表示灯



スタータースイッチを“ON”位置にすると点灯し、約３秒後に消灯すれば正常です。
また、表示灯が消灯している場合、TCS（トラクションコントロールシステム）OFF 機能は正常です。
エンジン始動後に TCS（トラクションコントロールシステム）を解除する場合は、VDC OFF スイッチを約 1 秒間押すと解除され、トラクションコントロール OFF 表示灯が点灯します。
TCS（トラクションコントロールシステム）または VDC を解除していない状態で走行中に点灯するときや、スタータースイッチを“ON”位置にしても点灯しないときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

アドバイス

・VDC を解除すると、TCS（トラクションコントロールシステム）も解除されます。

VDC → 4-145 ページ参照

VDC OFF 表示灯



スタースイッチを“ON”位置にすると点灯し、約３秒後に消灯すれば正常です。
表示灯が消灯している場合、VDC OFF 機能は正常です。
エンジン始動後に VDC を解除する場合は、VDC OFF スイッチを約５秒間押すと解除され、VDC OFF 表示灯が点灯します。
VDC を解除していない状態で走行中に点灯するときや、スタースイッチを“ON”位置にしても点灯しないときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

VDC → 4-145 ページ参照

インテリジェント エマージェンシーブレーキ OFF 表示灯



スタースイッチを“ON”位置にすると点灯し、エンジンを始動して約 10 秒後に消灯すれば正常です。インテリジェント エマージェンシーブレーキ OFF スイッチを押すと点灯します。また、インテリジェント エマージェンシーブレーキシステム故障によりインテリジェント エマージェンシーブレーキを停止した場合にも点灯します。

インテリジェント エマージェンシーブレーキ OFF スイッチ
→ 4-166 ページ参照

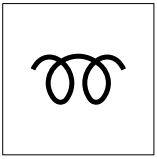
知 識

・エンストしたとき、エンジンを再始動するとインテリジェント エマージェンシーブレーキ OFF 表示灯が一瞬点灯することがありますが故障ではありません。

【マニュアルトランスミッション車】

・エンジン回転が極端に下がると、インテリジェント エマージェンシーブレーキ OFF 表示灯が一瞬点灯して、インテリジェント エマージェンシーブレーキの機能が一時的に停止することがあります。これは誤作動を防ぐための保護機能によるもので、異常ではありません。停止後数秒経過すると機能が復帰します。

グロー（予熱）表示灯



スタータースイッチを“ON”位置にすると点灯し、予熱が完了すると同時に消灯します。消灯を合図にエンジンを始動します。

エンジンの始動方法 → 4-4 ページ参照

暖機システム作動表示灯



暖機スイッチを押すと点灯します。点灯時、暖機運転に入ります。

暖機スイッチ → 4-80 ページ参照

ECONO モード表示灯



マニュアルトランスミッション車
ECONO モードスイッチを押すと点灯し、再びスイッチを押すと消灯します。

ECONO モードスイッチ★
→ 4-90 ページ参照

AMT 車
スタータースイッチを“ON”位置にしたとき約 2 秒間点灯し、消灯すれば正常です。
ECONO モードを選択しているときに点灯します。

ECONO モード → 4-114 ページ参照

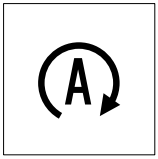
1 速発進モード表示灯★



スタータースイッチを“ON”位置にしたとき約 2 秒間点灯し、消灯すれば正常です。
1 速発進モードを選択しているときに点灯します。

1 速発進モード → 4-113 ページ参照

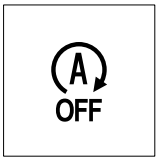
アイドリングストップ表示灯★



アイドリングストップによりエンジンが自動停止すると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。

アイドリングストップ★
→ 4-130 ページ参照

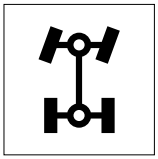
アイドリングストップ OFF 表示灯★



アイドリングストップキャンセルスイッチを操作し、アイドリングストップを解除すると点灯します。また、アイドリングストップによるエンジン自動停止中にドア（運転席、助手席、ダブルキャブ車は後席側を含む）を開けたときも点灯し、アイドリングストップシステムに異常があると点滅します。

アイドリングストップ★
→ 4-130 ページ参照

4WD 表示灯★



4WD スイッチで 4WD 走行に切り替えると、メーター内の 4WD 表示灯が点灯します。4WD スイッチ操作後は 4WD 表示灯の点灯および消灯を確認してから走行してください。

4WD スイッチ★ → 4-201 ページ参照

PTO（作動中）★



ダンプレバー、PTO コントロールレバー操作時または、PTO スイッチを押したときにマルチディスプレイに表示されます。

PTO ★ → 4-202 ページ参照
ダンプレバー★ → 4-210 ページ参照

インテリジェントキー警告灯★



スタータースイッチが次の位置のとき、点灯・点滅・消灯します。

- “LOCK”位置：遅い点滅（約２秒間隔）
- “ACC”位置：消灯
- “ON”位置：点灯し、約３秒間後に消灯すれば正常です（システムチェック）

また、次の状況の場合にも点滅（約１秒間隔）します。

- インテリジェントキーのシステムがリモコンキーを認識できない状態でスタータースイッチを押したとき
- スタータースイッチが“ACC”、または“ON”位置のまま、リモコンキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたとき（同時に警報音“ピッピッピッ”が鳴ります）

警報音について →3-18 ページ参照

⚠ 注 意

・スタータースイッチを“LOCK”位置以外にしても消灯しないときやたびたび点滅するとき、スタータースイッチを“LOCK”位置にしても点滅しないときはただちに《日産販売会社》で点検、修理を受けてください。

アドバイス

・電池切れなどでインテリジェントキーが正常に作動しないときのドアの施錠・解錠、およびエンジンの始動は“**インテリジェントキーが正常に作動しないとき**”を参照してください。インテリジェントキーが正常に作動しないときのエンジンの始動時に、インテリジェントキーがリモコンキーを認識したときは早い点滅（約 0.3 秒間隔）します。

インテリジェントキーが正常に作動しないとき →8-51 ページ参照

知 識

・遅い点滅（約２秒間隔）は、イモビライザー機能（車両盗難防止装置）が作動していることを示します。

リモコンキー（インテリジェントキー）電池残量警告灯★



リモコンキーの電池残量が少なくなると、エンジン始動後に約 13 秒間点灯します。点灯したときは、リモコンキーの電池を交換してください。

リモコンキー（インテリジェントキー）の電池交換 → 3-9 ページ参照

アドバイス

・電池残量の確認は、エンジン始動後約 20 分経ってから行っています。エンジンの始動と停止が 20 分程度の運行を繰り返している場合は、電池が消耗してもリモコンキー（インテリジェントキー）電池残量警告灯が点灯しない場合があります。

・インテリジェントキーの作動が不安定なときや、施錠、解錠ボタンを押してもリモコンキーの表示灯が点灯しないときは電池が消耗しています。電池の交換を行ってください。

・この警告灯が点灯したときは、早めに電池を交換してください。電池を交換せずに使用を続けると、リモコンキーの電池が切れ、インテリジェントキーによるドアの開閉およびエンジンの始動ができなくなります。

インテリジェントキーが正常に作動しないとき → 8-51 ページ参照

DPF 表示



（緑）

【DPD 自動再生中】
「DPD 自動再生中」表示（緑）が表示されたときは、DPF の自動再生中です。
再生は自動的に開始され、再生が完了すれば消灯します。DPF スイッチの操作は必要ありません。



（橙）

【DPD スイッチを押して下さい】
「DPD スイッチ押して下さい」表示（橙）が点滅し、同時に音声警報が鳴ったときは、DPF の手動再生操作が必要です。



（橙）

【DPD 手動再生中】
「DPD 手動再生中」表示（橙）が表示されたときは、DPF の手動再生中です。



（橙）

【任意再生確認中】
マルチディスプレイに「任意再生確認中」表示（橙）が表示されるまで DPF スイッチを押し、「任意再生確認中」表示（橙）の表示中は、任意手動再生が可能か確認しています。任意手動再生が可能なときは、「DPD スイッチ押して下さい」表示に変わり、点滅します。
「DPD スイッチ押して下さい」表示に変わらない場合は、任意手動再生を行う必要はありません。

アドバイス

・PTO 装着車で長時間 PTO を作動させる場合、「DPD スイッチ押して下さい」表示（橙）が点滅していないことを確認してください。

知 識

・長時間のアイドリングや PTO 連続運転中の負荷状態によって自動的に DPF の再生が行われる場合があります。このとき、「DPD 自動再生中」表示（緑）または「DPD 手動再生中」表示（橙）を表示しますが異常ではありません。
・通常走行では自動再生が行われますが、以下のような走行条件によっては自動再生が完了せず、「DPD スイッチ押して下さい」表示（橙）が点滅し、同時に音声警報が鳴ります。手順に従って手動再生を行ってください。
  - 車速 15km/h 以下の低速走行しか行わない場合。
  - エンジンの始動と停止を頻繁に行う場合。
  - 毎回、エンジンの暖機が終わる前にエンジンを停止する場合。
  - 長時間のアイドリング運転（1 時間以上）を頻繁に行う場合。

マルチディスプレイ → 4-16 ページ参照
DPF 表示 → 4-29 ページ参照
DPF について → 2-48 ページ参照
DPF → 4-227 ページ参照
DPF の手動再生手順 → 4-229 ページ参照
DPF の任意手動再生手順
→ 4-233 ページ参照
DPF の音声警報について
→ 4-236 ページ参照

走行支援システム故障カメラ



LDW（車線逸脱警報）やインテリジェント エマージェンシーブレーキ、車間距離警報、踏み間違い衝突防止アシストおよび先行車発進お知らせの異常時にマルチディスプレイに表示され、同時に LDW（車線逸脱警報）警告灯およびインテリジェント エマージェンシーブレーキ OFF 表示灯が点灯します。「VAT 故障カメラ」表示（橙）が表示されたときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

LDW（車線逸脱警報）
→ 4-150 ページ参照
インテリジェント エマージェンシー
ブレーキ → 4-159 ページ参照
車間距離警報 → 4-169 ページ参照
踏み間違い衝突防止アシスト★
→ 4-176 ページ参照
先行車発進お知らせ → 4-185 ページ参照

カメラー時停止



以下の場合にマルチディスプレイに表示され、同時に LDW（車線逸脱警報）警告灯およびインテリジェント エマージェンシーブレーキ OFF 表示灯が点灯します。

- カメラレンズまたはフロントガラスが汚れているとき
- ステレオカメラの前面をもので遮蔽したとき
- ステレオカメラが高温もしくは低温になっているとき

カメラのレンズが汚れているときやマルチディスプレイの表示が消えないときは、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。

知 識

- ステレオカメラの視差が出にくい状況（暗闇・逆光・強い日差し・雨・積雪・霧など）では、「カメラー時停止」が表示されることがあります。
- カメラはダッシュボードの上に取り付けられています。

LDW（車線逸脱警報）
→ 4-150 ページ参照
インテリジェント エマージェンシーブレーキ → 4-159 ページ参照
車間距離警報 → 4-169 ページ参照
踏み間違い衝突防止アシスト★
→ 4-176 ページ参照
先行車発進お知らせ → 4-185 ページ参照

走行支援システム故障レーダー★



交差点警報の異常時にマルチディスプレイに表示されます。「VAT 故障レーダー」が表示されたときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

交差点警報★ → 4-191 ページ参照

レーダー一時停止★



交差点警報を ON にしているとき、以下の場合にマルチディスプレイに表示されます。

- レーダーセンサー付近に雪、氷、泥が多量についたとき
- 雪道、もしくは周囲に何もない環境を長時間走行したとき
- レーダーセンサー付近の温度が非常に高くなったとき
- バッテリーの電圧が規定より下がっているときや、上がっているとき
- レーダーセンサーの搭載位置に大きなズレが生じたとき

状況が改善されても表示が消えないときは、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。

交差点警報★ → 4-191 ページ参照

尿素水補給



尿素水（AdBlue® 相当）の残量が 1 段階になると、マルチディスプレイに表示されます。
尿素水（AdBlue® 相当）を補給するときは、スタータースイッチを“LOCK”位置にし、満水まで補給してください。補給後、スタータースイッチを“ON”位置にしてマルチディスプレイの表示が消えていることを確認してください。

アドバイス

・「AdBlue 補給」が表示されたら尿素水（AdBlue® 相当）を 5L 以上補給してください。

尿素水（AdBlue® 相当）の取り扱い → 2-52 ページ参照

指定された尿素水（AdBlue® 相当）を入れていますか → 2-52 ページ参照

尿素水（AdBlue® 相当）を補給するとき → 2-53 ページ参照

尿素水タンク → 3-33 ページ参照

再始動禁止中（尿素水補給）



マルチディスプレイに「AdBlue 補給」が表示された後、尿素水（AdBlue® 相当）を補給しないで使用を続け尿素水（AdBlue® 相当）の残量が 0 段階になると、マルチディスプレイに「再始動禁止中」（尿素水補給）と「AdBlue 補給」が交互に表示され、同時に警報音“ピーーー”が鳴り続けます。この画面が表示されているとき、エンジン停止を行うとエンジン始動ができません。
エンジンを再始動させるには、スタータースイッチを“LOCK”位置にし、尿素水（AdBlue® 相当）を満水になるように補給してください。補給後、スタータースイッチを“ON”位置にして、マルチディスプレイの表示が消え警報音“ピーーー”が鳴りやむことを確認してください。

注 意

・「再始動禁止中」（尿素水補給）が表示されているとき、補給する尿素水（AdBlue® 相当）の量が少ないと「再始動禁止中」（尿素水補給）が解除できない場合があります。
尿素水（AdBlue® 相当）を 5L 以上補給してください。

アドバイス

・「再始動禁止中」（尿素水補給）が表示されてから適切な処置を行わず走行を続けると、尿素 SCR システムが故障します。ただちに尿素水（AdBlue® 相当）を補給してください。

知 識

・「再始動禁止中」（尿素水補給）が表示されているときに、エンストしてしまった場合、スタータースイッチを“ACC”、“LOCK”位置に戻さず、そのまま“START”位置にしてエンジンを再始動してください。“ACC”、“LOCK”位置にすると、エンジンが再始動できなくなります。

尿素水（AdBlue® 相当）の取り扱い
→ 2-52 ページ参照
指定された尿素水（AdBlue® 相当）を入れていますか → 2-52 ページ参照
尿素水（AdBlue® 相当）を補給するとき
→ 2-53 ページ参照
尿素水タンク → 3-33 ページ参照
尿素水補給 → 4-67 ページ参照
尿素水（AdBlue® 相当）が空になったとき → 8-10 ページ参照

尿素品質異常



指定された尿素水（AdBlue® 相当）以外のものが混入したときや水などで希釈されたとき、マルチディスプレイに「AdBlue 品質異常」が表示され、同時にエンジン制御警告灯が点灯します。

アドバイス

・「AdBlue 品質異常」が表示されてから適切な処置を行わず走行を続けると、尿素 SCR システムが故障します。ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検、修理を受けてください。

再始動禁止中（尿素品質異常）
→ 4-69 ページ参照

再始動禁止中（尿素品質異常）



マルチディスプレイに「再始動禁止中」（尿素品質異常）が表示され、同時にエンジン制御警告灯の点灯後、しばらくしてマルチディスプレイに「AdBlue 品質異常」と「再始動禁止中」（尿素品質異常）が交互に表示され、同時に警報音“ピーーー”が鳴り続けます。
この画面が表示されているとき、エンジン停止を行うとエンジン始動ができません。

アドバイス

・「AdBlue 品質異常」が表示されたときは、尿素 SCR システムの点検が必要です。ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検、修理を受けてください。

知 識

・「再始動禁止中」(尿素品質異常)が表示されているときに、エンストしてしまった場合、スタースイッチを“ACC”、“LOCK”位置に戻さず、そのまま“START”位置にしてエンジンを再始動してください。“ACC”、“LOCK”位置にすると、エンジンが再始動できなくなります。

尿素品質異常 → 4-69 ページ参照

尿素噴射異常



尿素 SCR システムに異常があると、マルチディスプレイに表示され、同時にエンジン制御警告灯も点灯します。「AdBlue 噴射異常」が表示されてから適切な処置を行わず走行を続けると、尿素 SCR システムが故障します。この画面が表示されてからしばらくすると、警報音“ピーーー”が鳴り続けます。

アドバイス

・「AdBlue 噴射異常」が表示されてから適切な処置を行わず走行を続けると、尿素 SCR システムが故障します。ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検、修理を受けてください。

通信システム異常



メーターとメーター周辺システムとの通信異常時にマルチディスプレイに表示されます。
このとき水温計が停止し、メーターの警報機能が正常に作動しません。
安全な場所に車を止め、一度エンジンを停止後、もう一度エンジンを始動してください。
再度表示する場合は、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

警報音★

各種警報をブザー音で出力し、警報・警告内容をお知らせします。

警報項目	警報音	警報場所		作動条件
		キャブ内	キャブ外	
キー抜き忘れ警報（インテリジェントキー無車）	“ピーピー”	●	×	スタータースイッチが“ACC”または“LOCK”位置でキーを抜かずにドアを開けたとき
チルトキャブ警報	“ピーーー”	●	×	4-52 ページ参照
ブレーキバキューム警報	“ピーーー”	●	×	4-43 ページ参照
パーキングブレーキ戻し忘れ警報	“ピーーー”	●	×	パーキングブレーキレバーを引いたまま走行したとき
パーキングブレーキ引き忘れ警報（電動パーキングブレーキ付車）	“ピーピー”	○	×	パーキングブレーキレバーを引かずにスタータースイッチを“ACC”または“LOCK”位置にしたとき
オーバーヒート警報	“ピーーー”	●	×	エンジンがオーバーヒートしたとき
バック警報	“ピーピー”	●	●	シフトレバーを“R”位置に操作したとき
再始動禁止中警告（尿素水補給）	“ピーーー”	●	×	「AdBlue 補給」が表示された後、補給せずに走行を続けたとき
再始動禁止中警告（尿素品質異常）	“ピーーー”	●	×	「AdBlue 品質異常」が表示された後、適切な処置をせずに走行を続けたとき
尿素水噴射異常警告	“ピーーー”	●	×	「AdBlue 噴射異常」が表示された後、適切な処置をせずに走行を続けたとき
ヒルスタートアシスト警報	“ピーピー”	●	×	4-129 ページ参照
	“ピーーー”	●	×	
	“ピーピー”	○	×	
AMT 警報	“ピーピーピー”	●	×	4-115 ページ参照
	“ピッ…ピッ…”	●	×	
	“ピッ”	●	×	
	“ピーーー”	●	×	

●：連続警報　○：最長 30 秒間警報　×：警報しない

警報項目	警報音	警報場所		作動条件
		キャブ内	キャブ外	
アイドリングストップ警報	“ピーーー”	●	×	4-135 ページ参照
	“ピッピッピッ”	●	×	
VDC 警報	“ピッピッピッ”	●	×	4-149 ページ参照
LDW（車線逸脱警報）	“ピピピピピ…”	●	×	4-157 ページ参照
インテリジェントエマージェンシーブレーキ	“ピピピ　ピピピ…”	●	×	4-168 ページ参照
	“ピピピピピ…”	●	×	
車間距離警報	“ピピピ”	1 回	×	4-175 ページ参照
踏み間違い衝突防止アシスト警報	“ピピピピピ…”	●	×	4-184 ページ参照
先行車発進お知らせ警報	“ピピ”	1 回	×	4-190 ページ参照
交差点警報	“ピピピ　ピピピ…”	●	×	4-195 ページ参照
インテリジェントキー警報	“ピーーー”	×	●	3-18 ページ参照
	“ピピッ”	×	1 回	
	“ピッピッピッ”	×	1 回	

●：連続警報　○：最長 30 秒間警報　×：警報しない

⚠ 注 意

・システムに異常があるときは、警報音が鳴らない場合があります。そのような場合はシステムの点検が必要です。最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

音声警報★

各種警報を音声で出力し、警報・警告内容を分かりやすくお知らせします。

警報項目	警報内容（音声警報）	警報場所		作動条件
		キャブ内	キャブ外	
左折警報	「ピロピロピローン 左へ曲がります・ ご注意ください」	×	●	ターンシグナルスイッチを左折側にしたとき
バック警報	「車が動きます ご注意ください ピーピーピー・バックします」＊1	×	●	シフトレバーを“R”位置に操作したとき
DPF 手動再生警報	「安全な場所に停車して、DPD の再生を行ってください」	△ ☆	×	4-236 ページ参照
AMT 警報	「ピーピーピー・ギヤを入れたまま降りないでください」＊2	●	×	4-115 ページ参照
	「ピーピーピー・パーキングブレーキを確認してください」＊2	●	×	
	「ピーピーピー・ニュートラル待機をお奨めします」＊2	●	×	
	「ピーピーピー・安全な場所に停車して、警告灯が消灯するまでお待ちください」＊2	●	×	

●：連続警報　△：3 回警報　☆：3 回警報＋ 60 秒間隔を連続　×：警報しない
＊1：警報内容「車が動きます」は 1 回目の音声警報時のみ
＊2：警告ブザー（ピーピーピー）は 1 回目の音声警報時のみ

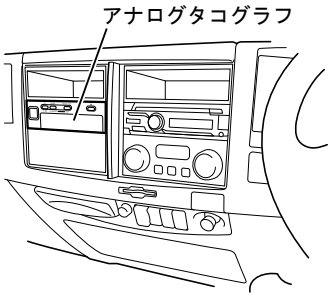
⚠ 注 意

・システムに異常があるときは、警報音が鳴らない場合があります。そのような場合はシステムの点検が必要です。最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

知 識

・ヘッドランプまたはクリアランスランプが点灯しているとき、車外の警報音を減音します（左折・バック警報のみ）。

アナログタコグラフ★



車速、運行時間、走行距離などの記録を行います。経済運転や正しい運転管理にお役立てください。アナログタコグラフの取り扱いについてはそれぞれ別添の「**アナログタコグラフ取扱説明書**」をご覧ください。

アドバイス

・チャート紙の交換などアナログタコグラフを開けるときはエンジンを止めてください。エンジン運転中ではタコグラフ故障の原因になります。

スイッチについて

- スタータースイッチ 4-76
- アイドルアップノブ★ 4-79
- 暖機スイッチ 4-80
- コンビネーションスイッチ 4-81
- オートライト OFF スイッチ 4-84
- ヘッドランプレベリングスイッチ 4-85
- フォグランプスイッチ★ 4-85
- ハザードスイッチ 4-86
- 排気ブレーキスイッチ 4-86
- ワイパー・ウォッシャースイッチ 4-88
- ホーンボタン 4-89
- ECONO モードスイッチ★ 4-90
- 電動格納ミラースイッチ★ 4-91
- ヒーテッドミラースイッチ★ 4-92
- バックブザー OFF スイッチ★ 4-92
- 左折&バック音声警報 ON/OFF スイッチ★ 4-93

スタータースイッチ

警 告

【インテリジェントキー無車】

・走行中はスイッチを“LOCK”位置に回さないでください。キーが抜けるとハンドルがロックされ大変危険です。

【インテリジェントキー付車】

・走行中はスタータースイッチを“LOCK”位置に回さないでください。ハンドルがロックされ大変危険です。

アドバイス

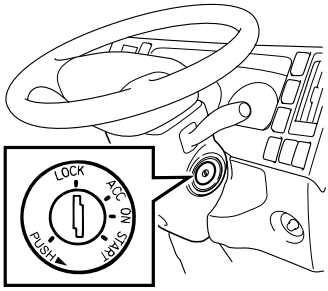
・エンジン始動後、スタータースイッチを“START”位置にしないでください。スターターモーターを破損するおそれがあります。

・エンジンを停止させたままで長時間オーディオなどを使用するとバッテリー上がりの原因になりますので注意してください。

【インテリジェントキー無車】

・キーに汚れやゴミなどが付いたまま使用すると、スタータースイッチが破損するおそれがあります。汚れやゴミなどをふき取ってから、キーを差し込んでください。

スタータースイッチ



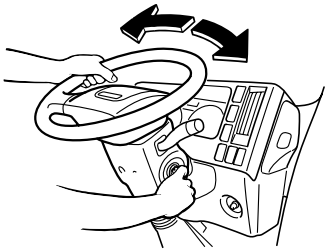
インテリジェントキー無車

LOCK　：キーを抜き差しできる位置。
キーを抜きハンドルが固定されるまで回してください。ハンドルが固定され、盗難防止になります。
“LOCK”位置にするときは、キーを“ACC”の位置で押しながら回してください。

ACC　：エンジン停止時、オーディオなどが使用できます。

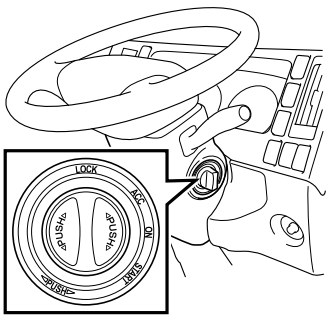
ON　：エンジン回転中の位置。エンジン始動時、予熱をする位置。

START　：エンジンを始動する位置。エンジンが始動したら、キーから手を離してください。自動的に“ON”位置に戻ります。



知 識

・キーが“LOCK”位置から“ON”位置に回らないときは、ハンドルを軽く左右に動かしながら回してください。



インテリジェントキー付車

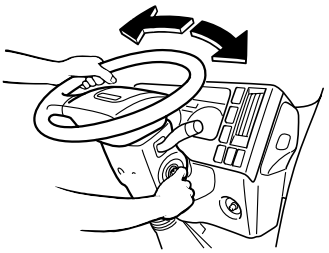
PUSH　：スタータースイッチを押すと、インテリジェントキーのシステムがキーの確認を行い、確認できるとスタースイッチを操作できます。

LOCK　：スタータースイッチがロックされる位置。
この位置でハンドルを回すとハンドルが固定され、盗難防止になります。
“LOCK”位置にするときは、スイッチを“ACC”の位置で押しながら回してください。

ACC　：エンジン停止時、オーディオなどが使用できます。

ON　：エンジン回転中の位置。エンジン始動時、予熱をする位置。

START　：エンジンを始動する位置。エンジンが始動したら、キーから手を離してください。自動的に“ON”位置に戻ります。



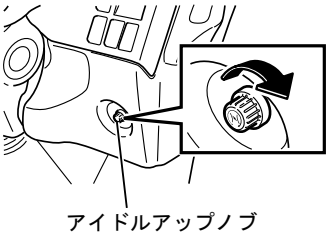
知 識

- リモコンキーの電池が切れたときや、周囲の電波状況により、インテリジェントキーのシステムがリモコンキーを認識できないときは、スタータースイッチを回すことができません。
- スイッチが“LOCK”位置から“ON”位置に回らないときは、ハンドルを軽く左右に動かしながら回してください。

リモコンキー（インテリジェントキー）の電池交換　→　3-9 ページ参照

インテリジェントキーが正常に作動しないとき　→　8-51 ページ参照

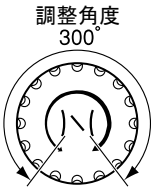
アイドルアップノブ★



エンジンの暖機運転（ウォーミングアップ）をするときに使用します。
右に回すとアクセルペダルを踏まなくてもエンジンの回転を上げることができます。
暖機運転中以外のときは必ず、左いっぱいに戻しておきます。

⚠ 警 告

- 換気の悪い場所では、一酸化炭素中毒を招くおそれがあります。エンジンを始動および暖機運転させるときは、換気の良いところで行ってください。また、DPF の再生時には、PM の燃焼にともない白煙が一時的に発生する場合がありますので換気の悪い屋内での手動再生は行わないでください。
- アイドルアップノブでエンジンの回転数を上げたまま走行すると急発進の原因となるほか、燃費の悪化やクラッチの寿命を縮める原因となります。
  必ずアイドルアップノブでエンジン回転数をいっぱいに下げてから走行してください。



アドバイス

- アイドリング時にヒーターやデフロスターの効きを高めたいとき、またはアイドリング回転数を手動で上げたいときに使用します。
- アイドルアップノブの調整角度の範囲は300°になっています。この範囲を越えての操作はお車を故障させるおそれがありますので行わないでください。

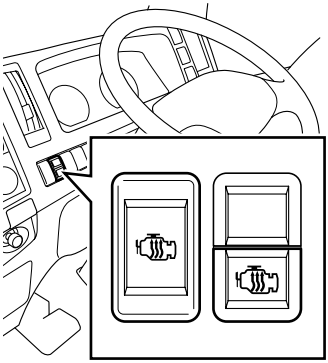
知 識

・エンジン回転が不安定なエンジン始動時に、エンジン回転を安定させるために使用してください。
・アイドリング時にヒーターやデフロスターの効きを高めたい場合など、エンジン回転を手動で上げたい場合に使用してください。
・DPF の手動再生を行う際に、アイドルアップノブによってエンジン回転を上げているときは、左いっぱいに戻し、エンジン回転を下げてください。

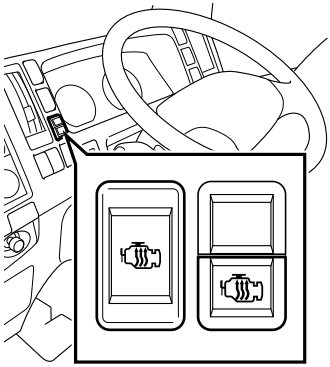
エンジンの始動方法 → 4-4 ページ参照
DPF → 4-227 ページ参照

暖機スイッチ

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



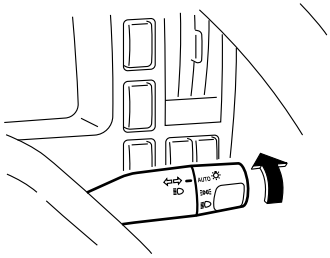
寒冷時にエンジンの水温を早く上昇させ、ヒーターやデフロスターの効きを高めたいときや、停車中のヒーター効果を高めたいときに使用します。
エンジンを始動し、暖機スイッチを押すとメーターパネル内の暖機システム作動表示灯が点灯し、暖機を促進します。
暖機運転終了後は、もう一度スイッチを押して暖機システムを“OFF”にしてください。このとき、表示灯は消灯します。

知 識

・温暖時およびエンジンが十分に暖まっているとき、または走行中に暖機スイッチを押しても暖機システムは、作動しません。
・暖機スイッチを押し、表示灯が点灯してもアイドルアップノブを使用してエンジン回転を 1,000r/min（回転 / 分）以上にすると暖機システムは、作動しません。

コンビネーションスイッチ

ライティングスイッチ



スタースイッチが“ON”位置のときのみ、各位置にツマミを回すと各灯火が次のように点灯します。
正しく点灯しないときはランプ類（灯火類）の点検・交換をしてください。

アドバイス

・ライト類が点灯中でも、スタースイッチを“ON”以外の位置にするとライト類は消灯します。

灯 火 名	位 置		
	AUTO	≡D	≡D
ヘッドランプ（前照灯）	点灯 / 消灯＊1	点灯 / 消灯＊2	点 灯
クリアランスランプ（車幅灯）		点 灯	
テールランプ（尾灯）			
ナンバープレートランプ（番号灯）			
メーター類照明灯			

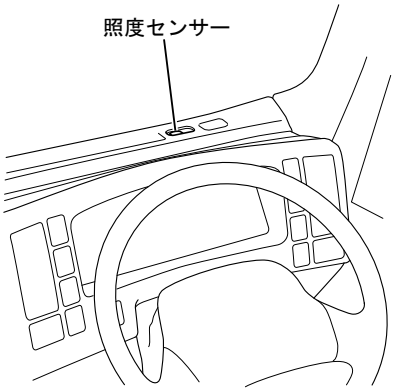
＊1：ライティングスイッチが“AUTO”位置にある場合、車外の明るさによって自動的にランプ類が点灯または消灯します。
＊2：ライティングスイッチが“≡D”位置にある場合、走行中は車外の明るさによって自動的にランプ類が点灯または消灯し、停車中は消灯します。
夜間の走行中は、“AUTO”位置から“≡D”位置にツマミを回しても、ヘッドランプを消灯することはできません。
ヘッドランプを消灯したいときは、車を停車させ、オートライト OFF スイッチを押すか、“AUTO”位置から“≡D”位置にツマミを回してください。
ただし、走行を再開すると、消灯したランプ類は再点灯します。

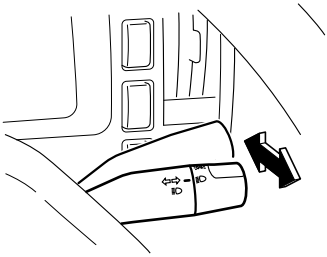
オートライト OFF スイッチ
→ 4-84 ページ参照

知 識

- ライティングスイッチが“AUTO”位置にある場合、車外が暗い状態（長いトンネルやトンネル内での渋滞、屋内駐車場など）になると、ランプ類が点灯します。その後、車外が明るくなってもランプ類がすぐに消灯しない場合があります。この場合、車を停車させ、オートライト OFF スイッチを押すか、ライティングスイッチを“ﾆｺﾆｺ”位置にするとヘッドランプは消灯します。
- 霧や雪などで視界が悪い状況でも、昼間などで車外が明るければ、ライティングスイッチが“AUTO”位置でもライト類が点灯しないことがあります。点灯しない場合は、安全のため、手動でライトを点灯してください。
- 照度センサーを覆わないでください。照度センサーを覆うと、ライティングスイッチが“AUTO”位置であっても正常に点灯できなくなります。
- 照度センサーに異常が発生した場合、ライティングスイッチが“AUTO”位置になると、車外の明るさに関係なく自動的にヘッドランプが点灯します。最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。

オートライト OFF スイッチ
→ 4-84 ページ参照



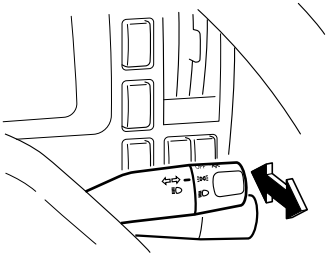


ハイビーム（ヘッドランプの上向き）とロービーム（下向き）の切り替え

ヘッドランプ点灯時、レバーを前後に操作すると上向きと下向きが交互に切り替わります。
レバーを前方に押すと上向き、手前に引くと下向きになります。
上向きのときは、メーター内のハイビーム表示灯が点灯します。

知 識

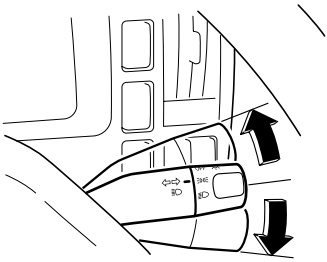
・先行車や対向車があるときはロービーム（下向き）で走行してください。



パッシング（追越し合図）

レバーを手前に軽く引き寄せるごとに上向きに点灯と消灯を繰り返します。このとき、メーターパネル内のハイビーム表示灯が点灯します。追越しなどの合図にお使いください。

ターンシグナルスイッチ（方向指示器）



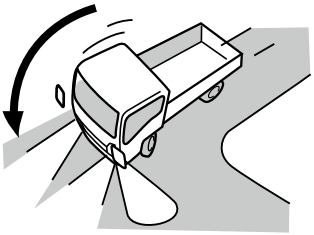
左折または右折するときに、レバーを上下に操作してターンシグナルランプ（方向指示器）を点滅させます。

アドバイス

・エンジンを停止させた状態で、長時間点滅したままにしないでください。バッテリー上がりを起こし、エンジン再始動ができなくなるおそれがあります。

知 識

・ハンドル操作の少ないときは手でレバーを戻してください。
追い越しや車線変更時にはレバーを上下に軽く押してください。軽くおさえている間点滅し、離すとレバーはすぐ元に戻ります。



コーナリングランプ（側方照射灯）

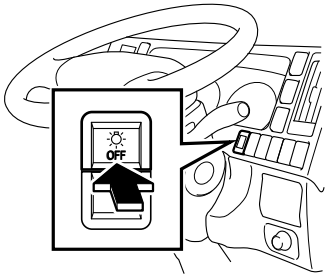
車が曲がる方向を照らします。

ヘッドランプ（前照灯）が点灯している状態で車速が 40km/h 未満のとき、ターンシグナルランプ（方向指示器）の指示方向に連動して点灯します。

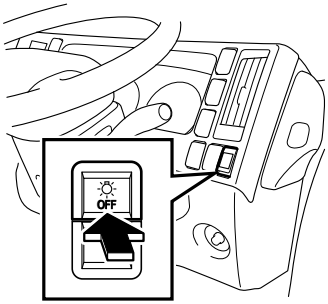
ランプ（バルブ）類が点灯しないとき
→ 8-16 ページ参照

オートライト OFF スイッチ

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車

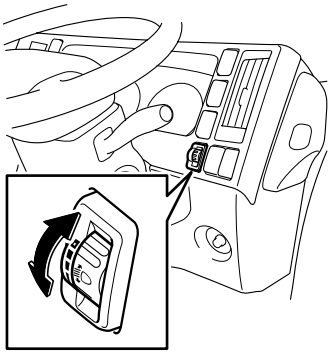


夜間の走行中や車外が暗い状態のときに車を停車させ、オートライト OFF スイッチを押すと、ヘッドランプが消灯します。

走行を再開すると、ヘッドランプが再点灯します。

ライティングスイッチ → 4-81 ページ参照

ヘッドランプレベリングスイッチ

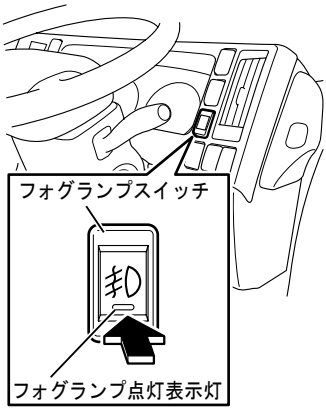


ヘッドランプの照射角度を４段階に調整することができます。積荷の量によりヘッドランプが上側を照らしてしまうような場合、下側を照らすように調整します。
通常（空車）時は、スイッチを“0”位置にしておきます。

⚠ 注 意

・必要以上に照射角度を下向きにしないでください。
夜間の視界が悪くなり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

フォグランプスイッチ★



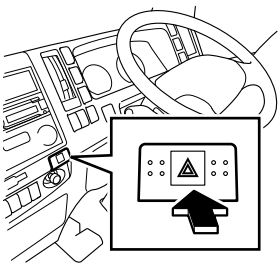
ヘッドランプまたはクリアランスランプが点灯しているときにスイッチを押すとフォグランプが点灯し、フォグランプ点灯表示灯が点灯します。もう一度押すと消灯します。霧などで前方視界が悪いときにご使用ください。

⚠ 警 告

・フォグランプのバルブは、規定以上のものを使用しないでください。配線を焼損するおそれがあります。

ランプ（バルブ）類が点灯しないとき
→ 8-16 ページ参照

ハザードスイッチ

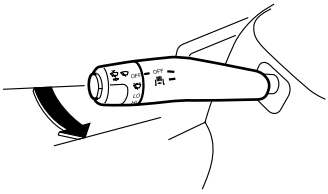


事故や、故障などのときに路上に駐・停車していることを他車に知らせるための合図です。
スタータースイッチの位置に関係なくスイッチを押すとすべてのターンシグナルランプ（方向指示器）が点滅し、非常信号になります。もう一度押すと消灯します。

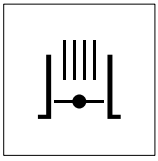
アドバイス

・エンジンを停止させた状態で、長時間点滅したままにしないでください。バッテリー上がりを起こし、エンジンの再始動ができなくなるおそれがあります。

排気ブレーキスイッチ



排気ブレーキ表示灯



走行中、レバーを手前に引くと排気ブレーキが作動します。同時に排気ブレーキ表示灯が点灯します。アクセルペダルまたはクラッチペダルを踏むと排気ブレーキが解除され、ペダルから足を離すと再び排気ブレーキが作動します。

・AMT 車は車両停止直前でエンジン回転数が下がると排気ブレーキをカットします。回転数が戻り次第、再度排気ブレーキは有効になります。

⚠ 注 意

・滑りやすい路面（圧雪路、凍結路、濡れた路面）で排気ブレーキを作動させると、タイヤがスリップし、非常に危険です。

アドバイス

・排気ブレーキを使用中に警報音“ピーーー”が鳴った場合は、ただちに安全な場所に停車し、《日産販売会社》で点検を受けてください。
・シフトレバーが“N”位置でも、暖機システムが“ON”のときは、エンジンの暖機が終わるまで、排気ブレーキは解除されません。

排気ブレーキが作動しない条件

以下の条件のとき、排気ブレーキ表示灯が点灯しても排気ブレーキは作動しません。

- アクセルペダル、クラッチペダル（マニュアルトランスミッション車）を踏んでいるとき。
- シフトレバーが“N”位置のとき。
- 車速が 5km/h 以下のとき。

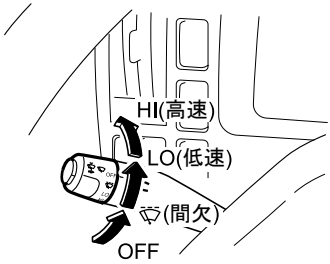
知 識

- ABS 作動時、排気ブレーキスイッチが“ON”で排気ブレーキ表示灯が点灯していても、排気ブレーキが解除されることがあります。また、段差を通過したときなどにブレーキペダルを踏んでいなくても、一時的に排気ブレーキが解除されることがあります。

ワイパー・ウォッシャースイッチ

スタータースイッチが“ON”位置のとき、使用することができます。

ワイパースイッチ



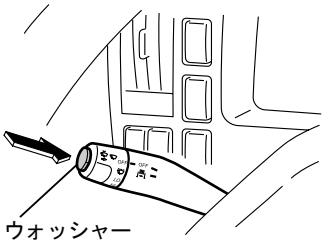
アドバイス

- モーターに無理な力がかかると安全装置が働き作動が停止することがあります。このようなときは、一度スイッチを切り数分後に正常に作動するか確認してください。たびたび作動が停止するときは使用を中止して、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。
- ワイパーを長期間使用していなかったときや、寒冷時、凍結のおそれがあるときは、点検時または作動前にワイパーゴムがガラスに貼り付いていないことを確認してください。凍結しているときはお湯をかけて溶かしてください。ガラスに貼り付いたままワイパーを作動させると、ワイパーの破損やワイパーモーターの故障の原因となります。
- ガラス面が乾いているときにワイパーを作動させるとガラス面を傷つけることがあります。必ずウォッシャーを併用してください。

ワイパースイッチを操作すると次のように作動します。

レバー位置	OFF		LO	HI
ワイパー動作	停止	間欠 (雨量が少ないとき)	低速 (普通雨量のとき)	高速 (雨量の多いとき)

ウインドーウォッシャースイッチ



スイッチを押すとウォッシャー液が噴射します。このとき、ワイパーが連動して作動します。
フロントウインドーが汚れているときに使用します。

⚠ 注 意

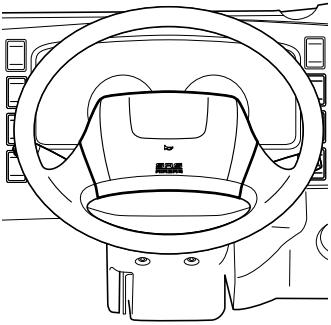
・寒冷時にウォッシャー液を使用するときは、ガラスに噴射された液が凍結し、前方の視界が悪くなるおそれがあり危険です。あらかじめフロントガラスを温めてからお使いください。

アドバイス

・ウォッシャー液が十分に出ないときは、すぐに、スイッチから手を離してください。フロントガラスを傷つけるおそれがあります。
・スイッチ操作を 30 秒以上続けるとウォッシャーポンプを損傷する原因になります。
・ウォッシャー液がないときはウインドーウォッシャースイッチを作動させないでください。モーター焼き付きの原因となります。
・寒冷地ではウォッシャー液の凍結を防止するため、季節に合わせた適切な濃度のウォッシャー液を使用してください。

ウインドーウォッシャー液
→ 7-120 ページ参照

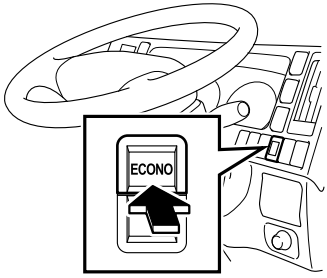
ホーンボタン



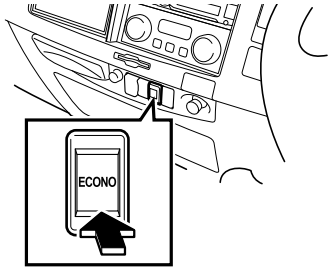
ハンドルのラッパのマークがあるパッドを押すと、ホーンが鳴ります。

ECONO モードスイッチ★

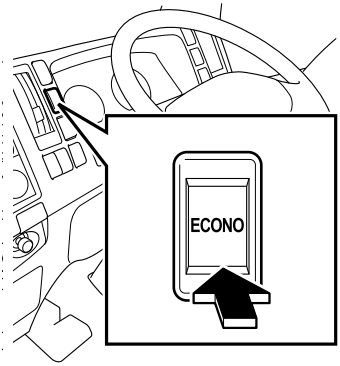
標準キャブ車



ハイキャブ車（除く消防車）、ワイドキャブ車



ハイキャブ車（消防車）



ECONO モード表示灯



マニュアルトランスミッション車

ECONO モードを ON/OFF するスイッチです。スイッチを押すと ECONO モード表示灯が点灯し、ECONO モードが作動可能状態になります。もう一度スイッチを押すと ECONO モード表示灯が消灯し、ECONO モードが解除されます。

【ECONO モードの一時解除】

アクセルペダルをいっぱいに踏み込んだ状態から、さらに増し踏みすると、一時的に ECONO モードを解除できます。坂道など、駆動力が必要になったときに使用してください。

停車するか、一定速度の走行やエンジン回転の変動が少ない走行を行うと ECONO モードが復帰します。

ECONO モード表示灯は、ECONO モードの一時解除では消えません。

アドバイス

・アクセルペダルの踏力変化を確認する際は、パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止させてから行ってください。

知 識

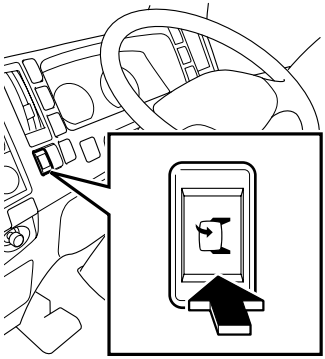
・ECONO モードスイッチが押された状態で、アクセルペダルを増し踏みしても ECONO モードが解除されないときは、ECONO モードの故障が考えられます。最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

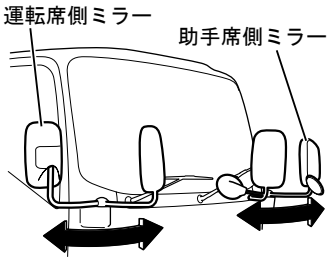
【ECONO モードとは】

・省燃費走行を促すと共に必要な走行性を確保するために、積載状態・坂道に応じ最適な出力制御（馬力制御・加速制御）を自動で行う機能です。

- 馬力制御
  走行中にエンジン回転がある回転数を超えるとエンジン出力を制限し、より燃費を重視した走行になります。
- 加速制御
  加速するときの燃料噴射量を抑制し、過剰な加速を制限します。

電動格納ミラースイッチ★





助手席側および運転席側★ミラーが内側に格納されます。もう一度押すと元の位置に戻ります。

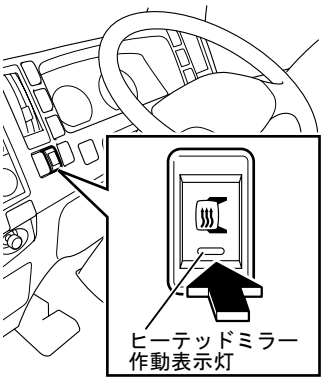
アドバイス

・ミラーを倒すとき、必要以上に強い力をかけないでください。

・電動格納ミラーは手動でも操作できますが誤操作防止のため、電動で操作してください。

・手動で操作したとき、ミラーのステー部分が元の位置でロックされない場合は、ミラー格納スイッチを使って元の位置に戻してください。

ヒーテッドミラースイッチ★



曇り取りについて

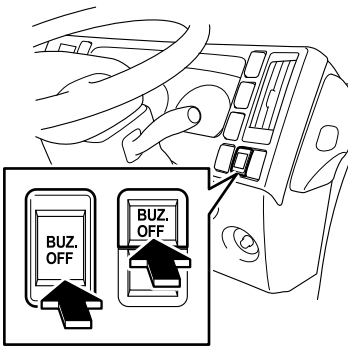
ミラーが曇ったときにミラーの表面を温めて、曇りを取ります。スタータースイッチが“ON”位置でヒーテッドミラースイッチを押すと作動し、ヒーテッドミラー作動表示灯が“橙色”に点灯します。もう一度スイッチを押すと“OFF”になり、作動表示灯が消灯します。

アドバイス

・エンジン停止中に使用しないでください。消費電力が大きいのでバッテリー上がりを起こす原因になります。

・曇りが取れたらすぐスイッチを“OFF”にしてください。

バックブザー OFF スイッチ★

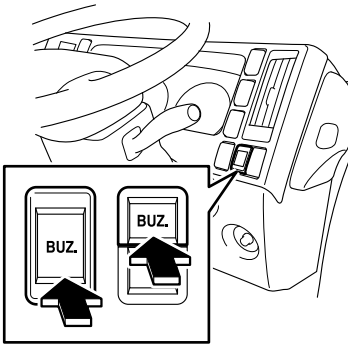


スイッチを押して“OFF”にすると、後退時にバックブザーが鳴らなくなります。もう一度、スイッチを押すと“ON”になり、バックブザーが鳴って車両が後退していることをまわりに知らせます。

アドバイス

・安全のため、通常はバックブザーを“ON”にして使用してください。

左折＆バック音声警報 ON/OFF スイッチ★



スイッチを押して“ON”にし、ターンシグナルスイッチ（方向指示器）を左折に操作すると音声で車両が左折することをまわりに知らせます。また、車両後退時にも音声で車両が後退していることを知らせます。
もう一度スイッチを押すと“OFF”になり、音声警報が鳴らなくなります。

注 意

・安全のため、通常は音声警報を“ON”にして使用してください。

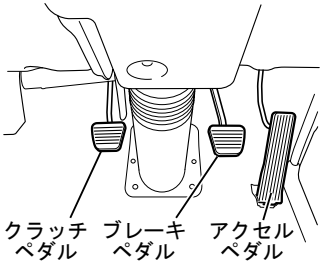
知 識

・ライティングスイッチを“ ”または“ ”位置にすると、音声警報の音量が小さくなります。

走行装置について

● ペダル類	4-96
● パーキングブレーキレバー	4-97
● シフトレバー	4-102
● AMT 車★	4-105
● ヒルスタートアシスト（坂道発進補助装置）★	4-122
● アイドリングストップ★	4-130
● ABS	4-138
● 制動力アシスト機能★	4-142
● EBD	4-142
● TCS（トラクションコントロールシステム）	4-143
● VDC	4-145
● LDW（車線逸脱警報）	4-150
● インテリジェント エマージェンシーブレーキ	4-159
● 車間距離警報	4-169
● 踏み間違い衝突防止アシスト★	4-176
● 先行車発進お知らせ	4-185
● 交差点警報★	4-191
● 4WD 車	4-199
● PTO ★	4-202
● プリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグシステム	4-217
● DPF	4-227
● 尿素 SCR システム	4-236

ペダル類



正しい運転姿勢をとって、ブレーキ、アクセル各ペダルの操作は右足で行います。各ペダルの踏み間違いを防ぐため各ペダルの位置を確認し、足に覚えさせてください。

⚠ 警 告

- 空缶や空ビンなどが足下に転がってブレーキペダルの下にはさまると、ブレーキ操作ができなくなり大変危険です。
- フロアマットは車に合ったものを正しく敷いてください。各ペダルを覆ったり重ねて敷くと、各ペダルに引っ掛かるなど確実な操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- エンジンの空吹かしは経済運転のためにも、おやめください。
- クラッチペダルに足を乗せたまま走行しないでください。クラッチ故障の原因になります。

ブレーキオーバーライド

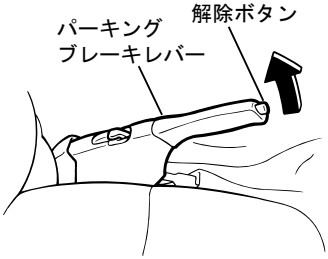
アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたときに、エンジン出力を抑制する場合があります。

パーキングブレーキレバー

⚠ 注 意

- 駐・停車のときはパーキングブレーキレバーを引いて車が停止状態を保持することを確認してください。
- 坂道での駐車はできるだけ避け、平らな場所を選んでください。やむを得ず坂道で駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせ車が動かないことを確認し、安全のため輪止めをしてください。さらに、ギヤイン駐車を併用して、確実に駐車させてください。
- 緊急のとき以外は走行中に使用しないでください。
- 停止する前にパーキングブレーキをかけるとタイヤがロックしたり、車両姿勢が不安定な状態（横滑りなど）になり、思わぬ事故を招くおそれがあります。また、車が故障する原因となります。
- 走行中、パーキングブレーキレバーを完全に戻しておかないと故障や火災の原因となります。
- 走行中に使用した場合は、故障していないか必ず点検してください。

パーキングブレーキの操作★



駐車するときは、解除ボタンを押さずにパーキングブレーキレバーをいっぱいに引きます。このとき同時に、メーター内のパーキングブレーキ警告灯が点灯します。
パーキングブレーキを解除するときは、レバーを少し上に引き上げながら解除ボタンを押してレバーを下ろします。このとき同時に、メーター内のパーキングブレーキ警告灯が消灯します。

⚠ 注 意

- パーキングブレーキ警告灯の点灯は、ブレーキの効きとは関係ありません。レバーはしっかりと引き上げてください。
- 解除ボタンを押しただけではレバーを戻すことはできません。必ず、パーキングブレーキレバーを少し引き上げながら解除ボタンを押してください。

アドバイス

・パーキングブレーキレバーを引いたまま走行すると、警報音“ピーーー”が鳴り続け、パーキングブレーキの戻し忘れを知らせます。いったん停車し、レバーを戻してから走行してください。

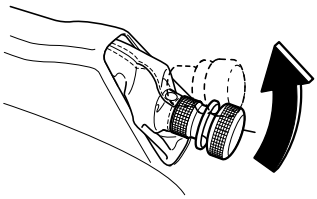
電動パーキングブレーキの操作★

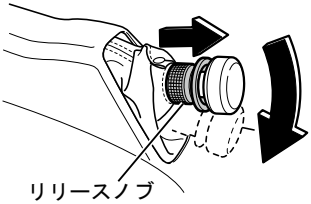
注 意

・スタータースイッチが“ACC”または“LOCK”位置のときは、パーキングブレーキレバーを戻してもパーキングブレーキは解除されません。パーキングブレーキを解除するときは、スタータースイッチを“ON”位置にしてください。

知 識

・パーキングブレーキの作動と解除をモーターが行うシステムです。
・電動パーキングブレーキは、スタータースイッチの位置に関係なく効かせることができます。
・パーキングブレーキレバーを操作するとモーター音がしますが異常ではありません。





レバーを引き上げるとパーキングブレーキがかかります。同時にパーキングブレーキ警告灯が点灯します。
レバーを少し引き上げながらリリースノブを引き上げレバーを戻すと、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ警告灯が消灯します。

⚠ 警 告

・ジャッキやアウトリガなどにより車両を上げた状態では、パーキングブレーキの操作を行わないでください。車両を下ろしたときの車両姿勢の変化により車両が動き出すおそれがあります。
・パーキングブレーキを効かせたあとに車両姿勢が大きく変化したときは、車両が動き出す場合があります。ローダー車等の車載専用車やフェリー等の船舶に搭載した車両移動時などでは、車両を確実に固定してください。
・パーキングブレーキレバーを操作してもパーキングブレーキが効かないときや解除できないときは、ただちに最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。
・パーキングブレーキ警告灯が点滅したときや、電動パーキングブレーキ警告灯が点灯したときは電動パーキングブレーキシステムに異常があります。ただちに安全な場所に停車し、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。また、やむを得ず駐車をする場合は坂道を避け、平らな場所を選んで駐車し、ギヤイン駐車してタイヤに輪止めをしてください。

⚠ 注 意

・リリースノブを引くだけでは、パーキングブレーキレバーを戻すことはできません。レバーを戻すときは、レバーを少し引き上げながらリリースノブを引いてください。

アドバイス

・パーキングブレーキレバーを引いたまま走行すると、警報音“ピーーー”が鳴り続け、パーキングブレーキの戻し忘れを知らせます。いったん停車し、レバーを戻してから走行してください。
・パーキングブレーキ警告灯の消灯を確認してから発進してください。パーキングブレーキレバーを下げてからパーキングブレーキが解除されるまで 1 秒程度かかるため、パーキングブレーキレバーを下げてからすぐに発進すると、パーキングブレーキを効かせたまま走行することになり、パーキングブレーキ破損の原因になります。
・パーキングブレーキレバーの上げ下げを連続して 20 秒以上操作すると、電動パーキングブレーキ警告灯が点滅し、パーキングブレーキが効いたまま解除できなくなることがあります。これは保護回路の作動によるもので異常ではありません。少し時間をおくと電動パーキングブレーキ警告灯が消灯し、解除できるようになります。

知 識

・急な坂道などに停車した場合、パーキングブレーキを効かせたあとに再度モーター音がする場合がありますが、これは車両が動き出さないようシステムがブレーキ力を調整しているためで異常ではありません。
・パーキングブレーキを解除したときに、モーター音と共にゴトゴトと音がする場合があります。これは、システムがパーキングブレーキの解除位置を調整しているためで異常ではありません。
・バッテリーが上がったときや電動パーキングブレーキが故障し、パーキングブレーキが解除できないときは、手動で解除することができます。

パーキングブレーキ警告灯
→ 4-40 ページ参照
ギヤイン駐車するには
→ 4-111 ページ参照
駐停車時の注意 → 6-13 ページ参照
電動パーキングブレーキが解除できなくなったとき → 8-14 ページ参照

パーキングブレーキの警報音について

次の場合、ブザーが鳴り注意を呼びかけます。

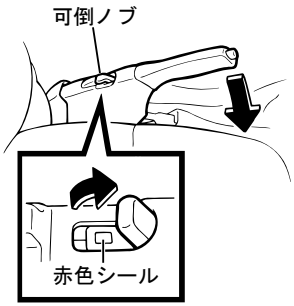
警報項目	ブザー音	内 容	処 置
パーキングブレーキ戻し忘れ警報	“ピーーー”（連続）	パーキングブレーキレバーを引いたまま走行したとき	いったん停車し、レバーを戻してから走行してください
パーキングブレーキ引き忘れ警報※	“ピーピー”（最長 30 秒間）	パーキングブレーキレバーを引かずにスタータースイッチを“ACC”または“LOCK”位置にしたとき	パーキングブレーキを効かせてください

※：電動パーキングブレーキ付車のみ

知 識

【電動パーキングブレーキ付車】
・ギヤイン駐車をすると、パーキングブレーキ引き忘れ警報が作動しますが故障ではありません。

可倒ノブの使いかた★



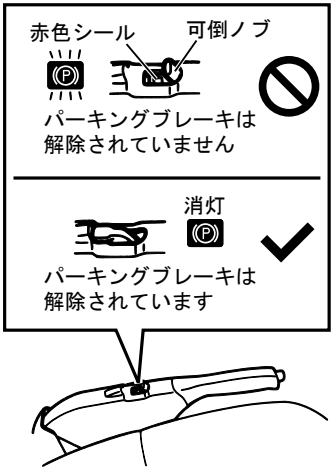
可倒式パーキングブレーキレバー付車

パーキングブレーキを効かせたまま、パーキングブレーキレバーを下ろすことができます。

① パーキングブレーキを効かせ、可倒ノブを引き上げます。

② パーキングブレーキレバーを下ろします。このとき、可倒ノブの赤色シールが見える状態で、メーター内のパーキングブレーキ警告灯は点灯したままです。

③ パーキングブレーキを解除するときは、いったんパーキングブレーキレバーをもとの位置まで引き上げます。さらにパーキングブレーキレバーを少し上に引き上げながら解除ボタンを押してレバーを下ろします。このとき同時に、メーター内のパーキングブレーキ警告灯が消灯します。



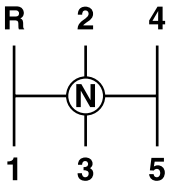
⚠ 注 意

・パーキングブレーキレバーが下りていても、可倒ノブの赤色シールが表示されているときは、パーキングブレーキを効かせた状態になっています。
発進のときは、必ず可倒ノブの赤色シールが表示されていないこと、また、メーターパネル内のパーキングブレーキ警告灯の消灯を確認してから発進してください。

寒冷地での駐車について
→ 6-13 ページ参照

シフトレバー

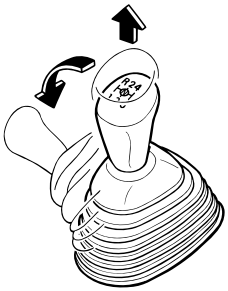
マニュアルトランスミッション車★



変速するとき、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで操作します。
“R（後退)”位置にするとバックアップランプが点灯し、同時に警報音“ピーピー”、音声警報付車は音声警報「ピーピーバックします」が鳴ります。

アドバイス

・前進から後退または、後退から前進へ変速するときは、車が完全にとまってから行ってください。
トランスミッション破損の原因となります。



シフトレバーの倒しかた★
シフトレバーを助手席側に倒すことができます。
シフトレバーの先端を引き上げ、助手席側に倒します。

⚠ 注 意

・シフトレバーを倒すときはエンジンを停止させ、パーキングブレーキをかけてから行ってください。

AMT 車★

シフトレバーを動かし、各ギヤポジションにシフトチェンジします。

AMT 車★ → 4-105 ページ参照

警 告

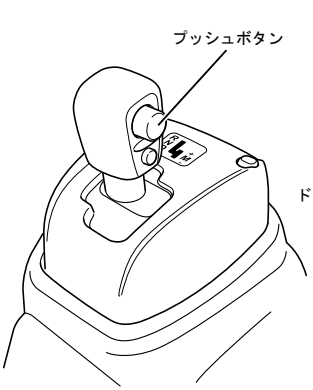
・停車中にシフトレバーを操作する場合は、ブレーキペダルをしっかり踏み込んでシフトインジケーターの表示が点滅から点灯に変わるまで、ブレーキペダルは踏み込んでいてください。シフトインジケーターが点滅中は変速中であり、クリープ力が働かないため、ブレーキペダルを離すと坂道などでは車両が下がり思わぬ事故を起こすおそれがあります。

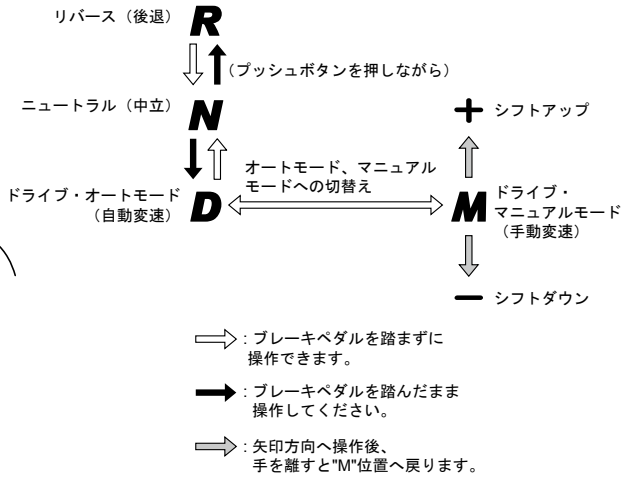
知 識

・エンジン停止中は、シフトレバーを操作してもギヤポジションは切り替わりません。ギヤポジションの切り替えは、エンジンを始動して行ってください。

・エンジン回転中の停車時は、シフトロック機能が働きます。ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを“N”から“D”または“R”位置に操作することはできません。
発進する際は、必ずブレーキペダルを踏み込んだままシフトレバーを操作してください。

シフトロック機能について
→ 4-121 ページ参照





シフトインジケーター

シフトレバーの位置	メーター内シフトインジケーター	ギヤポジション
R	R	リバース（後退） 後退させるときの位置
N	N	ニュートラル（中立） 駐車およびエンジンを始動するときの位置 エンジン駆動力が伝わらず、前進も後退もしません。
D	D 1～D 5	ドライブ・オートモード（前進・自動変速） 速度に応じて自動的に適切なギヤに切り替わります。
M	＋：1, 2, 3 －：4, 5	ドライブ・マニュアルモード（前進・手動変速） ＋（シフトアップ）、－（シフトダウン）の操作により、希望するギヤ段に変速されます。

AMT 車★

クラッチペダル操作を必要とせずに、シフトレバー操作、アクセルペダル操作とブレーキペダル操作のみで発進、自動変速、停車ができるシステムです。

AMT 車について★ → 2-29 ページ参照

警 告

- 停車中は平坦路であっても車が動きださないようにブレーキペダルをしっかり踏み、必要に応じてシフトレバーを“N”位置にして、パーキングブレーキを確実に効かせてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時、DPF 再生時などは自動的にエンジン回転が上がり、クリープ現象が通常時と比べ強くなります。ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

知 識

- アイドルアップノブでエンジン回転数を高くすると、クラッチがつながる際にショックが大きくなることがあります。シフトレバーを“D”、“M”または“R”位置に操作するときは、アイドルアップノブを左いっぱいに戻してください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリープ現象を利用してアクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度調整するとスムーズに行えます。

AMT の使い方

⚠ 注 意

・エンジンの始動は、シフトレバーを“N”位置にし、シフトインジケーターが「N」を表示していることを確認してパーキングブレーキレバーを引き、ブレーキペダルをしっかりと踏んでエンジンを始動してください。また、エンジン始動時には下記の点に注意してください。

- シフトレバーを“N”から“D”、“R”位置に操作するときは、必ずエンジンが始動していることを確認してください。エンジンの始動を確認せずにシフトレバーを操作すると、スターターモーターが ON/OFF し、リングギヤなどスターター関連部品を破損するおそれがあります。

・シフトレバーを“N”から“D”、“R”位置に操作するときは、必ずブレーキペダルを踏んでください。

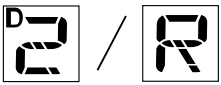
・エンジンがかかっている状態で、シフトレバーを“D”、“M”または“R”位置に入れたまま、運転席を離れることはやめてください。車が動き出すおそれがあります。運転席を離れるときは必ず、パーキングブレーキを確実に効かせ、シフトレバーを“N”位置にしてください。



発進するには［通常の発進］

① ブレーキペダルをしっかりと踏み、シフトレバーが“N”位置であること、シフトインジケーターが「N」を表示していることを確認します。パーキングブレーキレバーが確実に引かれていることを確認してスタータースイッチを“ON”位置にします。

② ブレーキペダルを右足でしっかりと踏み込んだままエンジンを始動し、シフトレバーを前進は“D”、後退は“R”位置に操作します。シフトレバー操作に連動して自動的にクラッチが切れ、ギヤポジションが切り替わり、自動的にクラッチがつながります。このとき、変速はオートモード（自動変速）となります。



③ シフトインジケーターが発進ギヤ段（前進は「2」後退は「R」）を表示していることを確認し、パーキングブレーキを解除して、ブレーキペダルを離し、ゆっくりとアクセルペダルを踏み込みます。アクセルペダルの踏み込み量に応じて発進します。

アドバイス

・電動パーキングブレーキ付車は、パーキングブレーキ警告灯の消灯を確認してから発進してください。パーキングブレーキレバーを下げてからパーキングブレーキが解除されるまで 1 秒程度かかるため、パーキングブレーキレバーを下げてからすぐに発進すると、パーキングブレーキを効かせたまま走行することになり、パーキングブレーキ破損の原因になります。

知 識

・ギヤイン駐車後、エンジンを始動したときシフトインジケーターが「N」を表示していることを確認してから、シフトレバーを前進は“D”後退は“R”位置に操作してください。

・エンジン停止中は、シフトレバーを操作してもギヤポジションは切り替わりません。ギヤポジションの切り替えは、エンジンを始動して行ってください。

・エンジン回転中の停車時は、シフトロック機能が働きます。ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを“N”から“D”または“R”位置に操作することはできません。発進する際は、必ずブレーキペダルを踏み込んだままシフトレバーを操作してください。

シフトロック機能について
→ 4-121 ページ参照

発進するには［急な坂道での発進］

① ブレーキペダルをしっかりと踏み、パーキングブレーキレバーが確実に引いてあることを確認します。

② ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込んだまま、シフトレバーを前進は“D”後退は“R”位置に入れます。（発進時に強い駆動力が必要な場合は、1 速発進モードに切り替えてください。）

③ シフトインジケーターに発進ギヤ段（前進は「2」後退は「R」）を表示していることを確認し、周囲の安全を確認し、右足をブレーキペダルから離し、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

④ 車が動き出す感触を確認してからパーキングブレーキレバーを戻し発進します。

警 告

・AMT 車は、発進時の速度調整をアクセル操作のみで行います。アクセル操作は慎重に行ってください。
・アクセルペダルを踏み込んだままシフトレバーを操作しないでください。急発進となり思わぬ事故の原因になります。
・シフトインジケーター点滅中はギヤの変速途中です。タイヤに駆動力は伝わっていないため、坂道で車が下がる場合があります。
必ず、シフトインジケーターの点灯が確認できるまで、ブレーキペダルを踏み込んだままにしてください。

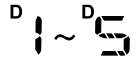
アドバイス

・停車時にシフトレバーを“D”、“M”または“R”位置で、ブレーキを効かせたままアクセルペダルを踏み続けないでください。故障の原因になります。
・坂道で停車するときは、必ずブレーキを効かせてください。アクセルペダルを踏み込みクリープ現象を強くした状態で停車し続けると故障の原因になります。

知 識

・通常の発進時は、2 速発進となります。積荷などで強い駆動力を必要とする場合は、1 速発進スイッチを押して 1 速で発進してください。
・停車時、ブレーキペダルを踏み込みシフトレバーを“M”位置にして“ー（シフトダウン）”操作することでも、1 速への変速ができます。
・信号待ち等で停車の際は燃費向上のためアイドリングストップ無車はシフトレバーを“N”位置にすることをお奨めします。アイドリングストップ付車は、アイドリングストップシステムによりエンジンが自動停止した場合、シフトレバーは“D”位置のままにしてください。“D”位置以外に操作するとエンジンが再始動してしまいます。

1 速発進モード　→ 4-113 ページ参照
アイドリングストップ★
→ 4-130 ページ参照



変速するには［オートモード］

・シフトレバーを“N”から“D”位置にしたときは、自動変速となります。このとき、シフトインジケーター左上に「D」が表示されていることを確認してください。

⚠ 注 意

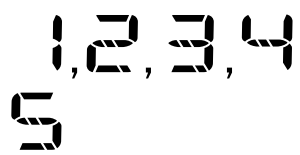
・急な登坂道では、オートモードで走行するとシフトアップ / ダウンを繰り返し、走行が困難となる場合があります。その場合は、マニュアルモードに切り替え、ギヤ段を固定して走行してください。

知 識

・連続した登坂道や渋滞路などでは、オートモードより一定のギヤ段で走行できるマニュアルモードのほうが走りやすいことがあります。マニュアルモードに切り替えて走行することをお奨めします。

・ECONO モードで走行することにより燃費を向上することができます。

ECONO モード →4-114 ページ参照



変速するには［マニュアルモード］

・マニュアルモードで変速する場合は、シフトレバーを“M”位置に操作して希望するギヤ段へ“＋（シフトアップ）”、“－（シフトダウン）”操作します。このとき、シフトインジケーターに希望のギヤ段が表示されていることを確認してください。

・シフトレバー操作に連動して自動的にクラッチが切られ、ギヤポジションが切り替わるとクラッチが自動的につながりシフトアップ / ダウンともに同様の操作で変速可能です。

・マニュアルモードにすると自動変速されません。オートモードに戻す場合は、シフトレバーを“D”位置に操作し、シフトインジケーター左上に「D」が表示されていることを確認してください。

アドバイス

・変速は車の速度に応じた適切なギヤ段へ行ってください。不適切なギヤ段へ操作した場合、警告ブザー“ピーーー”または“ピーピーピー”が鳴り変速されません。
・マニュアルモードで不適切なギヤ段を使用して走行を続けると故障の原因になります。その際には、自動で適切なギヤ段へシフトダウンします（シフト時に警告ブザー“ピーピーピー”が鳴ります）。
・変速操作直後にアクセルペダルを強く踏み込むと、スムーズに走行できず、また故障の原因になります。アクセル操作は余裕をもってゆっくり行ってください。

知 識

・後退でのプラットホーム着けなどで、微妙な速度調整を必要とする場合は、クリープ現象を利用してアクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度調整するとスムーズに行えます。
・停車中にオートモード（“M”から“D”に操作）にしても変速は行われません。走行後に自動変速が行われます。

停車するには

① 右足でブレーキペダルを踏み、車の速度を下げて停車します。特別な変速操作は必要ありません。
停車後は、オートモード、マニュアルモードとも自動的に発進ギヤ段に切り替わります。
② 停車中はシフトレバーを“N”位置にしてください。停車時間が長くなりそうなときはパーキングブレーキを効かせます。

注 意

・運転席から離れるときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、シフトレバーを“N”位置にし、シフトインジケーターが「N」表示になっていることを確認してください。

アドバイス

・停車時にシフトレバーを“D”、“M”または“R”位置でブレーキを効かせたままアクセルペダルを踏み続けないでください。故障の原因になります。
・坂道で停車するときは、必ずブレーキを効かせてください。アクセルペダルを踏み込みクリープ現象を強くした状態で停車し続けると故障の原因になります。

知 識

・信号待ち等で停車の際は燃費向上のためアイドリングストップ無車はシフトレバーを“N”位置にすることをお奨めします。アイドリングストップ付車は、アイドリングストップシステムによりエンジンが自動停止した場合、シフトレバーは“D”位置のままにしてください。“D”位置以外に操作するとエンジンが再始動してしまいます。

アイドリングストップ★
→ 4-130 ページ参照

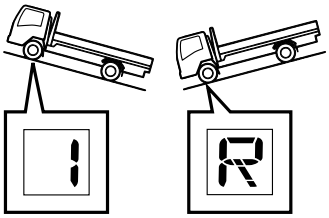


駐車するときには

① 右足でブレーキペダルを踏み込んだままパーキングブレーキを効かせます。
② シフトレバーを“N”位置にし、シフトインジケーターが「N」表示になっていることを確認して、右足をゆっくりブレーキペダルから離します。
③ エンジンを停止します。

注 意

・坂道での駐車はできるだけ避け、平らな場所を選んでください。やむを得ず坂道で駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせ車が動かないことを確認し、安全のためタイヤに輪止めをかける等の駐車措置をしてください。
・万一、車が動き出した場合のことを考え、障害物（縁石など）側へハンドルを回してください。



ギヤイン駐車するには

寒冷地などで、ギヤイン駐車する必要がある場合には以下の手順に従ってください。

① 右足でブレーキペダルをしっかりと踏み込んだままシフトレバーを“M”位置に操作して“ー（シフトダウン）”へ操作、または“R（後退）”位置にし、シフトインジケーターが「1」または「R」になっていることを確認します。
② エンジンを停止し、右足をゆっくりブレーキペダルから離します。

知 識

・電動パーキングブレーキ付車は、エンジンを停止するとパーキングブレーキ引き忘れ警報“ピーピー”が約 30 秒間作動しますが異常ではありません。

③ 車が動きださないことを確認し、必ず輪止めをかけてください。

注 意

【ギヤイン駐車】

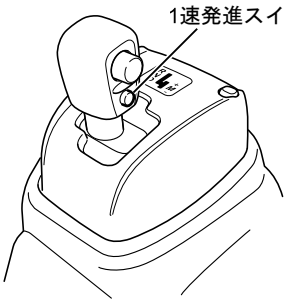
・ギヤイン駐車は、駐車を補助する機能であり駐車装置ではありません。駐車の際は、必ずパーキングブレーキを効かせてください。やむを得ずパーキングブレーキを効かせられない場合は、坂道での駐車を避け、タイヤに輪止めをしてください。

知 識

・ギヤイン駐車後、エンジンを始動するときは、シフトレバーを“N”位置にして、ブレーキペダルを踏み込んで行ってください。このとき、シフトインジケーターには「1」または「R」が表示されていますが、エンジン始動後に「N」に切り替わります。
また、“R”位置でのギヤイン駐車時は、スタータースイッチを“ON”位置にすると“ピーピー”と警告ブザーが鳴りますが、異常ではありません。

・ギヤイン駐車時、エンジン始動後にシフトインジケーターが「N」が表示されていることを確認してから、次の操作を行ってください。

1 速発進モード



通常、発進するときは 2 速発進となるため、積荷がある場合などで強い駆動力を必要とするとき使用します。
1 速発進スイッチを押すとギヤが 1 速から発進するモードになり、1 速発進モード表示灯が点灯します。通常発進モード（2 速発進）に戻すときは、1 速発進スイッチを再度押してください。

1 速発進モード表示灯



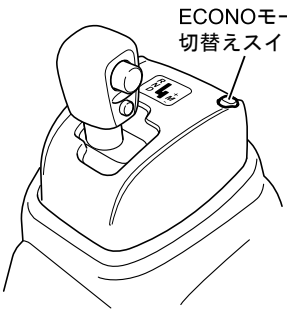
⚠ 注 意

・停車中に 1 速発進スイッチを操作すると変速します。スイッチを操作するときはブレーキペダルをしっかり踏み込んで行い、シフトインジケーターの表示が点滅から点灯に変わるまで、ブレーキペダルは踏み込んでいてください。シフトインジケーターが点滅中は、変速中でありクリープ力が働かないため、ブレーキペダルを離すと坂道などでは車両が下がり思わぬ事故を起こすおそれがあります。

知 識

・マニュアルモードのときは、1 速発進モードになりません。
・1 速発進モード中にシフトレバーを“D”から“M”位置に操作した場合、1 速発進モード表示灯は消灯し、再度シフトレバーを“M”から“D”位置に操作した場合、再点灯します。
・シフトレバーを“M”から“D”位置に操作し 1 速発進モード表示灯が再点灯した場合、発進ギヤ段が 1 速ではないことがあります。1 速発進が必要な場合は、再度 1 速発進スイッチを操作してください。
・1 速発進モードでスタータースイッチを“LOCK”位置にし、再度エンジンを始動した場合は通常発進モード（2 速発進）に戻ります。

ECONO モード



オートモード（自動変速）走行時、ECONO モードを選択することによって、走行燃費を向上させることができます。ECONO モード切替えスイッチを押すと ECONO モードになり、ECONO モード表示灯が点灯します。

ECONO モード表示灯



知 識

・マニュアルモードのときは ECONO モードに切り替えることはできません。
オートモード中に ECONO モードに切り替えた後、マニュアルモード（“D”から“M”に操作）にすると ECONO モード表示灯が消灯します。
再度、マニュアルモードからオートモード（“M”から“D”に操作）にすると ECONO モードになり、ECONO モード表示灯が再点灯します。

・ECONO モードでスタータースイッチを“LOCK”位置にし、再度エンジンを始動した場合でも ECONO モードになります。

AMT の警告灯、警告音

次のときに、AMT 警告灯の点灯・点滅、マルチディスプレイ表示および警告音（警告ブザー・音声警報）が作動し、警報します。

警告音（警告ブザー・音声警報）のみで警報を行うとき

内　容	警告灯 / 警告表示	警告ブザー・音声警報	処　置
スタータースイッチが“ON”位置のときにギヤが入ったままドアを開け、車から離れようとしたとき	—	「ピーピーピー・ギヤを入れたまま降りないでください」（連続）＊1	シフトレバーを“N”位置に戻し、パーキングブレーキを効かせる。
パーキングブレーキを引いたまま走行したとき	—	「ピーピーピー・パーキングブレーキを確認してください」（連続）＊1	車両を停車させ、パーキングブレーキを解除する。またはシフトレバーを“N”位置にする。
長時間ギヤが入ったまま、パーキングブレーキを引き停止していたとき	—	「ピーピーピー・ニュートラル待機をお奨めします」（連続）＊1	
PTO を使用しているとき	—	“ピッ…ピッ…”	—
アンダーランするギヤ段に変速しようとしたとき（マニュアルモード）	—	“ピーピーピー”	シフトレバーを“D”位置にし適切なギヤ段で走行する（変速は行われません）。
オーバーランするギヤ段に変速しようとしたとき（マニュアルモード）	—	“ピーーー”	シフトレバーを“D”位置にし、適切なギヤ段で走行する（変速は行われません）。
オーバーランしたとき	—	“ピーーー”	ブレーキを使用して車速を下げるか、適切なギヤ段にシフトアップしてエンジン回転を下げる。
AMT アジャストスイッチを操作したとき	—	“ピッ”	—

＊1：警告ブザーは 1 回目の音声警報時のみ。

マルチディスプレイに警告が表示されるとき

内　容	マルチディスプレイ表示	警告ブザー・音声警報	処　置
ブレーキを効かせたままアクセルペダルを踏み続けたとき	（橙）	“ピーピーピー”	アクセルペダルを戻す。
坂道でアクセルペダルを踏み続けて停車しているとき		“ピーピーピー”	アクセルペダルを戻し、ブレーキを効かせる。
不適切なギヤ段での走行を続けたときや、上り坂を低速で走行したとき＊2		“ピーピーピー”	アクセルペダルを戻すか、適切なギヤ段にシフトダウンし、マニュアルモードで走行する。
過度な発進・停止を繰り返したとき		“ピーピーピー”	安全な場所に停車し、冷機運転をする。
AMT オイルの温度が異常に高くなったとき	（赤）	「ピーピーピー・安全な場所に停車して、警告灯が消灯するまでお待ちください」（連続）＊1	安全な場所に停車し、「スムーサー油温上昇」表示（赤）が消灯するまで冷機運転をする。

＊1：警告ブザーは1回目の音声警報時のみ。
＊2：油温上昇による故障防止のため、マニュアルモード走行中でも適正ギヤ段へ自動でシフトダウンを行います。このとき同時に警告ブザーが鳴り、運転者に油温上昇防止制御による変速であることを知らせます。

AMT 警告灯が点灯または点滅するとき

内　容	AMT 警告灯	警告ブザー	処　置
AMT システムが故障したとき	点灯（橙 / 赤）	—	安全な場所に停車し、ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。 “AMT の故障時”については 4-118 ページを参照してください。
AMT 非常用スイッチを“ON”にしたとき	点滅（橙）	—	AMT 非常用スイッチを“OFF”にする。

AMT 警告灯★　→ 4-51 ページ参照
AMT 油温上昇★　→ 4-51 ページ参照

AMT の半クラッチ調整のしかた

AMT の半クラッチ位置を好みに応じて、初期調整（標準）位置から± 4 段階の調整が可能です。次のようなときに調整してください。

・発進時のクラッチのつなぎ具合が早い場合、または遅い場合。
・発進時のクラッチのつなぎ具合のタイミングが自分の希望と合わない場合。

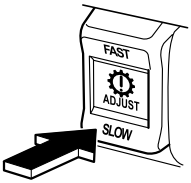
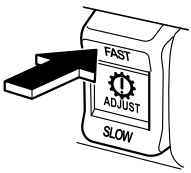


調整のしかた

① エンジンがかかっている状態で、パーキングブレーキレバーを引き、シフトレバーを“N”位置にします。

② AMT アジャストスイッチの“FAST”側または“SLOW”側を押します。クラッチにすべり感がある場合は、“FAST”側を押してください。クラッチのつなぎ感がきつい場合は、“SLOW”側を押してください。標準値を中心に± 4 段階、合計 9 段階の中から好みの位置を選択してください。

③ アジャストスイッチを押すと、“ピッ”と 1 回ブザーが鳴り、1 段階の調整が完了したことを知らせます。さらにもう 1 段階調整したい場合は、一度アジャストスイッチから手を離し、もう一度アジャストスイッチを押してください。“ピッ”と 1 回ブザーが鳴り、さらに 1 段階の調整が完了したことを知らせます。

状　況	操作スイッチと操作回数	
	SLOW 側	FAST 側
		
微調整したいとき	1 回	1 回
クラッチにすべり感がある場合	—	2 ～ 3 回
クラッチのつなぎ感がきつい場合	2 ～ 3 回	—

⚠ 注 意

・調整可能範囲内（± 4 段階）では十分に調整できない場合は、《日産販売会社》で初期調整位置の点検を受けてください。
・半クラッチ調整は、アイドリング状態で行ってください。
・AMT の初期調整は《日産販売会社》で行ってください。

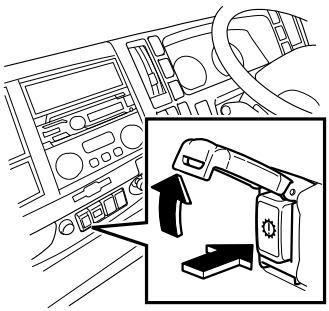
AMT の故障時

走行中 AMT 警告灯（橙または赤）が点灯したら安全な場所へ停車し、警告灯が消灯しない場合には最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。

AMT 警告灯★ → 4-51 ページ参照

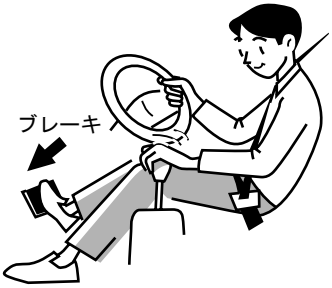
⚠ 注 意

・AMT 警告灯が点灯した場合、下記の状態になることがあります。
ごく低速での速度調整や、プラットフォーム着けができないなど、正常時の車両の動きと異なることがあります。周囲の状況に十分注意して運転を行い、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。
  - クリープ現象が発生しない
  - シフトアップ、シフトダウンが行われない
  - クラッチのつながるタイミングが正常時と比べ早い、または遅い
・AMT 車は押しがけやスターターモーターで車を動かすことはできません。エンストして再始動できないときはシフトレバーを“N”位置にし、シフトインジケーターが「N」を表示していることを確認して、安全な場所まで押して脱出してください。もし、「N」以外を表示している場合は、非常用スイッチを“ON”にしてシフトレバーを“N”位置にしてから安全な場所まで押して脱出してください。



AMT 非常用スイッチの使い方

AMT システムの電気系統に故障が発生した場合は、AMT 非常用スイッチを使用し、車両を安全な場所に移動させます。安全な場所に移動後、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。
通常は非常用スイッチを“OFF”にして、走行中は触れないでください。



① パーキングブレーキを確実に効かせ、ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込んだまま、スタータースイッチを“LOCK”位置にし、シフトレバーが“N”位置にあることを確認します。
② スタータースイッチを“ON”位置にします。

③ AMT 非常用スイッチのカバーを開けてスイッチを押し、AMT 警告灯（橙）が点滅していることを確認します。
④ ブレーキペダルをしっかり踏み込んだままエンジンを始動し、パーキングブレーキを解除し、シフトレバーを前進は“D”または“M”後退は“R”位置に操作します。シフトインジケーターに前進は「1」後退は「R」が表示されていることを確認してください。
⑤ ブレーキペダルを離し、アクセルペダルをゆっくり踏み込んで発進します。

注 意

・通常は、非常用スイッチのカバーを開けないでください。
・AMT 非常用スイッチは非常脱出用のスイッチです。通常は“OFF”にし、特に走行中は AMT 非常用スイッチを操作しないでください。
・非常用スイッチで安全な場所まで車両を移動したら、ただちに非常用スイッチを“OFF”にして、シフトレバーを“N”位置に戻し、カバーをしてください。
・AMT 非常用スイッチを“ON”にすると、AMT 警告灯（橙）が点滅します。
・シフトレバーが“N”位置以外のまま非常用スイッチを“ON”にした場合、車両が急に動き出すことがあります。非常用スイッチを“ON”にするときは、必ずブレーキペダルを踏んだまま行ってください。
・非常用スイッチを“ON”にした場合、シフトレバーが“N”位置以外でもエンジンを始動することができます。
ギヤが入っている状態でエンジンを始動すると、車両が急に動き出すおそれがありますのでエンジンを始動するときは、パーキングブレーキを確実に効かせ、ブレーキペダルを右足でしっかり踏んで行ってください。
・非常用スイッチを“ON”にした場合、シフトロック機能は動きません。ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを“N”から“D”または“R”位置に操作すると車両が急に動き出すおそれがあります。ブレーキペダルを右足でしっかりと踏み込み、シフトレバーを操作してください。

知 識

・非常用スイッチが“ON”のときシフトレバーの位置が“D”または“M”の場合、1 速以外に変速できません。

シフトロック機能について



発進するときは
ブレーキペダルを踏んでいないと“N”位置から他の位置に切り替えられません。必ずブレーキペダルを踏んだまま操作してください。

知 識

【シフトロック機能を正しく理解】
・シフトロック機能とは、AMT 車の誤操作を防止する安全のための機能です。正しく理解し、安全運転を心がけてください。

シフトレバーが“N”位置から他の位置へ切り替えられないときは
エンジン始動後、シフトレバーが“N”位置から他の位置へ切り替えられないときは、アドバイスに従って確認を行ってください。

アドバイス

・ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでいるか確認してください。
・ブレーキペダルを踏んでいないとシフトロック機能が働き“N”位置から他の位置に切り替えられません。

ヒルスタートアシスト（坂道発進補助装置）★

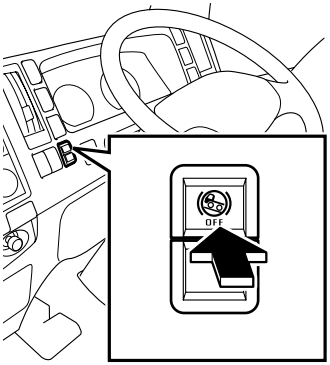
通常、フットブレーキは、ブレーキペダルを踏んでいるときだけブレーキ力を保持しますが、ヒルスタートアシストが作動すると停車時に踏み込んだブレーキ力をブレーキペダルから足を離しても保持し、車を一時的に停止させます。ブレーキペダルからアクセルペダルへの踏み替え操作や、パーキングブレーキ操作を軽減します。

⚠ 注 意

- 運転席を離れるときには必ずパーキングブレーキを確実に効かせてください。
- ヒルスタートアシスト作動中にスタータースイッチを“ACC”または“LOCK”位置にしたとき、またヒルスタートアシストOFFスイッチを押したり、ヒューズを抜くとブレーキの保持力が解除され坂道では車が下がります。
- ヒルスタートアシスト作動中に車が下がるときはブレーキペダルを増し踏みするか、パーキングブレーキを確実に効かせてください。
- 定積・勾配10%以上の条件で停車するときにはパーキングブレーキを確実に効かせてください。
- 停車時間が長くなるときにはパーキングブレーキを確実に効かせてください。
- ヒルスタートアシスト装置に異常を感じたらヒルスタートアシストOFFスイッチで解除してください。通常のブレーキの状態に戻ります。
- ヒルスタートアシスト作動中にパーキングブレーキレバーを引くとヒルスタートアシストは解除されます。
- ヒルスタートアシストが作動していてもブレーキペダルから足を離しているときはストップランプは点灯しません。
- エンジン停止中（アイドリングストップ付車は、アイドリングストップによるエンジン自動停止中を除く）はヒルスタートアシストは作動しません。
- 強めのブレーキやタイヤがロックして停車したときは、ヒルスタートアシストが一時的に作動しないこともありますが、そのときはパーキングブレーキを使用するか、そのままブレーキペダルを踏み続けて停車してください。

寒冷地での駐車について
→ 6-13 ページ参照

ヒルスタートアシスト OFF スイッチ



ヒルスタートアシストを使用しないときに押してください。スイッチを押すとヒルスタートアシストが解除されます。
もう一度押すとヒルスタートアシストが作動可能状態になります。

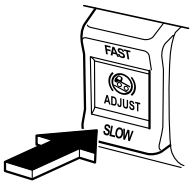
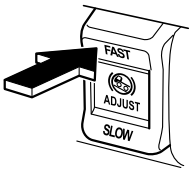
⚠ 注 意

・雪路や凍結路のような滑りやすい路面ではヒルスタートアシストを解除してください。このような路面でタイヤをロックさせた場合、ヒルスタートアシストが作動することがあり、タイヤがロックしたままになるおそれがあります。

アドバイス

・ヒルスタートアシストを解除すると通常のブレーキに戻ります。ブレーキペダルから足を離してもブレーキ力は保持されません。

ヒルスタートアシストアジャストスイッチ

状　況	操作スイッチと操作回数	
	SLOW 側	FAST 側
		
微調整したいとき	1～2回	1～2回
ブレーキの引きずり感があるとき	—	2～3回
坂道で車が下がりぎみなとき	2～3回	—
ブレーキを引きずっているとき	—	3～5回
坂道で車が下がるとき	3～5回	—

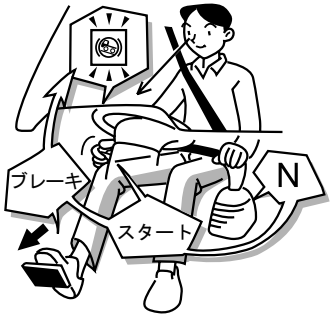
注 意

・ヒルスタートアシストアジャストスイッチを使ってブレーキ調整が効かないときは《日産販売会社》で調整を受けてください。

ヒルスタートアシストの使いかた

ヒルスタートアシスト
警告灯（橙）/ 表示灯（緑）





① スタースイッチを“ON”位置にします。このとき、ヒルスタートアシスト警告灯（橙）→ヒルスタートアシスト表示灯（緑）の順に点灯し、約３秒後に消灯することを確認してください。

ヒルスタートアシスト表示灯（緑）★
→ 4-57 ページ参照

② エンジンを始動します。

知 識

・アイドリングストップ付車はエンジン自動停止中もヒルスタートアシストが作動します。

③ パーキングブレーキを解除し、ブレーキペダルを約１秒以上しっかりと踏み込みます。このとき、ヒルスタートアシストが作動し、メーターパネル内のヒルスタートアシスト表示灯（緑）が点灯することを確認してください。
ヒルスタートアシスト OFF スイッチが“ON”の状態になっているとヒルスタートアシスト表示灯（緑）は点灯しません。

ヒルスタートアシスト OFF スイッチ
→ 4-123 ページ参照

④ パーキングブレーキレバーを引きます。このとき、ヒルスタートアシストが解除され、メーターパネル内のヒルスタートアシスト表示灯（緑）が消灯することを確認してください。

注 意

・ヒルスタートアシスト作動時にヒルスタートアシスト表示灯（緑）が点灯しないときはヒルスタートアシスト本体の異常が考えられます。ヒルスタートアシスト OFF スイッチを押してヒルスタートアシストを解除し、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。

・ヒルスタートアシスト警告灯（橙）が点灯したときやブザーが鳴り続けるときはヒルスタートアシスト本体の異常が考えられます。安全な場所に停車して点検・処置を行い、正常に戻らない場合はヒルスタートアシスト OFF スイッチを押してヒルスタートアシストを解除し、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。

ヒルスタートアシストの警報
→ 4-129 ページ参照

作動させるには

① 車を停車してください。

知 識

・シフトレバーの位置に関係なくヒルスタートアシストを作動させることができます。

② ブレーキペダルを約 1 秒以上しっかりと踏み込みます。このとき、ヒルスタートアシストが作動し、メーターパネル内のヒルスタートアシスト表示灯（緑）が点灯します。

注 意

・ヒルスタートアシストは、一時的に停車するための装置で、パーキングブレーキの代わりにはなりません。車から離れるときには、必ずパーキングブレーキを効かせてください。万一、ヒルスタートアシストを作動させたまま、ドアを開くとブザーが鳴り注意を呼びかけます。

・急な坂道では、ブレーキペダルの踏み込みが足りないと車が動きだすことがあります。さらに強くブレーキペダルを踏み込んでください。

・ヒルスタートアシストは、ブレーキペダルを踏んで約 1 秒後に作動します。この間は、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。

・ヒルスタートアシスト本体に異常がある場合はヒルスタートアシストを解除してただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

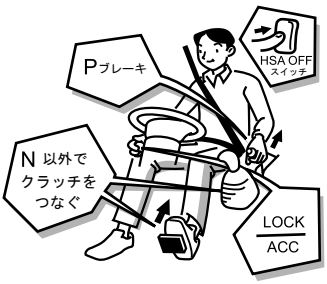
・強めのブレーキやタイヤがロックして停車したときは、ヒルスタートアシストが一時的に作動しないこともありますが、そのときはパーキングブレーキを使用するか、そのままブレーキペダルを踏み続けて停車してください。

ヒルスタートアシストの警報
→ 4-129 ページ参照

知 識

【こんな症状は、異常ではありません】

・ヒルスタートアシスト作動中にブレーキペダルから足を離したあと、ブレーキペダルやハンドルに振動を感じたり、作動音が聞こえる場合がありますが、これは車両が動き出さないようにブレーキ力の調整を行っているときの現象です。

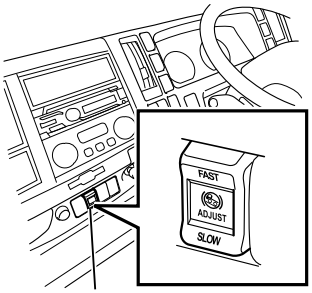


解除するには

ヒルスタートアシストは次のいずれかの場合に作動を解除し、ブレーキの作動を開放します。

・エンジン回転中にシフトレバーを“N”以外の位置にしてクラッチをつないだとき。
・パーキングブレーキレバーを引いたとき。
・ヒルスタートアシスト OFF スイッチを“ON”にしたとき。
・スタータースイッチを“ACC”または、“LOCK”位置にしたとき。

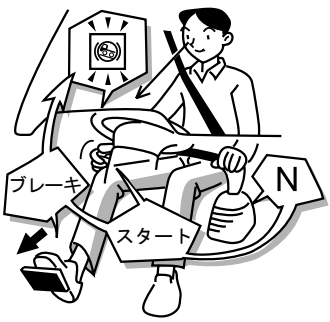
ヒルスタートアシストの調整



ヒルスタートアシスト
アジャストスイッチ

次のとき、ヒルスタートアシストの微調整を行ってください。

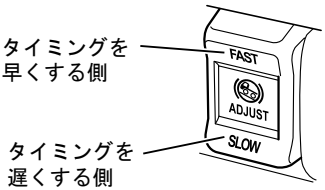
・発進時にブレーキの引きずり感があるとき。
・坂道で発進時に車が下がるとき。
・ブレーキの解除のタイミングが自分の希望と合わないとき。



調整のしかた

① パーキングブレーキレバーを引きシフトレバーが“N”位置にあることを確認して、エンジンを始動します。このとき、ヒルスタートアシスト OFF スイッチが“OFF”で、ヒルスタートアシストが作動可能な状態であることを確認してください。

② ブレーキペダルをしっかりと踏み込み、パーキングブレーキレバーを戻します。このとき、ヒルスタートアシスト表示灯（緑）が点灯することを確認し、クラッチペダルを踏み込みシフトレバーを“N”以外の位置に入れます。



③ 発進時のブレーキ解除のタイミングが遅くブレーキに引きずり感があるときはヒルスタートアシストアジャストスイッチの“FAST”側を押します。また、ブレーキ解除のタイミングが早く坂道で車が下がるときは“SLOW”側を押します。スイッチを 1 回押すごとにブザーが鳴ります。

④ クラッチペダルを踏み込みシフトレバーを“N”以外の位置にし、車を発進させ希望のタイミングに合うように手順③の操作を繰り返してください。

ヒルスタートアシストの初期調整

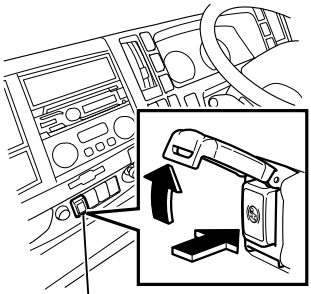
アドバイス

・故障警報中は調整できません。ヒルスタートアシスト OFF スイッチを押してヒルスタートアシストを解除し、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

ヒルスタートアシストの警報
→ 4-129 ページ参照

次のとき、ヒルスタートアシストの初期調整を行ってください。

・クラッチ交換や、クラッチペダルの遊び調整をしたとき。
・発進時のブレーキ解除のタイミングが大きくずれているとき。
・ヒルスタートアシストコントロールユニットを交換したとき。



ヒルスタートアシスト
リセットスイッチ

調整のしかた

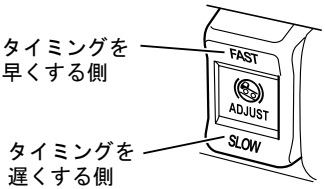
① パーキングブレーキレバーを引き、シフトレバーが“N”位置にあることを確認してエンジンを始動します。

② クラッチペダルを踏み込みシフトレバーを“2（2速）”に入れヒルスタートアシストリセット（ヒルスタートアシストRESET）スイッチを押します。このとき、“ピピッ、ピピッ”、というブザー音が鳴り、ヒルスタートアシスト警告灯（橙）が点灯します。

③ クラッチペダルを徐々に離し、エンジンの回転数がアイドリング回転数より30～50r/min位下がったとき、ヒルスタートアシストアジャスト（ヒルスタートアシストADJUST）スイッチの“FAST”側または“SLOW”側のどちらかを押します。このとき、ブザー音が鳴りやみます。

④ クラッチペダルを踏み込みシフトレバーを“N”位置にして、クラッチペダルをゆっくりと離します。

⑤ クラッチペダルを踏み込み、シフトレバーを“N”以外の位置にし、車を発進させ希望のタイミングに合うようにヒルスタートアシストアジャストスイッチで微調整を行ってください。



アドバイス

- 一連の操作はパーキングブレーキを確実に効かせて行ってください。
- シフトレバーを“N”位置にした後、クラッチペダルはゆっくりと離してください。
- クラッチペダルの遊び調整のあとは必ず、初期調整を行ってください。

ヒルスタートアシストの警報

次の場合、ヒルスタートアシスト警告灯（橙）が点灯し、ブザーが鳴り注意を呼びかけます。

内　容	ヒルスタートアシスト警告灯	ブザー	処　置
ヒルスタートアシストを効かせたまま、パーキングブレーキレバーを引かずにドアを開けたとき	点灯	“ピーピー”	パーキングブレーキレバーを引いてからドアを開けてください。
▽長時間警報 ヒルスタートアシストを効かせたままで停車したとき	点灯	“ピーピー”	パーキングブレーキレバーを引いて停車するか、ブレーキペダルを増し踏みしてください。
▽動き出し警報 ヒルスタートアシストを効かせたまま停車中に車が動きだしたとき	点灯	“ピーーー”	
▽スタースイッチ“OFF”警報 パーキングブレーキレバーを引かずにスタースイッチを“ACC”または“LOCK”位置にしたとき	消灯	“ピーピー”（最長 30 秒間作動します。）	パーキングブレーキレバーを引いてください。
▽故障警報 上記以外でヒルスタートアシスト警告灯やブザーが作動したとき	点灯	—（ヒルスタートアシスト非作動時） “ピーーー”（ヒルスタートアシスト作動時）	安全に車両を停車してヒルスタートアシスト OFF スイッチでヒルスタートアシストを解除してください。

⚠ 注 意

・故障警報が作動したときは、ただちに安全な場所に停車してパーキングブレーキを引き、スタースイッチを“LOCK”位置にしてください。再度スタースイッチを“ON”位置にしてもヒルスタートアシスト警告灯（橙）が点灯するときは、ヒルスタートアシスト本体の故障です。ヒルスタートアシスト OFF スイッチを押してヒルスタートアシストを解除し、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。

知 識

・ヒルスタートアシストを効かせたまま、パーキングブレーキレバーを引かずにドアを開けたとき、ブザーが鳴ります。
・寒冷地でギヤイン駐車をすると、ブザーが約 30 秒作動しますが異常ではありません。

アイドリングストップ★

アイドリングストップシステムは、長時間停車が予測される信号待ちや渋滞時に、キー操作することなく、運転者の自然な運転操作条件により、安全にエンジンを自動停止・始動させるシステムです。
このシステムによりアイドリング中のエンジン停止を行い、排気ガスの低減、アイドリング騒音の低下、燃料消費の削減を目的とした地球環境にやさしいシステムです。

注 意

・PTO（パワーテイクオフ）を使用する際は、アイドリングストップキャンセルスイッチを操作して、アイドリングストップを非作動状態にし、メーターパネル内のアイドリングストップ OFF 表示灯が点灯している事を確認してください。

作動条件について
次の条件がすべて満たされているとき、システムが作動可能状態となります。
・エンジンが十分に暖まっているとき
・バッテリー状態（充電量、電圧、バッテリーの温度など）が良好であるとき
・排出ガス浄化装置（DPF）が再生中でないとき
・PTO を使用していないとき
・バキューム警告灯が消灯しているとき

知 識

・バッテリーケーブルを取り付けた直後は、アイドリングストップシステムがバッテリー状態を認識するまでエンジンの自動停止を行いません。アイドリングストップシステムは、スタータースイッチを“LOCK”位置にした状態が 90 分以上継続することで、バッテリー状態を認識します。
・ターンシグナルスイッチやハザードスイッチを操作し、ターンシグナルランプ（方向指示器）が点滅しているときはエンジンの自動停止を行いません。
・強めのブレーキやタイヤをロックして停車したときは、エンジンの自動停止を行いません。

暖機運転について

アイドリングストップはエンジン冷却水温が、60℃以上 95℃未満で作動します。暖機スイッチなどで、完全暖機を行いたい場合は、アイドリングストップキャンセルスイッチを操作して、アイドリングストップを非作動状態にしてください。

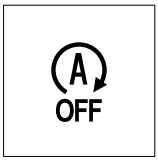
アドバイス

・お車から離れるときは、盗難防止のため、必ずキーを抜いてドアを施錠してください。

・アイドリングストップでエンジン停止のままお車を放置するとバッテリー上がりの原因になります。

エンジンを自動的に停止、再始動させるには

アイドリングストップ OFF 表示灯



マニュアルトランスミッション車

① スタータースイッチが“ON”位置にあるとき、メーターパネル内のアイドリングストップ OFF 表示灯が点灯または点滅していないことを確認してください。

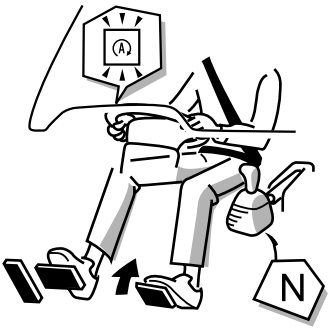
知 識

・アイドリングストップは、エンジン始動後、常時システム作動可能な状態になります。

② 10km/h 以上の速度で走行後、車を停止させます。

知 識

・強めのブレーキや、タイヤをロックして停止したときはエンジンの自動停止を行いません。



③ ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを“N”位置にし、クラッチペダルを離すと自動的にエンジンは停止し、アイドリングストップ表示灯が点灯します。

知 識

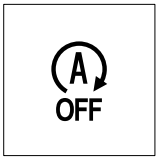
・アイドリングストップによるエンジン停止中に油圧警告灯が点灯する場合がありますが、エンジンが再始動すると消灯します。

④ エンジンを自動停止させた状態で、ブレーキペダルを踏んだままクラッチペダルをしっかり踏むとエンジンが再始動し、アイドリングストップ表示灯が消灯します。

アドバイス

・ハンドルを回したままでエンジンを停止すると、パワーステアリングのアシストが停止するため、ハンドルにキックバック（跳ね返し衝撃）が発生します。ハンドルを回したままのときは、クラッチを踏み続けエンジンが自動停止しないようにしてください。

アイドリングストップ OFF 表示灯

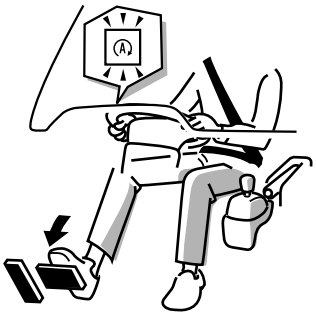


AMT 車

① スタースイッチが“ON”位置にあるとき、メーターパネル内のアイドリングストップ OFF 表示灯が点灯または点滅していないことを確認してください。

知 識

・アイドリングストップは、エンジン始動後、常時システム作動可能な状態になります。



② 10km/h 以上の速度で走行後、車を停止させます。ブレーキペダルを右足でしっかり踏み続けるとエンジンが自動停止し、アイドリングストップ表示灯が点灯します。

知 識

・アイドリングストップによるエンジン停止中に油圧警告灯が点灯する場合がありますが、エンジンが再始動すると消灯します。

③ エンジンを自動停止させた状態で、ブレーキペダルから足を離すとエンジンが再始動し、アイドリングストップ表示灯が消灯します。

アドバイス

・ハンドルを回したままでエンジンを停止すると、パワーステアリングのアシストが停止するため､ハンドルにキックバック（跳ね返し衝撃）が発生します。ハンドルを回したままのときは、パーキングブレーキを作動させるなどしてエンジンが自動停止しないようにしてください。

知 識

・次のような場合、ブレーキペダルから足を離さなくてもエンジンの自動始動を行います。

- シフトレバーを“N”または“R”位置にしたとき

【こんな症状は、異常ではありません】

・エンジン自動停止中にブレーキペダルから足を離したあと、プレーキペダルやハンドルに振動を感じたり、作動音が聞こえる場合がありますが、これは車両が動き出さないようにブレーキ力の調整を行っているときの現象です。

エンジン停止操作について

・エンジン自動停止前に発進操作を行うと、エンジン自動停止機能がキャンセルされます。再度エンジンの自動停止を行う場合は、車速 10km/h 以上で走行してください。
・エンジン自動停止前にターンシグナルスイッチやハザードスイッチを操作したり、車両が動いたりすると、エンジンの自動停止を中断することがあります。

エンジンが停止中のエアコンについて

・エアコン作動中にアイドリングストップによりエンジン自動停止したときは、ファンのみが作動します。エンジンが停止してから、約 1 分後にファンが止まります。
・ファン停止前でもドア（運転席または助手席、ダブルキャブ車は後席側を含む）を開けるとただちにファンを停止させます。

エンジン自動始動操作について

・エンジン自動停止直後に自動始動操作を行うと、スターターが作動しない場合があります。これはエンジン揺動中にスターターが作動すると、スターターやリングギヤにダメージを与えるため、確実にエンジンが停止する時間をとり、始動系装置の破損防止をしています。エンジンが確実に停止してから、再度エンジンの自動始動操作を行ってください。
・エンジン自動始動前に始動操作をやめると、エンジン自動始動機能が作動しません。この場合、再度エンジン始動操作を行ってエンジンを始動させてください。
・お車を安全にお使いいただくために、エンジンの始動が完了したことを確認してからシフトレバーを操作してください。エンジンの始動が完了する前にシフトレバーを操作した場合、エンジンの始動を中断します。

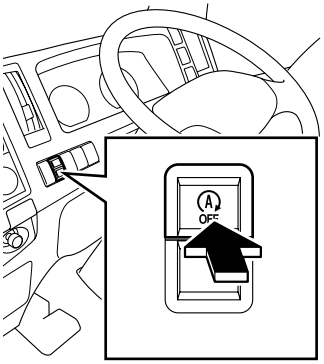
アイドリングストップの警告について

次の場合、アイドリングストップ表示灯、アイドリングストップ OFF 表示灯、警告ブザーでアイドリングストップの状態がわかります。

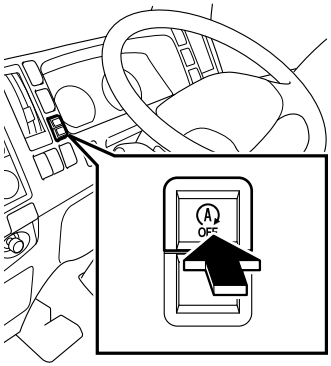
症状			原因	処置
表示灯	マルチディスプレイ表示	警告ブザー		
 点灯		“ピーー ー” （連続）	アイドリングストップによるエンジン自動停止中に、ドア（運転席または助手席、ダブルキャブ車は後席側を含む）を開けたとき	アイドリングストップによるエンジン自動停止中に 1 回でもドアを開けると、アイドリングストップによるエンジン自動始動は行いません。スタースイッチの操作でエンジンを再始動してください。お車を離れる場合はキーを抜いてください。
 点灯		“ピッピッピッ” （連続）	アイドリングストップで継続的に 5 分以上エンジンを停止したとき アイドリングストップによるエンジン自動停止中に、バッテリーの状態（充電量、電圧、バッテリーの温度など）が十分でなくなったとき	エンジン自動始動、またはスタースイッチを “ACC” または “LOCK” 位置に回してください。また、お車を離れる場合はキーを抜いてください。
 点滅	—	—	アイドリングストップの異常を検出したとき	アイドリングストップキャンセルスイッチを操作して非作動状態にし、ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

アイドリングストップキャンセルスイッチ

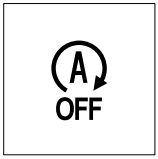
標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



アイドリングストップ OFF 表示灯



エンジン回転中にスイッチを押すと、アイドリングストップが解除されます。同時に、メーター内のアイドリングストップ OFF 表示灯が点灯します。
もう一度押すと、アイドリングストップは復帰し、アイドリングストップ OFF 表示灯が消灯します。

知 識

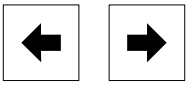
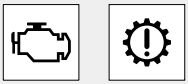
・アイドリングストップによるエンジン自動停止中にアイドリングストップキャンセルスイッチを押すと、アイドリングストップシステムが解除されます。
このため、クラッチペダルやブレーキペダルを操作しても、アイドリングストップシステムによるエンジンの再始動は行われません。スタータースイッチを“START”位置にしてエンジンを始動してください。

エンジンを自動的に停止、再始動させるには → 4-131 ページ参照
エンジンの始動方法 → 4-4 ページ参照

エンジンが自動的に停止しないとき

次の状況のときにエンジン自動停止操作を行っても、エンジンは自動停止しません。

エンジン停止操作について
→ 4-134 ページ参照

状　況	内　容
エンジン冷却水温が低いまたは高すぎるとき 	エンジン冷却水温が 60℃未満、95℃以上のときには、エンジンの自動停止は行いません。
エンジン回転が高いとき	エンジン回転が 1,200r/min 以上のときは、エンジンの自動停止は行いません。
PTO を使用しているとき	PTO スイッチが“ON”のときは、エンジンの自動停止を行いません。
バキューム警告灯が点灯したとき 	ブレーキ倍力装置のバキュームが不足した場合は、エンジンの自動停止は行いません。
ブレーキペダルをしっかりと踏み続けていないとき（AMT 車）	車を停止させたときに、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けていないとエンジンの自動停止を行いません。
ターンシグナルランプが点滅しているとき 	ターンシグナルスイッチまたはハザードスイッチを操作して、ターンシグナルランプが点滅しているときは、エンジンの自動停止は行いません。
エンジン制御警告灯や AMT 警告灯が点灯したとき 	エンジンの自動停止を行わない場合があります。 エンジンや AMT など、車両システムの故障が考えられますので、ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。 “AMT の故障時”については 4-118 ページを参照してください。
バッテリーの状態が十分でないとき	バッテリー状態（充電量、電圧、バッテリーの温度など）をモニターし、バッテリー状態が十分でないとシステムが判断したときには、エンジンを自動停止させません。
エンジン始動後、車速 10km/h 以上で走行していないとき	エンジン始動後の走行で、車速が 10km/h に達していないときは、エンジンの自動停止を行いません。
高負荷な運転直後のとき	坂道での登坂走行など、高負荷な運転を行った場合には、一定時間経過しないとエンジンの自動停止を行わない場合があります。
坂道で停車したとき（AMT 車）	発進時の不意な前進や後進を防ぐため、急な坂道ではエンジンの自動停止を行いません。

状 況	内 容
DPF が再生を行っているとき  	DPF の再生を優先し、エンジンの自動停止を行いません。

知 識

- 表の状況から復帰しても再度 10km/h 以上で走行しないとエンジンの自動停止を行いません。
- DPF の再生後は、およそ 10 ～ 15 分程度経過するまで、エンジンの自動停止を行いません。
- バッテリー交換などでバッテリー端子の脱着を行った後は、アイドリングストップシステムがバッテリー状態を認識するまで、エンジンの自動停止を行いません。

バッテリー → 7-125 ページ参照

A B S

急制動時や雪路などの滑りやすい路面での制動時に、車輪がロックし、スリップすることがあります。ABS（アンチロックブレーキシステム）は、制動時の車輪のスリップ状況を検知して車輪のロックを防ぎ、車両の方向安定性、操縦安定性を確保するための装置です。ABS は決して万能装置ではなく、限界を超えた走行および停止を可能とするものではありません。安全運転を心掛けてください。

⚠ 注 意

- ABS 装着車であっても、滑りやすい路面での制動距離は、通常の乾燥舗装路に比べて長くなります。また、深い雪・砂利道などでは ABS が作動すると、制動距離が若干延びる場合もあります。したがって、路面の状態とタイヤの状態（タイヤの種類および摩耗状態など）を常に考慮し、安全運転を守り、車間距離を適正に保って走行してください。
- ABS は、無理な運転を補うものではありません。安全な速度で運転してください。
- 指定サイズで同一銘柄および同一パターン（溝模様）のタイヤ（冬用タイヤも含む）を全輪に装着してください。異なったタイヤを装着した場合、制動距離がのびたり、車両の操縦安定性が悪くなり大変危険です。
- 急制動（ABS が作動しているとき）のハンドル操作感覚はブレーキをかけていないときとは少し異なります。ハンドル操作には十分注意してください。

アドバイス

・砂地やぬかるみを走行した場合、ブレーキや ABS センサーに悪影響をおよぼすおそれがあります。洗車を行い泥などの付着物を除去してください。
・洗車時は ABS 機器類（センサーおよびアクチュエーター類）に水がかからないように、処理をしてから洗車してください。特に高圧洗浄機を使用する場合は、ABS 機器およびハーネスコネクターに直接水がかからないように注意してください。

知 識

・ABS は Anti lock Brake System（アンチロックブレーキシステム）の略です。

【こんな症状は、異常ではありません】

・エンジン始動後の発進直後、車両後方またはキャブの下側よりモーター音が聞こえることがありますが、これは ABS の作動をチェックしている音です。また、このとき、ブレーキペダルを踏んでいると振動を感じることがあります。
・ABS が作動しているときにはブレーキペダルやハンドルに振動を感じたり、作動音がしたりしますが、これは ABS が適切に作用しているときの現象です。
・排気ブレーキの作動中に、ABS が作動すると排気ブレーキが解除されることがあります。
・旋回中や段差を乗り越すときにブレーキをかけると ABS が作動しやすくなりますが、これは内側の車輪または段差を乗り越えた車輪がロックしやすくなるためです。
・ABS は発進直後、車速が約 10km/h になるまで作動しません。また、車速が約 5km/h まで下がると作動を停止します。

ABS の作動確認と作動

ABS 警告灯



ABS の作動確認

スタータースイッチを“ON”位置にすると ABS 警告灯が点灯し、約 3 秒後に消灯します。消灯すれば ABS は正常です。

ABS の作動

ABS が作動すると、ブレーキペダルやハンドルに若干の振動と、ABS 機器から作動音などが発生します。

知 識

・ABS 警告灯が下記の状態のときは ABS の故障が考えられます。最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。
  - 運転中に ABS 警告灯が点灯したとき。
  - スタータースイッチを“ON”位置にしても点灯しないとき。
・ABS に異常が発生しても通常のブレーキとしての性能は確保されています。このとき ABS は作動しません。

ABS 警告灯 → 4-44 ページ参照

ABS 装着車の運転上の注意

ABS は決して万能装置ではなく、限界を超えた走行および停止を可能とするものではありません。安全運転を心掛けてください。

⚠ 注 意

・急制動時は、ABS が効果を発揮できるようブレーキペダルを強く踏み続けてください。

・急制動時はポンピングブレーキ（ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏む）をしないでください。ポンピングブレーキをすると、制動距離が長くなります。

・ABS 装着車であっても、滑りやすい路面での制動距離は、通常の乾燥舗装路に比べて長くなります。また、下記のような路面や状況で ABS が作動した場合には ABS がついていない車両に比べて制動距離が若干長くなる場合があります。したがって、路面の状態とタイヤの状態（タイヤの種類・摩耗状態）を常に考慮して、安全運転を守り、車間距離を適正に保って走行してください。

- 砂利道、深い雪道、深雪路を走行している時
- タイヤチェーンを装着している時
- 道路の継ぎ目や、キャッツアイなどの段差を乗り越える時
- 凸凹道や石畳、軌道内を走行している時
- 鉄板、マンホールのふたの上を走行している時

・ABS は車両の発進、加速、旋回など制動時以外で生じる車輪のスリップには働きません。また、非常に滑りやすい凍結路などでは、タイヤのグリップ力が低下しハンドルが適正に切れず、車両が不安定となることがあります。常に路面およびタイヤの状態にあった安全速度を守って走行し、急ブレーキを避けるようにしてください。

・非常に滑りやすい凍結した路面などは、強いエンジンブレーキを働かせると、駆動輪がロックして車両が不安定になることがあります（ABS はエンジンブレーキによるロックを防ぐことはできません）。このようなとき、クラッチを切る（マニュアルトランスミッション車）かシフトレバーを“N”位置にし、駆動輪へのエンジンブレーキの作用を一度断った後、適正なレバー位置にして走行してください。

・ABS が作動すると、ブレーキペダルやハンドルに若干の振動（とくに、左右輪の路面状態が異なる場合）および取られを感じることがあります。また、ABS 機器から作動音が発生します。これらは、異常ではありませんので、あわてずに適正なハンドル操作を行ってください。

制動力アシスト機能★

ブレーキフルード圧を加圧し、必要な制動力を確保する装置です。作動する条件により２つの機能があります。制動力アシスト機能は決して万能装置ではなく、限界を超えて走行および停止を可能にするものではありません。安全運転を心掛けてください。

失陥助成機能
ブレーキ倍力装置の機能が低下したときにブレーキフルード圧を加圧し、必要な制動力を確保する機能です。

高 G 助勢機能★
急ブレーキ時や積載時などブレーキ倍力装置の倍力限界を超えた高い制動力が必要なときにブレーキフルード圧を加圧し、必要な制動力を確保する機能です。

知 識

【こんな症状は、異常ではありません】
・制動力アシスト機能が作動しているときにはブレーキペダルやハンドルに振動を感じたり、作動音がしたりしますが、これは制動力アシスト機能が適切に作用しているときの現象です。

E B D

EBD（電子制御制動力配分）とは、ABS 装置を利用して、積載状態の変化や減速度による荷重移動に応じて前後輪の制動力配分を適切にコントロールし、後輪の早期ロックを防止する機能です。

注 意

・EBD 機能に異常が発生した場合、ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯します。
・EBD 機能に異常が発生した場合、後輪がロックしやすくなります。ただちに《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。

知 識

・EBD は Electronic Braking force Distribution（電子制御制動力配分）の略です。
【こんな症状は、異常ではありません】
・EBD が作動するとブレーキペダルに“**コツン**”と動きを感じたり、ABS 作動時と似た音が聞こえることがあります。

TCS（トラクションコントロールシステム）

TCS（トラクションコントロールシステム）とは、雪路などの滑りやすい路面を走行しているときに、駆動輪の無駄な空転を防ぎ車両の安定性を確保するための装置です。エンジンを始動すると自動的に TCS（トラクションコントロールシステム）装置は作動可能な状態になります。VDC OFF スイッチを使用して TCS（トラクションコントロールシステム）装置を解除させることもできます。

⚠ 注 意

- TCS（トラクションコントロールシステム）が作動すると VDC 警告灯が点滅します。このときの路面の状態はとても滑り易くなっています。無理な運転はせず、カーブなどの手前では十分速度を落として注意深く運転してください。
- TCS（トラクションコントロールシステム）装着車であっても雪路、凍結路等を走るときは、タイヤチェーンや冬用タイヤを装着して十分注意して運転してください。
- TCS（トラクションコントロールシステム）は発進性能を著しく向上させる装置ではありません。凍結した坂道などでの発進時には、アクセルペダルの操作を慎重に行ってください。
- タイヤチェーン装着時は､凍結した坂道などで TCS（トラクションコントロールシステム）装置を解除したほうが発進しやすい場合があります。ただし、安定性は悪くなりますので十分注意してください。

知 識

【こんな症状は、異常ではありません】

- 滑りやすい路面での発進時や加速時に、わずかな振動や作動音が聞こえることがありますが、これは TCS（トラクションコントロールシステム）が作動している音です。
- エンジン回転が急に下がることがありますが TCS（トラクションコントロールシステム）装置が作動しているためです。
- 車検時などで、スピードテスターおよびブレーキテスターなどを使用した車両検査時に、TCS（トラクションコントロールシステム）が作動して検査できない場合があります。VDC OFF スイッチを押して、TCS（トラクションコントロールシステム）装置を解除してください。

VDC OFF スイッチ →4-147 ページ参照

TCS（トラクションコントロールシステム）装着車の運転上の注意

TCS（トラクションコントロールシステム）は決して万能装置ではなく、限界を超えた走行を可能とするものではありません。安全運転を心掛けてください。

⚠ 注 意

- TCS（トラクションコントロールシステム）装着車は、滑りやすい路面において非装着車よりも発進および加速性能などが向上しますが、タイヤのグリップ力があがるわけではありません。また、滑りやすい凍結路などではタイヤのグリップ力が低下し、ハンドルが適正に切れず、車両が不安定となることがあります。常に路面およびタイヤの状態にあった安全速度を守って走行し、スピードの出し過ぎには十分注意してください。
- TCS（トラクションコントロールシステム）を装備していても、アクセル、クラッチ（マニュアルトランスミッション車）、ハンドルの急な操作は避けてください。特に滑りやすい路面での発進は、TCS（トラクションコントロールシステム）を装備していない場合と同様に静かに発進してください。

知 識

- タイヤを多少スリップさせながらでもエンジンの回転数を上げて滑りやすい長い坂道を上るときや深雪路やぬかるみから脱出したいときは VDC OFF スイッチを押して TCS（トラクションコントロールシステム）システムを停止することができます。

VDC OFF スイッチ　→ 4-147 ページ参照

VDC

VDC はエンジン出力の抑制と必要な車輪のブレーキを作動させることで、滑りやすい路面での発進時や加速時のホイールスピンおよび走行時の横滑りを抑えて駆動力を維持し、車両安定性を向上させます。またブザーおよび表示灯で注意を喚起して、運転者が車両を安定した状態に回復させる手助けをします。VDC には、運転中の車両状態の急激な変化を検出するさまざまなセンサーがあります。VDC に含まれている TCS（トラクションコントロールシステム）は、始動時または加速時にホイールスピンを抑制します。VDC は、エンジン始動時に自動的に作動します。ただし、VDC OFF スイッチを使用することにより、VDC を停止または TCS（トラクションコントロールシステム）の機能のみを停止することができます。

⚠ 警 告

- 下記の事項を行う場合は特別な処置が必要になる場合がありますので、《日産販売会社》にご相談ください。正しい処置をしないで運転された場合、VDC が正常に作動しなかったり、誤作動したりするおそれがあります。またシステムが故障と判断してしまうおそれもあります。
  - ハンドル、コンビネーションスイッチ、ステアリングセンサー、ステアリングユニットを交換する場合
  - タイヤのサイズを変更する場合
  - ヨーレイトセンサーを交換する場合（移設禁止）
  - 前後タイヤのサイズを変更する場合（前後異径タイヤにする場合）
  - コントロールユニットを交換する場合
- 指定サイズで同一銘柄および同一パターン（溝模様）のタイヤ（冬用タイヤも含む）を全輪に装着してください。異なったタイヤや、偏摩耗したタイヤを装着した場合は VDC が正しく作動しない場合があります。
- サスペンション関連部品、ブレーキ関連部品やエンジン関連部品を改造したり、《日産純正部品》以外の部品と交換すると VDC は正しく作動しない場合があります。
- サスペンション、タイヤ、ブレーキの関連部品にかなりの摩耗や劣化がある場合、VDC 警告灯が点灯することがあります。また、VDC が正しく機能しない場合があります。

知 識

・VDC はビークルダイナミクスコントロールの略です。

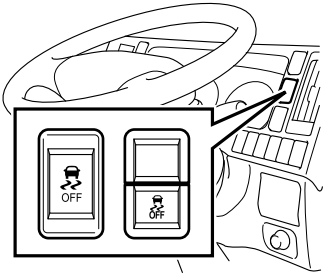
【こんな症状は、異常ではありません】

・エンジン始動後にモーター音または、バルブの作動音が聞こえることがありますが、これは ABS、VDC/TCS（トラクションコントロールシステム）の機能をチェックしている音です。

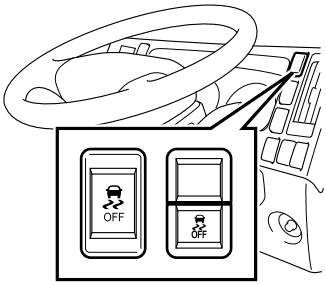
・VDC は、発進直後、車速が約 15km/h になるまで作動しません。

VDC OFF スイッチ

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



トラクションコントロール OFF 表示灯



TCS（トラクションコントロールシステム）装置を解除するとき

エンジン始動後、VDC 装置が作動可能な状態のとき、VDC OFF スイッチを約 1 秒間押すと TCS（トラクションコントロールシステム）装置が解除され、メーター内のトラクションコントロール OFF 表示灯が点灯します。 スイッチをもう一度約 1 秒間押すと、TCS（トラクションコントロールシステム）装置は復帰します。

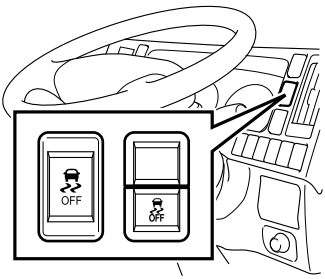
アドバイス

- TCS（トラクションコントロールシステム）装置を解除すると TCS（トラクションコントロールシステム）装置が作動しない状態になりますので、滑り易い路面では十分に注意してください。
- 通常走行時は、必ず TCS（トラクションコントロールシステム）機能を作動状態にしておいてください。
- TCS（トラクションコントロールシステム）装置を解除した場合でも、部分的にブレーキ制御が作動します。ブレーキ作動中に VDC 警告灯が点滅します。

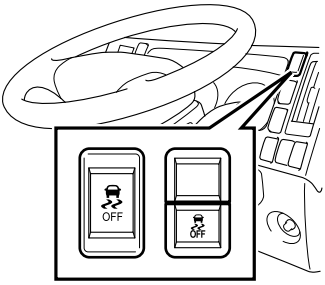
知 識

- TCS（トラクションコントロールシステム）装置を解除した状態で一度エンジンを停止させ、再びエンジンを始動すると TCS（トラクションコントロールシステム）装置は自動的に作動可能な状態になります。

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



VDC OFF 表示灯



VDC 装置を解除するとき

エンジン始動後、VDC 装置が作動可能な状態のとき、VDC OFF スイッチを約 5 秒間押すと VDC 装置が解除され、メーター内の VDC OFF 表示灯が点灯します。 スイッチをもう一度約 1 秒間押すと、VDC 装置は復帰します。

アドバイス

- VDC 装置を解除すると VDC 装置が作動しない状態になりますので、滑り易い路面では十分に注意してください。
- 通常走行時は、必ず VDC 機能を作動状態にしておいてください。
- VDC 装置を解除すると、TCS（トラクションコントロールシステム）装置も解除されるため、滑り易い路面では十分に注意してください。

知 識

- VDC 装置を解除した状態で一度エンジンを停止させ、再びエンジンを始動すると VDC 装置は自動的に作動可能な状態になります。

VDC の作動確認、作動、異常

VDC 警告灯



トラクションコントロール OFF 表示灯



VDC OFF 表示灯



VDC の作動確認

スタータースイッチを“ON”位置にすると VDC 警告灯、トラクションコントロール OFF 表示灯および VDC OFF 表示灯が点灯し、約３秒後に消灯すれば正常です。

VDC の作動

VDC が作動しているときに VDC 警告灯（橙）が点滅し、ブザー“ピッピッピッ”が鳴ります。このとき、ABS 機器からモーター音が発生します。

VDC の異常

VDC 警告灯が下記の状態のとき、VDC の故障が考えられます。最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

- 運転中、旋回時や滑りやすい路面以外で VDC 警告灯（橙）が点滅しつづけるとき。
- 運転中に VDC OFF 表示灯およびトラクションコントロール OFF 表示灯が点灯したとき。
- スタータースイッチを“ON”位置にしても VDC 警告灯（橙）、VDC OFF 表示灯およびトラクションコントロール OFF 表示灯が点灯しないとき。

知 識

- VDC に異常が発生しても通常の走行には支障ありません。このとき VDC は作動しません。

VDC 装着車の運転上の注意

VDC は万能装置ではなく、限界を超えた走行を可能とするものではありません。スピードの出し過ぎや急なハンドル操作などしないよう、常に安全運転を心掛けてください。

⚠ 警 告

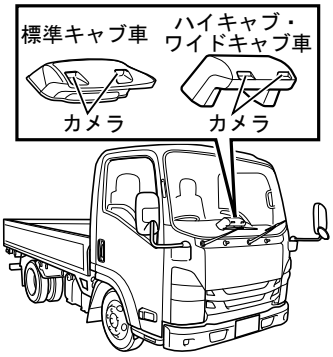
・VDC が装着されていることで過信せず、常に安全運転を心掛けて走行してください
・次のような場合、VDC の効果が十分に得られない場合があります。
  - 非常に滑りやすい路面
  - 過積載や積荷の極端な偏り
・VDC 装着車であっても雪路、凍結路等を走行するときは、タイヤチェーンや冬用タイヤを装着して十分注意して運転してください。
・スペアタイヤやタイヤチェーンを装着したときは、VDC が正しく作動しない場合があります。

⚠ 注 意

・警報（ブザー）が鳴っているときは、VDC が作動して車両が不安定な状態となっておりますので特に慎重な運転をしてください。
・VDC が作動したとき、運転者の操作感覚に合わない場合があります。また、実際に VDC の作動状態になり VDC が作動しても、運転者の感覚によっては VDC の作動介入が早いと感じられる場合もあります。

LDW（車線逸脱警報）

走行中に車両が車線から逸脱するとシステムが感知し、警報音とマルチディスプレイ表示、LDW（車線逸脱警報）警告灯の点滅により注意を促す装置です。
本装置は車速が約 60km/h 以上で作動します。



知 識

・カメラは、ダッシュボードの上に取り付けられています。

⚠ 警 告

・LDW（車線逸脱警報）は車線内の走行を支援することを目的とし、前方不注意の補助や、手放し運転を行うための装置ではありません。周囲の状況に応じてハンドル操作を行い、安全運転を心がけてください。

・次のような場合、車線を正確に認識できないためシステムが正常に作動しないことがあります。

- 車線がかすれたり汚れたりしているとき
- 雨、雪、霧、逆光のとき
- 路面補修の消し残り線、影、残雪、雨のたまったわだちなど、車線と紛らわしい線があるときや、雨あがりなどで路面が光っているとき
- 2本以上の車線が隣接しているとき
- 車線の幅が狭いときや広いとき
- 分岐路やインター出入り口、急なカーブ路を走行するとき
- 工事による車線規制により車線をまたいで走行するときや仮設の車線を走行するとき
- うねった道路や荒れた道路を走行するとき
- 高速道路などの本線（走行車線、追い越し車線）以外の車線を走行するとき
- 車線をまたぐ速度が遅いとき
- ヘッドライトのレンズ汚れなどにより照射が弱いときや光軸がずれているとき
- 急激な明るさの変化が連続するとき
- 荷物が片寄って積載された状態のときや、タイヤ空気圧の調整不良により車両が著しく傾いているとき

注 意

・システムの故障や誤作動を防ぐため、次の点をお守りください。
- フロントガラスはいつもきれいにしておいてください。キズやヒビがあったり、雨滴や結露、氷雪などが付着すると、機能が低下する場合があります。
- フロントガラス（内側）の清掃をするときは、カメラを紙・ビニール袋・マスキングテープなどで覆ってください。このとき、かぶせるものがカメラのレンズ部に触れないようにしてください。
- フロントガラスが曇ったら、ヒーターやエアコンを使用して曇りを取ってください。
- ワイパーの作動状況点検時に、ふき残しがある場合にはワイパーブレードを交換してください。ふき残しがあると前方の検知が安定せず、LDW（車線逸脱警報）が正常に作動しない可能性があります。
- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- カメラの取り付け位置を変更したり、取り外したり分解しないでください。取り外した場合は《日産販売会社》で点検・修理を受けてください。
- カメラ下部の排熱口をふさがないでください。
- ダッシュボードの上、カメラの正面、カメラの上に物を置かないでください。カメラの破損やカメラの作動停止、フロントガラスへの物体映り込みによる誤認識につながる恐れがあります。
- カメラのレンズ前のフロントガラスにシールなどを貼らないでください。
- カメラのレンズを汚したり傷をつけないでください。
- カメラに液体をかけないでください。
- カメラのレンズは清掃しないでください。
- フロントガラスには、ガラスコーティング剤を使用しないでください。

・《日産純正部品》以外のフロントガラスに交換しないでください。《日産純正部品》以外のフロントガラスに交換すると、システムが正常に作動しなくなる場合があります。

・フロントガラスを修理・交換するときは、最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。

車内の手入れ → 7-138 ページ参照

知 識

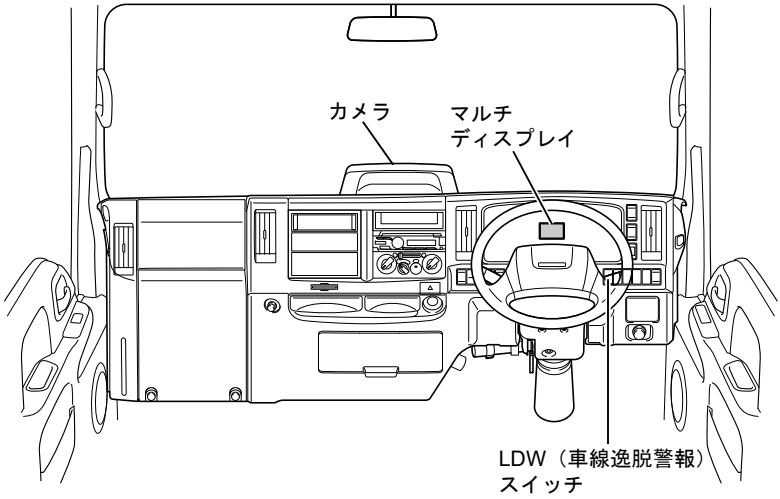
・LDW（車線逸脱警報）は、エンジン始動後、約 10 秒間は作動しません。

【マニュアルトランスミッション車】

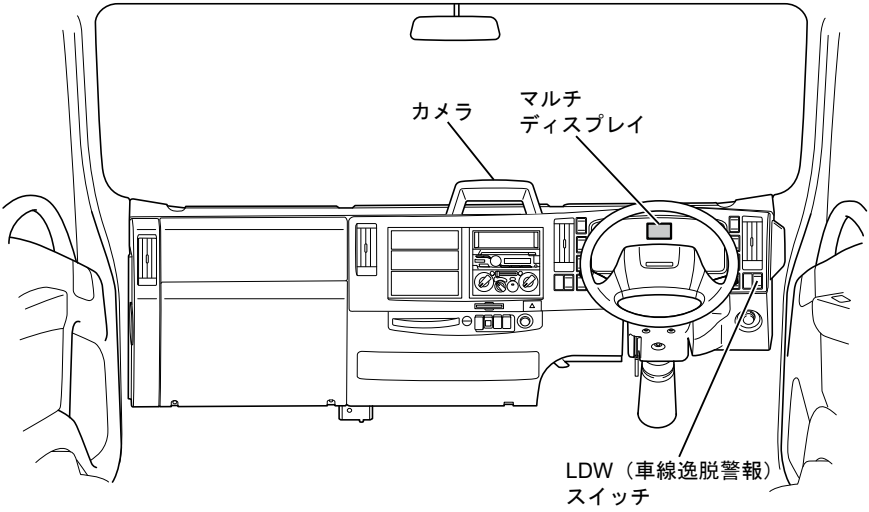
・エンジン回転が極端に下がると、機能が一時的に停止することがあります。停止後数秒経過すると機能が復帰します。

関連装置配置図

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



LDW（車線逸脱警報）のマルチディスプレイ表示内容

LDW（車線逸脱警報）は状況に応じ、以下の表示がマルチディスプレイに表示されます。

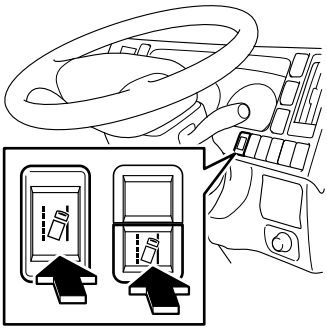
表示名	マルチディスプレイ表示（表示エリア 3）	表示内容
LDW（車線逸脱警報）“OFF”		LDW（車線逸脱警報）スイッチで LDW（車線逸脱警報）の機能を停止させたとき
LDW（車線逸脱警報）“ON”	  ※	LDW（車線逸脱警報）システムが作動しているとき
警報表示	  ※	LDW（車線逸脱警報）システムが車線逸脱を感知して警報を行ったとき
車線認識不能	  ※	カメラが車線を認識できないときまたは車速が約 60km/h 以下のとき

※：先行車発進お知らせが“ON”の場合の表示です。

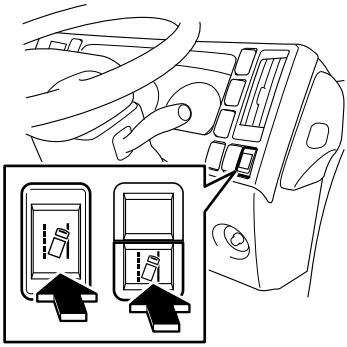
マルチディスプレイ → 4-16 ページ参照
先行車発進お知らせ → 4-185 ページ参照

LDW（車線逸脱警報）スイッチ

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



LDW（車線逸脱警報）の警報が鳴るタイミングを変更するときや、LDW（車線逸脱警報）の機能を停止させるときに使用します。
LDW（車線逸脱警報）スイッチを押すごとに、警報タイミング「標準」→警報タイミング「遅い」→「システムの停止」→警報タイミング「標準」の順に切り替わります。LDW（車線逸脱警報）の機能を停止させると、LDW（車線逸脱警報）警告灯（橙）が点灯します。

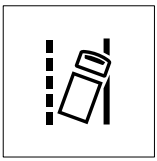
警報タイミング	マルチディスプレイ表示（表示エリア 3）	LDW（車線逸脱警報）警告灯	警報タイミングの目安
標準		消灯	左右どちらかの車線を踏むと警報音が鳴ります
遅い		消灯	左右どちらかの車線を越えると警報音が鳴ります
システムの停止		点灯	—

知 識

- 警報タイミング「遅い」または「標準」を選択した状態でエンジンを停止させると、警報タイミングはエンジン停止前の状態を維持します。
- LDW（車線逸脱警報）の機能を停止させた状態で一度エンジンを停止させ、再びエンジンを始動すると LDW（車線逸脱警報）は自動的に警報タイミング「標準」で作動可能な状態になります。

作動確認

LDW（車線逸脱警報）警告灯



スタータースイッチを“ON”位置にすると LDW（車線逸脱警報）警告灯（橙）が点灯し、エンジンが始動して約 10 秒後に消灯すれば正常です。LDW（車線逸脱警報）が作動可能な状態になると、マルチディスプレイの表示エリア 3 に「LDW（車線逸脱警報）“ON”」を表示します。

マルチディスプレイ → 4-16 ページ参照

LDW（車線逸脱警報）警告灯
→ 4-45 ページ参照

警報について

LDW（車線逸脱警報）システムが車線逸脱を感知すると、マルチディスプレイ表示と警報音でお知らせします。

警報タイミング	マルチディスプレイ表示（表示エリア 3）	LDW（車線逸脱警報）警告灯	警報音	状　況
標準		点滅	“ピピピピピ…”（連続音）	右側の車線を踏んだとき警報音が鳴ります。
		点滅	“ピピピピピ…”（連続音）	左側の車線を踏んだとき警報音が鳴ります。
遅い		点滅	“ピピピピピ…”（連続音）	右側の車線を越えたとき警報音が鳴ります。
		点滅	“ピピピピピ…”（連続音）	左側の車線を越えたとき警報音が鳴ります。

知 識

・ターンシグナルスイッチを操作せずに車線変更すると警報音が鳴ります。
・炎天下に駐車したときは、走行開始後しばらく LDW（車線逸脱警報）が作動しない場合がありますが異常ではありません。カメラ周辺の温度が正常な温度になると機能が復帰します。
・LDW（車線逸脱警報）が作動したあとは、機能が一時的に停止します。停止後数秒経過すると機能が復帰します。
・次の場合、警報を一時的に解除します。
  - ターンシグナルスイッチを操作したとき
  - 車線変更に相当する操舵力でハンドルを操作したとき
  - 急カーブを走行するとき
  - 車速が約 60km/h 未満になったとき
  - 走行中、車線が認識できなくなったとき
  - LDW（車線逸脱警報）が出た直後（警報が出たあと数秒後は機能を停止します）

LDW（車線逸脱警報）の故障時

異常時には以下の表示がマルチディスプレイに表示されます。このとき、LDW（車線逸脱警報）は作動しません。

表示名	マルチディスプレイ表示	表示内容	処置
カメラ一時停止		カメラのレンズまたはフロントガラス（内側または外側）が汚れているとき	フロントガラス（内側または外側）を清掃してください。
		カメラの前方が物体に遮られている	遮蔽している物を取り除いてください。
		カメラが高温もしくは低温である	カメラが使用可能な温度に到達すると復帰します。
走行支援システム故障カメラ		システムが故障したとき	最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

知 識

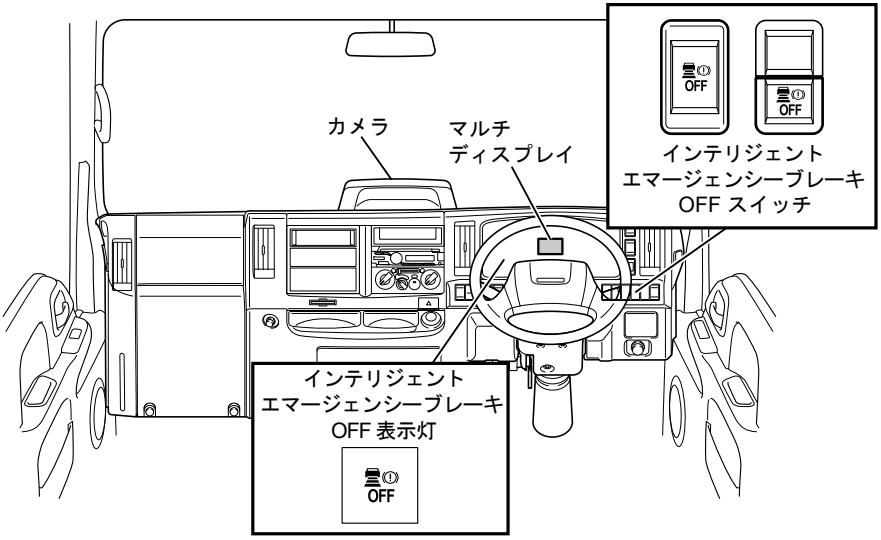
・雪道走行時には、着雪によりマルチディスプレイに「カメラ一時停止」が表示されることがありますが故障ではありません。
・以下の場合、カメラが一時的に停止していても「カメラ一時停止」は表示されない場合があります
  - 車速が 15km/h 以下のとき
  - 車速 15km/h 以上で雨・雪等による視界不良により対象物が認識しにくい場合

インテリジェント エマージェンシーブレーキ

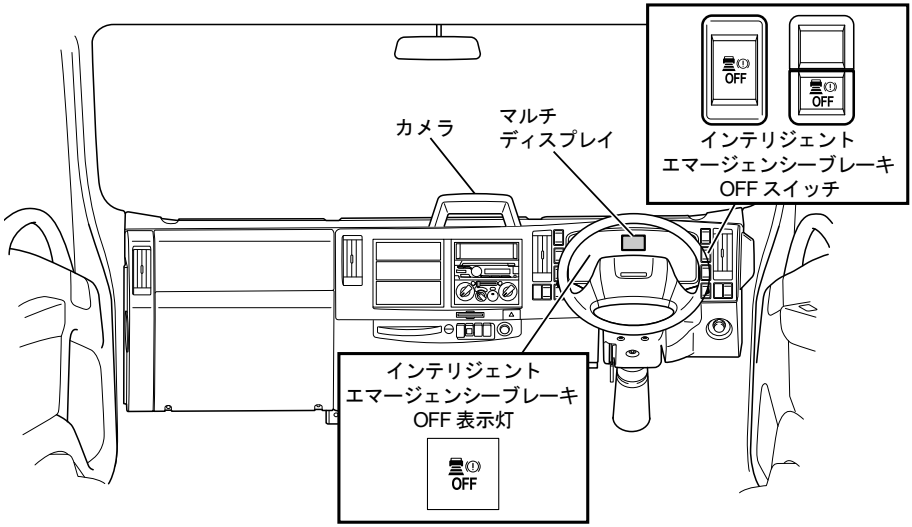
本装置は、カメラにより追突を避けられない物体、主に車両を前方に検知した場合に、自動的にブレーキを作動させ衝突時の被害を軽減する装置です。

関連装置配置図

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



⚠ 警 告

・インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムの限界

- インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムを過信しないでください。運転するときは常に周囲の状況に注意し安全運転を行ってください。

・安全にお使いいただくために

- 積荷がかたよっていて（極端な片荷、前荷、後荷）、極端に車両姿勢が傾いている場合や周囲の道路状況によっては、前方の物体を正しく検知できないことや、路側の物体を誤って検知することがあります。このような状況では有効に機能しないことがあります。
- インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムは、運転操作を補い衝突を回避したり、安全に停止するものではありません。本装置を過信せず安全運転を心掛けてください。

・下記の事項を行い車両姿勢に変化がある場合には、特別な処置が必要になりますので《日産販売会社》にご相談ください。正しい処置をしないで運転された場合、インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムが正常に作動しなかったり、誤作動したりするおそれがあります。

- タイヤのサイズを変更した場合
- リーフスプリングを交換した場合

⚠ 注 意

・カメラの故障や誤作動を防ぐため、次の点をお守りください。
- フロントガラスはいつもきれいにしておいてください。キズやヒビがあったり、雨滴や結露、氷雪などが付着すると、機能が低下する場合があります。
- フロントガラス（内側）の清掃をするときは、カメラを紙・ビニール袋・マスキングテープなどで覆ってください。このとき、かぶせるものがカメラのレンズ部に触れないようにしてください。
- フロントガラスが曇ったら、ヒーターやエアコンを使用して曇りを取ってください。
- ワイパーの作動状況点検時に、ふき残しがある場合にはワイパーブレードを交換してください。ふき残しがあると前方の検知が安定せず、インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムが正常に作動しない可能性があります。
- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- カメラの取り付け位置を変更したり、取り外したり分解しないでください。取り外した場合は《日産販売会社》で点検・修理を受けてください。
- カメラ下部の排熱口をふさがないでください。
- ダッシュボードの上、カメラの正面、カメラの上に物を置かないでください。カメラの破損やカメラの作動停止、フロントガラスへの物体映り込みによる誤認識につながる恐れがあります。
- カメラのレンズ前のフロントガラスにシールなどを貼らないでください。
- カメラのレンズを汚したり傷をつけないでください。
- カメラに液体をかけないでください。
- カメラのレンズは清掃しないでください。
- フロントガラスには、ガラスコーティング剤を使用しないでください。

・《日産純正部品》以外のフロントガラスに交換しないでください。《日産純正部品》以外のフロントガラスに交換すると、システムが正常に作動しなくなる場合があります。

・フロントガラスを修理・交換するときは、最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。

・先行車を追い越す時に警報が作動した場合は、それ以上先行車に接近しないでください。さらに接近すると急制動がかかる場合があります。

車内の手入れ →7-138 ページ参照

知 識

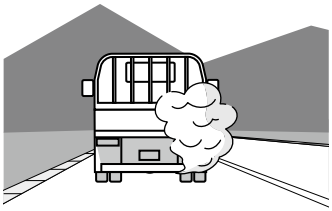
・インテリジェントエマージェンシーブレーキ作動により制御による音が聞こえることがありますが、制御によるものであり、異常ではありません。
・作動条件（以下のすべてが成立したときに作動可能となります）
- スタータースイッチが“ON”位置のとき。
- インテリジェント エマージェンシーブレーキ OFF スイッチが押されていない。
- 約 10km/h 以上で前進している。
- マルチディスプレイに「VAT 故障カメラ」・「カメラ一時停止」が表示されていないとき。
- インテリジェント エマージェンシーブレーキ OFF 表示灯が点灯していないとき。

・インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムが作動しない場合があるとき
- きついカーブや起伏がある場所を走行するとき。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面を走行するとき。
- 交差点などで、急な飛び出しがあったとき。
- 走行中に急な割り込みがあったとき。
- 荒天下で（豪雨、吹雪、雪など）前方障害物の検知がしにくいとき。
- 車が不安定（横滑りなど）な走行状態になっているとき。
- 大きなハンドル操作を行っているとき。
- サスペンションに異常があるとき。
- 夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき。
- 夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき。
- ヘッドランプ照射外に車両や歩行者などが存在するとき。
- 強い光（太陽光などの逆光やハイビーム）を前方から受けたとき。
- 前方車両の最後面を認識しづらいとき（荷台にアオリがない空荷のトラック、積荷がはみ出しているトラック、車高が低い・特殊な形状の車両など）
- 雪などによってカメラが遮蔽されていても、その範囲が狭く、カメラがそれを遮蔽と認識できないとき。このとき、カメラは遮蔽されている部分を撮影できないため、その部分の画像を認識することはできません。

知識 (つづく)

知識 (つづき)

・衝突の可能性がなくてもインテリジェント エマージェンシーブレーキシステムが作動するとき
  - 走行中の先行車両と急接近したとき。
  - 直線からカーブや曲がり角へ進入する際に、正面に障害物があるとき。
  - 交差点等で右折を行う際に対向車両と接近したとき。
  - 路肩がほとんど無く、ガードレールや防風壁のような構造物の直近を走行するとき。
  - 狭いトンネルや、鉄橋、ガードの下、高速道路の料金所、ETC ゲートを通過するとき（ETC ゲートは 20km/h 以下でゆっくり通過してください）。
  - サスペンションに異常があるとき。
  - フェリー乗船時や船舶内を走行するとき。
  - 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき。
  - 荒天下（大雪・吹雪など）のとき。
  - 水蒸気や煙の中を通過するとき。
  - 寒いときなどで、先行車の排気ガスがはっきり見えるとき。
・制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあるとき
  - ブレーキ部品が極端に冷えている、過熱している、または濡れているなどの理由で、ブレーキ性能が十分に発揮できないとき。
  - ブレーキ部品やタイヤの摩耗、空気圧などの車両の整備状態が良好でないとき。
  - 滑りやすい路面や砂利道を走行しているとき。



インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムの作動停止と自動解除

インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムは次の場合、作動しない、もしくは自動的に解除します。このときに衝突の危険があっても本装置は作動しません。

- インテリジェント エマージェンシーブレーキ OFF スイッチを押して、インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムを解除したとき
- ターンシグナルスイッチを操作したとき（緊急制動中を除く）
- ハザードスイッチを操作したとき（緊急制動中を除く）
- アクセルペダルを離した後、すぐに強く踏み込んだとき
- ブレーキペダルを踏んだとき（緊急制動中を除く）
- インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムの異常を検知したとき
- エンジン始動後、約 10 秒間
- エンジン始動後、エンジンを停止するまでに 3 回インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムが作動した場合

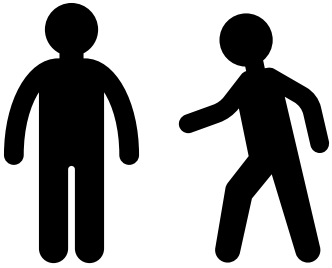
知 識

- エンジン始動後、3 回インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムが作動して、インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムが自動解除された場合、マルチディスプレイに「カメラー時停止」が表示され、インテリジェント エマージェンシーブレーキ OFF 表示灯および LDW（車線逸脱警報）警告灯が点灯します。エンジンを再始動すると、インテリジェント エマージェンシーブレーキは“ON”になります。

【マニュアルトランスミッション車】

- エンジン回転が極端に下がると、機能が一時的に停止することがあります。停止後数秒経過すると機能が復帰します。

歩行者認識



インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムは、対象物の大きさや形状、動きから歩行者の認識を行っています。
歩行者の頭部と両肩の輪郭が明確で、左右のバランスが対称である場合に認識します。

⚠ 警 告

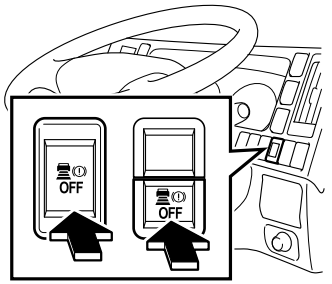
・インテリジェント エマージェンシーブレーキは、必ず歩行者を認識できるわけではありません。

以下のような状況では、歩行者を認識できない可能性があります。

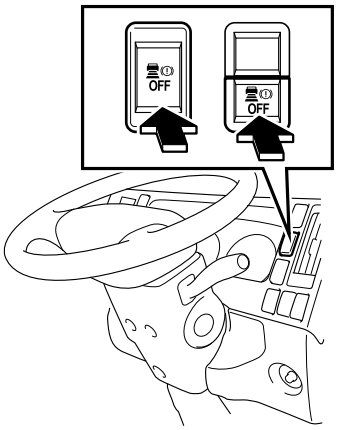
- 集団で歩いている
- 壁際や別の障害物のそばにいる
- 傘などをさしている
- 背景と似た色合いで風景に溶け込んでいる
- 大きな荷物を持っている
- 前かがみになっている、しゃがんでいる、横たわっている
- 暗い場所にいる
- 横から急に飛び出してきた

インテリジェント エマージェンシーブレーキ OFF スイッチ

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



インテリジェント エマージェンシーブレーキ OFF 表示灯



インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムの ON/OFF を行うスイッチです。スイッチを押すとインテリジェント エマージェンシーブレーキシステムが作動しなくなります。このときインテリジェント エマージェンシーブレーキ OFF 表示灯が点灯します。もう一度押すとインテリジェント エマージェンシーブレーキシステムが復帰し、インテリジェント エマージェンシーブレーキ OFF 表示灯が消灯します。衝突の可能性が無い状態でも頻繁にインテリジェント エマージェンシーブレーキシステムが作動するときなど、インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムの解除が必要なときに使用します。

⚠ 注 意

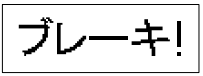
・次の場合は必ずインテリジェント エマージェンシーブレーキシステムを解除してください。
- 牽引されるとき
- キャリアカーに積載するとき
- 車検時などで、スピードテスターおよびブレーキテスターなどを使用するとき
- 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどに触れながら通過するとき
- タイヤの空気圧が適切でないとき
- 摩耗したタイヤ、または摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき
- 指定サイズ以外のタイヤを装着する場合
- カメラの視界を妨げるようなものを車体に取り付けたとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 事故や故障で自車の走行が不安的な場合

知 識

・インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムはエンジン始動後、常に“ON”になります。

マルチディスプレイ表示内容

インテリジェント エマージェンシーブレーキシステム作動時には以下の表示がマルチディスプレイに表示されます。

表示名	マルチディスプレイ表示	表示内容
注意喚起		前方に障害物を検知し、運転者にブレーキ操作を促すとき
ブレーキ作動警報		前方に障害物を検知し、衝突回避が困難でインテリジェント エマージェンシーブレーキシステムが自動的に緊急ブレーキを作動させるとき

異常時には以下の表示がマルチディスプレイに表示されます。このとき、インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムは作動しません。

表示名	マルチディスプレイ表示	表示内容	処 置
カメラ一時停止		カメラのレンズまたはフロントガラス（内側または外側）が汚れているとき	フロントガラス（内側または外側）を清掃してください。
		カメラの前方が物体に遮られている	遮蔽している物を取り除いてください。
		カメラが高温もしくは低温である	カメラが使用可能な温度に到達すると復帰します。
走行支援システム故障 カメラ		システムが故障したとき	最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

知 識

・雪道走行時には、フロントガラスへの着雪によりマルチディスプレイに繰り返し「カメラー時停止」が表示されることがありますが故障ではありません。
・以下の場合、カメラが一時的に停止していても「カメラー時停止」は表示されない場合があります
  - 車速が 15km/h 以下のとき
  - 旋回動作により対象物の動きを認識できない場合
  - 車速 15km/h 以上で雨・雪等による視界不良により対象物が認識しにくい場合

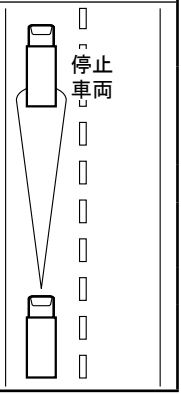
インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムの警報音

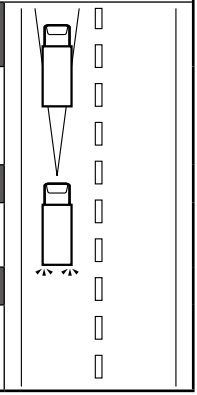
インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムは状況に応じて以下の警報音が鳴ります。

名 称	警報音	内 容
注意喚起音	“ピピピ ピピピ…”（連続音）	前方に障害物を検知し、運転者にブレーキ操作を促すとき
緊急ブレーキ作動警報	“ピピピピピ…”（連続音）	インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムが自動的に緊急ブレーキを作動させるとき

インテリジェント エマージェンシーブレーキシステムの作動

インテリジェント エマージェンシーブレーキシステム作動の流れを示します。

①注意喚起	
前方に障害物を検知し、警報を鳴らし注意喚起を行う。	
マルチディスプレイ表示	ブレーキ!
警報音	“ピピピ　ピピピ…”（連続音）
制動灯	消灯

②緊急ブレーキ	
さらに車間距離が接近すると、衝突の可能性が高いと判断し、自動的に緊急ブレーキが作動します。	
マルチディスプレイ表示	ブレーキ!
警報音	“ピピピピピ…”（連続音）
制動灯	点灯

車間距離警報

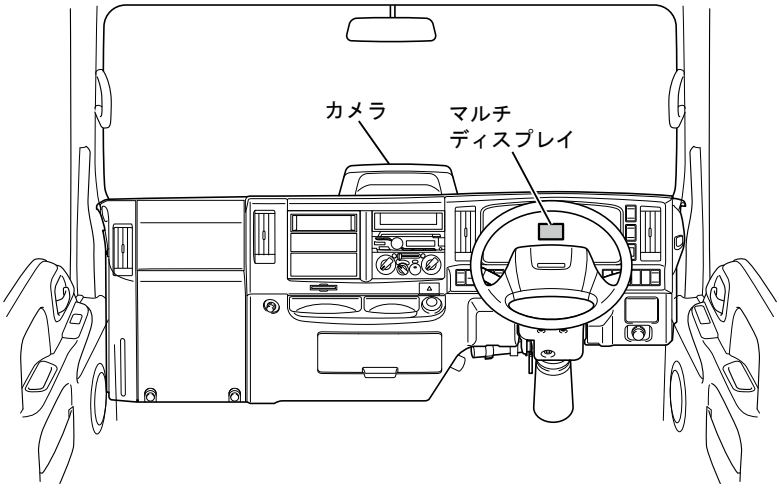
カメラを使用して自車線上の先行車との車間距離を測定し、先行車に接近しすぎたときに警報音やマルチディスプレイ表示で運転者に注意を促す装置です。
自車が停止しているとき以外の走行中に自車速約 30km/h 以上で作動します。

⚠ 警 告

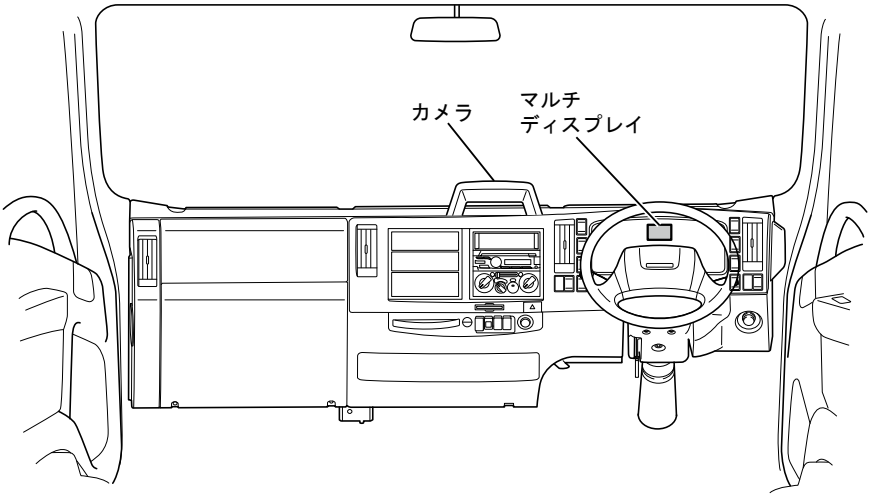
・車間距離警報は、運転者の心理的負担を軽減することを目的とし、緊急ブレーキを要するような衝突回避をする装置ではありません。運転するときは常に周囲の状況に注意し安全運転を行ってください。

関連装置配置図

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



⚠ 注 意

・カメラの故障や誤作動を防ぐため、次の点をお守りください。
- フロントガラスはいつもきれいにしておいてください。キズやヒビがあったり、雨滴や結露、氷雪などが付着すると、機能が低下する場合があります。
- フロントガラス（内側）の清掃をするときは、カメラを紙・ビニール袋・マスキングテープなどで覆ってください。このとき、かぶせるものがカメラのレンズ部に触れないようにしてください。
- フロントガラスが曇ったら、ヒーターやエアコンを使用して曇りを取ってください。
- ワイパーの作動状況点検時に、ふき残しがある場合にはワイパーブレードを交換してください。ふき残しがあると前方の検知が安定せず、車間距離警報が正常に作動しない可能性があります。
- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- カメラの取り付け位置を変更したり、取り外したり分解しないでください。取り外した場合は《日産販売会社》で点検・修理を受けてください。
- カメラ下部の排熱口をふさがないでください。
- ダッシュボードの上、カメラの正面、カメラの上に物を置かないでください。カメラの破損やカメラの作動停止、フロントガラスへの物体映り込みによる誤認識につながる恐れがあります。
- カメラのレンズ前のフロントガラスにシールなどを貼らないでください。
- カメラのレンズを汚したり傷をつけないでください。
- カメラに液体をかけないでください。
- カメラのレンズは清掃しないでください。
- フロントガラスには、ガラスコーティング剤を使用しないでください。

・《日産純正部品》以外のフロントガラスに交換しないでください。《日産純正部品》以外のフロントガラスに交換すると、システムが正常に作動しなくなる場合があります。

・フロントガラスを修理・交換するときは、最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。

・先行車を追い越す時に警報が作動した場合は、それ以上先行車に接近しないでください。さらに接近すると急制動がかかる場合があります。

車内の手入れ → 7-138 ページ参照

知 識

・車間距離警報は、エンジン始動後、約 10 秒間は作動しません。

【マニュアルトランスミッション車】

・エンジン回転が極端に下がると、機能が一時的に停止することがあります。停止後数秒経過すると機能が復帰します。

車間距離警報の ON/OFF および希望の車間にセットするとき

表示画面	
	
	
	

①マルチディスプレイに「車間警報」を表示させます。
②３モードスイッチを長押しします。
③３モードスイッチを回し、車間距離警報の ON/OFF および希望の車間距離を設定します。
・右回し→距離の増加
・左回し→距離の減少 /“OFF”

知 識

・中止するときは、３モードスイッチを短押ししてください。設定画面の前の表示に戻ります。

④ ON/OFF および希望の車間を決定したら、３モードスイッチを長押しし、設定します。

知 識

・車間距離警報はエンジン始動後、前回スタータースイッチを“LOCK”位置にしたときの設定になります。

車間距離警報のマルチディスプレイ表示内容

車間距離警報の作動時には以下の表示がマルチディスプレイに表示されます。

表示名	マルチディスプレイ表示	表示内容
車間注意		先行車との車間距離が縮まりすぎているとき

異常時には以下の表示がマルチディスプレイに表示されます。このとき、車間距離警報は作動しません。

表示名	マルチディスプレイ表示	表示内容	処　置
カメラ一時停止		カメラのレンズまたはフロントガラス（内側または外側）が汚れているとき	フロントガラス（内側または外側）を清掃してください。
		カメラの前方が物体に遮られている	遮蔽している物を取り除いてください。
		カメラが高温もしくは低温である	カメラが使用可能な温度に到達すると復帰します。
走行支援システム故障カメラ		システムが故障したとき	最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

知 識

- 雪道走行時には、フロントガラスへの着雪によりマルチディスプレイに繰り返し「カメラ一時停止」が表示されることがありますが故障ではありません。
- 以下の場合、カメラが一時的に停止していても「カメラ一時停止」は表示されない場合があります
  - 車速が 15km/h 以下のとき
  - 旋回動作により対象物の動きを認識できない場合
  - 車速 15km/h 以上で雨・雪等による視界不良により対象物が認識しにくい場合

車間距離警報の警報音について

車間距離警報の作動時には以下の警報音が鳴ります。

名　称	警報音	内　容
注意喚起音	“ピピピ”	先行車との車間距離が縮まりすぎていて、運転者にブレーキ操作を促すとき

車間距離警報の作動



先行車に接近し、運転者のブレーキ操作が必要なとき、マルチディスプレイに「車間注意」表示が他の表示に優先して表示され、ブザー“ピピピ”が鳴ります。

踏み間違い衝突防止アシスト★

停車中に車両の前方に障害物を認識している状態で、ペダルの踏み間違いなどによりアクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断したときに、エンジン出力を制限し発進を緩やかすることで、衝突時の被害を軽減する機能です。
平坦路または下り坂で作動します。

⚠ 警 告

・踏み間違い衝突防止アシストの限界
  - 踏み間違い衝突防止アシストを過信しないでください。発進時はシフトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。
・踏み間違い衝突防止アシストは停止状態を保つものではありません。
・踏み間違い衝突防止アシストはあらゆる状況で発進を緩やかにするものではありません。また、衝突を回避するものではありません。
・踏み間違い衝突防止アシストは前方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など対象物が見えない状況で発進を緩やかにするものではありません。
・故意に障害物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節を踏み間違い衝突防止アシストのみに頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
・万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラが遮断機を障害物と認識し、踏み間違い衝突防止アシストが作動することがあります。遮断機を押しのけて進む場合は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、踏み間違い衝突防止アシストを OFF にしてください。
・お客様ご自身で踏み間違い衝突防止アシストの作動テストを行わないでください。周囲の状況によっては踏み間違い衝突防止アシストが作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
・次の条件の違いにより、踏み間違い衝突防止アシストが作動しないことがあります。
  - 障害物との距離、速度差、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
  - ステレオカメラの認識状態

警告 (つづく)

警告 (つづき)

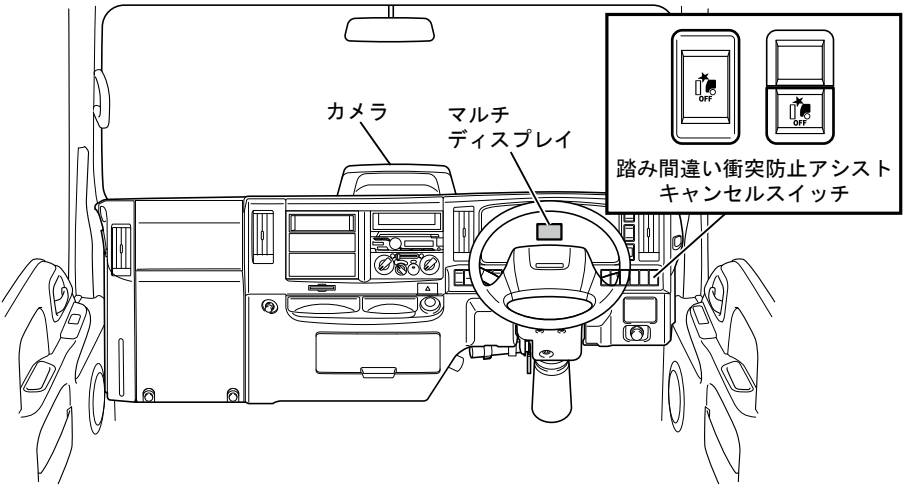
・特に作動しない可能性が高いとき
- 荒天下で（豪雨、吹雪、雪など）前方障害物の検知がしにくいとき
- 砂や煙などで視界が十分でないとき
- 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に障害物に接近するとき
- 屋内の駐車場など暗い場所で障害物に接近するとき
- ヘッドランプ照射範囲外に障害物が存在するとき
- 強い光（太陽光などの逆光やハイビーム）を前方から受けたとき
- フロントガラスに曇りや雪、霜、土埃などが付着しているとき
- フロントガラスに傷、ひびなどが生じているとき
- ウインドーウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが十分に拭き取れていないとき
- 雨滴やウインドーウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、障害物の認識が不完全になったとき
- ルーフ上に積載した積載物（はしごなどの長尺物）がステレオカメラの視界を遮っているとき
- 障害物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両、小動物や幼児など）
- 障害物の大きさがステレオカメラの認識限界より小さいとき
- しゃがんでいる人や横たわっている人など
- 障害物や前方車両（トレーラーや対向車両など）の自車から一番近い面および最後面が小さいとき
- 障害物に接近しすぎたとき
- 障害物から 3m 以上離れているとき
- 障害物がフェンスや模様が均一（縞模様やレンガなど）または全くない壁およびシャッターなどのとき
- 障害物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
- 車両、二輪車、自転車、歩行者などの障害物が横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 発進時に自車が進路変更を行い、障害物のすぐ後ろに接近したとき
- 急カーブ、急な上り坂、急な下り坂のとき
- 重い荷物を積んで、車両が傾いているとき
- 障害物が標識や街灯、電柱、木などポール状のもののとき
- 障害物の一部しかステレオカメラの検知範囲内に入っていないとき
- 運転者のハンドル操作状態から運転者が衝突回避操作をしたとシステムが判断したとき

⚠ 注 意

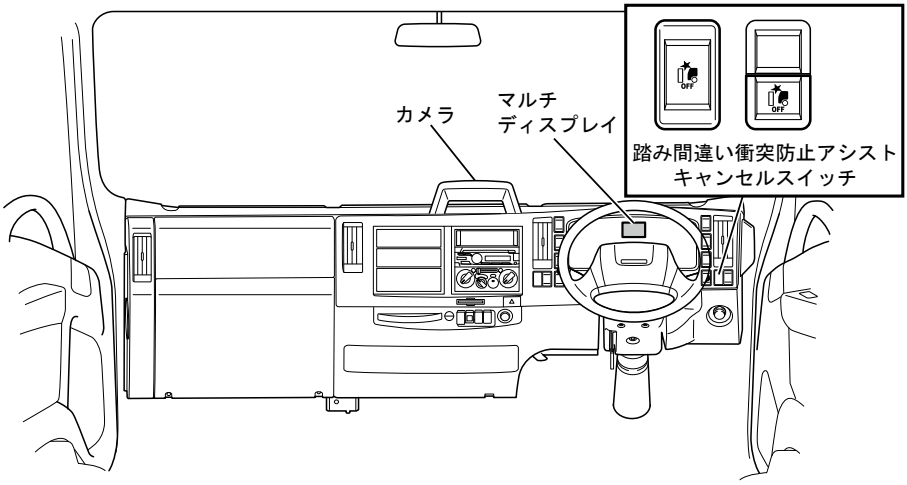
・衝突の可能性がなくても踏み間違い衝突防止アシストが作動するとき
- 駐車場や遮断機のバーが上がりきる前のとき
- 水蒸気や煙のかたまりなどを通過するとき
- 荒天（豪雨、吹雪、雪など）のとき
- カーブや交差点に障害物があるとき

関連装置配置図

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



⚠ 注 意

・カメラの故障や誤作動を防ぐため、次の点をお守りください。
- フロントガラスはいつもきれいにしておいてください。キズやヒビがあったり、雨滴や結露、氷雪などが付着すると、機能が低下する場合があります。
- フロントガラス（内側）の清掃をするときは、カメラを紙・ビニール袋・マスキングテープなどで覆ってください。このとき、かぶせるものがカメラのレンズ部に触れないようにしてください。
- フロントガラスが曇ったら、ヒーターやエアコンを使用して曇りを取ってください。
- ワイパーの作動状況点検時に、ふき残しがある場合にはワイパーブレードを交換してください。ふき残しがあると前方の検知が安定せず、踏み間違い衝突防止アシストが正常に作動しない可能性があります。
- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- カメラの取り付け位置を変更したり、取り外したり分解しないでください。取り外した場合は《日産販売会社》で点検・修理を受けてください。
- カメラ下部の排熱口をふさがないでください。
- ダッシュボードの上、カメラの正面、カメラの上に物を置かないでください。カメラの破損やカメラの作動停止、フロントガラスへの物体映り込みによる誤認識につながる恐れがあります。
- カメラのレンズ前のフロントガラスにシールなどを貼らないでください。
- カメラのレンズを汚したり傷をつけないでください。
- カメラに液体をかけないでください。
- カメラのレンズは清掃しないでください。
- フロントガラスには、ガラスコーティング剤を使用しないでください。

・《日産純正部品》以外のフロントガラスに交換しないでください。《日産純正部品》以外のフロントガラスに交換すると、システムが正常に作動しなくなる場合があります。

・フロントガラスを修理・交換するときは、最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。

車内の手入れ　→ 7-138 ページ参照

踏み間違い衝突防止アシストの作動停止と自動解除

踏み間違い衝突防止アシストは次の場合、作動しない、もしくは自動的に解除します。このときに衝突の危険があっても本装置は作動しません。

- 3 モードスイッチを操作して、踏み間違い衝突防止アシストを解除したとき
- 踏み間違い衝突防止アシストキャンセルスイッチを押して、踏み間違い衝突防止アシストを解除したとき
- アクセルペダルを 3 秒以上踏み続けたとき
- アクセルペダルを離したとき
- ターンシグナルスイッチを操作したとき
- 大きなハンドル操作を行ったとき
- エンジン始動後、約 10 秒間
- 上り坂で発進するとき
- 先行車が自車から離れていったとき

踏み間違い衝突防止アシストの ON/OFF





①マルチディスプレイに「誤発進抑制」を表示させます。
②3 モードスイッチを長押しします。
③3 モードスイッチを回し、踏み間違い衝突防止アシストの ON/OFF を設定します。

知 識

・中止するときは、3 モードスイッチを短押ししてください。設定画面の前の表示に戻ります。

④ ON/OFF を決定したら、3 モードスイッチを長押しし、設定します。

注 意

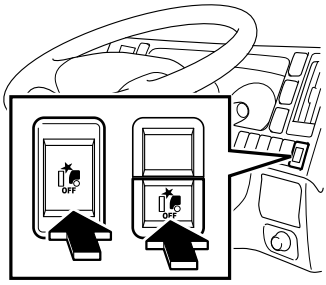
・次のような場合は、必ず踏み間違い衝突防止アシストを OFF にしてください。
  - けん引されるとき
  - キャリアカーに積載するとき
  - ビニールカーテンなどをくぐって通過するとき
  - 河川敷や生い茂った草むらや立木の中を走行するとき

知 識

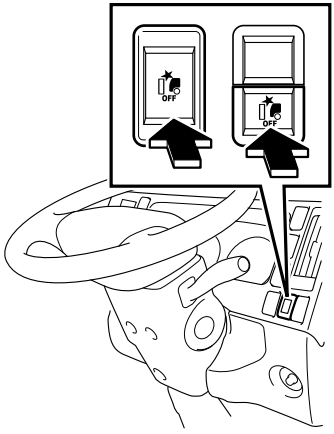
・踏み間違い衝突防止アシストはエンジン始動後、前回スタータースイッチを“LOCK”位置にしたときの設定になります。

踏み間違い衝突防止アシストキャンセルスイッチ

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



踏み間違い衝突防止アシストが作動しているときに踏み間違い衝突防止アシストキャンセルスイッチを押すと、踏み間違い衝突防止アシストが“OFF”になります。“OFF”のまま走行し、車速が 10km /h を超えると踏み間違い衝突防止アシストが自動的に復帰します。

注 意

・踏み間違い衝突防止アシストキャンセルスイッチは、踏み間違い衝突防止アシストの作動中に、一時的に機能を“OFF”にするものです。常に機能を“OFF”にする場合は、3 モードスイッチを操作して設定してください。

踏み間違い衝突防止アシストの ON/OFF
→ 4-181 ページ参照

踏み間違い衝突防止アシストのマルチディスプレイ表示内容

踏み間違い衝突防止アシストの作動時には以下の表示がマルチディスプレイに表示されます。

表示名	マルチディスプレイ表示	表示内容
前方注意		発進時、前方に障害物があり、必要以上に急加速したとき

異常時には以下の表示がマルチディスプレイに表示されます。このとき、踏み間違い衝突防止アシストは作動しません。

表示名	マルチディスプレイ表示	表示内容	処　置
カメラ一時停止		カメラのレンズまたはフロントガラス（内側または外側）が汚れているとき	フロントガラス（内側または外側）を清掃してください。
		カメラの前方が物体に遮られている	遮蔽している物を取り除いてください。
		カメラが高温もしくは低温である	カメラが使用可能な温度に到達すると復帰します。
走行支援システム故障カメラ		システムが故障したとき	最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

知 識

- 雪道走行時には、フロントガラスへの着雪によりマルチディスプレイに繰り返し「カメラ一時停止」が表示されることがありますが故障ではありません。
- 以下の場合、カメラが一時的に停止していても「カメラ一時停止」は表示されない場合があります
  - 車速が 15km/h 以下のとき
  - 旋回動作により対象物の動きを認識できない場合
  - 車速 15km/h 以上で雨・雪等による視界不良により対象物が認識しにくい場合

踏み間違い衝突防止アシストの警報音について

踏み間違い衝突防止アシストの作動時には以下の警報音が鳴ります。

名称	警報音	内容
加速抑制作動警報	“ピピピピピ…”（連続音）	踏み間違い衝突防止アシストが加速を抑制したとき

踏み間違い衝突防止アシストの作動



停車中に車両の前方にカメラが障害物を認識している状態で、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断すると、エンジン出力を制限します。
またマルチディスプレイに「前方注意」表示が他の表示に優先して表示され、ブザー“ピピピピピ…”（連続音）が鳴ります。

知 識

・踏み間違い衝突防止アシストの作動中に解除する場合は、踏み間違い衝突防止アシストキャンセルスイッチを押してください。

踏み間違い衝突防止アシストキャンセルスイッチ → 4-182 ページ参照

先行車発進お知らせ

先行車発進お知らせは、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、警報音とマルチディスプレイ表示で運転者にお知らせします。
先行車に続いて停車（車間距離が約 14m 以内、かつ自車がしばらく停車）すると先行車を認識し続け、先行車が発進して約 5m 以上進んでも自車が発進しないときに作動します。

警 告

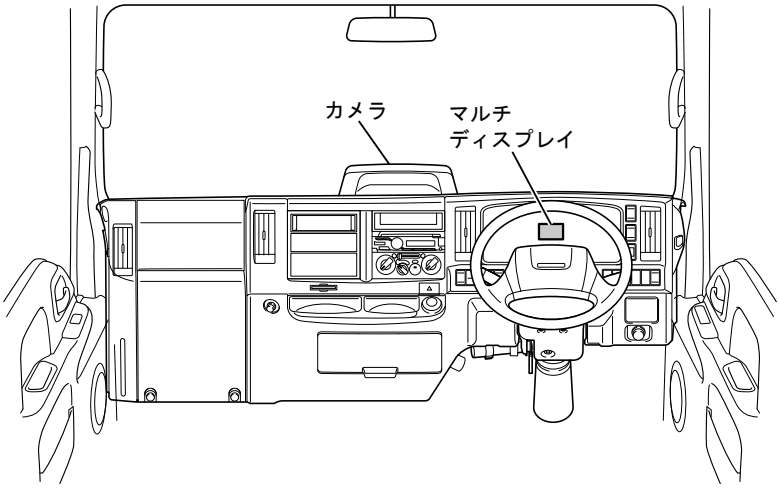
・先行車発進お知らせの限界
  - 先行車発進お知らせを過信しないでください。発進時は周囲の状況に注意し、十分に安全を確認してください。
・先行車発進お知らせは信号および道路標識を確認する機能を備えていないため、信号及び道路標識に従い安全運転を心掛けてください。

アドバイス

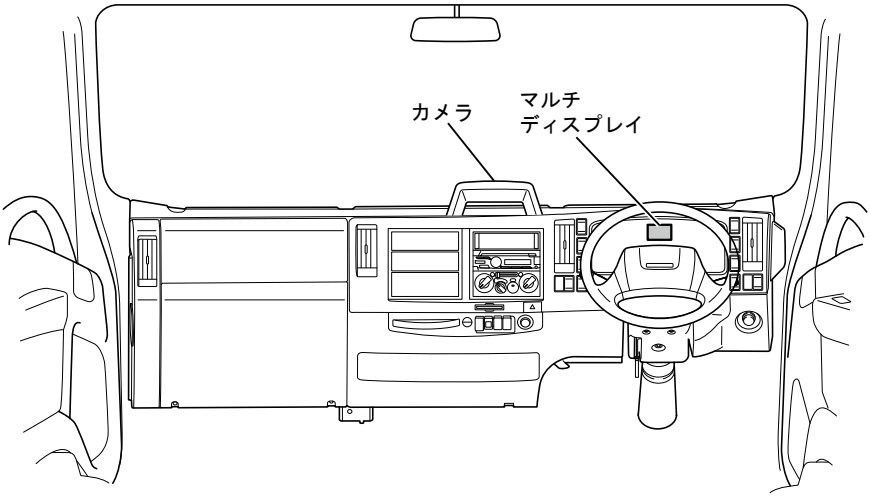
・次のような場合は、先行車が発進していなくても機能が作動することや、先行車が発進していても機能が作動しないことがあります。
  - 停止した先行車との間に二輪車などが割り込んできたとき
  - 荒天下で（豪雨、吹雪、雪など）先行車の検知がしにくいとき
  - きついカーブや起伏がある場所を走行するとき
  - ステレオカメラが先行車を認識しなくなったとき

関連装置配置図

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



⚠ 注 意

・カメラの故障や誤作動を防ぐため、次の点をお守りください。
- フロントガラスはいつもきれいにしておいてください。キズやヒビがあったり、雨滴や結露、氷雪などが付着すると、機能が低下する場合があります。
- フロントガラス（内側）の清掃をするときは、カメラを紙・ビニール袋・マスキングテープなどで覆ってください。このとき、かぶせるものがカメラのレンズ部に触れないようにしてください。
- フロントガラスが曇ったら、ヒーターやエアコンを使用して曇りを取ってください。
- ワイパーの作動状況点検時に、ふき残しがある場合にはワイパーブレードを交換してください。ふき残しがあると前方の検知が安定せず、先行車発進お知らせが正常に作動しない可能性があります。
- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- カメラの取り付け位置を変更したり、取り外したり分解しないでください。取り外した場合は《日産販売会社》で点検・修理を受けてください。
- カメラ下部の排熱口をふさがないでください。
- ダッシュボードの上、カメラの正面、カメラの上に物を置かないでください。カメラの破損やカメラの作動停止、フロントガラスへの物体映り込みによる誤認識につながる恐れがあります。
- カメラのレンズ前のフロントガラスにシールなどを貼らないでください。
- カメラのレンズを汚したり傷をつけないでください。
- カメラに液体をかけないでください。
- カメラのレンズは清掃しないでください。
- フロントガラスには、ガラスコーティング剤を使用しないでください。

・《日産純正部品》以外のフロントガラスに交換しないでください。《日産純正部品》以外のフロントガラスに交換すると、システムが正常に作動しなくなる場合があります。

・フロントガラスを修理・交換するときは、最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。

車内の手入れ →7-138 ページ参照

先行車発進お知らせの作動停止と自動解除

先行車発進お知らせは次の場合、作動しない、もしくは自動的に解除します。このとき先行車が発進しても、本装置は作動しません。

- 3 モードスイッチを操作して、先行車発進お知らせを解除したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- ハザードスイッチを押したとき
- エンジン始動後、約 10 秒間

知 識

【マニュアルトランスミッション車】

- エンジン回転が極端に下がると、機能が一時的に停止することがあります。停止後数秒経過すると機能が復帰します。

先行車発進お知らせの ON/OFF





①マルチディスプレイに「発進お知らせ」を表示させます。
②3 モードスイッチを長押しします。
③3 モードスイッチを回し、先行車発進お知らせの ON/OFF を設定します。

知 識

- 中止するときは、3 モードスイッチを短押ししてください。設定画面の前の表示に戻ります。

④ ON/OFF を決定したら、3 モードスイッチを長押しし、設定します。

知 識

- 先行車発進お知らせはエンジン始動後、前回スタータースイッチを“LOCK”位置にしたときの設定になります。

先行車発進お知らせのマルチディスプレイ表示内容

先行車発進お知らせの作動時には以下の表示がマルチディスプレイに表示されます。

表示名	マルチディスプレイ表示		表示内容
	表示エリア 1	表示エリア 3※	
先行車未検知	—		停止時、先行車を検知していないとき
先行車検知	—		停止時、先行車を検知したとき
先行車発進			停止時、先行車が発進したが自車が発進しないとき

※：表示エリア 3 は LDW（車線逸脱警報）が“ON”の場合のみ表示されます。

LDW（車線逸脱警報）
→ 4-150 ページ参照

異常時には以下の表示がマルチディスプレイに表示されます。このとき、先行車発進お知らせは作動しません。

表示名	マルチディスプレイ表示	表示内容	処　置
カメラ一時停止		カメラのレンズまたはフロントガラス（内側または外側）が汚れているとき	フロントガラス（内側または外側）を清掃してください。
		カメラの前方が物体に遮られている	遮蔽している物を取り除いてください。
		カメラが高温もしくは低温である	カメラが使用可能な温度に到達すると復帰します。
走行支援システム故障カメラ		システムが故障したとき	最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

知 識

- 雪道走行時には、フロントガラスへの着雪によりマルチディスプレイに繰り返し「カメラ一時停止」が表示されることがありますが故障ではありません。
- 以下の場合、カメラが一時的に停止していても「カメラ一時停止」は表示されない場合があります
  - 車速が 15km/h 以下のとき
  - 旋回動作により対象物の動きを認識できない場合
  - 車速 15km/h 以上で雨・雪等による視界不良により対象物が認識しにくい場合

先行車発進お知らせの警報音について

先行車発進お知らせの作動時には以下の警報音が鳴ります。

名　称	警報音	内　容
注意喚起音	“ピピ”	停止時、先行車の発進後に自車が停止し続けたとき

先行車発進お知らせの作動



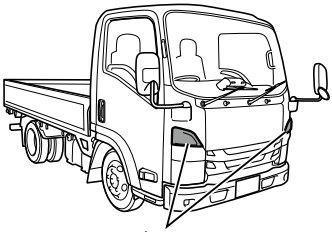
先行車が発進して約５ｍ以上自車が発進しないとき、マルチディスプレイに「先行車発進」表示が他の表示に優先して表示され、ブザー“ピピ”が鳴ります。

交差点警報★

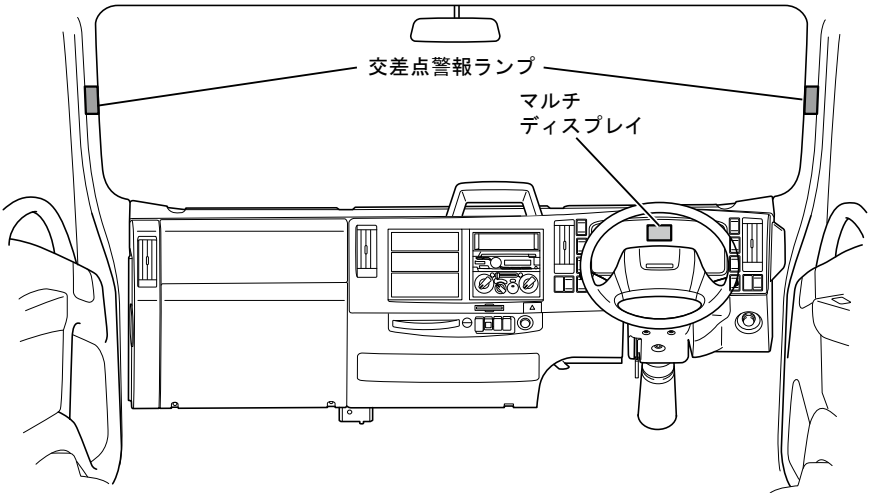
ハイキャブ・ワイドキャブ車

交差点進入時および右左折時に、接近する移動物の認識を支援するシステムです。レーダーセンサーを使用して移動物を検知し、接近状態に応じてピラー部の交差点警報ランプやブザーでドライバーに注意を促します。

関連装置配置図



レーダーセンサーは、左右のフロントターンシグナルランプ上部に設置されています。



⚠ 警 告

・本装置は、接近する移動物の認識を支援するシステムです。右左折確認、交差点進入の可否を判断したり、車両や障害物との接触を回避するものではありません。本装置を過信せず安全運転を心掛けてください。

・状況によっては、システムが作動しないことがあるため、運転時の安全確認の際は、必ず周囲を目視で確認してください。システムを過信すると重大な事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

・レーダーの故障や誤作動を防ぐため、次の点をお守りください。

- レーダーカバーは常にきれいにしておいてください。
- レーダーカバーの清掃には、ラッカーシンナー、ベンジンなどは使用しないでください。変形などにより検知性能が低下するおそれがあります。
- レーダーカバーには、ステッカーを貼ったり塗装などを行わないでください。検知性能が低下することがあります。
- レーダー前面に物を設置しないでください。電波がさえぎられ前方の物体を検知できなくなります。
- レーダー本体に強い衝撃を与えないでください。衝撃により、センサーの位置や向きがずれるとシステムが正常に作動しない場合があります。強い衝撃を受けた際は最寄りの《日産販売会社》で点検･修理を受けてください。
- レーダー取付状態にくるい（取り付け方向が変化したなど）があると、前方の物体を正しく検知できなくなりますので、レーダー取付部の分解・調整は行わないでください。
- レーダーの調整が必要なときは最寄りの《日産販売会社》で点検・修理を受けてください。
- レーダー本体の技術基準適合マークの刻印には触れないでください。

知 識

・作動条件（以下のすべてが成立したときに作動可能となります）

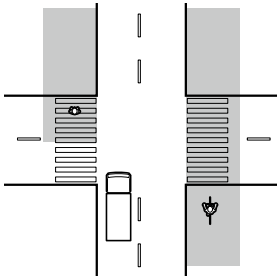
- スタータースイッチが“ON”位置になっている。
- ターンシグナルスイッチを操作し、ターンシグナルランプ（方向指示器）が点滅している（交差点右左折時のみ）。
- 交差点警報が“ON”の設定になっている。

・静止物に対しては、交差点警報は警報しません。

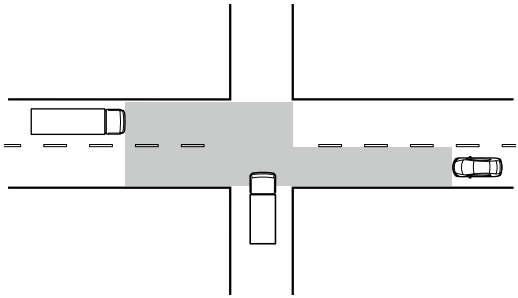
センサーの検知範囲

センサーは、以下の図に示すエリアの移動物を検知します。

交差点右左折時



交差点進入時

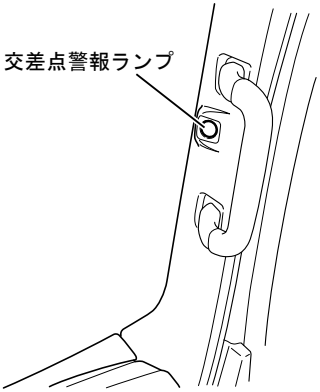


知 識

・次のような状況では、センサーの検知機能が低下し、交差点警報が正常に作動しない可能性があります。
  - センサーやセンサー周辺への強い衝撃により、センサーの位置や向きがずれたとき
  - レーダーカバーが変形、損傷したとき
  - センサーやセンサー周辺に、泥、雪、氷などが付着したとき
  - 悪天候のとき（雨・霧・雪など）
  - センサー付近の温度が非常に高温になったとき
  - 車両が極端に傾いているとき
  - 複数台の車両が狭い間隔で連続して接近するとき
  - 自車と検知エリアに入る車両に高低差があるとき
  - 急勾配の坂道を走行しているとき
  - 急勾配の上り下りが連続した坂道を走行しているとき
  - 起伏のある道を走行しているとき
  - 急なカーブや連続したカーブを走行しているとき
  - 雪道もしくは周囲に何もない環境を長時間走行したとき
  - バッテリーの電圧が下がったとき
  - レーダーおよびレーダーカバーを塗装したとき
  - タイヤサイズを変更したとき
・次のような対象物に対しては、センサーが検知しないか、もしくは検知しづらいことがあります。
  - レーダーの電波が反射しにくい形状の車両（スポーツカー等）
  - 自車との速度差がかなり大きい車両
  - 自車との車間距離が短い車両
  - センサーの検知エリアにいるが、自車に接近してこない車両（レーダーセンサーの検知データを基に、システムが接近車両を判断しています）
  - 検知エリア内を自車とほぼ同じ速度で走行している車両
・次のような状況では、衝突の危険がなくても交差点警報が作動する場合があります。
  - 標識や駐車車両のそばを走行するとき
  - 自車との距離が近いガードレールやコンクリート壁、フェンスがあるとき
  - トンネル出入口や待避所があるとき
  - カーブ路で自車と対向車がすれ違うとき
  - 自車と交差する進路に向かう移動物が減速し、停止したとき
  - 自車に向かって旋回している移動物があるとき
  - 対向する移動物が右折するとき

交差点警報ランプ

センサーが検知エリア内で車両を検知したとき、交差点警報ランプが点灯します。さらに衝突の危険性が高まると、交差点警報ランプが点滅し、同時に警報音が鳴ります。
交差点警報ランプは、フロントピラー部左右に取り付けられています。



知 識

・次のような場合は、交差点警報ランプが見えづらくなることがあります。
- 強い日差しの下にいるとき
- 後方車両のヘッドランプが照射されたとき

交差点警報の警報音

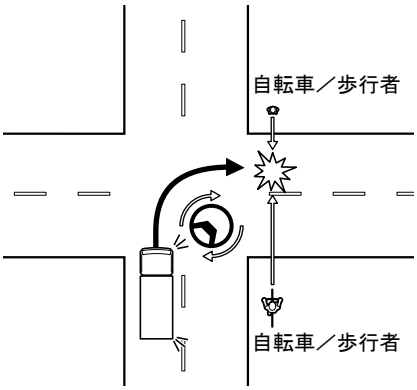
交差点警報の作動時には以下の警報音が鳴ります。

名 称	警報音	内 容
交差点警報	“ピピピ ピピピ…”(連続音)	衝突の可能性が高いとき

交差点警報の作動

交差点警報作動の流れを示します。

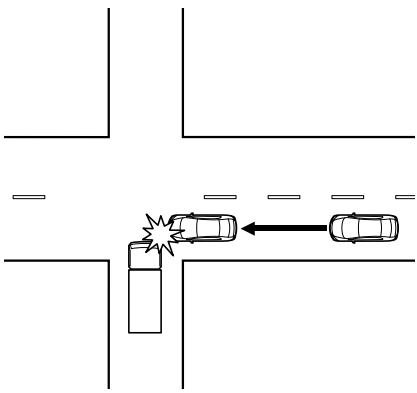
①交差点警報



交差点右左折時、接近する歩行者や自転車との衝突事故防止のため、運転者に警報を行います。

警報対象	自転車、歩行者
自車速度	約 0 ～ 30km/h
警報対象の速度	約 5 ～ 20km/h (自転車) 約 5km/h（歩行者）

②出会い頭警報



見通しの悪い交差点で、左右から接近する車両との衝突事故防止のため、運転者に警報を行います。

警報対象	バイク、自動車
自車速度	約 0 ～ 30km/h
警報対象の速度	約 20 ～ 60km/h

交差点警報の ON/OFF と自動停止





次の手順で交差点警報の ON/OFF を設定することができます。

① マルチディスプレイに「交差点警報」を表示させます。
② 3 モードスイッチを長押しします。
③ 3 モードスイッチを回し、交差点警報の ON/OFF を設定します。

知 識

・中止するときは、3 モードスイッチを短押ししてください。設定画面の前の表示に戻ります。

④ ON/OFF を決定したら、3 モードスイッチを長押しし、設定します。

知 識

・交差点警報はエンジン始動後、前回スタータースイッチを“LOCK”位置にしたときの設定になります。
・以下の場合は、システムが一時的に作動を停止し、マルチディスプレイに「レーダー一時停止」が表示されます。状況が改善されても表示が消えない場合は、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。
  - レーダーセンサー付近に雪、氷、泥が多量についたとき
  - 雪道、もしくは周囲に何もない環境を長時間走行したとき
  - レーダーセンサー付近の温度が非常に高くなったとき
  - バッテリーの電圧が規定より下がっているときや、上がっているとき
  - レーダーセンサーの搭載位置に大きなズレが生じたとき
・システムが一時的に作動を停止しているとき、マルチディスプレイによる ON/OFF の切り替えができない場合があります。

交差点警報の故障時

異常時には以下の表示がマルチディスプレイに表示されます。このとき、交差点警報は作動しません。

名　称	マルチディスプレイ表示	表示内容	処　置
レーダー一時停止		レーダー前面の汚れを検知したとき	レーダー前面の汚れや水滴、着雪をふき取ってください。引き続き表示される場合は最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。
		レーダーが高温のとき	使用可能な温度に到達すると復帰します。
走行支援システム故障レーダー		システムが故障したとき	最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

4WD 車

フルタイム 4WD 車★

路面状態に関係なく、常に前・後輪の駆動力配分を最適に制御しています。
2WD ⇔ 4WD の切り替え操作を不要としました。

パートタイム 4WD 車★

ビスカス式トルクスプリット 4WD 車
4WD スイッチにより 2WD と 4WD を切り替えます。

	基本操作	参照ページ
1	マニュアルフリーホイールハブのレバーを左右とも“LOCK”位置にしてください。	4-199
2	4WD スイッチを“ON”にして 4WD 表示灯が点灯したことを確認してください。	4-201

マニュアルフリーホイールハブ（パートタイム 4WD）★

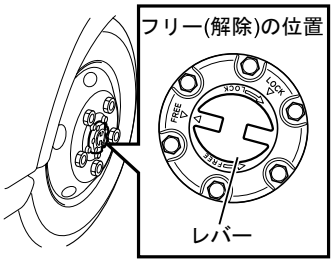
マニュアルフリーホイールハブは、前輪と駆動軸との接続、解除を手動で行うための装置です。

⚠ 注 意

- 4WD 走行をするときは、フリーホイールハブのレバーが“LOCK”（ロック）位置にあることを確認してください。
- 走行中、フリーホイールハブのレバーが“FREE”（フリー）位置で 4WD スイッチを押さないでください。トランスファーの故障の原因となります。

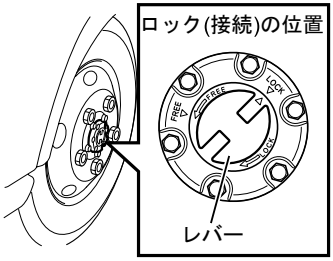
アドバイス

- “FREE”（フリー）と“LOCK”（ロック）の中間位置にセットしないでください。
- 前輪駆動系の潤滑のため、月に約 20km 程度は左右のフリーホイールハブを“LOCK”位置にして走行してください。
- 走行後は、左右のフリーホイールハブのレバーの部分が熱くなっていることがありますので、注意してください。
- フリーホイールハブを切り替えるときは必ず、左右とも切り替えてください。



FREE（フリー）位置

前輪と駆動軸の接続を解除する位置。
2WD 走行時には、この位置にして走行してください。



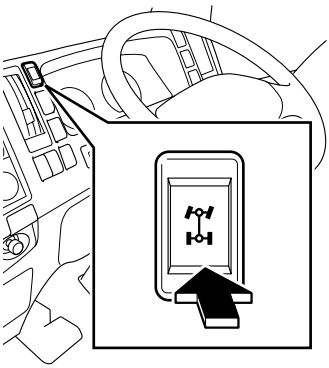
LOCK（ロック）位置

前輪と駆動軸が接続され、駆動力がタイヤへ伝わり、4WD 走行が可能となります。
4WD 走行時には、必ずこの位置にして走行してください。

知 識

- 4WD 走行時は、左右のフリーホイールハブのレバーを必ず“LOCK”位置にしてください。（4WD スイッチを“ON”状態にしてもフリーホイールハブのレバーを“LOCK”位置にしなければ 4WD 走行はできません。）
- 2WD で走行する場合は、左右のフリーホイールハブを“FREE”位置にして前輪から駆動軸を切り離しておくと、前輪の回転が前輪駆動系には伝わらないため騒音、摩擦を減らし経済走行をすることができます。

4WD スイッチ★

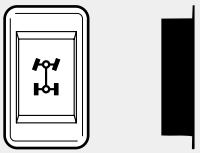
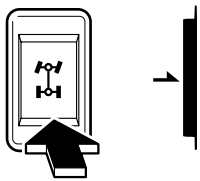
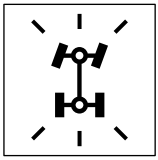


2WD走行と4WD走行の切り替えは、4WDスイッチを押して操作します。
切り替え操作は、フリーホイールハブのレバーが“LOCK”位置にあることを確認してから、停止時または、低速直進時に行ってください。

⚠ 注 意

- 4WD の状態で乾燥舗装路を走行すると、前輪タイヤの早期摩耗を招いたり、燃費が悪くなります。また、異音の発生や駆動系の故障の原因にもなりますので、必ず 2WD の状態で走行してください。
- 4WD 走行をするときは、フリーホイールハブのレバーが“LOCK”（ロック）位置にあることを確認してください。
- 走行中、フリーホイールハブのレバーが“FREE”（フリー）位置で 4WD スイッチを押さないでください。トランスファーの故障の原因となります。

2WD（後輪駆動）⇔4WD（4 輪駆動）切り替えの目安

駆動方式	4WD スイッチ	4WD 表示灯	使用条件
2WD		消灯	一般道路および高速道路などの通常走行
4WD		 点灯	積雪路、凍結路および急坂道など、2WD 走行が困難な路面状態の場合

PTO ★

PTO の操作方法を記載しています。
PTO コントロールレバー、PTO スイッチ以外の特殊装置の操作方法については、各架装メーカーの「**取扱説明書**」をご覧ください。

PTO の操作について

⚠ 注 意

- PTO を操作するときは、車のまわりや上方に人や物がないことを確認してから PTO を操作してください。
- PTO の操作は平らな場所で行ってください。
- PTO および特殊装置を操作するときは、パーキングブレーキレバーを確実に引き、マニュアルトランスミッション車はシフトレバーを“N”位置にして、ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込んだまま行ってください。
  AMT 車はシフトレバーを“N”位置にして、ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込んだまま行ってください。
- PTO 作動中、特に DPF の再生中は DPF、尿素 SCR、マフラー、排気管や排気ガスは高温になっています。やけどするおそれがありますので、誤って触れないように十分注意してください。また、車両付近の通行人や、周辺にある草木や枯れ草、紙くずなど燃えやすいものには十分注意してください。やけどや火災の原因になります。
- 走行中は操作しないでください。
- PTO を使用する際は、アイドリングストップキャンセルスイッチを操作して、アイドリングストップを非作動状態にし、メーターパネル内のアイドリングストップ OFF 表示灯が点灯している事を確認してください。
- 特殊装置の操作方法については、各架装メーカーの「**取扱説明書**」をご覧ください。

アドバイス

- AMT 車の PTO は故障防止のため、エンジン回転数 800r/min 以上では接続できません。ただし DPF 再生中、または冷間時のエンジン始動時（QWS：クイックウォームシステム）はエンジン回転数が 1,200r/min まで接続できます。冷間時におけるエンジン始動直後のファーストアイドル制御回転時やアイドルアップノブで回転を上げている場合は、PTO は接続できません。エンジン暖機を行い、アイドルアップノブを戻してから、PTO スイッチを操作してください。

知 識

・長時間のアイドリングや PTO 連続運転中の負荷状態によっては自動的に DPF の再生が行われる場合があります。このとき、「DPD 自動再生中」表示（緑）または「DPD 手動再生中」表示（橙）が点灯しますが異常ではありません。

【ファーストアイドル制御】

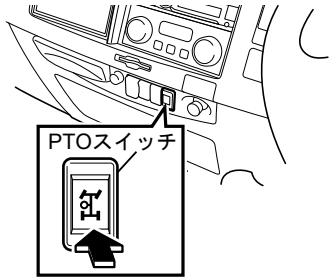
・エンジン冷間時などに、アイドリング回転数を自動的に上げてエンジンを暖機する補助機能。

レバー式 PTO（AMT 車）



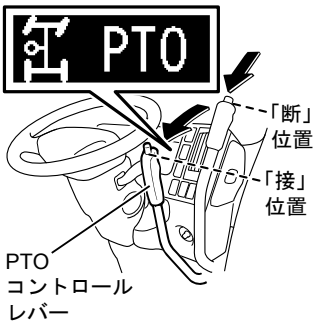
接続

① パーキングブレーキレバーを確実に引き、車を完全に停止させた状態でトランスミッションのシフトレバーを“N”位置にし、エンジンを始動します。



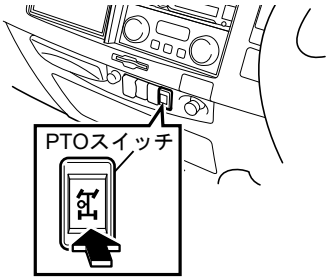
② PTO スイッチを押して“ピーピーピー”とブザーが鳴っている間に PTO コントロールレバーを下ろすと PTO に接続され、「PTO」がマルチディスプレイに表示されます。

PTO（作動中）★ → 4-61 ページ参照



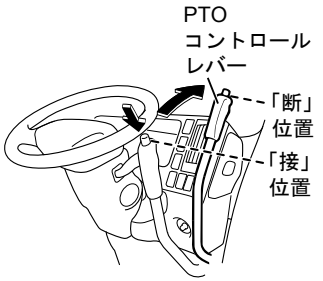
③ ブザー音が“ピッ…ピッ…”と変わり、自動的にクラッチがつながります。

④ 特殊装置のコントロールスイッチを操作します。



解除

PTO スイッチを押して“ピーピーピー”とブザーが鳴っている間に PTO コントロールレバーのロックボタンを押し、“接”位置にあるレバーを“断”位置にします。このとき、マルチディスプレイの「PTO」が消え、PTO の駆動が停止していることを確認します。



⚠ 注 意

・車を発進させるときには、次のことを確認してください。
- 特殊装置が走行上、安全な状態にあること。
- PTO コントロールレバーが“OFF（断）”位置にあり、マルチディスプレイの「PTO」が消えていること。

知 識

・PTO スイッチを押して、約 10 秒以内に PTO コントロールレバーを操作してください。

・PTO コントロールレバーを約 10 秒以内に操作できなかった場合は、再度 PTO スイッチを押して PTO コントロールレバーを操作してください。

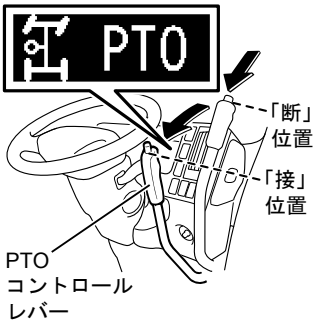
・マルチディスプレイの「PTO」表示は PTO コントロールレバーの操作に連動しています。PTO スイッチ、ブザー音とは関係ありません。

レバー式 PTO（マニュアルトランスミッション車）



接続

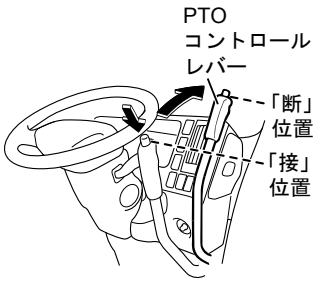
① パーキングブレーキレバーを確実に引き、車を完全に停止させた状態でトランスミッションのシフトレバーを“N”位置にし、エンジンを始動します。



② クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、少し間をおいてからロックボタンを押しながら PTO コントロールレバーを下ろすと PTO に接続され、「PTO」がマルチディスプレイに表示されます。

PTO（作動中）★ → 4-61 ページ参照

③ ゆっくりとクラッチペダルから足を離します。



解除

① クラッチペダルを踏みながら、PTO コントロールレバーのロックボタンを押し、“接”位置にあるレバーを“断”位置にします。このとき、マルチディスプレイの「PTO」が消え、PTO の駆動が停止していることを確認します。

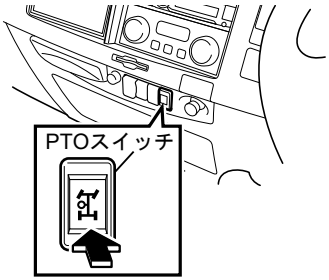
② ゆっくりクラッチペダルから足を離します。

⚠ 注 意

・車を発進させるときには、次のことを確認してください。

- 特殊装置が走行上、安全な状態にあること。
- PTO コントロールレバーが“OFF（断）”位置にあり、マルチディスプレイの「PTO」表示が消えていること。

スイッチ式 PTO（AMT 車）



PTO（作動中）



接続

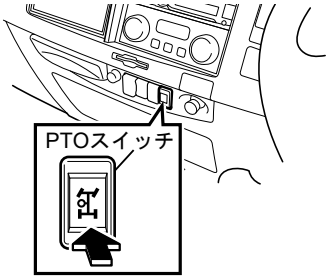
① パーキングブレーキレバーを確実に引き、車を完全に停止させた状態でトランスミッションのシフトレバーを“N”位置にし、エンジンを始動します。

② PTO スイッチを押すと“ピーピーピー”とブザーが鳴り始め、「PTO」がマルチディスプレイに表示されます。

PTO（作動中）★ → 4-61 ページ参照

③ ブザー音が“ピッ…ピッ…”と変わり、自動的にクラッチがつながります。

④ 特殊装置のコントロールスイッチを操作します。



解除

PTO スイッチを押すと“ピーピーピー”とブザーが鳴り始め、マルチディスプレイの「PTO」が消え、ブザーが鳴りやみます。

⚠ 注 意

・車を発進させるときには、次のことを確認してください。

- 特殊装置が走行上、安全な状態にあること。
- 「PTO」が消えていること。

スイッチ式 PTO（マニュアルトランスミッション車）

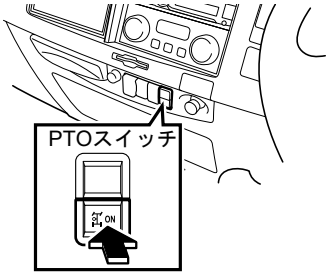
知 識

・エンジン保護のため、一部の架装物によってはエアコン作動中に PTO スイッチを“ON”にすると、エアコンが停止します。



接続

① パーキングブレーキレバーを確実に引き、車を完全に停止させた状態でトランスミッションのシフトレバーを“N”位置にし、エンジンを始動します。



② クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、少し間をおいてから PTO スイッチの“ON”側を押します。
このとき、「PTO」がマルチディスプレイに表示されます。

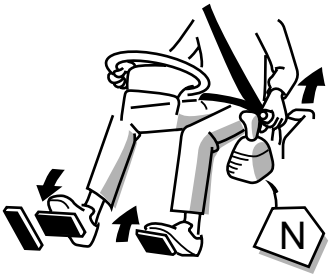
PTO（作動中）★ → 4-61 ページ参照

PTO（作動中）

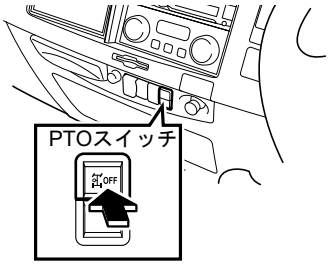


アドバイス

・クラッチペダルを踏み込んですぐに PTO スイッチを“ON”にすると、ギヤ鳴りを起こしたり、PTO が入らない場合があります。また、車両が完全に停止する前に操作するとギヤ鳴りが発生し、PTO が入らない場合があります。



③ ゆっくりクラッチペダルから足を離します。
④ 特殊装置のコントロールスイッチを操作します。



解除

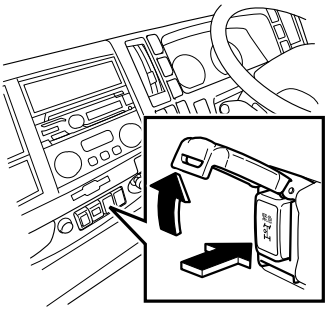
① クラッチペダルを踏みながら、PTO スイッチの“OFF”側を押します。
このとき、マルチディスプレイの「PTO」が消え、PTO の駆動が停止していることを確認します。
② ゆっくりクラッチペダルから足を離します。

⚠ 注 意

・車を発進させるときには、次のことを確認してください。
- 特殊装置が走行上、安全な状態にあること。
-「PTO」が消えていること。

PTO 非常用スイッチ（消防車）★

PTO スイッチで PTO が接続できないときに、PTO を強制的に接続する非常用のスイッチです。PTO スイッチの代わりに使用します。



接続

① パーキングブレーキレバーを確実に引き、車を完全に停止させた状態でマニュアルトランスミッション車はシフトレバーを“N”位置に、AMT 車は“N”位置にし、エンジンを始動します。

② PTO 非常用スイッチのカバーを開けてスイッチを押します。このとき、メーター内の PTO 表示灯が点灯します。

PTO（作動中）★ → 4-61 ページ参照

解除

PTO 非常用スイッチを押し、PTO 表示灯が消灯していることを確認します。

⚠ 注 意

- PTO 非常用スイッチは、PTO 機構保護の機能を働かせない状態で PTO を作動させます。非常時以外は使用せず、通常は PTO スイッチを使用してください。
- 通常は、非常用スイッチのカバーを開けないでください。

ダンプレバー★

ダンプレバーは荷台を上昇させたり、降下させる場合に使用します。
ダンプトラックのダンプレバーの操作方法を記載しています。
レバー以外の操作方法については、各架装メーカーの「**取扱説明書**」をご覧ください。

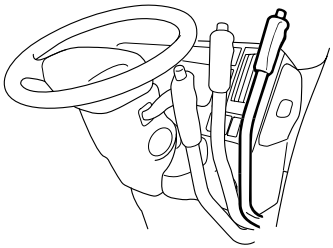
⚠ 注 意

- 走行時および車両整備時には、ダンプレバーを必ず“**下げ**”位置にし、ロックボタンによりダンプレバーが固定され、作動しないことを確認してください。
- 乗り降りをするときに、ダンプレバーをつかまないでください。万一、作動すると大変危険です。

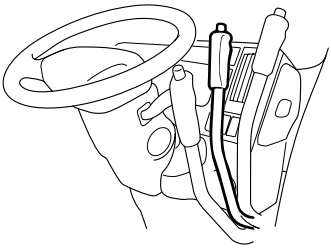
ダンプレバーの基本操作について★



ロックボタンについて
ロックボタンでダンプレバーは“**下げ**”、“**上げ**”の２つの位置に固定されます。
ダンプレバーを操作するときは、必ずロックボタンを押しながら行ってください。



荷台を下げるとき
荷台を降下させるときの位置です。
また、通常時、走行時には、この位置に固定してください。

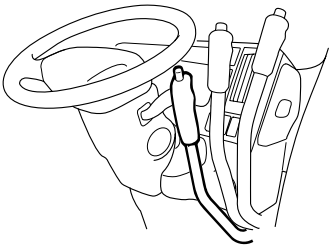


荷台を一時停止させるとき

荷台の上昇、降下を一時的に停止する位置です。
この位置では運転席から離れないでください。

⚠ 注 意

・ロックボタンでのダンプレバーの固定はできません。



荷台を上げるとき

荷台を上昇させるときの位置です。
また、荷台を上げたままにするときは、この位置に固定して安全棒をしてください。

⚠ 注 意

・ダンプレバーは“**一時停止**”位置では固定できません。上昇、降下中に一時的に荷台の作動を止めるときだけお使いください。
・ダンプレバーを“**一時停止**”位置にし、荷台を途中の位置で止めておくと、荷台が上昇や降下するおそれがあり大変危険ですのでやめてください。また、荷台を上げたままにするときは、必ず完全に荷台を上昇させ、エンジンを止めて、ダンプレバーを“**上げ**”位置に固定して、確実に安全棒をしてください。

荷台の操作

⚠ 注 意

・荷台の上昇、降下をするときは、車のまわりや上方に人や物がないことを確認してからダンプレバーを操作してください。
・荷台の上昇、降下は平らな場所で行ってください。万一、傾斜地で荷台を操作すると、横転やフレームが変形するおそれがありますので、やめてください。
・ダンプレバーを操作するときは、車を完全に停止させ、必ずパーキングブレーキレバーを確実に引き、ブレーキペダルを右足でしっかり踏み込んだまま行ってください。
・走行中は操作しないでください。

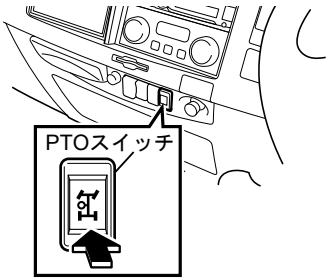
アドバイス

・AMT 車の PTO は故障防止のため、エンジン回転数 800r/min 以上では接続できません。ただし、DPF 再生中、または冷間時のエンジン始動時（QWS：クイックウォームシステム）は、エンジン回転数が 1,200r/min まで接続できます。冷間時におけるエンジン始動直後のファーストアイドル制御回転時やアイドルアップノブで回転を上げている場合は、PTO は接続できません。エンジン暖機を行い、アイドルアップノブを戻してから、PTO スイッチを操作してください。

知 識

【ファーストアイドル制御】

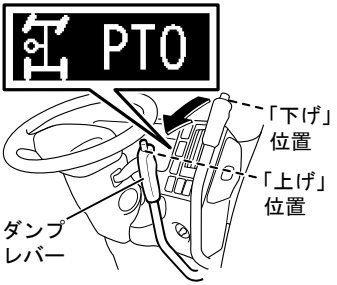
・エンジン冷間時などに、アイドリング回転数を自動的に上げてエンジンを暖機する補助機能。



荷台の上昇（AMT 車）

① パーキングブレーキレバーを確実に引き、車を完全に停止させた状態でトランスミッションのシフトレバーを“N”位置にし、エンジンを始動します。

② PTO スイッチを押すと“ピーピーピー”とブザーが鳴ります。



③ ダンプレバーを“上げ”位置の方向に引くとブザー音が“ピッ…ピッ…”と変わり、荷台が上昇します。荷台は最上昇の位置に達すると自動的に停止します。

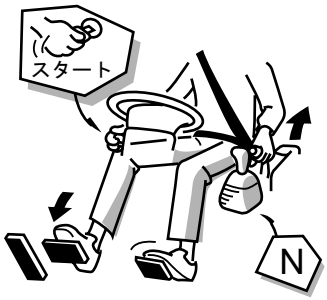
注 意

・荷台をエンジン停止後、再上昇させる場合は、必ず PTO スイッチを“OFF”にしてからエンジンを再始動し、操作を行ってください。
この操作を行わないと荷台は上昇しません。

アドバイス

・ダンプレバーのみを操作しても荷台は上昇しません。必ず、PTO スイッチを押して、ブザーが鳴っていることを確認してから、ダンプレバーを操作してください。

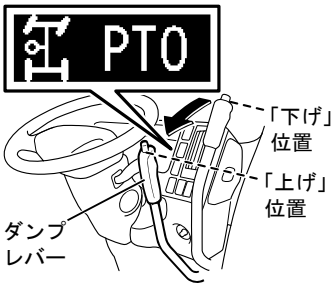
荷台の上昇
（マニュアルトランスミッション車）



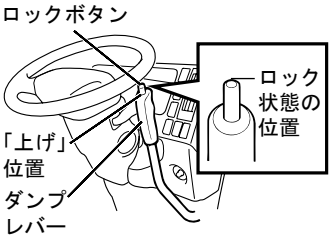
① パーキングブレーキレバーを確実に引き、車を完全に停止させた状態でトランスミッションのシフトレバーを“N”位置にし、エンジンを始動します。

② クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、少し間をおいてからダンプレバーを“上げ”の位置にすると、「PTO」がマルチディスプレイに表示されます。

PTO（作動中）★ → 4-61 ページ参照



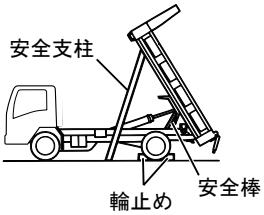
③ ゆっくりクラッチペダルから足を離すと荷台が上昇し始めます。
荷台は最上昇の位置に達すると自動的に停止します。



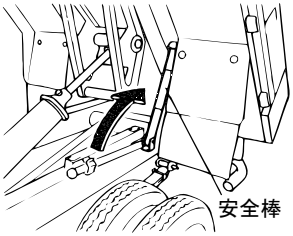
荷台を上げたままにするとき

⚠ 注 意

- 洗車、点検整備などのため、荷台を上げたままにするときは、必ず平らな場所でパーキングブレーキレバーを確実に引き、輪止めをかけ、荷台を“空”にして、安全棒や安全支柱などで荷台の降下止めをしてください。
- 点検整備等のときは安全支柱および輪止めを必ず併用してください。“**労働安全衛生規則第 151 条の 9**”で定められています。
- 作業をする人以外は、荷台の下に入らないでください。

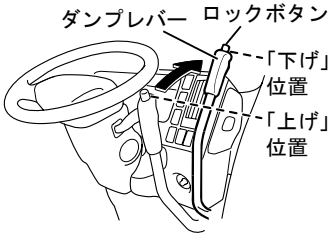


① 運転室内のダンプレバーを“**上げ**”の位置にし、ダンプレバーがロックの状態になっていることを確認します。
② 荷台が最上昇した状態で必ずエンジンを停止します。



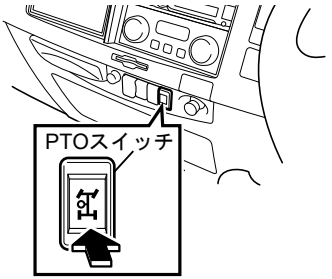
③ 安全棒をセットし、荷台を固定します。
荷台の下に入って作業をするときは、必ず安全支柱および輪止めにて荷台と車両を固定してください。

荷台の降下のしかた（AMT 車）



① ダンプレバーのロックボタンを押し、“**上げ**”位置にあるダンプレバーを“**下げ**”位置にします。荷台は自重で下降します。このとき、マルチディスプレイの「PTO」が消えます。

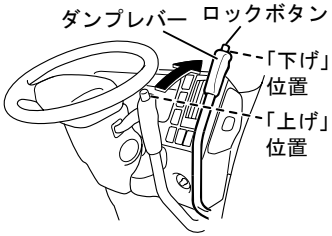
PTO（作動中）★ → 4-61 ページ参照



② PTO スイッチを押すと、ブザーが鳴りやみます。

知 識

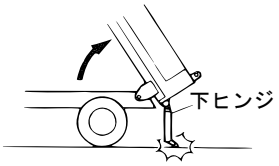
・ダンプレバーを“下げ”位置から続けて“上げ”位置にして荷台の上昇を行う際、PTO ギヤのギヤ鳴りが発生することがありますが、異常ではありません。一度、“下げ”位置に戻し、PTO スイッチを押してブザーを止め、再度 PTO スイッチを押してダンプレバーを操作することでギヤ鳴りの発生を抑えることができます。

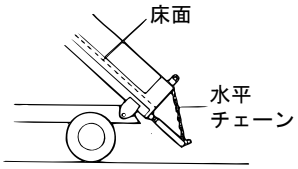


荷台の降下のしかた
（マニュアルトランスミッション車）

ダンプレバーのロックボタンを押し、“上げ”位置にあるダンプレバーを“下げ”位置にします。荷台は自重で下降します。このとき、マルチディスプレイの「PTO」が消えます。

PTO（作動中）★ → 4-61 ページ参照





⚠ 注 意

・車を発進させるときには次のことを確認してください。
- 荷台が完全に下降していること。
- ダンプレバーが“下げ”位置に確実にロックされ、ダンプレバーが作動しないこと。
- 各アオリが確実に固定されていること。

・荷台を下降させるときには、ダンプ機構に大きな力が加わるのを防ぐために、ダンプレバーはゆるやかに操作してください。

・下ヒンジ（上方開き）による後部アオリ（三転ダンプは左右アオリも含む）の開閉では以下の点に注意してください。
- ダンプした状態でのアオリ上方開きの開閉作業は行わないでください。アオリや積荷の落下のおそれがあり危険です。荷台が完全に下りた状態で行ってください。
- 上方開きのままでダンプする作業は避けてください。地面にアオリが突き当たりヒンジなどを破損したり、下側ヒンジが外れ、ゲートが落下するおそれがあります。
- 水平チェーンなどを使って、アオリを床面と水平位置に保持して上方開きのままダンプすることはできます。ダンプしたときに後部アオリと地面の隙間を十分にとってください。

・積荷を積んだ状態で、左右アオリまたは、後部アオリを開けるときは、十分に注意してください。
積荷が落下し危険です。

・ダンプした状態で荷台に上って作業するのは大変危険ですのでやめてください。荷台に上っての作業は、必ず完全に荷台が下りた状態で行ってください。

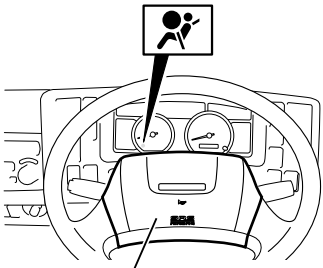
知 識

・水平チェーンは特別仕様です。《日産販売会社》にご相談ください。

プリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグシステム

プリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグシステムは、一定以上の衝撃が加わる前面衝突時に、プリテンショナー付シートベルトと SRS エアバッグを作動させ、運転者や助手席乗員（助手席用 SRS エアバッグ装着車）の身体をシートに確実に拘束しつつ、頭部への衝撃を緩和させる装置です。プリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグの衝撃により、命にかかわる重大なケガをしないよう次のことを必ずお守りください。

作動確認



運転席用SRSエアバッグ
アッセンブリー

スタータースイッチを“ON”位置にすると SRS エアバッグ警告灯が 7 回点滅し、消灯すれば正常です。
SRS エアバッグ警告灯が点灯すると、万一のとき、SRS エアバッグ装置が作動しないおそれがあります。

⚠ 注 意

・初期の 7 回点滅がないとき、あるいは消灯しないときや、走行中点灯したときは、ただちに《日産販売会社》で点検、修理を受けてください。

⚠ 警 告

・不正な改造や用品を取り付けるとプリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグが正常に作動しない場合があります。

・正規以外のハンドルに交換したり、パッド部にステッカーなどを貼ると作動不良やステッカーが飛ぶおそれがあり危険です。またインストルメントパネル上面にステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤など物を置かないでください。正常に機能しなくなったり、作動時にこれらの物が飛ぶことがあり危険です。

・下記の事項を行う場合は特別な処置が必要になる場合がありますので必ず《日産販売会社》にご相談ください。プリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグが不意に作動し、シートベルトが巻き込んだり、SRS エアバッグがふくらみケガをすることがあります。またシステムに悪影響を与え作動不良や故障の原因になります。

- ハンドル、インストルメントパネル、センターコンソール・クラッチペダル・ブレーキペダル周辺の修理・交換する場合。
- プリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグの修理・交換・廃棄、またプリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグ装着車を廃棄する場合。
- オーディオ機器や用品の取り付け、また架装など改造を行う場合。
- 車両前部、キャブの板金塗装を行う場合。

⚠ 注 意

下記の場合はただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

・SRS エアバッグ警告灯が異常を示した場合。

・プリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグが作動した場合。(SRS エアバッグ警告灯が点灯します。)

・プリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグが作動しなかった場合でも、ある程度の衝撃を車両前方から受けた場合。

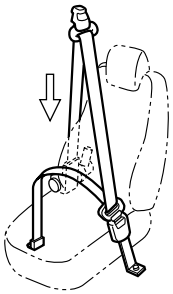
・シートベルトにほつれやすり切れがある場合。

・ステアリングパッド表面に傷、亀裂、その他表面に衝撃が加わった場合。

・インストルメントパネル表面に傷、亀裂、その他表面に衝撃が加わった場合。

SRS エアバッグ警告灯→ 4-39 ページ参照

プリテンショナー付シートベルト



前面衝突時、一定以上の衝撃を受けたとき装着しているシートベルトが瞬時に巻き取られ、シートベルトのたるみを取り去り乗員をシートへ確実に拘束しシートベルトの効果を高める装置です。

シートベルト → 3-57 ページ参照

⚠ 警 告

- プリテンショナー付シートベルトは、前方からの一定以上の衝撃を受けたときなど万一のときに、乗員の重大な傷害を減らすための装置です。シートベルトを正しく装着したうえで最大の効果を発揮します。
- プリテンショナー付シートベルトは重大な傷害を減らすため、シートベルトのたるみを瞬間的に巻き取ります。このとき擦り傷やこすれによる軽いやけど、軽い打撲症などを負うことがあります。

⚠ 注 意

- シートベルトの取り外し、分解は行わないでください。誤作動により部品が飛散しケガを負うことや作動不良の原因になります。

アドバイス

- プリテンショナー付シートベルトは衝突時に作動すると再使用はできません。ただちに最寄りの《日産販売会社》で交換をしてください。

知 識

- プリテンショナー機能が万一故障しても通常のシートベルト（ELR 付）として作動し、シートベルトの機能は確保されます。
- プリテンショナー機能が作動する瞬間に音がでます。
- プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグが作動すると警告灯が点灯します。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグ（乗員保護補助装置）は、一定以上の衝撃の前面衝突時に作動しエアバッグをふくらませ、プリテンショナー付シートベルトの作動とともに乗員の身体への衝撃を分散・緩和させるシートベルトの補助装置です。

⚠ 警 告

- SRS エアバッグは、前方からの一定以上の衝撃を受けたときなど万一のときに、乗員の重大な傷害を減らすためプリテンショナー付シートベルトと併せて作動する補助装置です。シートベルトを正しく装着した場合に最大の効果を発揮します。
- SRS エアバッグはシートベルトに代わるものではありません。必ずシートベルトを装着してください。
- SRS エアバッグは、重大な傷害を減らすために瞬時にかなりの力でふくらみます。このとき、擦り傷や、こすれによる軽いやけど、軽い打撲症などを負うことがあります。

アドバイス

- SRS エアバッグがふくらむと音がし、白煙がでますが火災ではありません。また、この白煙は人体に影響はありません。ただし、残留物（ガスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱いかたなどまれに皮膚を刺激する場合があります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は SRS エアバッグをふくらます金属部などは高温になっていますので触れないでください。
- SRS エアバッグは一度ふくらむと再使用することはできません。ただちに《日産販売会社》で交換をしてください。

知 識

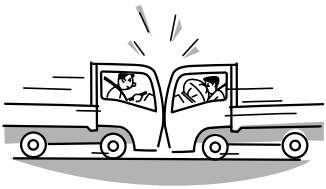
- SRS は Supplemental Restraint System（サプリメンタル・レストレイント・システム：乗員保護補助装置）の略です。
- SRS エアバッグは展開後、すぐにしぼみ視界を妨げることはありません。
- プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグが作動すると SRS エアバッグ警告灯が点灯します。

プリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグの作動について

プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグは一定以上の衝撃を前面衝突時に受けたときに作動します。衝突時に衝撃が緩和されたり、衝撃を受ける強さや、方向により作動しない場合があります。また、衝撃により車両前部が大きく変形しても、座席への衝撃は大きくならない場合があります。車両の変形、損傷と SRS エアバッグの作動とは必ずしも一致しません。

SRS エアバッグが作動する場合

駐停車している車両や走行中の車両に一定以上の衝撃で、前面衝突したとき



堅固な壁に一定以上の衝撃で、前面衝突したとき



⚠ 警 告

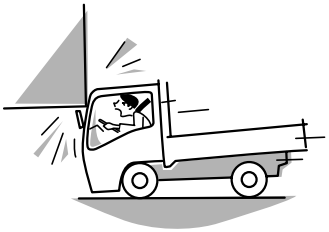
・SRS エアバッグがふくらんだ直後は、SRS エアバッグをふくらます金属部などが高温になっているため、さわらないでください。やけどなど重大なケガをするおそれがあります。

プリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグが作動しないこともある場合
次の場合、プリテンショナー付シートベルト & SRS エアバッグシステムが正常であっても作動しにくいことがあります。

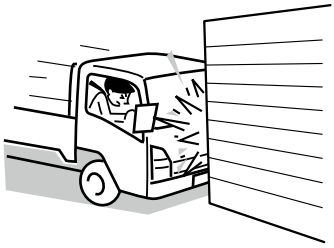
電柱、立ち木などへ衝突したとき



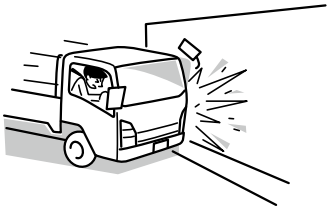
障害物や車両などの下にもぐり込んだとき



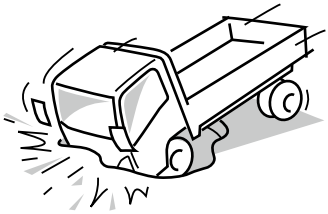
オフセット衝突（片側衝突）したとき



斜め前方から衝突したとき



衝突以外でも SRS エアバッグが作動することがある場合



- 道路に開いた穴や溝に落ちたとき
- 路上の突起物などの障害物に強く衝突したとき
- 高速で縁石などに衝突したとき
- 車両がジャンプして地面に衝突し、車両下部に強い衝撃を受けたとき

⚠ 警 告

- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、SRS エアバッグをふくらます金属部などが高温になっているため、さわらないでください。やけどなど重大なケガをするおそれがあります。

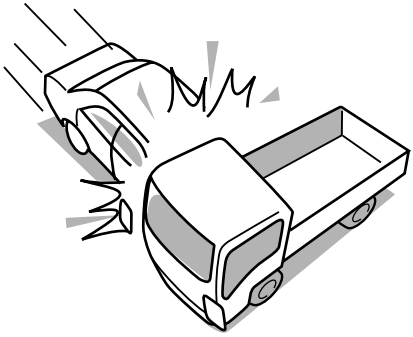
プリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグが作動しない場合

次の場合、プリテンショナー付シートベルト& SRS エアバッグシステムが正常であっても作動しません。

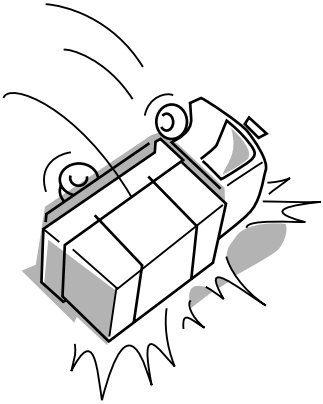
車両後方から衝突されたとき



横方向から衝突されたとき



車両が横転や、転覆したとき



⚠ 警 告

・キャブの塗装板金、ハンドル周辺、インストルメントパネル周辺、センターコンソール周辺の修理やオーディオなど用品の取り付けおよびダッシュボード周辺の修理は、SRS エアバッグシステムに悪影響を与えたり、エアバッグが不意にふくらみエアバッグの衝撃により、命にかかわる重大なケガをするおそれがありますので、ご自分で行わず必ず《日産販売会社》にご相談ください。

・車両前部（バンパー / フレーム）の改造や装置（スノープラウ）などの取り付け、フレームの改造、車高の改造を行う際に、不正な改造や用品の装着をするとSRS エアバッグシステムが正常に作動しない場合があります。必ず《日産販売会社》にご相談ください。

・SRS エアバッグを廃棄する際は特別な処置が必要になります。SRS エアバッグシステム装着車を廃棄する際は《日産販売会社》にご相談ください。

⚠ 注 意

下記の場合はすぐに《日産販売会社》で点検を受けてください。

・SRS エアバッグ警告灯が消灯しないときや、たびたび点灯する場合。

・SRS エアバッグがふくらんだ場合。

・車両前方にある程度の衝撃を受けたがエアバッグがふくらまなかった場合。

・ステアリングパッド表面に傷、亀裂、その他表面に、衝撃が加わった場合。

・インストルメントパネル表面に傷、亀裂、その他表面に、衝撃が加わった場合。

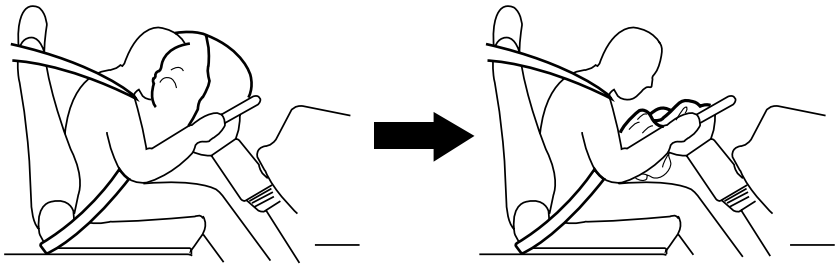
知 識

・SRS エアバッグがふくらむと白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。ただし、残留物（ガスなど）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱いかたなどまれに皮膚を刺激する場合があります。

・SRS エアバッグは一度ふくらむと再使用することはできません。《日産販売会社》で交換をしてください。

SRS エアバッグの展開

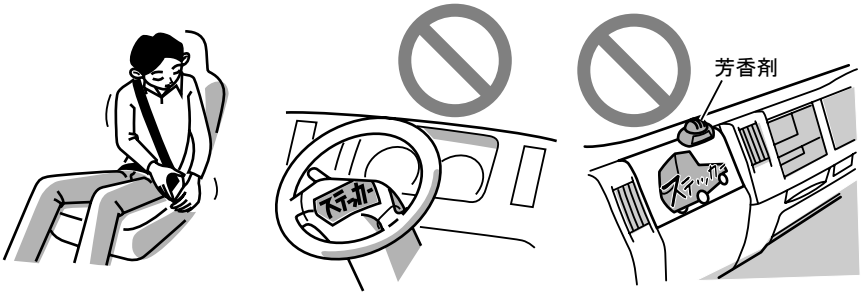
一定以上の衝撃の前面衝突時に、SRS エアバッグシステムは作動し瞬時にエアバッグがふくらみます。すぐにしぼみ視界を妨げることはありません。



SRS エアバッグの効果を十分に発揮させるために

⚠ 警 告

- 運転をする前に、正しい運転姿勢になるようにシートの位置を調整し、シートベルトを正しく着用してください。必要以上にハンドルに近づいたり、もたれかかったりしないでください。また、助手席用 SRS エアバッグ付車ではインストルメントパネルに手や足を乗せたり、顔や胸を近づけた姿勢で座らないでください。エアバッグが作動したときの衝撃により、腕や顔面などにやけどや、重大なケガをするおそれがあります。また、インストルメントパネル上面にステッカー類を貼ったりアクセサリーや芳香剤など物を置かないでください。正常に機能しなくなったり作動時にこれらの物が飛ぶことがあり危険です。
- 正規以外のハンドルに交換したり、パッド部にステッカーなどを貼ると作動不良や、ステッカーが飛ぶおそれがあり危険です。

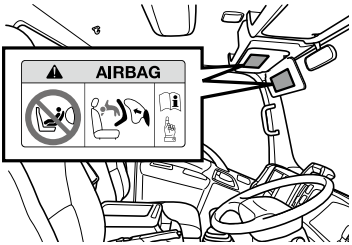


お子様を乗せるときは

⚠ 警 告

・お子様を同乗させるときは、必ず次のことをお守りください。SRS エアバッグがふくらんだときの衝撃により、お子様の生命にかかわる重大な傷害をうけるおそれがあります。

- お子様を助手席用 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりした状態で走行しないでください。助手席用 SRS エアバッグがふくらんだときに強い衝撃をうけ危険です。
- 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、絶対にチャイルドシートをうしろ向きに装着しないでください。事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだときの衝撃により、お子様が重大な傷害をうけたり、最悪の場合は死亡につながるおそれがあります。助手席のサンバイザー（日よけ）に警告ラベルが貼りつけてありますので、確認してください。



SRS エアバッグの取り扱い

⚠ 警 告

- エアバッグの取り外し、分解は行わないでください。誤作動や、作動不良の原因になります。
- SRS エアバッグ付近に物を置かないでください。SRS エアバッグがふくらむ力で物が飛びケガをするおそれがあります。
- ハンドルを枕代わりにしたり、また手足を乗せて休息をとらないでください。スタータースイッチが“ON”位置のとき停車中に一定以上の衝撃を前面に受けたとき、SRS エアバッグがふくらみ強い衝撃を受け、ケガをするおそれがあります。
- ひざの上にものをかかえるなど乗員と SRS エアバッグの間にものを置いた状態で走行しないでください。SRS エアバッグがふくらんだときに、ものが飛ばされ顔に当たったり、SRS エアバッグの正常な作動がさまたげられ危険です。
- SRS エアバッグセンサー部へ水をかけたり、衝撃を与えないでください。誤作動の原因となり危険です。

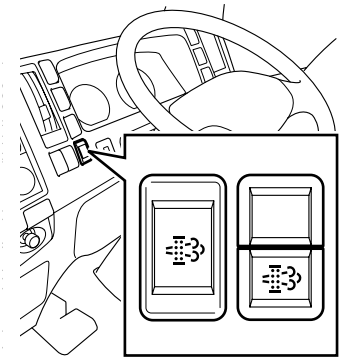


D P F

DPF（ディーゼルパティキュレートフィルター）は排気ガス中の PM（粒子状物質）を浄化するものです。DPF フィルターに PM を捕集し、一定量堆積すると自動的にフィルターを再生（PM を燃焼）させます。DPF の故障を防ぐため、必ず次の点をお守りください。

DPF の PM 堆積量表示
→ 4-29 ページ参照
DPF の再生進捗表示 → 4-30 ページ参照

DPF スイッチ





（橙、点滅）

DPF の手動再生（PM の燃焼）を行うスイッチです。
「DPD スイッチ押して下さい」表示（橙）が点滅（毎秒約 1 回）し、同時に音声警報が鳴ると DPF の再生操作が必要です。運行が終了するなど駐車する際に“**手動再生手順**”に従い再生操作を行ってください。
なお、点滅（毎秒約 1 回）した状態で走行を続けると速い点滅（毎秒約 3 回）に変わり、同時に音声警報が繰り返し鳴ります。この状態で走行を続けると DPF が故障するおそれがありますので、ただちに安全な場所に停車し、再生操作を行ってください。

アドバイス

・再生操作を行わずにそのまま走行し続けると、エンジン制御警告灯が点灯し、《日産販売会社》で DPF の修理が必要となります。

知 識

・DPF は DPF フィルター内に PM（粒子状物質）が一定量堆積するとフィルターの再生（PM を燃焼）を自動的に行いますが走行条件によっては再生（PM を燃焼）が完了しない場合があります。このとき、マルチディスプレイに「DPD スイッチ押して下さい」表示（橙）が点滅し、同時に音声警報が鳴ります。手順に従って手動再生を行ってください。
なお、これは DPF の機能を回復するものであり、故障ではありません。

DPF の手動再生手順



① 草木や枯れ草、紙くずなど、燃えやすいものがない安全な場所に停車してください。

⚠ 注 意

・火災防止のため、マフラー、DPF、尿素 SCR および排気管の周辺に可燃物がないことを確認してください。また高温の排出ガスによりやけどをするおそれがあります。

・排気管の出口が右後輪前側にあるお車については、輪止めを使用する際、次のことに注意してください。

- 輪止めは排出ガスのかからない場所に設置してください。
- 右後輪前側に設置する場合は、金属製など耐熱性の高い輪止めを使用してください。DPF 再生終了後は輪止めが高温になっている場合があります。輪止めを外す際は、保護具（作業手袋など）を着用するなどして、やけどには十分注意してください。

② シフトレバーを“N”位置にし、確実にパーキングブレーキレバーを引いてください。アイドリングストップ付車はエンジンが自動停止した場合、スタータースイッチの操作でエンジンを再始動してください。
③ エンジンをアイドリング状態にします。アイドルアップノブによってエンジン回転を上げているときは、左いっぱいに戻し、エンジン回転を下げておきます。
④ PTO 装着車は、PTO の作動を停止してください。PTO スイッチおよび外部アクセルコントロールを戻します。
⑤ DPF スイッチを押します。
⑥「DPD スイッチ押して下さい」表示（橙）の点滅が「DPD 手動再生中」表示（橙）の表示に変わり、エンジン回転が自動的に上がって再生が始まります。
⑦ 再生中は、車から離れないでください。再生は、通常 20 ～ 25 分程度で終了します。
⑧「DPD 手動再生中」表示（橙）が消えると再生は終了です。通常の走行ができます。



（橙）

警 告

・再生中は白煙が発生する場合がありますので換気の悪い屋内での再生を行わないでください。

アドバイス

・PTO 装着車で長時間 PTO を稼動させる場合、「DPD スイッチ押して下さい」表示（橙）が点滅していないことを確認してください。

知 識

・再生終了までの時間は外気温度によって異なります。
・DPF 再生中は排気ブレーキまたは排気スロットルが作動します。排気ブレーキまたは排気スロットル作動中および解除時に作動音が発生しますが、故障ではありません。
・再生時には PM（粒子状物質）の燃焼に伴い、白煙が一時的にテールパイプから発生する場合がありますが故障ではありません。
・手動再生はエンジンが冷えているときより走行直後の方が早く終了します。
・手動再生中は、冷却水温が上昇することがあります。

手動再生の中断

やむをえず再生を中断して走行したい場合は、DPF スイッチをもう一度押してください。

マルチディスプレイの「DPD 手動再生中」表示（橙）が「DPD スイッチ押して下さい」表示（橙）の点滅に変わり、同時に音声警報が鳴ります。この状態から走行することができますが、DPF の再生は中断したままですので、できるだけ早く停車して再度 DPF スイッチを押し、手動再生が終了するまでお待ちください。

アドバイス

・手動再生操作を行わずにそのまま走行し続けると、エンジン制御警告灯が点灯し、《日産販売会社》で DPF の修理が必要となります。

DPF の自動再生



（緑）

自動再生中はマルチディスプレイに「DPD 自動再生中」（緑）を表示します。

DPF スイッチを操作する必要はありません。

自動再生中にエンジンを停止すると再生は中断されますが、エンジンを再始動すると再生も自動的に再開します。

この状況を繰り返すと自動再生が完了せず、「DPD スイッチ押して下さい」表示（橙）が点滅し、同時に音声警報が鳴ります。手動再生が必要になりますので自動再生中は、なるべくエンジンを停止させないことをお奨めします。

アドバイス

・手動再生操作を行わずにそのまま走行し続けると、エンジン制御警告灯が点灯し、《日産販売会社》で DPF の修理が必要となります。

知 識

・停車中のアイドリング時に、エンジン回転数が上昇し排気ブレーキまたは排気スロットルが作動することがあります。このときは DPF の自動再生中です。故障ではありません。

・自動再生中および解除時に作動音が発生しますが故障ではありません。

・長時間のアイドリングや PTO 連続運転中の負荷状態によって自動的に DPF の再生が行われる場合があります。このとき、マルチディスプレイに「DPD 自動再生中」表示（緑）または「DPD 手動再生中」表示（橙）が表示されますが異常ではありません。

・通常走行では自動再生が行われますが、以下のような走行条件によっては自動再生が完了せず、「DPD スイッチ押して下さい」表示（橙）が点滅し、同時に音声警報が鳴ります。手順に従って手動再生を行ってください。

- 車速 15km/h 以下の低速走行しか行わない場合。
- エンジンの始動と停止を頻繁に行う場合。
- 毎回、エンジンの暖機が終わる前にエンジンを停止する場合。
- 長時間のアイドリング運転（1 時間以上）を頻繁に行う場合。

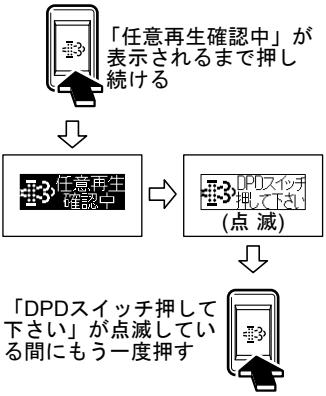
DPF の任意手動再生手順

DPF フィルターに PM が堆積し、「DPD 自動再生中」表示（緑）を表示、または「DPD スイッチ押して下さい」表示（橙）が点滅する前に、任意で手動再生ができる機能です。運行の合間や、運行終了後などのエンジン（水温）および排気管が暖まっている状態のときに行ってください。

⚠ 注 意

- 任意手動再生は中断せずに完了するまで実行してください。
- 再生中は車から離れないでください。
- 火災防止のため、マフラー、DPF、尿素 SCR および排気管の周辺に可燃物がないことを確認してください。
- 高温の排出ガスによりやけどをするおそれがあります。
- 排気管の出口が右後輪前側にあるお車については、輪止めを使用する際、次のことに注意してください。
  - 輪止めは排出ガスのかからない場所に設置してください。
  - 右後輪前側に設置する場合は、金属製など耐熱性の高い輪止めを使用してください。DPF 再生終了後は輪止めが高温になっている場合があります。輪止めを外す際は、保護具（作業手袋など）を着用するなどして、やけどには十分注意してください。

① 草木や枯れ草、紙くずなど、燃えやすいものがない安全な場所に停車してください。
② エンジンをアイドリング状態にし、シフトレバーを“N”位置にして確実にパーキングブレーキレバーを引いてください。アイドリングストップ付車はエンジンが自動停止した場合、スタータースイッチの操作でエンジンを再始動してください。
③ アイドルアップノブを操作してエンジン回転数を上げている場合は、通常のアイドリング状態に戻してください。
また、PTO 装着車は、PTO の作動が停止していることを確認します。



④ マルチディスプレイに「任意再生確認中」（橙）が表示されるまで DPF スイッチを押し続けます。
「任意再生確認中」表示（橙）から「DPD スイッチ押して下さい」表示（橙）の点滅に変わります。
⑤ もう一度、DPF スイッチを押します。
⑥「DPD スイッチ押して下さい」表示（橙）の点滅が「DPD 手動再生中」表示（橙）の表示に変わり、エンジン回転が自動的に上がって再生が始まります。
⑦ 再生中は、車から離れないでください。再生は、通常 20 ～ 25 分程度で終了します。
⑧「DPD 手動再生中」表示（橙）が消えると再生は終了です。通常の走行ができます。

警 告

・再生中は白煙が発生する場合がありますので換気の悪い屋内での再生を行わないでください。

アドバイス

・DPF フィルター内に PM（粒子状物質）が一定量堆積していないときは、DPF スイッチを押し続けても「任意再生確認中」表示（橙）が「DPD スイッチ押して下さい」表示（橙）の“**点滅**”に変わりません。このとき DPF 再生の必要はないため、DPF スイッチを押しても再生は開始されません。
・DPF の任意手動再生を頻繁に繰り返すと、エンジンに悪影響をおよぼすおそれがあるため、過度な使用は控えてください。
・万一、任意手動再生中に走行開始などで再生が中断した場合、「DPD 手動再生中」表示（橙）が「DPD スイッチ押して下さい」表示（橙）の“**点滅**”に変わり、同時に音声警報が鳴ります。ただちに停車して再度 DPF スイッチを押し、任意手動再生が終了するまでお待ちください。点滅したまま走行を続けたり、PTO の作動を継続しないでください。

知 識

・再生終了までの時間は外気温度によって異なります。
・DPF 再生中は排気ブレーキまたは排気スロットルが作動します。排気ブレーキまたは排気スロットル作動中および解除時に作動音が発生しますが、故障ではありません。
・再生時には PM（粒子状物質）の燃焼に伴い、白煙が一時的にテールパイプから発生する場合がありますが故障ではありません。
・再生はエンジンが冷えているときより走行直後の方が早く終了します。
・再生中は、エンジンの水温が上昇することがあります。

長時間のアイドリングによる DPF 再生について

知 識

・長時間のアイドリングや PTO 連続運転中の負荷状態によって自動的に DPF の再生が行われる場合があります。このとき、マルチディスプレイに「DPD 自動再生中」表示（緑）または「DPD 手動再生中」表示（橙）を表示しますが、異常ではありません。
・「DPD 自動再生中」表示（緑）が表示されている場合、DPF スイッチを操作する必要はありません。通常走行もできます。
・「DPD 手動再生中」表示（橙）が表示されている場合、走行すると「DPD スイッチ押して下さい」表示（橙）の点滅に変わり、再生が中断します。
また、PTO を接続したり、PTO 連続運転から PTO 作業を終了しても再生は中断します。
DPF の手動再生手順に従い手動再生を行ってください。

DPF の手動再生手順 → 4-229 ページ参照

DPF の音声警報について

下記の場合、音声警報「安全な場所に停車して、DPD の再生を行ってください」が鳴りお知らせします。
ただちに DPF の手動再生手順に従い、再生操作を行ってください。

DPF 表示		警報回数	状　況
 (橙)	毎秒約 1 回点滅	3 回	手動再生が必要になったとき
	毎秒約 3 回点滅	3 回警報＋ 60 秒間隔を連続（手動再生操作を行うまで）	手動再生を行わず走行を続けたとき

尿素 SCR システム

尿素 SCR システムは、排気ガス中の窒素酸化物（NOx）を浄化するシステムです。尿素水（AdBlue® 相当）を排気ガスの熱で加水分解し、アンモニア（NH_3）を生成します。生成したアンモニアを還元剤として窒素酸化物を還元し、窒素と水に分解して浄化するシステムです。

⚠ 警 告

- 尿素水タンクには、尿素水（AdBlue® 相当）以外のものを入れないでください。
- 尿素水（AdBlue® 相当）を使用するときは、次のことを行うと火災や尿素 SCR システムの故障になるおそれがあります。
  - 水などで希釈する。
  - ガソリンや軽油などを入れる。
- 誤って指定の尿素水（AdBlue® 相当）以外のものを補給したときは、尿素 SCR システムの点検が必要です。ただちに《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。

注 意

・尿素水（AdBlue® 相当）は、身体に触れても問題はありませんが、体質によってはまれに炎症を起こすおそれがありますので、以下の処置を行ってください。
  - 皮膚に付着したときは、水で洗い流してください。皮膚の弱いかたなどは、まれに皮膚を刺激する場合があります。
  - 誤って飲んでしまったときは、コップ 1 ～ 2 杯の水または牛乳を飲み、ただちに医師の診断を受けてください。
  - 目に入ったときは、すぐに大量の水で 15 分以上洗い流し、医師の診断を受けてください。

アドバイス

・日産指定の尿素水（AdBlue® 相当）を使用してください。
  - 尿素水（AdBlue® 相当）は、JIS（日本工業規格）AUS 32 JIS K2247、または ISO（国際標準化機構）AUS 32 ISO 22241 の規格に適合した尿素水（AdBlue® 相当）を使用してください。
・排気ガス浄化性能に影響をあたえるおそれがあるため、排気管、マフラーの改造や尿素水タンクなどの移設は行わないでください。改造や移設が必要な場合は、最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。
・尿素水（AdBlue® 相当）が「再始動禁止中」（尿素水補給）の状態で補給せずに凍結すると、尿素水（AdBlue® 相当）が解凍するまで、エンジン始動ができない場合があります。常に満水になるように早めの補給を心がけてください。

再始動禁止中（尿素水補給）
→ 4-68 ページ参照

知 識

【尿素 SCR とは】

・尿素 SCR とは、尿素 Selective Catalytic Reduction（セレクティブキャタリティックリダクション）の略で、尿素を分解して得られるアンモニアを還元剤とする選択還元型触媒を意味します。

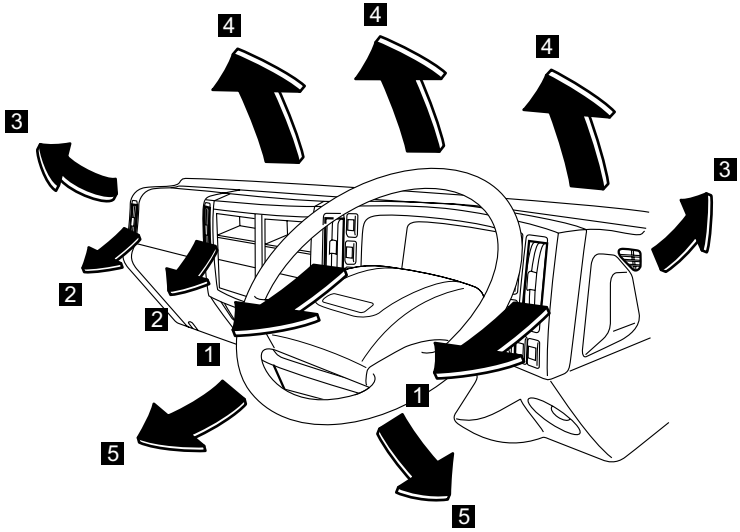
【AdBlue® とは】

・AdBlue® は、尿素 SCR システム専用の水溶液です。
・AdBlue® は、-11℃で凍結します。尿素 SCR システムは、電熱線を使ったヒーター機能を装備しているので、尿素水（AdBlue® 相当）が凍結したときもエンジン始動ができます。
・AdBlue® はドイツ自動車工業会（VDA）の登録商標です。

室内装置の取扱い 5

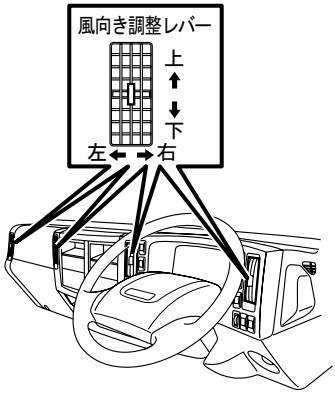
- 吹き出し口 5-2
- ヒーター / マニュアルエアコン★ 5-3
- フルオートエアコン★ 5-9
- エアコンフィルター 5-16
- クーラーガス（冷媒量） 5-18
- ルームランプ（室内灯） 5-19
- ステップランプ★ 5-21
- オイルパンヒーター用コンセント★ 5-22
- サンバイザー（日よけ）★ 5-22
- シガレットライター★ 5-23
- アクセサリーソケット（24V）★ 5-24
- 灰皿★ 5-25
- ポケット（小物入れ）★ 5-27
- カードホルダー 5-27
- グローブボックス（小物入れ）★ 5-28
- センターコンソールボックス（小物入れ）★ 5-29
- シートバックポケット 5-29
- シートサイドトレイ★ 5-30
- ヘッダートレイ★ 5-30
- センターシートバックトレイ★ 5-31
- カップホルダー 5-31
- バックパネルトレイ（小物入れ）★ 5-32
- ハンガーフック★ 5-32
- コンビニフック 5-33
- オーディオを上手にお使いいただくために 5-34
- アンテナ 5-36
- オーディオ（Bluetooth® 付）★ 5-37

吹き出し口



No.	吹き出し口	特　徴
1	運転席側吹き出し口	レバーで風向きを調整できます。
2	助手席側吹き出し口	レバーで風向きを調整できます。
3	サイドデフロスター	ドアウインドーガラスへ
4	デフロスター	フロントウインドーガラスへ
5	足元吹き出し口	足元へ

風向き調整レバー



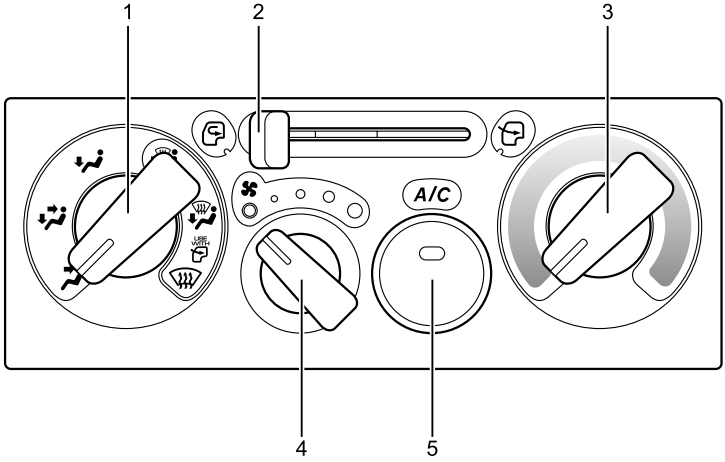
吹き出し口からの風向きを調整することができます。風向き調整レバーを下げると吹き出し口を閉じることができます。

ヒーター / マニュアルエアコン★

知 識

・エンジン保護のため、一部の架装物によってはエアコン作動中に PTO スイッチを“ON”にすると、エアコンが停止します。エアコンを使用するときは、PTO スイッチを“OFF”にし、エアコンを作動させてください。

スイッチ、レバーの使いかた



No.	名 称
1	吹き出し口切替えノブ
2	内外気切替えレバー
3	温度調整ノブ

No.	名 称
4	ファンスイッチノブ
5	エアコン（A/C）スイッチ

1. 吹き出し口切替えノブ

レバー位置	目 的	吹き出し口
	フェイス	1、2 より吹き出します。
	バイレベル	1、2、5 より吹き出します。
	足元	5 より吹き出します。
	足元、デフロスター 1	5 より吹き出し 3、4 からわずかに吹き出します。
	足元、デフロスター 2	5 より吹き出し 3、4 の吹き出し量が“ ”より増加します。
	デフロスター	3、4 より吹き出します。

知 識

・“VSIM”このマークは“”、“”、“”を使用し、ガラスの曇りを防ぐときは、外気導入で使用することをお奨めするマークです。

2. 内外気切替えレバー

レバー位置	目　的	
	外気導入	換気をする位置（通常の位置）
	内気循環	トンネルや渋滞地域などで外気が汚れているとき。

知 識

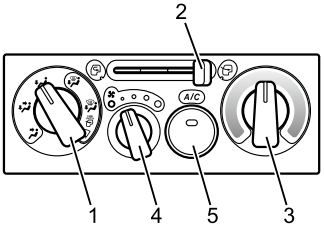
・長時間の内気循環の使用は、ガラスが曇り易く視界が悪くなります。

3. 温度調整ノブ
お好みの車内温度にセットすることができます。調整ノブを一番左側の位置にすると吹き出し温度が低くなり、ノブを一番右側にすると吹き出し温度が高くなります。
4. ファンスイッチノブ
エアコン風量を 4 段階に調整することができます。
5. エアコン（A/C）スイッチ
エアコンを使用するときに押します。このとき、スイッチ内のパイロットランプが点灯し、エアコンが作動していることを表示します。また、暖房使用時には除湿暖房として使用できます。

知 識

・エアコン（A/C）スイッチを“ON”にしても、ファンスイッチノブが“OFF”の状態ではエアコンは作動しません。必ずファンスイッチを“ON”の状態にしてください。
・エアコンを常用しないときも、装置各部のオイルを切らさないためにときどきエンジンを低回転させた状態で、数分間エアコンを作動させてください。

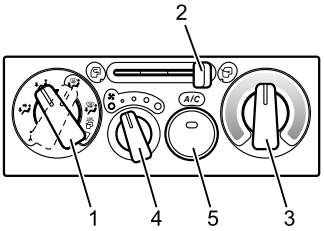
換　気

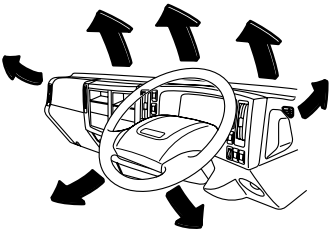


外気導入

エアコン（A/C）スイッチ５を“OFF”にします。吹き出し口切替えノブ１をお好みの位置にします。内外気切替えレバー２を“⟲”の位置にします。温度調整ノブ３を季節や気候により、お好みの位置に合わせてご使用ください。
ファンスイッチノブ４でお好みの風量に調整します。

ヒーター（暖房）の使いかた





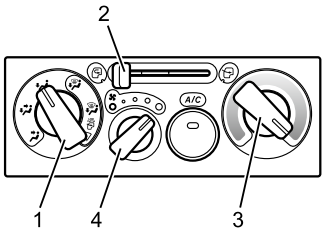
普通暖房

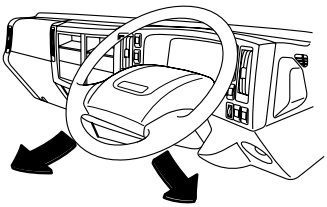
吹き出し口切替えノブ１を“”か“”“”の位置にします。“”の位置にすると足元を暖めながらフロントウインドーガラスの曇りを取ることができます。
内外気切替えレバー２を“⟲”の位置にします。温度調整ノブ３、ファンスイッチノブ４はお好みに合わせて調整します。
エアコン（A/C）装着車では、エアコン（A/C）スイッチ５を“ON”にすると、除湿しながら暖房することができます。

知 識

・ヒーターはエンジンの冷却水を利用していますので、冷却水温が低い場合はヒーターの効きが弱くなります。ヒーターの効果を高めたいときは、暖機スイッチを“ON”にしてください。

暖機スイッチ → 4-80 ページ参照





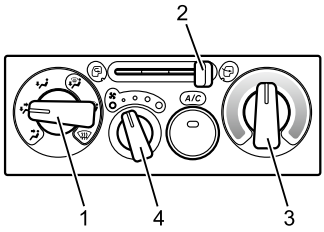
強力暖房

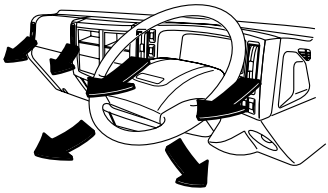
吹き出し口切替えノブ１を“”の位置にし、内外気切替えレバー２を“”の位置にし温度調整ノブ３を HOT 側いっぱいの位置にします。
ファンスイッチノブ４を“**最大風量**”の位置にします。
暖機スイッチを“**ON**”にします。

暖機スイッチ → 4-80 ページ参照

知 識

- 長時間の内気循環の使用は、ガラスが曇り易く視界が悪くなります。
- 暖機スイッチを“**ON**”にすると暖房を促進することができます。

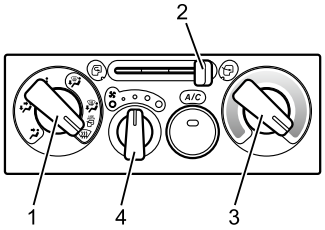


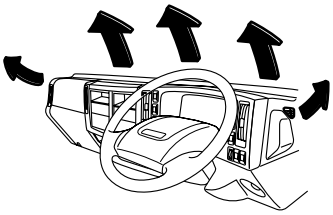


頭寒足熱暖房

吹き出し口切替えノブ１を“”の位置にします。
内外気切替えレバー２を“”の位置にします。
温度調整ノブ３を中間位置にします。
ファンスイッチノブ４はお好みに合わせて調整します。

フロントウインドーガラスの曇り取り



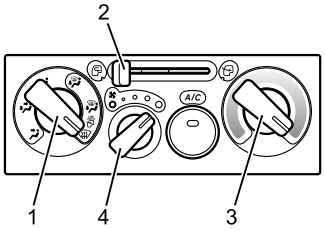


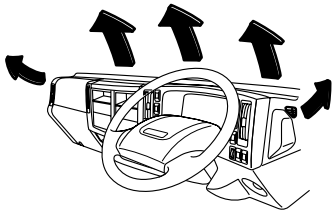
曇り取り

吹き出し口切替えノブ1を“”の位置にします。
内外気切替えレバー２を“”の位置にします。
温度調整ノブ３を HOT 側のお好みの位置にします。夏期などの曇り取りには、温度調整ノブ３をお好みの位置に合わせてください。
ファンスイッチノブ４を“ON”位置にします。
エアコン（A/C）装着車では、曇り取りにエアコンの除湿効果を利用すると大変効果的です。

知 識

・吹き出し口切替えノブ１を“”の位置にして、エアコンを作動させるときは、最大冷房付近にしないでください。ガラスの外側が曇ることがあり前方の視界が悪くなります。





氷結解除

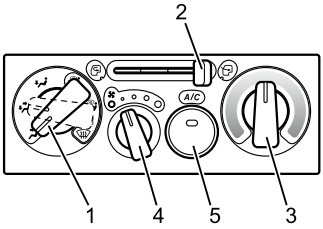
吹き出し口切替えノブ1を“”の位置にします。
内外気切替えレバー２を“”の位置にします。
温度調整ノブ３を HOT 側いっぱいの位置にします。
ファンスイッチノブ４を“**最大風量**”の位置にします。
暖機スイッチを“ON”にします。

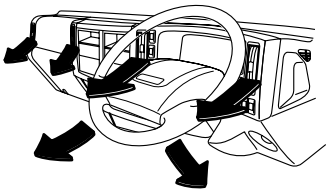
暖機スイッチ → 4-80 ページ参照

知 識

・氷結解除後は、必ず内外気切替えレバーを“”の位置にしてください。そのままにしておくとガラスが曇り易く、前方の視界が悪くなります。

冷　房



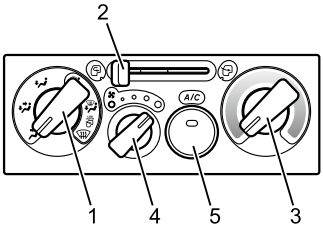


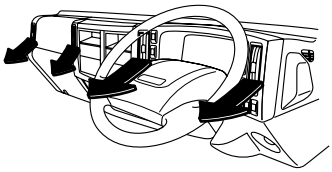
普通冷房およびおだやかな冷房

長時間にわたる冷房や、おだやかな冷房に適しています。
エアコン（A/C）スイッチ５を“**ON**”にします。
吹き出し口切替えノブ１を“ ”の位置（おだやかな冷房には“ ”位置）にします。
温度調整ノブ３を季節や天候に合わせてお好みの位置にします。
ファンスイッチノブ４はお好みに合わせて調整します。

知 識

・炎天下、アイドリング状態でエアコン（A/C）を使用する場合は、内外気切替えレバー２を“ ”の位置にして使用してください。





強力冷房

吹き出し口切替えノブ１を“ ”の位置にします。
エアコン（A/C）スイッチ５を“**ON**”にします。
内外気切替えレバー２を“ ”の位置にします。
温度調整ノブ３を COOL 側いっぱいの位置にします。
ファンスイッチノブ４を“**最大風量**”の位置にします。

知 識

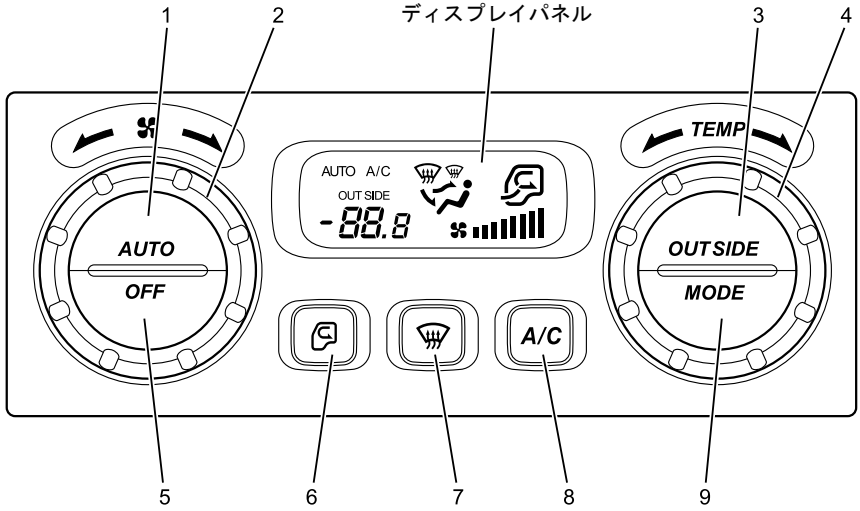
・炎天下に長時間駐車した後などは、窓やドアを開放し、十分室内の熱気を換気してからエアコン（A/C）を作動させてください。
・強力冷房を長時間使用していますと室内の空気が汚れます。時々、内外気切替えレバーを外気導入に切り替えるか、窓を開けて換気を行ってください。
・冷房時、湿った空気が急に冷やされて、吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが異常ではありません。

フルオートエアコン★

知 識

・エンジン保護のため、一部の架装物によってはエアコン作動中に PTO スイッチを“ON”にすると、エアコンが停止します。エアコンを使用するときは、PTO スイッチを“OFF”にし、エアコンを作動させてください。

スイッチの使いかた



No.	名 称
1	AUTO（自動） スイッチ
2	ファンダイヤル
3	車外気温表示スイッチ
4	温度調節ダイヤル
5	OFF（切） スイッチ

No.	名 称
6	内外気切替えスイッチ
7	デフロスタースイッチ
8	エアコンスイッチ
9	吹き出し口切替えスイッチ

1. AUTO（自動）スイッチ
   フルオートで使用するときに押します。スイッチを押すと、吹き出し口の切り替え、風量、エアコンディショニングが自動的に行われます。

知 識

・各スイッチ、ダイヤルは後押し優先になっています。

2. ファンダイヤル
手動で風量を調節するときに使用します。ファンダイヤルを左へ回すと風量が弱に、右に回すと風量が強になります。風量を 8 段階に調節できます。

風　量	弱	中	強	最　強
ディスプレイ表示				

知 識

・通常、エアコンを使用しないときも装置各部のオイルを切らせないために、時々エンジンを低回転させた状態で数分間エアコンを作動させてください。

3. 車外気温表示スイッチ
車外気温を知りたいときに使用します。スイッチを押すごとに車外気温表示と設定室温表示が切り替わります。

知 識

・フルオートエアコンのコントロールユニットで補正を行っていますが、以下の場合実際の外気温より高めに表示されることがあります。
- 渋滞や、エンジンを始動させたまま停車しているとき。
- 日差しが強く路面の照り返しが強いとき。
- 急激な温度変化が生じたとき。

4. 温度調節ダイヤル
温度調節ダイヤルを使い、お好みの室温を設定します。このとき、ディスプレイパネル内に設定温度が表示されます。1 つ回すごとに 0.5℃ずつ変化し、18℃～ 32℃の間で調節することができます。
18℃では最大冷房、32℃では最大暖房に固定されます。
5. OFF（切）スイッチ
ファンおよびエアコンの作動を停止させます。
6. 内外気切替えスイッチ
外気導入と内気循環の切り替えをするときに使用します。スイッチを押すとディスプレイパネルに表示されます。

ディスプレイ表示	目　的	
	外気導入	通常はこの位置にします（換気をします）。
	内気循環	トンネルや渋滞地域などで外気が汚れているとき。

知 識

・長時間の内気循環の使用は、ガラスが曇り易く視界が悪くなります。

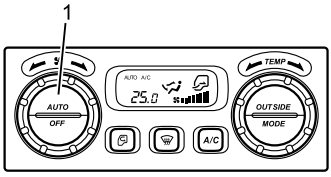
7. デフロスタースイッチ
ウインドーガラスの霜、曇りを取りたいときに使います。スイッチを押すとディスプレイパネルに“⛆”が表示されます。このときエアコンは ON となります。再度スイッチを押すと“⛆”の前の状態に戻ります。

ディスプレイ表示	目　的	吹き出し口
⛆	デフロスター	3、4 より吹き出します。

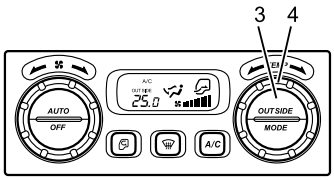
8. エアコンスイッチ
エアコンを ON/OFF させるときに使用します。フルオートで使用中の場合は、エアコンスイッチを一度押すとディスプレイパネルから AUTO と A/C の表示がなくなります。もう一度押すと、フルオートの状態に戻ります。
9. 吹き出し口切替えスイッチ
スイッチを押すごとに吹き出し口を切り替え、ディスプレイパネルに表示されます。

ディスプレイ表示	目　的	吹き出し口
	フェイス	1、2 より吹き出します。
	バイレベル	1、2、5 より吹き出します。
	足元	5 より吹き出します。
	足元、 デフロスター 1	5 より吹き出し 3､4 からわずかに吹き出します。
	足元、 デフロスター 2	5 より吹き出し 3、4 の吹き出し量が“”に比べ増加します。

オート（自動）で使用する場合



① AUTO（自動）スイッチ 1 を押します。吹き出し口の切り替えと、風量が自動的に設定され、エアコンは ON となります。吹き出し口は、“”、“”、“”の中から最適なモードを自動で選択します。このとき、ディスプレイパネルに「AUTO A/C」が表示されます。

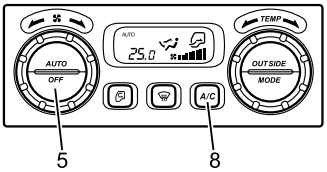


② 温度調節ダイヤル 4 を使い、お好みの室温に設定します。このとき、ディスプレイパネル内に設定温度が表示されます。温度調節ダイヤル 4 を 1 つ回すごとに 0.5℃ずつ変化し、18℃～ 32℃の間で調節することができます。18℃では最大冷房、32℃では最大暖房に固定されます。
車外気温表示スイッチ 3 を押すと表示パネルに「OUT SIDE」が表示され、車外気温を表示します。再度、車外気温表示スイッチ 3 を押すと設定温度に戻ります。

知 識

・温度設定は 18℃～ 32℃の範囲でできますが表示数字は温度設定の目安です。お好みの室温に設定してください。
・ヒーターはエンジンの冷却水を利用していますので、冷却水温が低い場合はヒーターの効きが弱くなります。
ヒーターの効果を高めたいときは、暖機スイッチを“ON”にしてください。

暖機スイッチ → 4-80 ページ参照

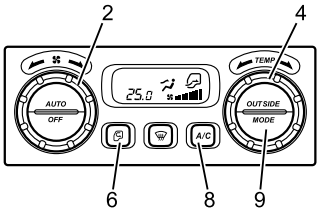


③ エアコンを停止させるときにはエアコンスイッチ 8 を押します。また、ファンおよびエアコンを停止させるときには OFF（切）スイッチ 5 を押します。

知 識

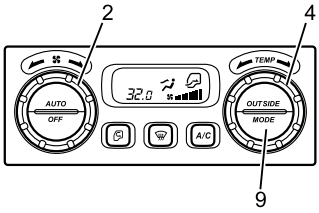
・オートで使用しているときに他のスイッチ（温度調節スイッチを除く）を押すと「AUTO」の表示が消灯し、選択した各ポジションに作動が固定されディスプレイパネルに表示されますが、押したスイッチの機能以外は自動的に行われます。
・オートの状態へ戻すときには AUTO（自動）スイッチ 1 を押します。

マニュアル（手動）で操作する場合



外気導入

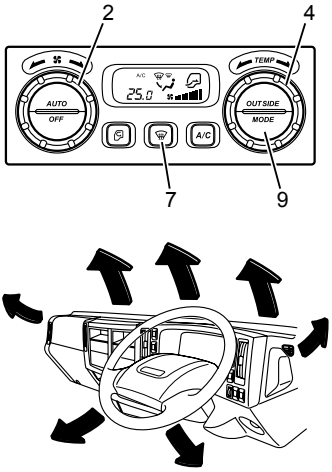
エアコンスイッチ（A/C スイッチ）8 を押してエアコンを“OFF”にします。このとき、ディスプレイパネルの「A/C」の表示は消灯します。
温度調節ダイヤル 4、吹き出し口切替えスイッチ 9 をお好みの位置にします。
内外気切替えスイッチ 6 を押します。このときディスプレイパネルに“”が表示されます。ファンダイヤル 2 でお好みの風量に調節します。



強力暖房

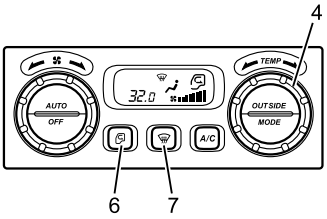
温度調節ダイヤル 4 を最大暖房温度（32℃）にし、ファンダイヤル 2 を最大風量にします。吹き出し口切替えスイッチ 9 でお好みの吹き出し口にしてください。
必要に応じて暖機スイッチを入れてください。

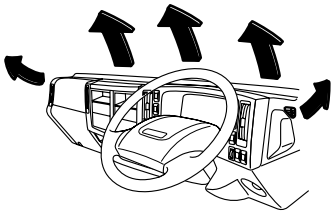
暖機スイッチ → 4-80 ページ参照



曇り取り

デフロスタースイッチ 7 を押し、デフロスターを“ON”にします。このとき、ディスプレイパネルに“”が表示され、A/C も作動します。
温度調節ダイヤル 4 をお好みの温度に合わせてください。
ファンダイヤル 2 をお好みの風量に調節します。
ディスプレイパネルに“”（内気循環）が表示されている場合、“”（外気導入）表示に比べ曇りが取れにくくなります。
吹き出し口切替えスイッチ 9 を押します。このときディスプレイパネルを“”または“”表示にすると足元を暖めながら、フロントウインドーガラスの曇りを取ることができます。





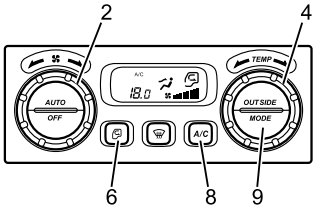
氷結解除

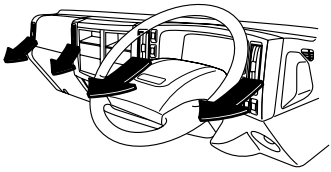
デフロスタースイッチ７を押し、デフロスターを“ON”にします。このとき、ディスプレイパネルに“ ”が表示されます。温度調節ダイヤル４を最大暖房温度（32℃）にします。
内外気切替えスイッチ６を押します。このときディスプレイパネルに“ ”が表示されます。
暖機スイッチを“ON”にします。

暖機スイッチ → 4-80 ページ参照

注 意

・氷結解除後は、必ず内外気切替えスイッチ６を押してディスプレイパネルの表示を“ ”表示（外気導入）にしてください。
そのままにしておくとガラスが曇り易く前方の視界が悪くなります。





強力冷房

温度調節ダイヤル４を最大冷房温度（18℃）にし、ファンダイヤル２を最大風量にします。吹き出し口切替えスイッチ９でお好みの吹き出し口にし、内外気切替えスイッチ６を押します。このときディスプレイパネルを“ ”（内気循環）表示にしてください。
また、このときエアコンスイッチ８を押してA/C を“ON”にしてください。

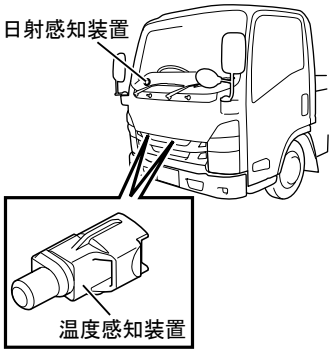
知 識

・炎天下に長時間駐車したあとなどは、窓やドアを開放し、十分室内の熱気を換気してからエアコンを作動させてください。
・強力冷房を長時間使用していると室内の空気が汚れます。時々、内外気切替えスイッチ６を外気導入に切り替えるか、窓を開けて換気を行ってください。
・冷房時、湿った空気が急に冷やされて、吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが異常ではありません。

温度感知装置



日射感知部と車内外温度感知部により快適なエアコンディショニングを行います。各感知部の上に物を置いたり、水をかけたりしないでください。正確なエアコンディショニングを行うことができなくなります。



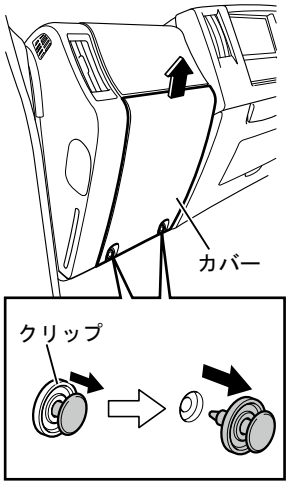
エアコンフィルター

エアコンフィルターの清掃

アドバイス

【標準キャブ車】

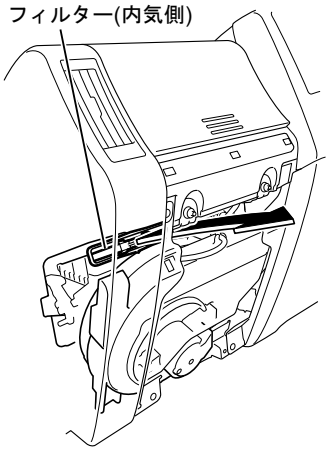
・エアコンフィルターの清掃には分解作業が必要ですので、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。



内気側フィルターの取り外し

① カバーを固定しているクリップ（2本）を取り外します。
内側のクリップを引き出してからクリップを取り外してください。

② カバーを上側にずらして取り外します。



③ フィルターを取り外します。フィルターの表面についたホコリや汚れを掃除機などを使ってきれいにしてください。

アドバイス

・フィルターを取り外すときは、ハーネス類に注意してください。

・フィルターに損傷を与えないよう硬質ブラシの使用は避けてください。

内気側フィルターの取り付け

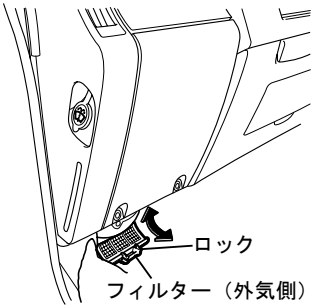
① 取り付けは、逆の順序で行ってください。

⚠ 注 意

・フィルターおよびカバーの取り付けは確実に行ってください。
走行中のカタカタ音の原因、また、外れたとき大変危険です。

・フィルターを外したままで、または確実に取り付けていない状態で使用しないでください。エアコンの内部にゴミやほこりなどが入り、故障の原因となります。

外気側フィルターの取り外し



① 助手席側インストルメントパネル下側からフィルターを取り外します。フィルターのロックを両側から押しながら引き抜きます。

② フィルターの表面についたホコリや汚れを掃除機などを使ってきれいにしてください。

アドバイス

・フィルターに損傷を与えないよう硬質ブラシの使用は避けてください。

外気側フィルターの取り付け

① 取り付けは、逆の順序で行ってください。

アドバイス

・フィルターの取り付けは確実に行ってください。走行中のカタカタ音の原因、また、外れたとき大変危険です。

・フィルターを外したままで、または確実に取り付けていない状態で使用しないでください。エアコンの内部にゴミやほこり、水、雪などが入り、故障の原因となります。

クーラーガス（冷媒量）

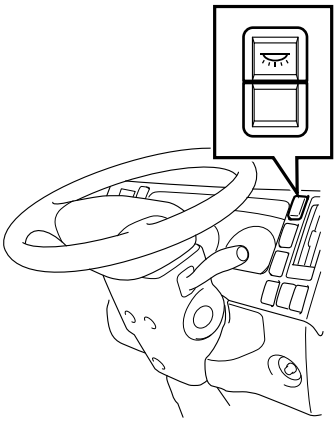
クーラーガスの量が不足すると冷房能力が低下します。少ないときは補充します。冷媒の補充は最寄りの《日産販売会社》へお申し付けください。



- クーラーガスの量が不足したままでエアコンを使用すると冷房能力が低下するだけでなく、エアコンの故障の原因になります。
- 本車両のクーラーガスは、新冷媒HFC-134a(R-134a)を使用しています。クーラーガスは、必ずHFC-134aを入れてください。なお、地球環境を守るためクーラーガスを大気放出しないでください。クーラーガス交換の際は、回収設備のある《日産販売会社》などへお申し付けください。

ルームランプ（室内灯）

蛍光灯スイッチ★



蛍光灯スイッチを押すと室内蛍光灯が点灯します。もう一度押すと室内蛍光灯が消灯します。

ランプ（バルブ）類が点灯しないとき
→ 8-16 ページ参照

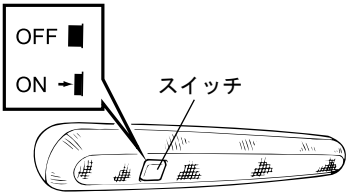
アドバイス

・蛍光灯スイッチは、押したままにしないでください。とくにエンジン停止時、蛍光灯を長時間点灯したままにするとバッテリー上がりを起こす原因になります。

蛍光灯★

注 意

・蛍光灯は走行中使用しないでください。明るくなった室内がガラスに映るため、外の道路状況が判断しにくくなり、思わぬ事故の原因になります。

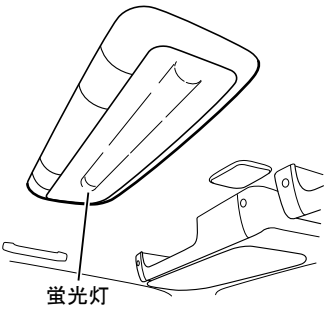


標準キャブ車

スタータースイッチに関係なく作動します。
“ON”：点灯
“OFF”：消灯

アドバイス

・エンジン停止中に使用しないでください。消費電力が大きいのでバッテリー上がりを起こす原因になります。



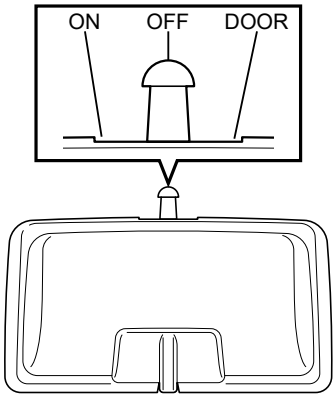
ハイキャブ・ワイドキャブ車
スタータースイッチに関係なく作動します。
蛍光灯スイッチを操作して点灯・消灯してください。

アドバイス

・エンジン停止中に使用しないでください。消費電力が大きいのでバッテリー上がりを起こす原因になります。

ルームランプ

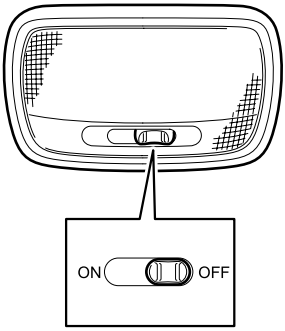
標準キャブ車



スタータースイッチに関係なく作動します。

スイッチ位置	点灯・消灯の状態
“ON”	ドアの開閉に関係なく点灯
“DOOR”	次の場合に点灯 ・ドアを開けたときに点灯し、閉じると消灯 ・リモコンキーによりドアを解錠したとき
“OFF”	ドアの開閉に関係なく消灯

ハイキャブ・ワイドキャブ車



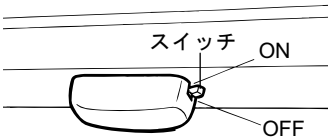
知 識

・ハイキャブ・ワイドキャブ車は、ルームランプスイッチを“ON”と“OFF”の中間にすると“DOOR”になります。

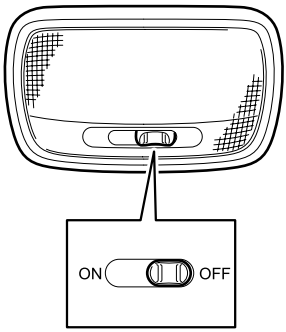
・ルームランプスイッチ位置が“DOOR”でスタータースイッチが“ACC”または“LOCK”位置のとき、ドアを開けたまま約５分経過すると、ルームランプは自動的に消灯します。

リヤ側（ダブルキャブ車）

標準キャブ車



ハイキャブ車



スタータースイッチに関係なく作動します。

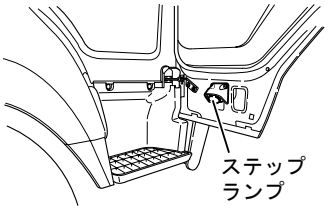
スイッチ位置	点灯・消灯の状態
“ON”	ドアの開閉に関係なく点灯
“DOOR”	次の場合に点灯 ・ドアを開けたときに点灯し、閉じると消灯 ・リモコンキーによりドアを解錠したとき
“OFF”	ドアの開閉に関係なく消灯

知 識

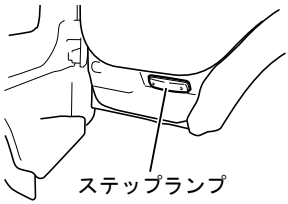
- ハイキャブ車は、ルームランプスイッチを“ON”と“OFF”の中間にすると“DOOR”になります。
- ルームランプスイッチ位置が“DOOR”でスタータースイッチが“ACC”または“LOCK”位置のとき、ドアを開けたまま約５分経過すると、ルームランプは自動的に消灯します。

ステップランプ★

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車

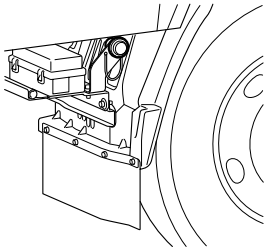


運転席側ドアの下部に取り付けてあります。
ドアを開けると点灯しステップ付近を照らします。

アドバイス

- ドアを開け放しにしないでください。バッテリー上がりを起こす原因になります。

オイルパンヒーター用コンセント★



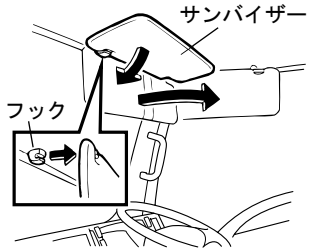
消防車

エンジンオイルを暖めるオイルパンヒーター用のコンセントです。オイルパン内のオイルの温度を約 65℃に保ちます。エンジン始動性の向上と暖機運転の時間短縮に使います。カバーを外して電源（交流 100V）に接続します。

アドバイス

- エンジンを始動するときには、必ず電源をコンセントから外してください。
- 使用しないときは、カバーを必ず装着してください。コンセントに異物が入ったり、水などがかかると故障につながるおそれがあります。
- ヒューズ切れに注意してください。ヒューズの容量は 10A です。

サンバイザー（日よけ）★

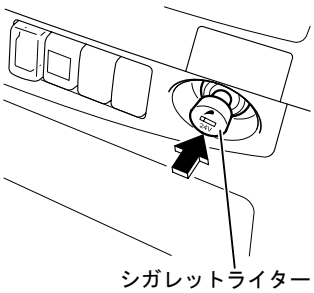


強い日差しから目を保護します。日差しがまぶしいときに使用します。
横からの日差しがまぶしいときはフックを外して側面へ回せます。

⚠ 注 意

- 安全のため、使用したあとは必ず閉じておいてください。

シガレットライター★



スタータースイッチが“ACC”または、“ON”位置のときに使用できます。

① シガレットライターを指でロックするまで押し込みます。

② 熱線があたたまると元の位置まで戻ります。引き抜いて使用してください。

⚠ 警 告

- シガレットライター使用時、熱線は、高温になっています。やけどの危険がありますので触れないでください。
- シガレットライターを手で押し込んだままにしないでください。過熱して故障や、火災の原因になります。
- シガレットライターを押し込んでからしばらくしても（約 20 秒以上）元の位置まで戻らないときは、シガレットライターの故障です。すぐに手で引き戻してください。
- シガレットライターを押し込んだまま車から離れないでください。火災の原因になります。
- シガレットライターを変形させないでください。作動不良を起こして危険です。

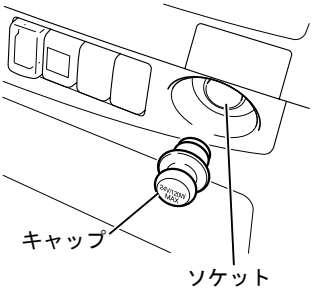
⚠ 注 意

- シガレットライター差し込み部を、アクセサリーソケットとして使用される場合は最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。
- やむを得ずアクセサリーソケットとして使用した場合、ソケット内部を変形させてしまう可能性があります。その状態でシガレットライターを使用すると、赤熱したシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないなど、故障の原因となります。
- アクセサリーソケットから再度、シガレットライターとして使用する場合や、シガレットライターが故障したときは、お車に合った《日産純正部品》を使用してください。他のシガレットライターは使用しないでください。
- シガレットライターを掃除するとき、たたかないでください。変形を招くおそれがあります。
- シガレットライター差し込み部分の内側および、シガレットライターのヒーター部分の灰や、ゴミを取り除いてください。

アドバイス

・エンジン停止中に使用しないでください。消費電力が大きいのでバッテリー上がりを起こす原因になります。

アクセサリーソケット（24V）★



スタータースイッチが“ACC”または“ON”位置のときに使用できます。
市販のカー用品などの電源用として使用します。
キャップを外して使用します。

⚠ 警 告

・ソケットの許容負荷は 120W（5A）までです。
許容負荷以上で使用すると配線が過熱し、火災の原因になり危険です。許容負荷以内で使用してください。
・ソケットの電源は 24V です。24V 以外の電気製品を接続すると、過熱による故障や火災の原因になります。
・電気製品のプラグはソケットの奥まで確実に挿入してください。挿入が不完全な状態で使用すると異常発熱する可能性があり、車両のヒューズが切れるおそれがあります。
・シガレットライターをソケットに差し込まないでください。発熱するおそれがあります。

アドバイス

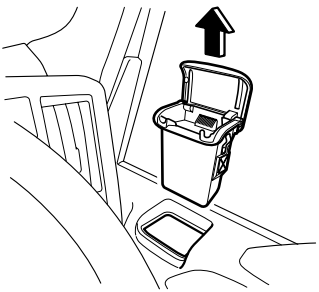
・エンジン停止中にソケットを長時間使用するとバッテリー上がりの原因になります。
・使用しないときは、キャップを必ず装着してください。ソケットに異物が入ったり、水やジュースなどがかかると故障につながるおそれがあります。また、指や金属などをソケットに入れないでください。
・接続するプラグサイズによっては、ソケット内部が変形する可能性がありますので、プラグのガタつきなどがある場合にはご使用をやめ、ソケットを交換してください。
・電気製品のプラグを抜き差しするときは、電気製品のスイッチを“OFF”にするか、スタータースイッチを“LOCK”位置にしてください。

灰　皿　★

⚠ 警 告

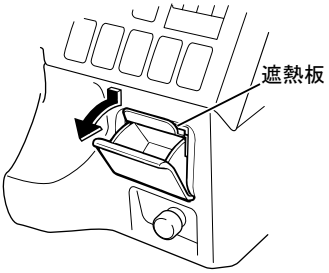
・灰皿使用後は、ふたを必ず閉めてください。吸い殻の火が消えていなかったとき他の吸い殻に燃え広がり火災を招くおそれがあります。
・灰皿の中に吸い殻をため過ぎたり、紙くずなど燃えやすいものを入れたりしないでください。
・マッチ、タバコなどの火は消してから灰皿の中に入れてください。
・火のついたタバコや吸い殻は、車外へ投げ捨てないでください。道路やその周辺を汚すばかりでなく、捨てたタバコや吸い殻から火災が発生するおそれがあります。

運転席ドア側★ / 助手席ドア側★



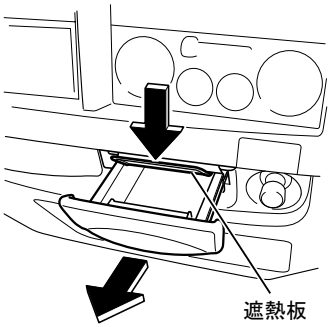
ハイキャブ・ワイドキャブ車
ふたを開けて使用します。
タバコの火は火消しの部分で消します。
灰皿を清掃するときは、灰皿のふたを持ち、上側に引っぱると取り外せます。

運転席インストルメントパネル側



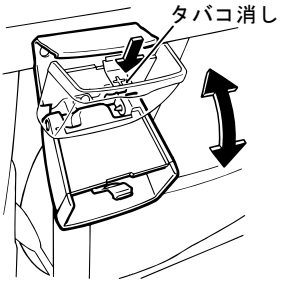
標準キャブ車
ふたを開けて使用します。
タバコの火は火消しの部分で消します。
灰皿を清掃するときは、遮熱板を押したまま手前に引くと取り外せます。

フロントセンター



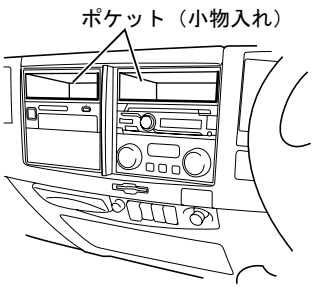
標準キャブ車
灰皿を手前に引き出して使用します。
タバコの火は火消しの部分で消します。
灰皿を清掃するときは、遮熱板を押しながら手前に引き出すと取り外せます。

リ ヤ 側



ダブルキャブ車
灰皿を手前に引き出して使用します。
タバコの火は火消しの部分で消します。
取り外すことはできません。タバコ消しを押したまま反転させ吸いがらを別の容器に受けてから捨ててください。

ポケット（小物入れ）★

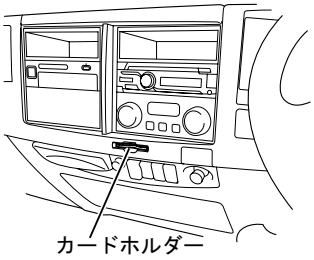


小物入れとして使用します。

⚠ 注 意

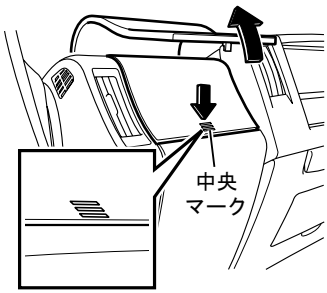
・メガネやライターを車内に放置しないでください。放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・フレームの変形やひび割れを起こすことがあります。

カードホルダー



カード入れとして使用します。

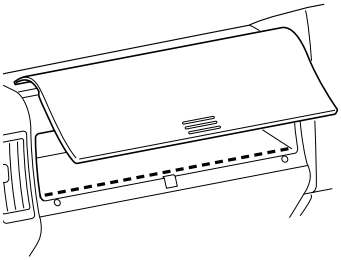
グローブボックス（小物入れ）★



グローブボックス中央マーク部分を押して開閉してください。

⚠ 注 意

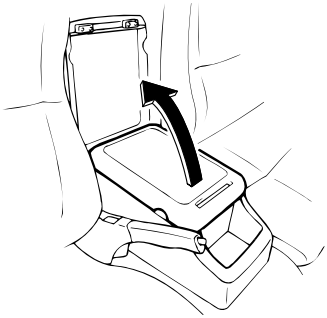
- 安全のため、グローブボックスは必ず閉めて走行してください。グローブボックスの開閉部分や、収納してある物でケガをするおそれがあります。
- グローブボックスのふたは、ロックを解除すると自動で跳ね上がります。顔などを近づけないでください。
- メガネやライターを車内に放置しないでください。放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・フレームの変形やひび割れを起こすことがあります。



アドバイス

- グローブボックス内の段差（左図の線付近）を越える大きさのものを入れないでください。段差を越えるものを入れ、無理にふたを閉めるとグローブボックスを破損させるおそれがあります。
- 車検証入れや取扱説明書は、ドライバーシートのシートバックポケットに収納してください。

センターコンソールボックス（小物入れ）★

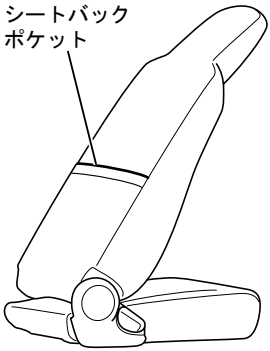


ふたを引き上げると開きます。

⚠ 注 意

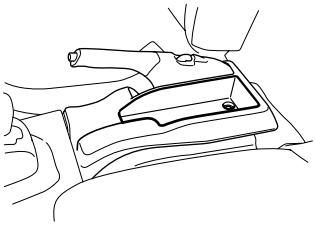
・メガネやライターを車内に放置しないでください。放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・フレームの変形やひび割れを起こすことがあります。

シートバックポケット



ドライバーシート背もたれの背面にあります。車検証入れや取扱説明書を収納するのに使用します。

シートサイドトレイ★

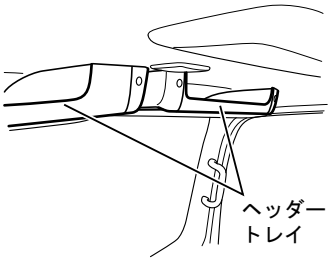


小物入れとして使用します。

⚠ 注 意

・メガネやライターを車内に放置しないでください。放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・フレームの変形やひび割れを起こすことがあります。

ヘッダートレイ★



棚として使用してください。

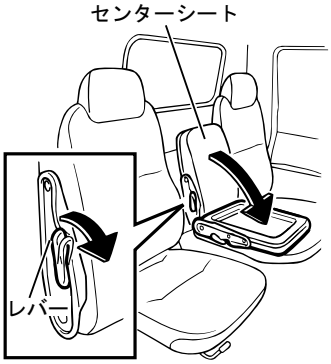
⚠ 注 意

・ヘッダートレイの上には重量物（2kg 以上のもの）または走行中とび出すおそれのあるものは危険ですのでのせないでください。

・チルトキャブを戻すときに荷物が飛び出すおそれがあります。注意してください。

・メガネやライターを車内に放置しないでください。放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・フレームの変形やひび割れを起こすことがあります。

センターシートバックトレイ★

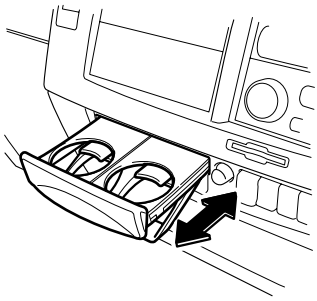


センターシートの背もたれの右側にあるレバーを手前に倒し、背もたれを倒すとトレイとして使用することができます。

⚠ 注 意

・メガネやライターを車内に放置しないでください。放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・フレームの変形やひび割れを起こすことがあります。

カップホルダー



手前に引き出して使用します。

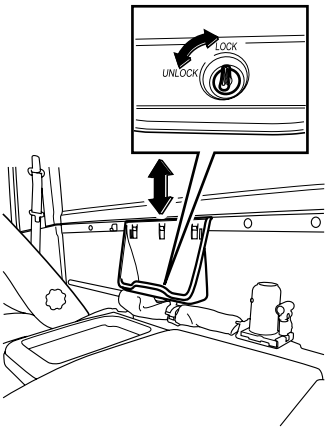
⚠ 注 意

・ホルダーを使用する場合、飲料はこぼれない程度に入れてください。こぼれると電気系統やオーディオなどの故障の原因になります。もし、こぼれたときは、すぐに乾いた布でふき取ってください。

・飲料を入れたままチルトキャブしないでください。

・重量物（片側 0.75kg 以上）を入れた場合、カップホルダー本体が破損するおそれがあり危険です。

バックパネルトレイ（小物入れ）★



小物入れとして使用します。また取り外すこともできます。

取り外し、取り付け

① ノブを“UNLOCK”側に回します。

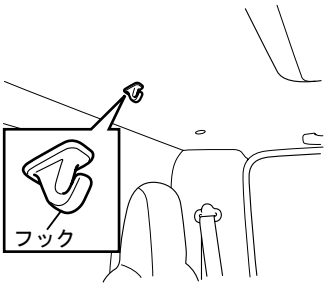
② 3 か所のツメからバックパネルトレイを上側に取り外します。
取り付けは逆の順序で行います。バックパネルトレイを 3 か所のツメに取り付けてからノブを“LOCK”側に回してください。

⚠ 注 意

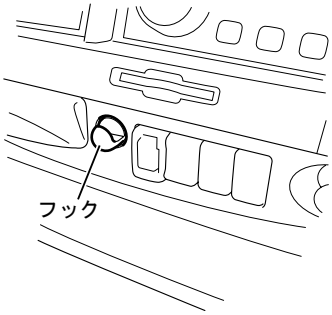
- バックパネルトレイの中には、重量物（2kg 以上のもの）または、走行中とび出すおそれのあるものは、危険ですので入れないでください。
- チルトキャブさせるとき荷物がとび出すおそれがあります。注意してください。
- メガネやライターを車内に放置しないでください。放置したままにしておくと、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・フレームの変形やひび割れを起こすことがあります。

ハンガーフック★

洋服をかけるときに使用してください。



コンビニフック



コンビニエンスストアーやスーパーのビニール袋をかけておくことができます。

⚠ 注 意

・コンビニフックには重量物（3kg 以上）または走行中落下のおそれがあるものは、危険ですのでかけないでください。

オーディオを上手にお使いいただくために

⚠ 注 意

- オーディオの操作は、車両が停止しているときに行ってください。運転中の操作は思わぬ事故を起こす原因となるおそれがあります。
- 運転中の音量は車外の音が聞こえる程度に調節してください。車外の音が聞こえないと思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラジオのアンテナ付近には無線機のアンテナを取り付けないでください。オーディオの音に雑音等が入る原因になります。

アドバイス

- エンジンが停止しているときにプレーヤーを長時間使用しないでください。バッテリー上がりを招くおそれがあります。
- 水やジュースなどをこぼさないようにしてください。
- 分解やオイルの塗布はしないでください。

CD プレーヤーの取り扱いについて

アドバイス

- 記録状態やディスクの特性・傷・汚れ・劣化により再生できない場合があります。

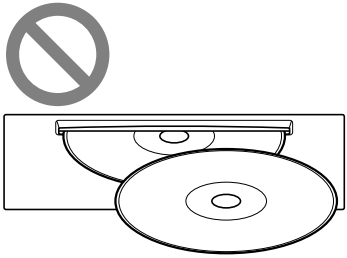
下記マークがついた音楽専用 CD を使用してください。



下記マークのついた CD-R/CD-RW は、再生できない場合があります。



CD-ROM は使用できません。
また、ディスクの状態によっては機器の温度上昇や、故障の原因になります。



アドバイス

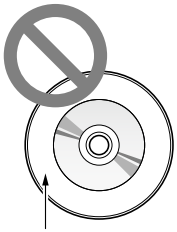
- CD 挿入口に CD 以外のものや、2 枚以上の CD を一度に挿入しないでください。
- レンズクリーナーは使用しないでください。
- 寒いときや雨降りのとき、CD プレーヤー内に露が生じ正常に作動しない場合があります。この場合、CD を一度取り出し、しばらくの間、除湿や換気を行ってから使用してください。
- 悪路走行などの激しい振動により音飛びを起こす場合があります。

アドバイス

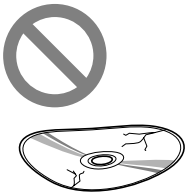
- ベンジン、アナログ式レコード盤クリーナ、帯電防止剤などを使用すると CD をいためる原因になります。CD に汚れやゴミなどがついたときは水を含ませたやわらかい布でふいた後、乾いた布でふき、水分を完全にふき取ってください。CD をふくときは中心から外に向かってふいてください。
- CD は熱に弱いため直射日光があたる場所やヒーターの近くには置かないでください。
- CD をプレーヤー内や、挿入途中で長時間放置しないでください。CD が傷付き使用できなくなるおそれがあります。
- 次のような CD は、故障の原因となりますので使わないでください。
  - ハート型や 8 角形など、特殊な形状の CD。
  - アダプタの使用や、Dual Disc、プリンタブルディスクなど、特殊な性能の CD。
  - 記録部分に透明や半透明の部分がある CD。
  - 反りや傷がある CD。
  - 個人でシールやラベルを貼った CD。また、はがした跡が残る CD。
  - コピープロテクト機能付 CD。



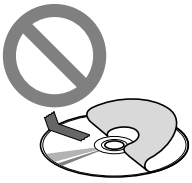
特殊な形状



透明や半透明の部分

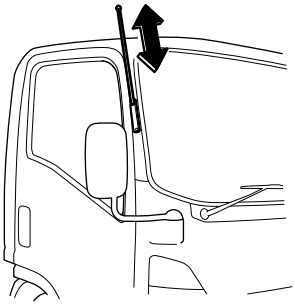


反りや傷



シールやラベル

アンテナ



手でいっぱいに引き上げて使用します。

アドバイス

・アンテナの折れを防ぐため、軒の低いところを通るときや、洗車のときはアンテナを縮めてください。

知 識

【ラジオの受信について】

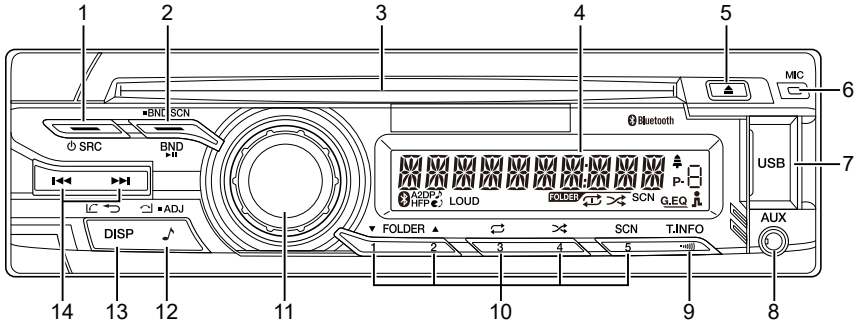
・車両の移動にともないアンテナの位置も変わるため、電波の強さが変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により最良な受信状態を維持することができない場合があります。

・FM 放送は AM 放送に比べ、音質が良く、ステレオ放送にも対応していますが、FM 電波の性質上、移動する車両での最良な受信状態を維持することができない場合があります。

- FM 電波の直進性
  FM 電波は AM 電波に比べ直進性が強いため、山や建物などの影響を受けやすく、AM 電波よりも受信範囲が狭くなります。
- 音の消失現象
  FM 電波は物に反射されやすく、ビルや建物などが多い地域を走行したときに音が途切れたり雑音が生じることがあります。
- 音のひずみ現象
  放送局から直接受信している電波とビルや建物から反射した電波を同時に受信した場合に雑音や音のかすれなどの現象が起こることがあります。

オーディオ（Bluetooth® 付）★

スタータースイッチが“ACC”または“ON”位置のとき使うことができます。
アラームのみ“LOCK”位置でも使うことができます。



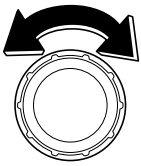
No.	名　称
1	電源 / ソースボタン
2	バンドボタン
3	CD 挿入口★
4	ディスプレイパネル
5	イジェクトボタン★
6	内蔵マイク
7	USB スロット

No.	名　称
8	AUX 入力端子
9	交通情報ボタン
10	ダイレクトボタン
11	ロータリーノブ
12	サウンドボタン
13	ディスプレイボタン
14	サーチボタン

コントロールパネル



電源の入れかた
電源ボタン“SRC”を押すと電源が入ります。
もう一度押す（1 秒以上）と電源が切れます。



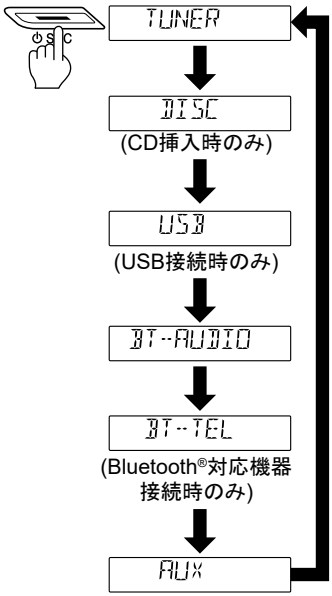
音量の調整
ロータリーノブを時計回りに回すと音量が上がります。
反時計回りに回すと音量が下がります。

アドバイス

・音量を最大にして電源を ON/OFF すると、機器および耳に悪い影響を与えますので適度な音量で使用してください。

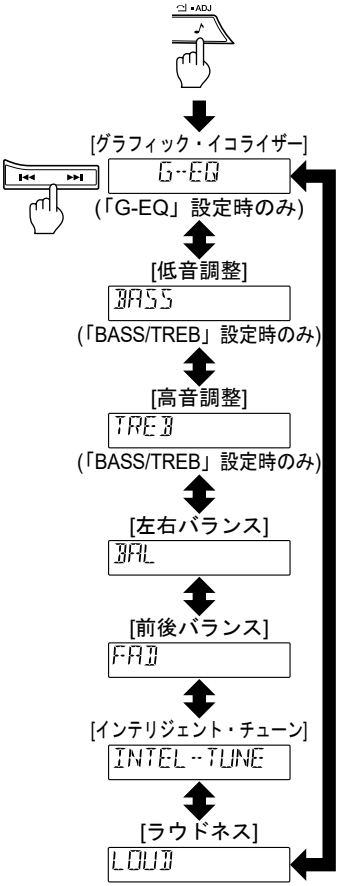


ミュート（消音）機能
ロータリーノブを押すと、ミュート（消音）設定になります。もう一度押すと解除します。



ソースの切り替え

ソースボタン“SRC”を押してモードを選択してください。押すごとに「TUNER」→「DISC」（CD 挿入時のみ）→「USB」（USB 接続時のみ）→「BT AUDIO」→「BT TEL」（Bluetooth® 対応機器接続時のみ）→「AUX」→「TUNER」の順で切り替わります。



サウンド設定

サウンドボタン“♪”を押す（1 秒未満）と、サウンド設定モードになります。

サーチボタン“⏮”または“⏭”を押すごとに、「G-EQ」（グラフィック・イコライザー）⇔「BASS」（低音調整）⇔「TREB」（高音調整）⇔「BAL」（左右バランス）⇔「FAD」（前後バランス）⇔「INTEL-TUNE」（インテリジェント・チューン）⇔「LOUD」（ラウドネス）⇔「G-EQ」（グラフィック・イコライザー）の順で切り替わります。

調整したいモードでロータリーノブを回し、設定値を調整します。設定を終えたらサウンドボタン“♪”を押します。

知 識

- 音質の設定が「BASS/TREB」のときは「G-EQ」は表示されず、調整はできません。
- 音質の設定が「G-EQ」のときは「BASS」および「TREB」は表示されず、調整はできません。

音質の設定 → 5-62 ページ参照

「BASS」（低音）、「TREB」（高音調整）共に、－15 ～＋ 15 の範囲で調整ができます。「BAL」（左右バランス）は L（左）7 ～ R（右）7 の範囲で、「FAD」（前後バランス）は F（前）7 ～ R（後）7 の範囲で調整ができます。

項目名	内　容
G-EQ	グラフィックイコライザーにより、音質を細かく調整します。
BASS	低音を好みのレベルに調整します。
TREB	高音を好みのレベルに調整します。
BAL	左右のスピーカーの音量バランスを調整します。
FAD	前後のスピーカーの音量バランスを調整します。
INTEL-TUNE	音響効果を調整します。
LOUD	音量が小さいときでも聞きやすいように、低音 / 高音を強調します。

知 識

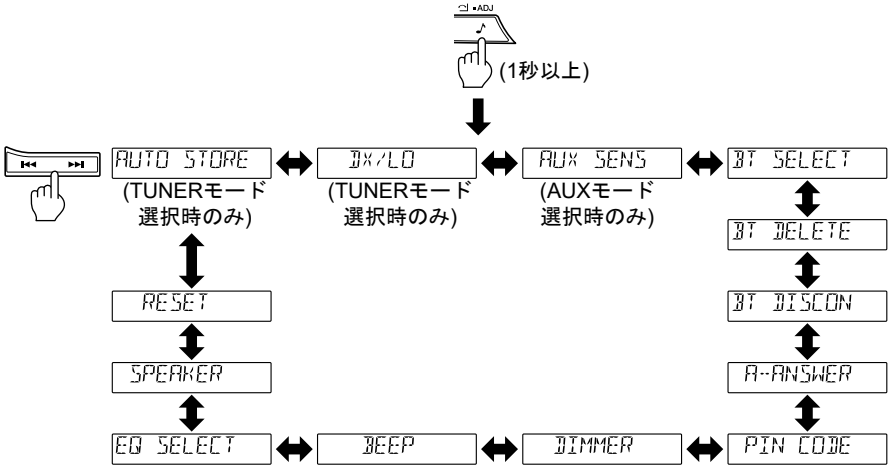
・操作を中断し 10 秒経過すると、調整前の表示に自動的に切り替わります。
（「BASS」「TREB」「BAL」「FAD」設定時）

システム設定

サウンドボタン“♪”を押し続ける（1 秒以上）と、アジャストモードになります。
サーチボタン“⏮”または“⏭”を押すごとに、「AUTO STORE」（TUNER モード選択時のみ）⇔「DX/LO」（TUNER モード選択時のみ）⇔「AUX SENS」（AUX モード選択時のみ）⇔「BT SELECT」⇔「BT DELETE」⇔「BT DISCON」⇔「A-ANSWER」⇔「PIN CODE」⇔「DIMMER」⇔「BEEP」⇔「EQ-SELECT」⇔「SPEAKER」⇔「RESET」⇔「AUTO STORE」の順で切り替わります。

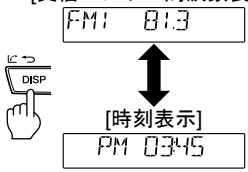
知 識

・操作を中断し 10 秒経過すると、調整前の表示に自動的に切り替わります。



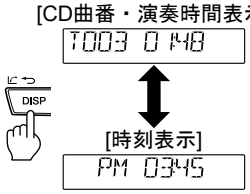
項目名	内　容	参照ページ
AUTO STORE	ラジオのオートストアメモリーを実行します。（TUNER モード選択時のみ）	5-47
DX/LO	ラジオの受信感度を切り替えます。（TUNER モード選択時のみ）	5-46
AUX SENS	外部入力機器の入力レベルを設定します。（AUX モード選択時のみ）	5-53
BT SELECT	接続した Bluetooth® 対応機器を選択します。	5-59
BT DELETE	ペアリング（登録）した Bluetooth® 対応機器を削除します。	5-60
BT DISCON	Bluetooth® 対応機器の接続を解除します。	5-60
A-ANSWER	着信時に自動応答できるよう設定します。	5-56
PIN CODE	Bluetooth® 対応機器接続用の PIN コードを変更します。	5-60
DIMMER	ディスプレイの減光調整を行います。	5-61
BEEP	ボタン操作音の設定を行います。	5-61
EQ-SELECT	音質の調整方法を切り替えます。	5-62
SPEAKER	スピーカーの出力チャンネルを設定します。	5-62
RESET	各種設定したメモリーを消去します。	5-63

ディスプレイの切り替え



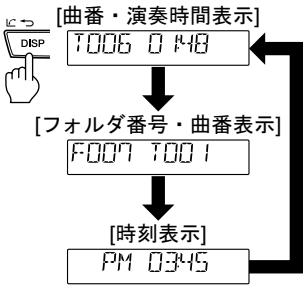
ラジオ / 交通情報

ラジオまたは交通情報を聞いているとき、ディスプレイボタン“DISP”を押すごとにディスプレイパネルの表示が「受信バンド・周波数」⇔「時刻」に切り替わります。



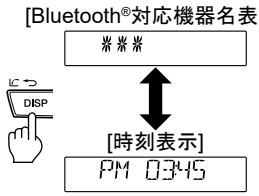
CD 再生時

音楽 CD を再生しているとき、ディスプレイボタン“DISP”を押すごとにディスプレイパネルの表示が「CD 曲番・演奏時間」⇔「時刻」に切り替わります。



MP3/WMA 再生時

CD や USB メモリーで MP3/WMA 再生しているとき、ディスプレイボタン“DISP”を押すごとにディスプレイパネルの表示が「曲番・演奏時間」→「フォルダ番号・曲番」→「時刻」→「曲番・演奏時間」の順で切り替わります。



Bluetooth® オーディオ再生時

Bluetooth® 対応機器に接続してオーディオ再生しているとき、ディスプレイボタン“DISP”を押すごとにディスプレイパネルの表示が「Bluetooth® 対応機器名」⇔「時刻」に切り替わります。

知 識

・表示できる文字は半角英数字および一部記号となります。漢字・ひらがな・カタカナは表示できません。表示できない文字の場合は“＊”に置き換えます。

Bluetooth® ハンズフリー通話時

Bluetooth® 対応機器に接続してハンズフリー通話しているとき、ディスプレイボタン“DISP”を押すごとにディスプレイパネルの表示が「通話時間」→「電話番号」→「短縮ダイヤル名称」→「通話時間」に切り替わります。

知 識

・短縮ダイヤル名称を入力していないときは、「NO NAME」が表示されます。
・表示できる文字は半角英数字および一部記号となります。漢字・ひらがな・カタカナは表示できません。表示できない文字の場合は“＊”に置き換えます。

時刻の合わせかた

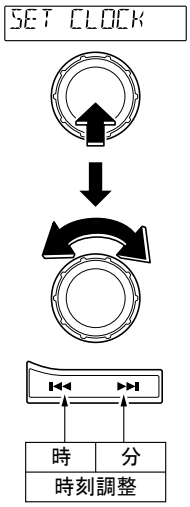
時刻の調整

電源が“ON”のとき調整ができます。

① ディスプレイパネルに時刻を表示させます。

ディスプレイの切り替え
→ 5-42 ページ参照

② ディスプレイボタン“DISP”を押し（1 秒以上）ます。



③ ロータリーノブを回して“SET CLOCK”を選択し、ロータリーノブを押します。
④ サーチボタン“⏮”または“⏭”で「時」または「分」を選択し、ロータリーノブで調整します。
⑤ 調整が終了したら、ロータリーノブを押し（1 秒未満）てください。

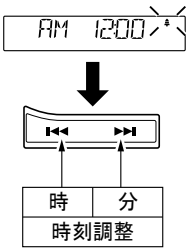
アラームの使いかた

アラームの ON/OFF、アラーム時刻の調整

① ディスプレイパネルに時刻を表示させます。

ディスプレイの切り替え
→ 5-42 ページ参照

② ディスプレイボタン“DISP”を押し（1 秒以上）ます。
③ ロータリーノブを回して“SET ALARM”を選択し、ロータリーノブを押します。



④ ロータリーノブを回してアラームの ON/OFF を選択し、ロータリーノブを押します。アラームを“ON”にすると、ディスプレイパネルに“ ”が表示され、アラーム時刻の調整ができます。
⑤ サーチボタン“⏮”または“⏭”で「時」または「分」を選択し、ロータリーノブで調整します。
⑥ 調整が終了したら、ロータリーノブを押し（1秒未満）ます。

アラームの止めかた
アラームが鳴っているとき、コントロールパネルのいずれかのボタンを押すと鳴りやみます。

知 識

・アラーム音は、3 分間鳴り続けます。

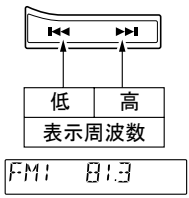
ラジオの聞きかた

ラジオ使用時は、「TUNER」モードを選択してください。

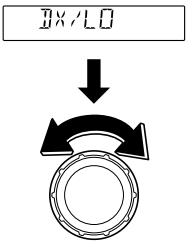
ソースの切り替え → 5-39 ページ参照



選局のしかた
① バンドボタンを押し（1 秒未満）てバンドを切り替えます（「FM1」、「FM2」、「FM3」、「AM1」、「AM2」）。



② サーチボタン“⏮”または“⏭”を押すごとに周波数が 9kHz（AM）、0.1MHz（FM）ずつ変わります（手動選局）。
ディスプレイパネルの表示を確認し、調整してください。



受信感度の選びかた

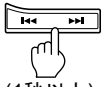
① アジャストモードから「DX/LO」を選択します。

システム設定 → 5-41 ページ参照

② ロータリーノブを回して選択します。
- DX：電波の強い放送局・弱い放送局に関係なく受信します。
- LOCAL：電波の強い放送局のみ受信します。

知 識

・初期設定時は、「DX」に設定されています。


(1秒以上)

シークチューニング（自動選局）

サーチボタン“◀◀”または“▶▶”を押し続ける（1秒以上）とシークチューニングを開始します。信号があるとその放送局で止まり受信します。信号が無いときは、周波数の上限から下限、下限から上限へと信号を探します。
シークチューニング中に再度サーチボタン“◀◀”または“▶▶”を押すと中断します。

知 識

・電波が弱く自動選局できないときは手動選局してください。



(1秒以上)

バンドスキャン

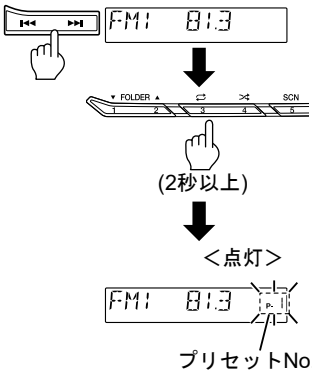
バンドボタン“BND”を押し続ける（1秒以上）と、現在のバンドで放送局を探しながら、各局を7秒ずつ聞くことができます。

知 識

・電波が弱く自動選局できないときは手動選局してください。

プリセットメモリー

あらかじめ、FM1、FM2、FM3、AM1、AM2 のそれぞれのバンドに対して「P1」～「P5」の各 5 局を記憶させておくことができます。



① メモリーしたい放送局の周波数に合わせます。

② ダイレクトボタン（1 ～ 5）を押し続ける（2 秒以上）と受信中の周波数がメモリーされ、選択したボタンへのプリセットが完了します（プリセット No. 表示が点灯します）。

オートストアメモリー

ラジオの受信中、その地域で電波の強い順の 5 局を自動的にメモリーします。



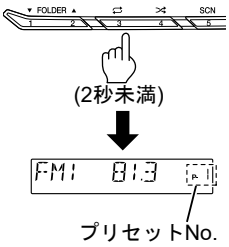
① アジャストモードから「AUTO STORE」を選択します。

システム設定 → 5-41 ページ参照

② ロータリーノブを押し続ける（1 秒以上）と、このとき受信中のバンド（「FM1」、「FM2」、「FM3」、「AM1」、「AM2」）で選局を開始します。
選局が完了すると、自動的にチャンネル「P1」～「P5」の順にメモリーを行います。

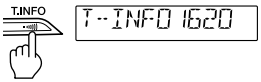
知 識

- 自動メモリーを行うと、これまで登録されていた放送局は消去されます。
- 登録できる放送局が 5 局に満たない場合は、工場出荷時の放送局が呼び出されます。



プリセット選局

プリセットメモリーであらかじめメモリーした放送局を選局する機能です。
ラジオの受信中にダイレクトボタン（1 ～ 5）を押す（2 秒未満）と、登録された放送局に切り替わります。
ディスプレイ部には周波数とプリセット No. を表示します。



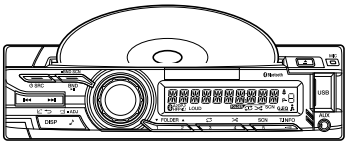
交通情報を聞くには

交通情報ボタン“ ”を押すと交通情報（1620kHz）を受信します。もう一度交通情報ボタンを押すと、受信前の状態に戻ります。

知 識

- 初期設定時は、1620kHz が設定されています。サーチボタン“⏮”または“⏭”を押すごとに 1620kHz と 1629kHz を切り替えられます。
- 交通情報を受信している状態で、スタータースイッチを“LOCK”位置にし、再度“ACC”または“ON”位置にした場合は、受信前の状態に戻ります。

CD/MP3/WMA の聞きかた



CD の挿入★

CD のラベル面（印刷面）を上にして CD 挿入口に差し込むと、ディスプレイパネルに「LOADING」「READING」が表示されたのち、最初の曲から自動的に再生が始まります。

既に挿入されている CD を再生する場合は、「DISC」モードを選択すると自動的に再生されます。

ソースの切り替え → 5-39 ページ参照

アドバイス

・CD を差し込むとき、プレーヤー内に CD が入っていないことを確認してください。無理に入れると CD を傷つけるほか、故障の原因にもなります。

知 識

・CD は軽く差し込むだけで自動的に取り込まれます。

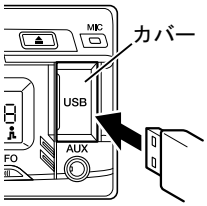


CD の取り出し★

イジェクトボタン“⏏”を押す（1 秒未満）と再生が止まり、CD が出てきます。

知 識

・オーディオの電源が入っていないときでも、CD を取り出すことができます。
・取り出した CD は、温かくなっていますが故障ではありません。
・イジェクト状態のまま 10 秒たつと CD 保護のため、CD は自動的にプレーヤーに取り込まれます。この場合再生はされません。自動取り込みをキャンセルしたい場合は、取り出し時にイジェクトボタン“⏏”を長押し（1 秒以上）してください。



USB メモリーの接続

USB 端子カバーを開けて、USB メモリーを直接、または USB ケーブルを介して接続します。接続後、ソースボタン“SRC”を押して USB モードに切り替えてください。USB メモリーに記録されている最初のファイルから再生が始まります。

ソースの切り替え →5-39 ページ参照

注 意

・USB メモリーの接続は、安全な場所に停車して行ってください。運転中の接続は思わぬ事故を起こす原因となるおそれがあります。

知 識

・USB メモリーを接続すると、最初にメモリー内全てのファイルを確認するため、再生が始まるまで時間が掛かる場合があります。

・USB 機器は、奥までしっかりと差し込んでください。差し込みが不完全だと、USB 機器を認識しない場合があります。

USB メモリーの取り外し

ソースボタン“SRC”を押して USB モード以外のモードに切り替えてから外してください。USB メモリーを外したあとは、カバーを確実に取り付けます。

ソースの切り替え →5-39 ページ参照

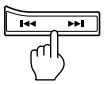
アドバイス

・USB モードのまま USB メモリーを取り外さないでください。USB メモリー内のデータが破損するおそれがあります。



一時停止、再生

再生中にバンドボタン“BND”を押すと、再生を一時停止します。もう一度押すと再生を再開します。

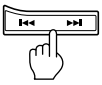


曲の早送り、早戻し

再生中にサーチボタン“⏮”または“⏭”を押し続ける（1 秒以上）と、ボタンを押している間、曲を早送り、早戻しすることができます。

“⏭”：早送り

“⏮”：早戻し

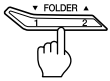


選曲、曲の頭出し

次の曲を聴くときは、再生中にサーチボタン“⏭”を押し（1 秒未満）ます。

前の曲を聴くときは、再生中にサーチボタン“⏮”を押し（1 秒未満）たあと、1 秒以内にもう一度押し（1 秒未満）ます。

曲の頭出しをするときは、サーチボタン“⏮”を押し（1 秒未満）ます。



フォルダの切り替え（MP3/WMA 再生時）

ダイレクトボタン“2/ ▲”または“1/ ▼”を押し、フォルダを選択します。

次のフォルダを選ぶとき：ダイレクトボタン“2/ ▲”を押します。

前のフォルダを選ぶとき：ダイレクトボタン“1/ ▼”を押します。

演奏される順番について
→ 5-65 ページ参照



リピート再生

リピート再生を選択すると、再生中の曲またはフォルダ内の曲（MP3/WMA のみ）を繰り返し再生します。

・CD 再生時★
ダイレクトボタン“3/ 🔁”を押すごとに、トラックリピート（一曲リピート演奏）⇔オールリピート（全曲リピート演奏）に切り替わります。

・MP3/WMA 再生時
ダイレクトボタン“3/ ”を押すごとに、トラックリピート（一曲リピート演奏）→フォルダリピート（フォルダ内リピート演奏）→オールリピート（全曲リピート演奏）→トラックリピートの順で切り替わります。

- トラックリピート選択時：
ディスプレイパネルに「RPT ONE」が表示され、“ ”が点灯します。
- フォルダリピート選択時：
ディスプレイパネルに「RPT FOLDER」が表示され、“ ”および“FOLDER”が点灯します。
- オールリピート選択時：
ディスプレイパネルに「RPT ALL」が表示されます。



ランダム再生
ランダム再生を選択すると、CD または USB メモリー内の曲を再生順に関係なく再生します。

・CD 再生時★
ダイレクトボタン“4/ ”を押すごとに、オールランダム（全曲ランダム演奏）⇔ランダムオフに切り替わります。

・MP3/WMA 再生時
ダイレクトボタン“4/ ”を押すごとに、フォルダランダム（フォルダ内ランダム演奏）→オールランダム（全曲ランダム演奏）→ランダムオフ→フォルダランダムの順で切り替わります。

- フォルダランダム選択時：
ディスプレイパネルに「RDM FOLDER」が表示され、“ ”および“FOLDER”が点灯します。
- オールランダム選択時：
ディスプレイパネルに「RDM ALL」が表示され、“ ”が点灯します。

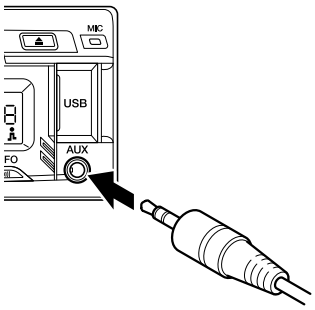


スキャン再生（曲を探す）

CD または USB メモリー内の全フォルダ内の曲を 10 秒間ずつ再生します。再生は、現在再生中の次の曲から始まります。
ダイレクトボタン“5/SCN”を押すごとに、オールスキャン（全曲スキャン再生）⇔スキャンオフに切り替わります。

スキャン再生を選択すると、ディスプレイパネルに「SCAN ALL」が表示され、“SCN”が点灯します。

外部入力機器の接続



AUX 入力端子に市販のポータブルオーディオなどを接続して音楽を聴くことができます。

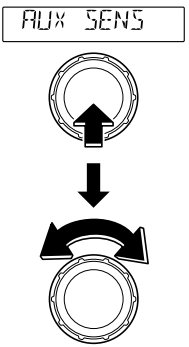
① 市販の 3.5mm ステレオミニプラグコードを使用し、ポータブルオーディオを AUX 入力端子に接続します。
② ソースボタン“SRC”を押し（1.5 秒未満）て AUX モードを選択してください。ディスプレイパネルに「AUX」が表示されます。

ソースの切り替え → 5-39 ページ参照

③ 接続したポータブルオーディオを操作し、再生します。

入力レベルの設定

オーディオの音が割れる場合や音が小さいときに調整します。



① アジャストモードから「AUX SENS」を選択し、ロータリーノブを押します。

システム設定 → 5-41 ページ参照

② ロータリーノブを回して設定します。
- LOW： 入力レベルが高く音割れなどが発生しているとき
- MID： 通常レベルのとき
- HIGH：入力レベルが低いとき

知 識

・初期設定時は、「MID」に設定されています。

Bluetooth® の使いかた

Bluetooth® 対応機器使用時は、「BT AUDIO」モード（オーディオ機器接続時）または「BT TEL」モード（携帯電話接続時）を選択してください。

ソースの切り替え → 5-39 ページ参照

対応機器のペアリング

はじめて Bluetooth® 対応機器を利用するときは、機器を登録（ペアリング）する必要があります。

注 意

・運転中に Bluetooth® 対応機器を登録しないでください。登録の際は安全な場所に停車して行ってください。

知 識

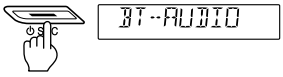
・あらかじめ対応機器側でも Bluetooth® 機能を ON に設定していないと、ペアリングできない場合があります。詳細については、Bluetooth® 対応機器の取扱説明書をご覧ください。
・最大 5 台までの Bluetooth® 対応機器を登録することができます。
・登録は 1 台ずつ行ってください。2 台の異なる Bluetooth® 対応機器を同時に接続すると、通常の動作に影響する場合があります。

① Bluetooth® 対応機器の Bluetooth® を起動します。詳細については、Bluetooth® 対応機器の取扱説明書をご覧ください。
② Bluetooth® 対応機器で「Bluetooth-Audio」を探索し、選択します。



③ ディスプレイパネルに表示される 6 ケタのコードが、Bluetooth® 対応機器側のコードと同一なことを確認し、ペアリングします。ペアリングが完了すると「PAIR OK」、対応機器名および「CONNECTED」が表示されます。“ ”、“A2DP ♪”および“HFP ♪”インジケーターが点灯します。

曲の再生（オーディオ）



ソースボタン“SRC”を押して「BT AUDIO」を選択します。

ソースの切り替え → 5-39 ページ参照

以下の操作方法は CD/MP3/WMA の場合と同様です。

・一時停止、再生
・曲の早送り、早戻し
・選曲、曲の頭出し

CD/MP3/WMA の聞きかた
→ 5-49 ページ参照

電話を受ける

カーステレオ使用中は、オーディオは待ち受け状態となります。着信時にはカーステレオの音量が自動的にミュート（消音）され、呼び出し音が車載スピーカーから再生されます。
カーステレオは一時的に電話割り込みモードに切り替わり、電話番号がディスプレイパネルに表示されます。

⚠ 注 意

・走行中に電話を受けるときは、必ず周りの安全を十分に確認してください。

知 識

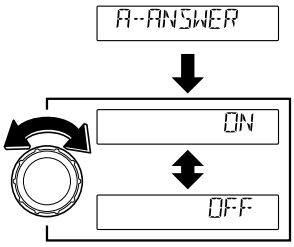
・通話中に車両が携帯電話のサービス圏外（電波が届かないところ）に移動したときは回線が切れます。
・ハンズフリー通話中は、オーディオソースの選択切り替えができません。
・携帯電話が待ち受け状態でないと、発着信できない場合があります。



① 電話着信中にディスプレイボタン“DISP”を押します。通話が開始され、ディスプレイに通話時間が表示されます。
② 通話を終了するときは、サウンドボタン“♪”を押します。



通話拒否
電話着信中にサウンドボタン“♪”を押すと、通話が拒否されます。

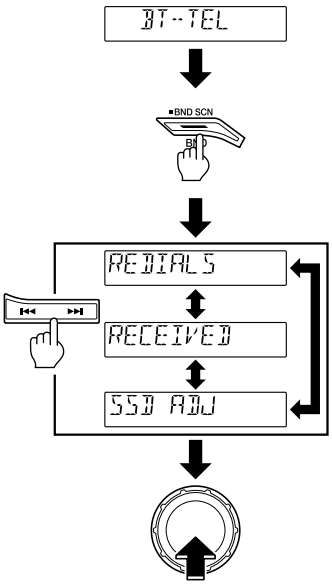


自動応答
着信時に、自動で応答できるように設定できます。

① アジャストモードから「A-ANSWER」を選択します。

システム設定 → 5-41 ページ参照

② ロータリーノブを回して「ON」を選択します。手動応答にしたい場合は「OFF」を選択します。
③ ディスプレイボタン“DISP”を押すと、元の画面に戻ります。



電話をかける

①「BT TEL」モードを選択し、バンドボタン“BND”を押します。

ソースの切り替え → 5-39 ページ参照

② サーチボタン“⏮”または“⏭”で発信方法を選択します。
REDIALS：発信履歴から発信します。
RECEIVED：着信履歴から発信します。
SSD ADJ：短縮ダイヤルから発信します。

③ ロータリーノブを押します。

④ 選択した方法で発信します。

・発信履歴から発信する場合（REDIALS）：発信履歴が表示されます。ロータリーノブを回して電話番号を選び、ロータリーノブを押すと発信します。

・着信履歴から発信する場合（RECEIVED）：着信履歴が表示されます。ロータリーノブを回して電話番号を選び、ロータリーノブを押すと発信します。

・短縮ダイヤルから発信する場合（SSD ADJ）：
短縮ダイヤル登録済みの場合に使用できます。ダイレクトボタン（1 ～ 5）のいずれかを押すと、該当のボタンに登録した番号へ発信します。

短縮ダイヤルの登録 → 5-57 ページ参照

⑤ 通話を終了するときは、サウンドボタン“♪”を押します。

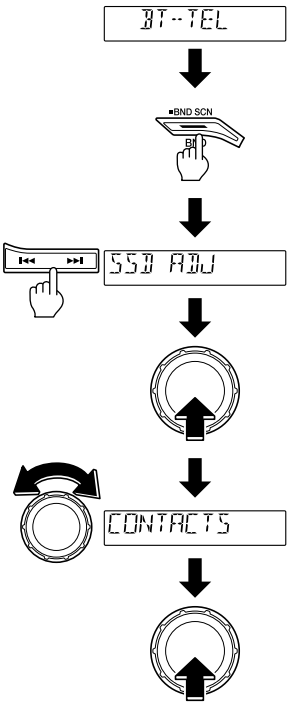
短縮ダイヤルの登録

① 発信履歴または着信履歴から、登録したい電話番号を表示させます。

電話をかける → 5-57 ページ参照

② ダイレクトボタン（1 ～ 5）のいずれかを押し続け（2 秒以上）ます。

③ ディスプレイパネルに「MEMORY」が表示され、押したボタンに電話番号が登録されます。



短縮ダイヤルの名称編集

①「BT TEL」モードを選択し、バンドボタン“BND”を押します。

ソースの切り替え → 5-39 ページ参照

② サーチボタン“⏮”または“⏭”で「SSD ADJ」を選択し、ロータリーノブを押します。
③ ロータリーノブを回して「CONTACTS」を選び、ロータリーノブを押すと、登録済みの短縮ダイヤルリストが表示されます。

知 識

・短縮ダイヤルが登録されていない場合は「NO NUMBER」が表示され、編集はできません。

④ ロータリーノブを回して名称を編集したいリストを選択し、ロータリーノブを押します。
⑤ ロータリーノブを回して「EDIT NAME」を選択し、ロータリーノブを押します。

知 識

・「CLEAR」を選択すると該当リストを削除します。

⑥ ロータリーノブを回して、数字またはアルファベットを選択します。
⑦ サーチボタン“⏮”または“⏭”を押し、カーソルを移動させます。手順⑥～⑦を繰り返して文字を入力します。
⑧ 入力が完了したらロータリーノブを押します。ディスプレイパネルに「MEMORY」が表示され、編集が完了します。



プライベート通話

ハンズフリー通話から、携帯電話本体での通話に切り替えることができます。

① 通話中にバンドボタン“BND”を押します。ハンズフリー通話が停止し、携帯電話本体で直接通話することができます。
② ハンズフリー通話に戻したい場合は、もう一度バンドボタン“BND”を押すと戻ります。



送話音声をミュート（消音）にする

① 通話中にロータリーノブを押します。送話音声がミュート（消音）になります。
② ミュート（消音）を解除したい場合は、もう一度ロータリーノブを押すと解除されます。

Bluetooth® の設定

対応機器の選択

複数の対応機器を登録している場合に接続する機器を切り替えることができます。



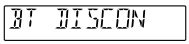
① アジャストモードから「BT SELECT」を選択します。

システム設定 → 5-41 ページ参照

② ロータリーノブを回して使用したい機器を選択し、ロータリーノブを押すと接続されます。
③ ディスプレイボタン“DISP”を押すと元の画面に戻ります。

知 識

・Bluetooth® 接続が完了するまで時間がかかることがあります。



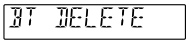


対応機器の接続解除

① アジャストモードから「BT DISCON」を選択し、ロータリーノブを押します。

システム設定 → 5-41 ページ参照

② ロータリーノブを回して接続解除する機器を選択し、ロータリーノブを押します。
③ ロータリーノブを回して「ARE U SURE」を選びます。解除をキャンセルする場合は「CANCEL」を選びます。
④ ロータリーノブを押し、選択した機器の接続を解除します。
⑤ ディスプレイボタン“DISP”を押すと元の画面に戻ります。

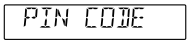


対応機器の削除

① アジャストモードから「BT DELETE」を選択します。

システム設定 → 5-41 ページ参照

② ロータリーノブを回して削除する機器を選択し、ロータリーノブを押します。
③ ロータリーノブを回して「ARE U SURE」を選びます。削除をキャンセルする場合は「CANCEL」を選びます。
④ ロータリーノブを押し、選択した機器を削除します。
⑤ ディスプレイボタン“DISP”を押すと元の画面に戻ります。





PIN コードの変更

① アジャストモードから「PIN CODE」を選択し、ロータリーノブを押します。

システム設定 → 5-41 ページ参照

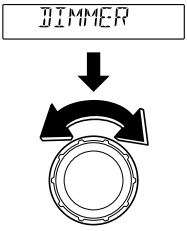
② サーチボタン“⏮”または“⏭”を押し、カーソルを切り替えます。
③ ロータリーノブを回し、PIN コードの桁を選択します。
④ ロータリーノブを押し続け（2 秒以上）ます。ディスプレイパネルに「MEMORY」が表示され、PIN コードが入力されます。

その他の設定

アジャストモードから、各種調整を行うことができます。

システム設定 → 5-41 ページ参照

ディスプレイの減光設定



① アジャストモードから「DIMMER」を選択します。

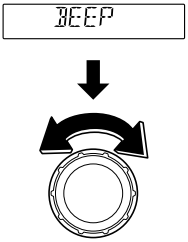
システム設定 → 5-41 ページ参照

② ロータリーノブを回して設定します。
- ON： ランプ（灯火装置）に連動し、ディスプレイの照明を減光します。
- OFF：ランプ（灯火装置）とは連動しません。

知 識

・初期設定時は、「ON」に設定されています。

ボタン操作音の設定



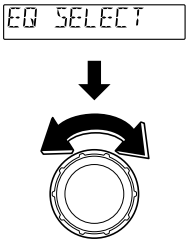
① アジャストモードから「BEEP」を選択します。

システム設定 → 5-41 ページ参照

② ロータリーノブを回して設定します。
- ON： ボタン操作時、スピーカーから“ピッ”と音が出ます。
- OFF：スピーカーから音が出ません。

知 識

・初期設定時は、「ON」に設定されています。



音質の設定

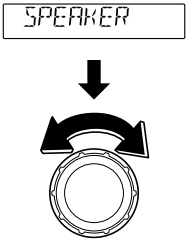
① アジャストモードから「EQ-SELECT」を選択します。

システム設定 → 5-41 ページ参照

② ロータリーノブを回して選択します。
- G-EQ：グラフィックイコライザーによる音質調整をします。
- BASS/TREB：低音 / 高音による音質調整をします。

知 識

- 初期設定時は、「G-EQ」に設定されています。



スピーカーの設定

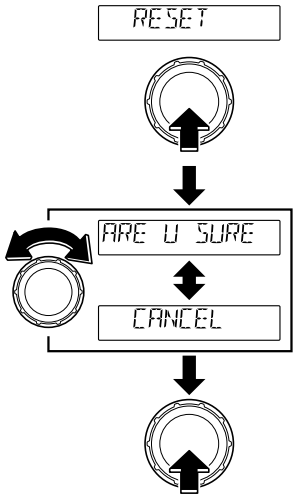
① アジャストモードから「SPEAKER」を選択します。

システム設定 → 5-41 ページ参照

② ロータリーノブを回して選択します。
- SP 4CH：スピーカー出力は 4 チャンネルです。
- SP 2CH：スピーカー出力はフロント 2 チャンネルです。

知 識

- 初期設定時は、「SP 4CH」に設定されています。



各種設定メモリーのリセット

① アジャストモードから「RESET」を選択し、ロータリーノブを押します。

システム設定 → 5-41 ページ参照

② ロータリーノブを回して「ARE U SURE」を選びます。リセットをキャンセルする場合は、「CANCEL」を選びます。

③ ロータリーノブを押します。メモリーが削除されると、ディスプレイに「CLEARED」が表示されます。

エラー表示について

表示		原因	処置
CD（CD再生機能付きオーディオのみ）	CD/MECHA ERROR	CD ドライブの異常	CD を取り出し、再度 CD を挿入してください。CD が取り出せないときや、再度エラーが表示されるときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。
	DISC ERROR	ディスクを裏返しに挿入しているとき	ラベル面（印刷面）を上にして挿入してください。
		CD に傷、反りや汚れがあるとき	傷、反りや汚れのない CD と交換してください。
	NO FILE	MP3/WMA 以外のファイルが入った CD を挿入したとき	MP3/WMA ファイルの入った CD と交換してください。
USB	USB DEVICE ERROR	プロトコルやファイルシステムが正しくないとき	正しいプロトコルやファイルシステムで USB を書き換えてください。
	NO DEVICE	USB 機器が接続されていない、又は認識されないとき	他のサポートされた機器を接続してください。
	NO FILE	USB 機器に MP3/WMA ファイルが保存されていないとき	MP3/WMA ファイルを保存してください。

MP3/WMA について

知 識

【MP3 とは】

・MPEG 規格のオーディオ・レイヤー 3（MPEG audio layer3）に分類される音声圧縮方式です。MP3 を使用すれば、オリジナルの音声データを約 1/10 のデータ量に圧縮することができます。

【WMA とは】

・WMA は Windows Media Audio の略で、マイクロソフトが開発したオーディオファイルのことです。WMA は MP3 よりも小さいサイズに圧縮することができます。

再生可能なサンプリングレート、ビットレートについて

規　格		サンプリングレート	ビットレート
MP3	MPEG-1	32、44.1、48kHz	32 ～ 128、 160 ～ 384kbps/VBR
	MPEG-2	16、22.05、24kHz	
	MPEG-2.5	8、11.025、12kHz	
WMA		22.05kHz	32 ～ 320kbps/VBR
		32kHz	
		44.1kHz	
		48kHz	

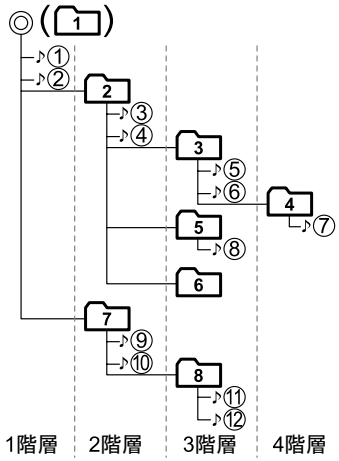
対応メディアについて

再生できるメディアは、CD-R、CD-RW、USB メモリー（マスストレージクラス準拠）です。
対応できる記録フォーマットは、CD-R、CD-RW で ISO9660 レベル 1/ レベル 2、Joliet、Romeo です。
USB メモリーでは FAT12、FAT16、FAT32 です。

ファイル作成時の注意

・再生可能なサンプリングレート、ビットレートでファイルを作成してください。
・ファイル拡張子は、必ず半角文字で“.MP3”・“.WMA”・“.mp3”・“.wma” を付けてください。それ以外の拡張子を付けた場合や拡張子を付けなかった場合は再生できません。

ファイル階層の例



◎ ルートフォルダ

フォルダ

♪ MP3/WMAファイル

演奏される順番について

- 左図のような階層の場合、通常は①→②→③→④→⑤→⑥→⑦→⑧→⑨→⑩→⑪→⑫の順に再生されます。
- ルートフォルダ（CD や USB メモリー自体）も 1 つのフォルダとして数えます。
- フォルダ 6 のように MP3/WMA ファイルが入っていなくても、1 つのフォルダとして数えます。何も入っていないフォルダを選択した場合、再生順で一番近い MP3/WMA ファイルの入ったフォルダを検索して再生します。
- 使用したライティングソフトやドライブ、またはその組み合わせによっては正常に再生ができなかったり、文字が正しく表示されない場合があります。
- 8 階層までの MP3/WMA ファイルの再生に対応しています。また、対応できる最大のフォルダ・ファイル数は CD ではそれぞれ 255 で、フォルダ数、ファイル数を合わせて 512 までです。USB メモリーでは最大フォルダ数 999（1 フォルダあたり最大 999 ファイル）で、最大ファイル数は 65535 です。
- 多くの階層、フォルダ、ファイルを持つ CD または USB メモリーは再生までに時間がかかります。ファイル作成時には、階層やフォルダをなるべく少なくすることをお奨めします。
- 接続する USB 機器によっては、曲順などが変わる場合があります。パソコン上で表示される順番通りに再生されるとは限りません。

著作権保護がある音楽ファイルについて

著作権保護された音楽ファイルは再生できません。

知 識

- 著作権保護とは、著作者の知的財産利益を保護するための権利です。著作権の内容については、著作権法で具体的に定められています。著作権を侵害した場合は、損害賠償の責任が生じるほか、著作権法に定める刑事罰が適用されることもあります。

Bluetooth® について

Bluetooth® は、対応機器間でワイヤレス通信ができる短距離無線通信技術です。
Bluetooth® 対応機器を登録すると、本機から電話の発着信やオーディオ再生ができます。
本機に接続する携帯電話は、以下の仕様を満たしている必要があります。ただし、携帯電話の機種によっては一部機能が制限される場合がありますのでご注意ください。

・互換性のある Bluetooth® 仕様
Bluetooth® Specification (Ver.2.1)
・互換性プロファイル
HFP (Hands Free Profile) Ver.1.5
AVRCP (Audio/Video Remote Control Profile) Ver.1.3
A2DP (Advanced Audio Distribution Profile) Ver.1.2

Bluetooth® の文字商標およびロゴマークは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、Clarion による同マークの使用はライセンスに基づいています。その他の商標および商標名は、それぞれの所有者のものです。

Bluetooth® 対応携帯電話

Bluetooth® 対応携帯電話を用いるとケーブルを接続することなく、Bluetooth® を利用したハンズフリー機能を使用できます。

Bluetooth® 対応機器の使用に関する注意

本機の周波数帯では、電子レンジなどの産業用、科学用および医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用される移動体識別用構内無線局（免許を要する無線局）、特定小電力無線局（免許を要しない無線局）やアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。
本機を使用する前に、近くで上記の無線局が使用されていないことを確認してください。本機がその他の無線局の周波数を妨害している場合は、それ以上の電波干渉を避けるため、速やかに場所を移動してください。
使用周波数帯は 2.4GHz で、FH-SS 変調方式を使用しています。想定される妨害距離は 10m 未満です。
本機は全帯域を使用します。移動体識別装置の帯域を回避することはできません。

知 識

・以下の状況では、ハンズフリー機能は使用できません。
  - 通話圏外にいるとき
  - 回線が込み合っており、発信通話が制限されているとき
  - 携帯電話から電話帳に転送しているとき
  - 携帯電話がダイヤルロックされているとき
  - 携帯電話が破損しているとき
  - 携帯電話が本機に接続されていないとき
  - 携帯電話のバッテリー残量が少ないとき
  - 携帯電話の電源がオフになっているとき
  - 携帯電話がハンズフリーモードに設定されていないとき
  - 電話帳転送からハンズフリー通話に切り替わったとき
  - その他、携帯電話が使用できないとき
・Bluetooth® 携帯電話を他の無線機器と同時に使用するとき、それぞれの機器の通信に悪影響を及ぼすことがあります。
・Bluetooth® 携帯電話は、Bluetooth® 接続されているときにより多くのバッテリーを消費します。
・携帯電話の機種によっては、スタータースイッチを“ON”位置にしたときディスプレイライトが常時点灯する場合があります。携帯電話のライトを消してください。設定については、携帯電話の取扱説明書を参照してください。
・携帯電話の設定によっては、接続後にダイヤルロックがかかる場合があります。使用する前に携帯電話のオートロック機能を解除してください。
・接続する携帯電話の機種によって、操作方法や音量が異なる場合があります。
・通話中にスタータースイッチを“LOCK”位置にすると、機種によっては通信が途切れることがありますが、通話は継続できます。通話を続ける場合は、携帯電話の操作が必要です。
・携帯電話で通話中着信（キャッチホン）や三者通話サービスを使用している場合は、ハンズフリー使用前にそれらのサービスを解除してください。
・ときどき、相手側で残響が聞こえることがあります。
・大きな声ではっきりと発話してください。

知識（つづく）

知識（つづき）

・以下の状況では、相手側に声が伝わりづらい場合があります。
  - 道路の状態が悪いとき
  - 高速走行しているとき
  - 窓が開いているとき
  - マイクがエアコンの吹き出し口に向いているとき
  - エアコンのファンの音が大きいとき
  - マイクが携帯電話に近すぎるとき
・携帯電話の機種やネットワークの種類によっては、音質が劣化する場合があります（ノイズ、残響など）。

安全快適な運転のために 6

- 安全・安心のこころがけ 6-2
- 走行について 6-2
- 駐停車時の注意 6-13
- 夏季の注意 6-14
- 寒冷時の注意 6-15
- タイヤチェーンの取り扱い 6-20

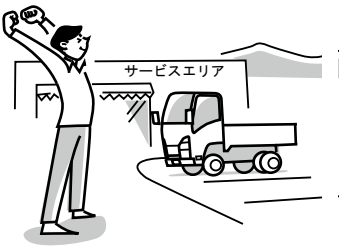
安全・安心のこころがけ

休養は十分にとっていますか



疲れた状態で運転をすると、眠くなったり、注意力が散漫になり易くなったりします。車を運転する前には十分に休養をとってください。

長距離を走るときは休憩を



長時間、車を運転し続けるとお体は疲労してきます。こまめに休憩をしてください。高速道路での休憩は SA（サービスエリア）は約 50km ごと、PA（パーキングエリア）は約 10km ごとにありますので活用してください。

走行について

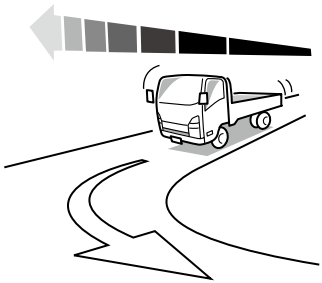
走行時の注意



- 法規に定められた最高速度、各種表示、信号などを守り、安全運転を心がけてください。
- 走行中はスタータースイッチを“ON”位置以外にしないでください。パワーステアリングが作動しなくなりハンドル操作が困難になります。また、ブレーキが効かなくなり非常に危険です。



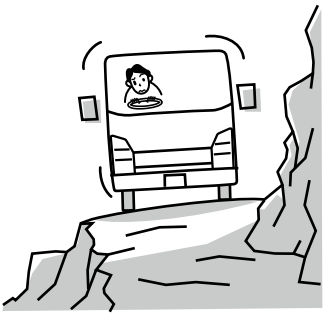
・車の各部から異音、異臭、異常振動などを感じたらただちに車を安全な場所に停車して点検をしてください。
・走行中、警告灯が点灯したり、ブザー音が鳴ったときは、ただちに車を安全な場所に停車して点検をしてください。
・シフトレバーを操作するとき以外は、クラッチペダルに足を載せないでください。クラッチの早期摩耗の原因になります。

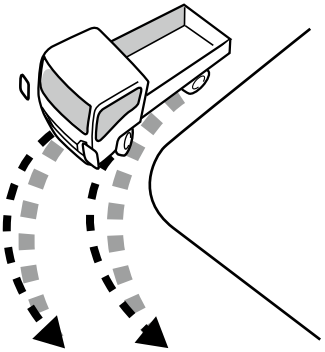


・カーブの手前では十分減速してください。カーブの途中でのブレーキ操作や急ハンドルは、荷くずれやタイヤスリップ、横転事故の原因になります。
・走行中、変速時以外はシフトレバーに手をのせないでください。トランスミッション故障の原因になります。
・道路の縁石等にタイヤの側面を接触させたり、道路上の凹みや突起物の乗り越しなどは避けてください。
タイヤを傷つけるおそれがあり、バーストやパンクの原因になります。

狭い道、混雑した道

山間部や、市街地での狭い道路、混雑した道路でのすれ違いや追越しは左右の障害物、路肩の状態に十分注意してください。

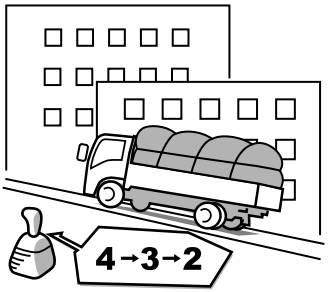




右、左折時は後輪が前輪よりも内側を通ります

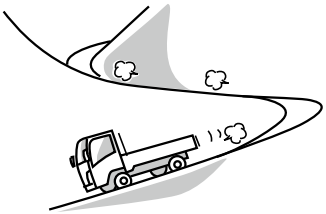
ミラーや OK ウインドーなどで十分に安全を確認してください。

登り坂・下り坂の走行



登り坂

余裕をもって早めにシフトダウンをし、エンジンに負担をかけないようにしてください。



下り坂

- 降坂時にはスピードの出し過ぎに注意してください。
- 登り坂で使用したのと同じ変速段を使用し、さらにエンジンブレーキ、排気ブレーキを併用してスピードを出し過ぎないように注意してください。
- 降坂時にはエンジンをオーバーランさせないようにしてください。

知 識

【オーバーラン】

・タコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーン（赤色）まで回転数が上がってしまうことです。オーバーランはエンジンの故障の原因となり危険です。

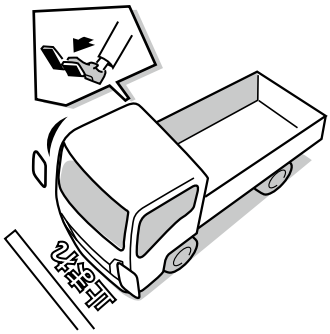
ブレーキ操作

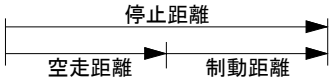


ブレーキは軽い踏力で強力な制動力が得られます。非常時のとき以外はブレーキペダルを大きく踏み込まないでください。

① 車速や道路状況などによって制動距離は変わりますが、エンジンブレーキ、排気ブレーキを使って十分に減速してください。

② 目標の停止位置の手前まで、ブレーキペダルを踏み込んで停止してください。

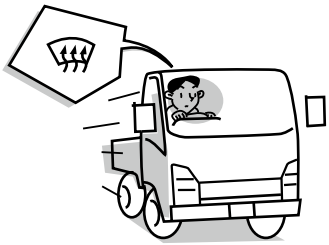




停止距離

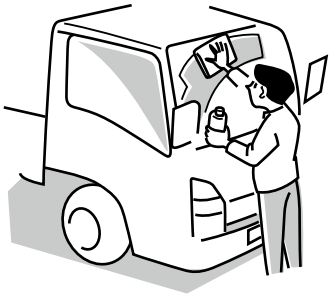
車が停車するまでには運転者が危険を感じ、ブレーキペダルを踏み、ブレーキが効き始めるまでに車が走る距離（空走距離）とブレーキが効き始めてから停車するまでの距離（制動距離）を合わせた距離（停止距離）を走ります。この停止距離を考えて、危険が発生しても安全に停車できるような速度と車間距離を保って運転します。

澄んだ視界の確保



フロントガラスが曇ったら

ヒーターを使い暖かい空気をガラス面にあてるか、エアコンで除湿し、吹き出し口を“”か“”にしてください。また、内外気の切り替えを外気導入にします。また、市販の曇り止めなども使用してください。



夜の視界について

フロントガラスに油膜があると、対向車のライトが乱反射して前方が見づらくなります。ガラスクリーナを使ってガラスの表面や、ワイパーゴムをきれいにしてください。

知 識

・ワイパーゴムの摩耗は、きれいに雨をふき払うことができず視界を確保することができません。このようなときは、新品に交換してください。

夜間の走行



夜間は昼間よりも視界が狭くなり危険です。スピードを控え車間距離を十分とります。

霧のなかの走行



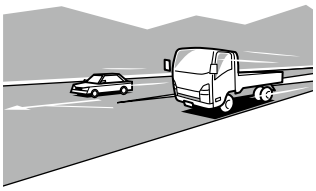
フォグランプを点灯し、センターラインなどをたよりに低速で走行してください。また前方を走行する車のテールランプのみを目印に走行すると錯覚を起こすので危険です。十分注意して走行してください。

高速道路

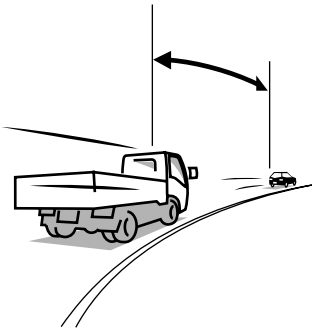
1. 高速道路では、一般道路より高速で走行するのでそれだけ危険が伴います。また、高速道路での故障は他の車の安全を妨げるばかりでなく、事故の原因にもなります。毎日の日常（運行前）点検や高速走行の運転要領を十分認識して安全運転を心掛けます。
   日常（運行前）点検を行います。下表の点検は特に念入りに行います。

タイヤ	・溝の深さが十分であること
エンジン	・ラジエーターなどの冷却装置から水漏れがないこと ・冷却水量が十分であること ・ファンベルトの張り具合が適当であり、かつ損傷がないこと ・エンジンオイルの量が適当であること
燃料タンク	・燃料の量が十分であること

日常（運行前）点検 → 7-38 ページ参照



2. 本線に合流するときは早めにターンシグナルランプ（方向指示器）で合図をし、加速車線で十分加速します。後続車、本線状況を十分確認して本線を走行する車の妨げにならないように合流します。



3. 高速道路ではスピード感が非常に鈍くなります。つねにスピードメーターで速度を確認します。車間距離は十分とって走行します。車間距離はそのときのスピードメーターの針が示す数字を目安にします。例えば80km/h で走行しているときは 80m の車間距離をとるようにします。



4. 高速走行ではわずかなハンドル操作でも車が大きく移動します。ハンドルはゆっくり操作します。

5. フットブレーキの多用はブレーキライニングの早期摩耗やフェード現象を起こし、非常に危険です。エンジンブレーキ、排気ブレーキを有効に使用して減速します。

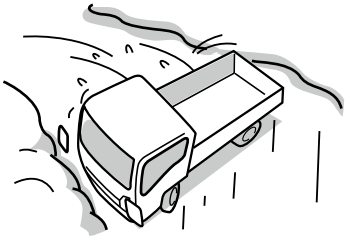
知 識

【フェード現象】

・フットブレーキをひんぱんに使用するとブレーキが過熱して、ブレーキの摩擦面の摩擦力が減り、通常よりもブレーキの効きが低下する現象です。

6. 本線から出るときは、早めにターンシグナルランプ（方向指示器）で合図をします。後続車の状況を十分確認し他の車の走行を妨げないようただちに本線から出ます。

雪道、凍結路での走行



注 意

・滑りやすい路面では、急加速、急ブレーキ、急減速、急ハンドルはしないでください。
・タイヤと路面とのグリップ力が低下し、制動距離が長くなるおそれがあります。特に、橋の上、日陰、水たまりは凍結しているおそれがありますのでひかえめな速度で走行し、雪道、凍結路ではスノータイヤ、タイヤチェーンを必ず装着してください。

アドバイス

・AMT 車では、発進時にブレーキペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを“＋（シフトアップ）”に操作することで、マニュアルモードの３速発進をすることが可能です。

タイヤチェーンの取り扱い
→ 6-20 ページ参照

寒冷地での走行前に

車に乗降するときは

寒冷地ではステップが凍結していることがあります。乗降するときは、滑らないよう十分に注意してください。



運転席に座る前に

乗車するときに、靴についた雪や氷をよく落としてください。雪をつけて乗車するとペダル類が滑り、正確に踏むことができず運転が不安定になるおそれがあります。また、車内の湿気が多くなり、ガラスの曇りを招くおそれがあります。



エンジンを始動して

エンジン始動時にアクセルペダルの作動が円滑かどうか確認してください。

燃料の量を確認して

チェーン装着時、燃費は通常に比べて悪くなります。目的地までの燃料の量を確認し、早めに燃料の補給を行ってください。

燃料について →6-16 ページ参照

積雪路・凍結路での走行（フェンダー等）



ハンドルの切れ具合に注意

⚠ 注 意

・雪道走行時、はね上げた水や雪が凍結し、フェンダーの内側に次第にたい積してハンドルの切れが悪くなることがあります。時々、車から降りてたい積した雪を取り除いてください。雪を落とすとき、先のとがった物は使用しないでください。ゴム部品などを傷つけるおそれがあります。



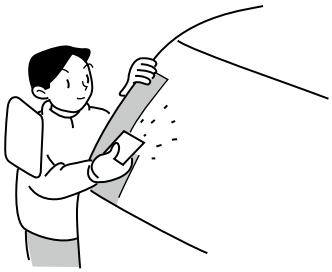
ブレーキの効きをときどき確認

⚠ 注 意

・雪道走行時または駐車時にブレーキ装置に着氷し、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。走行中は前後の車や道路状況に注意し、ときどき軽くブレーキペダルを踏んで効き具合を確認してください。

・また、駐車後走行を開始する場合も、できるだけ早くブレーキの効きを確認してください。効きが悪い場合は低速で走行しながら、ブレーキの湿り気を乾かし、効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでください。

ガラスや車両足回りの雪や霜を取り除いて

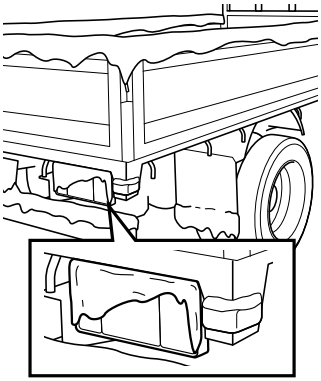


視界が確保されなくては運転は始まりません。プラスチックの板を使って取り除いてください。ガラスに傷をつけずに取り除くことができます。このとき、ワイパーゴムがガラスに凍結していないか確認してください。
また、車の下をのぞいて、足回りに付着した氷塊を部品にキズをつけないように注意して取り除いてください。

アドバイス

・雪を落とすときは、先のとがったものは使用しないでください。ゴム部品などを傷つけるおそれがあります。

降雪地域でのランプ（灯火装置）・ターンシグナルランプ（方向指示器）の取り扱い



⚠ 注 意

・運転する前、ランプ（灯火装置）やターンシグナルランプ（方向指示器）に氷や雪が付着しているときは取り除いてください。
・雪道走行時は定期的に車から降りてランプ（灯火装置）やターンシグナルランプ（方向指示器）に付着した雪や氷を取り除いてください。走行中、はね上げた水や雪が凍結し各ランプに堆積する場合があります。他の車などからの視認性が低くなり思わぬ事故の原因になります。

悪路の走行（砂地やぬかるみ）



ぬかるみなどに、はまってしまったときは、むやみにアクセルペダルを踏むと、穴が深くなりかえって脱出が困難になります。タイヤの下に石や木、毛布などをあてがい脱出するか、前進、後退を繰り返し慣性を利用して脱出してください。
やむを得ずひどいぬかるみを走行する場合はタイヤチェーンを装着すると有効です。

アドバイス

・走行中の急ブレーキ、急加速および急ハンドルは、砂地やぬかるみから車が脱出できなくなることがありますのでさけてください。
・車が脱出できなくなるような、ぬかるみを走行した場合、走行装置、ブレーキ、駆動系などに悪影響をおよぼす場合があります。洗車を行い泥などの付着物を除去してください。
・足回りに車速感知装置が取り付けてありますので、泥などの付着物を取り除くときに部品に傷をつけないように特に注意してください。

車外の手入れ → 7-134 ページ参照

4WD 車の上手な運転について

⚠ 注 意

・4WD 車といえども、どんな所でも走れる万能車ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は慎重に行ってください。また、路面の状況や傾斜の角度に注意して安全運転を心がけてください。

駐停車時の注意

寒冷地での駐車について



タイヤ周辺、各ランプ回りについた雪は、できるだけその日のうちに落としておいてください。

⚠ 注 意

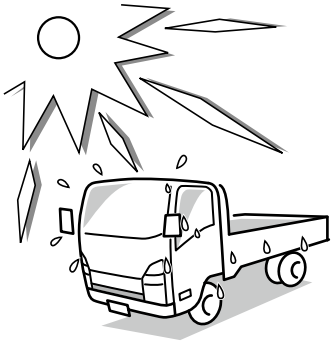
- 寒冷地では、パーキングブレーキはかけないでください。パーキングブレーキをかけたままにすると、ワイヤーやブレーキシュー、パッドが凍結して解除できなくなることがあります。
- ギヤイン駐車するときは、マニュアルトランスミッション車の場合、シフトレバーを“1（1速）”または“R（後退）”位置にして、必ず平坦な場所に駐車してください。AMT車の場合は、シフトインジケーターが「1」または「R」を表示していることを確認して、必ず平坦な場所に駐車してからエンジンを停止してください。また、タイヤには必ず輪止めをしてください。
- 各部の凍結防止および始動性を良くするため、できるだけ車庫に駐車してください。

ギヤイン駐車するには
→ 4-111 ページ参照

知 識

- 屋外に駐車するときは、車の前部を風下に向けるなど、エンジンの保温をしてください。
- 氷塊が車の上に落ちるおそれがありますので木の下、軒下に駐車しないでください。
- ヒルスタートアシスト装着車および電動パーキングブレーキ装着車は、ギヤイン駐車をするとブザーが約30秒作動しますが異常ではありません。

夏季の注意



夏はエンジンがオーバーヒートを起こしやすくなります。エンジンのオーバーヒートを防止するために、以下の点をお守りください。

・オーバーヒートによるエンジンの焼きつきを防止するため、適正な濃度の冷却水を使用してください。

⚠ 注 意

・井戸水や河川の水などの硬水は水あかが生じやすいので冷却水には使用しないでください。

冷却水 → 7-50 ページ参照

・ラジエーターやインタークーラー前面に泥やゴミ、ほこりなどが付いていると冷却性能が低下しますので、点検、清掃を行います。

ラジエーターコア、インタークーラーコアの洗浄 → 7-141 ページ参照

アドバイス

・夏はバッテリー液の消費が多くなりますので常に点検して液量を確認します。液量が不足している場合は補給してください。

バッテリー → 7-125 ページ参照

寒冷時の注意



北海道全域、東北や北陸の積雪地域および山岳地やスキー場などの局地的な厳寒、多雪地域が対象となりますが、その他の地域においても冬期の取り扱いの参考としてください。
愛車のために最寄りの《日産販売会社》で次の冬支度をしてください。また、寒冷地へお出かけになる方も、次の冬支度をしてお出かけください。

冷却水 → 7-50 ページ参照
ウインドーウォッシャー液 → 7-120 ページ参照
バッテリー → 7-125 ページ参照
エンジンオイル → 7-43 ページ参照
タイヤチェーンの取り扱い → 6-20 ページ参照
冬用タイヤについて → 6-18 ページ参照
降雪地域でのランプ（灯火装置）・ターンシグナルランプ（方向指示器）の取り扱い → 6-11 ページ参照

⚠ 注 意

- 水温を上げるためラジエーター前面を新聞紙やダンボールなど燃えやすいものでカバーしないでください。
- 暖機運転をしても水温が上がらないときは最寄りの《日産販売会社》でサーモスタットの点検を受けてください。
- 雪の多い場所では、駐車時に車の周囲に雪が積もり換気が悪くなるおそれがあります。このような状況でエンジンをかけた状態にしていると排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒をおこすおそれがあります。車のまわりの雪を除くなど、注意してください。

燃料について → 6-16 ページ参照

冷却水の取り扱い

冷却水の凍結によるエンジンの破損を防止するため、ロングライフクーラント（LLC）と水道水を適正な濃度で混合します。

冷却水の交換 → 7-56 ページ参照
ロングライフクーラントの取り扱い → 7-51 ページ参照

エンジンオイルの交換

エンジンオイルについては、全シーズンを通して、日産純正ディーゼルエンジンオイルをご使用ください。

エンジンオイルの交換 → 7-46 ページ参照

エンジンオイルの粘度グレード	
SAE 5W-30	日産純正ディーゼルエンジンオイル DL-1

燃料について

⚠ 注 意

- 超低硫黄軽油または低硫黄軽油以外の燃料を使用するとエンジンや排気ガス浄化装置（DPF/ 尿素 SCR）に悪影響をおよぼし、故障の原因となるおそれがあります。万一誤った燃料を入れたときは、完全に抜き取ってください。誤った燃料を入れたままエンジンを始動すると火災やエンジン損傷の原因になり危険です。
- DPF 装着車に超低硫黄軽油または低硫黄軽油以外の軽油を使用した場合、道路運送車両法の保安基準に適合しなくなるおそれがあります。
- フューエルキャップはゆっくりと開けてください。急に開けると燃料が噴き出るおそれがあります。

アドバイス

- 燃料は必ず超低硫黄軽油または低硫黄軽油をご使用ください。
  粗悪な燃料、水抜き剤、その他の燃料添加剤、ガソリン、灯油、アルコール系燃料を補給したり混合して使用するとフューエルフィルターおよびインジェクター内の燃料潤滑部分の摺動不良になるほか、エンジン各部に悪影響を与え、故障の原因になるおそれがあります。

軽油の種類	使用限界の目安温度
JIS 特 1 号	+5℃
JIS 1 号	-2.5℃
JIS 2 号	-7.5℃
JIS 3 号	-20℃
JIS 特 3 号	-30℃

通常、関東以南の地域では、年間を通じて特 1 号、1 号と呼ばれる軽油を使用しています。しかし、この軽油を使用して冬期に寒冷地に行った場合、燃料タンク内や燃料パイプ内で軽油が凍結する場合があり、エンジンの始動が困難になったり停止したりするというような異常を生じます。冬季または寒冷地では、気温にあった軽油を選んで補給してください。

知 識

・軽油は、季節および地域によって仕様が異なります。
・前述の表は一つの目安です。バラツキもありますので、表にある温度の手前でも凍結することがあります。
・一般地から寒冷地に行く場合には、目的地に着く程度の燃料を給油し、現地でできるだけ早く凍結温度の低い燃料を補給してください。
・フェリーなどを利用して寒冷地に行くときも、乗船前に燃料を最小限度量にしておき、現地に着いたら凍結温度の低い燃料を補給してください。

尿素水（AdBlue® 相当）について

アドバイス

・尿素水（AdBlue® 相当）は -11℃で凍結します。尿素 SCR システムは、電熱線を使ったヒーター機能を装備しているので尿素水（AdBlue® 相当）が凍結したときもエンジンの始動ができます。
・マルチディスプレイに「再始動禁止中」（尿素水補給）が表示されている状態で尿素水（AdBlue® 相当）を補給せずに凍結すると、尿素水（AdBlue® 相当）が解凍するまで、エンジンの始動ができない場合があります。常に満水になるように早めの補給に心がけてください。

寒冷時に尿素水（AdBlue® 相当）を補給するとき

寒冷時、マルチディスプレイに「再始動禁止中」（尿素水補給）が表示されているときは、必ず尿素水（AdBlue® 相当）の補給を行ってから運行を終了してください。尿素水（AdBlue® 相当）を補給せずに凍結すると、尿素水（AdBlue® 相当）が解凍するまで、エンジンの始動ができない場合があります。

再始動禁止中（尿素水補給）
→ 4-68 ページ参照

⚠ 注 意

・バーナーやヒーターなどを使用して、尿素水タンクを暖めないでください。

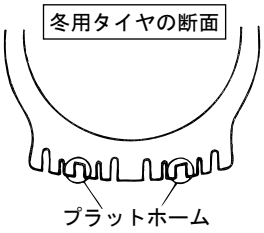
尿素水（AdBlue® 相当）の取り扱い
→ 2-52 ページ参照
指定された尿素水（AdBlue® 相当）を入れていますか → 2-52 ページ参照
尿素水（AdBlue® 相当）を補給するとき
→ 2-53 ページ参照
尿素水タンク → 3-33 ページ参照
尿素水（AdBlue® 相当）が空になったとき → 8-10 ページ参照

ドアにキーが差し込めないときやドアが開かないとき



無理にキーを押し込んだり、無理にドアを引っぱったりすると、キーが変形したりドア回りのゴムがはがれたり破損するおそれがあります。この場合は、お湯をかけて氷を溶かして素早くふき取ってから開けてください。
また、ワイパーや、電動ドアミラー、パワーウインドーが凍結したら無理にスイッチの操作はしないでください。装置の故障や、バッテリー上がりを招くおそれがあります。
その後､水分を十分にふき取っておいてください。

冬用タイヤについて

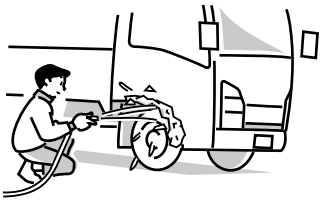


冬用タイヤは、標準タイヤと同じサイズのタイヤとディスクホイールを全輪に装着します。冬用タイヤの使用限度は、溝の深さが新品時の半分になったときです。このときプラットホームの雪上性能が発揮できなくなるサインが溝部に出てきます。新しいタイヤと交換してください。

⚠ 注 意

- 標準タイヤと同じサイズのものを全輪に装着してください。またディスクホイールは同じサイズのものを装着してください。
- 急ハンドルや急ブレーキを避けエンジンブレーキを使用して減速してください。雪道、凍結路でのブレーキ操作は、軽く数回に分けて操作します。一度に強く踏むとスリップ、横滑りなどして危険です。
- 空車時、滑りやすい路面で排気ブレーキを使用すると急ブレーキとなり、車両後方が振られ、スリップする場合があるので注意してください。
- 冬用タイヤを装着したとき、乾燥路を高速で走ることは避けてください。
- 冬用タイヤの装着については、地方条例によって違いがありますので指定条例に従って装着してください。

雪道走行後の手入れについて



⚠ 注 意

- フェンダー内側やブレーキホースに付着した雪は取り除いてください。部品を損傷するおそれがあります。また、凍結防止剤をまいた道路を走行したときは、塩分によるさびなどを防ぐため、なるべく早く車体の下回りを洗ってください。水道の水圧を上げて噴射すると効果的です。
- 洗車後は、ドア回り（ドア開口部）の水を良く取り除いてください。

洗車のしかた → 7-135 ページ参照

アドバイス

- 足回りに車速感知装置が取り付けてありますので雪、氷塊などを取り除くときに部品に傷をつけないように特に注意してください。
- 雪を落とすとき、先のとがった物は使用しないでください。ゴム部品などを傷つけるおそれがあります。

ABS → 4-138 ページ参照

タイヤチェーンの取り扱い

タイヤチェーンは冬期に入る前に一度取り付けてみて長さの調整、チェーンの破損などを確認し、十分な準備をしておいてください。

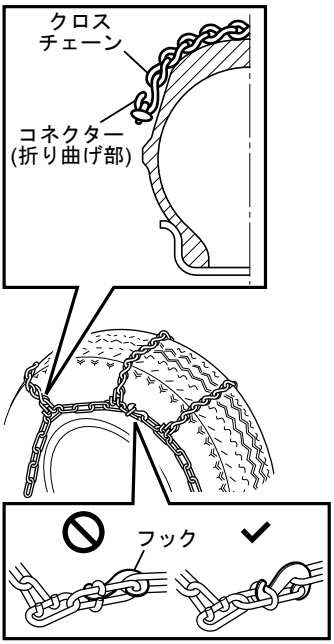
⚠ 注 意

- タイヤチェーンはゆるみのないように取り付けてください。ゆるんだまま走行すると、他の部品との干渉や脱落などにより、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中に異音がする場合は、タイヤチェーンが切れたり、一部外れたりしている可能性があります。ただちに安全な場所に停車して、タイヤチェーンの装着状態を確認してください。
- エンジンがかかっているときや DPF 再生中、および運転直後の排気管やマフラーは高温となっているため触れないように注意してください。また DPF 再生中は排気ガスが高温となっているため作業は行わないでください。
- 作業をするときに車体端部などでケガをしないよう注意してください。

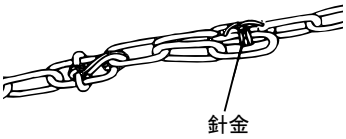
アドバイス

- 前輪には取り付けられません。必ず後輪へタイヤサイズに合ったタイヤチェーンを装着してください。
- ラジアルタイヤはタイヤ側面を損傷するおそれがありますので、必ずラジアルタイヤ用のチェーンを使用するか、冬用タイヤを使用してください。
- タイヤチェーン購入時に一度取り付けてみて、長すぎる場合は、タイヤサイズに合うように調整してください。
- タイヤチェーンを装着したときは 30km/h 以下で走行し、雪道、凍結路以外の走行は避けてください。
- タイヤチェーンの取り付け、取り扱い方法は、タイヤチェーンに添付されている取扱説明書をご覧ください。

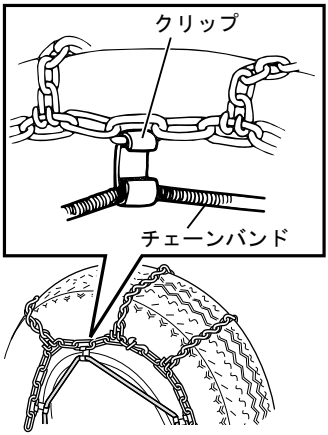
取り付け要領



① タイヤチェーンにねじれが無いことを確認して、コネクターの折り曲げ部が外側（接地側）になるようにチェーンをかぶせます。
② チェーンの両端をいっぱいに引っ張ってタイヤ内側のフックを先に連結し、つぎに外側のフックを連結します。
③ フックはタイヤ側面に対して平らになるように連結します。またチェーンにねじれや曲がりが無いことを確認します。

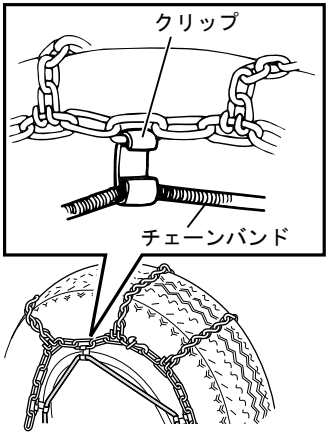


④ 余ったチェーンは車体やブレーキパイプなどにあたるのを防止するため針金で結びます。



⑤ チェーンバンドはクリップの爪を外側にし、バンドが等分になるようにかけます。
⑥ 取り付け後、しばらく走行したらチェーンのゆるみ、外れなどがないことを確認してください。

取り外し要領



① チェーンバンドを外し、針金を取り、フックは外側を先に外します。
② 車を動かし、チェーンを取り出します。

車の点検と手入れ 7

点検・手入れのまえに	7-3
サービスデータ	7-23
日常点検	7-37
エンジン関連の点検・手入れ	7-41
シャシ関連の点検・手入れ	7-79
その他の点検・手入れ	7-119
車内外の手入れ	7-133

点検・手入れのまえに

- 点検整備について 7-4
- 点検・調整をするときの注意 7-5
- 廃棄部品、廃棄油脂液類 7-6
- 純正油脂類 7-7
- 車載工具 7-7
- ジャッキ 7-12
- 点検口★ 7-16
- チルトキャブ★ 7-20

点検整備について

道路運送車両法により、日常（運行前）点検と定期点検はお客様の責任において実施していただくことが法律で義務づけられています。
定期点検には、法律で定められた法定点検項目（距離項目を含む）の他に、弊社が指定するメーカー指定点検項目［シビアコンディション（厳しい使われ方）項目および定期交換部品を含む］があり、法令で定められた期間での実施が義務づけられています。
本書では、簡単な点検・手入れについてまとめてあります。点検整備の詳細については、別冊の「メンテナンスノート」に従い、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

日常（運行前）点検 → 7-38 ページ参照
定期点検整備一覧 → 7-28 ページ参照
定期交換部品一覧 → 7-30 ページ参照

知 識

【シビアコンディションについて】

・定期点検整備は 1 か月で 5,000km 程度走行する場合を標準の時期として定めてあります。
特に走行距離が多い場合、または標準的な使用条件と著しく異なる厳しい使用の場合には部品の劣化度合いが著しく異なることがあり、標準の時期より早めに点検整備をすることが必要です。このように日常厳しい使われ方をする車を常に良好な状態に保つため、定期点検とは別に日産自動車が独自に点検整備を指定しています。

・次の条件のいずれかひとつにあてはまれば“シビアコンディション”に該当します。
- 悪路（凸凹路、砂利道、未舗装路など）、雪道、多塵地帯の走行が走行距離の 30% 以上
- 走行距離が多い（目安：1 か月に 10,000km 以上）
- 山道、登坂坂道の走行が走行距離の 30%以上
- 発進・停止の繰り返しが多い、もしくは低速走行が走行距離の 30%以上

点検・調整をするときの注意

⚠ 警 告

- 整備する場所は地面が平坦で固い場所を選び、必ず輪止めをかけてから作業を行ってください。万一、車が動き出すと危険です。
- パーキングブレーキレバーを確実に引き、シフトレバーは“N”位置にします。
- 必ずエンジンを止めて、スタータースイッチは“LOCK”位置にします。インテリジェントキー無車はスターターキーを抜き取り、インテリジェントキー付車はリモコンキーを作動範囲外に置きます。
- 電気系統の作業をするときは必ずバッテリーの⊖端子を外しておきます。
- ジャッキアップは、“**ジャッキの取り扱い**”を参照し適切に行います。
- 火気の近くでは作業しないでください。
- 運転直後のエンジン本体、DPF、尿素 SCR、マフラー、排気管、ラジエーター等の各部は高温になっています。やけどをしないように注意してください。点検するときはエンジン等が冷えた状態で行ってください。
- 各オイル類、オイルフィルター類の交換は、それぞれのオイルが十分冷えてから作業をします。高温の状態で作業するとやけどします。
- 燃料ライン、フューエルフィルターを整備するときは、フューエルキャップを取り外してください。燃料システムには高い圧力がかかっているため、この圧力を抜かないと燃料があふれたり、これに引火し、火災を招くおそれがあります。
- 換気の悪い車庫、屋内ではエンジンをかけたままにしないでください。一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。

ジャッキ → 7-12 ページ参照

アドバイス

・適切な工具を使用してください。
・バッテリーの⊖端子を外すときは、スタータースイッチを“LOCK”位置にし、3分以上待ってから行ってください。3分以内にバッテリーの⊖端子を外すと、エンジンなどの電子制御機器に悪影響をおよぼすおそれがあります。
・取り外した部品や工具をエンジンルーム内に置き忘れないでください。万一ベルト類などにからまると装置を損傷、破損するおそれがあります。
・汚れた水や、ほこりなどはフルード / オイルの有効性を著しく弱め部品損傷の原因になります。
取り外した部品は、ゴミや異物が混入しないよう十分注意して補給、交換を行ってください。
・作業後、各部が正常であるか確認します。

知 識

・バッテリー端子を外したときは、バッテリー端子接続後、スタータースイッチを“LOCK”位置にしたまま 90 分以上待ち、バッテリー状態をアイドリングストップシステムに認識させてください。アイドリングストップシステムがバッテリー状態を認識できていないと、アイドリングストップが作動しない原因になります。

廃棄部品、廃棄油脂液類

注 意

・廃棄部品や、排出した油脂液類は、生活環境に悪影響をおよぼします。処理が問題になりますので《日産販売会社》で点検、交換を行ってください。

各オイル類、フィルター類、冷却液等の交換作業をするときはあらかじめ受け皿を用意して、その中に排出するようにします。
交換後の各種部品、オイル類、フィルター類冷却液等の廃棄・処理は規定の方法で行ってください。

純正油脂類

オイルおよびグリースの定期的な補給・交換は、車両の性能維持や不具合防止などのために非常に重要な作業です。
日産純正油脂類は、その品質、性能については日産自動車が保証しています。
保守整備に必要な油脂類は日産純正油脂類を使用してください。

車載工具

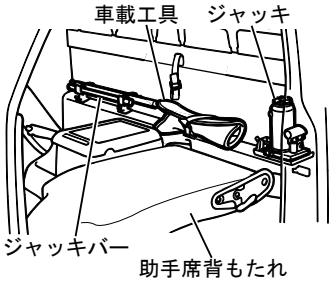
アドバイス

- 使用する前に工具の種類、ジャッキの使いかたを確認してください。
- 使用後、取り出した工具は走行中に動かないように所定の場所にしっかりと格納してください。
- 停止表示板は必ず常時携帯してください。

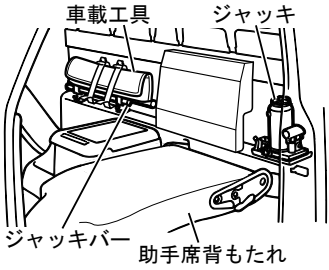
助手席および運転席のうしろに格納されています。助手席および運転席の背もたれを前に倒して取り出します。

ドライバーシート → 3-41 ページ参照
パッセンジャーシート / センターシート★ → 3-43 ページ参照

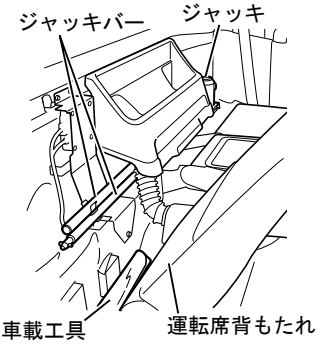
除く電動パーキングブレーキ付車



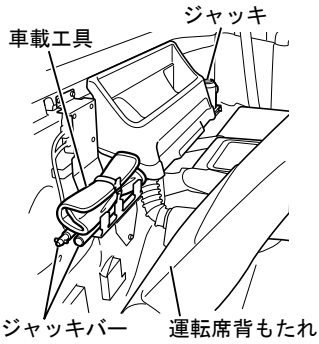
電動パーキングブレーキ付車
(標準キャブ車)

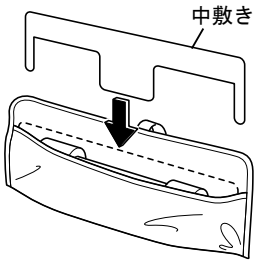


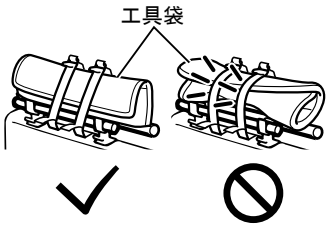
電動パーキングブレーキ付車
(ハイキャブ車)



電動パーキングブレーキ付車
(ワイドキャブ車)







アドバイス

【電動パーキングブレーキ付車】

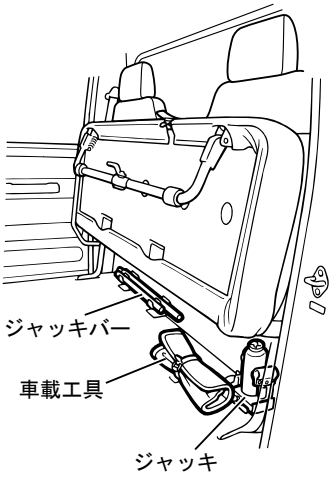
・標準キャブ車は工具を使用したあと、工具袋に中敷きを左図のように確実に入れてください。中敷きが無かったり、向きを間違えたりすると収納時に工具袋が変形してシートに干渉し、乗り心地の悪化やシートの調整不良を招くおそれがあります。

・標準キャブ車は、工具袋を縦置きに収納してください。横置きにするとシートに干渉し、乗り心地の悪化やシートの調整不良を招くおそれがあります。

【除く電動パーキングブレーキ付車】

・カスタム車では、工具の取り付け、取り外しを行うとき、バックパネルトレイを取り外してください。

ダブルキャブ車の格納場所



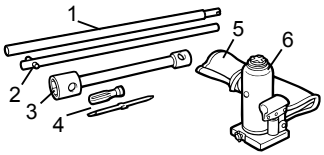
リヤシートの下部に格納されています。

リヤシート★ → 3-44 ページ参照

車載工具の名称

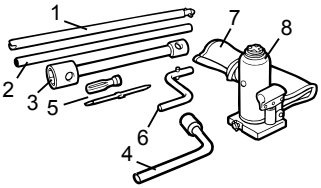
ダブルタイヤ車

◐ スペアタイヤキャリアロ形状



No.	工具の名称
1	ジャッキバー / スペアタイヤキャリアバー / ホイールレンチハンドル
2	スペアタイヤキャリアハンドル
3	ホイールレンチ
4	ドライバー（プラス、マイナス差し替え式）
5	工具袋
6	ジャッキ

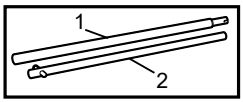
◑ スペアタイヤキャリアロ形状



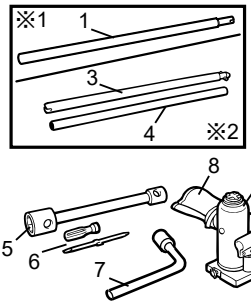
No.	工具の名称
1	ジャッキバー / スペアタイヤキャリアバー
2	ホイールレンチハンドル
3	ホイールレンチ
4	ホイールレンチ（ショートフラットロー車 : 前輪用）
5	ドライバー（プラス、マイナス差し替え式）
6	スペアタイヤキャリアハンドル
7	工具袋
8	ジャッキ

スペアタイヤキャリア無車★

スペアタイヤ付車



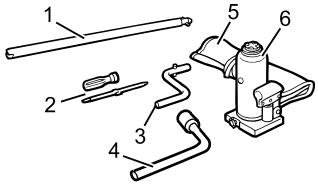
スペアタイヤ無車



No.	工具の名称
1	ジャッキバー / スペアタイヤキャリアバー / ホイールレンチハンドル
2	スペアタイヤキャリアハンドル
3	ジャッキバー / スペアタイヤキャリアバー
4	ホイールレンチハンドル
5	ホイールレンチ
6	ドライバー（プラス、マイナス差し替え式）
7	ホイールレンチ（ショートフラットロー車 : 前輪用）
8	工具袋
9	ジャッキ

※：スペアタイヤ無車は、車両の仕様に応じて※１と※２のどちらかが搭載されています。

シングルタイヤ車



No.	工具の名称
1	ジャッキバー / スペアタイヤキャリアバー
2	ドライバー（プラス、マイナス差し替え式）
3	スペアタイヤキャリアハンドル
4	ホイールレンチ
5	工具袋
6	ジャッキ

アドバイス

・車載工具は、必ずすべてのアイテムを搭載するようにしてください。

ジャッキ

ジャッキの取り扱い

⚠ 警 告

・傾斜地や、やわらかな地面でのジャッキアップは大変危険です。必ず、平坦で、かたい場所で行ってください。

・ジャッキアップを行うときは、必ずパーキングブレーキを確実に効かせ、輪止めを確実にかけてください。パーキングブレーキだけでは、後輪をジャッキアップしたときに車が動き大変危険です。

・ジャッキアップを行うときは、車内に人や、荷物を残さないでください。

・ジャッキアップ中は、危険ですからドアを開けたり、エンジンを始動したりしないでください。また、車の下をのぞいたりもぐり込んだりしないでください。万一、ジャッキが外れると大変危険です。

・ジャッキアップ後、車の下に入って作業するときは、必ずスタンド（ウマ）で車を支えてください。

・指定のジャッキアップポイント以外にはジャッキをセットしないでください。エンジンやトランスミッションなど、指定箇所以外にジャッキをセットすると、車両故障の原因になります。
また、セット位置に確実にかかっていることを確認してください。

・取り外したスペアタイヤはジャッキが外れたときの危険防止のため、ジャッキ近くの車体の下に置いてください。

・ジャッキをかけるときはジャッキやジャッキアップポイント表面の汚れや、油脂類をふき取ってください。汚れているとジャッキが滑って車の下敷きになることがあり非常に危険です。

・車両に搭載されているジャッキは、タイヤの交換作業またはタイヤチェーン脱着以外の目的では使用しないでください。また、両輪同時のジャッキアップは危険ですので、必ず片輪ずつジャッキアップしてください。

・二段伸縮タイプのジャッキは上昇停止マーク（黄色塗装）が見えたらジャッキバーの操作をやめてください。ジャッキ故障の原因になります。

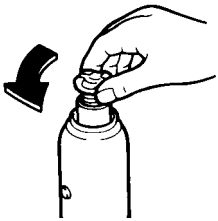
ジャッキの操作

上げかた（ジャッキアップ）

① ジャッキをジャッキアップポイントの真下に立てます。
ジャッキを立てる位置は平らで固い地面にします。

前輪ジャッキアップポイント
→ 7-14 ページ参照

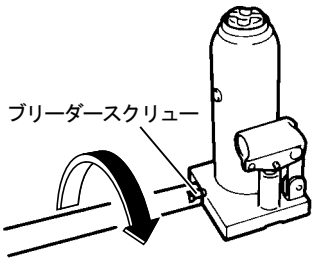
後輪ジャッキアップポイント
→ 7-15 ページ参照



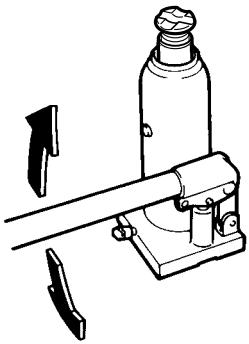
② ジャッキ頭部を回してジャッキアップポイントの高さに合わせます。左に回すと高くなります。

知 識

・車型によってはジャッキ頭部を伸ばさないで使用するとタイヤが上がりきらないことがあります。



③ ジャッキハンドルの切り欠き部を使用してブリーダースクリューを右へいっぱいに回しておきます。

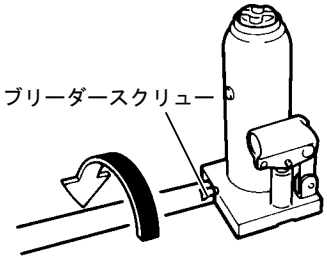


④ ジャッキハンドルをソケットに差し込み、ジャッキハンドルを静かに上下させて少しジャッキアップします。
⑤ 確実にジャッキアップポイントにかかっていることを確認し、ジャッキアップします。

下ろしかた

アドバイス

・車を下げているとき、ジャッキを急に停止させないでください。ジャッキが破損する場合があります。

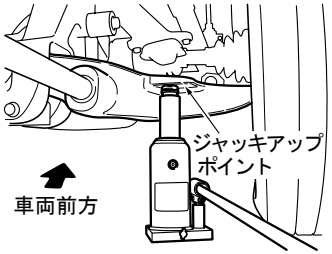


① ジャッキハンドルの切り欠き部をブリーダースクリューに合わせます。
② ブリーダースクリューを左へゆっくり回しジャッキを下ろします。
③ ジャッキが完全に下りたらブリーダースクリューを右へいっぱいに回しておきます。
④ ジャッキ頭部を右へいっぱいに回しておきます。

前輪ジャッキアップポイント

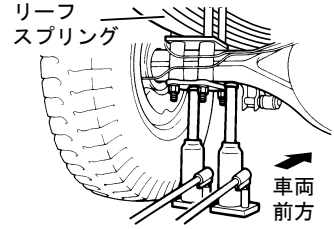


ビスカス式トルクスプリット 4WD 車（標準キャブ・ハイキャブ車）
ジャッキアップブラケット下部にセットします。

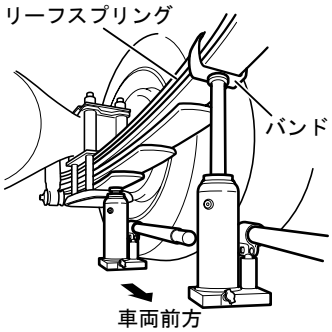


フルタイム 4WD 車（ワイドキャブ車）
ジャッキアップポイント（ロワーリンク後側）にセットします。

後輪ジャッキアップポイント



リーフスプリング・オーバースラング車
（シングルタイヤ車、ダブルタイヤ車、フラットロー車、ロング系フルフラットロー車など）
リーフスプリングまたはアクスルケース下部にセットします。



リーフスプリング・アンダースラング車
（ダブルタイヤ車の一部、標準フルフラットロー車など）
リーフスプリング下部または車両前方のバンド部のリベットにセットします。

点検口★

知 識

・点検口は、ダブルキャブ車、標準キャブ車（除くチルトキャブ車）に標準装備されています。また、ハイキャブ・ワイドキャブ車は点検口のオプションを選択した場合のみ装備されます。

エンジン点検口★



開けかた

① 助手席シート座面先端にあるキャッチのレバーを引き上げロックを外します。
② 助手席シート座面を持ち上げ、背もたれ後方から出ているベルトを右側のキャッチのレバーにかけシート座面を固定します。

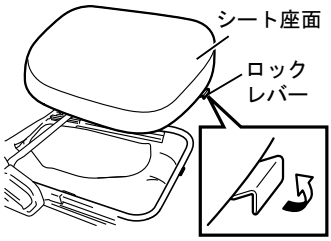
閉じかた

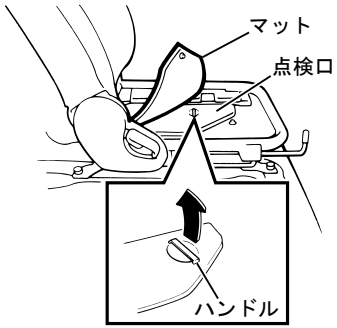
① ベルトをキャッチのレバーから外しシート座面を元の位置より 30cm 位の高さから手を離し、ロックします。
② シート座面をゆすって完全にロックされたことを確認してください。

⚠ 注 意

・シート座面を元の位置に戻すとき、指などをはさまないように注意してください。
また、シート座面が確実にロックされていることを確認してください。ロックが確実にされていないと走行中、座席が不安定な状態になり思わぬ事故の原因となります。

補助点検口★





開けかた

① ロックレバー（赤色）を手前に引き上げロックを解除し、運転席のシート座面を取り外します。

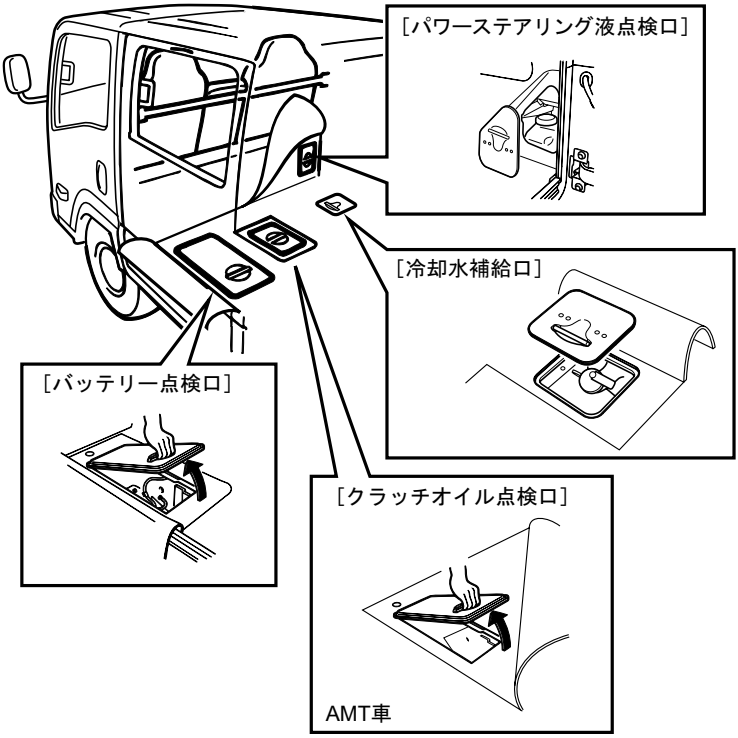
② マットをはがし、ハンドルを引き、点検口のふたを外します。

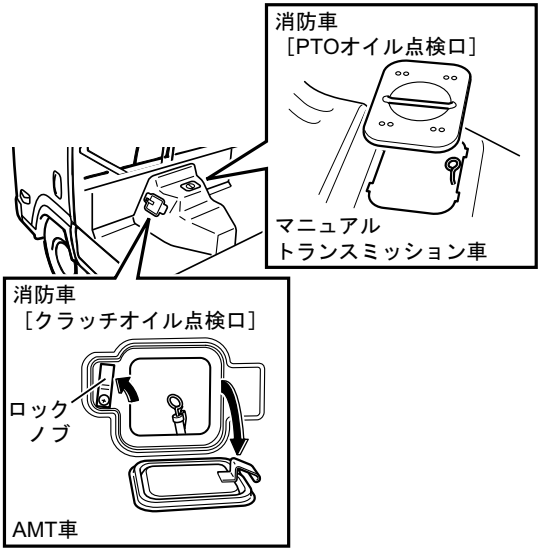
閉じかた

閉じるときは、開けたときと逆の手順で行います。

リヤ点検口（ダブルキャブ車）★

各点検口は、リヤシートの足元にあります。点検口を開けるときはまず、フロアーマットをはがして、各点検口のふたにあるハンドルをにぎって外します。消防車のクラッチオイル点検口は、ロックノブを解除して点検口のふたを外します。





パワーステアリングフルード
→ 7-114 ページ参照
AMT クラッチオイル★
→ 7-106 ページ参照
バッテリー → 7-125 ページ参照
冷却水 → 7-50 ページ参照

チルトキャブ★

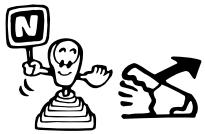
⚠ 警 告

- 以下の点を厳守し、チルトキャブの操作は本書で示す手順に従ってください。死亡や傷害、物的損害につながるおそれがあります。
- チルトキャブは、平らな場所で行ってください。
- 屋内などでチルトキャブするときは、前方および天井との空間を十分とってください。
- チルトキャブするときは、左右のドアを確実に閉めてください。また、チルトキャブ中はドアが重くなりますので、ドアの開閉はしないでください。
- やむをえずキャブをチルトしたままでドアを開閉する場合は、ドアの重さを確実に支え、ゆっくり開閉してください。開閉途中にドアから手を放すことは非常に危険です。ドアがあたってケガをしたり、ドアを損傷するおそれがあります。ドアを閉めた後には､確実に閉まっていることを確認してください。
- チルトキャブするときは車両の周辺や、キャブ内に人がいないことを確認してください。
- チルトキャブしたときは、チルトステーのロックレバーが確実に固定されたことを確認してください。
- 走行直後のサイレンサー、排気管、DPF、尿素 SCR は高温になっています。チルトキャブ操作時は誤って触れないよう十分に注意してください。
- インストルメントパネル、シート、カップホルダー、バックパネルトレイ、床面にものを置いたまま、チルトキャブをしないでください。
- エンジンは必ず停止状態で行ってください。
- ルーフラック上の荷物は必ず降ろしてください。
- バンパー上面に載っているもの（着氷、着雪を含む）を取り除いてからチルトキャブを行ってください。バンパー、ランプ類、その他の部品を破損するおそれがあります。
- 走行直後のハンドルとレバーは非常に高温になっています。十分に注意してください。
- チルトキャブ操作中は、体や手足がはさまれないよう十分に注意してください。

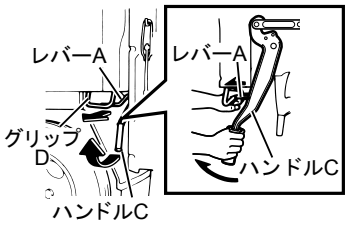
キャブを上げるとき

⚠ 警 告

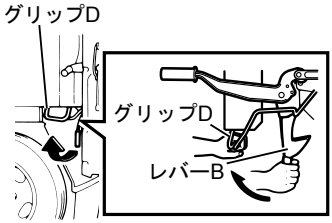
・チルトキャブ中はロックが解除しないよう、チルトステーのロックＥに触れないように注意してください。



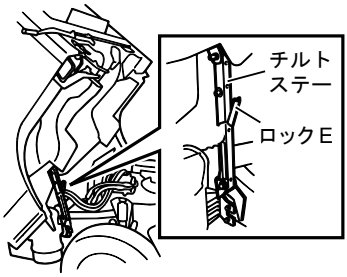
① パーキングブレーキを確実に効かせ、シフトレバーが“N”位置に入っていることを確認し、ドアを確実に閉めます。



② グリップＤを持ちながら、レバーＡを手前に引き、ハンドルＣを持ち上げます。



③ グリップＤを持ちながら、レバーＢを手前に引き、キャブを持ち上げます。



④ キャブを持ち上げたとき、キャブを支えながらチルトステーのロックＥが確実に固定したことを確認してください。

⚠ 警 告

・ロックＥが確実に固定されていないとキャブが下降して危険です。

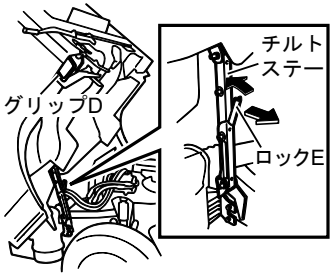
キャブを下げるとき

⚠ 警 告

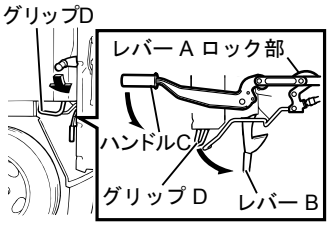
・キャブを下ろしたあとは必ず、キャブが確実にロックされたことを確認してください。
・ロックが不完全なままだとスタータースイッチを“ON”位置にした際に「キャブチルト」がマルチディスプレイに表示され、警報音“ピーーー”が鳴ります。

⚠ 注 意

・キャブ内外に荷物を固定、あるいは積んでいる場合、キャブの降下速度が速くなることがありますので注意してください。



① グリップDを持ち、キャブを支えながらロックEを解除し、チルトステーを車両後方に引いて折りたたみます。



② グリップDを持ってレバーBがかかるよう少し勢いをつけてキャブを下ろし、レバーBが確実にかかったことを確認してください。
③ ハンドルCを、レバーAのロック部が確実にロックされるまで引き下げます。
④ ハンドルCの操作後、レバーBを引きながらグリップDを持ち上げても、キャブが持ち上がらないことを必ず確認します。
⑤ スタータースイッチを“ON”位置にしたとき、「キャブチルト」がマルチディスプレイに表示されず、警報音“ピーーー”が鳴っていないことを確認してください。

チルトキャブ★ → 4-52 ページ参照

サービスデータ

- メンテナンスデーター覧 7-24
- 整備基準値一覧 7-25
- タイヤ空気圧一覧 7-26
- 定期点検整備一覧 7-28
- 定期交換部品一覧 7-30
- サービスコネクターについて 7-35

メンテナンスデーター覧

項　目		参照ページ
整備基準値一覧		7-25
タイヤ空気圧一覧		7-26
定期点検整備一覧（点検時期）		7-28
定期交換部品一覧（交換時期）	油脂液類（指定銘柄・容量）	7-30
	エレメント類	7-32
	ゴム・樹脂部品など	7-32
	ウインドーウォッシャー液	7-32
	その他	7-33
	グリース	7-34

アドバイス

・エンジンオイルは走行とともに減少します。また、その減少量は運転状況（使用状況）によって異なりますので、定期的にオイルレベルゲージで確認してください。

・油脂類（オイル、グリース）や液類（冷却水）は潤滑・冷却・防錆などの役割があります。使用している間に減少、汚れ、劣化が生じ各部品の性能低下や故障（焼きつき、作動不良）の原因になります。また、ゴムを使用している部品などは、古くなると劣化が生じ、油や水が漏れたり切れやすくなり、水や埃から部品を保護するブーツ類も破れやすくなります。お車の機能、性能と安全を保持するため、法律で定められた点検（日常点検、定期点検）時やサービスデータの交換時期（走行距離または時期［月・年］のどちらか早い方）に従い点検・補給・交換を行ってください。

・油脂類（オイル）、液類（バッテリー液、冷却水）、エレメント類、ゴム・樹脂部品などは、標準的な使用条件と著しく異なる場合（毎月の走行距離が多い車、著しく過酷な条件で使用する車、長時間アイドルで停車する車、長時間 PTO 等を使用する車、海岸地帯、寒冷地での使用が多い車など）、劣化状況に応じて標準の時期より早めの交換が必要となることもありますので、《日産販売会社》にご相談ください。

整備基準値一覧

項　目		基準値［参考値］		参照ページ
アイドリング回転数		575 ～ 625r/min（エンジン暖機後）		—
ハンドルの遊び		10 ～ 50mm		—
パーキングブレーキの引きしろ		6～8ノッチ(除く電動パーキングブレーキ付車)		7-83
クラッチペダルの遊び		15 ～ 25mm		7-101
タイヤの空気圧		本文参照		7-26
タイヤの残溝		一般走行時 1.6mm 以上		7-90
		高速走行時 2.4mm または 3.2mm※1 以上		
ホイールナットの締付けトルク	シングルタイヤ	前輪： 140 ～ 200N·m {14 ～ 20kgf·m}	後輪： 140 ～ 200N·m {14 ～ 20kgf·m}	7-96
	ダブルタイヤ	前輪： 450 ～ 550N·m {45 ～ 55kgf·m}	後輪： 450 ～ 550N·m {45 ～ 55kgf·m}	

※1：タイヤサイズ　215/70R17.5 123/121J および 225/80R17.5 123/122L

タイヤ空気圧一覧

タイヤ空気圧一覧は、装着できるタイヤサイズを示すものではなく、装着されているタイヤサイズに対して空気圧を確認するものです。

アドバイス

・空気圧値は、標準車について記載してあります。
車両の仕様によって、空気圧が異なりますので運転席側のドア開口部に貼り付けてある空気圧ラベルをご覧になり確認してください。

型 式	類 別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
		前 輪	後 輪	前 輪	後 輪
AHS88A	-ET6AA	205/75R16	205/75R16	600(6.00)	450(4.50)
	-ET6WA	205/70R16	205/70R16	600(6.00)	450(4.50)
	-ET7AA	205/75R16	205/75R16	600(6.00)	600(6.00)
AHS88AN	-ET6AY	205/75R16	205/75R16	600(6.00)	450(4.50)
	-ET6WY	205/70R16	205/70R16	600(6.00)	450(4.50)
		205/75R16	205/75R16		
	-ET7AY	205/75R16	205/75R16	600(6.00)	600(6.00)
AJS88A	-EE6AA	205/75R16	205/75R16	600(6.00)	450(4.50)
	-EY6WA	205/70R16	205/70R16	600(6.00)	450(4.50)
AJS88AN	-EE6AY	205/75R16	205/75R16	600(6.00)	450(4.50)
	-EE6ADY	205/75R16	205/75R16	600(6.00)	600(6.00)
AKS88A	-EE6AA	205/75R16	205/75R16	600(6.00)	450(4.50)
AKS88AD	-EE6AK51	205/75R16	205/75R16	600(6.00)	600(6.00)
	-EE6AK52	205/75R16	205/75R16	600(6.00)	600(6.00)
AKS88AN	-EE6ADY	205/75R16	205/75R16	600(6.00)	600(6.00)
	-EE6AY	205/70R16	205/70R16	600(6.00)	450(4.50)
		205/75R16	205/75R16	600(6.00)	450(4.50)
	-EE6WA	205/70R16	205/70R16	600(6.00)	450(4.50)
AKS88AN	-EJ6AA	195/85R16	195/85R16	600(6.00)	600(6.00)
		205/85R16	205/85R16	600(6.00)	600(6.00)
	-EJ6ADY	195/85R16	195/85R16	600(6.00)	600(6.00)
		205/75R16	205/75R16	600(6.00)	600(6.00)
		205/85R16	205/85R16	600(6.00)	600(6.00)
	-EJ6AY	195/85R16	195/85R16	600(6.00)	600(6.00)
		205/75R16	205/75R16	600(6.00)	600(6.00)
		205/85R16	205/85R16	600(6.00)	600(6.00)
ALS88AN	-EE6AY	205/75R16	205/75R16	600(6.00)	450(4.50)
	-FX5WFY -FX5WGY	205/85R16	205/85R16	600(6.00)	600(6.00)
	-HE6AY	205/75R16	205/75R16	600(6.00)	450(4.50)
		195/85R16	195/85R16	600(6.00)	600(6.00)
		205/85R16	205/85R16	600(6.00)	600(6.00)
ALS88AR	-HY6AA	195/85R16	195/85R16	600(6.00)	600(6.00)
		205/85R16	205/85R16	600(6.00)	600(6.00)

型　式	類　別	タイヤサイズ		空気圧 kPa(kgf/cm²)	
		前　輪	後　輪	前　輪	後　輪
AMS88AN	-EE6AY	205/75R16	205/75R16	600(6.00)	450(4.50)
	-FE5AHYJ	195/85R16	195/85R16	600(6.00)	600(6.00)
		205/85R16	205/85R16	600(6.00)	600(6.00)
	-FE5WFY	195/85R16	195/85R16	600(6.00)	600(6.00)
		205/85R16	205/85R16		
	-FE5WFYJ	205/85R16	205/85R16	600(6.00)	600(6.00)
	-FE5WGY	195/85R16	195/85R16	600(6.00)	600(6.00)
		205/85R16	205/85R16		
	-FE5WGYJ	205/85R16	205/85R16	600(6.00)	600(6.00)
	-FE6AY	205/75R16	205/75R16	600(6.00)	450(4.50)
	-FJ6AY	195/85R16	195/85R16	600(6.00)	600(6.00)
		205/85R16	205/85R16		
	-HE6AY	205/75R16	205/75R16	600(6.00)	450(4.50)
		195/85R16	195/85R16	600(6.00)	600(6.00)
		205/85R16	205/85R16	600(6.00)	600(6.00)
	-HE6WY	205/75R16	205/75R16	600(6.00)	450(4.50)
AMS88AR	-FE6AA	205/75R16	205/75R16	600(6.00)	450(4.50)
	-HE6AA	195/85R16	195/85R16	600(6.00)	600(6.00)
		205/85R16	205/85R16	600(6.00)	600(6.00)
ANS88AN	-HY6AA	205/75R16	205/75R16	600(6.00)	450(4.50)
		195/85R16	195/85R16	600(6.00)	600(6.00)
APS88AN	-HE6ADY	205/80R17.5	205/80R17.5	600(6.00)	600(6.00)
	-HE6AY	225/70R16	225/70R16	600(6.00)	600(6.00)
	-HJ6AY	225/75R16	225/75R16	600(6.00)	600(6.00)
		215/85R16	215/85R16	600(6.00)	600(6.00)
		215/70R17.5	215/70R17.5	600(6.00)	600(6.00)
	-KE6AY	225/70R16	225/70R16	600(6.00)	600(6.00)
	-KJ6AY	205/80R17.5	205/80R17.5	600(6.00)	600(6.00)
		215/70R17.5	215/70R17.5	775(7.75)	775(7.75)
APS88AR	-HE6AA	225/70R16	225/70R16	600(6.00)	600(6.00)
	-HJ6AA	225/75R16	225/75R16	600(6.00)	600(6.00)
		215/70R17.5	215/70R17.5	600(6.00)	600(6.00)
	-KJ6AA	215/70R17.5	215/70R17.5	775(7.75)	775(7.75)

定期点検整備一覧

本書では、簡単な点検・手入れについてまとめてあります。点検整備の詳細については、別冊の「メンテナンスノート」に従い、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

点検箇所	点検項目	点検時期		参照ページ
		事業用	自家用	
パワーステアリング装置	油漏れ及び油量	3 か月ごと	1 年ごと	7-115
ブレーキ・ペダル	遊び及び踏み込んだときの床板とのすき間	3 か月ごと ＊1	6 か月ごと	7-80
駐車ブレーキ機構	引きしろ	3 か月ごと ＊1	6 か月ごと	7-83
リザーバ・タンク	液量	3 か月ごと	1 年ごと	7-83
ブレーキ・ドラム及びブレーキ・シュー	ドラムとライニングとのすき間	3 か月ごと ＊1	6 か月ごと	7-86
	シューの摺動部分及びライニングの摩耗	3 か月ごと	1 年ごと	7-86
ブレーキ・ディスク及びパッド	パッドの摩耗	3 か月ごと ＊1	1 年ごと ＊2	7-85
	ディスクの摩耗及び損傷	1 年ごと	1 年ごと	7-85
タイヤ・ホイール	タイヤの状態	3 か月ごと	1 年ごと	7-87
	ホイール・ナット及びホイール・ボルトの緩み	3 か月ごと ＊1	6 か月ごと	7-96
クラッチ	ペダルの遊び及び切れたときの床板とのすき間	3 か月ごと ＊1	6 か月ごと	7-101
	作用	3 か月ごと	6 か月ごと	7-101
	液量	3 か月ごと	1 年ごと	7-102
トランスミッション及びトランスファー	油漏れ及び油量	3 か月ごと ＊1	6 か月ごと	7-103 7-112
デファレンシャル	油漏れ及び油量	3 か月ごと ＊1	6 か月ごと	7-109
バッテリ	ターミナル部の接続状態	3 か月ごと	1 年ごと	7-131
エンジン本体	低速及び加速の状態	3 か月ごと	1 年ごと	7-42
	エア・クリーナ・エレメントの状態	3 か月ごと ＊1	6 か月ごと	7-65
エンジン潤滑装置	油漏れ	3 か月ごと ＊1	6 か月ごと	7-43
冷却装置	ファン・ベルトの緩み及び損傷	3 か月ごと ＊1	6 か月ごと	7-64
	水漏れ	1 年ごと	1 年ごと	7-53

＊1：使用状況が厳しい車両（シビアコンディション時）は、日産自動車が 1 か月ごとの点検を指定しています
＊2：使用状況が厳しい車両（シビアコンディション時）は、日産自動車が 6 か月ごとの点検を指定しています

点検箇所	点検項目	点検時期		参照ページ
		事業用	自家用	
DPF	フィルターの状態	1 年ごと	1 年ごと	7-77
	配管の状態			
その他	シャシ各部の給油脂状態	3 か月ごと ＊1	6 か月ごと	7-34

＊1：使用状況が厳しい車両（シビアコンディション時）は、日産自動車が 1 か月ごとの点検を指定しています

定期交換部品一覧

アドバイス

・交換時期に使用期間と走行距離が併記されている場合は、どちらか早い方に従い交換を行ってください。

油脂液類

アドバイス

・オイルの容量は、交換時の目安として記載してあります。交換後は規定の位置まで入っていることを確認してください。

車型または型式		交換時期	容量［参考値］	指定銘柄		備　考	参照ページ
エンジンオイル							
4JZ1 型		エンジンオイル＆フィルター表示（橙）点灯時または1年ごと＊1	8.3L	・日産純正ディーゼルエンジンオイル DL-1 5W-30	DPF 対応	フィルター容量 0.7L を含む	7-43
トランスミッションオイル							
MYY 型	5 速	50,000km（または 2 年）ごと	3.5L［3.8L］	GL3 級 ・ベスコギヤオイルトランスアクスル 5W-30		レベルプラグの口元まで給油 ［］内はサイド PTO 付	7-104
	AMT クラッチオイル	50,000km（または 2 年）ごと	2.0L〈5.2 ～ 5.3L〉	・ベスコ ATF Ⅲ		〈〉内は全容量	7-108
	フロント PTO ギヤオイル	50,000km（または 2 年）ごと	5.5 ～ 6.0L	GL3 級 ・ベスコギヤオイルトランスアクスル 5W-30		消防車	7-117
トランスファーオイル							
パートタイム 4WD 車（ビスカス式トルクスプリット）		50,000km（または 2 年）ごと	1.6L	GL3 級 ・ベスコギヤオイルトランスアクスル 5W-30		レベルプラグの口元まで給油	7-113
フルタイム 4WD 車			1.35L				
リヤアクスルデファレンシャルオイル							
φ 292		50,000km（または 2 年）ごと	3.0L	GL5 級 ・日産純正デフオイルハイポイドスーパー（API：GL-5、SAE：80W-90）		レベルプラグの口元まで給油	7-111
φ 320			3.4L				

＊1：点灯時期は、お車の使用状況により異なります（最長 40,000km 走行で点灯）

<table>
<tr><th colspan="3">車型または型式</th><th>交換時期</th><th>容量
[参考値]</th><th>指定銘柄</th><th>備　考</th><th>参照
ページ</th></tr>
<tr><td colspan="8">フロントアクスルデファレンシャルオイル</td></tr>
<tr><td colspan="3">標準キャブ・
ハイキャブ車</td><td rowspan="2">50,000km
（または 2 年）
ごと</td><td>1.3L</td><td rowspan="2">GL5 級
・日産純正デフオイルハイポイド LSD（API：GL-5、SAE：80W-90）
＊2</td><td>レベルプラグ穴の下面より 10mm ほど低い位置まで給油</td><td rowspan="2">7-111</td></tr>
<tr><td colspan="3">ワイドキャブ車</td><td>1.64L</td><td>レベルプラグの口元まで給油</td></tr>
<tr><td colspan="8">パワーステアリングフルード</td></tr>
<tr><td colspan="3">全車</td><td>50,000km
（または 1 年）
ごと</td><td>1.5L</td><td>・ベスコ ATF Ⅲ</td><td>交換油量でなくタンク、配管等の目安内容量</td><td>7-116</td></tr>
<tr><td colspan="8">ブレーキフルード</td></tr>
<tr><td rowspan="4">全車</td><td rowspan="2">自家用</td><td>4 輪ディスクブレーキ</td><td rowspan="2">2 年ごと</td><td>0.9L</td><td rowspan="4">・日産純正ブレーキフルード No.2500（DOT3）</td><td rowspan="4">—</td><td rowspan="4">7-83</td></tr>
<tr><td>上記以外</td><td>0.7L</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業用</td><td>4 輪ディスクブレーキ</td><td rowspan="2">1 年ごと</td><td>0.9L</td></tr>
<tr><td>上記以外</td><td>0.7L</td></tr>
<tr><td colspan="8">クラッチフルード</td></tr>
<tr><td colspan="2">全車</td><td>自家用</td><td>2 年ごと</td><td rowspan="2">0.1L</td><td rowspan="2">・日産純正ブレーキフルード No.2500（DOT3）</td><td rowspan="2">リザーブタンクはブレーキ液と共通</td><td rowspan="2">7-102</td></tr>
<tr><td colspan="2">事業用</td><td>1 年ごと</td></tr>
<tr><td colspan="8">エンジン冷却水</td></tr>
<tr><td rowspan="2">シングルキャブ車</td><td colspan="2">標準キャブ・
ハイキャブ車</td><td rowspan="4">300,000km
（または 5 年）
ごと</td><td>11.7L</td><td rowspan="4">・日産純正ロングライフクーラント</td><td rowspan="3">寒冷地仕様以外
濃度 30%

寒冷地仕様
濃度 50%</td><td rowspan="4">7-56</td></tr>
<tr><td colspan="2">ワイドキャブ車</td><td>12.2L</td></tr>
<tr><td>ダブルキャブ車（除く消防車）</td><td colspan="2">標準キャブ・
ハイキャブ車</td><td>12.0L</td></tr>
<tr><td colspan="3">消防車</td><td>13.6L</td></tr>
</table>

＊2：油温の上がり過ぎを防ぐために、必ず日産純正デフオイルハイポイド LSD（API: GL-5、SAE：80W-90）を使用してください。

エレメント類

整備項目	交換時期	参照ページ
エアクリーナーエレメント	80,000km（または 2 年）ごと	7-65
エンジンオイルフィルターエレメント	エンジンオイル＆フィルター表示（橙）点灯時または 1 年ごと＊1	7-48
フューエルフィルターエレメント プレフューエルフィルターエレメント	燃料フィルター表示（橙）点灯時または 2 年ごと＊2	7-71

＊1：点灯時期は、お車の使用状況により異なります（最長 40,000km 走行で点灯）
＊2：60,000km で点灯

ゴム・樹脂部品など

項　目		交換時期	備　考
パワーステアリングホース	自家用	4 年ごと	—
	事業用	2 年ごと	
パワーステアリング内部のゴム部品		4 年ごと	—
ブレーキホース	自家用	4 年ごと	—
	事業用	2 年ごと	
マスターシリンダー		4 年ごと	—
ホイールシリンダー及びディスクキャリパーのカップ、ブーツ等ゴム部品	自家用	4 年ごと	—
	事業用	2 年ごと	
ハイドロリックユニット		10 年ごと	—
フューエルホース	自家用	4 年ごと	—
	事業用	2 年ごと	

ウインドーウォッシャー液

ウインドーウォッシャー液の混合割合

容　量 [参考値]	時　期	水道水	ウインドーウォッシャー液	凍結温度	参照ページ
標準キャブ車：2.9L ハイキャブ・ ワイドキャブ車：3.1L	通常	2	1	-10℃程度	7-120
	冬期	1	1	-20℃程度	
	厳寒	0	原液を使用	-50℃程度	

そ の 他

項 目	交換時期	備 考
スターターモーター	—	スターター表示（橙）点灯時 ＊1
スターターリレー	—	
ドージングモジュール（尿素 SCR システム）	750,000km ごと	—
NOx センサー（尿素 SCR システム）	300,000km ごと	—
O2 センサー	250,000km（または 15 年）ごと	—
PM センサー	250,000km（または 15 年）ごと	—

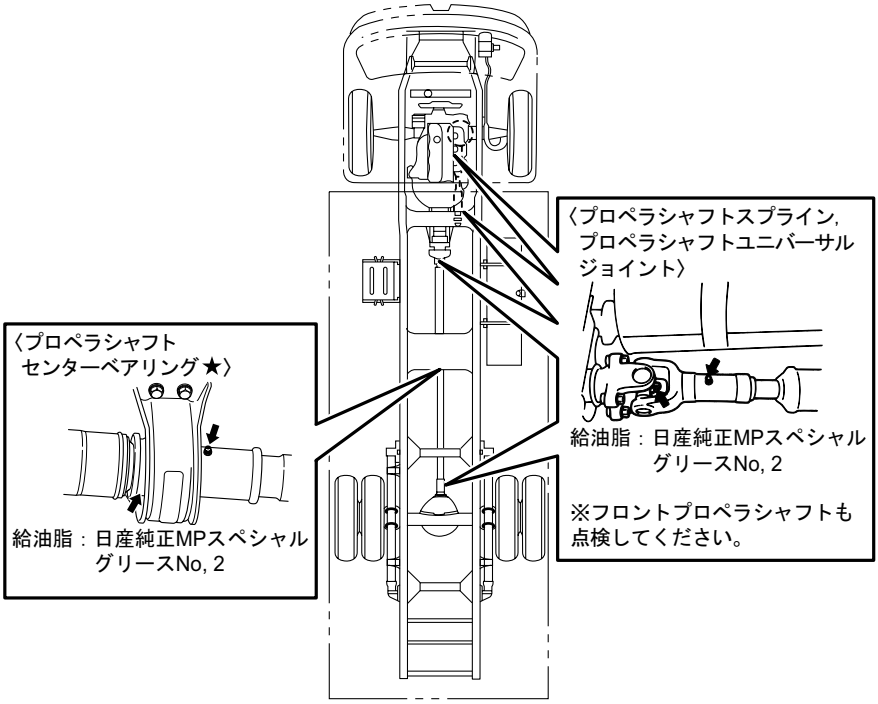
＊1：150,000 回作動時に点灯（消防車は 70,000 回作動時に点灯）

グリース

アドバイス

・給脂を行う際、部位により要求されるグリースの種類（性質）が異なります。各部位ごとの指定グリースを確認したうえで適切なグリースを使用してください。

6 か月ごとにグリースニップルから〈日産純正 MP スペシャルグリース No,2〉を次の箇所に適量給脂します。



アドバイス

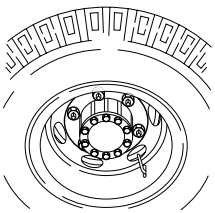
【プロペラシャフトへの給脂について】

・すべてのユニバーサルジョイントに、4 か所のオイルシール部から新しいグリースがはみ出るまで給脂してください。

・プロペラシャフト給脂部（ユニバーサルジョイント・スプライン・センターベアリング）への給脂後は、はみ出したグリースを必ずふき取ってください。

24,000km 走行（または 1 年）ごとにベアリンググリース〈日産純正 MP スペシャルグリース No,2〉を次の箇所に適量給脂します。

ホイールハブベアリング



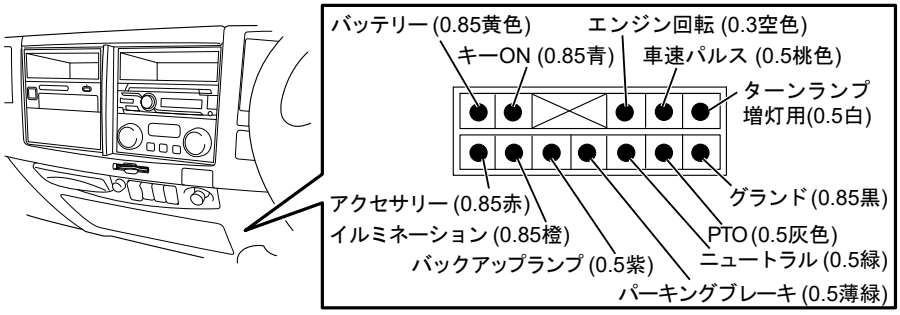
4 か所
分解作業が必要なので最寄りの《日産販売会社》へお申し付けください。

サービスコネクターについて

電装品を追加して接続するときに使用するサービスコネクターがリレーボックス右横に設置してあります。

⚠ 警 告

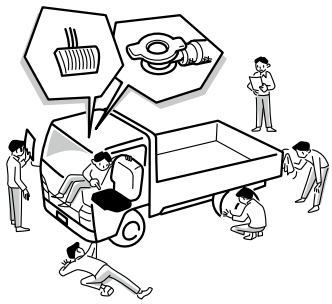
・カーナビゲーションシステムや無線機、その他市販のオーディオなど電装品の電気配線は、サービスコネクターより指定の方法で行ってください。不適切な配線を行うと、他の電装品に悪影響を与え故障の原因になるおそれや、電線の過熱により火災を招く危険があります。また、SRS エアバッグが思いかけずにふくらんだりして危険です。電装品の取り付け、取り外しは必ず《日産販売会社》で行ってください。



日常点検

● 日常（運行前）点検 7-38
● 前回の運転で異常のあった箇所の点検 7-39

日常（運行前）点検



日常点検は、道路運送車両法により運転者に義務づけられています。1 日 1 回、お車を運転する前に日常点検を行い、異常がないことを確認してください。安全で快適な運転のため、お車の走行距離、運行時の状態などを把握し、適切な点検時期および、点検に応じた整備を行ってください。
点検の結果、異常がある場合、あるいは、前日または前回の運転で異常のあった箇所は《日産販売会社》で修理を受けてから運転するようにしてください。

日常（運行前）点検一覧

【1. 前回の運転で異常のあった箇所の点検】

点検項目	参照ページ
前回の運転で異常のあった箇所の点検	7-39

【2. エンジン点検口を開けて、または、チルトキャブして】

点検項目	参照ページ
エンジンオイル量※1	7-43
冷却水量※1	7-53
ファンベルトの張り具合、損傷※1	7-64

【3. 運転席に座って】

点検項目	参照ページ
ブレーキの液量	7-83
ブレーキペダルの踏みしろ	7-80
パーキングブレーキレバーの引きしろ（遊び）	7-83
エンジンのかかり具合と異音の有無※1	7-42
ウォッシャー液の噴射状態、ワイパーのふき取り具合※1	7-120、7-121
ウォッシャー液の量※1	7-120

【4. 車のまわりを 1 周して】

点検項目	参照ページ
ランプ類の点灯、点滅、汚れ、損傷	7-123
バッテリー液量※1	7-129

【5. タイヤの点検】

点検項目	参照ページ
空気圧	7-87
亀裂、損傷	7-89
異常な摩耗	7-90
溝の深さ※1	7-90

【6. 走行して】

点検項目	参照ページ
ブレーキの効き具合	7-81
低速および加速の状態※1	7-42
クラッチの作用※2※3	7-101

※1：走行距離や運行時の状況等から判断した適切な時期に行う点検項目を示します。
※2：日産自動車が推奨する点検項目を示します。
※3：事業用のみの点検項目を示します。

前回の運転で異常のあった箇所の点検

前日または、前回の運転で異常があった箇所を点検してください。異常があった箇所は《日産販売会社》で修理を受けてから運転するようにしてください。

エンジン関連の点検・手入れ

- エンジンの状態 7-42
- エンジンオイル 7-43
- エンジンオイルフィルター 7-48
- 冷却水 7-50
- ファンベルト 7-64
- エアクリーナー 7-65
- フューエルフィルター 7-69
- DPF（ディーゼルパティキュレートフィルター） 7-77

エンジンの状態

メンテナンスデーター覧
→ 7-24 ページ参照

エンジンのかかり具合・異音の点検

スタータースイッチを操作してエンジンを始動させます。
このときにエンジンがただちに始動し、また異音が出ないことを確認します。

エンジンの始動方法 → 4-4 ページ参照

エンジンの低速と加速の状態の点検



① スタータースイッチを操作してエンジンを始動させ、暖機運転を行います。

エンジンの始動方法 → 4-4 ページ参照

② アイドリング回転数が標準アイドリング回転数内で円滑に回転しているか確認します。ただし以下の状態を除きます。
・DPF 再生中
・冷却水温が低いとき

アイドルアップノブ★
→ 4-79 ページ参照
DPF スイッチ → 4-228 ページ参照

③ 走行状態で徐々に加速したとき、アクセルペダルにひっかかりが無いか、エンジン回転が円滑に上がるか、ノッキングは無いかを確認します。

エンジンオイル

エンジンオイルは、エンジン内の冷却作用、エンジン内のゴミを洗い流す清浄作用の役割をしています。エンジンの性能や寿命、燃費に大きな影響を与えますので指定オイルを使用してください。

メンテナンスデーター覧
→ 7-24 ページ参照

アドバイス

- エンジンオイルは走行とともに減少します。また、その減少量は運転状況（使用状況）によって異なりますので、定期的にオイルレベルゲージで確認してください。
- エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などを行います。作動工程の中で蒸発・排出・燃焼などによりオイルの劣化や減少を招き、点検およびオイルの補充や交換を行わず使用し続けると、エンジンの焼きつき、破損を招くおそれがあります。使用条件により異なりますが、指定時期以前でもオイルの劣化や減少がある場合は補充、交換を行ってください。
- DPF 対応オイルを使用されない場合はエンジンおよび、DPF の故障、燃費の悪化原因となります。必ず DPF 対応オイルを使用してください。

知 識

- DPF は、DPF フィルター内に PM（粒子状物質）が一定量堆積すると自動的に再生（PM の燃焼）を行います。この再生（PM の燃焼）を行うために、エンジン燃焼室での爆発後に燃料噴射を行い、微量の燃料をフィルターに吹き付けています。このためエンジンオイル中へ燃料が徐々に混ざり、エンジンオイルが注入時よりも増える場合がありますが故障ではありません。

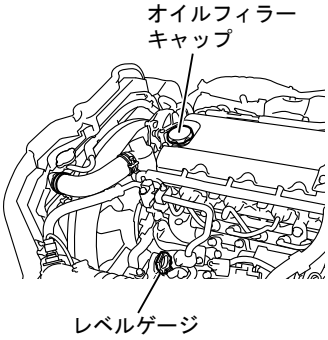
エンジンオイルの点検

アドバイス

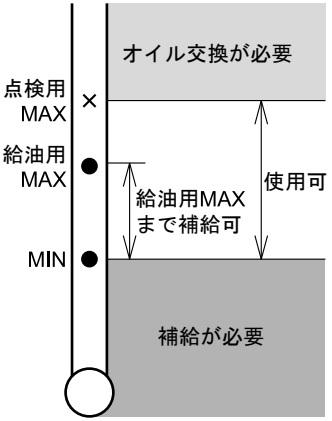
- オイルレベルゲージの“**点検用 MAX**”位置以上にエンジンオイルがあると、エンジン故障の原因となります。オイル量が“**点検用 MAX**”を超えた場合は交換時期に関わらず、必ずエンジンオイルを交換してください。
- エンジンオイル中へ燃料が徐々に混ざり、エンジンオイルが薄まりますので、必ず指定された期間でエンジンオイルを交換してください。

知 識

・点検は平坦な場所で、エンジンの始動前に行ってください。
・エンジン運転中では正確なオイル量は量れません。
・エンジン運転後にオイル量を量るときは、エンジン停止後 20 ～ 30 分たってから行ってください。



オイルレベルゲージを抜き、先端を布でぬぐってから再びいっぱいに差し込み静かに引き抜きます。
“**点検用 MAX**”と“**MIN**”の範囲にオイルが付着すれば適量です。
また、エンジンオイルの漏れがないかも点検してください。

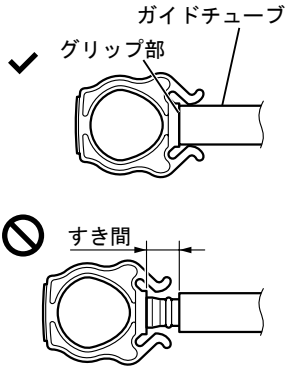


エンジンオイル量の点検

① オイルレベルゲージを抜き取り、付着しているオイルをふき取ります。
② 再びいっぱいに差し込んで静かに抜き取ります。オイルが“**点検用 MAX**”と“**MIN**”間にあれば良好です。
③ オイルが不足していれば“**給油用 MAX**”まで補給します。オイル量が“**点検用 MAX**”を超えた場合は必ずオイル交換してください。

エンジンオイルの補給
→ 7-45 ページ参照
エンジンオイルの交換
→ 7-46 ページ参照

④ 点検後は、オイルレベルゲージを確実に差し込みます。



アドバイス

・オイルレベルゲージは曲げないよう、注意して差し込んでください。オイルレベルゲージが変形するおそれがあります。
・オイルレベルゲージはグリップ部がガイドチューブに突きあたるまで差し込んでください。すき間があるとエンジン内に水が浸入して故障するおそれがあります。

エンジンオイルの補給

警 告

・補給のときは、布などを近くにおき、オイルをこぼさないようにしてください。もし、オイルがエンジンに付着した場合は、ていねいにふき取ってください。オイルに引火し、火災を招くおそれがあります。
・布や軍手などの可燃物をエンジンルームに置き忘れないようにしてください。火災を招くおそれがあります。

アドバイス

・補給のときは、注入口からゴミなどが入らないようにしてください。異物の混入はエンジンを破損するおそれがあります。
・“給油用 MAX”以上のオイル補給は、エンジン不調の原因となるおそれがありますので、必ずレベルゲージで、オイル量を確認してください。

エンジンオイルが“MIN”付近のときは、注入口のキャップを外し、オイルレベルゲージを抜いてからオイルを補給します。補給後、キャップとオイルレベルゲージを確実に取り付けてください。

エンジンオイルの交換

警 告

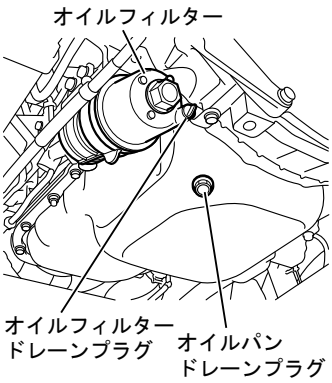
・給油のときは、布などを近くにおき、オイルをこぼさないようにしてください。もし、オイルがエンジンに付着した場合は、ていねいにふき取ってください。オイルに引火し、火災を招くおそれがあります。
・布や軍手などの可燃物をエンジンルームに置き忘れないようにしてください。火災を招くおそれがあります。また、工具なども置き忘れないようにしてください。
・運転後、エンジンオイルを交換するとき、油温が高くなっています。交換するとき、やけどをしないよう注意してください。

アドバイス

・エンジンオイルを交換するときは、同時にエンジンオイルフィルターも交換してください。
・急激なエンジンの空吹かしはエンジン故障の原因になりますので行わないでください。
・“給油用 MAX”以上のオイル補給は、エンジン不調の原因となるおそれがありますので、必ずオイルレベルゲージで、オイル量を確認してください。
・DPF 対応オイルを使用されない場合は、エンジンおよび、DPF の故障、燃費の悪化原因となります。必ず DPF 対応オイルを使用してください。
・排出したオイルの廃棄・処理は規定の方法で行ってください。

知 識

・オイル注入時はレベルゲージを抜いて行ってください。



① 異物が混入しないようオイルフィラーキャップのまわりを清掃します。オイルフィラーキャップを取り外します。
② オイルパンとオイルフィルターの下にオイルの受け皿を置きます。
③ オイルパンドレーンプラグとオイルフィルタードレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
④ 各ドレーンプラグが確実に締め付けられていることを確認します。

オイルパンドレーンプラグ締付けトルク
83N·m {8.5kgf·m}

アドバイス

・プラグについている汚れは、必ずふき取ってから取り付けます。
・オイルフィルターのドレーンプラグは手で締め付けてください。プライヤーなどの工具で締め付けると破損します。

⑤ オイルレベルゲージを抜き、オイルフィラーから指定のエンジンオイルを静かに給油します。
⑥ オイルレベルゲージとフィラーキャップを取り付け、給油後、5 分以上たってからエンジンを始動し暖機運転をします。このときオイルフィルターやドレーンプラグのまわりからオイルが漏れていないか点検します。

アドバイス

・急激なエンジンの空吹かしはエンジン故障の原因になります。行わないでください。

⑦ エンジン停止後、20 ～ 30 分してからオイルレベルゲージでオイル量を点検します。
⑧ 点検後、オイルレベルゲージを確実に差し込みます。

エンジンオイルフィルター

エンジンオイルフィルターは、エンジンオイルに混入した汚れやゴミなどを取り除く役割をしています。エンジンの性能や寿命に大きな影響を与えますので《日産純正部品》を使用してください。

メンテナンスデーター一覧
→ 7-24 ページ参照

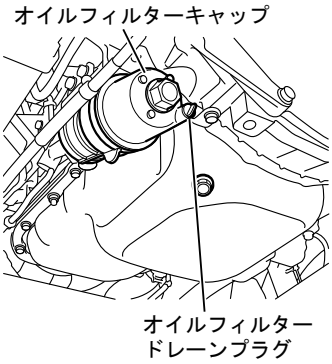
アドバイス

- 交換の際は、日産純正オイルフィルターを使用してください。他の物を使用すると故障の原因となるおそれがあります。
- オイルフィルターの交換は、エンジンオイルの交換と同時に行ってください。
- 排出したオイル、エレメントの廃棄・処理は規定の方法で行ってください。

エンジンオイルフィルターの交換

アドバイス

- オイルフィルターを取り付けるとき、パッキンをかみ込ませないようにしてください。オイル漏れの原因になります。
- プラグについている汚れは、必ずふき取ってから取り付けます。
- 急激なエンジンの空吹かしはエンジン故障の原因になります。行わないでください。
- 交換後はエンジンの試運転を行い、フィルター周辺からオイル漏れのないことを確認してください。



① オイルフィルターの下にオイルの受け皿を置きます。
② オイルフィルターのドレーンプラグを取り外し、オイルを排出します。
③ オイルフィルターキャップを取り外し、エレメントを取り外します。
④ フィルターボデー内部を洗浄し、新しいエレメントを取り付けます。O- リングおよびパッキン類も同時に交換してください。
⑤ ドレーンプラグを取り付け、オイルフィルターキャップを規定のトルクで取り付けます。

オイルフィルターキャップ締付けトルク
20N·m {2.0kgf·m}

アドバイス

・ドレーンプラグは手で締め付けてください。プライヤーなどの工具で締め付けると破損します。

冷　却　水

冷却水は、単なる水ではなく水道水と、ロングライフクーラント〈日産純正ロングライフクーラント〉を適正な濃度で混合したものです。エンジン内部の燃焼や摩擦によって発生する熱を冷やす役割をしています。

メンテナンスデーター覧
→ 7-24 ページ参照

⚠ 警 告

- 冷却水の点検・補給・交換はエンジンが十分に冷えているときに行ってください。
- 冷却水が高温のときラジエーターやリザーブタンクのキャップを外さないでください。むやみに外すと蒸気が吹き出し、やけどをします。また冷却水温度も高温になっていますので、熱湯などによるやけどをするおそれがあります。点検・補給・交換は冷却水温度が下がっているときに行ってください。
- やむを得ずラジエーターやリザーブタンクのキャップを外すときは適正温度（80℃）に下がるのを待ち、厚手の布を重ねてキャップにかぶせ、徐々にキャップをゆるめてください。
- 冷却水は毒性があるので飲まないでください。誤って飲み込んだ場合は、ただちにおう吐し病院で手当を受けてください。
- 万一、冷却水が目に入った場合は、すぐに大量の水で 15 分間以上洗い流してください。また、刺激などの異常があれば病院で手当を受けてください。
- 冷却水が皮膚に付着した場合は、大量の水および石けんで洗い流してください。また、異常があれば病院で手当を受けてください。
- 冷却水は可燃物です。火気を近づけないでください。また、マニホールドなど高温部にかかると発火するおそれがあります。かからないように注意してください。

アドバイス

- 冷却水は定期的に交換してください。
  定期的に交換しないと、冷却水の劣化によりさびが発生し、水漏れやラジエーター、ヒーターコアの詰まり、尿素 SCR システムの故障の原因となります。

知 識

【冷却水】

- 水道水とロングライフクーラント〈日産純正ロングライフクーラント〉とを適正な濃度で混合したものです。

ロングライフクーラントの取り扱い

冷却水の凍結によるエンジン損傷の防止および腐食を防止するため、日産自動車が指定したロングライフクーラント（LLC）と水道水を適正な濃度で混合します。

使用地域	外気温度	ロングライフクーラント濃度
温暖地域（寒冷地仕様以外）	-12℃まで	30%
寒冷地域（寒冷地仕様）	-30℃まで	50%

⚠ 警 告

- ロングライフクーラント（LLC）は毒性があるので飲まないでください。誤って飲み込んだ場合は、ただちにおう吐し病院で手当を受けてください。
- 万一、ロングライフクーラントが目に入った場合は、すぐに大量の水で 15 分間以上洗い流してください。また、刺激などの異常があれば病院で手当を受けてください。
- 皮膚に付着した場合は、大量の水および石けんで洗い流してください。また、異常があれば病院で手当を受けてください。
- 保管するときはキャップを確実に閉め、お子様の手の届かないところに置いてください。
- ロングライフクーラント（LLC）は可燃物です。火気を近づけないでください。また、マニホールドなど高温部にかかると発火をするおそれがあります。かからないよう注意してください。

⚠ 注 意

- ロングライフクーラント（LLC）は、日産純正ロングライフクーラントを使用してください。
- 日産自動車が指定したロングライフクーラント（LLC）を使用しない場合、エンジンやラジエーター、ヒーターコア、尿素 SCR システムを損傷するおそれがあります。

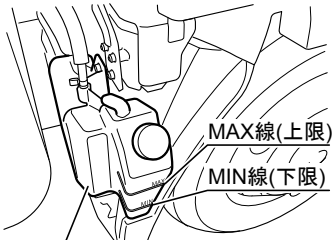
アドバイス

・新車出荷時のロングライフクーラント（LLC）は、温暖地域（寒冷地仕様以外）では 30%、寒冷地域（寒冷地仕様）は 50% の濃度で充填しています。
・ロングライフクーラント（LLC）と混合する水は、井戸水、河川の水でなく必ず水道水（軟水）を使用してください。
・指定されたロングライフクーラント濃度以外で使用しないでください。
ロングライフクーラント濃度 60％以上ではオーバーヒートしやすくなり、30% 以下では腐食防止が不十分となります。
・指定されたロングライフクーラント濃度以外での使用は凍結性能が悪くなり、冷却水が凍結するおそれがあります。状況に応じて濃度を調整してください。
・冷却水の量が急激に減るときは、ただちに《日産販売会社》で点検整備を受けてください。

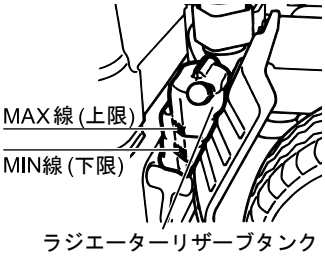
冷却水の点検

リザーブタンクは、右前輪後方にあります。エンジンが十分に冷えていることを確認し、リザーブタンクの水量を点検します。“MIN”線と“MAX”線の間にあれば適量です。不足しているときは“MAX”線まで冷却水を補給します。また、ラジエーターキャップを取り外し、冷却水がラジエーターの口元いっぱいまで入っているか点検してください。

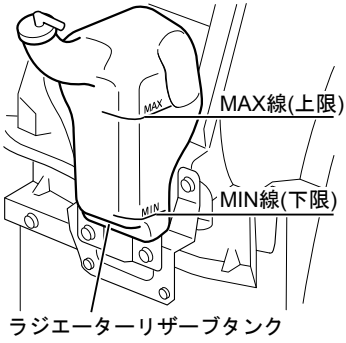
シングルキャブ車
(標準キャブ・ハイキャブ車)

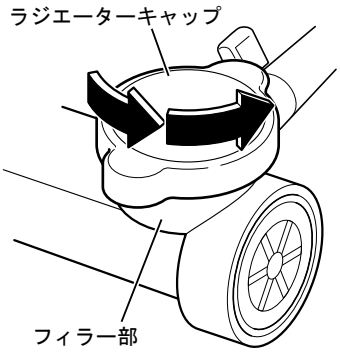


(ワイドキャブ車)



ダブルキャブ車
(標準キャブ・ハイキャブ車)





⚠ 注 意

・ラジエーターキャップは２段階に回すダブルアクション式です（標準キャブ・ハイキャブ車を除く）。ラジエーターキャップを取り外すときは２段目まで回してください。２段目まで回りきっていない状態で外すと、ラジエーターキャップおよびラジエーターのフィラー部を破損させる原因になります。

次に、ラジエーターやラジエーターホースなどに水漏れがないか点検します。駐車していた地面に水漏れしたシミがないか確認します。水漏れがあったときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

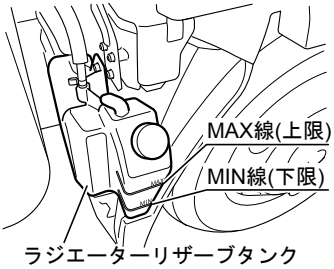
⚠ 注 意

・水漏れしたまま使用した場合は、エンジン焼き付きの原因になります。

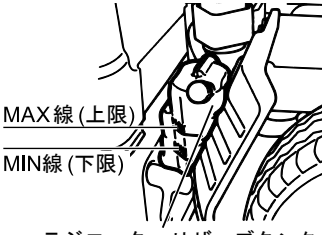
冷却水の補給

冷却水が不足しているときは、リザーブタンクのキャップを開けて“MAX”線まで冷却水を補給します。補給後はキャップを確実に閉めてください。

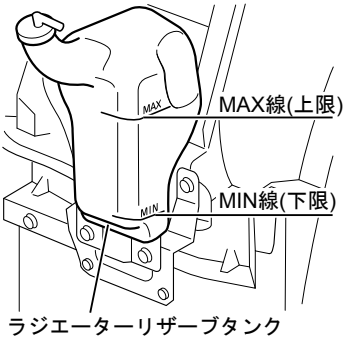
シングルキャブ車
(標準キャブ・ハイキャブ車)



(ワイドキャブ車)



ダブルキャブ車
(標準キャブ・ハイキャブ車)



アドバイス

- 冷却水量はリザーブタンクで確認してください。ただし、リザーブタンクの冷却水量が急激に減ったとき、増えたときは、ラジエーターキャップを開け、ラジエーター本体の冷却水量を確認してください。
- エンジンの温度が高いとき、排気マニホールドに冷却水がかからないように注意してください。
  排気マニホールドを破損するおそれがあります。
- 冷却水量の変化が著しいときは《日産販売会社》で点検を受けてください。

冷却水の交換

ラジエーターキャップや冷却水路の洗浄も行います。また、ラジエーターやインタークーラーの清掃も行います。
交換は次の順序で行えますが、できるだけ《日産販売会社》で行ってください。

ラジエーターコア、インタークーラーコアの洗浄　→ 7-141 ページ参照

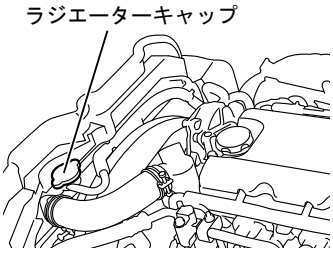
注 意

- 冷却水を排出後のラジエーターに水が入っていない状態でエンジンを始動しないでください。エンジンの焼き付きなどを起こす原因になります。
- 冷却水の交換は手順に従い行ってください。正しい手順で交換が行われない場合、冷却水路にエアが残りエンジンがオーバーヒートする原因になります。
- ラジエーターキャップは２段階に回すダブルアクション式です（標準キャブ・ハイキャブ車を除く）。ラジエーターキャップの取り外し、取り付けは２段目まで確実に回してください。

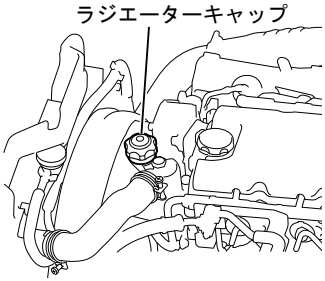
アドバイス

- ラジエーターのドレーンコック、ドレーンプラグは手で締め付けてください。プライヤーなどの工具で締め付けると破損します。
- ロングライフクーラント（LLC）は指定した物以外を使用すると腐食などによりエンジン寿命が短くなる場合があります。
- 排出した冷却水の廃棄・処理は規定の方法で行ってください。

ワイドキャブ車



標準キャブ・ハイキャブ車



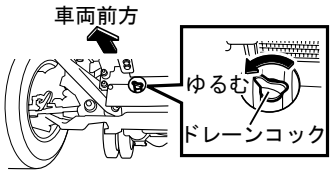
排水のしかた

① エンジンが十分に冷えていることを確認し、ラジエーターキャップを取り外します。
標準キャブ・ハイキャブ車はラジエーター側のキャップは外さないでください。必ずエンジン側のキャップを外してください。

⚠ 注 意

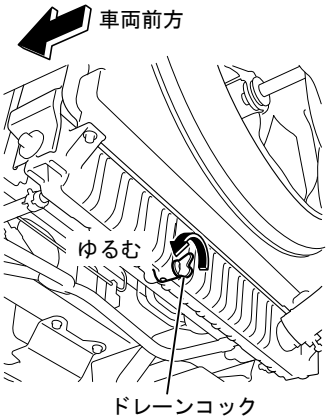
・ラジエーターキャップは２段階に回すダブルアクション式です（標準キャブ・ハイキャブ車を除く）。ラジエーターキャップを取り外すときは２段目まで回してください。２段目まで回りきっていない状態で外すと、ラジエーターキャップおよびラジエーターのフィラー部を破損させる原因になります。

標準キャブ・ハイキャブ車

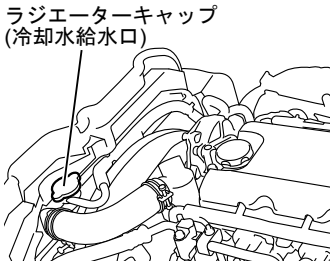


② ラジエーターのドレーンコックを開けて、冷却水を排出します。リザーブタンクの冷却水も排出します。
③ ラジエーターのドレーンコックを閉めます。

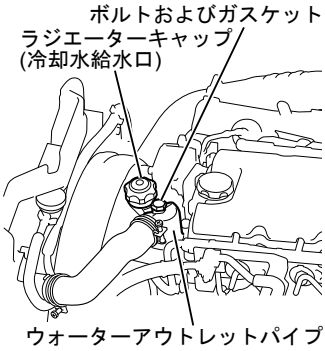
ワイドキャブ車

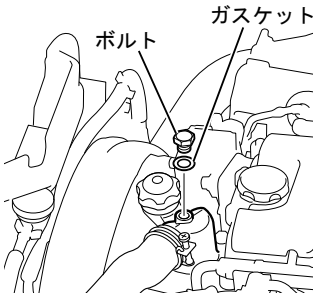


ワイドキャブ車



標準キャブ・ハイキャブ車





冷却水路の洗浄

① 標準キャブ・ハイキャブ車は、ウォーターアウトレットパイプのボルトおよびガスケットを取り外します。
② ラジエーターに水道水を冷却水給水口の口元いっぱいまで給水します。

注 意

・水道水は、エアが混入しないように、ゆっくりと給水してください。

③ ラジエーターキャップを点検、清掃します。キャップに異常がある場合はキャップを交換してください。
④ ラジエーターキャップを確実に取り付けます。
⑤ 標準キャブ・ハイキャブ車は、ウォーターアウトレットパイプのボルトおよびガスケットを取り付けます。

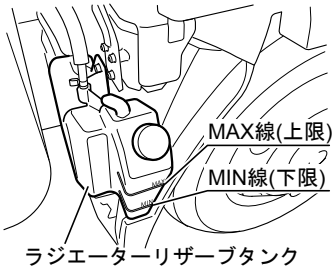
ボルトおよびガスケット締付けトルク
17.2 ～ 22.2N·m {1.8 ～ 2.3kgf·m}

アドバイス

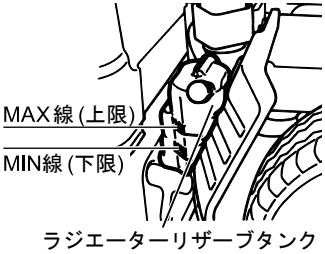
・取り外したガスケットは、再使用できません。

⑥ 冷却水は小さな亀裂からでも漏れる場合があるため、傷ついたホース類は交換してください。
⑦ 水道水をリザーブタンクの“MAX”線まで給水し、リザーブタンクのキャップを閉めます。

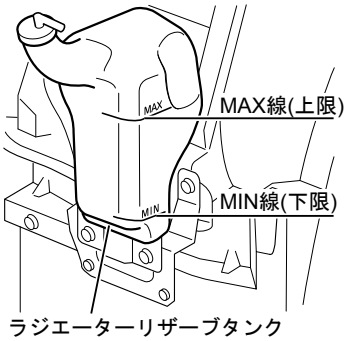
シングルキャブ車
(標準キャブ・ハイキャブ車)



(ワイドキャブ車)



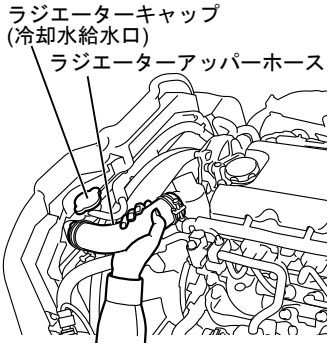
ダブルキャブ車
(標準キャブ・ハイキャブ車)



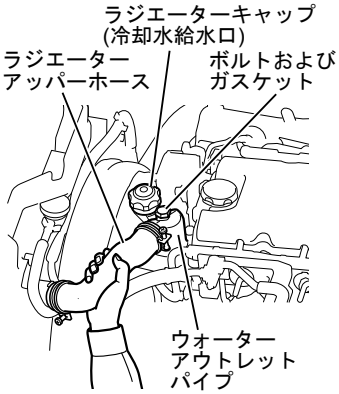
⑧ エンジンを始動し、20 分間アイドリング運転させた後、エンジンを停止してエンジンが十分に冷えてから水道水を排水します。

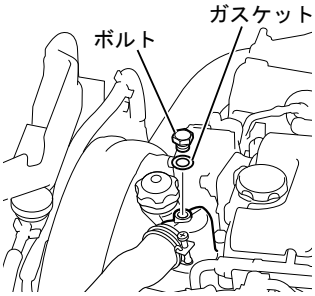
排水のしかた → 7-57 ページ参照

ワイドキャブ車



標準キャブ・ハイキャブ車





給水のしかた

① エンジンが十分に冷えていることを確認し、ラジエーターキャップを取り外します。
標準キャブ・ハイキャブ車はラジエーター側のキャップは外さないでください。必ずエンジン側のキャップを外してください。

⚠ 注 意

・ラジエーターキャップは２段階に回すダブルアクション式です（標準キャブ・ハイキャブ車を除く）。ラジエーターキャップを取り外すときは２段目まで回してください。２段目まで回りきっていない状態で外すと、ラジエーターキャップおよびラジエーターのフィラー部を破損させる原因になります。

② 標準キャブ・ハイキャブ車は、ウォーターアウトレットパイプのボルトおよびガスケットを取り外します。
③ ラジエーターに冷却水を冷却水給水口の口元いっぱいまで給水します。

⚠ 注 意

・冷却水は、エアが混入しないように、ゆっくりと給水してください。

④ ラジエーターアッパーホースを２～３回押します。
押すことによりホース内のエアが抜け、冷却水位が下がった場合は、冷却水を冷却水給水口の口元まで補充してください。冷却水位が下がらなくなるまで、繰り返します。
⑤ ラジエーターキャップを確実に取り付けます。
⑥ 標準キャブ・ハイキャブ車は、ウォーターアウトレットパイプのボルトおよびガスケットを取り付けます。

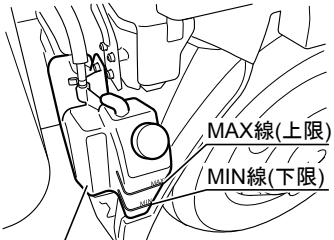
ボルトおよびガスケット締付けトルク
17.2 ～ 22.2N·m {1.8 ～ 2.3kgf·m}

アドバイス

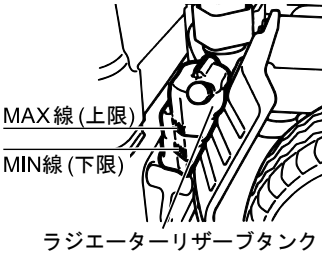
・取り外したガスケットは、再使用できません。

⑦ 冷却水をリザーブタンクの“MAX”線まで給水し、リザーブタンクのキャップを閉めます。

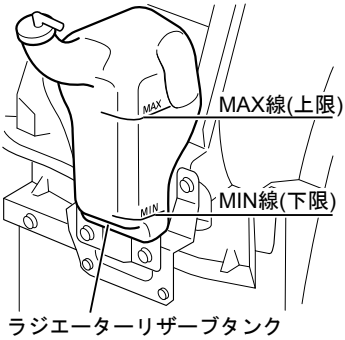
シングルキャブ車
(標準キャブ・ハイキャブ車)



(ワイドキャブ車)

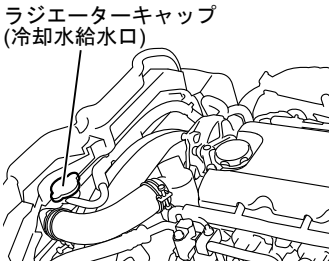


ダブルキャブ車
(標準キャブ・ハイキャブ車)

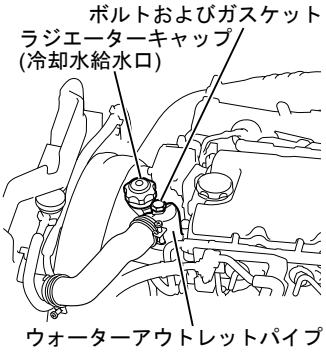


⑧ エンジンを始動し、5 分間以上アイドリング運転し、エンジンを停止します。

ワイドキャブ車



標準キャブ・ハイキャブ車



⑨ エンジンが十分に冷えていることを確認し、ラジエーターキャップを取り外します。標準キャブ・ハイキャブ車はラジエーター側のキャップは外さないでください。必ずエンジン側のキャップを外してください。冷却水位が下がっている場合は、冷却水を冷却水給水口の口元まで補充してください。極端に不足している場合は、ラジエーター、冷却水路または、リザーブタンクホースから冷却水が漏れていないか点検してください。水漏れがあったときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

⑩ ラジエーターキャップを確実に取り付けます。

⑪ 水温計の針が中央に達しサーモスタットが開くまで暖機運転を行います。暖機促進のため、エアコンは OFF にしてください。
エンジンを始動し、エンジン回転を約 2,000r/min にします。水温計の針が中央に達してからさらに 5 分間エンジン回転を維持し、暖機運転を継続してください。
サーモスタットが開弁していることを以下の方法で確認してください。
- アッパーホースが熱くなっていること
- ヒーターを作動させ、温風がでること

⑫ 5 分間アイドリング運転を行い、エンジンを停止します。

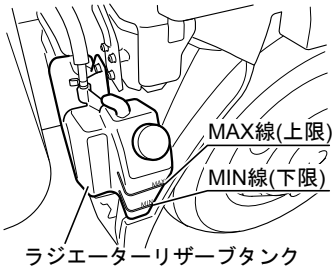
⑬ エンジンが十分に冷えていることを確認し、ラジエーターキャップを取り外します。標準キャブ・ハイキャブ車はラジエーター側のキャップは外さないでください。必ずエンジン側のキャップを外してください。冷却水位が下がっている場合は、冷却水を冷却水給水口の口元まで補充してください。極端に不足している場合は、ラジエーターから冷却水が漏れているか、冷却水路または、リザーブタンクホースの漏れを点検してください。水漏れがあったときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

⑭ 冷却水給水口の口元で冷却水位が下がらなくなるまで、手順⑪～⑬を繰り返します。

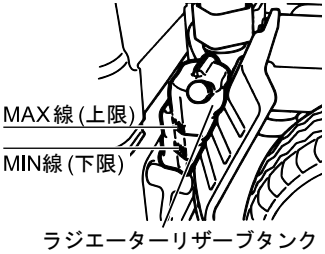
⑮ ラジエーターキャップを確実に取り付けます。

⑯ 冷却水をリザーブタンクの“MAX”線まで補充し、リザーブタンクのキャップを閉めます。

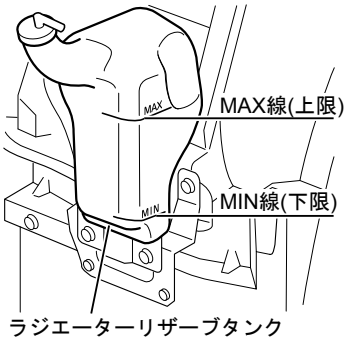
シングルキャブ車
(標準キャブ・ハイキャブ車)



(ワイドキャブ車)



ダブルキャブ車
(標準キャブ・ハイキャブ車)



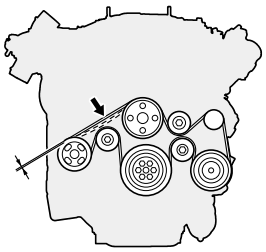
⑰ 翌朝、リザーブタンクの冷却水位を確認します。水位が下がっている場合は、冷却水をリザーブタンクの“**MAX**”線まで補充し、リザーブタンクのキャップを閉めます。

ファンベルト

ファンベルトは、電気関係・補機類などにエンジンの駆動力を伝達させ、それぞれの機構を作動させる役割をしています。交換する場合は、《日産純正部品》を使用してください。

メンテナンスデーター一覧
→ 7-24 ページ参照

ファンベルトの点検



ベルトの中央部を手で押し、ベルトが少したわむ程度であるかを点検します。
またベルトに損傷がないかも点検してください。
亀裂・損傷があるときは、ベルトを交換します。
交換には分解作業が必要ですので、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

アドバイス

・ベルトの交換には分解作業が必要ですので、最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

知 識

・ベルトは自動調整式なので調整する必要はありません。

エアクリーナー

エアクリーナーは、エンジンに送る空気のゴミなどを取り除いてきれいにしています。エンジンの性能や寿命、燃費に大きな影響を与えますので《日産純正部品》を使用してください。

メンテナンスデーター覧
→ 7-24 ページ参照

エアクリーナーの点検

エレメントを取り出し、汚れによる詰まりがないかを点検します。

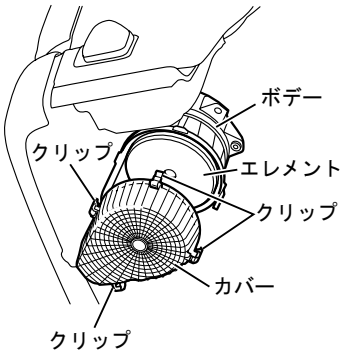
知 識

・定期点検時にエレメントの汚れが少ない場合は、エレメントを清掃する必要はありません。

エアクリーナーの清掃・交換

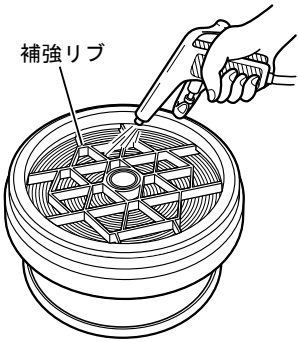
アドバイス

・交換の際は、日産純正エレメントの使用を使用してください。他の物を使用すると故障の原因となるおそれがあります。



標準キャブ・ハイキャブ車

① クリップ 4 か所を外し、カバーを取り外します。
② エレメントをボデーから取り外します。

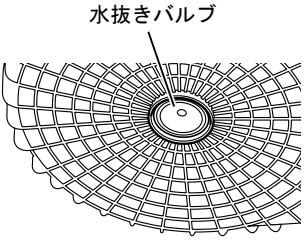


③ エレメントを清掃します。
エレメントの補強リブがある側から圧縮空気（空気圧は 690kPa {7kgf/cm²} 以下）を吹き付けて、ほこりを落とします。汚れがひどいときはエレメントを交換してください。

アドバイス

・エレメントは油煙（ススなど）で汚れていても水洗いはしないでください。
・変形、破損するおそれがあるので、水で濡れたエレメントには触れないでください。点検、清掃は乾いてから行ってください。

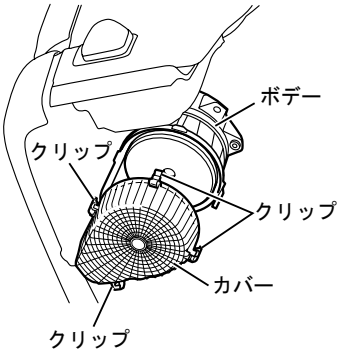
④ カバーの汚れを取り除きます。



⑤ カバー下側の水抜きバルブを内側、外側とも清掃します。また、水抜きバルブの外周がカバーに密着しているか確認します。水抜きバルブが変形してすき間がある場合は、水抜きバルブを交換します。

⑥ エレメントを取り付けます。
エレメントは奥まで取り付け斜めになっていないか確認してください。

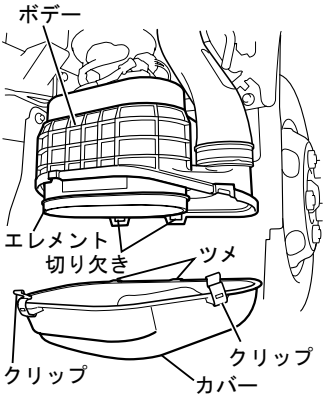
⑦ カバーを取り付けます。
クリップ（4 か所）を確実にかけてください。



アドバイス

・カバーが閉めにくいときは、エレメントが正しく取り付けてあるか確認してください。

ワイドキャブ車



① クリップ２か所を外し、カバーを取り外します。

② エレメントをボデーから取り外します。



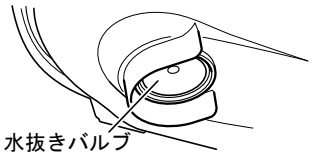
③ エレメントを清掃します。
エレメントの補強リブがある側から圧縮空気（空気圧は 690kPa {7kgf/cm²} 以下）を吹き付けて、ほこりを落とします。汚れがひどいときはエレメントを交換してください。

アドバイス

・エレメントは油煙（ススなど）で汚れていても水洗いはしないでください。

・変形、破損するおそれがあるので、水で濡れたエレメントには触れないでください。点検、清掃は乾いてから行ってください。

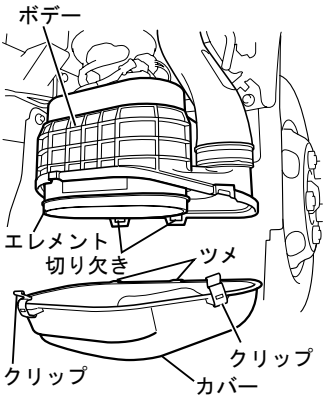
④ カバーの汚れを取り除きます。



⑤ カバー下側の水抜きバルブを内側、外側とも清掃します。また、水抜きバルブの外周がカバーに密着しているか確認します。水抜きバルブが変形してすき間がある場合は、水抜きバルブを交換します。



⑥ エレメントを取り付けます。
エレメントは赤線までしっかりと取り付け、斜めになっていないか確認してください。



⑦ カバーを取り付けます。
取り付けるときは、カバーのツメとボデーの切り欠き部を合わせてから、クリップ（2か所）を確実にかけてください。

アドバイス

・カバーが閉めにくいときは、エレメントが正しく取り付けてあるか確認してください。



知 識

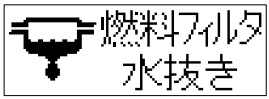
・クリップをかけるときは、クリップの図の位置を押すと容易にかけることができます。

フューエルフィルター

フューエルフィルターは、燃料の中のゴミや水分などを取り除く役割をしています。エンジンの性能や寿命、燃費に大きな影響を与えますので《日産純正部品》を使用してください。

メンテナンスデーター一覧
→ 7-24 ページ参照

燃料フィルター（水抜き）



プレフューエルフィルター内に水がたまるとマルチディスプレイに表示されます。
表示された場合は、水抜きを行い、表示が消えていることを確認してください。

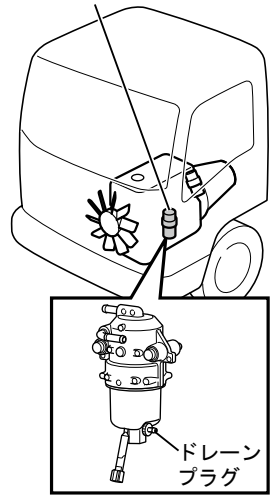
⚠ 注 意

- 水分を排出しないと、凍結などにより車を損傷させる原因となります。
- エンジン回転中に表示された場合は、ただちにプレフューエルフィルターの水抜きを行ってください。表示された状態で走行を続けると、燃料噴射ポンプを破損するおそれがあります。ただちに《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。

水抜きのしかた

⚠ 注 意

- 燃料が車体などに付着した場合はきれいにふき取ってください。
- 水を抜いた直後のエンジンの始動は通常より多少時間がかかります。10 秒以内で始動しない場合は少し時間をおき、再始動してください。
- 排出された水には燃料が含まれているため、廃棄、処理の際は規定の方法で行ってください。



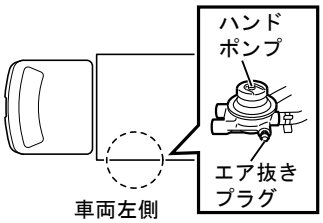
① プレフューエルフィルター下部のドレーンプラグをゆるめ、ハンドポンプを上下に手で10～20回作動させます。このときドレーンプラグより水と若干の燃料が出て来ます。ハンドポンプのエア抜きプラグはゆるめないでください。

ハンドポンプ位置
車両左側

② ドレーンプラグを確実に締め付け、再びハンドポンプを数回作動させます。

③ エンジン始動後にドレーンプラグから燃料漏れのないこと、“**燃料フィルター（水抜き）**”が消えていることを確認してください。

燃料フィルター（水抜き）
→ 7-69 ページ参照



⚠ 注 意

- 燃料が車体などに付着した場合はきれいにふき取ってください。
- 水を抜いた直後のエンジンの始動は通常より多少時間がかかります。10 秒以内で始動しない場合は少し時間をおき、再始動してください。

フューエルフィルターの交換

⚠ 警 告

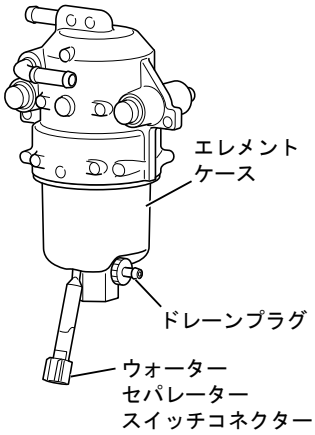
・エレメントケース取り付け時、O- リングをかみ込ませないように注意してください。O- リングをかみ込ませると燃料漏れの原因になります。また、交換後は、エンジンの試運転を行い、フィルターまわりから燃料漏れのないことを確認してください。燃料漏れは火災の原因になります。

アドバイス

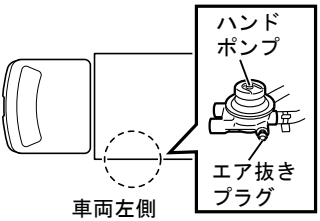
・フィルター交換時はパッキンも同時に交換してください。
・交換したフィルターの廃棄・処理は規定の方法で行ってください。

プレフューエルフィルター

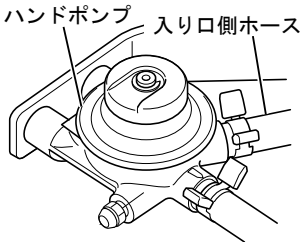
① エレメントケースの底部にあるドレーンプラグをゆるめます。



② クリップを外し、ハンドポンプの入り口側のホースを外します。



ハンドポンプ位置
車両左側

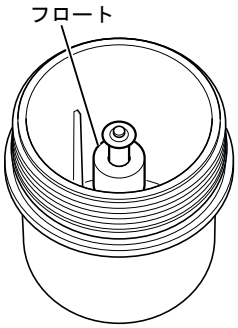


③ ハンドポンプを数回押すと、エレメントケース内の燃料がドレーンプラグから排出されます。
④ ハンドポンプの入り口側のホースを取り付けます。

アドバイス

・ホースに丸印（黄色）がある場合は、印を車両の上方に向けて取り付けてください。

⑤ ウォーターセパレータースイッチコネクターを外します。
⑥ エレメントケースの底部の六角部分を工具（ソケットレンチ等：27mm）を使用して反時計回りにゆるめてエレメントケースを取り外します。



アドバイス

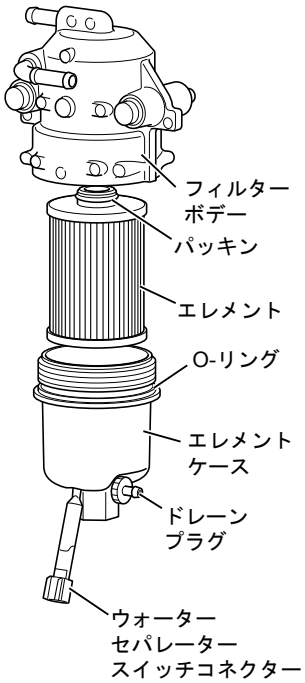
・エレメントケース内の底部にあるフロートがスムーズに動くことを確認してください。
・ウォーターセパレータースイッチコネクターを接続してエレメントケースを逆さまにし、“**燃料フィルター（水抜き）**”が表示されることを確認します。
・エレメントケース内の底部に異物や汚れ等ある場合は清掃してください。

燃料フィルター（水抜き）
→ 7-69 ページ参照

⑦ エレメントを下に引き抜き、O- リングを取り外します。
フィルターボデー内周面に異物が堆積している場合、きれいな布等でふき取ります。

アドバイス

・異物の清掃はエアブロー等はしないで、きれいな布でふき取ってください。エアブローによって異物が燃料通路に入るとエンジンが故障するおそれがあります。



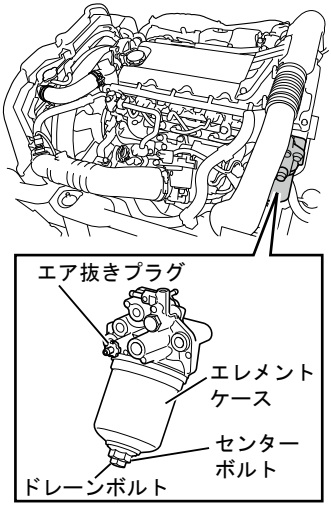
⑧ ねじ部で傷つけないように注意しながら新品の O- リングをエレメントケースに取り付けます。
⑨ 新品のエレメントのパッキンにきれいな軽油を薄く塗布してフィルターボデーに突きあたるまで挿入します。
⑩ エレメントケースの O- リング部にきれいな軽油を薄く塗布してフィルターボデーに突きあたるまで時計方向に回します。
エレメントケースが突きあたらない場合はエレメントの挿入が不十分なのでエレメントを回しながら再度挿入します。
⑪ エレメントケースを取り付けます。

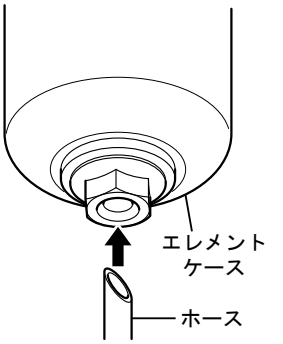
エレメントケース締付けトルク
33N·m {3.4kgf·m}

⑫ ドレーンプラグを締め付け、ウォーターセパレータースイッチコネクターを接続します。
⑬ 燃料のエア抜きを行います。

エア抜きのしかた → 7-76 ページ参照

フューエルフィルター





知 識

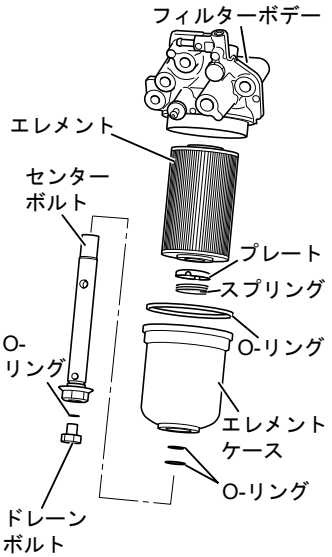
- ドレーンボルトを外しただけでは燃料は排出できません。
- 燃料を排出する際に、ホースが必要となります。外径が 8mm のホースを準備してください。
- ホースは、フューエルフィルターから受け皿までとどく長さを準備してください。
- ホースの先端を斜めにカットすると燃料の排出が容易になります。

① エレメントケースの底部にあるドレーンボルトを外します。

② ドレーンボルトを外した穴にホースを差し込み、ホースの反対側に受け皿を置きます。
③ エア抜きプラグをゆるめ、燃料を排出します。
④ センターボルトをゆるめ、エレメントケースとエレメントを外します。
⑤ フィルターボデー内周面やセンターボルトに異物が付着している場合、きれいな布等でふき取ります。

アドバイス

- 異物の清掃はエアブロー等はしないで、きれいな布でふき取ってください。エアブローによって異物が燃料通路に入るとエンジンが故障するおそれがあります。



⑥ 新品のエレメントを取り付けます。O- リングも同時に交換してください。O- リングには、きれいな軽油を薄く塗布して組み付けます。
⑦ センターボルト、ドレーンボルトを規定のトルクで締め付けます。

センターボルト締付けトルク
45N·m {4.6kgf·m}

ドレーンボルト締付けトルク
25N·m {2.5kgf·m}

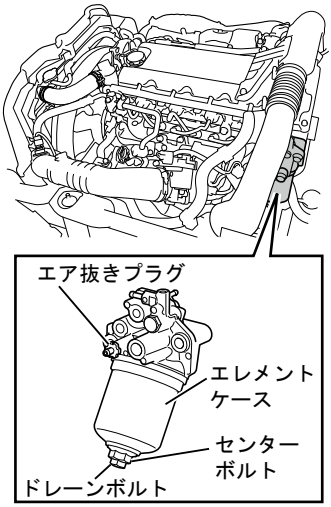
⑧ エア抜きプラグはフィルターボデーとのすき間がなくなるまで締め付けます。
⑨ 燃料のエア抜きを行います。

エア抜きのしかた → 7-76 ページ参照

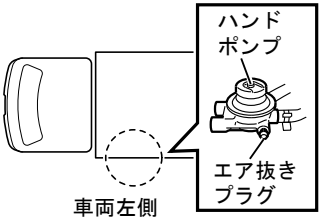
エア抜きのしかた

アドバイス

・エア抜き作業が不十分なときには、エンジン不調になるおそれがありますのでエンジン始動後の手順を必ず実施してください。



① フューエルフィルターのエア抜きプラグ部の下に燃料受け皿を準備し、透明なホース等をエア抜きプラグに取り付け、燃料が飛散しないようにします。エア抜きプラグを十分にゆるめます。



② フューエルフィルターのエア抜きプラグ部からエア混じりの燃料が出なくなるまでハンドポンプを 20 回以上上下に動かします。

ハンドポンプ位置
車両左側

③ フューエルフィルターのエア抜きプラグを十分に締め付け、プラグ部周辺に付着した燃料をきれいにふき取ります。
④ 更にハンドポンプを重くなるまで上下させ、燃料系統のエアを燃料噴射ポンプへ送ります。
⑤ アクセルペダルは踏まずにスターターを回し、エンジンを始動させます。
⑥ エンジン始動後、アイドリング回転を 5 秒間保持します。
⑦ アクセルペダルをいっぱいに踏み込み、最高回転まで吹き上げます。
（この操作を数回繰り返してください。）
⑧ 燃料漏れがないことを確認します。

DPF（ディーゼルパティキュレートフィルター）

DPF は排気ガス中の PM（粒子状物質）を浄化するものです。DPF の性能を維持するために、定期的に点検、清掃を行う必要があります。これは、燃焼により除去できる PM とは別にアッシュ（灰）がフィルター内に堆積していくためです。

メンテナンスデーター覧
→ 7-24 ページ参照

DPF の点検、清掃

排気圧力と配管の点検を《日産販売会社》で行ってください。点検結果によってはフィルターや配管の清掃が必要となります。

アドバイス

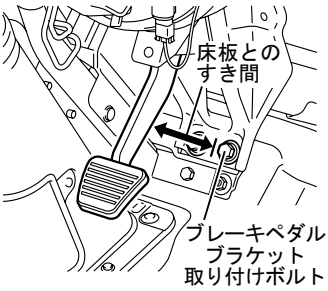
- 点検、清掃が行われない場合、DPF およびエンジンの故障、燃費の悪化や再生頻度が増加する原因となります。
- アッシュ（灰）は、主にエンジンオイルの添加剤成分から生成されます。アッシュ（灰）の生成を最小限に抑えるためにも、日産純正ディーゼルエンジンオイル DL-1 を使用してください。日産純正ディーゼルエンジンオイル DL-1 以外を使用すると DPF フィルターの清掃までの期間が短くなるおそれがあります。

シャシ関連の点検・手入れ

- ブレーキ 7-80
- ブレーキフルード 7-82
- パーキングブレーキ 7-83
- ディスクブレーキ★ 7-84
- ドラムブレーキ★ 7-86
- タイヤ 7-87
- タイヤのローテーション 7-91
- タイヤの交換 7-93
- スペアタイヤ 7-99
- クラッチ★ 7-101
- クラッチフルード★ 7-102
- トランスミッションオイル 7-103
- AMT クラッチオイル★ 7-106
- デファレンシャルオイル 7-109
- トランスファーオイル★ 7-112
- パワーステアリングフルード 7-114
- フロント PTO ギヤオイル（消防車）★ 7-117

ブレーキ

ブレーキペダルの踏みしろ（遊び量）



ブレーキペダルを手で抵抗を感じるまで軽く押し、遊びの量を点検します。次にエンジンを始動し、ブレーキペダルを力強く（約 490N {約 50kgf} の力で）踏んだときの床板とのすき間（ブレーキペダルブラケット取り付けボルト２本の中間位置からブレーキペダルアームまで）を点検します。



ブレーキペダルの遊び	4 ～ 7mm

		踏み込んだときの床板とのすき間	
		標準キャブ車	ハイキャブ車 ワイドキャブ車
4 輪ディスクブレーキ	車両最大許容総重量 7.0 ― 7.5 トン ※下記車型を除く ・AMS88AN-FE5AHYJ ・AMS88AN-FE5WFYJ ・AMS88AN-FE5WGYJ ・AMS88AN-FJ6AY	40mm 以上	45mm 以上
	17.5 インチタイヤ装着車 ※下記車型を除く ・APS88AN-HE6ADY		
	上記以外	25mm 以上	30mm 以上
前輪ディスクブレーキ / 後輪ドラムブレーキ		20mm 以上	25mm 以上

ブレーキの効き具合点検

注 意

・走行点検は見通しの良い広い道路で行い、後続車や周囲のものに十分注意してください。

ブレーキペダルをいっぱいに踏み込んだとき、床板とのすき間（踏み残りしろ）や踏みごたえが適当であるかを点検します。
乾燥路をゆっくり走行してブレーキを踏み、効きが十分で、片効きしないか点検します。

アドバイス

・しばらく踏んでいるとすき間が小さくなったり、フワフワする感じがある場合は、ブレーキフルード内に空気が混入しているおそれがあります。ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。
・走行中または、制動中にブレーキからキーキー音がしたら原因として、次のことが考えられます。
  - ブレーキパッドの摩耗
    ブレーキパッドが全摩耗に近づいていることを警告しています。ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。
  - 砂や砂利、泥の付着
    砂や砂利、泥などが付着し、回転部分とこすれてキーキー音が発生することがあります。洗車をして付着物を洗い落としてください。洗車後もキーキー音がする場合は、早めに《日産販売会社》で点検を受けてください。

知 識

・床面とのすき間を点検するときにはエンジンを始動し、空ぶかしを数回して、初回の踏み込みで点検してください。２回、３回と繰り返し踏み込むと正しい点検にはなりません。
・遊びを点検するときには、エンジンを停止し、ペダルを４～５回繰り返し踏み込んでから行ってください。

ブレーキフルード

ブレーキフルードは、ブレーキをスムーズに作動させるオイルです。交換する場合は指定オイルを使用してください。

メンテナンスデーター覧
→ 7-24 ページ参照

⚠ 警 告

- ブレーキフルードが著しく減っているときは、配管からの漏れが考えられます。液漏れの有無を点検して、液漏れがあるときは、ただちに最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。
- ブレーキフルードは吸湿性が強いので、点検、補給時や保管中に水分が混入しないようにしてください。水分が混入するとブレーキフルードの沸点が低下しベーパーロックの発生原因になり、ブレーキの効き不良を起こし、非常に危険です。
- エンジンオイル、ギヤオイルなど他のオイルを混入させないでください。ブレーキ機能の低下や機構の損傷の原因になり、非常に危険です。

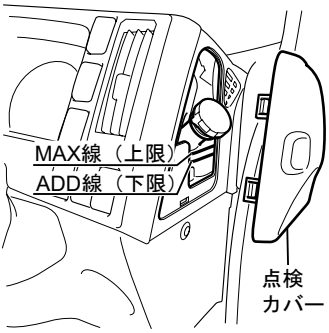
⚠ 注 意

- 補給のとき、ゴミや水がタンクの中に入らないよう注意してください。ブレーキが効かなくなるおそれがあります。
- ブレーキフルードを塗装面や皮ふに付着させないように注意してください。もし付着したり、こぼした場合は、水で洗い流し、早くふき取ってください。
- ブレーキフルードの減りが著しい場合は、ブレーキ系統の故障やパッドの摩耗あるいはクラッチ系統の故障が考えられます。ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

アドバイス

- ブレーキフルードは塗装やプラスチック、ビニール、ゴムなどを溶解したり、金属を腐食させる性質が強いので、こぼしたときはすぐにふき取り、よく水洗いをしてください。

ブレーキフルードの点検



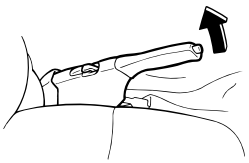
メーターパネル右側の点検カバーに指をかけ回転させるようにして取り外します。リザーブタンク内の液面が MAX 線（上限）と ADD 線（下限）の間にあるかを点検します。
液面がわかりにくい場合は、車両をゆすってください。
ブレーキフルードが ADD 線より下に減っているときはキャップを開き、日産純正ブレーキフルード No.2500（DOT3）を補給します。このとき MAX 線以上には補給しないでください。
また、補給後はキャップを確実に閉めてください。

パーキングブレーキ

パーキングブレーキは停車中の車両を駐車させ、タイヤをロックする役割をしています。異常がある場合は、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

メンテナンスデーター覧
→ 7-24 ページ参照

パーキングブレーキの点検

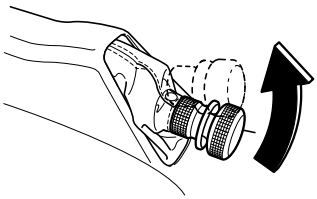


除く電動パーキングブレーキ付車

① 地面が平坦で固い場所に車両を止め、輪止めをして車両が動かないようにします。
② レバーをいっぱいに引いたとき、引きしろが多すぎたり、少なすぎたりしないか点検します。
レバーをいっぱいに戻した状態から静かに引き上げ、ノッチ数（カチカチ音）を数えます。
また、このときパーキングブレーキレバーがしっかりとロックされていることを点検してください。
③ レバーを引いている状態でパーキングブレーキ警告灯が点灯することを点検します。
④ 乾燥した坂道で停止状態が保持できるかを点検します。坂道のない場合は、低速状態でパーキングブレーキレバーを引き、効き具合を点検してください。

レバーを戻した状態から静かに引いたときのノッチ数（操作力約 147N {約 15kgf}）

レバーの引きしろ
6～8 ノッチ



電動パーキングブレーキ付車

① 地面が平坦で固い場所に車両を止め、輪止めをして車両が動かないようにします。
② パーキングブレーキレバーを完全に戻しパーキングブレーキを解除した状態から静かに引いたとき、なめらかにレバーが動き、パーキング位置で確実にロックされることを確認します。またその際モーター音がするか点検します。
③ レバーを引いている状態でパーキングブレーキ警告灯が点灯すること、電動パーキングブレーキ警告灯が消灯していることを点検します。
④ 乾燥した坂道で停止状態が保持できるかを点検します。坂道のない場合は、低速状態でパーキングブレーキレバーを引き、効き具合を点検してください。

ディスクブレーキ★

ブレーキパッドとローターのすき間は自動的に調整されます。
ブレーキパッドが摩耗して、ローターとのすき間が大きくなると、ブレーキの効きが悪くなります。異常がある場合は、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

メンテナンスデーター覧
→ 7-24 ページ参照

警 告

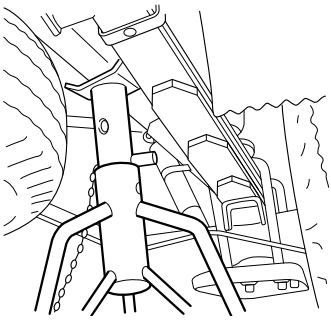
・ブレーキパッドの使用限度を超えたまま走行しないでください。ブレーキ部品の破損の原因になり、またブレーキの効きが悪くなり危険です。

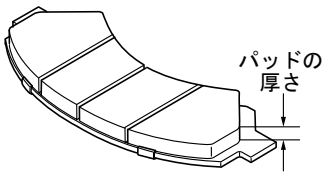
アドバイス

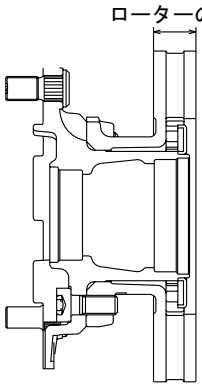
・ブレーキパッドには摩耗インジケーターがついています。ブレーキパッドが交換時期まで摩耗すると、インジケーターからキーキー音が発生します。走行中にブレーキからキーキー音がした場合は、ただちに《日産販売会社》へご連絡ください。

ブレーキパッドの摩耗の点検

ブレーキパッドとローターのすき間は自動的に調整されます。
キーキー音がしていなくても、ブレーキパッドの摩耗状態の点検は以下の方法で行ってください。







取り外し

① パーキングブレーキを効かせ、タイヤに輪止めをします。

パーキングブレーキレバー
→ 4-97 ページ参照

② タイヤが浮き上がらない程度までジャッキアップを行います。
③ スタンド（ウマ）で車両を支えてください。
④ タイヤを取り外します。

タイヤの取り外し → 7-93 ページ参照

⑤ ブレーキパッドおよびローターの厚さを点検します。

ブレーキサイズ（直径×厚さ）	ローターの厚さ		パッドの厚さ	
	基準値	限度値	基準値	限度値
φ 265 × 35mm	35.0 mm	33.0 mm	14.0 mm	1.0 mm
φ 275 × 30mm	30.0 mm	28.0 mm	14.0 mm	1.0 mm
φ 293 × 40mm	40.0 mm	37.0 mm	13.0 mm	1.0 mm
φ 310 × 42mm	42.0 mm	39.0 mm	13.0 mm	1.0 mm

ドラムブレーキ★

ライニングとドラムのすき間は自動的に調整されます。
ブレーキライニングが摩耗して、ドラムとのすき間が大きくなると、ブレーキの効きが悪くなります。異常がある場合は、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

メンテナンスデーター一覧
→ 7-24 ページ参照

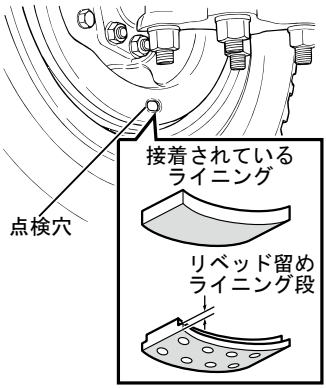
⚠ 警 告

- ブレーキライニングの使用限度を超えたまま走行しないでください。ブレーキ部品の破損の原因になり、またブレーキの効きが悪くなり危険です。
- ブレーキドラムとライニングのすき間が大きすぎると、ブレーキの効き不良を起こし、小さすぎると過熱してフェード現象により効きが悪くなり、また発火するおそれがあり危険です。

ブレーキライニングの摩耗の点検

アドバイス

- ライニングギャップが十分にない場合、ライニング側面にひび割れなどの損傷がある場合またはライニング端面の段差の残り代が基準値から外れる場合は最寄りの《日産販売会社》で点検を受けてください。



ドラムとライニングのすき間は自動的に調整されます。
定期的な点検は以下の方法で行ってください。

① ブレーキバックプレートの点検穴のゴム栓を取り外します。
② 点検穴からシックネスゲージをブレーキドラムとブレーキライニングの間に入れ、すき間が十分にあるか点検します。
③ ブレーキライニングの側面にひび割れなどの損傷がないかを、全周にわたり点検します。
④ ブレーキライニング側面の段差の残り代が基準値以上に残っているか点検します。

基準値
1 mm

タ イ ヤ

タイヤは、お車の安全で快適な走行を支える大切なものです。タイヤの脱落は、路上故障や他の交通の妨げとなるばかりでなく、場合によっては重大な事故を引き起こすことがあります。日頃から、正しい点検・整備を必ず行ってください。

メンテナンスデーター覧
→7-24 ページ参照

⚠ 警 告

・ホイールボルトやホイールナット、ディスクホイール、ハブなどに異常を発見した場合は、そのまま走行せずに、ただちに《日産販売会社》にご連絡ください。
・左タイヤに異常があった場合は、右タイヤも入念に点検を行うなど、異常が発見された場合はその他のタイヤの点検も確実に行ってください。

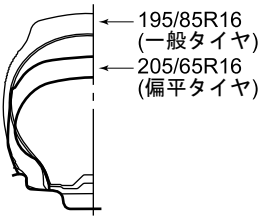
タイヤの空気圧の点検

⚠ 警 告

・空気圧不足のまま走行するとバースト（破裂）の原因となり危険です。また、バーストした場合、タイヤが燃え、車両火災の原因になるおそれがあります。
・空気圧不足のまま走行したり、パンクしたまま走行すると、ホイールナットがゆるんで脱落したり、ホイールボルトが折損するなど車輪脱落事故の原因となります。

⚠ 注 意

・空気圧が高すぎたり、低すぎたりすると乗り心地が悪くなり積荷も傷みやすくなります。常に基準の空気圧に調整してください。



アドバイス

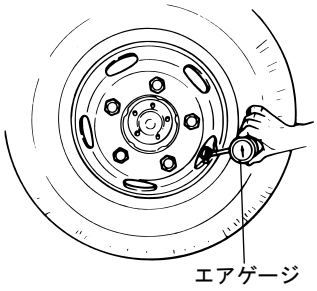
【偏平タイヤについて】

・トラック用偏平タイヤ（75, 70, 65 シリーズ）は、一般タイヤに比べタイヤ内の空気の体積が 20 ～ 30%少ないため、空気が抜けていくと一般のタイヤよりも早く運転操作に支障が出てきます。エアゲージを使ってこまめに空気圧チェックを行ってください。

知 識

・空気圧を測定するには、最寄りのガソリンスタンドを利用するか《日産販売会社》でエアゲージをお求めください。

・ダブルタイヤの内側と外側タイヤで空気圧の差をつけないでください。



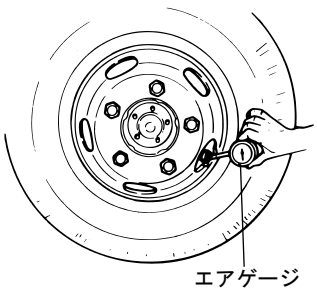
エアゲージを使用してタイヤ（スペアタイヤも含む）の空気圧を測定します。空気圧が不良のときは、標準空気圧に調整してください。空気圧の点検・測定および充填時は走行前のタイヤが冷えているとき行います（走行すると約 1 割程度空気圧が上昇します）。

空気圧の点検・測定後、エアの充填後は、必ずバルブキャップを取り付けてください。

空気圧は車型とタイヤサイズによって異なりますので運転席ドア開口部の空気圧ラベルか、タイヤ空気圧一覧を参照してください。

タイヤ空気圧一覧 → 7-26 ページ参照





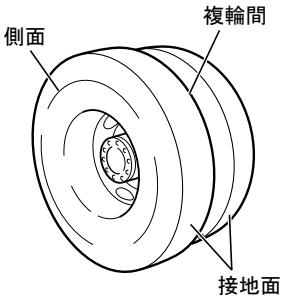
スペアタイヤの空気圧

スペアタイヤの空気圧は少し高めにしておき、交換したときに正しく調整してください。
走行中のタイヤは高温となり、空気圧は高くなります。やむを得ず走行直後に空気圧を調整するときは、約 20kPa {約 0.2kgf/cm²} を加えた値に調整してください。

タイヤの亀裂、損傷の点検

アドバイス

・亀裂や損傷のあるタイヤは使用しないでください。バースト（破裂）の原因となり危険です。



タイヤの接地面や側面に亀裂や損傷、片寄った摩耗がないか点検します。タイヤの溝に金属片や釘などが刺さっていないか、複輪間に石などがかみ込んでいないか点検します。

タイヤの溝の深さ、異常摩耗の点検

⚠ 警 告

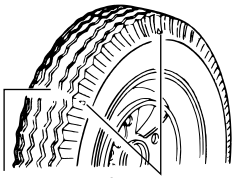
・摩耗したタイヤは、走行中にパンクやバースト（破裂）を起こしやすく危険です。

⚠ 注 意

・残り溝が少ないとスリップや高速走行時のハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

知 識

・ハイドロプレーニング現象とは水の溜まった道路を高速で走行するとタイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象です。



摩耗限度表示　表示位置マーク

タイヤ接地面の摩耗限度表示（ウェアインジケーター）が表れていないか、またタイヤ接地面全周にわたり、溝の深さが基準値にあるかデプスゲージで点検します。
溝の深さが基準値以下になったら新品タイヤに交換してください。
残り溝が 1.6mm になると図の位置に摩耗限度表示（ウェアインジケーター）があらわれます。
また、偏摩耗などの異常な摩耗がないか点検します。

溝の深さ		タイヤサイズ
一般道路走行時	1.6mm 以上	全　車
高速道路走行時	2.4mm 以上	下記以外
	3.2mm 以上	215/70R17.5 123/121J 225/80R17.5 123/122L

長期使用タイヤの点検

タイヤはゴム製品であり、長期使用すると（スペアタイヤなど、タイヤをホイールに組み付けて保管していても）徐々に経時変化します。使用開始後５～７年を目安に引き続きご使用の場合は、安定走行を確保するため必ず点検を受けてください。

タイヤのローテーション

タイヤは取り付け位置によりそれぞれ異なった摩耗をします。摩耗を均一にし寿命を延ばすために定期的に位置交換をします。

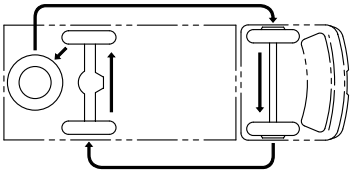
⚠ 警 告

- 前後が異なるサイズのタイヤを使用している車両では前後タイヤ間のローテーションは行わないでください。タイヤの許容限度を超えた荷重がかかりタイヤ、ディスクホイール等が故障する原因となり危険です。
- ディスクホイールを取り外した際は、ホイールボルトやホイールナット、ディスクホイールなどの関連部品に異常がないか必ず点検してください。
- ホイールボルトやホイールナット、ディスクホイール、ハブなどに異常を発見した場合は、そのまま走行せずに、ただちに《日産販売会社》にご連絡ください。車輪脱落事故などの原因となります。
- ディスクホイール取り付け後の走行による初期なじみにより、ディスクホイールの締め付け力が低下します。取り付け後、50～100km 走行を目安に、ホイールナットの増し締めを行ってください。

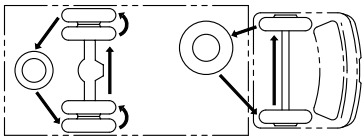
ホイールナットの増し締め
→ 7-96 ページ参照

スペアタイヤも含め摩耗を均一にして寿命を伸ばすため、約 9,000km（ワイドロー車は約 6,000km）走行ごとに図のようにタイヤの取り付け位置の入れ換えを行ってください。ラグタイヤや冬用タイヤを使用している場合は、入れ換えの時期をできるだけ短縮して行ってください。また、ローテーションを行ったときは、タイヤの空気圧もチェックしてください。

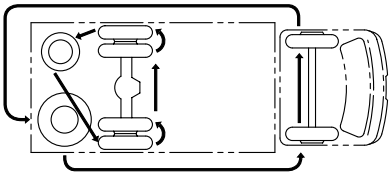
【シングルタイヤ(NHS)車】



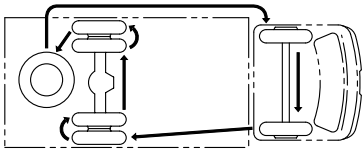
【標準フラットロー(M/T)車】



【ロング系フラットロー車】



【スペアタイヤ後吊りタイプ車】



タイヤの交換

タイヤの取り外し

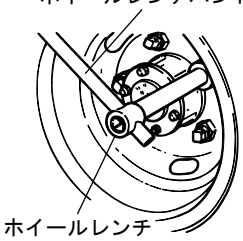
⚠ 警 告

・ジャッキアップは、“ジャッキ”を参照し適切に行います。
・取り出したスペアタイヤはジャッキが外れたときの危険防止のため、ジャッキ近くの車体の下に置いてください。

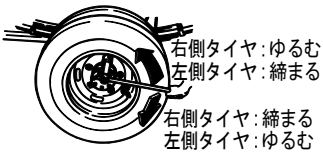
ジャッキ →7-12 ページ参照

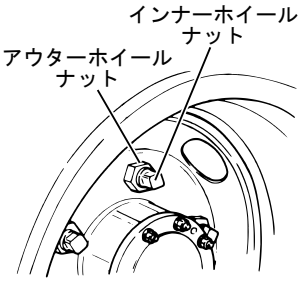
⚠ 注 意

・運転直後の排気管やマフラーは高温となっているため触れないように注意してください。
・タイヤは非常に重いので脱着のときはケガをしないようにしてください。
・右側タイヤは右ねじ、左側タイヤは左ねじです。ホイールボルト、インナーホイールナットに表示しているねじの方向“R”マーク、“L”マークを確認してください。
・誤ってゆるめるつもりで勢いをつけて締めるなどすると過締め付けとなり、ホイールボルトが伸びたり、ディスクホイールのホイールナットあたり面を傷めたりします。



① フロントタイヤを取り外すときは、パーキングブレーキを効かせ、リヤタイヤに輪止めをします。リヤタイヤを取り外すときは、パーキングブレーキを効かせ、フロントタイヤに輪止めをします。
② ジャッキアップポイントにジャッキを確実にかけます。
③ タイヤが浮き上がらない程度までジャッキアップを行います。





④ ホイールレンチとホイールレンチハンドルを左図のように組み合わせ、ホイールナットを約 1 回転ゆるめます。
車両前進方向に向かって
- 右側タイヤのナット（銀色、刻印：“R”）は左回りに回すとゆるみます。
- 左側タイヤのナット（銀色、刻印：“L”）は右回りに回すとゆるみます。

後輪がダブルタイヤの場合はアウターホイールナット（六角ナット）で外タイヤ、インナーホイールナット（四角ナット）で内タイヤを止めています。インナーホイールナットをゆるめるときはアウターホイールナットをゆるめてからホイールレンチの反対側（四角側）で約 1 回転ゆるめてください。

⑤ タイヤが地面から少し離れるまで、静かにジャッキアップします。
このとき車体を軽くゆすってみて、ジャッキが確実に車体を支えているか確認します。不安定なときは、ジャッキをかけなおしてください。

⑥ ホイールナットを外し、タイヤを交換します。

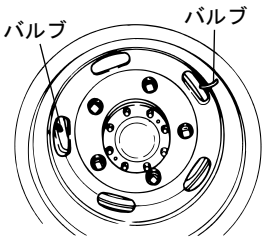
タイヤの取り付け

⚠ 警 告

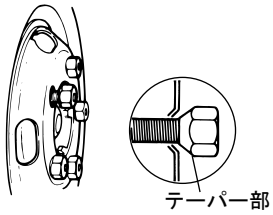
・ホイールボルトやホイールナット、ディスクホイール、ハブなどに異常を発見した場合は、そのまま走行せずに、ただちに《日産販売会社》にご連絡ください。車輪脱落事故などの原因となります。

⚠ 注 意

・タイヤが地面から離れた状態で交換をしてください。適切な締め付けができず、ホイールナットのゆるみの原因となります。
・タイヤとハブの取り付け面や、ホイールの合わせ面、ホイールナットのあたり面の泥、さびを取り除いてください。適切な締め付けができず、ホイールナットがゆるむ原因となります。
・ホイールナットのあたり面やハブへの取り付け面に経年使用に伴う著しい摩耗がある場合、ホイールナットのゆるみの原因となります。



① タイヤを組み付けます。
後輪がダブルタイヤの場合は、内輪と外輪のバルブ位置が重ならないように組み付けます。

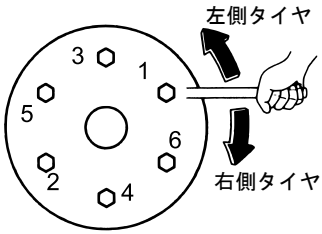


② ナットはテーパー部を内側にして、タイヤがガタつかない程度に仮締めします。

⚠ 警 告

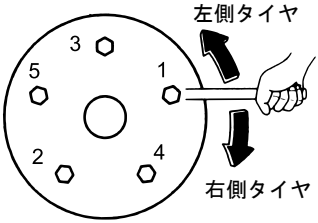
・ホイールボルトやホイールナットにエンジンオイルなどの潤滑剤を塗布しないでください。
締付けトルクに対して締め付け力が大きくなりすぎて、ホイールボルトの折損やディスクホイールの亀裂につながり、車輪脱落事故などの原因となります。

ホイールナット：6個



③ 図の番号順に、2～3回にわけて徐々にホイールナットを締め付けます。後輪がダブルタイヤの場合はインナーホイールナット（内側タイヤ）を締め付けてからアウターホイールナット（外側タイヤ）を締め付けます。
④ 最後はホイールレンチハンドルの端に規定の力（締付けトルク）をかけて締め付けます。

ホイールナット：5個



車種 / 項目	前輪ホイールナット		レンチにかける荷重	後輪ホイールナット		レンチにかける荷重
	締付けトルク	個数		締付けトルク	個数	
シングルタイヤ	140 ～ 200N·m {14 ～ 20kgf·m}	6	約 60kg	140 ～ 200N·m {14 ～ 20kgf·m}	6	約 60kg
ダブルタイヤ	450 ～ 550N·m {45 ～ 55kgf·m}	5 または 6	約 90kg	450 ～ 550N·m {45 ～ 55kgf·m}	5 または 6	約 90kg

※ホイールレンチの端に手で体重をかけ、反動をつけて回すことにより約 900N {約 90kgf} の力がかかります。（体重 60kg の人の場合）

警 告

・ディスクホイール取り付け後の走行による初期なじみにより、ディスクホイールの締め付け力が低下します。取り付け後、50 ～ 100km 走行を目安に、ホイールナットの増し締めを行ってください。

ホイールナットの増し締め
→ 7-96 ページ参照

アドバイス

・タイヤ交換後は左右にハンドルを切ってみて周辺の部品との干渉がないことを確認してください。不明な点は最寄りの《日産販売会社》にお問い合わせください。

ホイールナットの増し締め

警 告

・ディスクホイール取り付け後の走行による初期なじみにより、ディスクホイールの締め付け力が低下します。取り付け後、50 ～ 100km 走行を目安に、トルクレンチなどを使用してホイールナットの増し締めを行ってください。
・締め付けを行った後もナットがたびたびゆるむなど、異常があった場合は、ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。

⚠ 注 意

- 右側タイヤは右ねじ、左側タイヤは左ねじです。ホイールボルト、インナーホイールナットに表示しているねじの方向“R”マーク、“L”マークを確認してください。
- ホイールナットは、ホイールボルトレンチを奥まで確実に差し込み規定の締付けトルクでしっかりと締め付けてください。パイプ、足などを使って必要以上に締め付けると部品を破損するおそれがあります。
- 勢いをつけて締めるなどすると過締め付けとなり、ホイールボルトが伸びたり、ディスクホイールのホイールナットあたり面を傷めたりします。
- ホイールナットの締め付け不足および締め過ぎは、ホイールボルトの折損やディスクホイールの亀裂につながり、車輪の脱落を招くおそれがありますので十分注意してください。
- タイヤを新品と交換する場合は、異なった種類のタイヤを混ぜて使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用すると、車の安全走行に悪影響をおよぼしますので、避けてください。

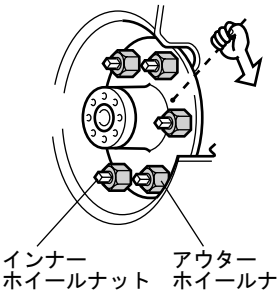
シングルタイヤの場合

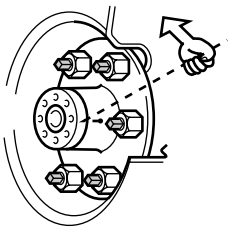
ホイールナットを締め付け方向に規定の締付けトルクで締め付けます。

ダブルタイヤの場合

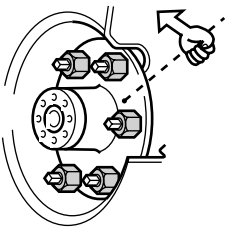
① アウターホイールナットをゆるめます。

左リヤダブルタイヤの増し締め例





② インナーホイールナットを規定の締付けトルクで締付けます。



③ アウターホイールナットを規定の締付けトルクで締付けます。

車種 / 項目	前輪ホイールナット		レンチにかける荷重	後輪ホイールナット		レンチにかける荷重
	締付けトルク	個数		締付けトルク	個数	
シングルタイヤ	140 ～ 200N·m {14 ～ 20kgf·m}	6	約 60kg	140 ～ 200N·m {14 ～ 20kgf·m}	6	約 60kg
ダブルタイヤ	450 ～ 550N·m {45 ～ 55kgf·m}	5 または 6	約 90kg	450 ～ 550N·m {45 ～ 55kgf·m}	5 または 6	約 90kg

※ホイールレンチの端に手で体重をかけ、反動をつけて回すことにより約 900N {約 90kgf} の力がかかります。（体重 60kg の人の場合）

スペアタイヤ

タイヤが何らかの原因で使用できなくなったときや、タイヤローテーションのために使用する予備タイヤです。

⚠ 警 告

- チェーンをねじれたまま巻き上げると走行中に振動でゆるみスペアタイヤが落下する可能性があり危険です。
- スペアタイヤをキャリアに取り付けた後はガタがなく確実に固定されていることを確認してください。ガタがあると走行中に振動でゆるみスペアタイヤが落下する可能性があり危険です。

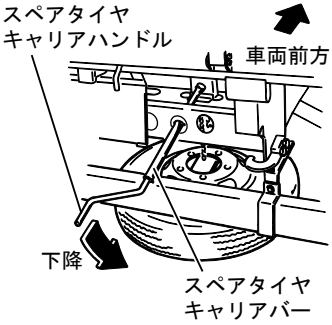
スペアタイヤの点検

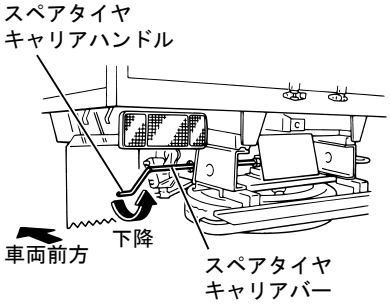
① スペアタイヤが確実に取り付けられているかを、タイヤを足等で強く押して点検します。
② ガタがあるときは、ブラケットや吊板に変形などの異常がないことを確認し、再度締め上げます。ガタがなくならないときは、そのまま走行せず最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

スペアタイヤの取り外し・取り付け

取り外し

スペアタイヤキャリアバーに、スペアタイヤキャリアハンドルを組み合わせてキャリアの穴に差し込み、左に回してスペアタイヤを取り出します。



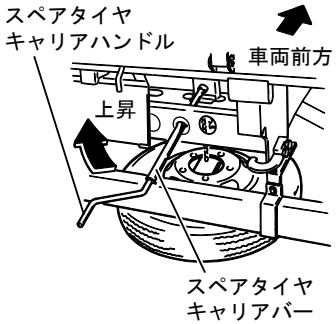


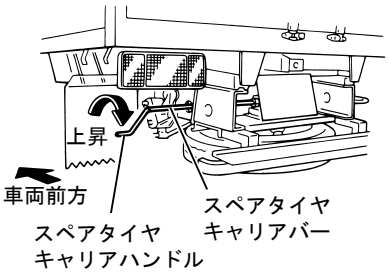
取り付け

① ディスクホイールは凸側を上にして、キャリア吊板のつめを、しっかりと合わせます。

② チェーンがねじれていないことを確認します。

③ スペアタイヤキャリアバーとスペアタイヤキャリアハンドルを組み合わせてキャリアの穴に差し込み、右に回して巻き上げます。巻き上げるときはチェーンがねじれないようにします。キャリアと吊板が直角になるように取り付けてください。





④ 巻き上げ後、スペアタイヤキャリアバーを 196N {20kgf} 以上の力で締め上げタイヤを固定します。固定後、スペアタイヤキャリアバーは逆回転させずにそのまま抜いてください。

⑤ スペアタイヤ取り付け後、足等で強く押してガタがないことを確認します。ガタがあるときは、ブラケットや吊板に変形などの異常がないことを確認し、再度締め上げます。ガタがなくならないときは、そのまま走行せず最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

クラッチ★

クラッチは使用しているうちにクラッチディスクが摩耗して、クラッチペダルの遊びが少なくなります。そのままにしておくとクラッチが滑りやすくなります。また、ペダルの遊びが大きすぎると、クラッチの切れが悪くなり、変速しにくくなります。

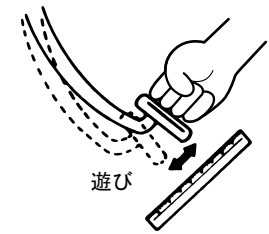
メンテナンスデーター覧
→ 7-24 ページ参照

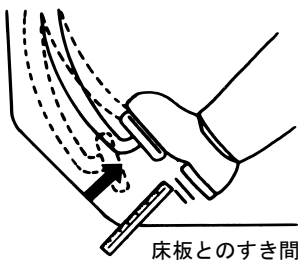
クラッチの点検

アイドリング状態でクラッチペダルを踏み込んだとき、異音がしないか、クラッチペダルが異常に重くないか点検します。また、シフトレバーが 1 速や後退の位置に容易に変速できるかを点検します。
ゆっくり走り出したとき、すべりがなく接続が滑らかであるかも点検します。異常がある場合は、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

アドバイス

・大きく急発進しないよう注意してクラッチペダルをつないでください。





クラッチペダルの遊び
クラッチペダルを軽く手で押し込み、抵抗を感じるまでの遊び量を点検します。

ストロークの確認

① パーキングブレーキが確実に引いてあることを確認し、エンジンをアイドリング状態でクラッチペダルをいっぱいに踏み込みます。
② シフトレバーを 1 速に入れペダルを静かに戻していき、クラッチがつながる直前までのペダルの位置と床とのすき間を点検します。
すき間が 20mm 以上あれば正常です。

点検項目	基準値［参考値］
クラッチペダルの遊び	15 ～ 25mm
クラッチがつながる直前の床板とのすき間	20mm 以上

クラッチフルード★

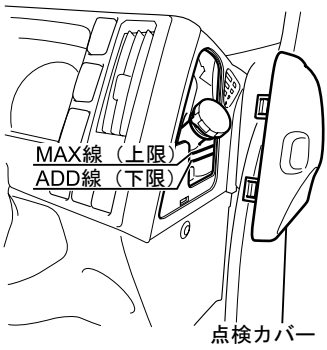
クラッチフルードは、油圧によってクラッチの断続を行う役割をしています。交換する場合は指定オイルを使用してください。クラッチフルードのリザーブタンクは、ブレーキフルードのリザーブタンクと共通です。

メンテナンスデーター覧
→ 7-24 ページ参照

⚠ 注 意

- 補給のとき、ゴミや水がタンクの中に入らないよう注意してください。ブレーキ、クラッチが効かなくなるおそれがあります。
- ブレーキフルードを塗装面や皮ふに付着させないように注意してください。もし付着したり、こぼした場合は、水で洗い流し、早くふき取ってください。
- ブレーキフルードは、吸湿性が強いので、保管する場合は、キャップを確実に閉めてください。
- ブレーキフルードは、他の銘柄品と混ぜて使用しないでください。
- ブレーキフルードの減りが著しい場合は、ブレーキ系統の故障やパッドの摩耗あるいはクラッチ系統の故障が考えられます。ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

クラッチフルードの点検



メーターパネル右側の点検カバーに指をかけ回転させるようにして取り外します。ブレーキフルードが ADD 線より下に減っているときはキャップを開き、日産純正ブレーキフルード No.2500（DOT3）を補給します。このとき MAX 線以上には補給しないでください。また、補給後はキャップを確実に閉めてください。

トランスミッションオイル

トランスミッションは、エンジンの動力を伝える装置です。トランスミッションオイルは、トランスミッション内部を潤滑し、内部のギヤを保護しています。また、ギヤの摩耗や焼き付きを防ぎます。交換する場合は指定オイルを使用してください。

メンテナンスデーター覧
→ 7-24 ページ参照

AMT 車はクラッチオイルの点検、交換要領が異なります。

AMT クラッチオイル★
→ 7-106 ページ参照

アドバイス

- オイル量は、交換時の目安として記載してあります。交換後は規定の位置まで入っていることを確認してください。
- 排出したオイルの廃棄・処理は、規定の方法で行ってください。

トランスミッションオイルの点検

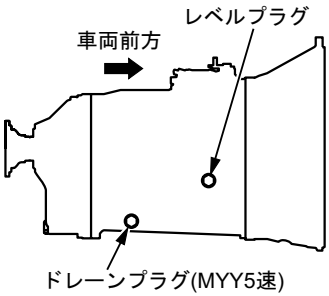
注 意

- エンジンが高温のときに点検をするときは、保護具（作業手袋など）を着用するなどして、やけどには十分に注意してください。

アドバイス

- プラグについている汚れは、必ずふき取ってから取り付けます。
- トランスミッションはアルミケースのため、レベルプラグおよびドレーンプラグを取り付けるときは、特にプラグの締め過ぎに注意してください。規定トルク以上で締め付けるとねじ部を破損するおそれがあります。

① 水平な場所に停車し、車両をリフトアップしてスタンド（ウマ）で車両を支えてください。



② レベルプラグを外し、レベルプラグ穴いっぱいまでオイルがあるか、点検してください。
オイル量はレベルプラグ穴の口元まであれば正常です。

③ 不足のときは必ずベスコギヤオイルトランスアクスルを補給してください。
④ レベルプラグを規定のトルクで締め付けます。

レベルプラグ締付けトルク
39N·m {4.0kgf·m}

また、トランスミッションオイルの漏れがないか、点検してください。

トランスミッションオイルの交換

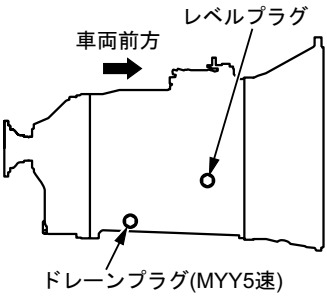
⚠ 注 意

- エンジンが高温のときに点検をするときは、保護具（作業手袋など）を着用するなどして、やけどには十分に注意してください。
- 交換作業をするときは、トランスミッションオイルを飛散させないよう十分注意してください。もし、オイルが付着した場合は、ていねいにふき取ってください。

アドバイス

- プラグについている汚れは、必ずふき取ってから取り付けます。
- トランスミッションはアルミケースのため、レベルプラグおよびドレーンプラグを取り付けるときは、特にプラグの締め過ぎに注意してください。規定トルク以上で締め付けるとねじ部を破損するおそれがあります。

① ドレーンプラグの下にオイルの受け皿を置きます。

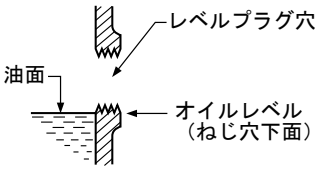


② レベルプラグとドレーンプラグを取り外してオイルを排出します。

③ ドレーンプラグを規定のトルクで締め付けます。

ドレーンプラグ締付けトルク
39N·m {4.0kgf·m}

④ ベスコギヤオイルトランスアクスルをレベルプラグ穴から給油します。



⑤ 給油後、レベルプラグ穴いっぱいまで油量があることを確認します。
⑥ レベルプラグを規定のトルクで締め付けます。

レベルプラグ締付けトルク
39N·m {4.0kgf·m}

AMT クラッチオイル★

AMT クラッチオイルは、エンジンの動力を伝えるフルードカップリングと変速時に動力の断続をするクラッチとを作動させる役割をしています。交換する場合は指定オイルを使用してください。

メンテナンスデーター覧
→ 7-24 ページ参照

トランスミッションオイルは点検、交換要領が異なります。

トランスミッションオイル
→ 7-103 ページ参照

アドバイス

- オイルの質および、量は AMT の性能と耐久性に大きく影響しますので指定オイルベスコ ATF Ⅲを過不足のないように入れてください。
  - オイルが多すぎると油漏れの原因になります。
  - オイルが少なすぎると誤作動を起こします。
- クラッチオイルを点検するときは、レベルゲージおよびその周りを清掃し、ゴミなどが入らないよう確実に取り除いてください。トランスミッション故障の原因になります。また、点検後もレベルゲージを清掃してから取り付けてください。
- ロングライフクーラント（LLC）や不凍液（エチレングリコール系）や水分、または他のオイルなどが混入しないようにしてください。機能低下や故障の原因になります。

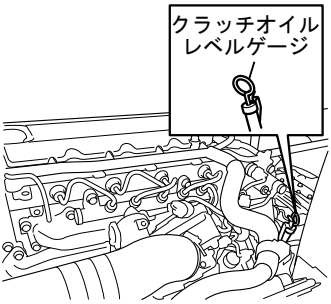
AMT クラッチオイルの点検

⚠ 注 意

- エンジンが高温のときに点検をするときは、保護具（作業手袋など）を着用するなどして、やけどには十分に注意してください。

アドバイス

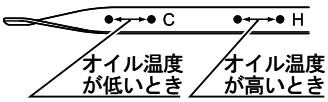
- レベルゲージにある“C”（COLD）の範囲は、専用の設備を備えた《日産販売会社》での AMT クラッチオイルの交換、修理を行う際の目安になっています。
  オイル量の調整は、必ず暖機運転後に“H”（HOT）の範囲で行ってください。
- オイルの過不足をなくすため、《日産販売会社》での点検、補給をお奨めします。



レベルゲージの位置は、エンジン後方のトランスミッション左側にあります。
シングルキャブ車はキャブをチルトアップして、ダブルキャブ車はクラッチオイル点検口を開けて点検してください。

リヤ点検口（ダブルキャブ車）★
→ 7-18 ページ参照

① 車両を水平な場所に停車し、パーキングブレーキを確実に効かせます。
② エンジンを始動します。
③ アイドリング状態のまま、レベルゲージを引き抜き、きれいな布でふきます。



④ 再びクラッチオイルレベルゲージを差し込んで静かに引き出し、オイルがレベル間にあるか点検します。（オイルの温度が低いときは“C”間、温度が高いときは“H”間でオイル量を確認します。）

レベルゲージ	クラッチオイル温度
“C”（COLD）	約 20℃～ 30℃
“H”（HOT）	約 70℃～ 80℃

⑤ オイルが少ないときは、クラッチオイルレベルゲージのガイドチューブからベスコ ATF Ⅲ を補給してください。また、クラッチオイルの漏れが無いか点検してください。
⑥ クラッチオイルレベルゲージを確実に差し込みます。
⑦ 一旦走行し、再度クラッチオイルレベルゲージでオイル量を点検します。

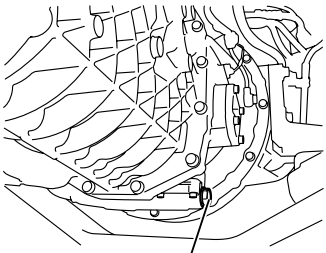
AMT クラッチオイルの交換

アドバイス

・オイル量は、交換時の目安として記載してあります。交換後は“**AMT クラッチオイルの点検**”を参照し、規定の位置まで入っていることを確認してください。
・排出したオイルの廃棄・処理は、規定の方法で行ってください。

知 識

・フルードカップリングや油圧回路にオイルが残るためオイルを完全に抜き取ることはできません。



① ドレーンプラグの下にオイル受けを用意します。
② チルトキャブを行います。

チルトキャブ★ → 7-20 ページ参照

③ レベルゲージを抜きます。
④ ドレーンプラグを外し、オイルを排出します。
⑤ ドレーンプラグを規定のトルクで締め付けます。

ドレーンプラグ締付けトルク
40N·m {4.1kgf·m}

⑥ 指定のクラッチオイルをレベルゲージのガイドチューブから補給します。
⑦ “**AMT クラッチオイルの点検**”を参照し、手順に従い、オイル量を確認します。

デファレンシャルオイル

デファレンシャルは、タイヤに動力を伝える装置です。デファレンシャルオイルは、デファレンシャル内部を潤滑し、内部のギヤを保護しています。ギヤの摩耗や焼き付きを防ぎます。交換する場合は指定オイルを使用してください。

メンテナンスデーター覧
→ 7-24 ページ参照

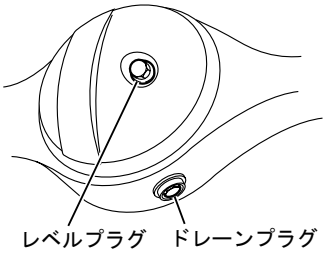
アドバイス

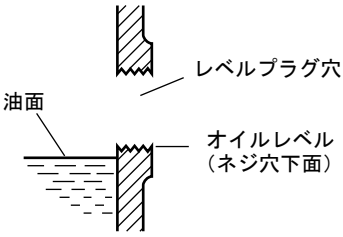
・オイル量は、交換時の目安として記載してあります。
・交換後は規定の位置まで入っていることを確認してください。
・排出したオイルの廃棄・処理は、規定の方法で行ってください。

デファレンシャルオイルの点検

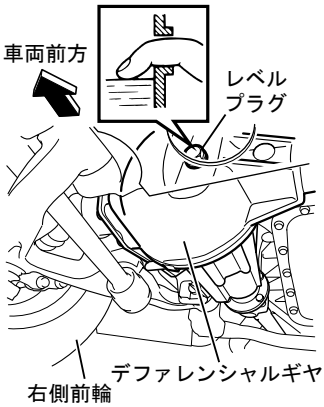
アドバイス

・プラグについている汚れは、必ずふき取ってから取り付けます。





① 水平な場所に停車し、車両をリフトアップしてスタンド（ウマ）で車両を支えてください。
② レベルプラグを外し、レベルプラグ穴いっぱいまでオイルがあるか、点検してください。
③ 不足のときは日産純正デフオイルハイポイドスーパー（API：GL-5、SAE：80W-90）、4WD 車フロントデファレンシャルには日産純正デフオイルハイポイド LSD（API：GL-5、SAE：80W-90）を補給してください。また、デファレンシャルギヤオイルの漏れがないか、点検してください。



アドバイス

・ビスカス式トルクスプリット 4WD 車のフロントデファレンシャルギヤオイルのオイル量はレベルプラグ穴の下面より 10mm ほど低い位置にあれば適量（約 1.3L）です。レベルプラグいっぱいまで入れると走行条件によっては、ギヤオイルがオーバーフローするおそれがあります。

④ レベルプラグを規定のトルクで締め付けます。

フロントデファレンシャル

レベルプラグ締付けトルク
78N·m {8.0kgf·m}

リヤデファレンシャル

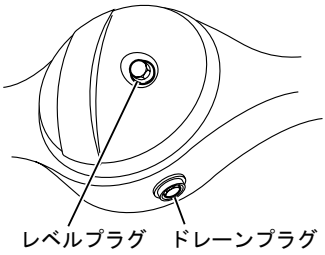
レベルプラグ締付けトルク
78N·m {8.0kgf·m}

デファレンシャルオイルの交換

アドバイス

・プラグについている汚れは、必ずふき取ってから取り付けます。

リヤデファレンシャル



フロントデファレンシャル



① ドレーンプラグの下にオイルの受け皿を置きます。
② 各プラグを取り外してオイルを排出します。
③ ドレーンプラグを規定のトルクで締め付けます。

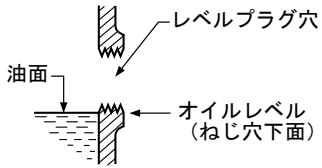
フロントデファレンシャル

ドレーンプラグ締付けトルク	
AHS、AJS、AKS、ALS、AMS 型車	25N·m {2.6kgf·m}
ANS、APS 型車	64N·m {6.5kgf·m}

リヤデファレンシャル

ドレーンプラグ締付けトルク
78N·m {8.0kgf·m}

④ 指定のデファレンシャルオイルをレベルプラグ穴から給油します。



⑤ 給油後、レベルプラグ穴いっぱいまで油量があることを確認します。

アドバイス

・ビスカス式トルクスプリット 4WD 車のフロントデファレンシャルギヤオイルのオイル量はレベルプラグ穴の下面より 10mm ほど低い位置にあれば適量（約 1.3L）です。レベルプラグいっぱいまで入れると走行条件によっては、ギヤオイルがオーバーフローするおそれがあります。

⑥ レベルプラグを規定のトルクで締め付けます。

フロントデファレンシャル

レベルプラグ締付けトルク
78N·m {8.0kgf·m}

リヤデファレンシャル

レベルプラグ締付けトルク
78N·m {8.0kgf·m}

トランスファーオイル

トランスファーは、エンジンの動力を前後に配分する装置です。トランスファーオイルは、トランスファー内部を潤滑し、内部のギヤを保護しています。ギヤの摩耗や焼き付きを防ぎます。交換する場合は指定オイルを使用してください。

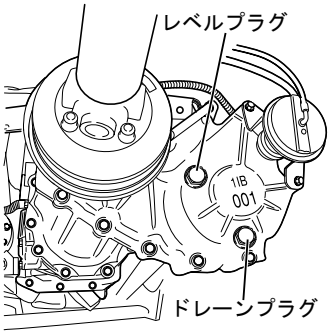
メンテナンスデーター覧
→ 7-24 ページ参照

トランスファーオイルの点検

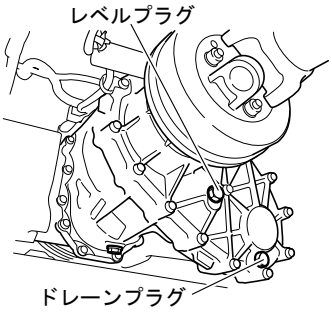
アドバイス

・プラグについている汚れは、必ずふき取ってから取り付けます。

パートタイム 4WD 車（ビスカス式トルクスプリット）



フルタイム 4WD 車



① 水平な場所に停車し、車両をリフトアップしてスタンド（ウマ）で車両を支えてください。
② レベルプラグを外し、レベルプラグ穴いっぱいまでオイルがあるか、点検してください。
③ 不足のときは、必ずベスコギヤオイルトランスアクスルを補給してください。
④ レベルプラグを規定のトルクで締め付けます。

レベルプラグ締付けトルク
39N·m {4.0kgf·m}

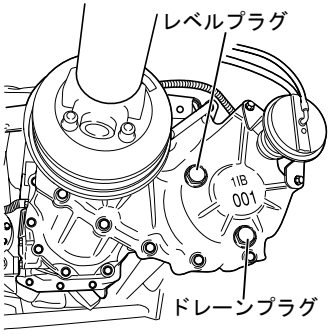
また、トランスファーオイルの漏れがないか、点検してください。

トランスファーオイルの交換

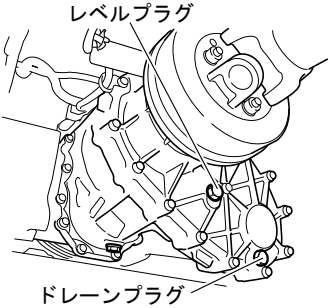
アドバイス

・プラグについている汚れは、必ずふき取ってから取り付けます。
・排出したオイルの廃棄・処理は、規定の方法で行ってください。

パートタイム 4WD 車（ビスカス式トルクスプリット）



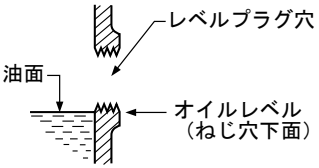
フルタイム 4WD 車



① ドレーンプラグの下にオイルの受け皿を置きます。
② レベルプラグ、ドレーンプラグを取り外してオイルを排出します。
③ ドレーンプラグを規定のトルクで締め付けます。

ドレーンプラグ締付けトルク
39N·m {4.0kgf·m}

④ ベスコギヤオイルトランスアクスルをレベルプラグ穴から給油します。



⑤ 給油後、レベルプラグ穴いっぱいまでオイルがあることを確認します。
⑥ レベルプラグを規定のトルクで締め付けます。

レベルプラグ締付けトルク
39N·m {4.0kgf·m}

パワーステアリングフルード

パワーステアリングフルードは、ステアリングをスムーズに作動させるオイルです。交換する場合は指定オイルを使用してください。

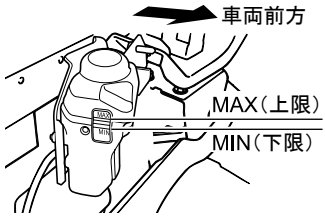
メンテナンスデーター覧
→ 7-24 ページ参照

⚠ 注 意

- 他銘柄との混用は化学変化を起こし故障の原因となりますので、行わないでください。
- パワーステアリングフルードを塗装面や皮ふに付着させないように注意してください。もし付着したり、こぼした場合は、早くふき取ってください。
- パワーステアリングフルードの減りが著しい場合は、ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

パワーステアリングフルードの点検

タイプ A



タイプ B



リザーブタンク内の液面が冷間時、MAX 線（上限）と MIN 線（下限）の範囲内にあれば適量です。不足しているときは、MAX 線（上限）までパワーステアリングフルードを補給します。また、パワーステアリング装置からパワーステアリングフルードの漏れがないかも点検します。
リザーブタンクはキャブ右側後方にあります。点検方法は次表を参照してください。

車　型	点検方法
シングルキャブ車	キャブ右側後方から
ダブルキャブ車	リヤ点検口を開けて

チルトキャブ★　→ 7-20 ページ参照
リヤ点検口（ダブルキャブ車）★
→ 7-18 ページ参照

パワーステアリングフルードの補給



・パワーステアリングフルード補給時はキャップ周辺を清掃し、補給容器はきれいなものを使用してください。異物が混入するとパワーステアリングの故障の原因となります。

補給口のキャップを取り外し、パワーステアリングフルードを MAX 線（上限）まで補給します。

フロント PTO ギヤオイル（消防車）★

メンテナンスデーター覧
→ 7-24 ページ参照

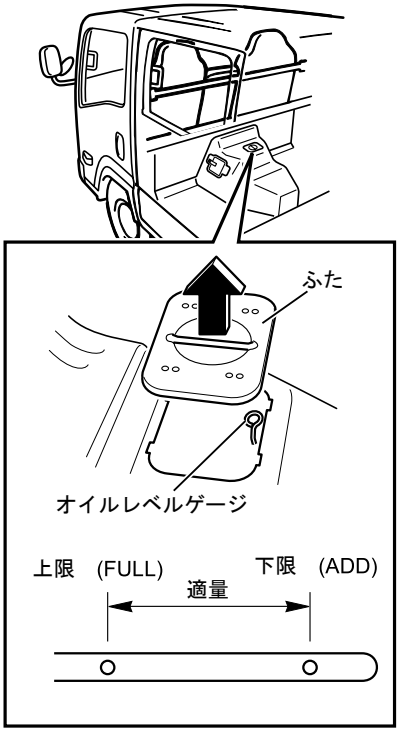
フロント PTO ギヤオイルの点検

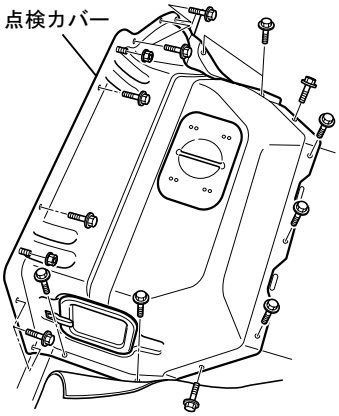
フロア中央にあるフロント PTO 点検口のふたを外し、オイルレベルゲージでオイルの量を確認してください。

・フロント PTO 点検口は、点検口のふたを上に引き上げてふたを外します。

“上限”と“下限”の範囲にオイルが付着すれば適量です。オイルの量が不足している場合は点検カバーを外してからフロント PTO 頭部の注入用プラグを外し、ベスコギヤオイルトランスアクスルを補給してください。

マニュアルトランスミッション車





知 識

・AMT 車にはフロント PTO 点検口はありません。

フロントPTOギヤオイルの交換

アドバイス

・排出したオイルの廃棄・処理は、規定の方法で行ってください。

排出したオイルの処理が問題となりますので《日産販売会社》で行ってください。

その他の点検・手入れ

- ウインドーウォッシャー液 7-120
- ワイパーブレード 7-121
- ランプ（灯火装置）・ターンシグナルランプ（方向指示器） 7-123
- バッテリー 7-125

ウインドーウォッシャー液

ウインドーウォッシャー液は、汚れなどを落とす役割をしています。

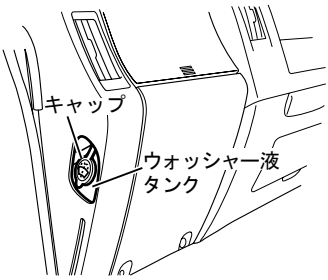
ワイパー・ウインドーウォッシャーの点検

ウインドーウォッシャータンク内の液量を確認します。また、ウインドーウォッシャー液を噴射し、ワイパーを作動させたとき、ふき残しがないか点検してください。このとき、ウインドーウォッシャー液の噴射状態も点検してください。

ウインドーウォッシャー液の補給

アドバイス

- 新車出荷時には水道水のみを入れてあります。時期に合わせて濃度を調整してください。
- 粗悪品、不凍液、石けん水は、使用しないでください。ノズルの詰まりや、塗装面に悪影響を与えるおそれがあります。
- タンクが空のままでウォッシャーを使用しないでください。モーターが破損することがあります。



ウォッシャー液タンクは助手席インストルメントパネル左側にあります。キャップを取り外して混合したウインドーウォッシャー液を補給します。

ウインドーウォッシャー液の混合割合

容量［参考値］	時　期	水道水	ウインドーウォッシャー液	凍結温度
標準キャブ車：2.9L ハイキャブ・ ワイドキャブ車：3.1L	通常	2	1	−10℃程度
	冬期	1	1	−20℃程度
	厳寒	0	原液を使用	−50℃程度

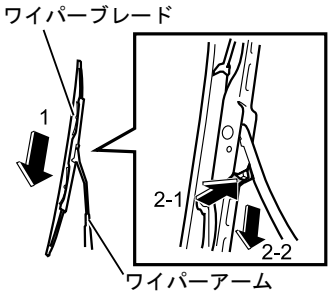
ワイパーブレード

ワイパーブレードは、雨や雪または汚れなどをふき取り視界を確保する役割をしています。交換する場合は《日産純正部品》を使用してください。

ワイパーブレードの点検

ウインドーウォッシャー液を噴射し、ワイパーを作動させたとき、ふき残しがないか点検してください。また、“（間欠）”、“LO（低速）”および“HI（高速）”の各作動が不良でないか点検します。

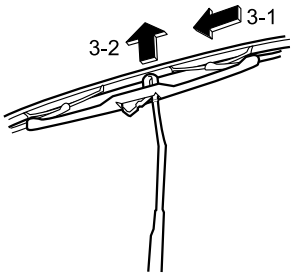
ワイパーブレードの交換



取り外し

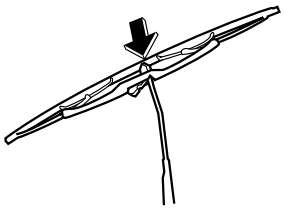
① ワイパーアームを起こします。

② ワイパーブレードのツメをワイパーアーム側に押しつけながらブレードを下側方向（アーム付け根側）に押して外します。



③ ブレードとアームをほぼ直角にしてアームからブレードを抜き取ります。

取り付け



① ブレードをアームとほぼ直角にして差し込みます。



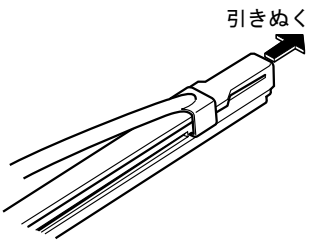
② ブレードをアームと同じ方向にしてブレードがアームにロックするまで上方向に引き上げます。

アドバイス

・ワイパーブレードを取り外したとき、ワイパーアームを倒すと、フロントウインドーガラスに傷をつけるおそれがありますので注意してください。

・ワイパーブレードの取り付け後は、必ずロックされていることを確認してください。ワイパースイッチを入れたときワイパーブレード本体が不安定な状態になり危険です。

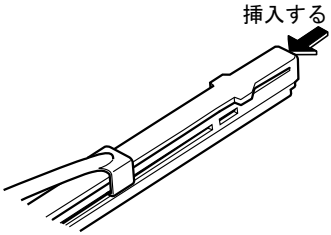
ワイパーゴムの交換



取り外し

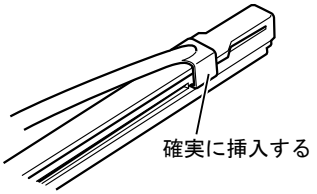
① ワイパーブレードをワイパーアームから取り外します。

② ワイパーゴムを矢印の方向に引き、ワイパーブレードから引き抜きます。



取り付け

① 新しいワイパーゴムをワイパーブレードに挿入します。



② ワイパーブレードのツメがワイパーゴムの穴に入るまで挿入し、確実に入っていることを確認します。

③ ワイパーブレードをワイパーアームに取り付けます。

ランプ（灯火装置）・ターンシグナルランプ（方向指示器）

車両にはさまざまなところにランプ類（灯火類）が用いられています。ランプ切れは、思わぬ事故につながるおそれがあります。お車を安全にお使いいただくために、ランプの状態は必ず確認してください。交換する場合は《日産純正部品》を使用してください。

灯火装置、方向指示器の点検

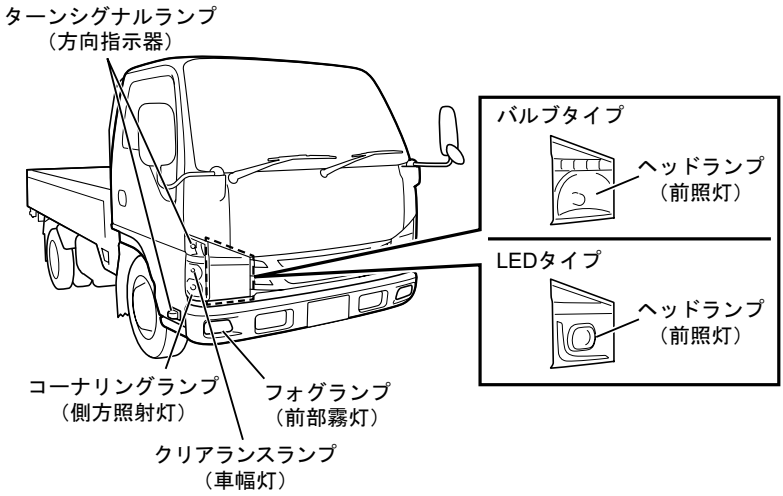
アドバイス

・コーナリングランプは、ヘッドランプ（前照灯）が消灯している状態で、ターンシグナルスイッチ（方向指示器）を操作しても点灯しません。点灯する場合は、システムの異常が考えられます。ただちに最寄りの《日産販売会社》で点検・整備を受けてください。

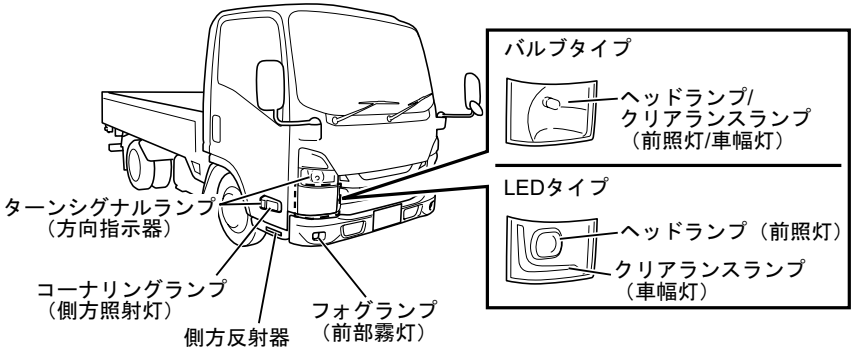
スタータースイッチを“ON”位置にし、ヘッドランプ（前照灯）、ターンシグナルランプ（方向指示器）、その他のランプ類の点灯、点滅を点検します。
また、ブレーキペダルを踏み、ストップランプ（制動灯）が点灯すること、シフトレバーを“R（後退）”に入れてバックアップランプ（後退灯）が点灯することを点検します。
各ランプ類に変色、損傷がないか、確実に取り付けられているかも点検します。

ランプ（バルブ）類が点灯しないとき
→ 8-16 ページ参照

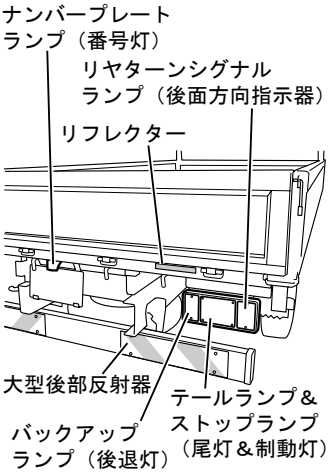
フロント側
標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



リヤ側



⚠ 注 意

・リフレクターは、はがしたり汚したりしないでください。他の車などからの視認性が悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

バッテリー

バッテリーは、エンジン始動時をはじめ、各種ランプ類、アクセサリーなど多くの電装品を働かせる役目をしています。交換する場合は、《日産純正部品》を使用してください。

メンテナンスデーター覧
→ 7-24 ページ参照

バッテリーの取り扱い上の注意

⚠ 危険

- バッテリー液量が下限（LOWER LEVEL）以下で使用、充電すると劣化を早めたり、発熱や爆発をするおそれがあります。
- 万一、バッテリー液が目に入った場合は、すぐに大量の水で洗い流し、病院で手当を受けてください。
- バッテリーの近くで工具など金属性のものを扱うときは⊕端子に触れないように注意してください。車体が⊖ですから、ショートして危険です。
- バッテリーからは、非常に燃えやすい可燃性ガスが発生しています。近くで火花を飛ばしたり火気を使用することはやめてください。バッテリーから発生する可燃性ガスに引火すると爆発するおそれがあり危険です。また、こぼれたバッテリー液をふき取るときは、ぬれた布を使ってふき取ってください。

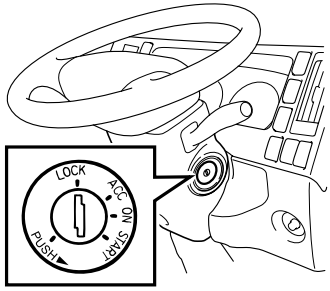
⚠ 警告

- バッテリー点検時は必ずエンジンを停止させてください。
- バッテリー液は、希硫酸です。手、衣類、金属部に付着させないようにご注意ください。万一付いてしまったときはすぐに水で洗い流してください。
- 端子を外す場合は、⊖端子から外してください。また、取り付ける場合は、⊖端子を最後に取り付けてください。
- バッテリーケーブルを取り付けるときは、⊕端子と⊖端子を逆に取り付けないでください。過電流が流れ、ジェネレーターや車体配線が焼損する原因になります。
- 点検、補給するときは、バッテリー液をナイロンチューブ、ハーネス、エアタンクなどに飛散させないようにし、付いてしまったときはすぐに水で洗い流してください。特にナイロンチューブは酸に対して弱いため、破損するおそれがあります。
- バッテリーチャージャーを使用するときは、必ずバッテリー端子を外してください。

アドバイス

・バッテリーを交換するときは、必ず車両に搭載されているバッテリーと同じサイズ（型式）を準備し、2個同時に交換してください。サイズ（型式）が異なるバッテリーに交換したり、1個だけ新品に交換したりすると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが正常に作動しなくなるおそれがあります。

バッテリーは常に清潔にするように心がけてください。汚れたままにすると、バッテリー液中に不純物が混入し、極板を傷めたり、バッテリー上面で漏電し、バッテリーの寿命を短くする原因になります。



点検・整備をするときは

バッテリーを含め、電気系統の点検・整備は次の手順に従って行います。

① 各スイッチを“OFF”にします。
② スタータースイッチを“LOCK”位置にし、3分以上待ってからバッテリーの⊖端子を取り外します。

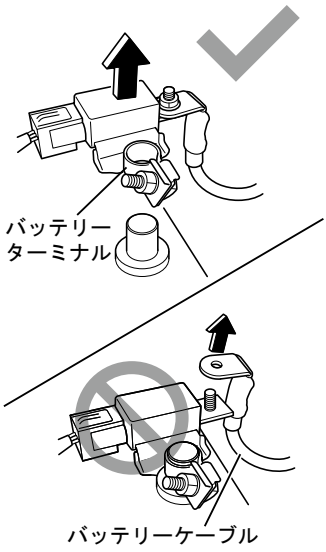
バッテリーを接続したまま点検・整備を行うと電気部品を破損するおそれがあります。

バッテリーを取り外すときは

バッテリーを取り外すときは、バッテリーケーブルの⊖端子側から行ってください。万一、⊖端子側のケーブルがバッテリーに接続された状態で工具などがバッテリーの⊕端子と車体などに接触するとショートを起こし危険です。また、電気系統の故障の原因になります。

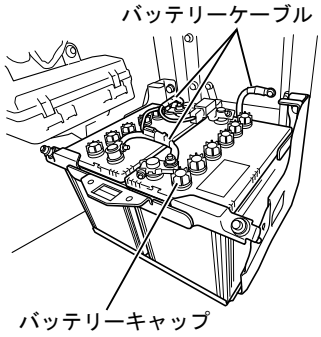
アドバイス

・バッテリーの⊖端子を外すときは、スタータースイッチを“LOCK”位置にし、3分以上待ってから行ってください。3分以内にバッテリーの⊖端子を外すと、エンジンなどの電子制御機器に悪影響をおよぼすおそれがあります。



知 識

・バッテリーの⊖端子を外すときは、バッテリーケーブルを外さずにバッテリーのターミナル部を外してください。

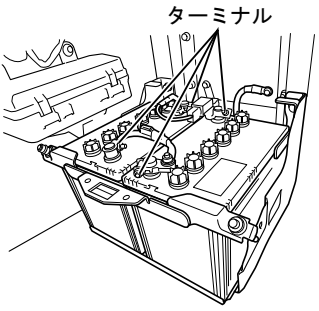


バッテリーを充電するときは

・バッテリーを充電するときは、車両からバッテリーを取り外します。バッテリーキャップを取り外し、風通しの良い場所で充電をしてください。バッテリーを車両に取り付けたまま充電するときは、バッテリーケーブルを取り外してから行ってください。
・充電器をバッテリーに接続するときや取り外すときは充電器のスイッチを必ず切ってから行ってください。
・急速充電を行うときは、必ずバッテリーケーブルを取り外して行ってください。バッテリーケーブルを接続したまま急速充電を行うとジェネレーターが焼損するおそれがあります。

バッテリーを取り付けるときは

1. バッテリーを車両に取り付けるときは、バッテリーの向きに注意し、ガタつきがないようにしっかりと取り付けてください。取り付けが不完全な場合、走行中の振動などでバッテリーケースや極板を傷める原因になります。



2. バッテリーケーブルを取り付けるときは、バッテリーの⊕端子側から行い、最後に⊖端子を取り付けてください。

バッテリー端子締付けトルク
3 ～ 6N·m {0.3 ～ 0.6kgf·m}

アドバイス

・バッテリー端子を締め付けるときは、バッテリーケーブルを無理に曲げないように配策してください。

知 識

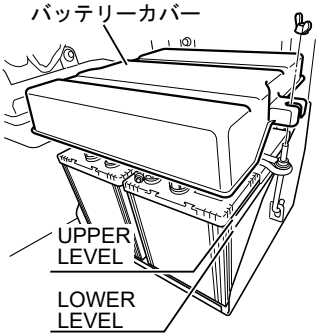
・バッテリーケーブルが接続されていないか、バッテリー電圧が低い場合、VDC 警告灯が点灯することがあります。VDC 警告灯が点灯している間は VDC は停止しますが、しばらくの間車両を通常通り走行させると VDC 警告灯が消灯し、VDC が再開します。運転してもしばらく VDC 警告灯が点灯したままになっている場合は、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

バッテリーから直接電源を取り出すときは

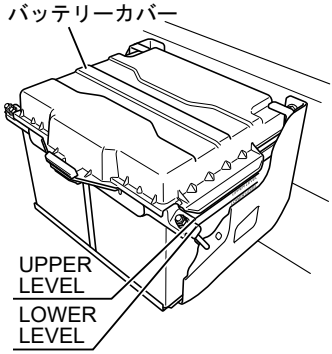
バッテリーから直接 12V の電源を取り出さないでください。
バッテリーから電源を取り出したいときは、最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。

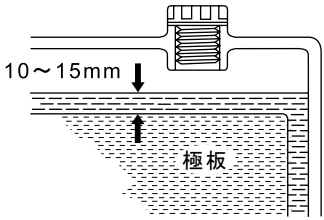
バッテリー液量の点検

タイプ 1



タイプ 2



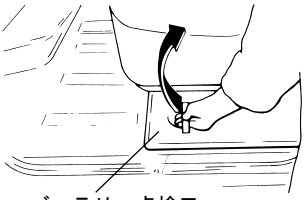


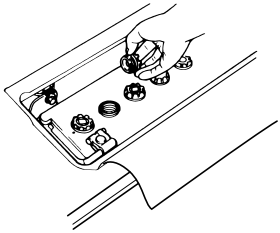
シングルキャブ車

バッテリーは外側のシャシ中央付近にあります。必要に応じてバッテリーカバーを外し、バッテリーケース内の液面が規定内にあるか点検します。

液面が“UPPER LEVEL”と“LOWER LEVEL”の範囲内にあれば適量です。液面がわかりにくいときは車を上下にゆすってください。

レベル表示のないものは、液面が極板上 10～15mm にあれば適量です。

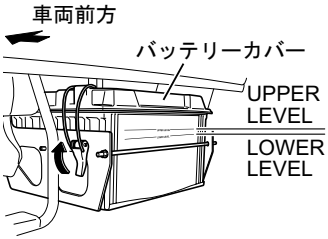


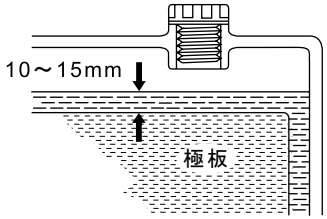


ダブルキャブ車

後席左下にあるバッテリー点検口を開けて点検してください。

キャップを外して中をのぞき、液面が極板上 10 ～ 15mm にあれば適量です。





消防車

バッテリーは外側のキャブ後方左側にあります。

バッテリーカバーを外し、バッテリーケース内の液面が規定内にあるか点検します。

液面が“UPPER LEVEL”と“LOWER LEVEL”の範囲内にあれば適量です。液面がわかりにくいときは車を上下にゆすってください。

レベル表示のないものは、液面が極板上 10 ～ 15mm にあれば適量です。

バッテリー液の補給

アドバイス

- バッテリー液を補給するときは、“UPPER LEVEL”を超えて補給しないでください。バッテリー液がこぼれてバッテリー端子などの腐食の原因になります。バッテリー液をこぼした場合は、すぐに水できれいに洗い流してください。
- バッテリー液を補給したときは、必ず充電（走行）してください。特に冬季はバッテリー液が凍結し、バッテリーケースを破損させるおそれがあります。
- バッテリー液の減少が激しい場合は、ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

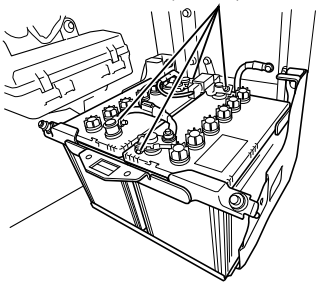
バッテリー液が不足している場合は、バッテリーカバーを外しキャップをとり、蒸留水を“UPPER LEVEL”の線または、極板上 10 ～ 15mm 近くまで補給してください。補給後、キャップとバッテリーカバーは確実に取り付けてください。

ターミナル部の点検



① ターミナル部にゆるみや腐食がないか点検します。
② ターミナル部が腐食して白い粉が付いているときはぬるま湯で洗い流し、よくふき取ります。腐食がひどいときはワイヤーブラシやサンドペーパーで磨いてください。

ターミナル



③ 清掃後はターミナル部にベスコグリースを薄く塗り、ゆるみが生じないように確実にバッテリーケーブルを取り付けます。
バッテリー上がりのときの処置は 8-6 ページの“**バッテリーがあがったとき**”を参照してください。

バッテリー端子締付けトルク
3 ～ 6N·m {0.3 ～ 0.6kgf·m}

アドバイス

- バッテリー端子を締め付けるときは、バッテリーケーブルを無理に曲げないように配策してください。

車内外の手入れ

- 車外の手入れ 7-134
- 車内の手入れ 7-138
- ラジエーターコア、インタークーラーコアの洗浄 7-141

車外の手入れ

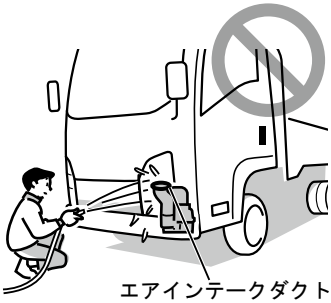
洗　車

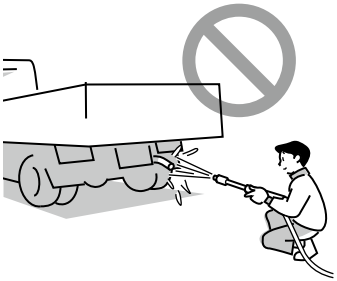


車体に異物がついたままにしておくと塗装面やメッキ部に化学変化が生じシミ、変色、さび、または部品の腐食などの原因となったり、車両各部の作動部分にはさまったり、抵抗を与えたりし、機能的な悪影響を与える場合があります。次のような場合には、必ず洗車をして異物を洗い落としてください。

- 塗装面にコールタールや油煙などの油分、ばい煙、鉄粉、虫のしがい、鳥のふん、樹液などが付着したとき。
- 海岸地帯を走行したとき。
- 凍結防止剤を散布してある道路を走行したとき。
- 泥、ほこりなどにより著しく汚れたとき。

洗車のしかた





⚠ 注 意

・ホースなどで水をかけるときは、エアインテークダクト（空気取り入れ口）に水が入らないようにしてください。

・エンジンルーム内の電気部品やコネクターなどに水をかけないでください。エンジン始動不良やエンジンの不調、さび、電気部品の故障などの原因になります。

・室内に直接水をかけて洗浄しないでください。電子制御機器および電気部品の誤作動や故障の原因となり、また床がさびる原因となります。

・ワイヤーブラシなどの硬い物を使用しないでください。注意・警告ラベルの剥がれ、破れの原因となります。また、塗装などに傷がつくおそれがあります。

【高圧洗浄機を使用するときは】

・高温、高圧のものは避けてください。樹脂部品の変形、破損、また室内への水漏れのおそれがあります。

・洗車ノズルと車体との距離は 40cm 以上離し、ドアガラスに対してはノズルを垂直に向けてください。

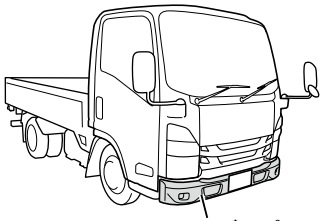
・配線コネクターや配線ボックスに直接水をかけないでください。故障の原因となります。

・排気管の出口に洗車ノズルを向けないでください。排気管内のセンサーに水がかかり、故障の原因となります。

・注意・警告ラベルなどに直接水をかけないでください。ラベルの剥がれ、破れの原因となります。

アドバイス

- 濃彩色車やメタリック車は自動洗車機を使用すると塗装面にブラシの傷がつき光沢がなくなり、スリ傷がめだちやすくなります。
- ミラーやアンテナを格納した状態で洗車をしてください。
- 洗車をするときは、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸または、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみ・塗装はがれの原因となるおそれがあります。
- 洗剤分は完全に洗い流し、ふき取ってください。特に強アルカリ系（工業用洗剤など）の洗剤を使用した場合、ふき取りが不完全な状態で放置するとコンビネーションランプのレンズ周辺に細かいヒビが発生するおそれがあります。使用する前に洗剤の取扱説明書を良くお読みください。
- 樹脂製フロントバンパーは雨などによって大気中のホコリなどが付着した場合、汚れが落ちにくくなることがあります。
  市販のクリーナを使用して汚れを落とし、樹脂製品用ワックスをかけてください。


フロントバンパー

① 水道の水圧を上げ、車体の下回り、足回り、車台番号部を洗います。
② 各部を完全に閉め、中性洗剤で洗います。
③ タイヤはブラシに洗剤をつけて洗います。
④ 洗剤分を完全に洗い流したあとセーム皮などで、はん点が残らないように、水分をふき取ります。

車台番号 → 1-3 ページ参照

車の保管について

お車の美しさをながく保つためには保管場所にも注意してください。
次のような場所での保管や長時間の駐車は塗装面に化学変化を生じ、シミ、変色、さび、または部品の腐食などを起こす原因となります。

- 油分、ばい煙、油煙、鉄粉などの付着が多い場所。
- 薬品などの化学物質を排出する工場周辺。
- 海岸地帯。
- 虫のしがい、鳥のふん、樹液などの付着が多い場所。

ワックスのかけかた

注 意

・ウインドーガラスにはワックスをかけないでください。光が乱反射して視界を妨げ危険です。

アドバイス

・磨き粉（コンパウンド）入りのワックスは使用しないでください。塗装や樹脂部品の表面に傷が付くことがあります。
・ゴム部にワックスが付着すると白くなり取れなくなります。

知 識

・ウインドーガラスにワックスをかけないでください。ワックス皮膜による雨天での視界不良や、ワイパーのビビリの原因になります。
・ウインドーガラスにエンジンオイル、グリースが付着したときは、シミ、変色などの原因になりますので早めに取り除いてください。

月に１～２回、または水はじきが悪くなったときに塗装面とメッキ部にかけてください。ワックスがけは日陰で、塗装面が 40℃以下のときに行ってください。
ワックスの使用方法は日産純正オートワックスの容器をご覧ください。

ウインドーガラスの手入れ



ワイパーのふき取りが悪くなった場合は日産純正ガラスクリーナを使って清掃してください。

車内の手入れ

カークリーナや電気掃除機などでほこりを取り除き、水または、ぬるま湯を含ませた布で軽くふき取ります。

⚠ 警 告

・車内の清掃をするときは、車内に水をかけないでください。オーディオやフロアーカーペット下にある電気部品などに水がかかると、車両故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあり、危険です。

・シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。
また、ベルトを漂白したり、染めたりしないでください。シートベルトの強度や性能が低下し、衝突などのとき十分な効果を発揮せず、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり、危険です。清掃するときは中性洗剤をうすめたぬるま湯などを使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

⚠ 注 意

・車内の手入れをするときは、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸または、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やしみの原因になります。また、各種クリーナ類には、これらの成分が含まれているおそれがあります。よく確認のうえ使用してください。

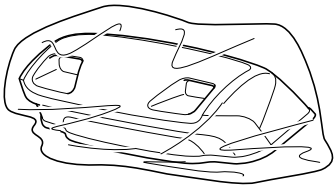
・芳香剤（液体・固体・ゲル状・プレートタイプなど）を内装品（エアコンやオーディオなど）に直接ふれたり、こぼしたりしないよう注意してください。含まれる成分によっては変色やしみ・塗装はがれの原因となるおそれがあります。

・ガラスの内側を清掃するときは、コンパウンドが含まれているガラスクリーナを使用しないでください。清掃は水または、ぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

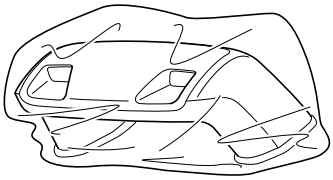
・フロントガラスの内側を清掃するときは、ダッシュボード上のカメラを紙・ビニール袋・マスキングテープなどで覆ってください。このとき、かぶせるものがカメラのレンズ部に触れないようにしてください。

・シートの下に手を入れて清掃するときや物を拾うときは、シートレールやシートフレームにあたりケガをするおそれがありますので十分に注意してください。

標準キャブ車



ハイキャブ・ワイドキャブ車



シートベルトの手入れ

シートベルトの汚れなどは、シートベルトの巻き取り不良の原因になりますので、日頃の点検手入れを行ってください。

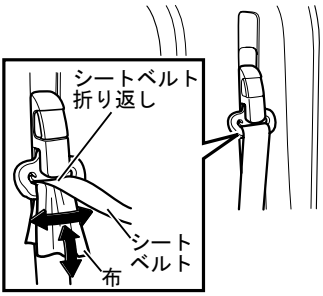
⚠ 注 意

- シートベルトの漂白や染色、またガソリン、シンナーなどの揮発剤で汚れを落とすことはシートベルト地を弱める原因になります。
- バックルの中に異物が入ったとき、異物を取り除くためにシートベルトの分解をすることはやめてください。必ず《日産販売会社》で点検、整備を受けてください。

ベルト折り返し部の汚れ

アドバイス

- 布を折り返し部に通すときや、しつこい汚れを落とすために工具などを使用しないでください。樹脂部分やシートベルトを破損するおそれがあります。



① 5cm 程の幅の布（木綿の手ぬぐい、ガーゼなど）を短冊にしてください。
② ぬるま湯に約 5% 程度の中性洗剤を混ぜてください。
③ 布をぬるま湯にひたし、シートベルトの折り返し部に通し、汚れが見えなくなるまで縦横にこすってください。
④ 布を抜き、乾いた布を使用して水分を十分にふき取り日陰で乾燥させてください。
⑤ シートベルトの巻き取り状態を確認してください。

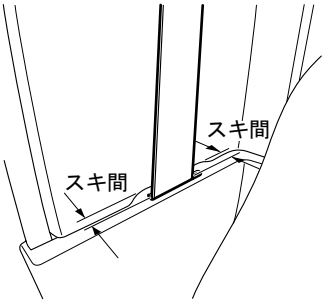
ベルト部の汚れ

アドバイス

・各部分の手入れをしてもシートベルトの巻き取り状態が悪いときは、ベルト部分がピラートリムと干渉しているおそれがありますので、《日産販売会社》で点検、整備を受けてください。
・巻き取り状態が悪い場合や、取り付け部のゆるみ、金属部分の変形、ベルトの傷、糸のほつれ、色あせなどを点検し、異常があれば《日産販売会社》で新品と交換してください。



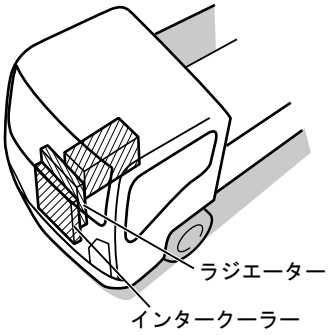
① ベルト部を全て引出し、裏表の色の違いを比較してください。
② ぬるま湯に約 5% 程度の中性洗剤を混ぜてください。
③ 爪等を洗うときに使用するブラシ（毛先がナイロン等の柔らかいもの）をぬるま湯にひたし、汚れを落としてください。
④ 乾いた布を使用してベルト部の水分を十分にふき取り日陰で乾燥させてください。
⑤ シートベルトの巻き取り状態を確認してください。

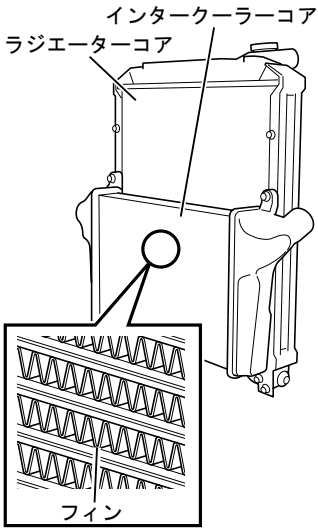


シート（布地）、カーペットの手入れ

ほこりやゴミは、家庭用の電気掃除機で吸い取ってください。
カーペットは取り外さないでください。飲食物やその他のシミは家庭用品に準じた方法で取り除いてください。
洗剤は中性洗剤または高級アルコール系合成洗剤と表示しているものをお使いください。

ラジエーターコア、インタークーラーコアの洗浄





ラジエーターコアやインタークーラーコアが泥やほこりで汚れていると冷却性能が低下したり、コアの腐食原因になります。定期的に水道水で水洗いをしてください。

⚠ 警 告

- 洗浄をするときは、必ずエンジンを停止してスタータースイッチを“LOCK”位置にします。インテリジェントキー無車はスターターキーを抜き取り、インテリジェントキー付車はリモコンキーを作動範囲外に置いてから作業を行ってください。
- 運転直後のエンジン本体、排気管、ラジエーター等の各部は高温になっています。やけどをしないように注意してください。洗浄するときはエンジン等が冷えた状態で行ってください。

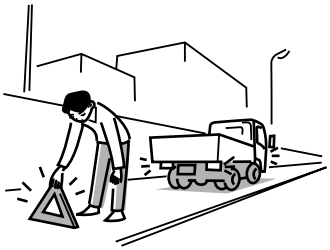
⚠ 注 意

- ラジエーターやインタークーラーおよび周辺部位を高圧洗浄しないでください。故障の原因になります。
- ラジエーターコアやインタークーラーコアを洗浄するときは、フィンなどをつぶしたり、傷つけたりしないでください。
- フィンは非常に弱いため、変形しないよう注意してください。フィンが変形すると冷却性能が低下します。
- 洗浄時は周辺の電装品や配線に水がかからないよう、処理をしてから洗浄してください。
- ラジエーターコアやインタークーラーコアを洗浄しても汚れが落ちないときは最寄りの《日産販売会社》で点検整備を受けてください。

万一のとき 8

- 走行中、車が故障したとき 8-2
- 発炎筒（緊急保安炎筒） 8-2
- パンクしたとき 8-4
- 走行中エンジンが停止したとき 8-4
- エンストをして再始動ができなくなったとき 8-5
- 踏切内で動けなくなったとき 8-5
- ブレーキが効かなくなったとき 8-6
- バッテリーがあがったとき 8-6
- 燃料切れしたとき 8-8
- 尿素水（AdBlue® 相当）が空になったとき 8-10
- 警告ブザーが鳴ったとき 8-11
- オーバーヒートしたときは 8-11
- 電動パーキングブレーキが解除できなくなったとき 8-14
- ランプ（バルブ）類が点灯しないとき 8-16
- ヒューズとリレーの交換 8-38
- スローブローヒューズが溶断したとき 8-49
- 事故をおこしたとき 8-50
- 悪路に落ち込んだとき 8-50
- インテリジェントキーが正常に作動しないとき 8-51
- けん引するとき 8-53

走行中、車が故障したとき



① ハザードランプ（非常点滅灯）を点滅させて、すぐに安全で交通の妨げにならない場所（路肩、路側帯）に車を寄せます。車両後方に発炎筒または、停止表示板（停止表示灯）を置き表示してください。（高速道路や、自動車専用道路では義務付けられています。）
② 同乗者を車から降ろし安全な場所に待機させてください。
③ 安全な場所を歩き、最寄りの電話または、非常電話を使って故障状況などを連絡してください。

⚠ 警 告

【万一、燃料が漏れたら】

・車から燃料が漏れているときに、火気があると火災を起こすおそれがあります。エンジンをすぐに停止させてください。また、発炎筒は離れた場所で使用してください。

知 識

・《日産販売会社》については、車検証入れに同封されている《全国サービス網案内》を参照してください。

発炎筒（緊急保安炎筒）



運転席の左足元に発炎筒（緊急保安炎筒）があります。踏切、高速道路など危険が予想される場所で故障した場合に着火して非常事態を知らせます。発炎は約５分間です。

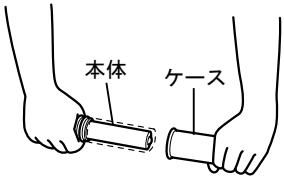
⚠ 警 告

- トンネル内では視界が悪くなり危険なので使用しないでください。この場合は停止表示板、ハザードランプ（非常点滅灯）および懐中電灯などを使用し、合図をしてください。
- 発炎のおそれがありますのでお子様にさわらせないように注意してください。
- 点火するとき、筒先を顔や体に向けないでください。やけどをするおそれがあります。
- ガソリンや可燃物のそばでは使用しないでください。引火をするおそれがあり危険です。
- 一度使用したり、有効期限を過ぎたものは必ず新しいものと交換してください。
- 豪雨のとき使用する場合はできるだけ降雨方向に向けないようにご注意ください。

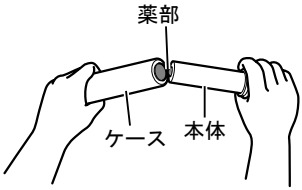
アドバイス

- 有効期限が過ぎたもの、破損したものは新品と交換してください。

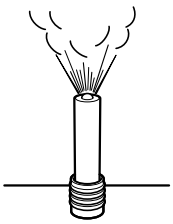
着火のしかた



① ひねりながら本体を取り外します。

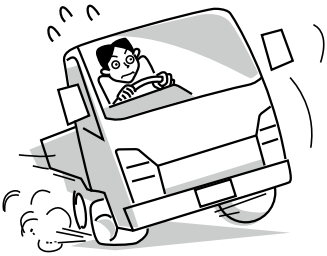


② 本体の先端の薬部とケース先端のスリ薬部を擦り着火します。



③ 平らな場所に立てます。

パンクしたとき



走行中にタイヤがパンクしたときは、急ブレーキをさけ、ハンドルをしっかりと握り、停車します。タイヤの交換は、他の運転者や通行者の妨害にならない、平坦地を選んで行います。

スペアタイヤ → 7-99 ページ参照
ジャッキ → 7-12 ページ参照
タイヤの交換 → 7-93 ページ参照

走行中エンジンが停止したとき



ブレーキ倍力装置が作動しなくなり、ブレーキの効きが悪くなります。あわてないでブレーキペダルを踏んで減速し、ただちに安全な場所に停車して点検してください。エンジンが始動できないときは、ただちに《日産販売会社》で点検・修理を受けてください。

⚠ 警 告

・運転操作に変化が生じますので次の方法で安全な場所に停車してください。
- ブレーキ倍力装置が作用しなくなり、ブレーキの効きが大変悪くなります。ブレーキペダルを通常より強く踏んでください。
- パワーステアリング（ハンドル操作力軽減装置）装置が効かなくなるため、ハンドル操作が重くなります。通常よりハンドルを強めに操作してください。

エンストをして再始動ができなくなったとき

スターターの回らないマニュアルトランスミッション車は、シフトレバーを“N”位置に操作し、安全な場所まで押して脱出してください。
AMT 車は、シフトレバーを“N”位置に操作してシフトインジケーターの表示が「N」の場合は安全な場所まで押して脱出してください。もし「N」以外の表示の場合は、非常用スイッチを“ON”にして、シフトレバーを“N”位置に操作し、シフトインジケーターの表示が「N」に切り替わったことを確認して、安全な場所まで押して脱出してください。

AMT の故障時 → 4-118 ページ参照
けん引するとき → 8-53 ページ参照

知 識

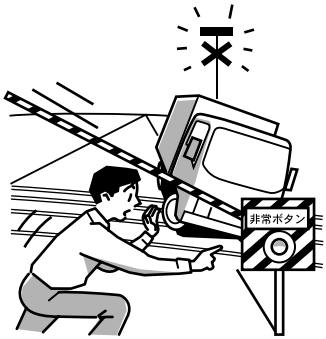
・ヒルスタートアシスト装着車は、ヒルスタートアシスト OFF スイッチを押し、ヒルスタートアシストを解除してください。

ヒルスタートアシスト OFF スイッチ
→ 4-123 ページ参照

⚠ 注 意

・非常の場合、マニュアルトランスミッション車でスターターが回るときは、シフトレバーを状況に応じて“R（後退）”、“1（1 速）”“2（2 速）”位置に操作します。
次にクラッチペダルから足を離したままスタータースイッチを回し続けて車を移動させます。

踏切内で動けなくなったとき



⚠ 注 意

・踏切内で動けなくなったときにはまず、車を線路の外へ移動させます。脱輪などで、どうしても脱出できないときや、緊急を要する場合は、発炎筒（緊急保安炎筒）や踏切に備え付けられた報知装置で緊急事態を知らせてください。

発炎筒（緊急保安炎筒）→ 8-2 ページ参照

ブレーキが効かなくなったとき



不測の事態でブレーキが効かなくなった場合は、シフトレバーでギヤを３速→２速→１速へ素早くシフトダウンしてスピードを落とし、ハンドルをしっかり握りながらパーキングブレーキレバーを徐々に引き、道路の左側に車を止めてください。

⚠ 注 意

・高速からいきなり、パーキングブレーキレバーをいっぱいに引くことは大変危険です。シフトダウンして十分にスピードを落としてからパーキングブレーキレバーを徐々に引くようにしてください。

知 識

・山岳路などでは緊急避難場所（道路の左側の砂山のうねりが重なっている所）に乗り上げるか、最悪の場合には、ガードレールや崖などに車体の側面をこすりつけたり、道路側溝に前後の片輪を落としたりして車を止めてください。

バッテリーがあがったとき

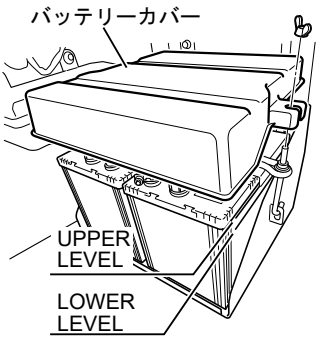
ブースターケーブル（別売）を使い、他車のバッテリーを利用し、次の順序でエンジンを始動させます。

⚠ 注 意

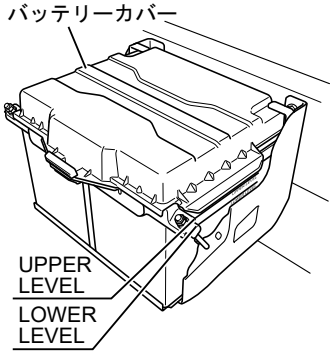
・安全および車両保護のため、押しがけによる始動はやめてください。
・救援車は故障車と同じ電圧のバッテリーを装着している車を使用してください。
・⊕極と⊖極を接触させないでください。
・ブースターケーブルを接続するとき、クリップどうしを接触させないでください。
・バッテリーの充電は《日産販売会社》などへ依頼してください。
・エンジンをかけた状態でバッテリー端子を外さないでください。電気系統の故障原因となります。

消防車を除く

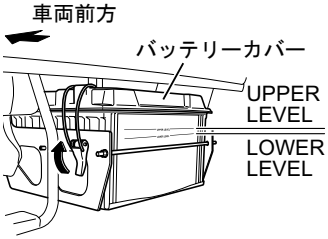
タイプ 1



タイプ 2



消防車



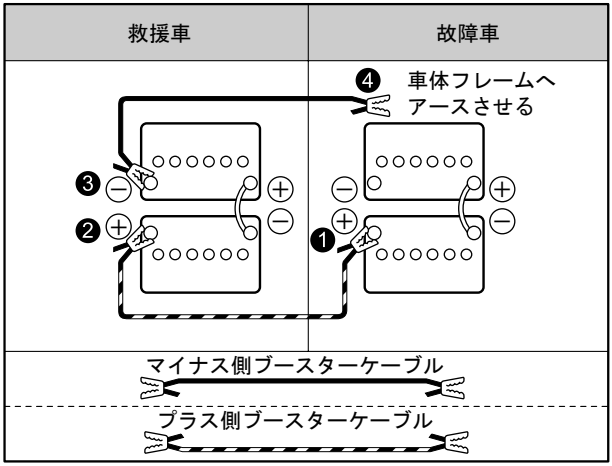
① 故障車のバッテリー液量を点検します。

シングルキャブ車 → 7-129 ページ参照
ダブルキャブ車 → 7-130 ページ参照
消防車 → 7-130 ページ参照

② 同じ電圧（24V）の車を救援車にします。
③ バッテリーカバーを外し、図の番号順にブースターケーブルを接続します。
④ ブースターケーブル接続後、救援車のエンジンを始動します。
⑤ 救援車のエンジン回転を少し高めにし、故障車のエンジンを始動します。
⑥ エンジンが始動できれば接続したときと逆の順序でブースターケーブルを外します。

知 識

・寒冷地などでエンジンが始動しにくいときは、正常車（救援車）のエンジンを始動して数分たってから故障車のエンジンを始動してください。



⚠ 警 告

- ブースターケーブルを接続する前にバッテリー液量を確認してください。バッテリー液量が下限“LOWER LEVEL”以下のままで使用、充電すると劣化を早めたり、発熱や爆発のおそれがあります。バッテリー液を補充してから作業してください。
- 故障車のフレーム❹にブースターケーブルを接続するとき火花が飛ぶことがあります。このためバッテリー近くに接続するとバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがありますので、なるべく離れた位置を選んでください。
- ブースターケーブルの⊕側を⊖側と接触させたり、ボデーに接触させたりしないでください。
- 火気を近づけないでください。

燃料切れしたとき

燃料切れしたときは、燃料系統に空気が混入し燃料を補給しただけではエンジンの始動はできません。次の要領で燃料系統のエア抜きをします。

⚠ 警 告

- 車体やキャブ下エンジンルームに付着した燃料はきれいにふき取ってください。火災の原因になります。

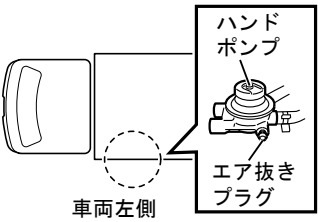
⚠ 注 意

・エンジンの始動は、必ず運転席に座って行ってください。
窓越し、またはドアを開けて運転席に座っていない状態ではシフトレバーの“N”位置を確認できないため、マニュアルトランスミッション車では万一シフトレバーが“N”位置以外でエンジンを始動すると、車が動くので注意してください。

エア抜きのしかた

アドバイス

・エア抜き作業が不十分なときには、エンジン不調になるおそれがありますのでエンジン始動後の手順を必ず実施してください。



① ハンドポンプのエア抜きプラグ部の下に燃料受け皿を準備し、エア抜きプラグのゴムキャップを取り外します。透明なホース等をエア抜きプラグに取り付け、燃料が飛散しないようにします。エア抜きプラグを十分にゆるめます。

ハンドポンプ位置
車両左側

② ハンドポンプのエア抜きプラグ部からエア混じりの燃料が出なくなるまでハンドポンプを 20 回以上上下に動かします。
③ ハンドポンプのエア抜きプラグを十分に締め付け、プラグ部周辺に付着した燃料をきれいにふき取ります。

エア抜きプラグ締付けトルク
7.5N·m {0.76kgf·m}

④ 更にハンドポンプを重くなるまで上下させ、燃料系統のエアを燃料噴射ポンプへ送ります。

⑤ アクセルペダルは踏まずにスターターを回し、エンジンを始動させます。
⑥ エンジン始動後、アイドリング回転を 5 秒間保持します。
⑦ アクセルペダルをいっぱいに踏み込み、最高回転まで吹き上げます。
（この操作を数回繰り返してください。）

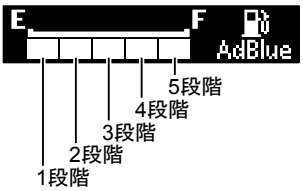
尿素水（AdBlue® 相当）が空になったとき

マルチディスプレイに「再始動禁止中」（尿素水補給）が表示され、尿素水（AdBlue® 相当）を補給してエンジンを始動するときは、次の手順に従って行います。

再始動禁止中（尿素水補給）
→ 4-68 ページ参照

アドバイス

・尿素水（AdBlue® 相当）は、5L 以上補給してください。
・マルチディスプレイの表示が消えず、警報音も鳴りやまないとエンジンの始動はできません。



再始動の手順

① スタースイッチを“LOCK”位置にし、尿素水（AdBlue® 相当）を 5L 以上補給します。

尿素水（AdBlue® 相当）の取り扱い
→ 2-52 ページ参照
指定された尿素水（AdBlue® 相当）を入れていますか → 2-52 ページ参照
尿素水（AdBlue® 相当）を補給するとき
→ 2-53 ページ参照
尿素水タンク → 3-33 ページ参照



② 尿素水（AdBlue® 相当）を補給後、スタースイッチを“LOCK”から“ON”位置にして同時にマルチディスプレイの表示が消え、警報音“ピーーー”が鳴りやむのを待ちます。
③ マルチディスプレイの表示と警報音“ピーーー”が鳴りやまないときは、スタースイッチを“LOCK”位置に戻し、さらに尿素水（AdBlue® 相当）を補給し、手順②からやり直します。
④ エンジンを始動します。

警告ブザーが鳴ったとき

バキューム警告ブザー



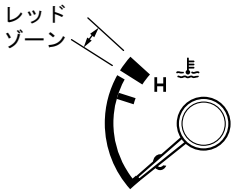
スタースイッチが“ON”位置のとき、または運転中にブレーキ倍力装置のバキュームが不足したとき、排気ブレーキ使用中に排気ブレーキに異常があるとブザーが鳴り警告します。このとき、同時にバキューム警告灯が点灯します。

⚠ 注 意

・排気ブレーキを使用中に警告ブザーが鳴ったときは、まず、安全な場所に停車して、以下の処置をしてください。
- エンジンをかけたまま、排気ブレーキスイッチを切り、数秒後にブザーが鳴りやんだ場合は、排気ブレーキ系の異常です。《日産販売会社》で点検を受けてください。
- ブザーが鳴りやまない場合は、フットブレーキ（主ブレーキ）のブレーキ倍力装置が異常です。ただちに《日産販売会社》で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは

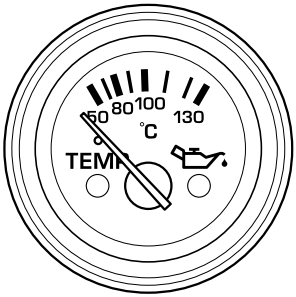
メーター・マルチディスプレイ表示





水温計

エンジンの力が落ち、水温計（テンプメーター）の指針がレッドゾーンを示したときはエンジンのオーバーヒートを示しています。このとき、「オーバーヒート」がマルチディスプレイに表示され、警報音“ピーーー”が鳴ります。ただちにオーバーヒートの処置をとってください。



油温計（消防車のみ）
指針が 120℃以上を示すときはエンジンがオーバーヒートしているおそれがあります。状況に応じてオーバーヒートの処置をとってください。

オーバーヒートしたときの点検・処置

① ハザードランプ（非常点滅灯）を点滅させて、すぐに安全で交通の妨げにならない場所（路肩、路側帯）に車を移動させ停車させます。
② エンジンはかけたままアイドリング状態にして、しばらくエンジンを冷やします。

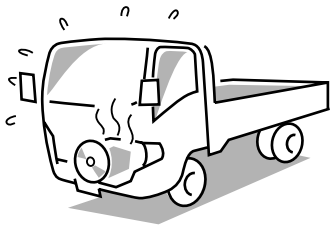
アドバイス

・すぐにエンジンを止めるとエンジン焼き付きの原因になります。

③ 水温計の指針が中央付近まで下がってきたら、エンジンを止めます。

⚠ 警 告

・冷却水が高温のときラジエーターやリザーブタンクのキャップを外さないでください。むやみに外すと蒸気が吹き出し、やけどをします。また冷却水温度も高温になっていますので、熱湯などによるやけどをするおそれがあります。点検・補給・交換は冷却水温度が下がっているときに行ってください。
・やむを得ずラジエーターやリザーブタンクのキャップを外すときは適正温度（80℃）に下がるのを待ち、厚手の布を重ねてキャップにかぶせ、徐々にキャップをゆるめてください。
・冷却水は毒性があるので飲まないでください。また目に入った場合は直ぐに洗い流してください。
・冷却水は引火性がありますので火気を近づけないでください。



アドバイス

・ラジエーター冷却用のファンが回っていないときは、ただちにエンジンを止めてください。

④ エンジン本体が十分に冷えてから冷却水のリザーブタンクおよび、ラジエーター内の冷却水の量を点検し、不足している場合はラジエーターおよび、リザーブタンクに冷却水を補充してください。また、ファンベルトのゆるみ、損傷を点検してください。
⑤ ラジエーター、インタークーラーの前面にゴミなどが付着していないか、またコアを塞いでいる物がないか点検し、付着しているときは洗浄・除去を行います。
⑥ 点検後、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

アドバイス

・冷却水を補給するときは、水温計の指針が中央より下側にあることを確認してから行ってください。エンジンが十分に冷えていないときの補給はエンジン本体の故障や、破損を招くおそれがあります。
・緊急時に水道水だけを補充したときは、早めに冷却水の濃度を調整してください。
・オーバーヒートしたエンジンに急に水を補給すると、エンジン破損のおそれがあります。エンジンを回転させながらゆっくりと補給してください。

冷却水 → 7-50 ページ参照
ファンベルト → 7-64 ページ参照
ラジエーターコア、インタークーラーコアの洗浄 → 7-141 ページ参照

電動パーキングブレーキが解除できなくなったとき

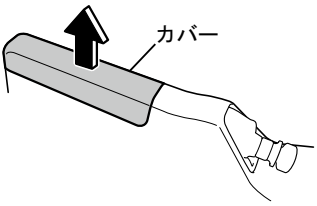
バッテリーが上がったときや電動パーキングブレーキが故障したときは、次の手順でパーキングブレーキを解除できます。

⚠ 注 意

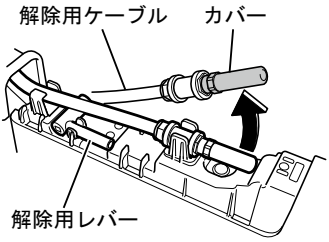
- 手動でパーキングブレーキを解除する場合、坂道では行わないでください。
- 手動で解除したあとは、車両を安全な場所に移動させ、ただちに最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

① ギヤイン駐車して確実に輪止めをします。

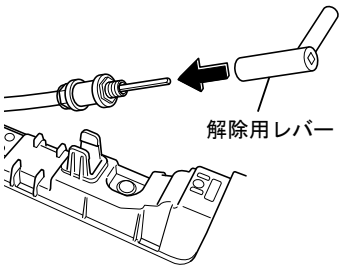
② パーキングブレーキレバーを下げ、カバーを外します。

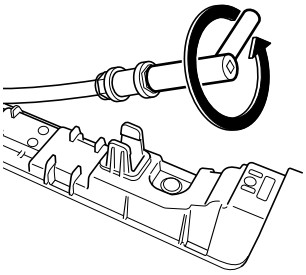


③ 解除用ケーブルを取り出し、解除用レバーと解除用ケーブル先端のカバーを取り外します。



④ 解除用レバーを解除用ケーブルに取り付けます。





⑤ パーキングブレーキが解除されるまで、解除用レバーを左に回します（50 回以上）。

ランプ（バルブ）類が点灯しないとき

① バルブ（電球）が球切れしていないか点検します。
② 球切れしているときは交換します。必ずスタータースイッチを“LOCK”位置にし、各スイッチを“OFF”にしてから行ってください。
③ 球切れしていないときは、配線の異常などが考えられますので最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

ランプ（バルブ）の容量

部位	ランプ名称		バルブの容量	
			標準キャブ	ハイキャブ・ワイドキャブ
前側	ヘッドランプ（前照灯）	ハロゲンヘッドランプ仕様車 ハイビーム / ロービーム	75/70W（バルブ型式 H4）	
		LED ヘッドランプ仕様車	LED	
	フォグランプ（前部霧灯）★	バルブタイプ	55W（バルブ形式 H3）	—
		LED タイプ	—	LED
	ターンシグナルランプ（前面方向指示器）		21W（橙色）	
	クリアランスランプ（車幅灯）	バルブタイプ	5W	
		LED タイプ	—	LED
	コーナリングランプ（側方照射灯）		21W	
	ターンシグナルランプ（側面方向指示器）		21W（橙色）	
後側	テール / ストップランプ（尾灯 / 制動灯）		5/21W	
	ターンシグナルランプ（後面方向指示器）		21W	
	バックアップランプ（後退灯）		21W	
	ナンバープレートランプ（番号灯）		10W	
室内	ルームランプ（室内灯）		10W	
	リヤルームランプ（後席室内灯）★		12W	10W
	ステップランプ★		5W	
	蛍光灯★		10W	20W

※記載されていないランプ（バルブ）類の交換については、最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。
※ LED を採用したランプの点検・整備は、《日産販売会社》で行ってください。むやみに分解・修理しますと部品の故障や感電のおそれがあります。

⚠ 注 意

・指定容量（W）以外のランプ（バルブ）を使用するとランプ（バルブ）や配線などの過熱により、レンズやケースなどが変形し、火災の原因となります。
・消灯直後のランプ（バルブ）類は高温になっています。ランプ（バルブ）類を交換するときはやけどに注意し、十分に冷えたことを確認してから行ってください。
・ランプ（バルブ）類が不灯のまま走行しないでください。思わぬ事故を起こす原因になります。

アドバイス

・ヘッドランプなどの対になっているランプ（バルブ）の片側が切れた場合、もう一方のランプ（バルブ）も使用限度が近づいています。左右同時に交換することをお奨めします。

知 識

・ヘッドランプなどのランプ類（灯火装置）は、雨天での走行や洗車時に一時的にレンズの内側が曇る場合があります。また、ランプ内と外気との温度差によりレンズ内側に結露が発生する場合もあります。これは雨天時など窓ガラスが曇る現象と同様で異常ではありません。またランプを点灯させしばらく時間がたち曇りが取れれば異常ではありません。

ヘッドランプの交換

バルブが切れたときは指定容量（W）のバルブを取り付けます。また、取り付けのときは、ねじを締めすぎないようにご注意ください。

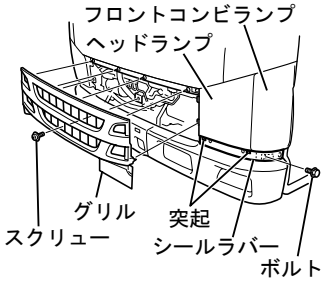
アドバイス

・指定容量以外のバルブに交換しないでください。特にターンシグナルランプ（方向指示器）の場合、異常点滅になります。
・ヘッドランプバルブを交換したときは、必ず光軸調整を最寄りの《日産販売会社》で行ってください。

【LED タイプ】

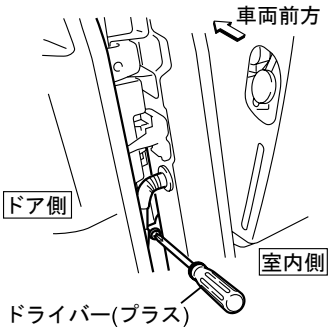
・LED ランプの交換は不要ですが、異常があるときは最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

ランプ（バルブ）の容量
→ 8-16 ページ参照

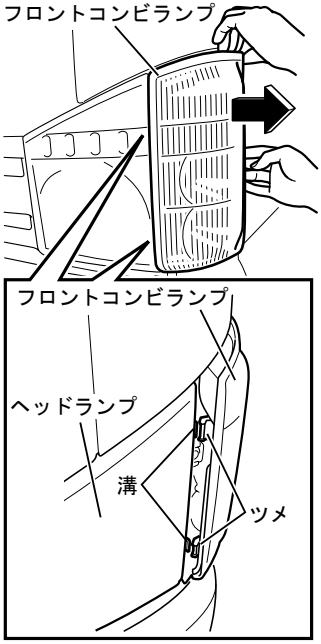


ハロゲンヘッドランプ仕様車
(標準キャブ車)

① グリル中央のスクリューを外し、グリルを引っぱりクリップを取り外します。
② ヘッドランプ下の突起（2 か所）からシールラバーを外し、フロントコンビランプ側面のボルトを外します。



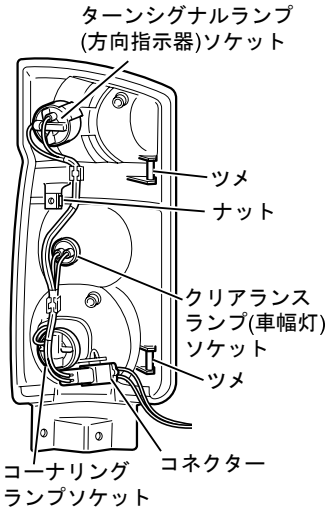
③ フロントドアを開け、ドアとキャブのすき間よりプラスドライバーを使用してスクリューを外します。
スクリューはフロントコンビランプ取り付け時に使用するのでなくさないように注意してください。

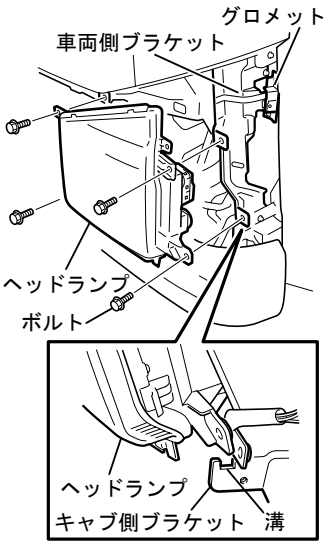


④ フロントコンビランプ後側に手をかけ、車両横方向に引っぱり位置決め用ツメ（2 か所）を外します。フロントコンビランプのコネクターを外し、フロントコンビランプを取り外します。
フロントコンビランプを取り外したとき、ナットをなくさないように注意してください。

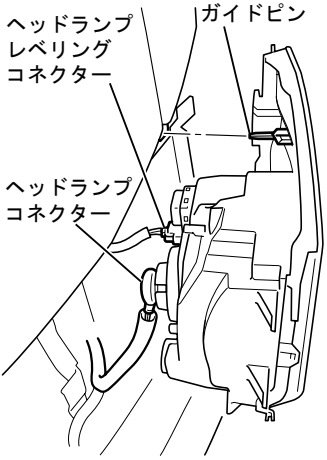
アドバイス

・フロントコンビランプを車両前方に引っぱると、位置決め用ツメ（2 か所）やヘッドランプの溝を破損するおそれがあります。





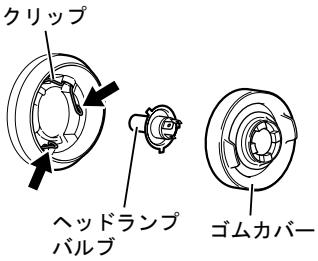
⑤ ヘッドランプを止めているボルト４本をゆるめてヘッドランプ本体を外します。



⑥ ヘッドランプコネクター、ヘッドランプレベリングコネクターを外し、ヘッドランプ本体を取り外します。

アドバイス

・ヘッドランプコネクターを外すときは、バルブが動かないようにゴムカバーの中央部を押さえながらコネクターを取り外してください。ゴムカバーの中央部を押さえずにヘッドランプコネクターを取り外すとバルブが浮き上がり、コネクターが外れたとき、クリップの反力によりリフレクターに叩きつけられバルブが破損するおそれがあります。

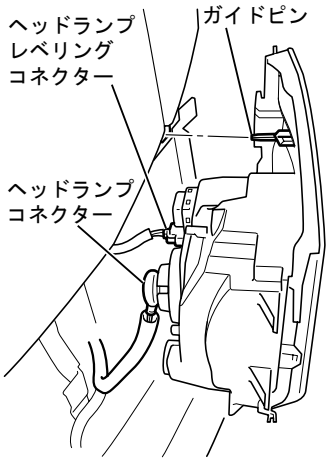




⑦ ゴムカバーを取り外し、バルブを固定しているクリップの下側を左右からつまみながら、上にずらしてクリップのロックを外します。
⑧ バルブを抜き出し、新品のバルブと交換します。

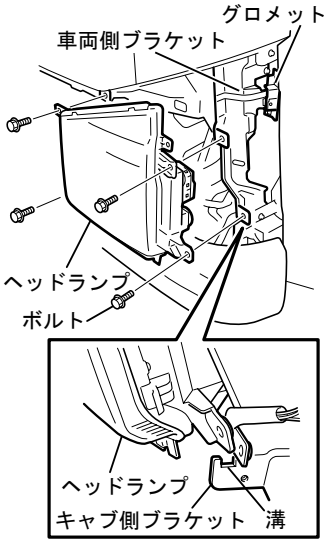
アドバイス

・バルブのガラス部に手を触れないでください。ガラス部が汚れると球切れの原因になります。
・ゴムカバーを取り付けるときは、ゴムカバーの外周と内周をしっかり押し込み、ゴムカバーとヘッドランプ本体および、バルブに浮きがないように確実に取り付けてください。ゴムカバーが浮いているとヘッドランプ内に水が浸入して故障する原因になります。



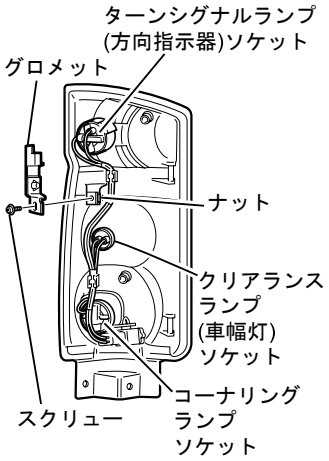
⑨ 取り付けは以下の順序で行います。

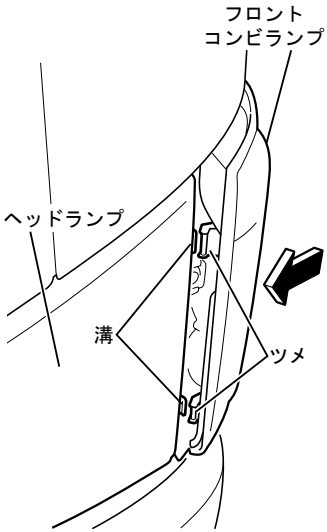
a. ヘッドランプコネクターとヘッドランプレベリングコネクターを接続し、キャブ側ブラケットの溝にヘッドランプの本体をはめ、ヘッドランプ本体側のガイドピンとキャブパネル側の穴を合わせランプの位置決めをし、ヘッドランプ固定用のボルト４本を締め付けランプを取り付けます。



b. フロントコンビランプを取り外したときに車両側ブラケットに残ったグロメットを取り外します。

c. フロントコンビランプを取り外したときに外したスクリューを使用してグロメットをフロントコンビランプに取り付けます。

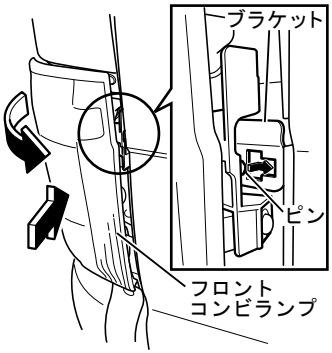


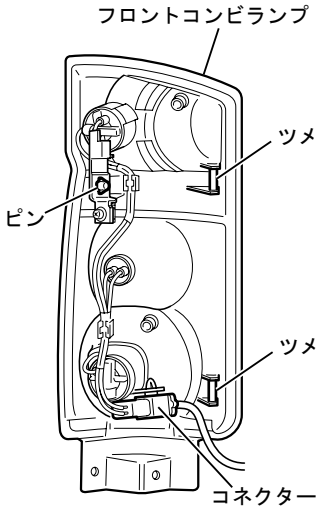


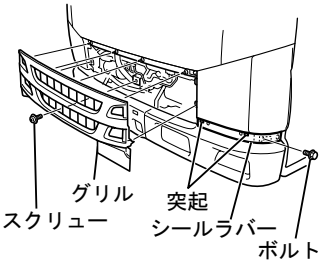
d. フロントコンビランプのコネクターを接続し、位置決め用ツメ（2 か所）を車両横方向よりヘッドランプの溝に合わせて位置決めします。
ピンをブラケット中央に合わせ、車両後方に回転させながら確実にピンをブラケットに差し込みます。
フロントコンビランプを押し込み、位置決め用ツメ（2 か所）と溝が確実にはまっていることを確認したら、側面のボルトを取り付け、シールラバーを取り付けます。

アドバイス

・フロントコンビランプを車両前方に軽い力で引っ張り確実に取り付けてあることを確認してください。

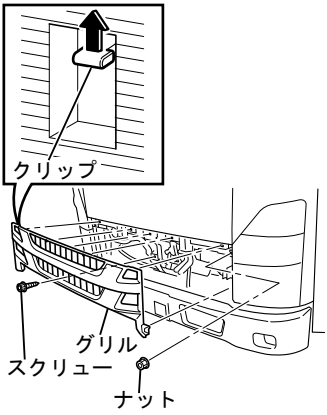




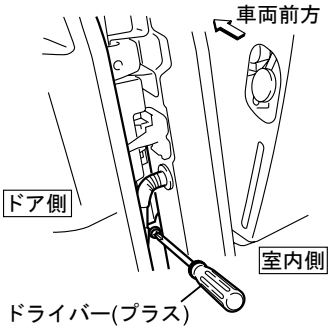


e. グリルをはめ込み、クリップを押しつけ結合させ、グリル中央のスクリューを取り付けます。

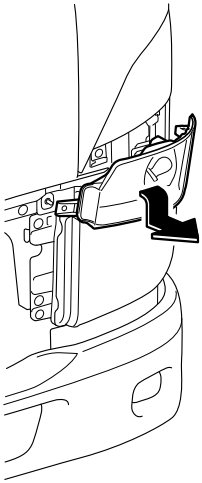
ハロゲンヘッドランプ仕様車
(ハイキャブ・ワイドキャブ車)



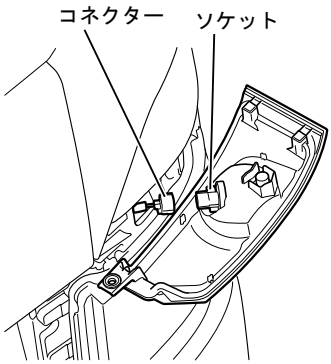
① グリル中央のスクリューを外し、グリル上部のクリップ（5 か所）のツメを上に押し上げてグリルを手前に引っぱり取り外します。ターンシグナルランプのナットを外します。



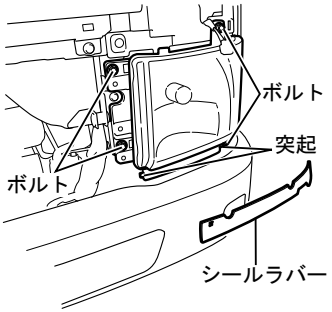
② フロントドアを開け、ドアとキャブのすき間よりプラスドライバーを使用してスクリュー（2 か所）を外します。



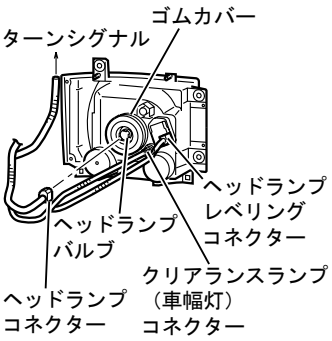
③ ターンシグナルランプ全体を車両前方に斜め下方向に取り外します。



④ ターンシグナルランプのコネクターを外し、ターンシグナルランプを取り外します。

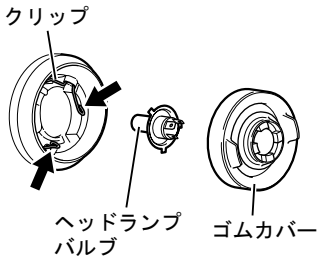


⑤ ヘッドランプ下の突起（2 か所）からシールラバーを外します。ボルト（4 か所）を外します。ヘッドランプコネクター、クリアランスランプ本体、ヘッドランプレベリングコネクターを外し、ヘッドランプ本体を取り外します。



アドバイス

・ヘッドランプコネクターを外すときは、バルブが動かないようにゴムカバーの中央部を押さえながらコネクターを取り外してください。ゴムカバーの中央部を押さえずにヘッドランプコネクターを取り外すとバルブが浮き上がり、コネクターが外れたとき、クリップの反力によりリフレクターに叩きつけられバルブが破損するおそれがあります。



⑥ ゴムカバーを取り外し、バルブを固定しているクリップの下側を左右からつまみながら、上にずらしてクリップのロックを外します。
⑦ バルブを抜き出し、新品のバルブと交換します。
⑧ バルブの交換後、取り付けは取り外しと逆の順序で行います。



アドバイス

・バルブのガラス部に手を触れないでください。ガラス部が汚れると球切れの原因になります。
・ゴムカバーを取り付けるときは、ゴムカバーの外周と内周をしっかり押し込み、ゴムカバーとヘッドランプ本体および、バルブに浮きがないように確実に取り付けてください。ゴムカバーが浮いているとヘッドランプ内に水が浸入して故障する原因になります。

クリアランスランプ、ターンシグナルランプ、コーナリングランプの交換

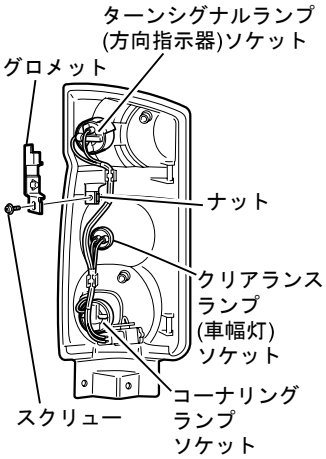
アドバイス

【クリアランスランプ　LED タイプ】
・LED ランプの交換は不要ですが、異常があるときは最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

標準キャブ車

① “ハロゲンヘッドランプ仕様車（標準キャブ車）” を参照し、フロントコンビランプを外します。

ハロゲンヘッドランプ仕様車
（標準キャブ車）　→ 8-18 ページ参照



② ソケットを左に回して外し、ターンシグナルランプとコーナリングランプは、バルブ（電球）を押しながら左に回して取り外します。クリアランスランプのバルブ(電球)は、ソケットから抜き出してください。新品のバルブと交換し、ソケットは右に回して確実にロックしてください。

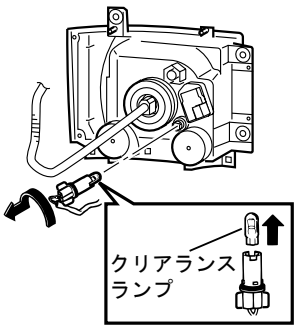
アドバイス

・ロックが不十分な場合はランプ内に水が浸入して故障するおそれがあります。

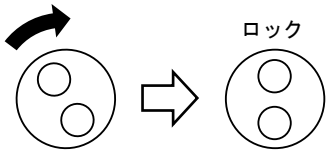
クリアランスランプの交換
(ハイキャブ・ワイドキャブ車バルブタイプ)

① “ハロゲンヘッドランプ仕様車 (ハイキャブ・ワイドキャブ車)” を参照し、ヘッドランプ本体を外します。

ハロゲンヘッドランプ仕様車
(ハイキャブ・ワイドキャブ車)
→ 8-24 ページ参照



② クリアランスランプソケットからバルブを抜き取り、新品のバルブと交換します。

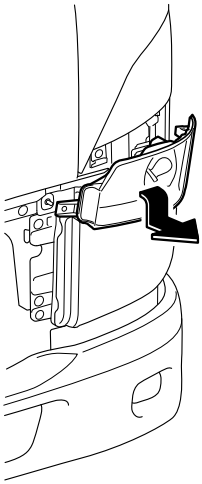


③ 取り付けは以下の点に注意して、逆の順序で行います。
・コネクターを右に回して確実にロックします。

アドバイス

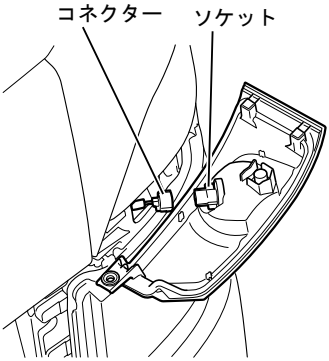
・ロックが不十分な場合はランプ内に水が浸入して故障するおそれがあります。

ターンシグナルランプの交換
(ハイキャブ・ワイドキャブ車)

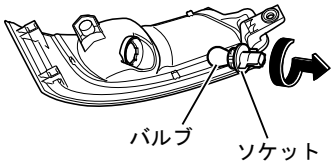


① “ハロゲンヘッドランプ仕様車 (ハイキャブ・ワイドキャブ車)” を参照し、ターンシグナルランプ全体を車両前方に斜め下方向に取り外します。

ハロゲンヘッドランプ仕様車
(ハイキャブ・ワイドキャブ車)
→ 8-24 ページ参照



② ターンシグナルランプのコネクターを外し、ターンシグナルランプを取り外します。



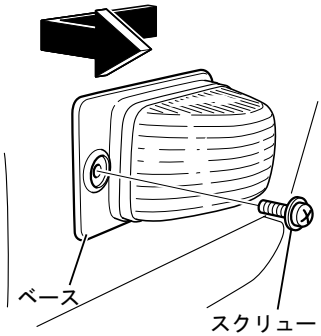
③ ソケットからバルブを取り外し、新品のバルブと交換します。
④ 取り付けは以下の点に注意して、逆の順序で行います。
・ソケットを右に回して確実にロックします。

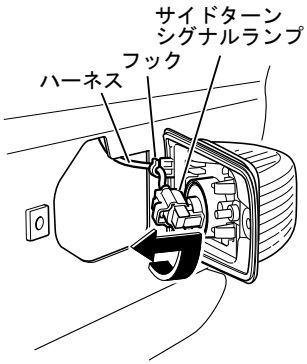
アドバイス

・ロックが不十分な場合はランプ内に水が浸入して故障する原因があります。

サイドターンシグナルランプの交換（標準キャブ車）

① スクリュー１本を外し、サイドターンシグナルランプをベースごと車両前方にずらしながら取り外します。



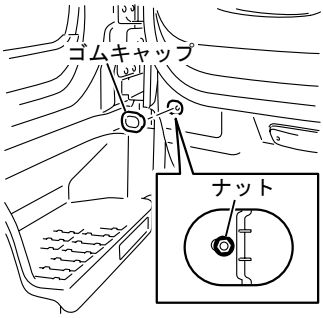


② ベースのフックからハーネスを外し、ソケットを左に回して取り外します。バルブは押し込んで左に回して取り外します。
③ 取り付けは以下の点に注意して逆の手順で行います。
・ソケットを右に回して確実にロックします。

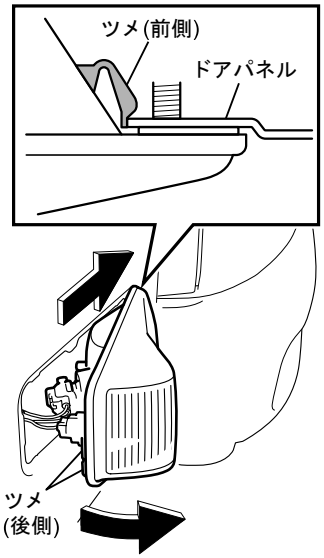
アドバイス

・ロックが不十分な場合はランプ内に水が浸入して故障するおそれがあります。

コーナリングランプ、
サイドターンシグナルランプの交換
(ハイキャブ・ワイドキャブ車)



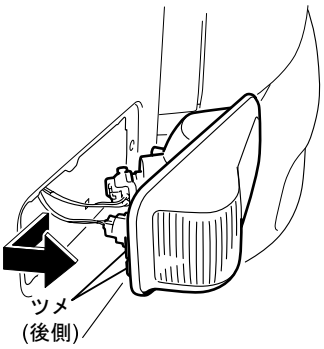
① フロントドアを開け、ドア下部にあるゴムキャップを取り外し、ナットを取り外します。



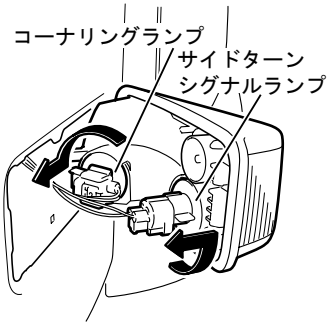
② コーナリングランプ、サイドターンシグナルランプを車両前方にずらします。
ランプ後側のツメをドアパネルから外します。

アドバイス

・ランプ後側のツメを外す際に、ランプ後部を引き出しすぎると、ランプ前側のツメを破損するおそれがあります。



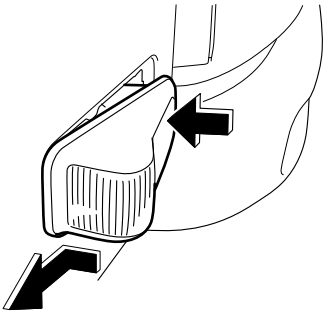
③ 後側のツメが外れたら、ランプを車両後方にずらし、ランプ前側のツメを外します。
ランプを手前に引き、取り外します。



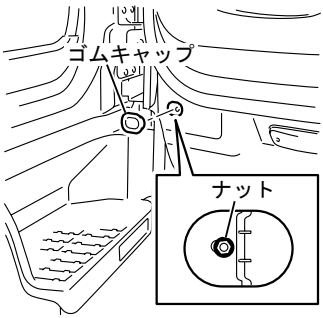
④ ソケットを左に回して取り外します。
⑤ ソケットからバルブを取り外し、新品のバルブと交換します。
⑥ 取り付けは以下の点に注意して行います。
a. ソケットを右に回して確実にロックします。

アドバイス

・ロックが不十分な場合はランプ内に水が浸入して故障するおそれがあります。



b. ランプ後部裏側のツメをドアパネルに差し込みます。
c. ランプの前側をドアパネルに押しつけ、ランプ前部裏面のツメをドアパネルに差し込みます。



d. フロントドアを開け、内側からナットを締付け、ゴムキャップを取り付けます。

フォグランプの交換★

アドバイス

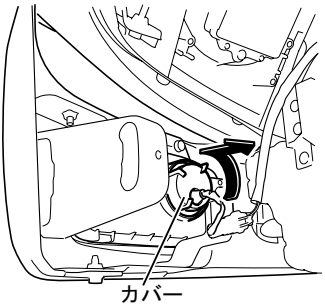
【LED タイプ（ハイキャブ・ワイドキャブ車)】

・LED ランプの交換は不要ですが、異常があるときは最寄りの《日産販売会社》にご連絡ください。

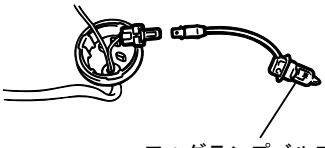
バルブタイプ（標準キャブ車）

① キャブをチルトして持ち上げてください。

チルトキャブ★ → 7-20 ページ参照



② カバーを左に回して取り外します。バルブを固定しているクリップを押しながら下の方へずらします。カバーに固定されているコネクターを固定クリップを損傷しないように注意しながら外し、端子を抜きます。



③ バルブを抜き出し、新品のバルブと交換します。

アドバイス

・バルブのガラス部に手を触れないでください。ガラス部が汚れると球切れの原因になります。

④ 取り付けは以下の点に注意して、逆の順序で行います。

・バルブは上下に異なる切り欠き（丸･四角）があるので向きに注意して取り付けます。
- 左右共：丸い切り欠きが上

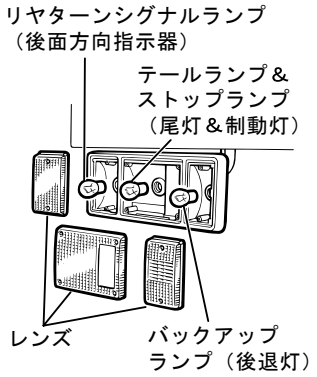
・カバーを右に回してロックします。
カバーをロックするとき、カバー内部のハーネスを噛み込まないように注意します。

アドバイス

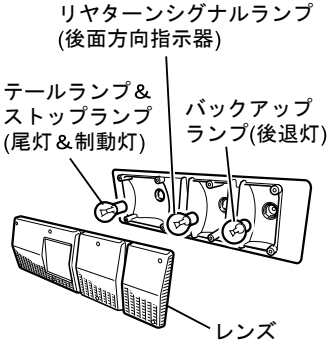
・ロックが不十分な場合はランプ内に水が浸入して故障するおそれがあります。

リヤターンシグナルランプ、テールランプ&ストップランプ、バックアップランプの交換

タイプ1

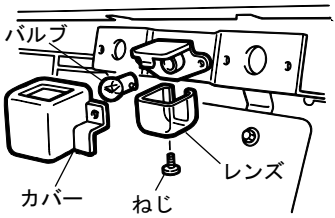


タイプ2



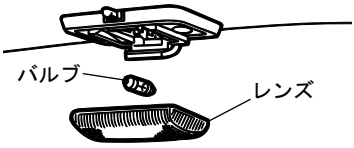
① ねじをゆるめてレンズを外します。
② バルブ（電球）を押しながら左に回して外します。
③ 取り付けは、取り外しと逆の順序で行います。

ナンバープレートランプの交換



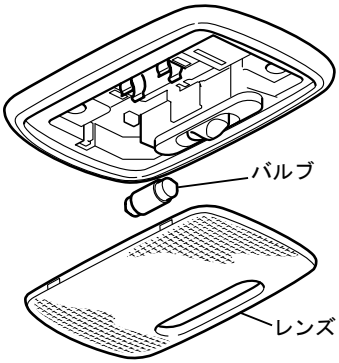
① ねじをゆるめてカバーを外します。
② レンズ取り付けねじをゆるめレンズを外します。
③ バルブ（電球）を押しながら左に回して外します。
④ 取り付けは、取り外しと逆の順序で行います。

ルームランプの交換



標準キャブ車

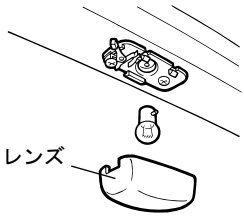
① レンズをマイナスドライバーなどで外し、バルブを引き抜いて外します。
② 取り付けは、取り外しと逆の順序で行います。



ハイキャブ・ワイドキャブ車

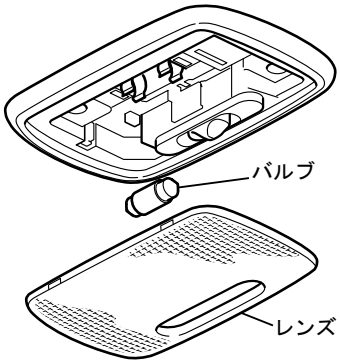
① レンズを外し、バルブ（電球）を引き抜いて外します。
② 取り付けは、取り外しと逆の順序で行います。

リヤルームランプの交換★



標準キャブ車

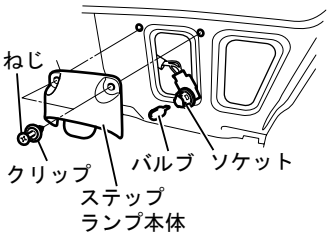
① レンズをマイナスドライバーなどで外し、バルブ（電球）を押しながら左に回して外します。
② 取り付けは、取り外しと逆の順序で行います。



ハイキャブ車

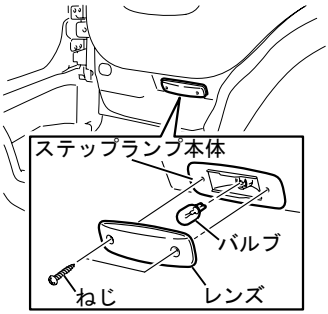
① レンズを外し、バルブ（電球）を引き抜いて外します。
② 取り付けは、取り外しと逆の順序で行います。

ステップランプの交換★



標準キャブ車

① クリップのねじをゆるめ、クリップを引き抜きます。(ねじを完全に抜かなくても、クリップを引き抜くことができます。)
② ステップランプ本体を外し、ソケットを左に回して外します。
③ バルブ(電球)を引き抜いて外します。
④ 取り付けは、取り外しと逆の順序で行います。



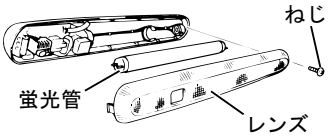
ハイキャブ・ワイドキャブ車

① レンズのねじをゆるめ、レンズを取り外します。
② ステップランプ本体を外し、バルブ(電球)を引き抜いて外します。
③ 取り付けは、取り外しと逆の順序で行います。

蛍光灯の交換★

⚠ 注 意

・室内蛍光灯には微量の水銀が含まれています。個人で交換する場合には、自治体の回収ルールに従い正しく分別・排出してください。事業者の場合は、排出する際は廃棄物処理法に則り適正に処理を行ってください。



標準キャブ車

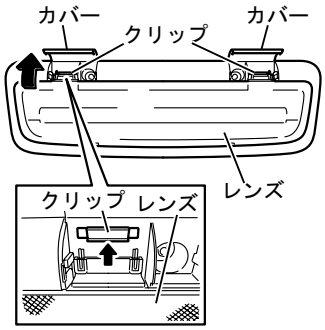
① ねじを１本ゆるめて、レンズを外し、蛍光管をまわして外します。

⚠ 注 意

・蛍光灯を使用直後にインバーターにふれるとヤケドをするおそれがあります。蛍光管などの交換をするときは、インバーターが冷えるまで待ってから行ってください。

・蛍光灯を交換するときは、スイッチを“OFF”にしてください。
スイッチが“ON”のまま蛍光灯を交換すると感電するおそれがあります。

② 取り付けは、取り外しと逆の順序で行います。



ハイキャブ・ワイドキャブ車

① カバーを開け、クリップを外します。
② レンズを外し、蛍光管をまわして外します。

⚠ 注 意

・蛍光灯を使用直後にインバーターにふれるとやけどをするおそれがあります。蛍光管などの交換をするときは、インバーターが冷えるまで待ってから行ってください。

・蛍光灯を交換するときは、スイッチを“OFF”にしてください。
スイッチが“ON”のまま蛍光灯を交換すると感電するおそれがあります。

③ 取り付けは、取り外しと逆の順序で行います。

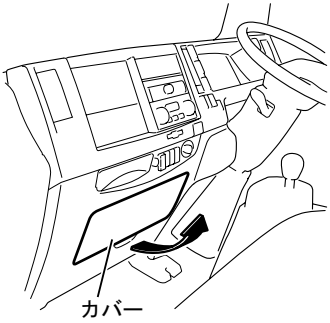
ヒューズとリレーの交換

ランプが点灯または点滅しない場合や、電気系統の装置が作動しないときはヒューズが切れていないかを点検します。

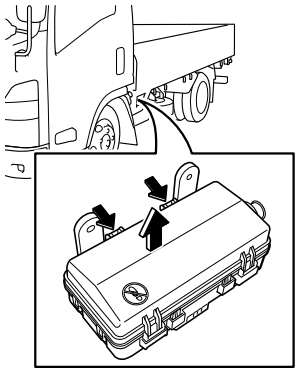
ヒューズとリレーの位置

ヒューズはインストルメントパネル中央下部、左側キャブ後方およびバッテリーキャリア部にあります。点検、交換はカバーを開けて行います。また、キャブ後方リレーボックス、バッテリーキャリア部ヒューズボックスもカバーを開けて、点検、交換してください。

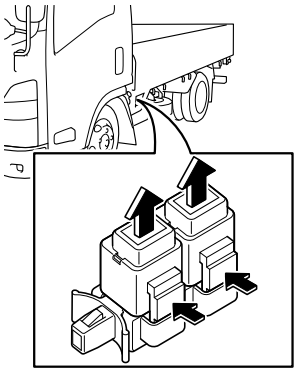
インストルメントパネル



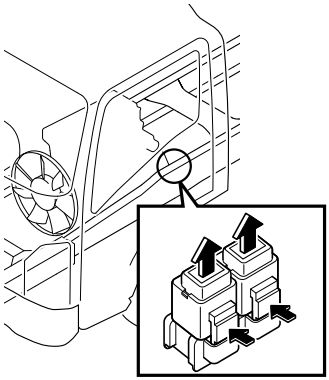
左側キャブ後方

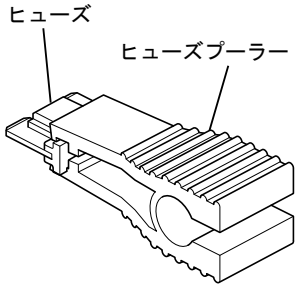


バッテリーキャリア部



左側リヤキャブマウント付近

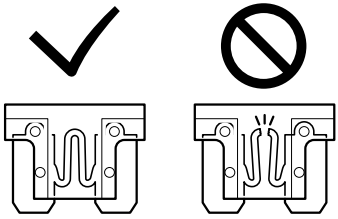




ヒューズの交換

① ヒューズ交換は、スタータースイッチを“LOCK”位置にし、パーキングブレーキを引いてから実施してください。

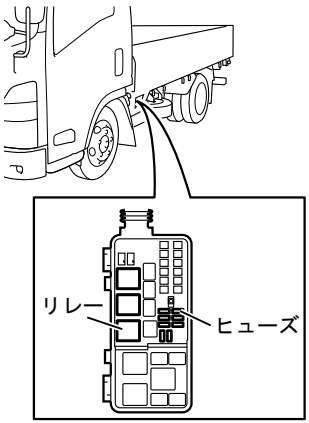
② ヒューズにヒューズプーラーを差し込んで引き抜きます（ヒューズプーラーは室内のヒューズボックス内にあります）。



③ ヒューズが左図の右側のようでしたら、ヒューズ切れです。予備ヒューズと交換してください。（予備ヒューズは室内のヒューズボックス内にあります。）

⚠ 警 告

- ヒューズは必ず指定容量のものを使用してください。指定容量以外のものや、針金、銀紙などを使用すると故障や火災の原因になります。
- 交換したヒューズがすぐ切れるときや、ヒューズ切れの原因がわからないときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。
- スタータースイッチが“ON”位置のときやヒルスタートアシスト作動中の駐・停車時などはヒューズの点検、交換はしないでください。思わぬ事故や故障の原因になります。
- ヒューズの点検は平坦な場所で、輪止めなどを使用して行ってください。



リレーの交換

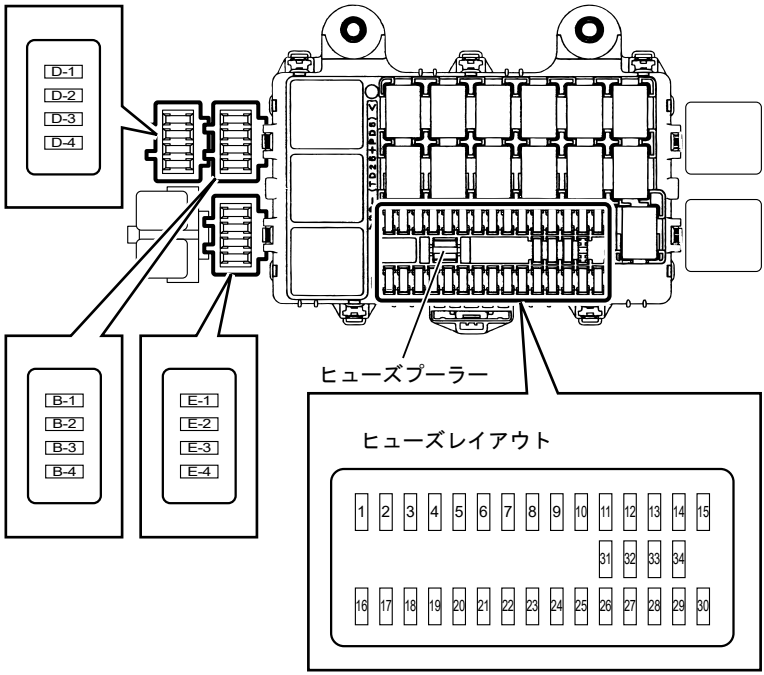
リレーを交換するときは最寄りの《日産販売会社》にご相談ください。

アドバイス

- 故障時以外、開閉の必要はありません。
- 万一、カバーの上に水や、ジュースなどをこぼしたときはこれらがリレーボックス内に落下しにくい構造になっていますが、カバーを開ける前にまず、ふき取ってください。
- 走行中、カバー周辺が温かくなることがありますが、異常ではありません。

ヒューズ、リレーの配置

ヒューズ配置（キャブ内）



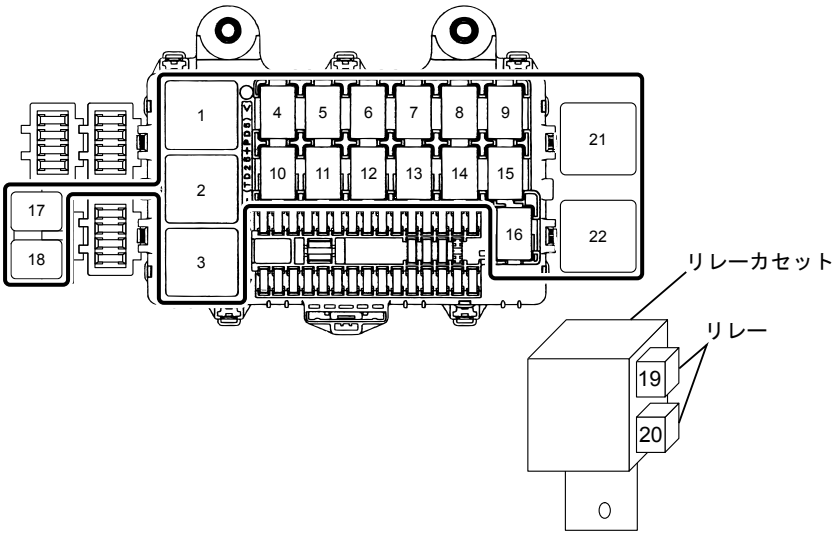
No.	ヒューズ名称	容量
1	パワーウインドー（リア）	20A
2	BCM（一般電装 ECU）	10A
3	ルームランプ、ラジオ	15A
4	ドアロック	15A
5	フォグランプ	10A
6	パワーウインドー	20A
7	ヘッド、テールランプリレー バックアップランプ	10A
8	ワイパー、ウォッシャー	15A
9	ヘッドランプ　LO　左	10A
10	格納ミラー シガライター	15A
11	ヘッドランプ　LO　右	10A
12	ストップランプ	10A

No.	ヒューズ名称	容量
13	コントローラー（バッテリー）	10A
14	ヘッドランプ　HI　左	10A
15	ヘッドランプ　HI　右	10A
16	ヒーテッドミラー	15A
17	オプション	15A
18	エレクトリック（IG）	10A
19	SRS エアバック	10A
20	ECM	10A
21	メーター、コントローラー	10A
22	ラジオ	15A
23	—	—
24	スターター	10A
25	ホーン	15A
26	ターンシグナルランプ、ハザード	15A

No.	ヒューズ名称	容量
27	テールランプ	10A
28	イルミネーションランプ	10A
29	コーナリングランプ	10A
30	ブロアモーター	20A
31	スペアヒューズ	10A
32	スペアヒューズ	15A
33	スペアヒューズ	20A
34	スペアヒューズ	25A

No.	ヒューズ名称	容量
B-1	アイドリングストップ	10A
	電気式 PTO	20A
B-2	電気式 PTO	20A
	ECM	15A
B-3	尿素 SCR	10A
	IG コイル	15A
B-4	ハイブリッド PTO	20A
	オプション（ヘッドランプ）	10A
	エンジンセンサ	15A
D-1	コンバーター（24V）	25A
D-2	コンバーター（24V）IG	10A
	オプション（ヘッドランプ）	10A
D-3	スムーサー（AMT）	10A
D-4	ABS、ESC、ヒルスタートアシスト	25A
E-1	ABS IG、ESC IG	10A
E-2	スムーサー（AMT）IG	10A
E-3	電動パーキングブレーキ	25A
E-4	コンバーター（12V）	10A

リレー配置（キャブ内）

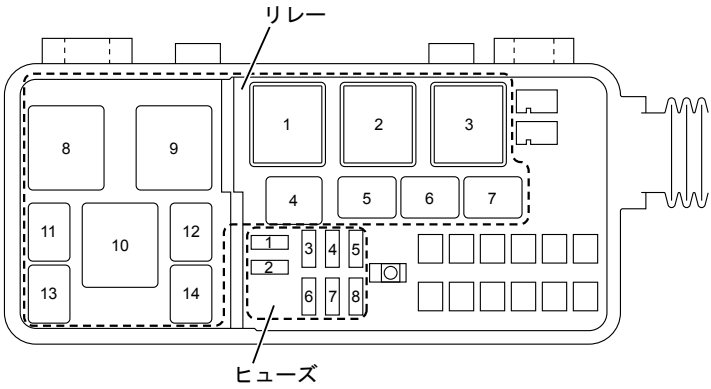


No.	リレー名称
1	—
2	ブロアモーター
3	ワイパー キー ON
4	ヘッドランプ LO カット
5	ISS スタート 2
6	—
7	ホーン
8	—
9	フォグランプ
10	パワーウインドー（リヤ）
11	ISS スタート 1
12	パワーウインドー
13	ヘッドランプ LO
14	ヘッドランプスイッチ

No.	リレー名称
15	ヘッドランプ HI
16	テールランプ
17	ストップランプ
18	PTO メイン※1
	アイドルキープ※2
19	IND ランプ※2
20	シフトコントロールソレノイド※2
21	アクセサリー
22	イグニッション メイン

※1：電気式 PTO コントロール車
※2：フライホイール PTO 消防車

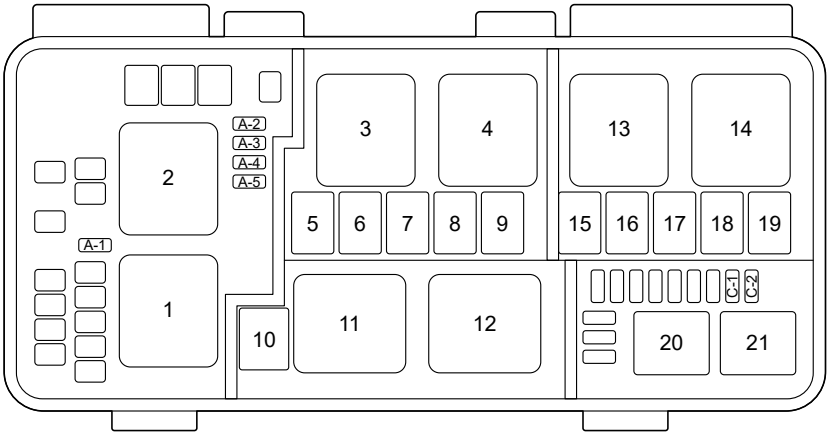
ヒューズ、リレー配置（キャブ外、左側キャブ後方）
除く AMT 車



No.	リレー名称
1	スターター
2	ECM
3	スターター 2
4	A/C コンプレッサー
5	コンデンサーファン
6	スターターカット
7	マーカーランプ
8	SCR メイン
9	グロー
10	SCR ヒーター
11	トランスファー（AKS・AMS 型車）
12	ストップランプスイッチ
13	—
14	電動パーキングブレーキシグナル

No.	ヒューズ名称	容量
1	マーカーランプ	10A
2	バックアップ	10A
3	ECM メイン	10A
4	EDU	25A
5	PM センサー	10A
6	サービス電源	10A
7	A/C	15A
8	—	—

AMT 車



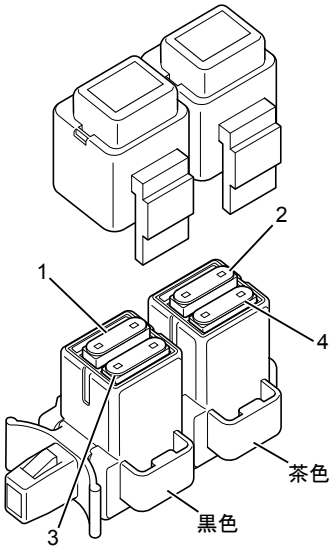
No.	リレー名称
1	スターター
2	スターター 2
3	ECM
4	SCR メイン
5	コンデンサーファン
6	スターターカット
7	マーカーランプ
8	トランスファー
9	ストップランプスイッチ
10	電動パーキングブレーキシグナル

No.	リレー名称
11	グロー
12	SCR ヒーター
13	ギヤシフター
14	—
15	—
16	—
17	—
18	—
19	—
20	A/C コンプレッサー

No.	ヒューズ名称	容量
A-1	A/C	15A
A-2	バッテリースペア	10A
A-3	EDU	25A
A-4	ECM	10A

No.	ヒューズ名称	容量
A-5	PM センサー	10A
C-1	マーカーランプ	10A
C-2	バックアップランプ	10A

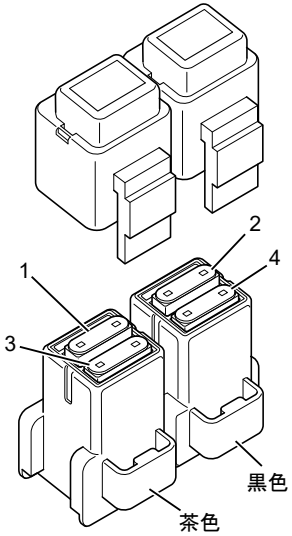
ヒューズ配置（キャブ外、バッテリーキャリア部）



No.	ヒューズ名称	容量
1	センサー電源	10A
2	内部抵抗測定	10A

No.	ヒューズ名称	容量
3	スペアヒューズ	10A
4	スペアヒューズ	10A

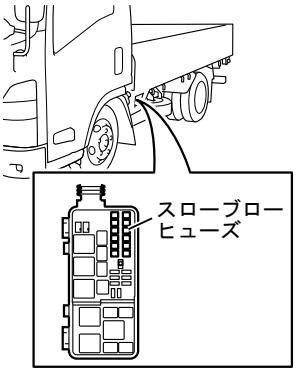
ヒューズ配置（キャブ外、左側リヤキャブマウント付近）



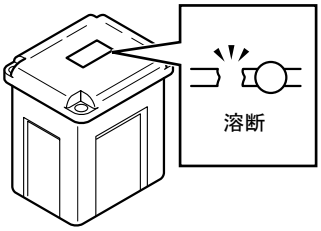
No.	ヒューズ名称	容量
1	SCR	20A
2	NOx センサー	20A

No.	ヒューズ名称	容量
3	スペアヒューズ	20A
4	スペアヒューズ	20A

スローブローヒューズが溶断したとき



スローブローヒューズは電気回路の保護を目的とし、万一の故障時交換を早くできるように配置されています。
バッテリーからの電気回路に許容以上の負荷がかかると、ワイヤリングハーネスが損傷する前に、スローブローヒューズが溶断し、電気回路を保護します。



点検
ヘッドライトやその他の電気系統の装置が作動せず、ヒューズにも問題がない場合は、スローブローヒューズを点検してください。
スローブローヒューズが左図のようになっている場合は、ヒューズが溶断しています。
ただちに最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

⚠ 警 告

- スローブローヒューズは必ず指定容量のものを使用してください。指定容量以外のものや、針金、銀紙などを使用すると故障や火災の原因になります。
- 交換したスローブローヒューズがすぐ溶断するときや、溶断の原因がわからないときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。
- スタータースイッチが“ON”位置のときやヒルスタートアシスト作動中の駐・停車時などはスローブローヒューズの点検、交換はしないでください。思わぬ事故や故障の原因になります。
- スローブローヒューズの点検は平坦な場所で、輪止めなどを使用して行ってください。

アドバイス

・故障時以外、開閉の必要はありません。
・万一、カバーの上に水や、ジュースなどをこぼしたときはこれらがリレーボックス内に落下しにくい構造になっていますが、カバーを開ける前にまず、ふき取ってください。
・走行中、カバー周辺が温かくなることがありますが、異常ではありません。

事故をおこしたとき

落ち着いて次の処置をとってください。

① 事故の続発を防ぎます。
ハザードランプ（非常点滅灯）を点滅させて、すぐに安全で交通の妨げにならない場所（路肩、路側帯）に車を移動し、エンジンを停止させます。

② 負傷者の救護
負傷者がいる場合は医師、救急車などが到着するまで可能な応急手当をしてください。特に頭部にケガをしているときは、そのまま動かさないようにしてください。事故の続発の危険があるときは、安全な場所へ移動させてください。

③ 警察への連絡
事故の発生場所、状況、負傷者とその負傷の程度を連絡し、指示を受けてください。

④ 相手方の確認（住所、氏名、電話番号）と事故状況の確認

⑤ ご購入された販売店、保険会社への連絡

アドバイス

・小さな事故､軽いケガでも必ず警察へ届け医師の診察を受けてください｡特に､頭部への衝撃を受けたときは、外傷がなくても後になって後遺症が出るおそれがあります。

悪路に落ち込んだとき

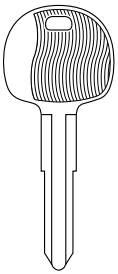


むやみにアクセルペダルを踏むと､穴が深くなり､かえって脱出が困難になります。
タイヤの下に石や木または毛布などをあてがい脱出するか、前進、後退を繰り返し、慣性を利用して脱出します。

インテリジェントキーが正常に作動しないとき

リモコンキーの電池が切れたときや周囲の電波状況により、インテリジェントキーのシステムがリモコンキーを認識できなくなります。その場合、次の要領でドアの施錠・解錠やエンジンの始動を行います。

ドアの施錠・解錠

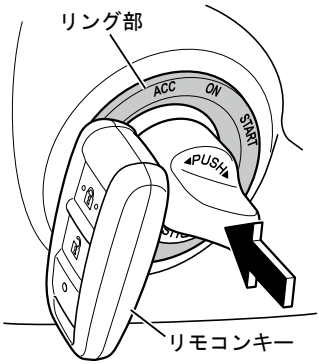


キーを使用して、ドアの施錠・解錠を行ってください。

ドアの開閉 → 3-20 ページ参照

エンジンの始動

① パーキングブレーキレバーを確実に引き、シフトレバーが“N”位置にあることを確認してブレーキペダルを右足でしっかり踏み込みます。



② リモコンキーをスタータースイッチのリング部に当てスタータースイッチを押します。
- インテリジェントキーのシステムがキーを認識すると、インテリジェントキー警告灯が早い点滅（約 0.3 秒間隔）に変わります。
- キーを認識できないときは、インテリジェントキー警告灯が点滅（約 1 秒間隔）に変わりますので、リモコンキーがリング部に当たっているか確認してください。認識できない状態が 10 秒間続くと、インテリジェントキー警告灯が遅い点滅（約 2 秒間隔）に戻ります。リモコンキーをリング部に当て、再度スタータースイッチを押してください。

インテリジェントキー警告灯



③ インテリジェントキー警告灯が早い点滅（約 0.3 秒間隔）していることを確認し、10 秒以内にスタータースイッチを回してエンジンを始動します。
- 10 秒以内にエンジンの始動を行わなかった場合は、インテリジェントキー警告灯が遅い点滅（約 2 秒間隔）に戻ります。再度手順②からやり直してください。

エンジンの始動 → 4-4 ページ参照

アドバイス

- 手順通り行ってもエンジンが始動できないときは、最寄りの《日産販売会社》へご連絡ください。

けん引するとき

故障車の移動はできるだけ専門業者にレッカー車などを依頼してください。やむを得ないときは次の手順で行ってください。

⚠ 警 告

・プロペラシャフトを外すときは、必ず輪止めをしてください。車両が動き出し重大な事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注 意

・マニュアルトランスミッション車の場合、シフトレバーを“N”位置にし、車速 40km/h 以下、走行距離 10km 以内でけん引してください。また 4WD 車では、必ず 2WD に切り替え、フリーホイールハブは解除の状態にして、けん引してください。上記の場合を除いては、トランスミッション保護のためプロペラシャフトを外してのけん引をお願いします。

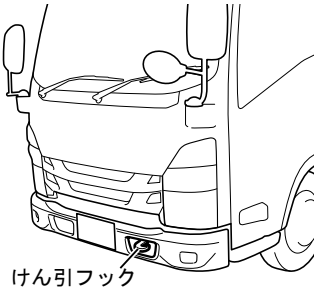
・AMT 車の場合、シフトレバーを“N”位置にしシフトインジケーターに「N」が表示されていることを確認し、車速 40km/h 以下、走行距離 10km 以内でけん引してください。
シフトインジケーターに「N」が表示されない場合は、トランスミッション保護のためプロペラシャフトを外してのけん引をお願いします。

・なるべくエンジンを始動した状態でけん引してください。
エンジンが始動されていないと
- ブレーキの効きが悪くなります。
- ハンドル操作が重くなります。
- ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり大変危険です。（キーを抜いてしまっているとき。）

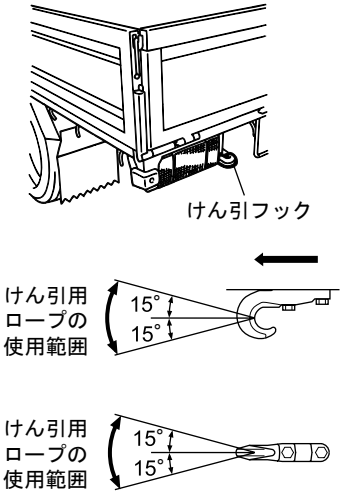
・前輪または後輪を上げてスタータースイッチを“ON”位置にしてけん引するときは、VDC OFF スイッチを使用して、TCS（トラクションコントロールシステム）の機能を停止させてください。停止させずにけん引すると、TCS（トラクションコントロールシステム）が作動し、思わぬ事故の原因になります。

VDC OFF スイッチ　→ 4-147 ページ参照

フロント側



リヤ側



① 車をけん引するまたはけん引される場合は、車両の前後にある、けん引フックにロープを同じ側にしっかりかけます。
② ロープは5m以内にして中間に白い布（30cm平方以上）をつけます。
③ けん引中は、けん引車のストップランプ（制動灯）によく注意して、ロープをたるませないようにし、強いショックや横方向への力を与えないように注意します。

⚠ 注 意

- 15°以上の角度でけん引しないでください。各部に無理がかかり車を破損するおそれがあります。
- けん引フックにロープをかけてください。けん引フック以外の部分を使ってけん引すると、車を破損するおそれがあります。
- けん引するときは、けん引ロープやフックの近くに人がいないことを確認して、けん引してください。ロープなどの破損によって、近くにいる人がケガをするおそれがあります。
- けん引フックは、良路で自車相当の車をけん引したり、されたりするために使用します。
- 溝やぬかるみなどに入ったときは、積み荷を降ろし、フックでのけん引をさけてアクスルでけん引します。
- ヒルスタートアシスト装着車ではヒルスタートアシストOFFスイッチを押し、ヒルスタートアシストを解除してください。

アドバイス

【こんなときはレッカー車に連絡を】
- 長い坂道を下るときブレーキが過熱し、効かなくなるおそれがあります。
- トランスミッション、デファレンシャルが故障したとき。
- 高速道路で故障したとき。

ヒルスタートアシスト OFF スイッチ
→ 4-123 ページ参照

あ

アイドリングストップ★ 4-130
アイドルアップノブ★ 4-79
アクセサリーソケット（24V）★ 5-24
悪路に落ち込んだとき 8-50
アナログタコグラフ★ 4-74
安全・安心のこころがけ 6-2
アンテナ 5-36

い

インテリジェント エマージェンシーブレーキ 4-159
インテリジェントキー★ 3-11
インテリジェントキーが正常に作動しないとき 8-51

う

ウインドーウォッシャー液 7-120
運転をするときは 2-17
運転をする前に 2-2

え

エアクリーナー 7-65
エアコンフィルター 5-16
エンジンオイル 7-43
エンジンオイルフィルター 7-48
エンジンの始動方法 4-4
エンジンの状態 7-42
エンジンの停止方法 4-8
エンストをして再始動ができなくなったとき 8-5

お

オーディオを上手にお使いいただくために 5-34
オーディオ（Bluetooth® 付）★ 5-37
オートライト OFF スイッチ 4-84
オーバーヒートしたときは 8-11
オイルパンヒーター用コンセント★ 5-22
お車の故障を防ぐために 2-43
お子様を乗せるときは 2-15
音声警報★ 4-73

か

カードホルダー 5-27
夏季の注意 6-14
カップホルダー 5-31
寒冷時の注意 6-15

き

キー 3-2

く

クーラーガス（冷媒量） 5-18
クラッチ★ 7-101
クラッチフルード★ 7-102
グローブボックス（小物入れ）★ 5-28

け

警告灯 / 表示灯 4-39
警告灯 / 表示灯配置 4-37
警告灯 / 表示灯目次 0-18
警告ブザーが鳴ったとき 8-11
警告ラベルについて 0-26
警報音★ 4-71
けん引するとき 8-53

こ

交差点警報★ 4-191
こんなときには《日産販売会社》へ 2-45
こんなときは気をつけて 2-39
コンビニフック 5-33
コンビネーションスイッチ 4-81

さ

サービスコネクターについて 7-35
左折&バック音声警報 ON/OFF スイッチ★ 4-92
サンバイザー（日よけ）★ 5-22

し

シート 3-40
シートサイドトレイ★ 5-30
シートバックポケット 5-29
シートベルト 3-57
シガレットライター★ 5-23
事故をおこしたとき 8-50
シフトレバー 4-102
車外ツールボックス★ 3-39
車外の手入れ 7-134
車間距離警報 4-169
車載工具 7-7
車台番号・エンジン番号 1-3
ジャッキ 7-12
車内の手入れ 7-138
手動式ウインドー★ 3-29
純正油脂類 7-7
乗降について 3-26

す

水温計（テンプメーター） 4-13
スタータースイッチ 4-76
ステップランプ★ 5-21
スピードメーター（速度計） 4-11
スペアタイヤ 7-99
スローブローヒューズが溶断したとき 8-49

せ

制動力アシスト機能★ 4-142
整備基準値一覧 7-25
前回の運転で異常のあった箇所の点検 7-39
先行車発進お知らせ 4-185
全国サービス網 1-2
センターコンソールボックス（小物入れ）★ 5-29
センターシートバックトレイ★ 5-31

そ

走行支援システムについて 2-59
走行中エンジンが停止したとき 8-4
走行中、車が故障したとき 8-2
走行について 6-2

た

タイヤ 7-87
タイヤ空気圧一覧 7-26
タイヤチェーンの取り扱い 6-20
タイヤの交換 7-93
タイヤのローテーション 7-91
タコメーター（エンジン回転計） 4-12
暖機スイッチ 4-80

ち

駐停車時の注意 6-13
駐・停車するとき 2-34
チルト&テレスコピックステアリング（上下、前後調整式ハンドル） 3-45
チルトキャブ★ 7-20

て

定期交換部品一覧 7-30
定期点検整備一覧 7-28
ディスクブレーキ★ 7-84
デファレンシャルオイル 7-109
点検口★ 7-16
点検整備について 7-4
点検・調整をするときの注意 7-5
電動格納ミラースイッチ★ 4-91
電動パーキングブレーキが解除できなくなったとき 8-14

と

ドアの開閉 3-20
ドラムブレーキ★ 7-86
トランスファーオイル 7-112
トランスミッションオイル 7-103

に

荷台★ 3-36
日常（運行前）点検 7-38
日産純正部品について 1-3
尿素水（AdBlue® 相当）が空になったとき 8-10
尿素水タンク 3-33
尿素水量計 4-15
尿素 SCR システム 4-236
尿素 SCR システムについて 2-51

ね

燃料給油口 3-31
燃料切れしたとき 8-8

は

パーキングブレーキ 7-83
パーキングブレーキレバー 4-97
廃棄部品、廃棄油脂液類 7-6
排気ブレーキスイッチ 4-86
ハイキャブ・ワイドキャブ車（イラスト目次） 0-12
灰皿★ 5-25
ハザードスイッチ 4-86
発炎筒（緊急保安炎筒） 8-2
バックパネルトレイ（小物入れ）★ 5-32
バックブザー OFF スイッチ★ 4-92
バッテリー 7-125
バッテリーがあがったとき 8-6
パワーウインドー★ 3-27
パワーステアリングフルード 7-114
ハンガーフック★ 5-32
パンクしたとき 8-4

ひ

ヒーター / マニュアルエアコン★ 5-3
ヒーテッドミラースイッチ★ 4-92
ヒルスタートアシスト（坂道発進補助装置）★ 4-122
ヒューズとリレーの交換 8-38
標準キャブ車（イラスト目次） 0-6

ふ

ファンベルト 7-64
フォグランプスイッチ★ 4-85
吹き出し口 5-2
踏切内で動けなくなったとき 8-5
踏み間違い衝突防止アシスト★ 4-176
プリテンショナー付シートベルト＆SRS エアバッグシステム 4-217
プリテンショナー付シートベルト＆SRS エアバッグシステムについて 2-55
フルオートエアコン★ 5-9
ブレーキ 7-80
ブレーキが効かなくなったとき 8-6
ブレーキフルード 7-82
フロント PTO ギヤオイル（消防車）★ 7-117
フューエルフィルター 7-69
フューエルメーター（燃料計） 4-14

へ

ペダル類 4-96
ヘッダートレイ★ 5-30
ヘッドランプレベリングスイッチ 4-85

ほ

ホーンボタン 4-89
ポケット（小物入れ）★ 5-27
保証について 1-2

ま

マルチディスプレイ 4-16

み

ミラー 3-46

め

メーターの見かた（メーター配置） 4-10
メンテナンスデーター覧 7-24

ゆ

油温計★ 4-14

ら

ラジエーターコア、インタークーラーコアの洗浄 7-141
ランプ（灯火装置）・ターンシグナルランプ（方向指示器） 7-123
ランプ（バルブ）類が点灯しないとき 8-16

り

リモートコントロールエントリーシステム★ 3-5

る

ルームランプ（室内灯） 5-19

れ

冷却水 7-50

わ

ワイパー・ウォッシャースイッチ 4-88
ワイパーブレード 7-121

A

ABS 4-138
AMT クラッチオイル★ 7-106
AMT 車★ 4-105
AMT 車について★ 2-29

D

DPF 4-227
DPF（ディーゼルパティキュレートフィルター） 7-77
DPF について 2-48

E

EBD 4-142
ECONO モードスイッチ★ 4-90
EDR 機能について 2-58

L

LDW（車線逸脱警報） 4-150

O

OK ウインドー★ 3-30

P

PTO ★ 4-202

T

TCS（トラクションコントロールシステム） 4-143

V

VDC 4-145

4

4WD 車 4-199
4WD 車の走行について 2-32

MEMO